

八王子未来デザイン2040の 運用に関する 市民アンケート調査 報告書

調査項目

八王子未来デザイン2040の
運用に関する意識調査

令和5年(2023年)

八王子市

目 次

I	調査の概要	1
1.	調査目的	3
2.	調査設計	3
3.	調査項目	3
4.	回収結果	3
5.	地域区分	4
6.	報告書の見方	5
7.	標本誤差	6
II	回答者の属性	7
III	調査結果	15
1.	八王子未来デザイン2040の運用に関する意識調査	17
(1)	「安心して子育てができるまち」になっていると思うか	17
(2)	子育てを支える環境が整っていると思うか	22
(3)	子育て分野において力を入れた方がよいと考える取組	27
(4)	子育てに関して相談できる人の有無	33
(5)	若者の居場所になっているか	38
(6)	子どもと触れ合う機会の有無	45
(7)	子どもや保護者とともに行う活動への参加状況	50
(8)	生涯学習環境が整っていると思うか	56
(9)	生涯学習環境が整っていないと思う理由	61
(10)	誰もが活躍できる環境が整っていると思うか	65
(11)	男女共同参画が実現していると思うか	70
(12)	外国人と交流したいと思うか	91
(13)	「多文化共生のまちづくり」を進めるために必要な取組	96
(14)	「安心して医療を受けられるまち」になっていると思うか	102
(15)	医療分野において力を入れた方がよいと考える取組	107
(16)	「はちまるサポート」の認知の有無	113
(17)	「人とひととのつながりがあるまち」になっていると思うか	118
(18)	つながりを育むために必要な取組	123
(19)	地域コミュニティ活動への参加の有無	129
(20)	地域コミュニティ活動に参加しない理由	134
(21)	身近な場所に相談や助け合いのできる人の有無	140
(22)	身近な地域に気軽に立ち寄れる場所の有無	145
(23)	日本遺産や歴史文化などにふれる地域の行事・活動への参加の有無	150
(24)	感染拡大の影響がなく開催された場合に参加したいと思うか（地域の行事・活動）	155
(25)	八王子に関連する文化芸術に触れる機会の有無	160
(26)	感染拡大の影響がなく開催された場合に参加したいと思うか（文化芸術に触れる機会）	165
(27)	八王子の魅力	170

(28)	「災害に強いまち」になっていると思うか.....	176
(29)	防災・減災分野において力を入れた方がよいと考える取組.....	181
(30)	地域の防災訓練への参加の有無.....	187
(31)	地域の防災訓練へ参加しなかった理由.....	192
(32)	“災害時の避難場所”を共有しているか.....	197
(33)	“災害時の安否確認の方法”を共有しているか.....	202
(34)	災害時の災害情報入手方法.....	207
(35)	「居心地が良い場所」「訪れて楽しい場所」の有無.....	213
(36)	「歩きたくなるまち」になっていると思うか.....	218
(37)	自然と触れ合う機会の有無.....	223
(38)	自然と触れ合う機会を増やしたいと思うか.....	228
(39)	生物多様性の保全に向けて力を入れた方がよいと考える取組.....	233
(40)	生物多様性に配慮したライフスタイルとして行ったこと.....	239
IV	参考資料.....	245
	調査票.....	247
	インターネットを利用した回答方法.....	263

I 調査の概要

1. 調査目的

この調査は、次期基本構想・基本計画として策定している「八王子未来デザイン2040」に設定する数値目標及び重要業績評価指標（KPI）のうち、市民に回答を求める必要のあるデータの現状値等を把握することを目的とする。

2. 調査設計

- (1) 調査地域：八王子市内全域
- (2) 調査対象：満18歳以上の市内在住者個人
- (3) 対象者数：5,000人
- (4) 調査方法：配達配布／郵送または電子申請による回収
- (5) 調査期間：令和4年（2022年）9月26日～10月10日
- (6) 抽出方法：住民基本台帳からの無作為抽出法
 - ・層 化…「八王子ビジョン2022」で示された6地域・14管内の調査対象人口に応じて、調査数を比例配分
 - ・対象者抽出…14管内別に単純無作為抽出
- (7) 調査機関：株式会社タイム・エージェント

3. 調査項目

八王子未来デザイン2040の運用に関する意識調査

4. 回収結果

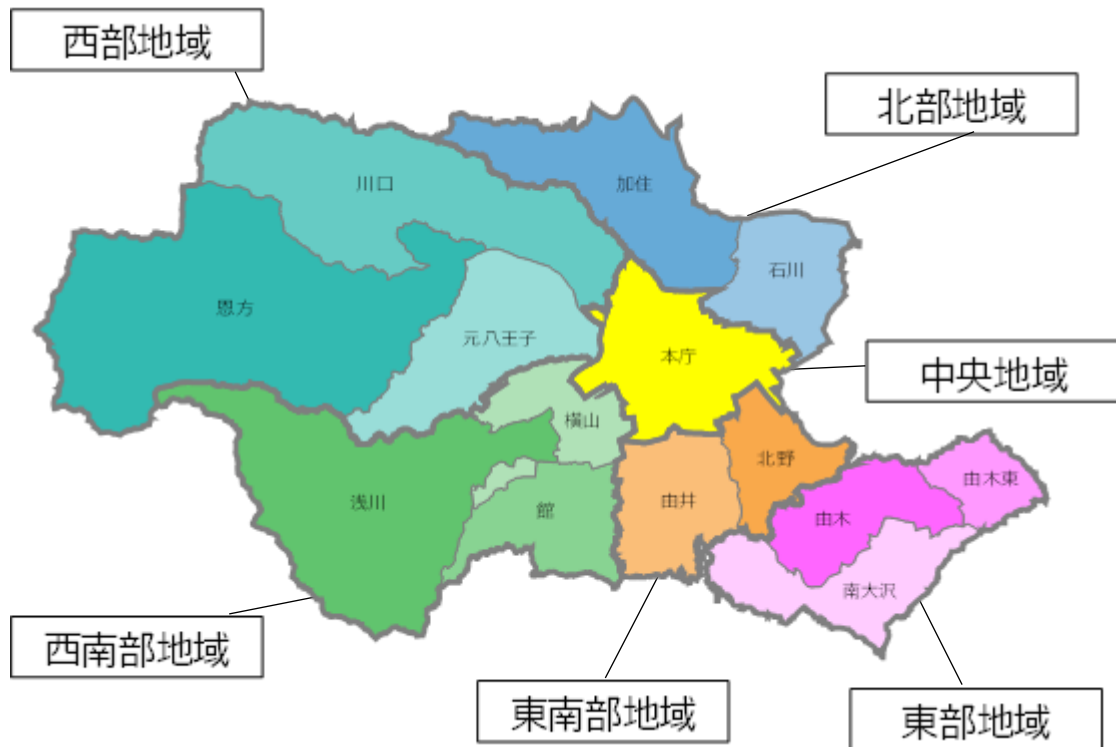
対象者数：5,000人

有効回収数：2,134票（有効回収率42.7%）

回収方法別内訳：

回収方法	有効回収数	内訳
郵送回収	1,533	71.8%
電子申請	601	28.2%
合計	2,134	100.0%

5. 地域区分



地域区分	町名 (五十音順)
本庁管内 (中央地域)	暁町・旭町・東町・上野町・追分町・大横町・大和田町・小門町・清川町・子安町・新町・千人町・台町・田町・寺町・天神町・中町・中野上町・中野山王・中野町・八幡町・日吉町・平岡町・富士見町・本郷町・本町・三崎町・緑町・南新町・南町・明神町・元本郷町・元横山町・八木町・八日町・横山町・万町
元八王子・恩方・川口 (西部地域)	泉町・犬目町・小津町・叶谷町・上巻分方町・上恩方町・上川町・川口町・川町・下恩方町・諏訪町・大楽寺町・檜原町・西寺方町・式分方町・美山町・元八王子町・横川町・四谷町
浅川・横山・館 (西南部地域)	裏高尾町・大船町・櫛田町・散田町・城山手・高尾町・館町・寺田町・廿里町・長房町・並木町・西浅川町・狭間町・初沢町・東浅川町・南浅川町・めじろ台・山田町
加住・石川 (北部地域)	石川町・宇津木町・梅坪町・大谷町・尾崎町・加住町・久保山町・小宮町・左入町・平町・高倉町・高月町・滝山町・丹木町・戸吹町・丸山町・みつい台・宮下町・谷野町
由井・北野 (東南部地域)	打越町・宇津貫町・片倉町・北野台・北野町・絹ヶ丘・小比企町・長沼町・七国・西片倉・兵衛・みなみ野
由木・由木東・南大沢 (東部地域)	大塚・鹿島・上柚木・越野・下柚木・中山・南陽台・東中野・別所・堀之内・松が谷・松木・南大沢・鎌水

6. 報告書の見方

- (1) 集計は、小数第2位を四捨五入してある。したがって、数値の合計が100%にならない場合がある。
- (2) 回答の比率(%)は、その質問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100%を超えることがある。
- (3) 基数となるべき実数は、n(件数)として表示した。その比率はn(件数)を100%として算出した。
- (4) 本文や図表中の選択肢表記は、語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (5) クロス集計による分析では、性別や年齢などの分析項目の質問に無回答である回答者の集計結果は図表中に表示していないが、これらの回答結果は図表中の「全体」には含まれる。したがって、図表中に示した分析項目すべてのn(件数)を合計しても、全体のn(件数)と一致しない場合がある。また、クロス集計の分析項目は、性別・年齢別・居住地域別・職業別・世帯構成別・居住年数別としている。
- (6) 調査結果の分析においては、n(件数)が30件を下回る場合には、参考値とみなし該当属性に対するコメントは控えている。
- (7) 割合の表現については、以下の表記を基本とする。

<例>

表記	4割	約4割	4割強	4割台半ば	5割近く	5割弱
割合	40.0%	40.1~40.9%	41.0~43.9%	44.0~45.9%	46.0~48.9%	49.0~49.9%

- (8) 質問における選択肢を統合し、《 》を用いて記述している場合がある。なお、この場合の比率は、個々の選択肢の比率の単純合計である。

<例> 「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を統合して《思う》。

7. 標本誤差

標本誤差（サンプル誤差）はおおよそ以下のとおりである。

単純無作為抽出法の標本誤差は次の式によって得られる。標本誤差の幅は、比率算出の基数（ n ）及び回答比率（ P ）によって異なる。

$$b = \pm 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差

N = 母集団数

n = 比率算出の基数（サンプル数）

P = 回答比率

例えば、ある設問の回答者数が 2,134 で、その設問の「そう思う」の回答比率が 20%である場合、標本誤差は 20%を中心に ±1.73% の範囲内となり、標本誤差を踏まえた回答比率は 18.27%～21.73%の間であるとみることができる。

同様に計算した標本誤差の早見表を以下に示す。

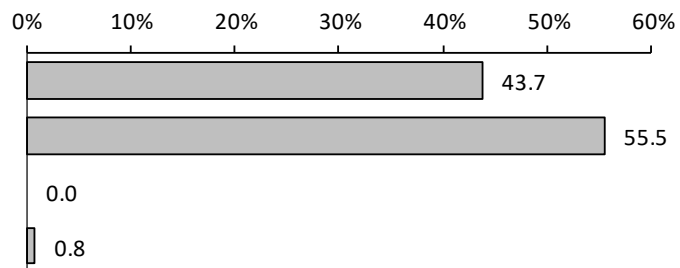
回答比率 (P) 基数 (n)	5% また は 95% 前後	10% また は 90% 前後	20% また は 80% 前後	30% また は 70% 前後	40% また は 60% 前後	50% 前後
2,134	±0.94	±1.30	±1.73	±1.98	±2.12	±2.16
2,000	±0.97	±1.34	±1.79	±2.05	±2.19	±2.24
1,500	±1.13	±1.55	±2.07	±2.37	±2.53	±2.58
1,000	±1.38	±1.90	±2.53	±2.90	±3.10	±3.16
500	±1.95	±2.68	±3.58	±4.10	±4.38	±4.47

※上表は $\frac{N-n}{N-1} \cong 1$ として算出している。この表の計算式の信頼度は 95% である。

II 回答者の属性

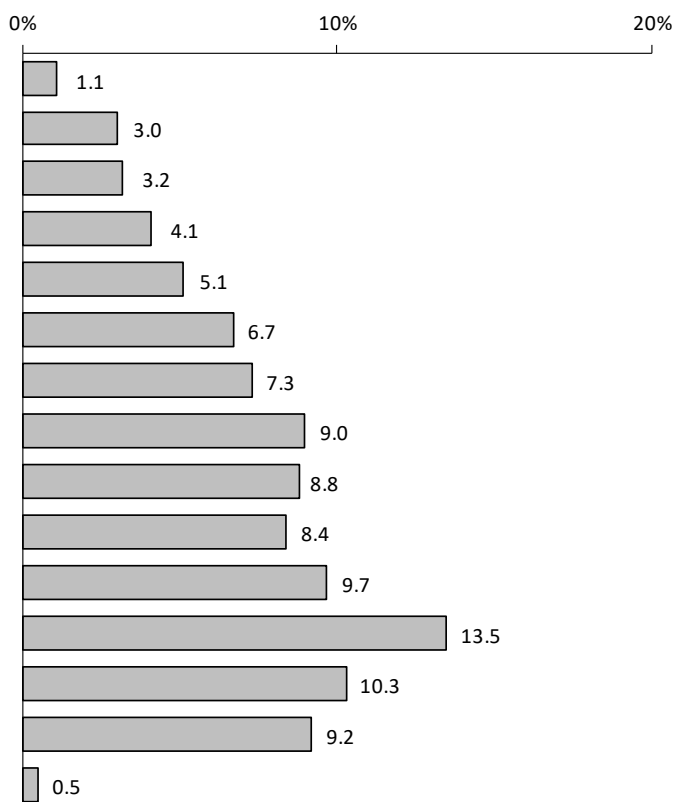
1. 性別

区分	基数 (人)	構成比 (%)
男性	932	43.7
女性	1,184	55.5
あてはまらない	1	0.0
無回答	17	0.8
合計	2,134	100.0



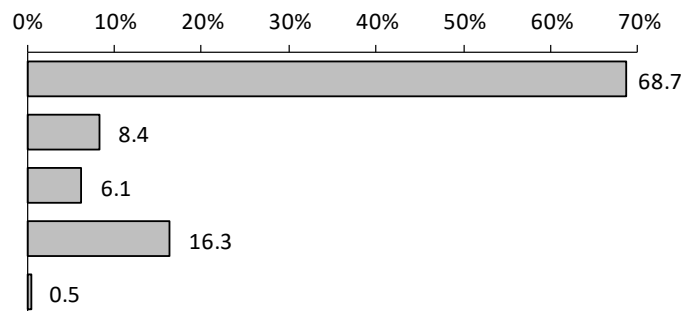
2. 年齢

区分	基数 (人)	構成比 (%)
18～19歳	23	1.1
20～24歳	65	3.0
25～29歳	68	3.2
30～34歳	88	4.1
35～39歳	109	5.1
40～44歳	143	6.7
45～49歳	155	7.3
50～54歳	193	9.0
55～59歳	187	8.8
60～64歳	180	8.4
65～69歳	208	9.7
70～74歳	288	13.5
75～79歳	220	10.3
80歳以上	197	9.2
無回答	10	0.5
合計	2,134	100.0



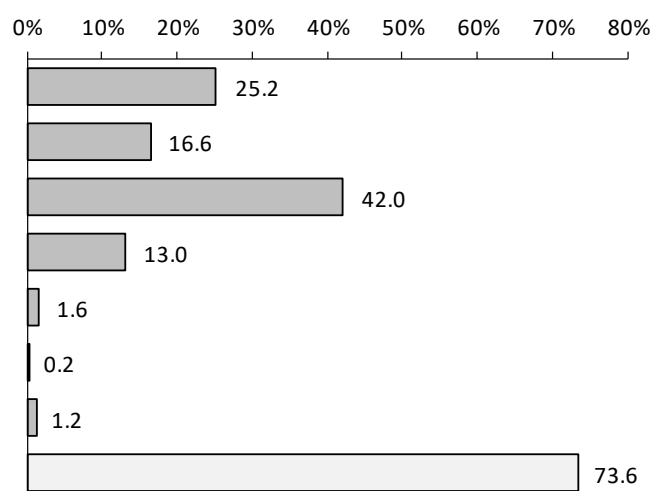
3. 配偶者の有無（事実婚を含む）

区分	基数 (人)	構成比 (%)
いる	1,467	68.7
いない(死別)	179	8.4
いない(離別)	131	6.1
結婚したことはない(未婚)	347	16.3
無回答	10	0.5
合計	2,134	100.0



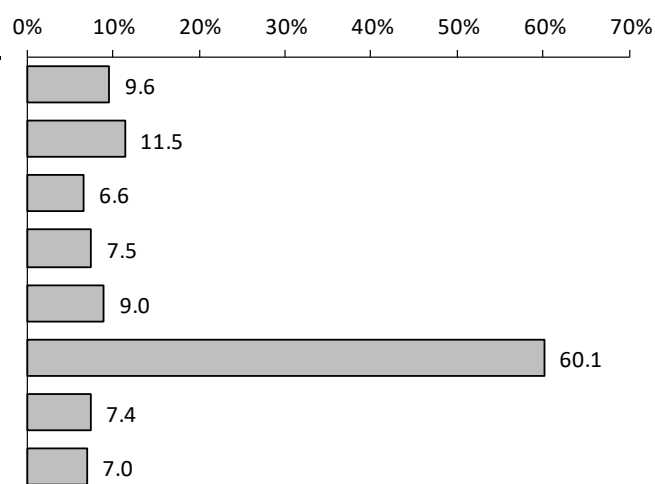
4. 子どもの人数

区分	基数 (人)	構成比 (%)
いない	538	25.2
1人	355	16.6
2人	897	42.0
3人	278	13.0
4人	35	1.6
5人以上	5	0.2
無回答	26	1.2
子どもあり 計 (※1の合計)	1,570	73.6
合計	2,134	100.0



4-1. 子どもの成長段階（複数回答）

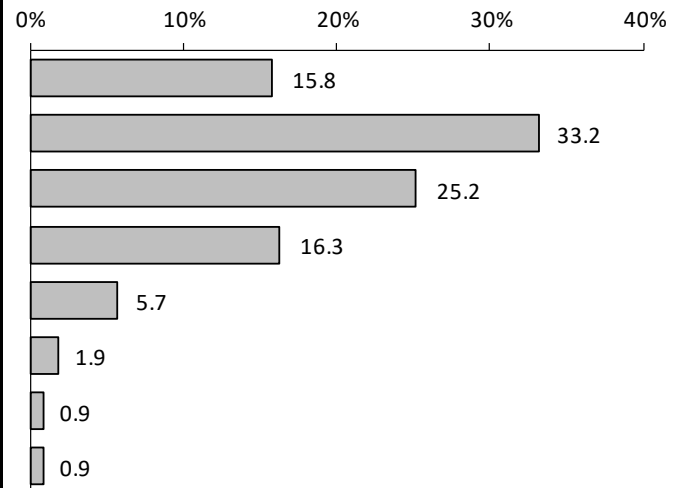
区分	基数 (人)	構成比 (%)
0歳～小学校入学前	150	9.6
小学生	180	11.5
中学生	103	6.6
高校生	117	7.5
大学生(大学院・専門学校等を含む)	141	9.0
学校教育終了(成人・社会人など)	943	60.1
その他	116	7.4
無回答	110	7.0
合計	1,570	100.0



(注) 複数回答につき合計は1,860人であるが、回答者数1,570人を基数として構成比を算出した。

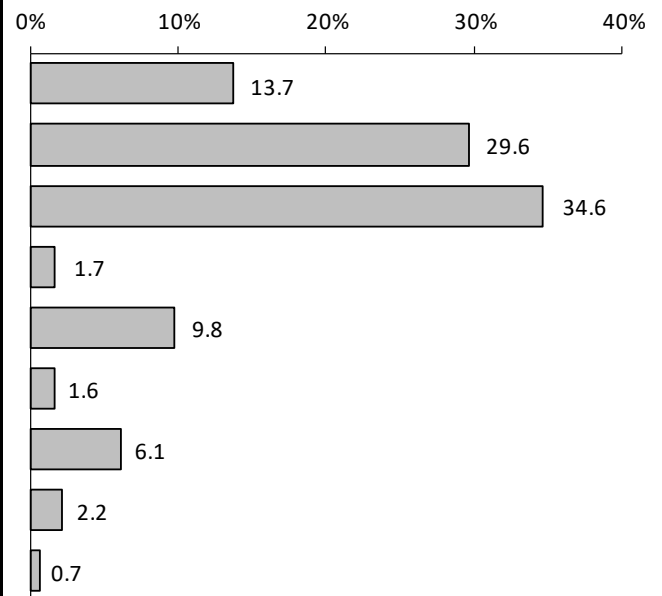
5. 同居人数

区分	基数 (人)	構成比 (%)
1人	337	15.8
2人	708	33.2
3人	538	25.2
4人	348	16.3
5人	122	5.7
6人	41	1.9
7人以上	20	0.9
無回答	20	0.9
合計	2,134	100.0



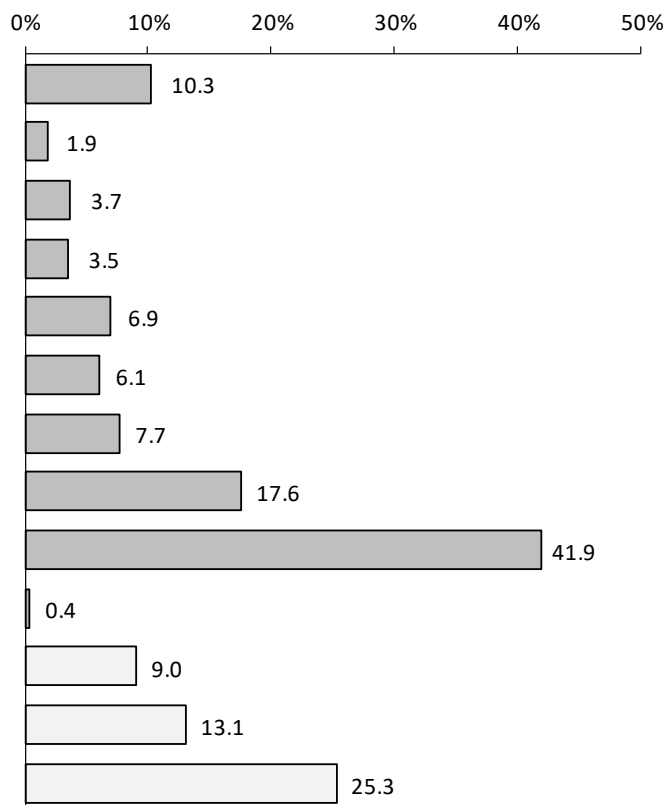
6. 世帯構成

区分	基数 (人)	構成比 (%)
ひとり暮らし	293	13.7
配偶者とふたり暮らし(事実婚を含む)	632	29.6
自分たち夫婦と未婚の子ども (または、自分と未婚の子どもなど)	738	34.6
自分たち夫婦と子ども夫婦 (または、自分と子ども夫婦など)	37	1.7
親と自分のみ (または、親と自分と兄弟・姉妹など)	209	9.8
親と自分たち夫婦	34	1.6
三世代(例えば、自分たち夫婦と子どもと孫、親と自分と子どもなど)	130	6.1
その他(四世代など)	47	2.2
無回答	14	0.7
合計	2,134	100.0



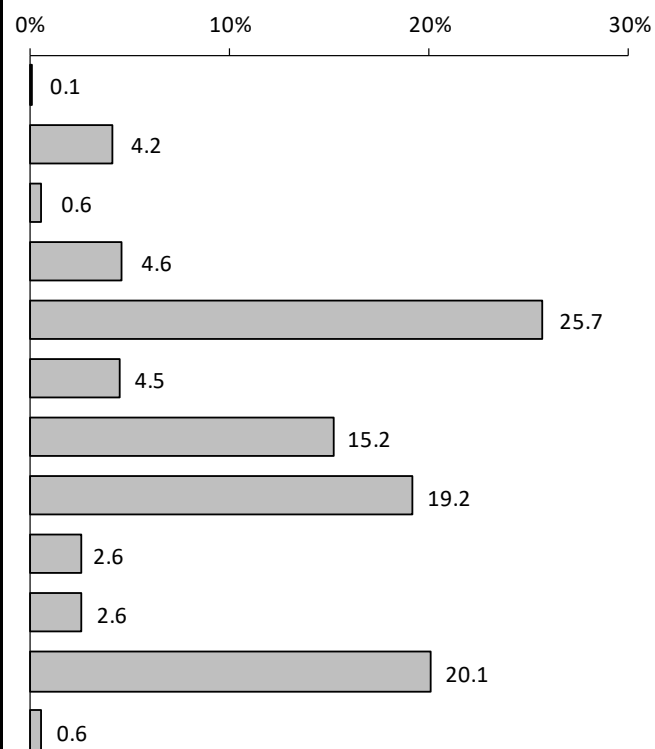
7. 居住年数

区分	基数 (人)	構成比 (%)
生まれてからずっと居住している (年数に関わらず)	220	10.3
1年未満の居住	40	1.9
1～3年未満の居住	79	3.7
3～5年未満の居住	74	3.5
5～10年未満の居住	148	6.9
10～15年未満の居住	131	6.1
15～20年未満の居住	164	7.7
20～30年未満の居住	375	17.6
30年以上の居住	894	41.9
無回答	9	0.4
5年未満計 (※1の合計)	193	9.0
5～15年未満計 (※2の合計)	279	13.1
15～30年未満計 (※3の合計)	539	25.3
合計	2,134	100.0



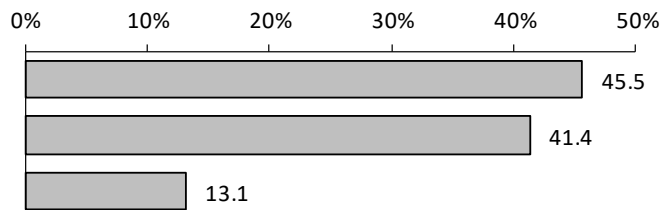
8. 職業

区分	基数 (人)	構成比 (%)
農・林・漁業	3	0.1
自営業	90	4.2
自由業 (開業医、弁護士、司法書士など)	12	0.6
会社や団体の役員	99	4.6
会社・商店・サービス業などの勤め人	548	25.7
教員・公務員	95	4.5
アルバイト・パート	325	15.2
(専業)主婦・主夫	410	19.2
学生	56	2.6
その他	55	2.6
無職	429	20.1
無回答	12	0.6
合計	2,134	100.0



8-1. 仕事場

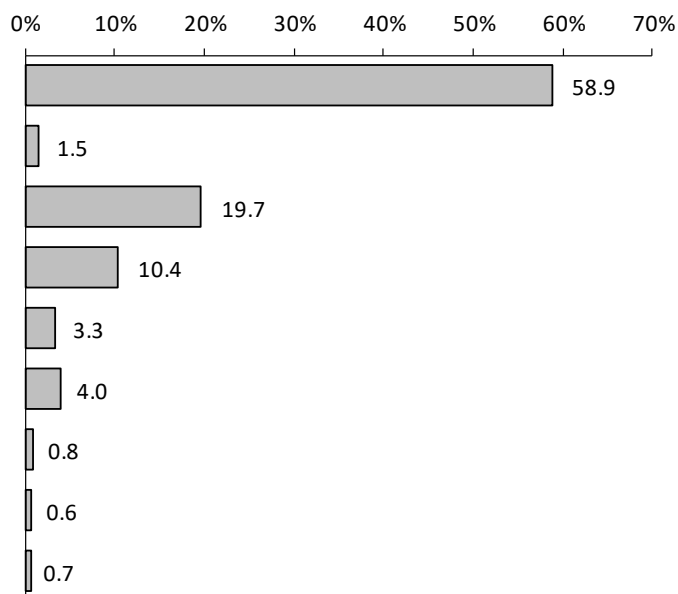
区分	基数 (人)	構成比 (%)
八王子市内	533	45.5
八王子市外	485	41.4
無回答	154	13.1
合計	1,172	100.0



※職業の回答者のうち、(専業)主婦・主夫、学生、その他、無職、無回答を除いた方に対する質問。

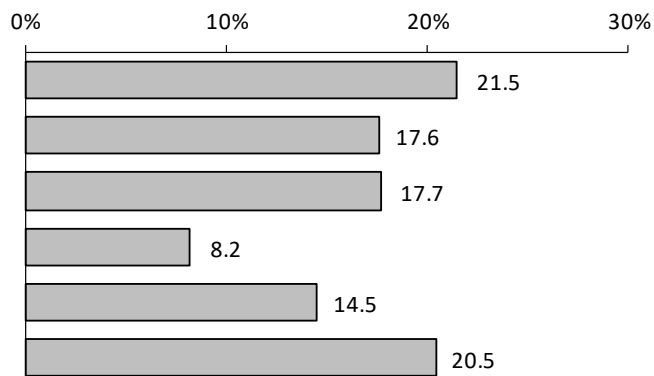
9. 居住形態

区分	基数 (人)	構成比 (%)
戸建て(持ち家)	1,257	58.9
戸建て(借家)	32	1.5
分譲マンション	420	19.7
民間の賃貸アパート・マンション	223	10.4
公営賃貸住宅(都営・市営)	71	3.3
UR(旧公団)・会社の賃貸住宅または都民住宅	86	4.0
社宅・官舎・寮	18	0.8
その他(間借りなど)	12	0.6
無回答	15	0.7
合計	2,134	100.0



10. 居住地域

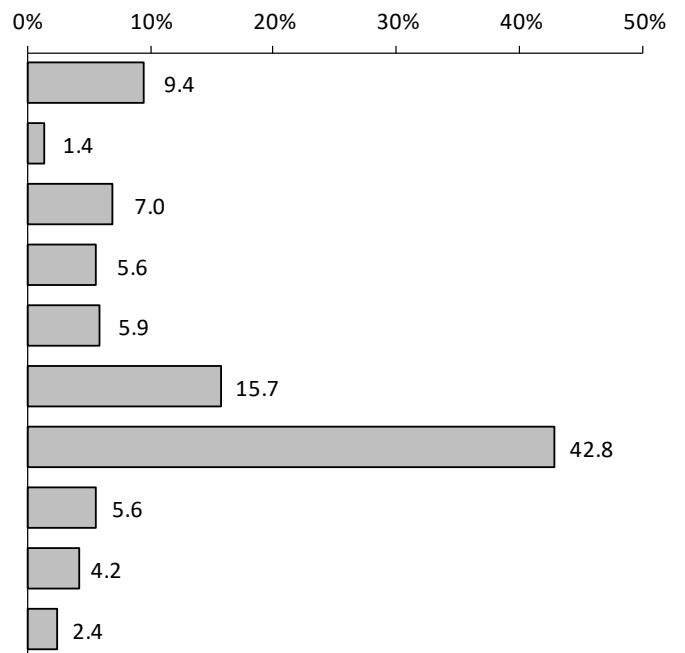
区分	基数 (人)	構成比 (%)
本庁管内(中央地域)	458	21.5
元八王子・恩方・川口(西部地域)	375	17.6
浅川・横山・館(西南部地域)	378	17.7
加住・石川(北部地域)	176	8.2
由井・北野(東南部地域)	310	14.5
由木・由木東・南大沢(東部地域)	437	20.5
合計	2,134	100.0



11. ライフステージ

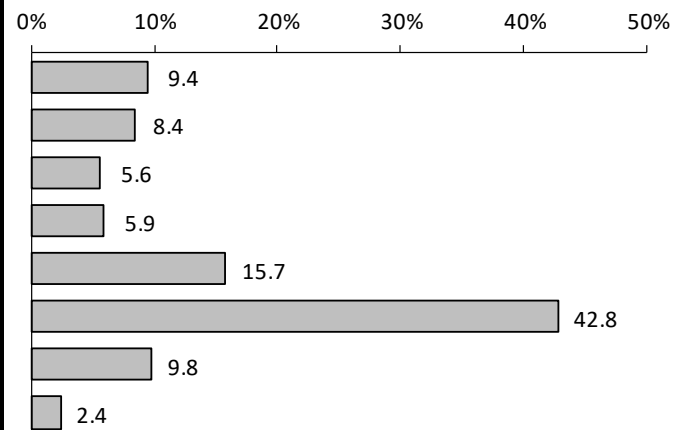
「2. 年齢」「3. 配偶者の有無」「4. 子どもの人数」「4-1. 子どもの成長段階」により、ライフステージの区分を作成。

区分	基数 (人)	構成比 (%)
39歳以下で単身者	201	9.4
39歳以下で配偶者がいて子どもがいない	30	1.4
64歳以下で一番下の子どもが小学校入学前	149	7.0
64歳以下で一番下の子どもが小学生	119	5.6
64歳以下で一番下の子どもが中学・高校生	126	5.9
64歳以下で一番下の子どもが高校を卒業している	336	15.7
65歳以上	913	42.8
40～64歳で単身者	119	5.6
40～64歳で配偶者がいて子どもがいない	90	4.2
無回答	51	2.4
合計	2,134	100.0



■ ライフステージ (集約型)

区分	基数 (人)	構成比 (%)
独身期	201	9.4
家族形成期	179	8.4
家族成長前期	119	5.6
家族成長後期	126	5.9
家族成熟期	336	15.7
老齢期	913	42.8
その他	209	9.8
無回答	51	2.4
合計	2,134	100.0



■ ライフステージ区分

独身期	39歳以下で単身者
家族形成期	39歳以下で配偶者がいて子どもがいないまたは、64歳以下で一番下の子どもが小学校入学前
家族成長前期	64歳以下で一番下の子どもが小学生
家族成長後期	64歳以下で一番下の子どもが中学・高校生
家族成熟期	64歳以下で一番下の子どもが高校を卒業している
老齢期	65歳以上
その他	40～64歳で単身者または、40～64歳で配偶者がいて子どもがいない

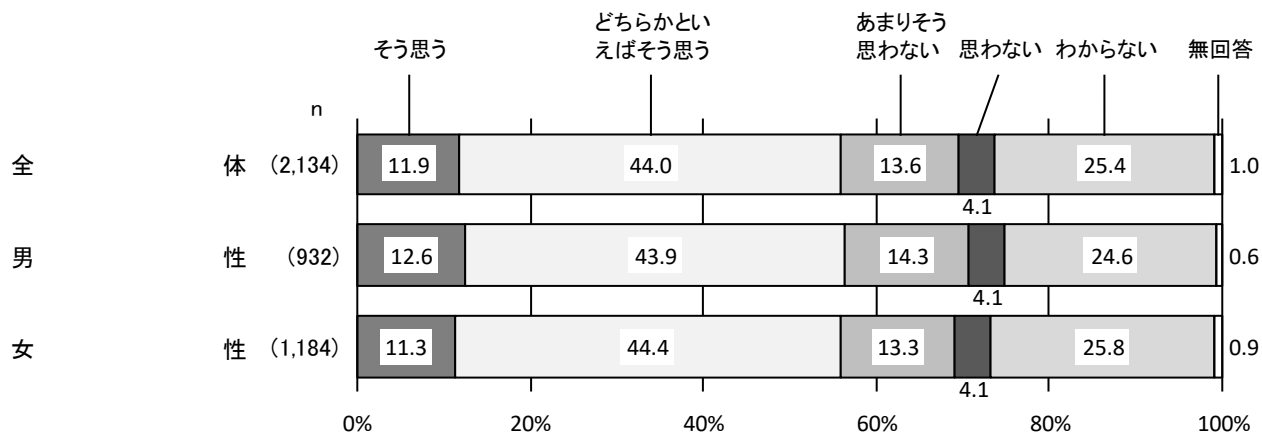
III 調查結果

1. 八王子未来デザイン2040の運用に関する意識調査

(1) 「安心して子育てができるまち」になっていると思うか

問1 あなたは、八王子市が「安心して子育てができるまち」になっていると思いますか。(〇は1つだけ)

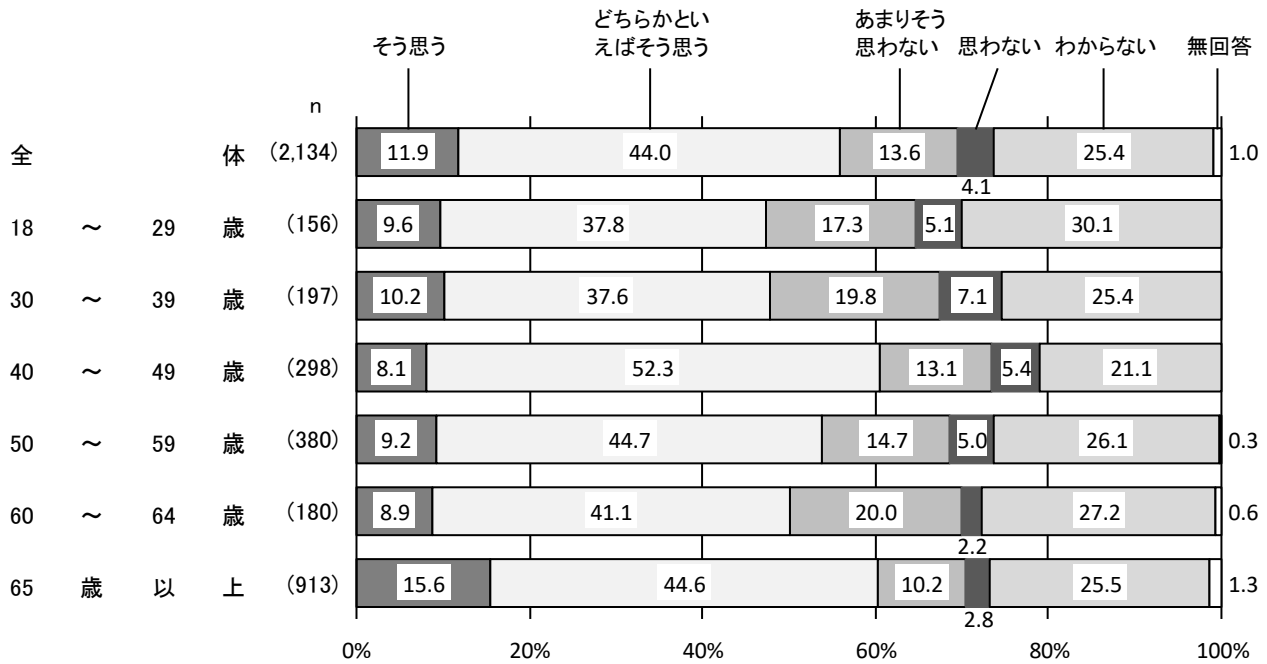
図1-1 「安心して子育てができるまち」になっていると思うか - 全体、性別



「安心して子育てができるまち」になっていると思うかを聞いたところ、「そう思う」(11.9%)と「どちらかといえばそう思う」(44.0%)を合わせた《思う》(55.9%)は、5割台半ばとなっている。一方、「あまりそう思わない」(13.6%)と「思わない」(4.1%)を合わせた《思わない》(17.7%)は、2割近くとなっている。

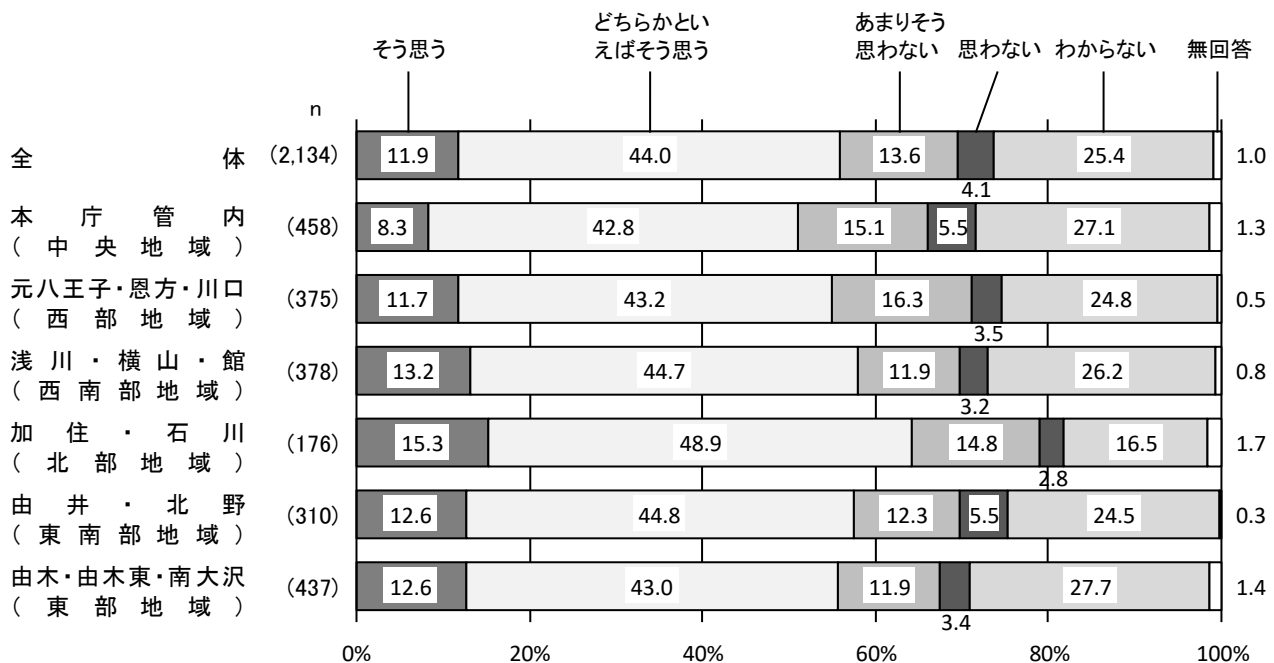
性別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図1-1)

図1-2 「安心して子育てができるまち」になっていると思うか - 年齢別



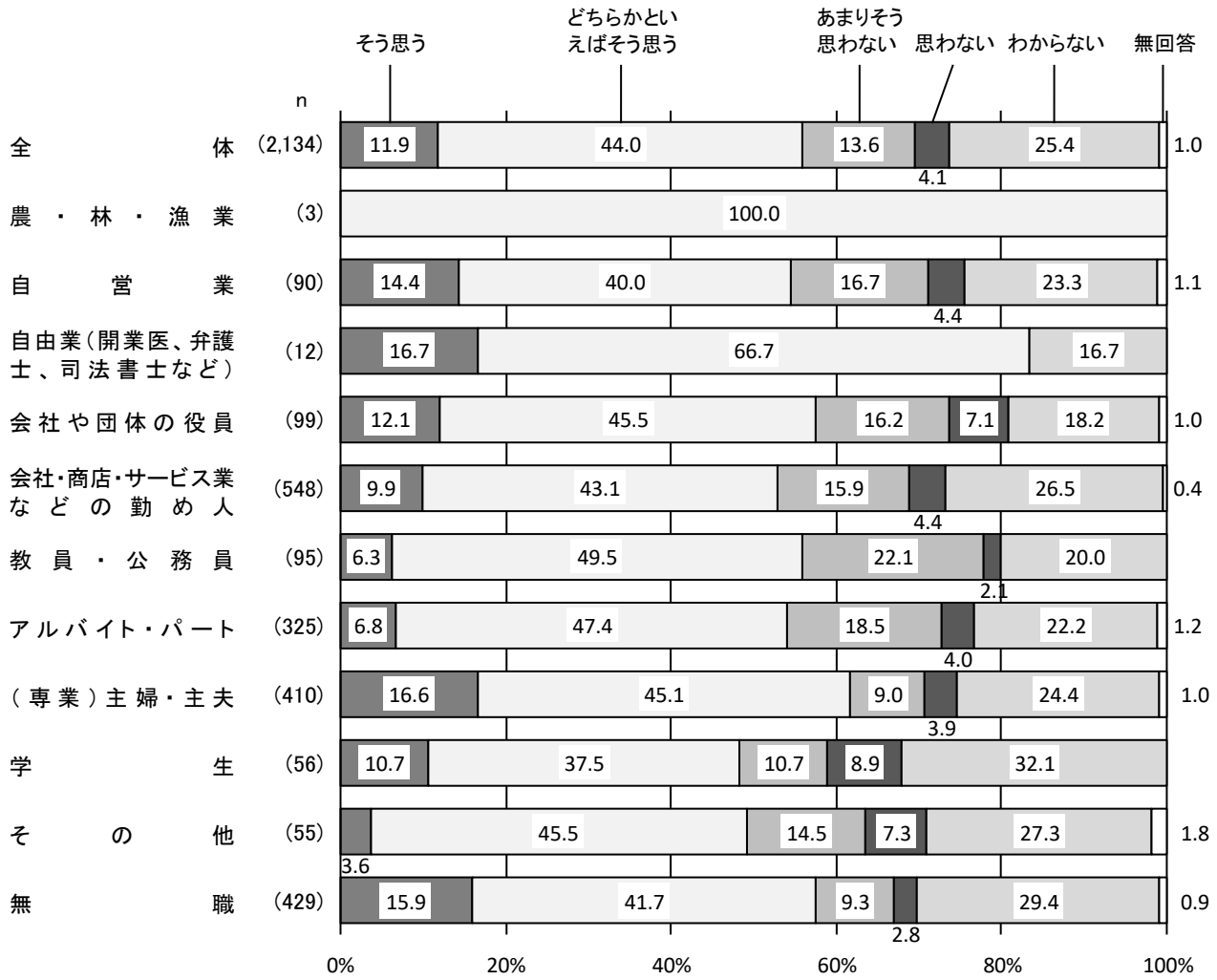
年齢別にみると、《思う》は、傾向に大きな違いはみられないが、「どちらかといえばそう思う」は、40～49歳（52.3%）が5割強と高くなっている。《思わない》は30～39歳（26.9%）が3割近くと高くなっている。（図1-2）

図1-3 「安心して子育てができるまち」になっていると思うか - 居住地域別



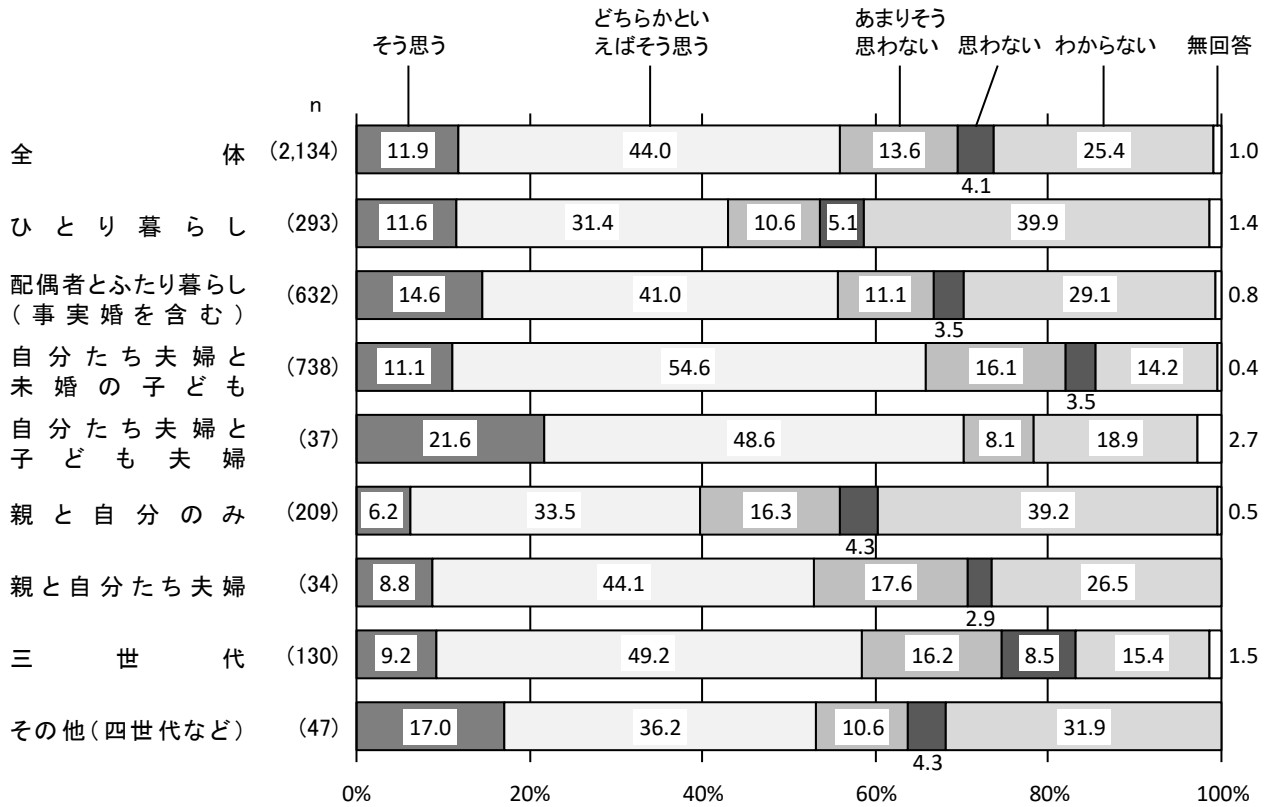
居住地域別にみると、《思う》は、加住・石川（北部地域）（64.2%）が6割台半ばと高くなっている。（図1-3）

図1-4 「安心して子育てができるまち」になっていると思うか - 職業別



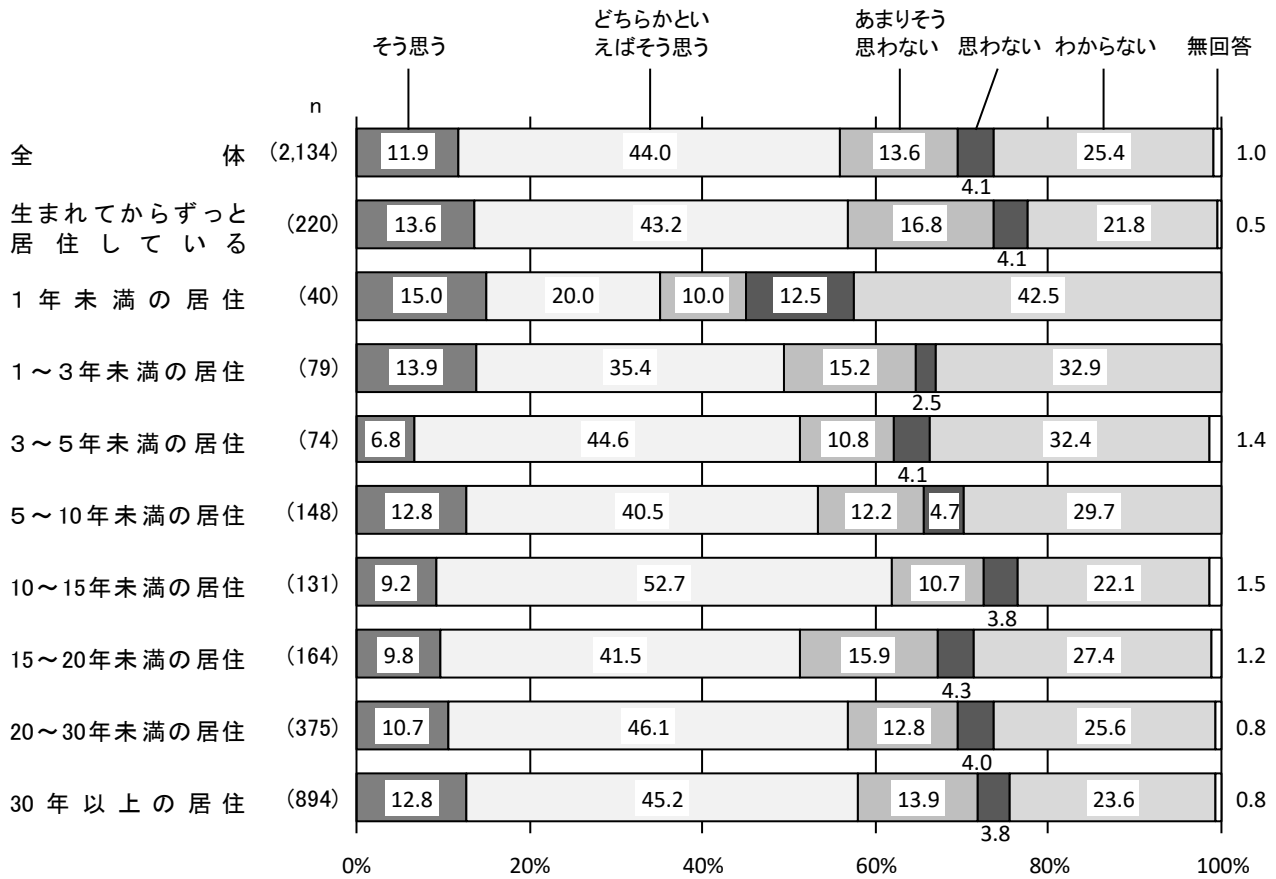
職業別にみると、「思う」は、(専業)主婦・主夫(61.7%)が6割強と高くなっている。「思わない」は、教員・公務員(24.2%)が2割台半ば、会社や団体の役員(23.3%)が2割強と高くなっている。(図1-4)

図1-5 「安心して子育てができるまち」になっていると思うか - 世帯構成別



世帯構成別にみると、「思う」は、自分たち夫婦と子ども夫婦（70.2%）が約7割、自分たち夫婦と未婚の子ども（65.7%）が6割台半ばと高くなっている。一方、「思わない」は、三世代（24.7%）が2割台半ばと高くなっている。（図1-5）

図1-6 「安心して子育てができるまち」になっていると思うか - 居住年数別



居住年数別にみると、「思う」は、10～15年未満の居住（61.9%）が6割強と高くなっている。（図1-6）

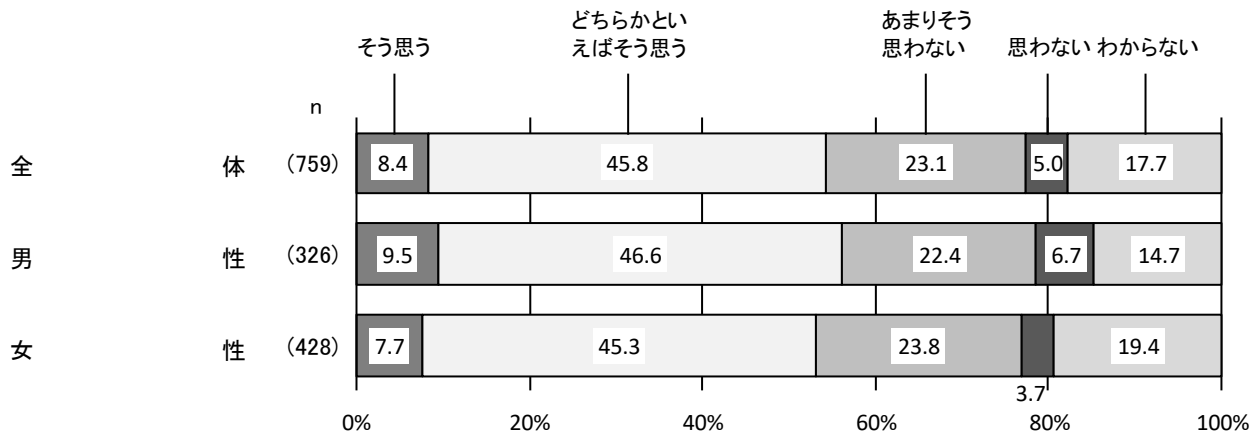
(2) 子育てを支える環境が整っていると思うか

(子育て中の方へ)

問2 あなたは、市などの様々な支援により、八王子市は子育てを支える環境が整っていると思いますか。

(〇は1つだけ)

図2-1 子育てを支える環境が整っていると思うか - 全体、性別

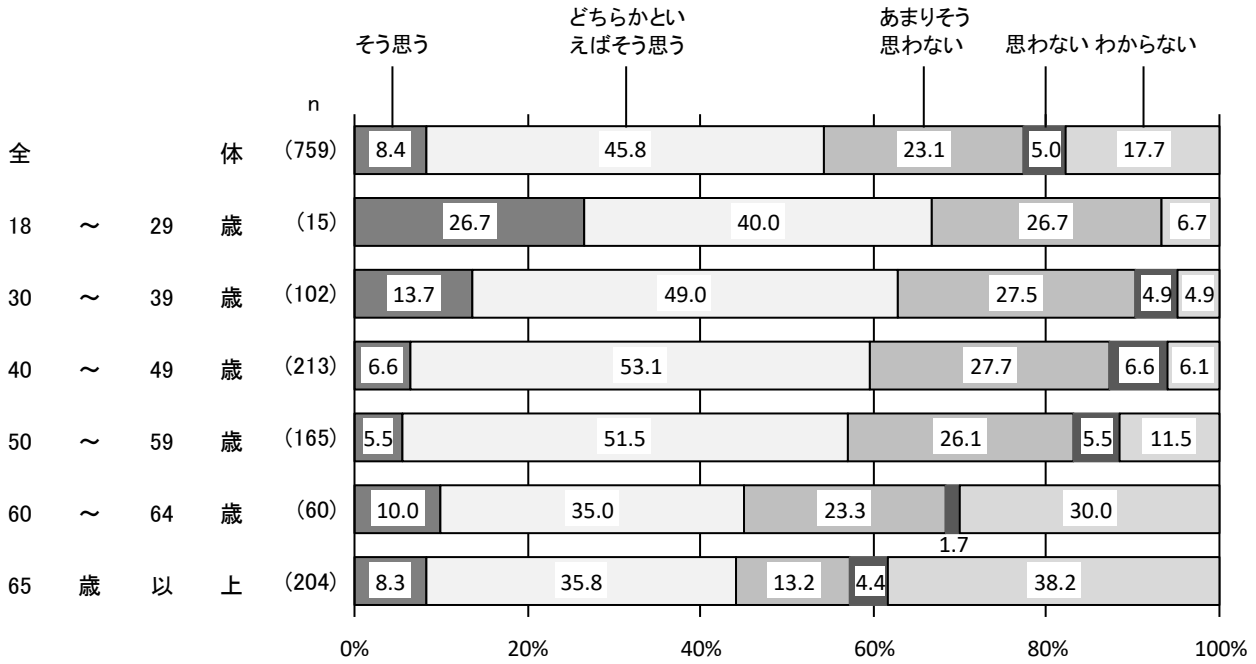


※子どもの有無においては、子どもの数が「1人」から「5人以上」及び無回答で、かつ、本設問において、回答していた方を母数とした。

子育てを支える環境が整っていると思うかを聞いたところ、「そう思う」(8.4%)と「どちらかといえばそう思う」(45.8%)を合わせた《思う》(54.2%)は、5割台半ばとなっている。一方、「あまりそう思わない」(23.1%)と「思わない」(5.0%)を合わせた《思わない》(28.1%)は、3割近くとなっている。

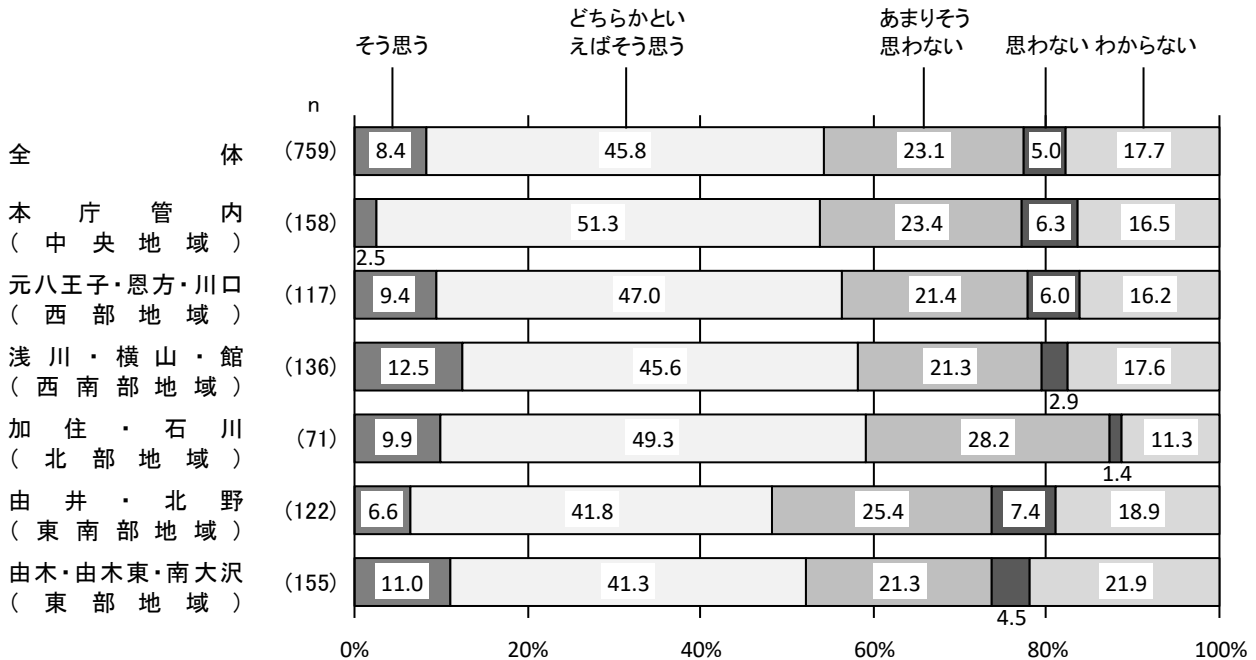
性別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図2-1)

図2-2 子育てを支える環境が整っていると思うか - 年齢別



年齢別にみると、「思う」は、30～39歳（62.7%）が6割強、40～49歳（59.7%）が6割弱と高くなっている。「思わない」は、40～49歳（34.3%）が3割台半ばと高くなっている。（図2-2）

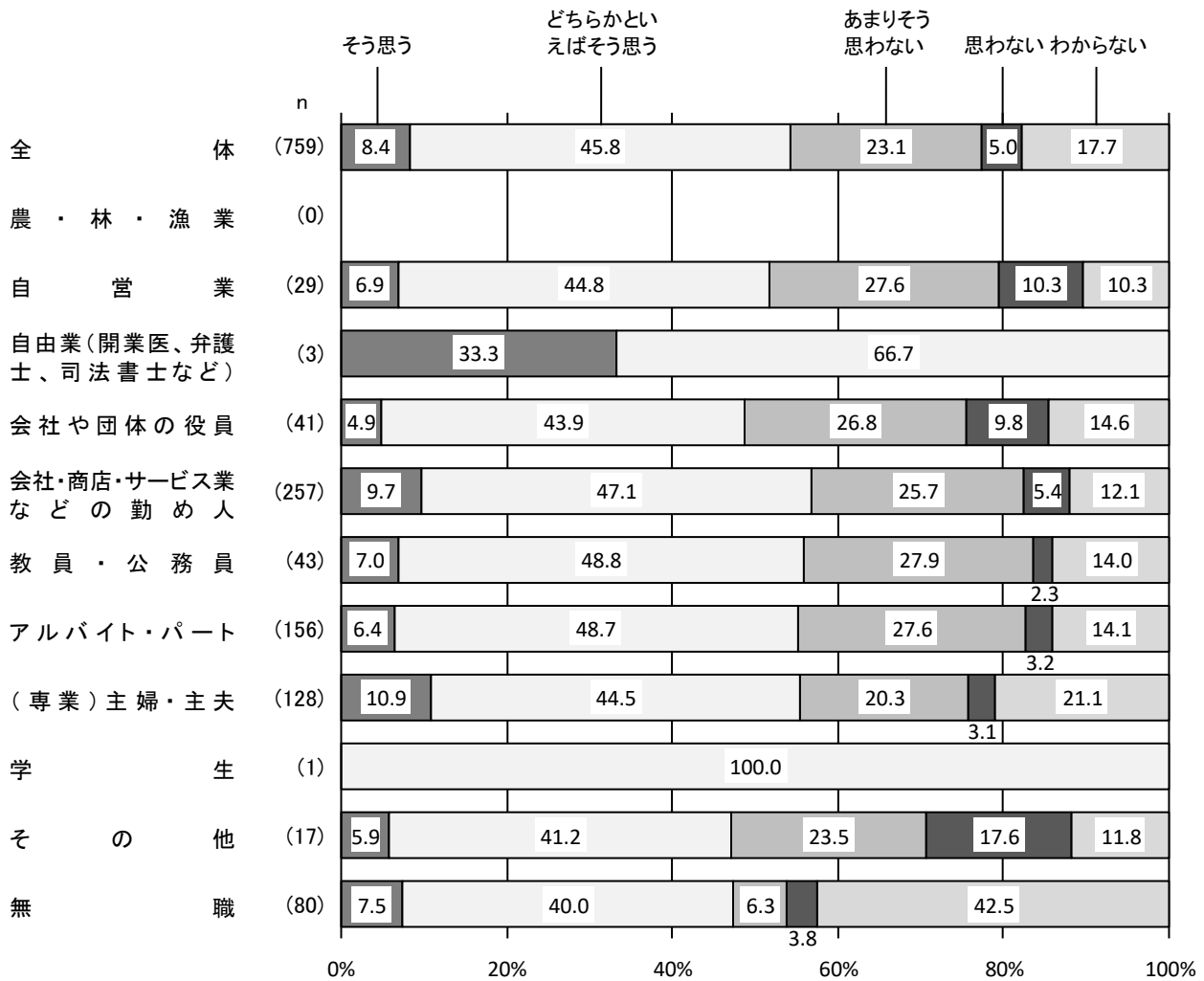
図2-3 子育てを支える環境が整っていると思うか - 居住地域別



居住地域別にみると、「思う」は、傾向に大きな違いはみられないが、「どちらかといえばそう思う」は、本庁管内（中央地域）（51.3%）が5割強と高くなっている。「思わない」は、傾向に大きな違いはみられないが、「あまりそう思わない」は、加住・石川（北部地域）（28.2%）が3割近くと高くなっている。

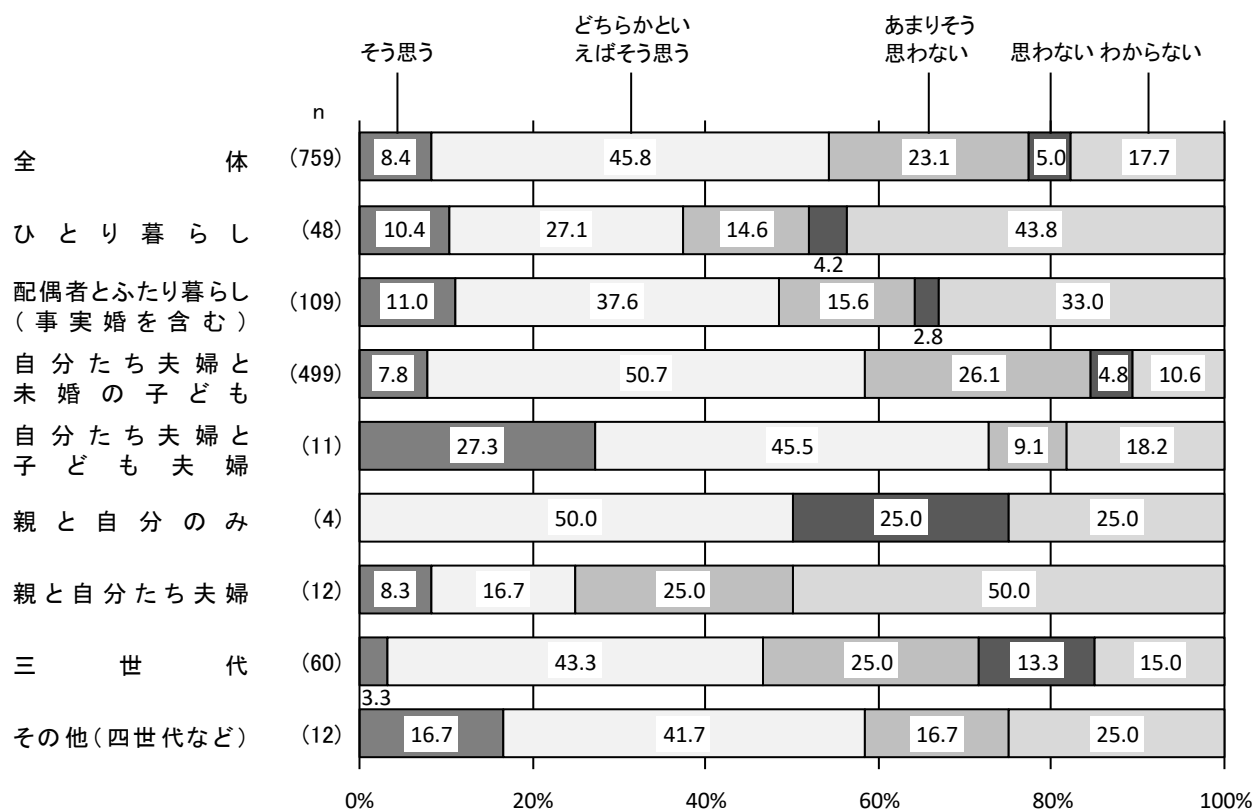
（図2-3）

図2-4 子育てを支える環境が整っていると思うか - 職業別



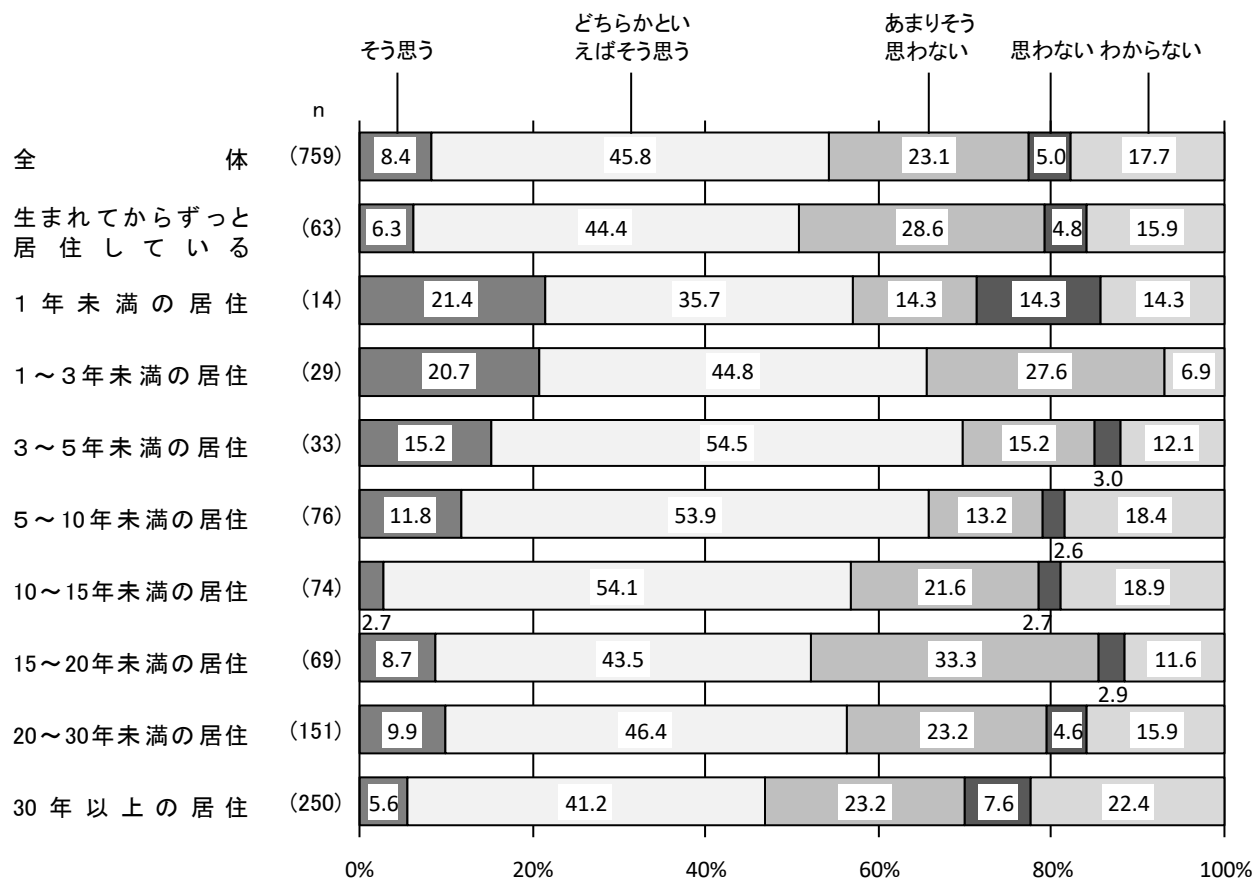
職業別にみると、「思う」は、無職(47.5%)が5割近くと低くなっている。「思わない」は、会社や団体の役員(36.6%)が4割近くと高くなっている。(図2-4)

図2-5 子育てを支える環境が整っていると思うか - 世帯構成別



世帯構成別にみると、「思う」は、ひとり暮らし (37.5%) が4割近くと低くなっている。「思わない」は、三世代 (38.3%) が4割近くと高くなっている。(図2-5)

図2-6 子育てを支える環境が整っていると思うか - 居住年数別



居住年数別にみると、「思う」は、3～5年未満の居住（69.7%）が7割弱、5～10年未満の居住（65.7%）が6割台半ばと高くなっている。「思わない」は、15～20年未満の居住（36.2%）が4割近く、生まれてからずっと居住している（33.4%）が3割強と高くなっている。（図2-6）

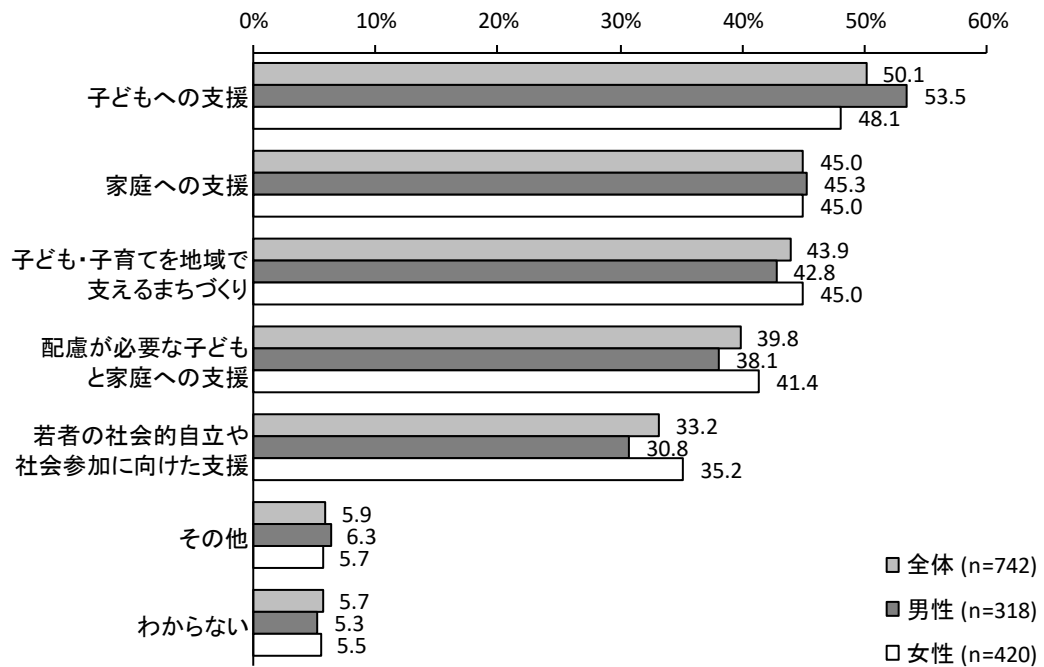
(3) 子育て分野において力を入れた方がよいと考える取組

(子育て中の方へ)

問3 今後、子育て分野において、力を入れた方がよいと考える取組を以下から選択してください。

(〇はいくつでも)

図3-1 子育て分野において力を入れた方がよいと考える取組 — 全体、性別



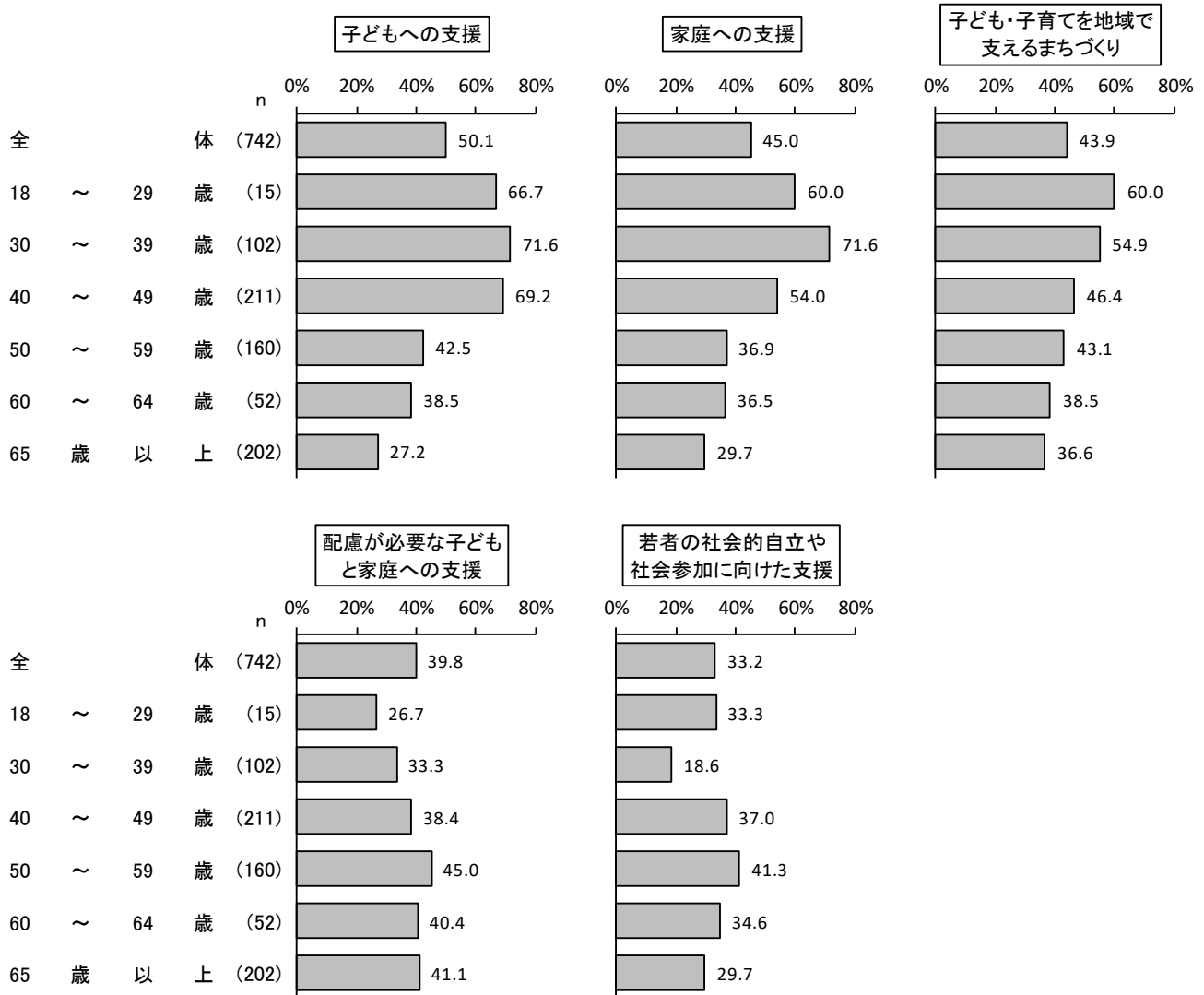
※子どもの有無においては、子どもの数が「1人」から「5人以上」及び無回答で、かつ、本設問において、回答していた方を母数とした。

子育て分野において、力を入れた方がよいと考える取組について聞いたところ、「子どもへの支援」(50.1%)が約5割と最も高くなっている。次いで、「家庭への支援」(45.0%)、「子ども・子育てを地域で支えるまちづくり」(43.9%)の順となっている。

性別にみると、「子どもへの支援」は、男性(53.5%)が女性(48.1%)より5.4ポイント高くなっている。

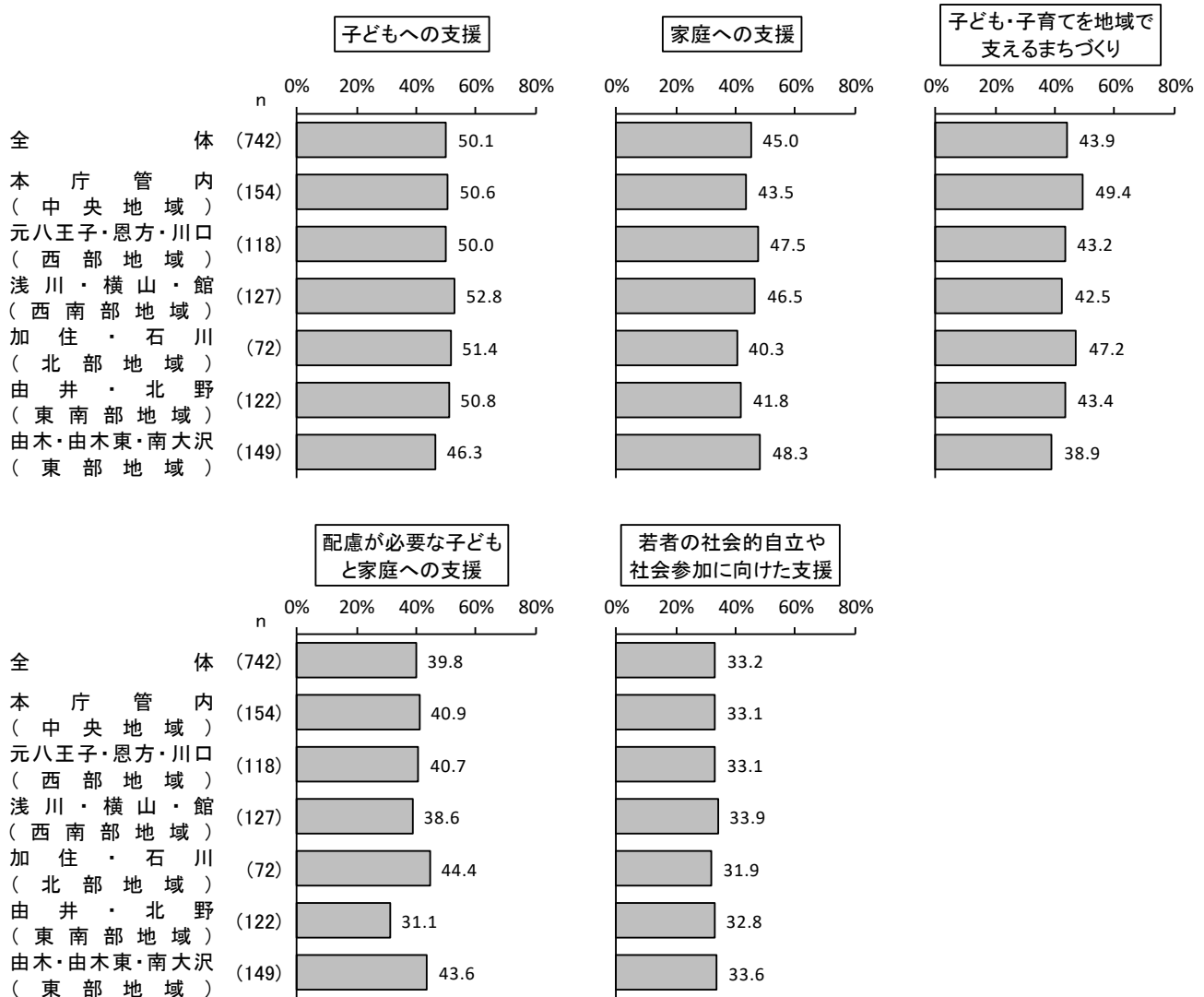
(図3-1)

図3-2 子育て分野において力を入れた方がよいと考える取組 — 年齢別



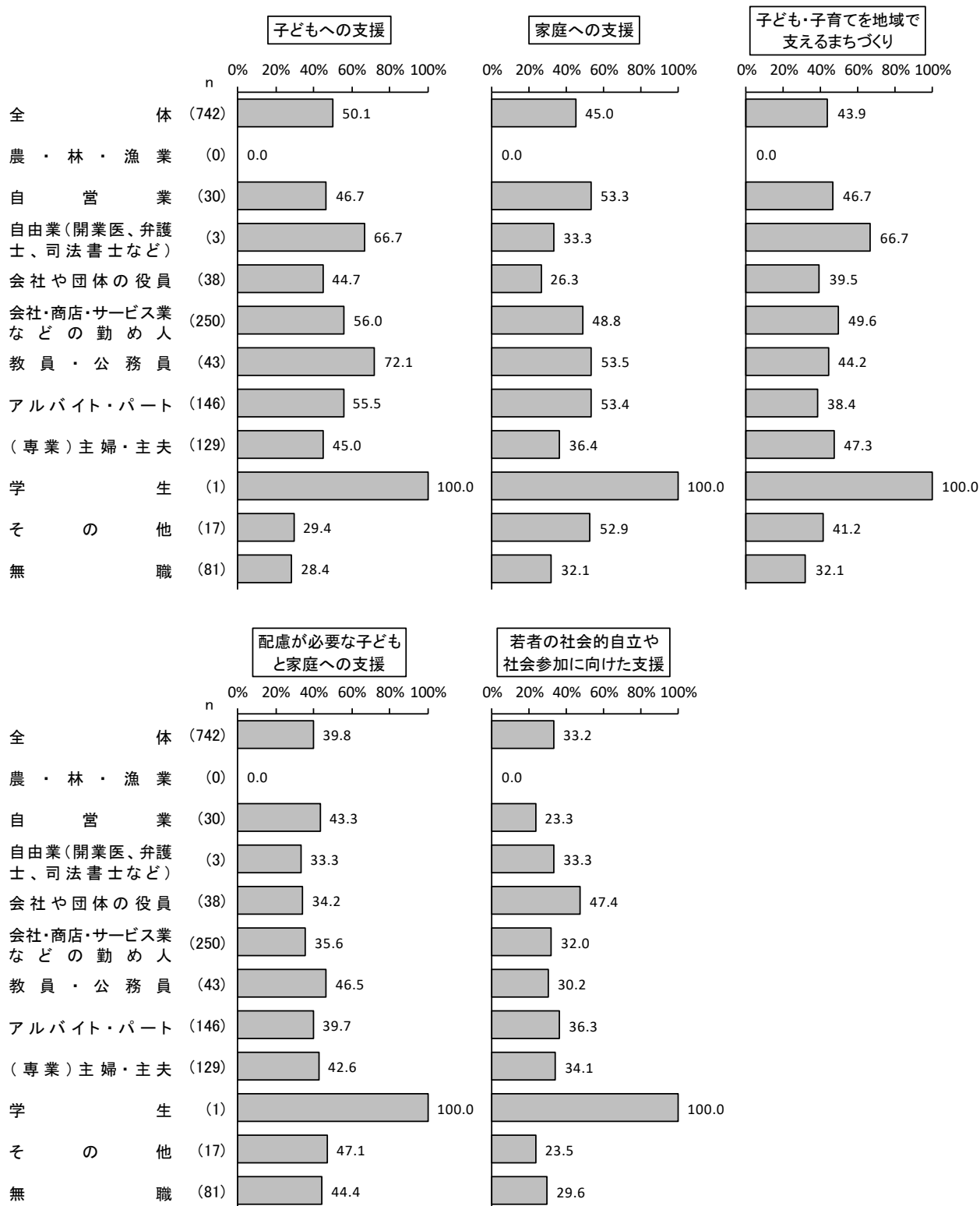
年齢別にみると、「子どもへの支援」は、30～39歳（71.6%）が7割強、40～49歳（69.2%）が7割弱と高くなっている。「家庭への支援」は、30～39歳（71.6%）が7割強、40～49歳（54.0%）が5割台半ばと高くなっている。「子ども・子育てを地域で支えるまちづくり」は、30～39歳（54.9%）が5割台半ばと高くなっている。「配慮が必要な子どもと家庭への支援」は、50～59歳（45.0%）が4割台半ばと高くなっている。「若者の社会的自立や社会参加に向けた支援」は、50～59歳（41.3%）が4割強と高くなっている。（図3-2）

図3-3 子育て分野において力を入れた方がよいと考える取組 — 居住地域別



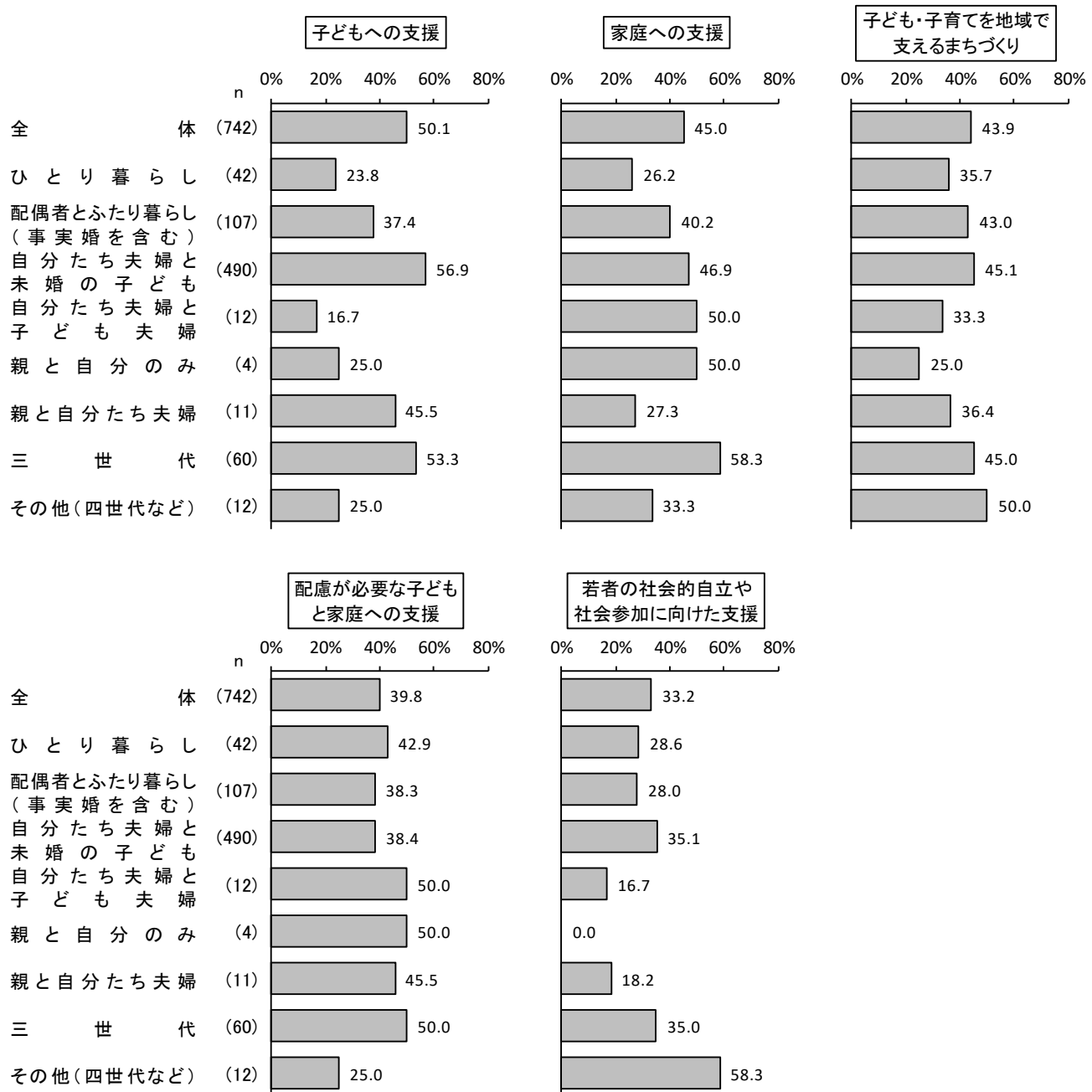
居住地域別にみると、「子ども・子育てを地域で支えるまちづくり」は、本庁管内（中央地域）（49.4%）が5割弱と高くなっている。「配慮が必要な子どもと家庭への支援」は、由井・北野（東南部地域）（31.1%）が3割強と低くなっている。（図3-3）

図3-4 子育て分野において力を入れた方がよいと考える取組 - 職業別



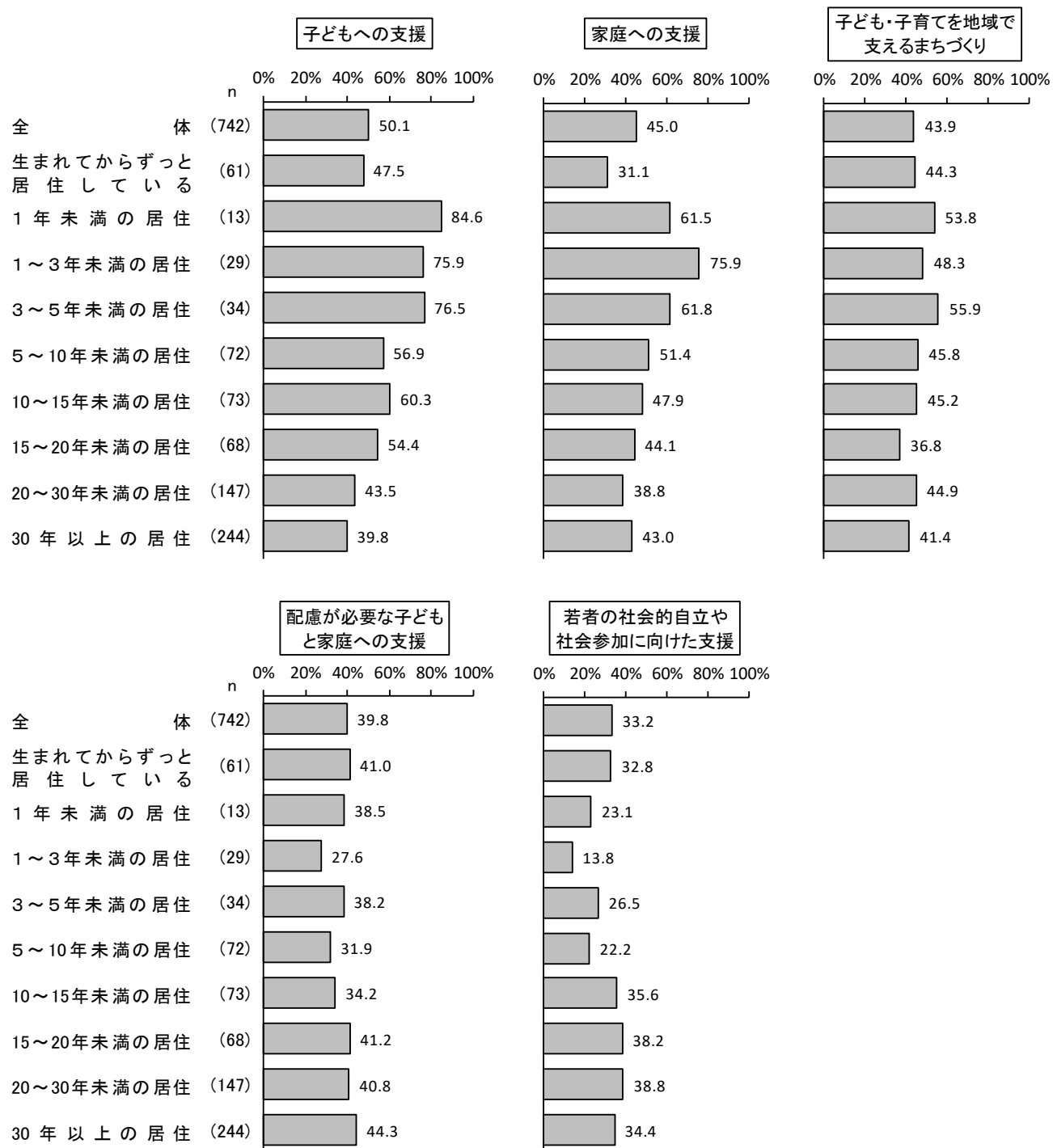
職業別にみると、「子どもへの支援」は、教員・公務員(72.1%)が7割強、会社・商店・サービス業などの勤め人(56.0%)が6割近く、アルバイト・パート(55.5%)が5割台半ばと高くなっている。「家庭への支援」は、教員・公務員(53.5%)、アルバイト・パート(53.4%)、自営業(53.3%)がそれぞれ5割強と高くなっている。「子ども・子育てを地域で支えるまちづくり」は、会社・商店・サービス業などの勤め人(49.6%)が5割弱と高くなっている。「配慮が必要な子どもと家庭への支援」は、教員・公務員(46.5%)が5割近くと高くなっている。「若者の社会的自立や社会参加に向けた支援」は、会社や団体の役員(47.4%)が5割近くと高くなっている。(図3-4)

図3-5 子育て分野において力を入れた方がよいと考える取組 — 世帯構成別



世帯構成別にみると、「子どもへの支援」は、自分たち夫婦と未婚の子ども（56.9%）が6割近くと高くなっている。「家庭への支援」は、三世代（58.3%）が6割近くと高くなっている。「子ども・子育てを地域で支えるまちづくり」は、ひとり暮らし（35.7%）が3割台半ばと低くなっている。「配慮が必要な子どもと家庭への支援」は、三世代（50.0%）が5割と高くなっている。「若者の社会的自立や社会参加に向けた支援」は、配偶者とふたり暮らし（28.0%）が3割近くと低くなっている。（図3-5）

図3-6 子育て分野において力を入れた方がよいと考える取組 — 居住年数別



居住年数別にみると、「子どもへの支援」は、3～5年未満の居住（76.5%）が8割近く、10～15年未満の居住（60.3%）が約6割、5～10年未満の居住（56.9%）が6割近くと高くなっている。「家庭への支援」は、3～5年未満の居住（61.8%）が6割強、5～10年未満の居住（51.4%）が5割強と高くなっている。「子ども・子育てを地域で支えるまちづくり」は、3～5年未満の居住（55.9%）が5割台半ばと高くなっている。「配慮が必要な子どもと家庭への支援」は、5～10年未満の居住（31.9%）が3割強と低くなっている。「若者の社会的自立や社会参加に向けた支援」は、20～30年未満の居住（38.8%）が4割近くと高くなっている。

(図3-6)

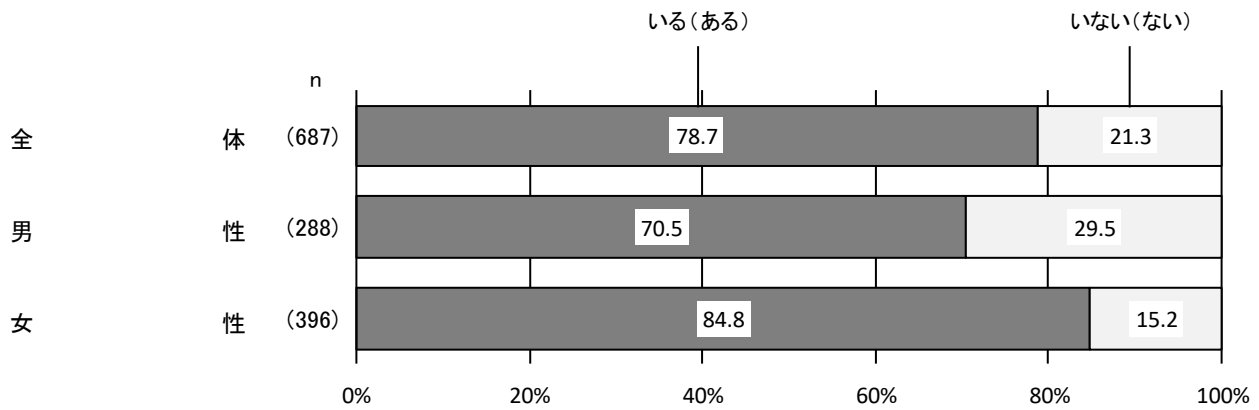
(4) 子育てに関して相談できる人の有無

(子育て中の方へ)

問4 あなたは、子育てに関して困ったときに、いつでも相談できる人がいますか(場がありますか)。

(○は1つだけ)

図4-1 子育てに関して相談できる人の有無 - 全体、性別



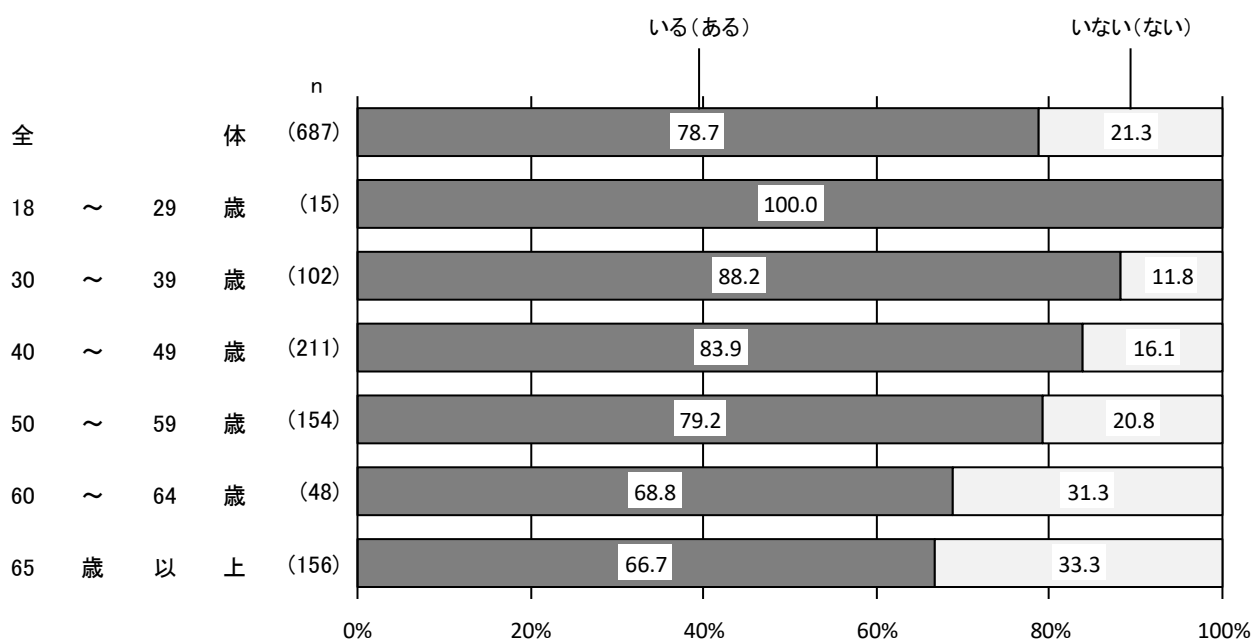
※子どもの有無においては、子どもの数が「1人」から「5人以上」及び無回答で、かつ、本設問において、回答していた方を母数とした。

子育てに関して困ったときに、いつでも相談できる人がいるかを聞いたところ、「いる(ある)」(78.7%)は、8割近くとなっている。一方、「いない(ない)」(21.3%)は、2割強となっている。

性別にみると、「いる(ある)」は、女性(84.8%)が男性(70.5%)より14.3ポイント高くなっている。

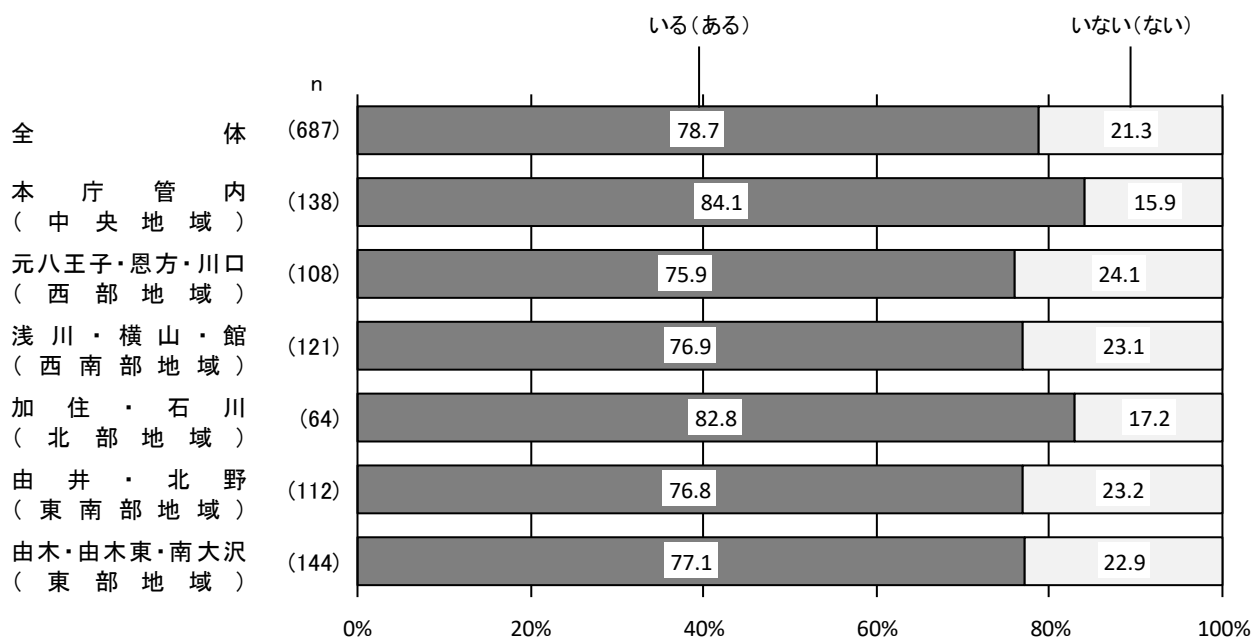
(図4-1)

図4-2 子育てに関して相談できる人の有無 - 年齢別



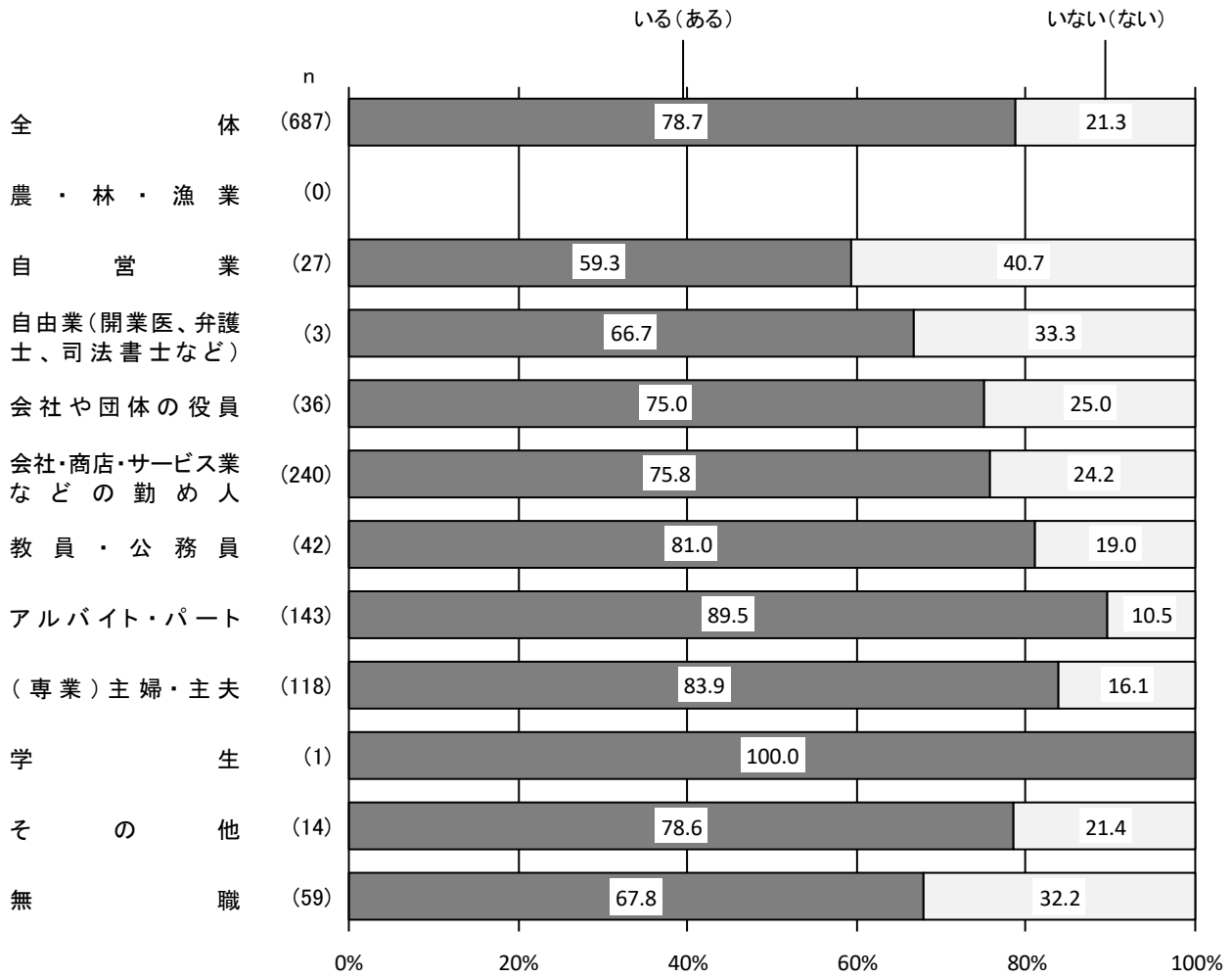
年齢別にみると、「いる(ある)」は、30~39歳(88.2%)が9割近く、40~49歳(83.9%)が8割強と高くなっている。「いない(ない)」は、65歳以上(33.3%)、60~64歳(31.3%)がそれぞれ3割強と高くなっている。(図4-2)

図4-3 子育てに関して相談できる人の有無 - 居住地域別



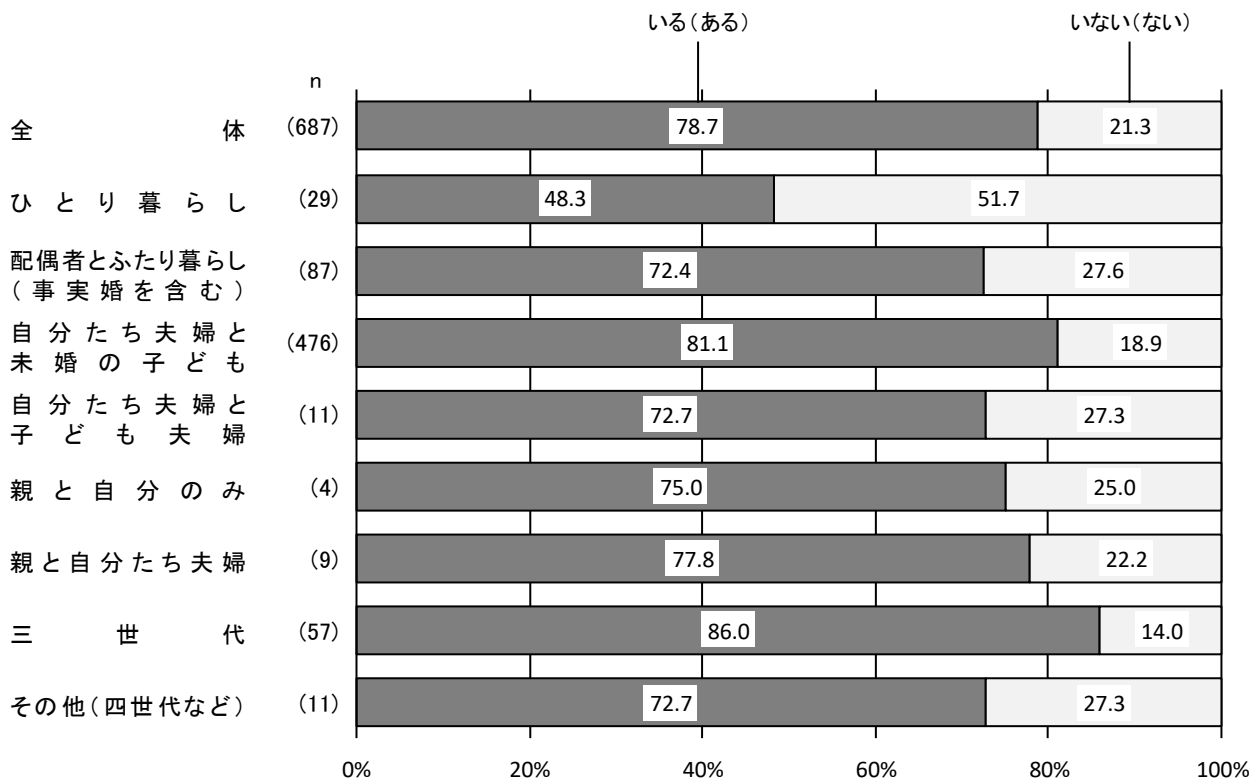
居住地域別にみると、「いる(ある)」は、本庁管内(中央地域)(84.1%)が8割台半ばと高くなっている。(図4-3)

図4-4 子育てに関して相談できる人の有無 - 職業別



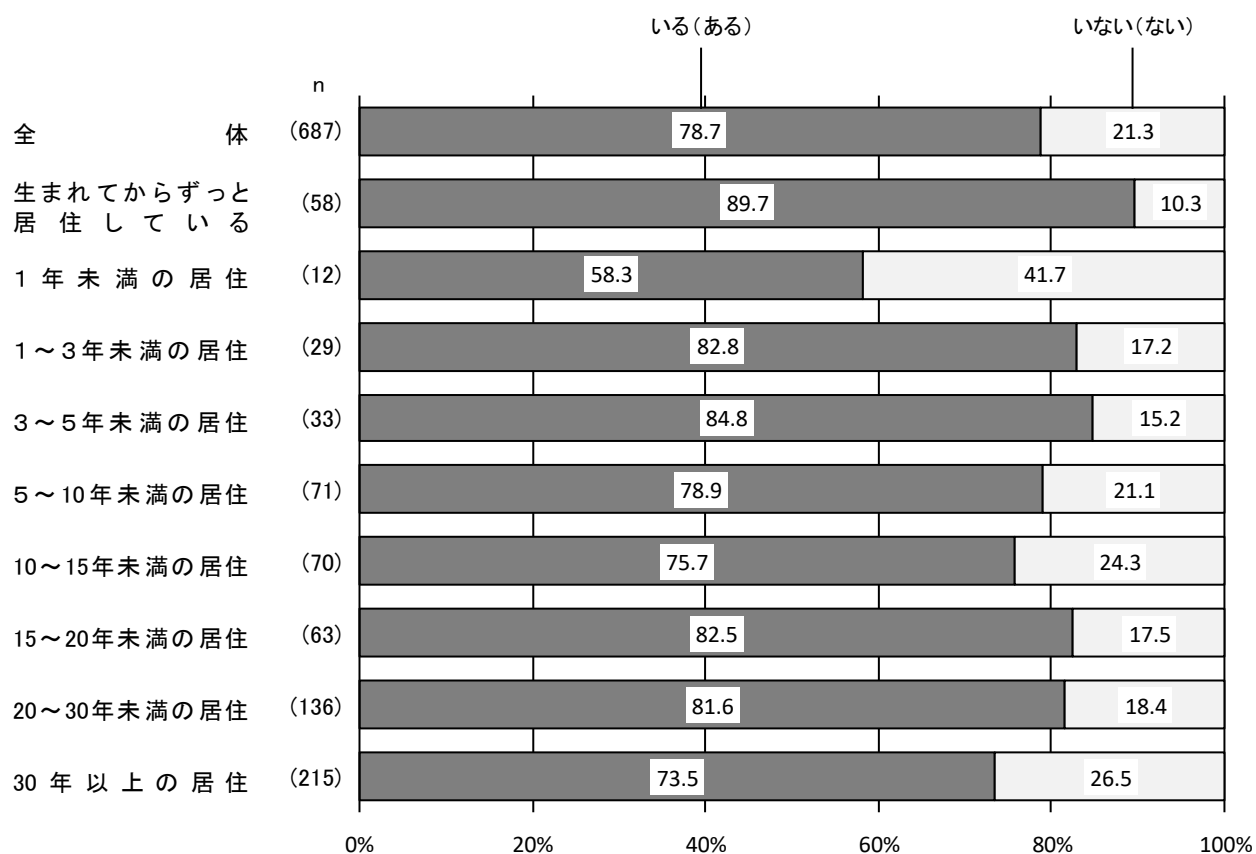
職業別にみると、「いる(ある)」は、アルバイト・パート(89.5%)が9割弱、(専業)主婦・主夫(83.9%)が8割強と高くなっている。「いない(ない)」は、無職(32.2%)が3割強と高くなっている。(図4-4)

図4-5 子育てに関して相談できる人の有無 - 世帯構成別



世帯構成別にみると、「いる(ある)」は、三世代(86.0%)が9割近くと高くなっている。「いない(ない)」は、配偶者とふたり暮らし(事実婚を含む)(27.6%)が3割近くと高くなっている。(図4-5)

図4-6 子育てに関して相談できる人の有無 - 居住年数別



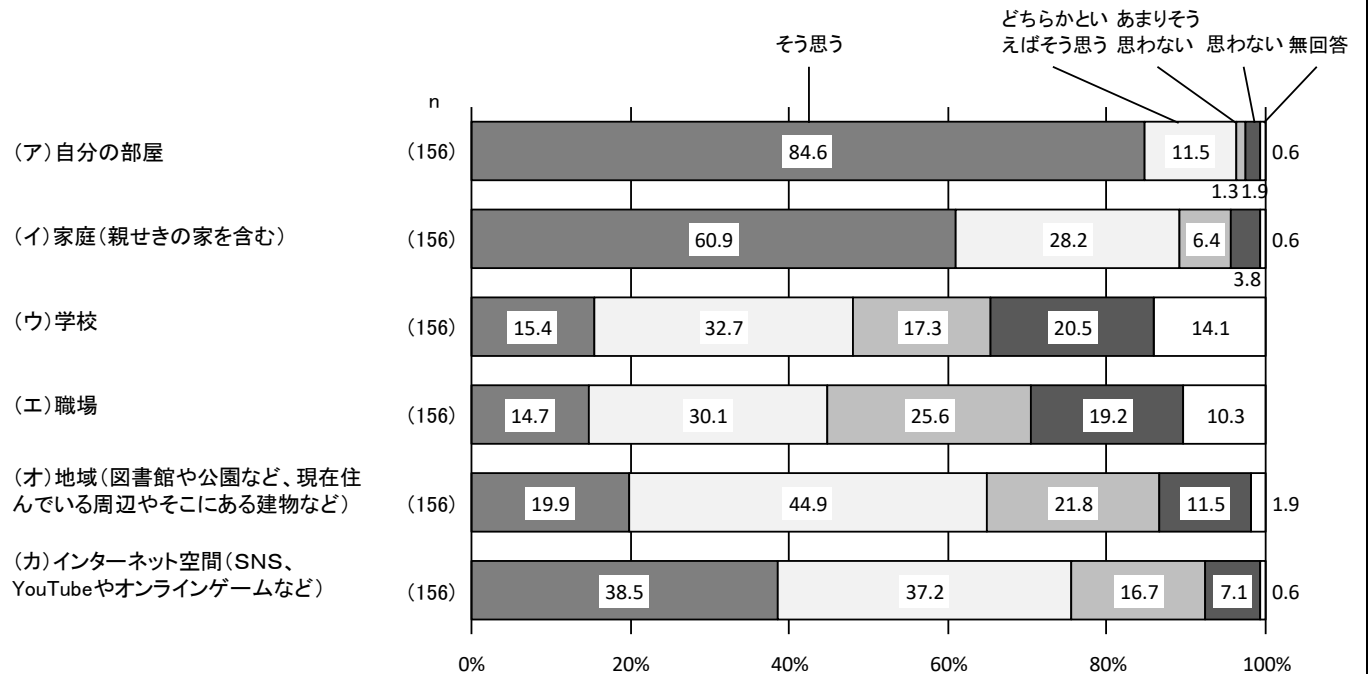
居住年数別にみると、「いる(ある)」は、生まれてからずっと居住している(89.7%)が9割弱、3～5年未満の居住(84.8%)が8割台半ばと高くなっている。「いない(ない)」は、30年以上の居住(26.5%)が3割近くと高くなっている。(図4-6)

(5) 若者の居場所になっているか

(現在 18 歳から 29 歳の方へ)

問 5 次の (ア) ~ (カ) の場所は、今のあなたにとって居場所 (ほっとできる場所、安心できる場所) になっていますか。(〇はそれぞれ 1 つずつ)

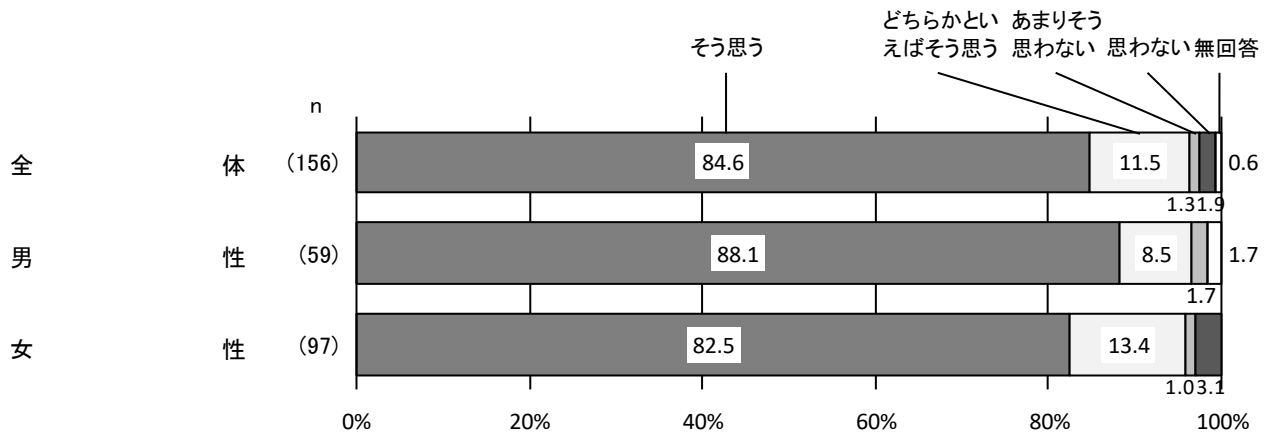
図 5-1 若者の居場所になっているか - 全体



※年齢において、「18~19 歳」、「20~24 歳」及び「25~29 歳」と回答していた方を母数とした。

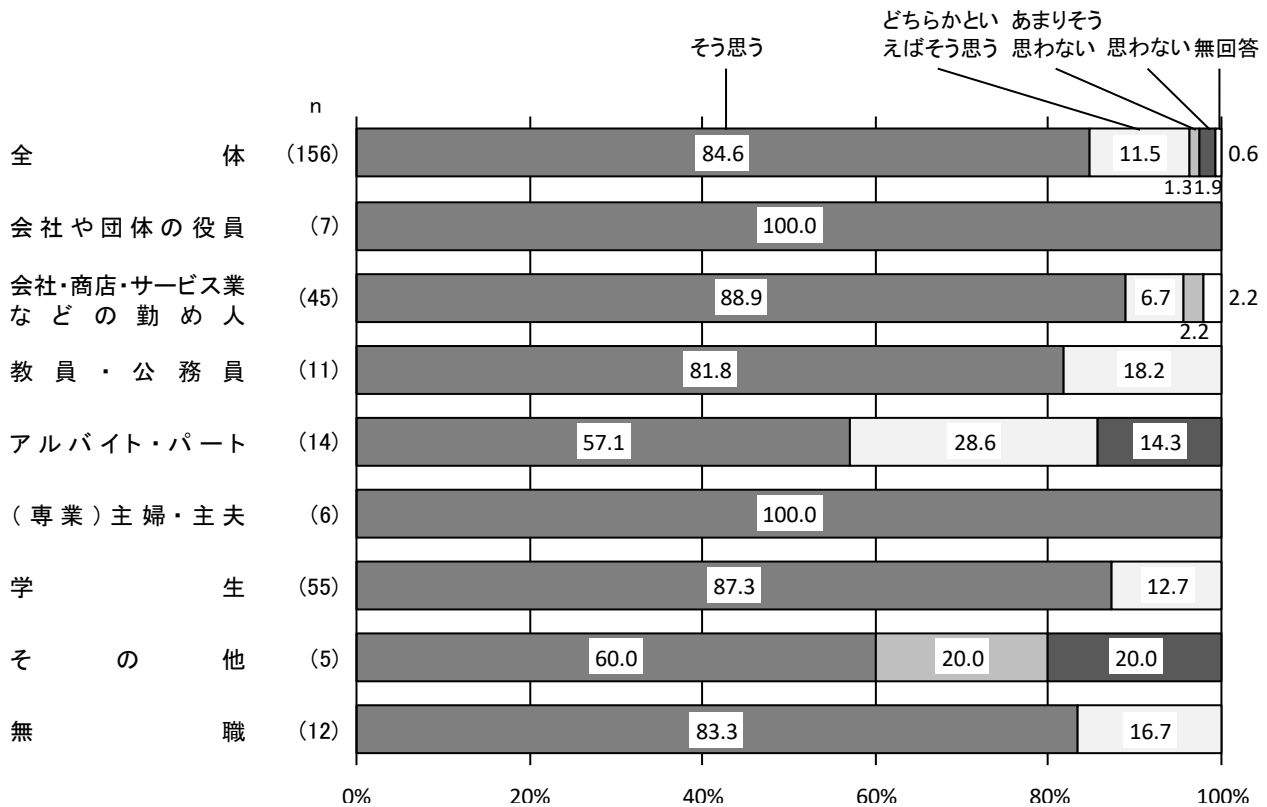
18 歳から 29 歳の方を対象に、どの場所が今のあなたにとって居場所 (ほっとできる場所、安心できる場所) になっているかを聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた《思う》は、「自分の部屋」(96.1%) が 10 割近くと最も高くなっている。次いで、「家庭 (親せきの家を含む)」(89.1%) が 9 割弱、「インターネット空間 (SNS、YouTube やオンラインゲームなど)」(75.7%) が 7 割台半ばと高くなっている。一方、「あまりそう思わない」と「思わない」を合わせた《思わない》は、「職場」(44.8%) が 4 割台半ばと高くなっている。(図 5-1)

図5-2 若者の居場所になっているか（ア）自分の部屋 - 性別



性別にみると、「思う」と「思わない」では大きな傾向の違いは見られない。「そう思う」は、男性(88.1%)が女性(82.5%)より5.6ポイント高くなっている。(図5-2)

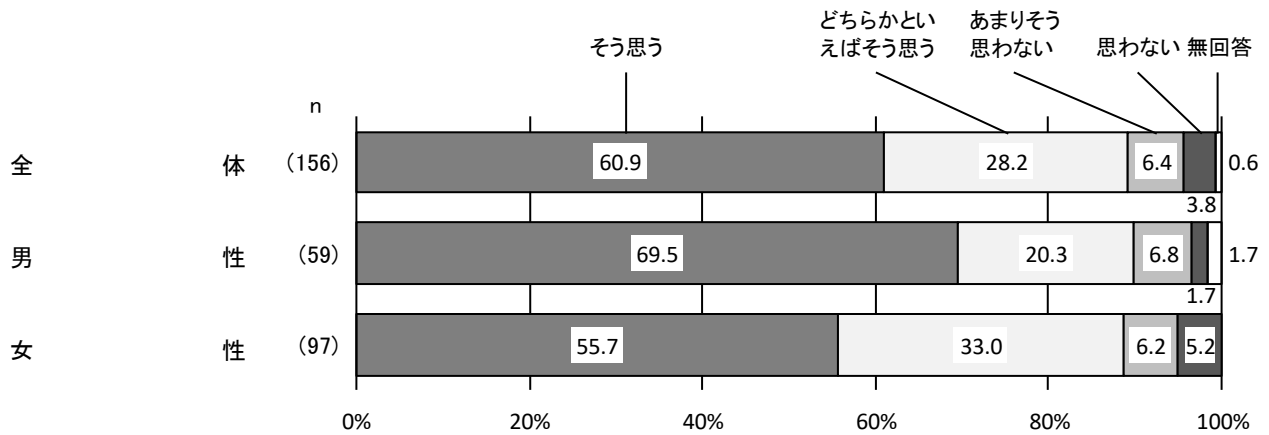
図5-3 若者の居場所になっているか（ア）自分の部屋 - 職業別



※農・林・漁業、自営業、自由業はn=0につきグラフから省略した。

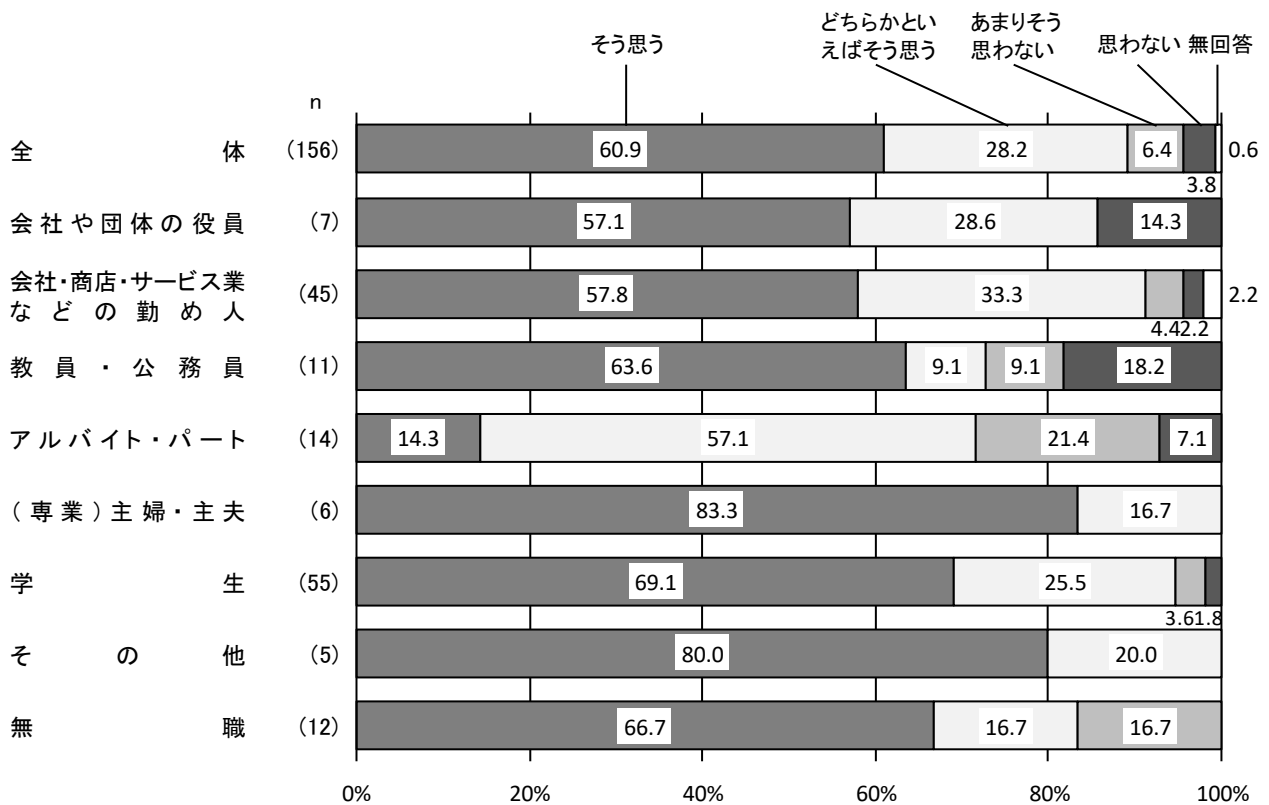
職業別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図5-3)

図5-4 若者の居場所になっているか（イ）家庭（親せきの家を含む）－性別



性別にみると、「思う」と「思わない」では大きな傾向の違いは見られない。「そう思う」は、男性(69.5%)が女性(55.7%)より13.8ポイント高くなっている。(図5-4)

図5-5 若者の居場所になっているか（イ）家庭（親せきの家を含む）－職業別

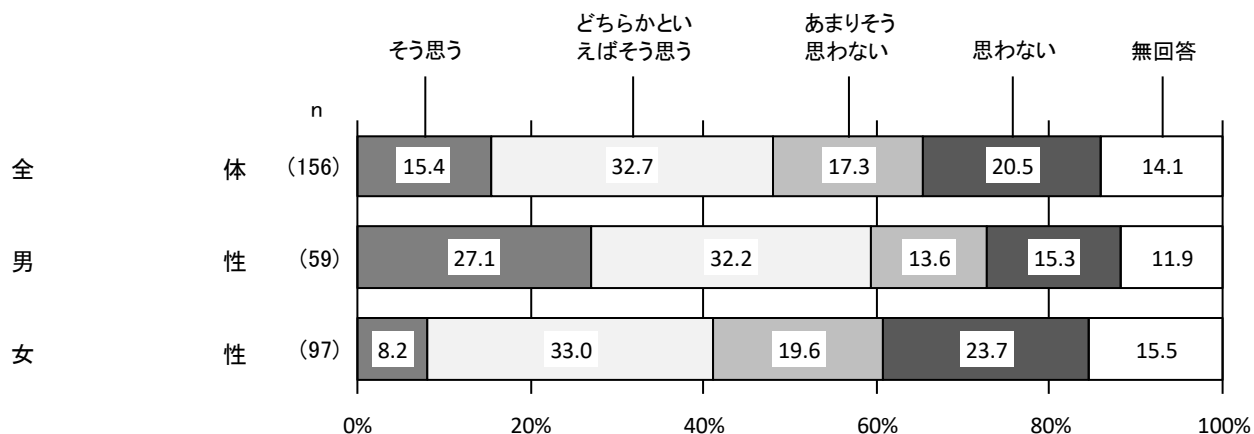


※農・林・漁業、自営業、自由業はn=0につきグラフから省略した。

職業別にみると、「思う」は、学生(94.6%)が9割台半ばと高くなっている。

(図5-5)

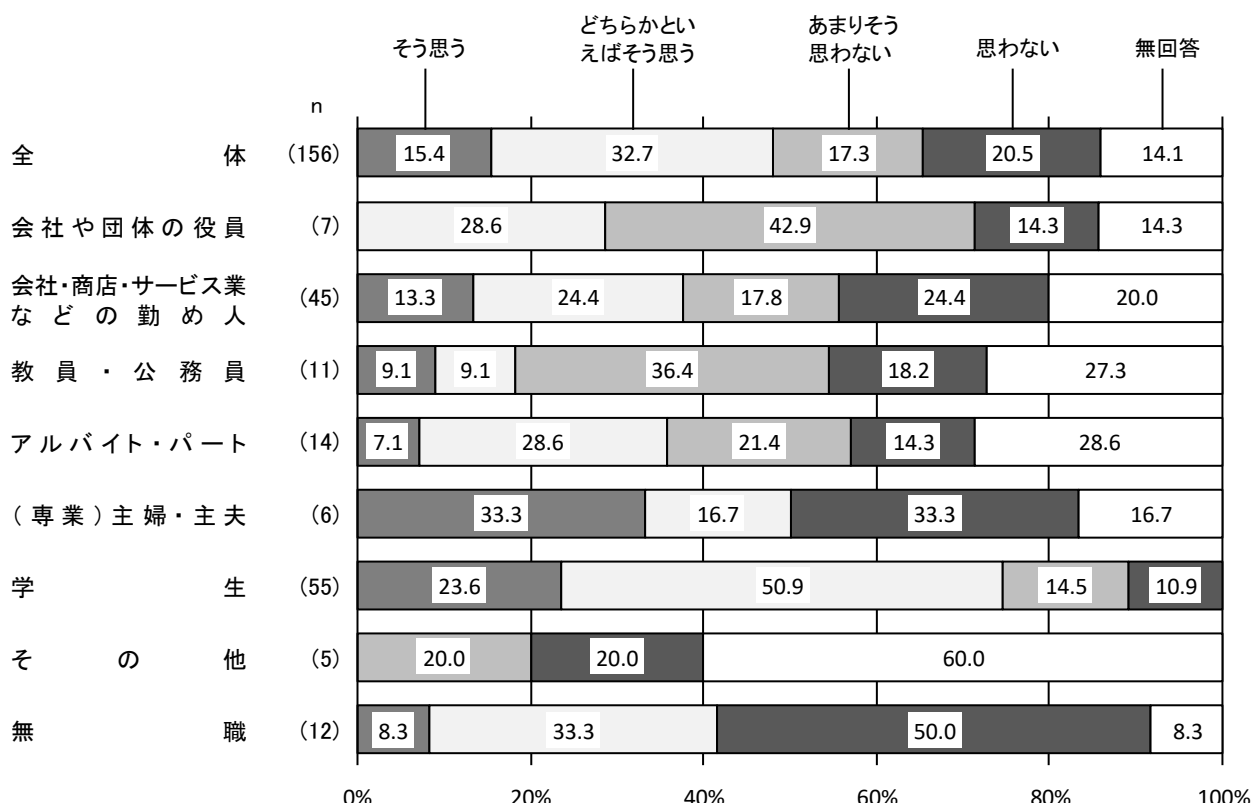
図5-6 若者の居場所になっているか(ウ)学校 - 性別



性別にみると、《思う》は、男性(59.3%)が女性(41.2%)より18.1ポイント高くなっている。

(図5-6)

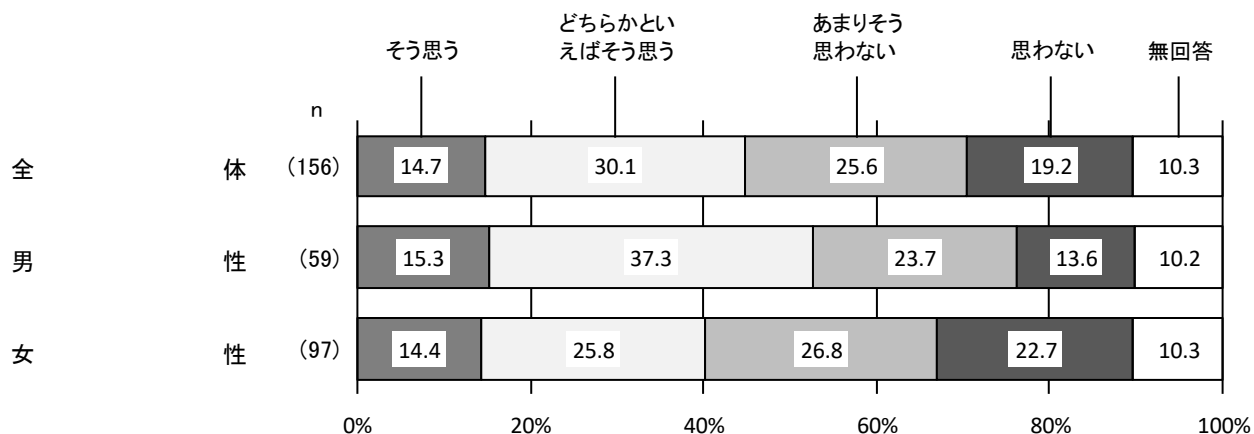
図5-7 若者の居場所になっているか(ウ)学校 - 職業別



※農・林・漁業、自営業、自由業はn=0につきグラフから省略した。

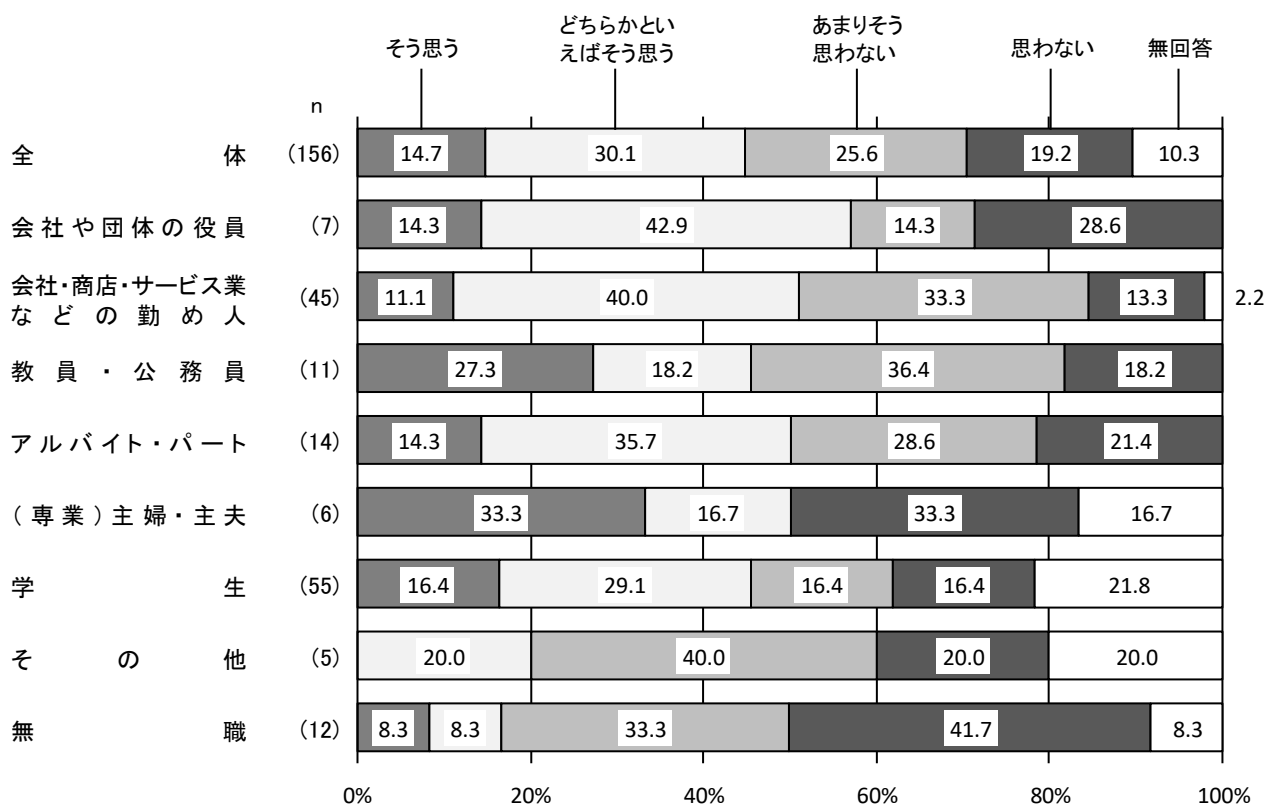
職業別にみると、《思う》は、学生(74.5%)が会社・商店・サービス業などの勤め人(37.7%)より36.8ポイント高くなっている。(図5-7)

図5-8 若者の居場所になっているか（エ）職場 - 性別



性別にみると、《思う》は、男性（52.6%）が女性（40.2%）より12.4ポイント高くなっている。（図5-8）

図5-9 若者の居場所になっているか（エ）職場 - 職業別

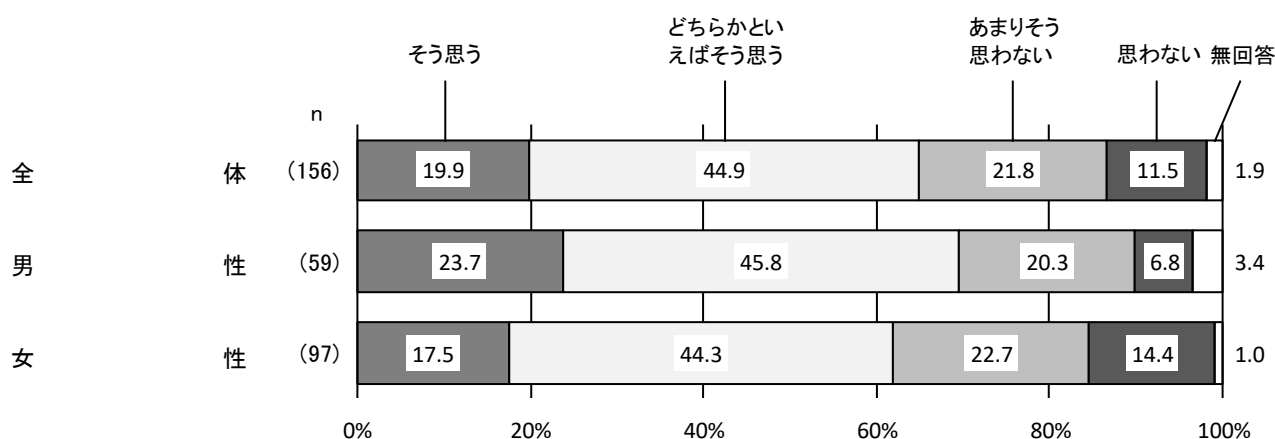


※農・林・漁業、自営業、自由業はn=0につきグラフから省略した。

職業別にみると、《思わない》は、会社・商店・サービス業などの勤め人（46.6%）が学生（32.8%）より13.8ポイント高くなっている。

（図5-9）

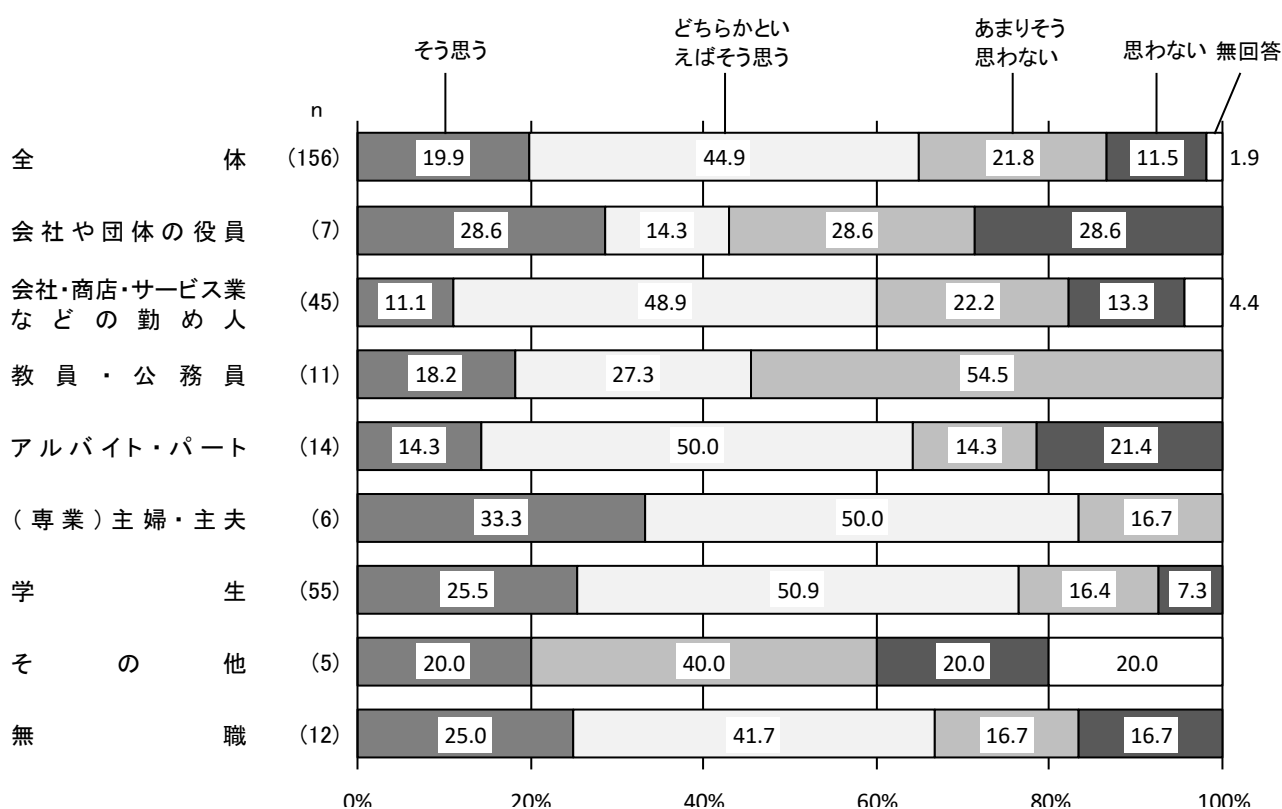
図5-10 若者の居場所になっているか(オ)地域
(図書館や公園など、現在住んでいる周辺やそこにある建物など) — 性別



性別にみると、「思わない」は、女性(37.1%)が男性(27.1%)より10.0ポイント高くなっている。

(図5-10)

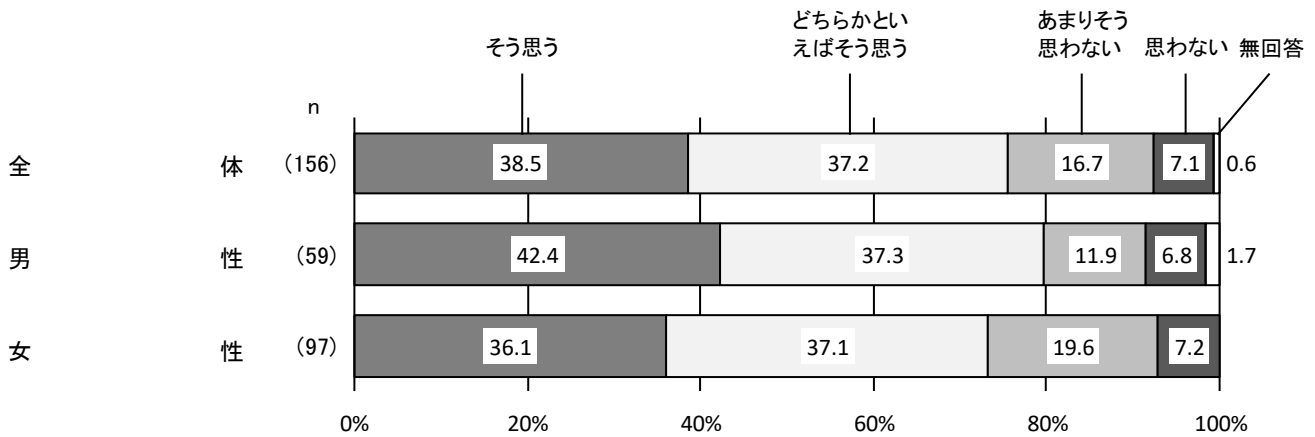
図5-11 若者の居場所になっているか(オ)地域
(図書館や公園など、現在住んでいる周辺やそこにある建物など) — 職業別



※農・林・漁業、自営業、自由業はn=0につきグラフから省略した。

職業別にみると、「思う」は、学生(76.4%)が会社・商店・サービス業などの勤め人(60.0%)より16.4ポイント高くなっている。(図5-11)

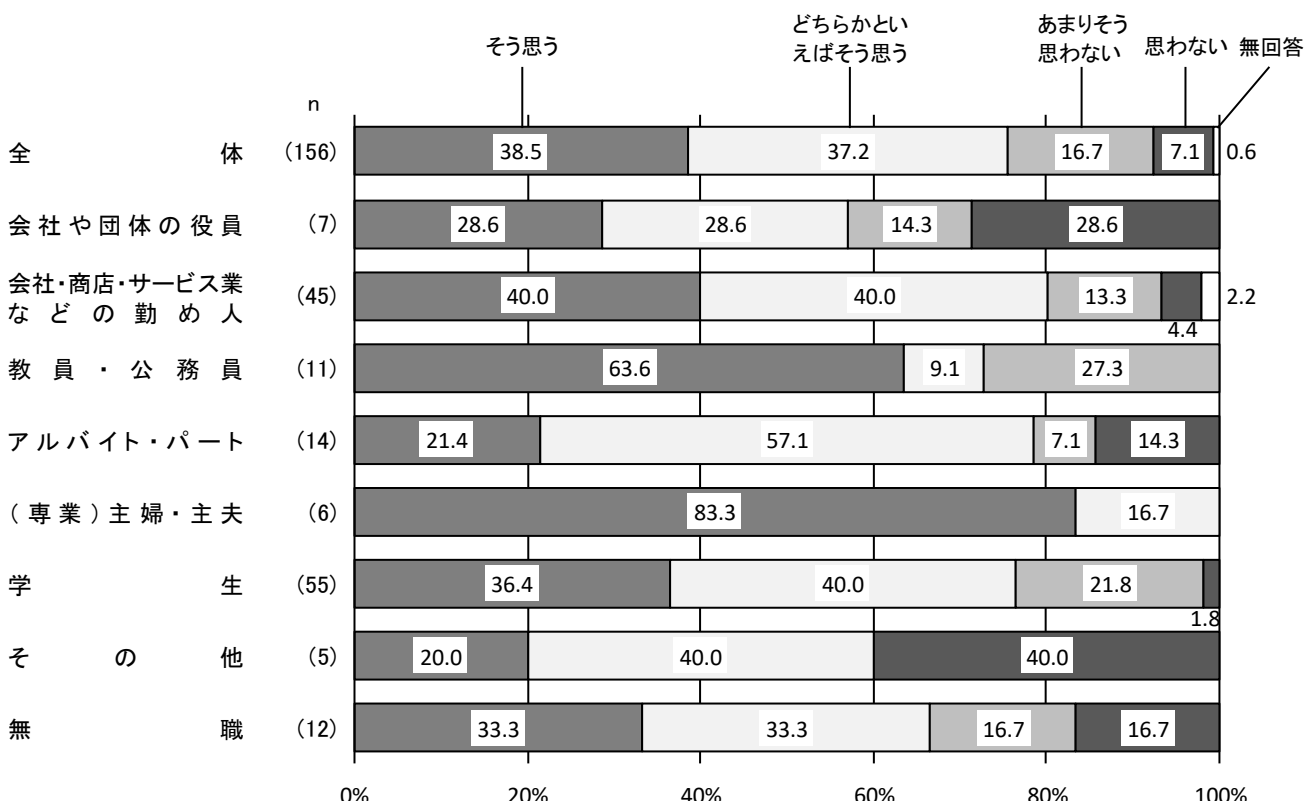
図5-12 若者の居場所になっているか(カ)インターネット空間
(SNS、YouTubeやオンラインゲームなど) - 性別



性別にみると、《思わない》は、女性(26.8%)が男性(18.7%)より8.1ポイント高くなっている。

(図5-12)

図5-13 若者の居場所になっているか(カ)インターネット空間
(SNS、YouTubeやオンラインゲームなど) - 職業別



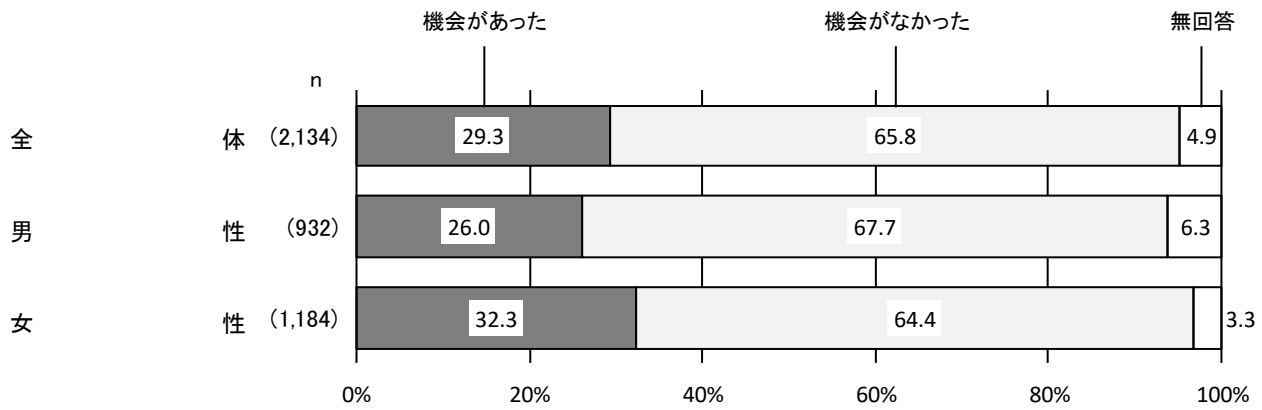
※農・林・漁業、自営業、自由業はn=0につきグラフから省略した。

職業別にみると、《思わない》は、学生(23.6%)が会社・商店・サービス業などの勤め人(17.7%)より5.9ポイント高くなっている。(図5-13)

(6) 子どもと触れ合う機会の有無

問6 あなたは、この1年間に、地域の子どもに触れ合う機会がありましたか。(○は1つだけ)

図6-1 子どもと触れ合う機会の有無 - 全体、性別

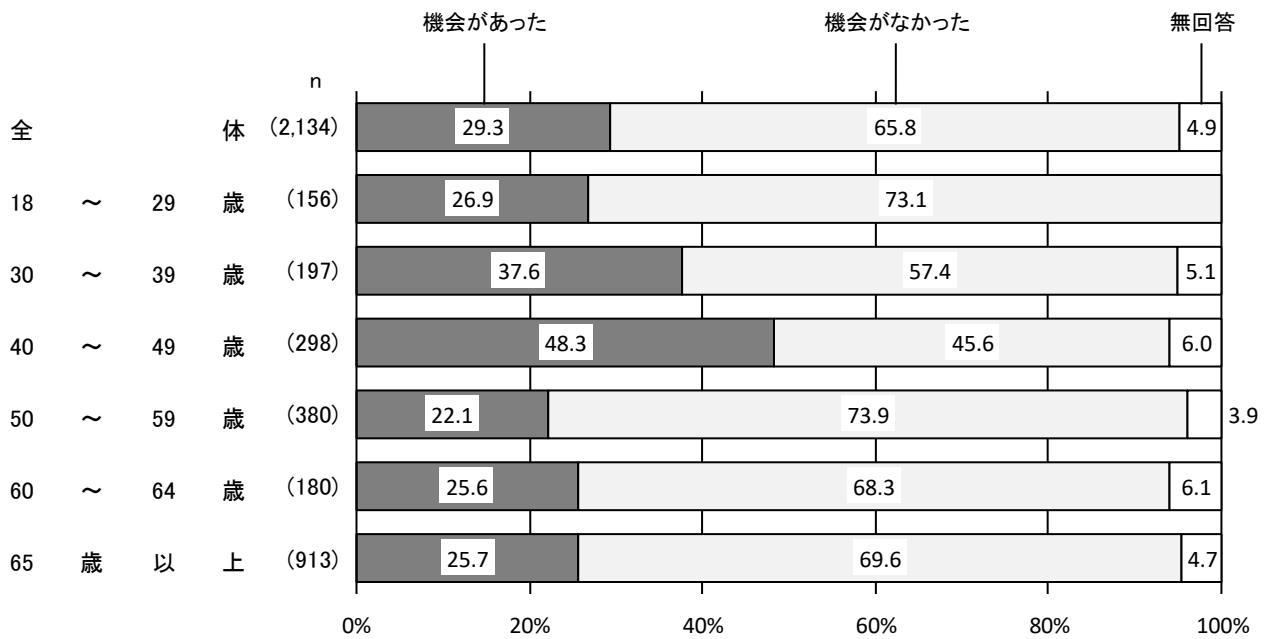


地域の子どもに触れ合う機会があるか聞いたところ、「機会がなかった」(65.8%)は、6割台半ばとなっている。一方、「機会があった」(29.3%)は、3割弱となっている。

性別にみると、「機会があった」は、女性(32.3%)が男性(26.0%)より6.3ポイント高くなっている。

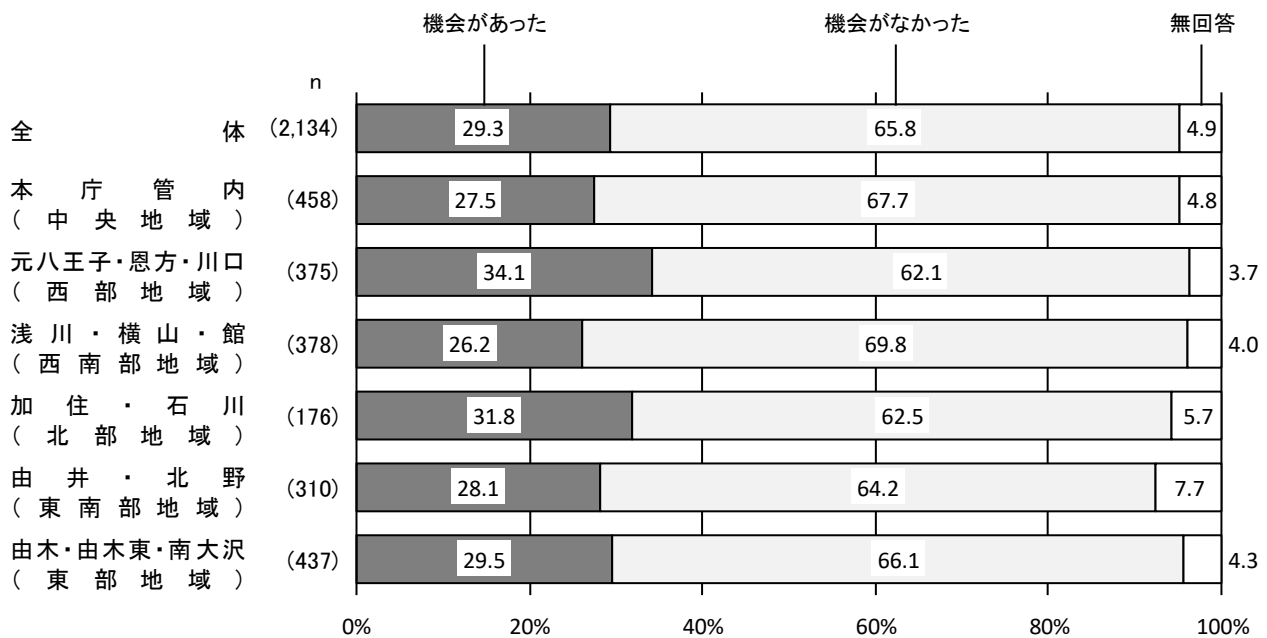
(図6-1)

図6-2 子どもと触れ合う機会の有無 - 年齢別



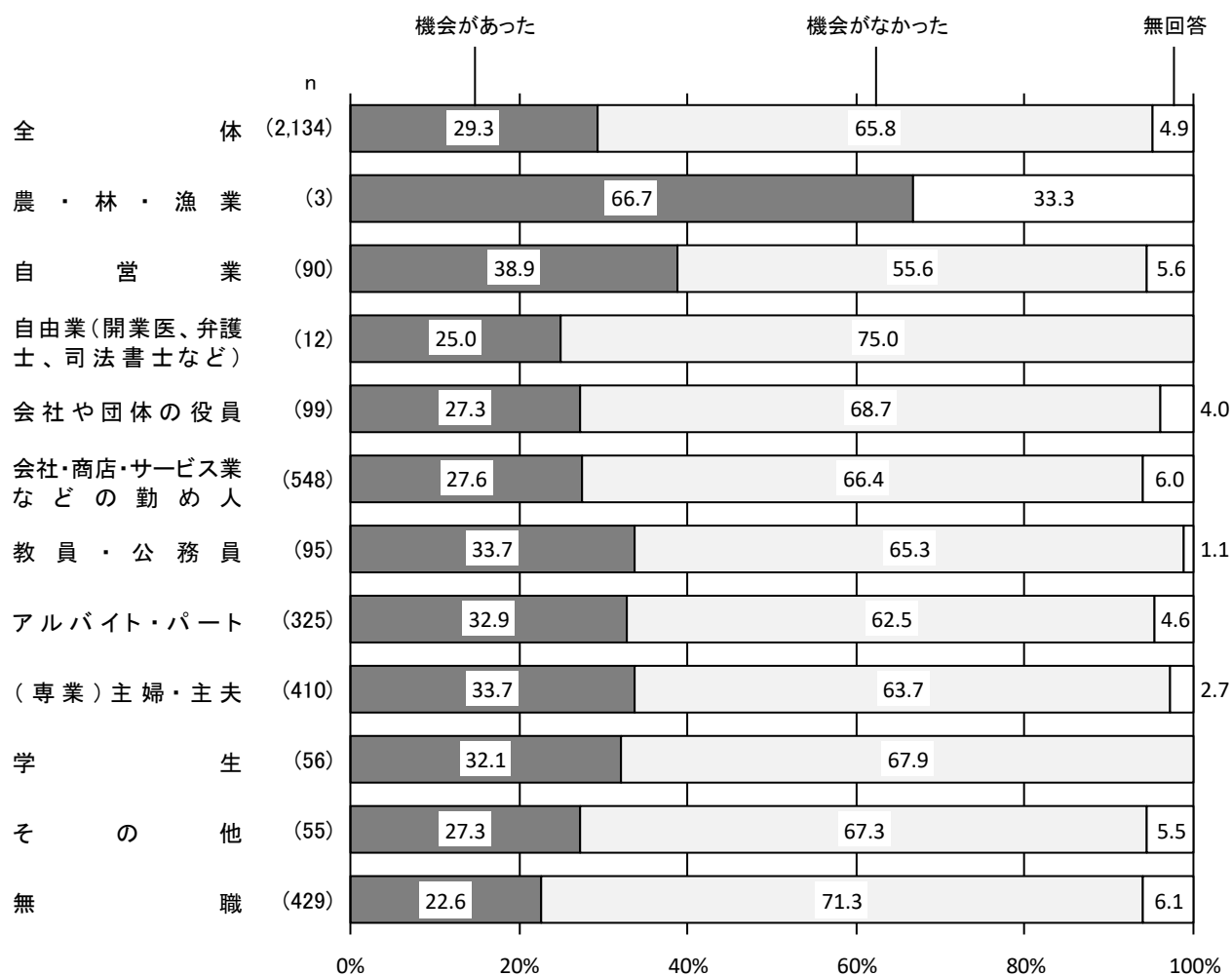
年齢別にみると、「機会があった」は、40～49歳（48.3%）が5割近く、30～39歳（37.6%）が4割近くと高くなっている。「機会がなかった」は、50～59歳（73.9%）、16～29歳（73.1%）がそれぞれ7割強と高くなっている。（図6-2）

図6-3 子どもと触れ合う機会の有無 - 居住地域別



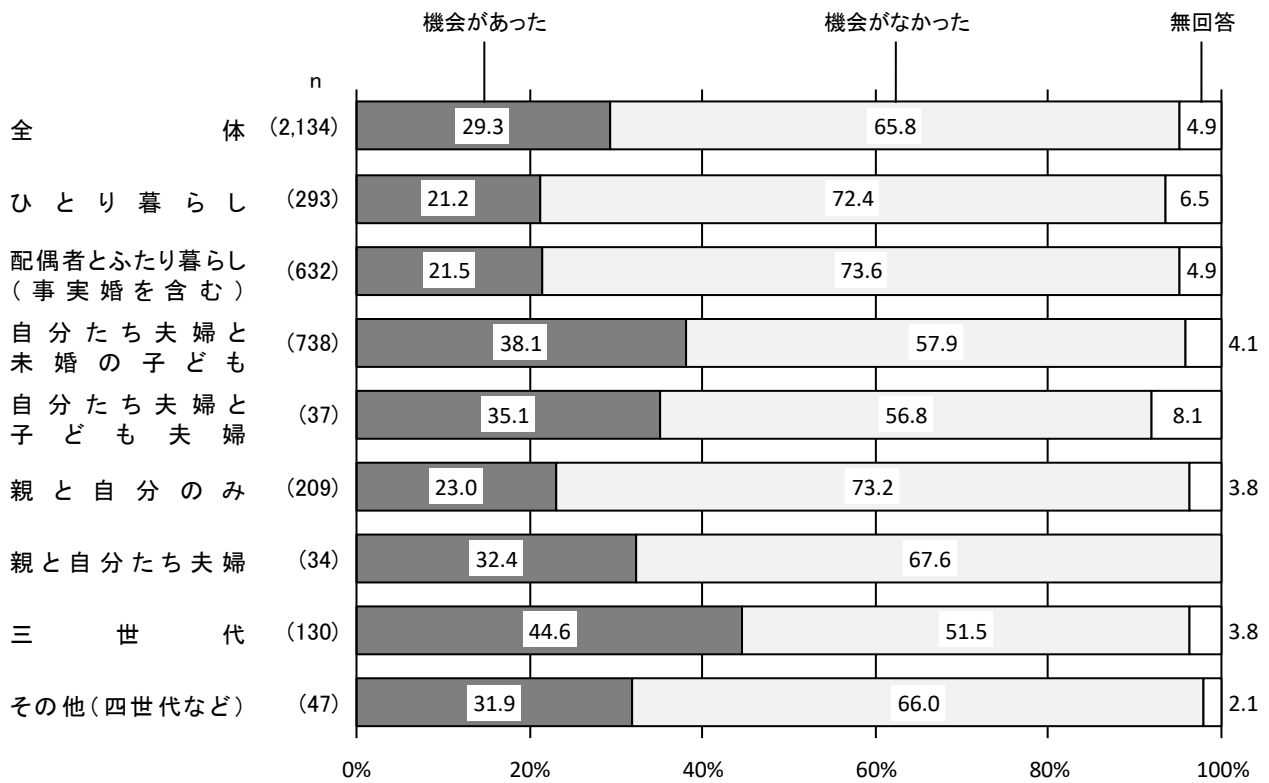
居住地域別にみると、大きな傾向の違いは見られない。（図6-3）

図6-4 子どもと触れ合う機会の有無 - 職業別



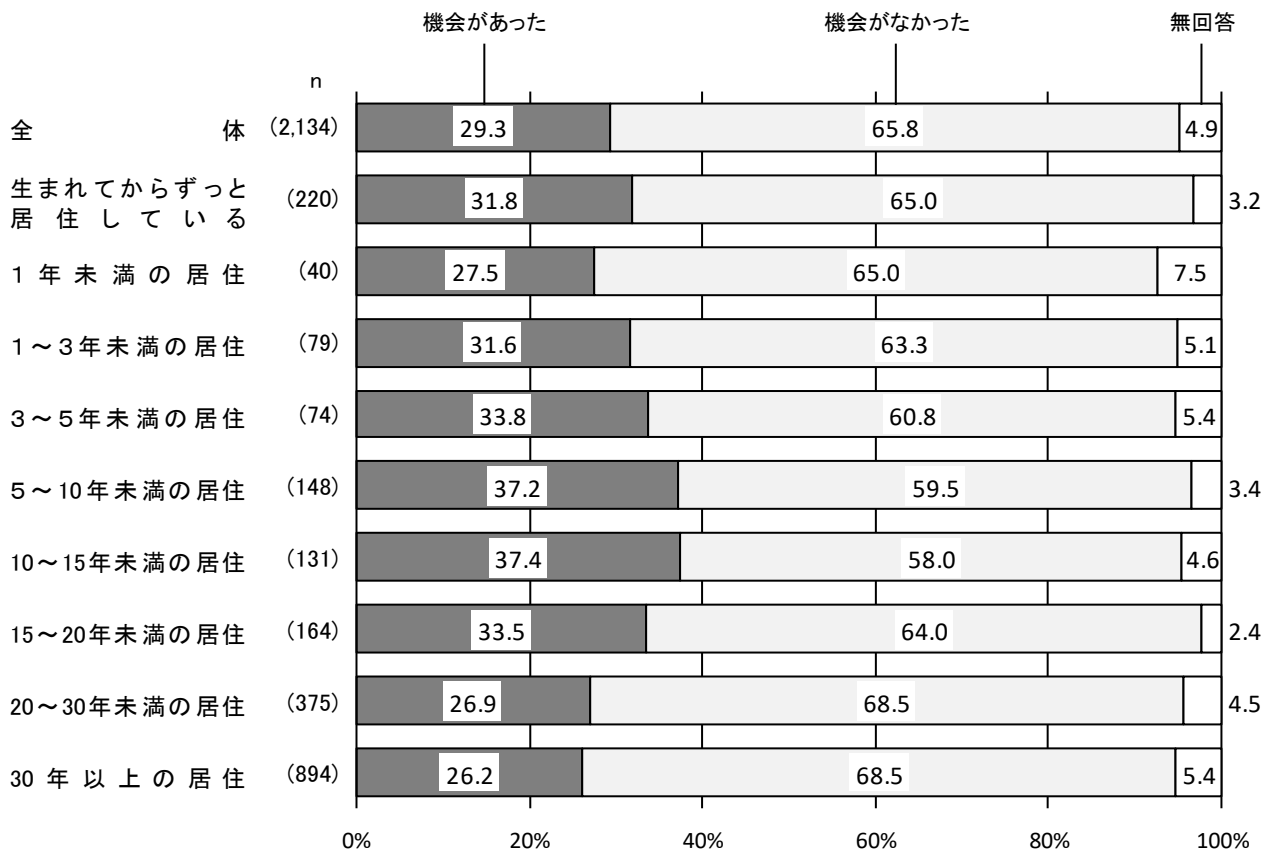
職業別にみると、「機会があった」は、自営業 (38.9%) が4割近くと高くなっている。「機会がなかった」は、無職 (71.3%) が7割強と高くなっている。(図6-4)

図6-5 子どもと触れ合う機会の有無 - 世帯構成別



世帯構成別にみると、「機会があった」は、三世代（44.6%）が4割台半ば、自分たち夫婦と未婚の子ども（38.1%）が4割近く、自分たち夫婦と子ども夫婦（35.1%）が3割台半ばと高くなっている。「機会がなかった」は、配偶者とふたり暮らし（事実婚を含む）（73.6%）、親と自分のみ（73.2%）、ひとり暮らし（72.4%）がそれぞれ7割強と高くなっている。（図6-5）

図6-6 子どもと触れ合う機会の有無 - 居住年数別

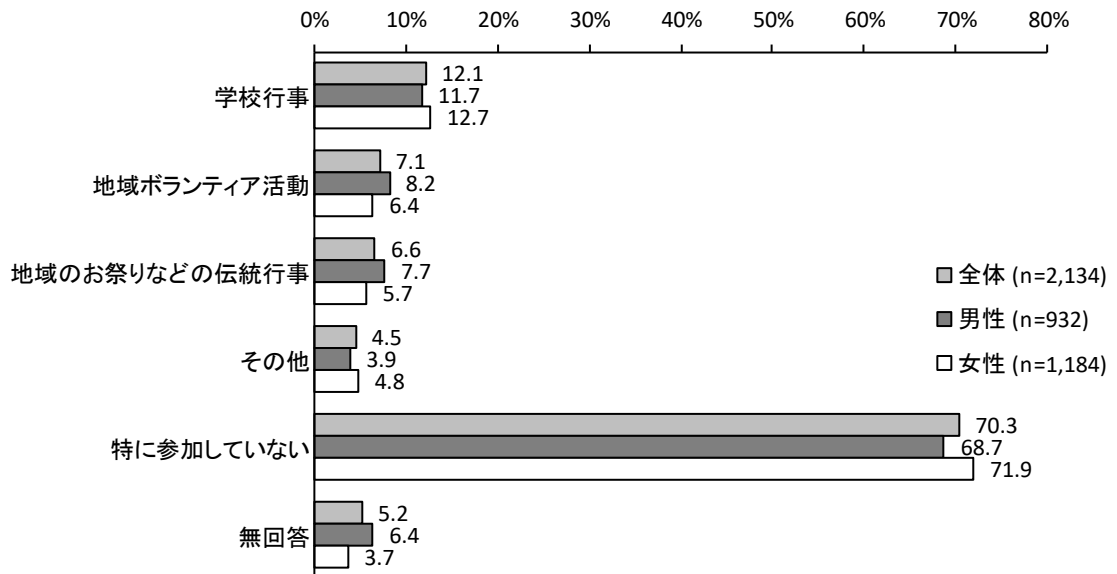


居住年数別にみると、「機会があった」は、10～15年未満の居住（37.4%）、5～10年未満の居住（37.2%）がそれぞれ4割近くと高くなっている。（図6-6）

(7) 子どもや保護者とともに行う活動への参加状況

問7 あなたは、この1年間に、子どもやその保護者とともに行う次のような活動に参加しましたか。
(〇はいくつでも)

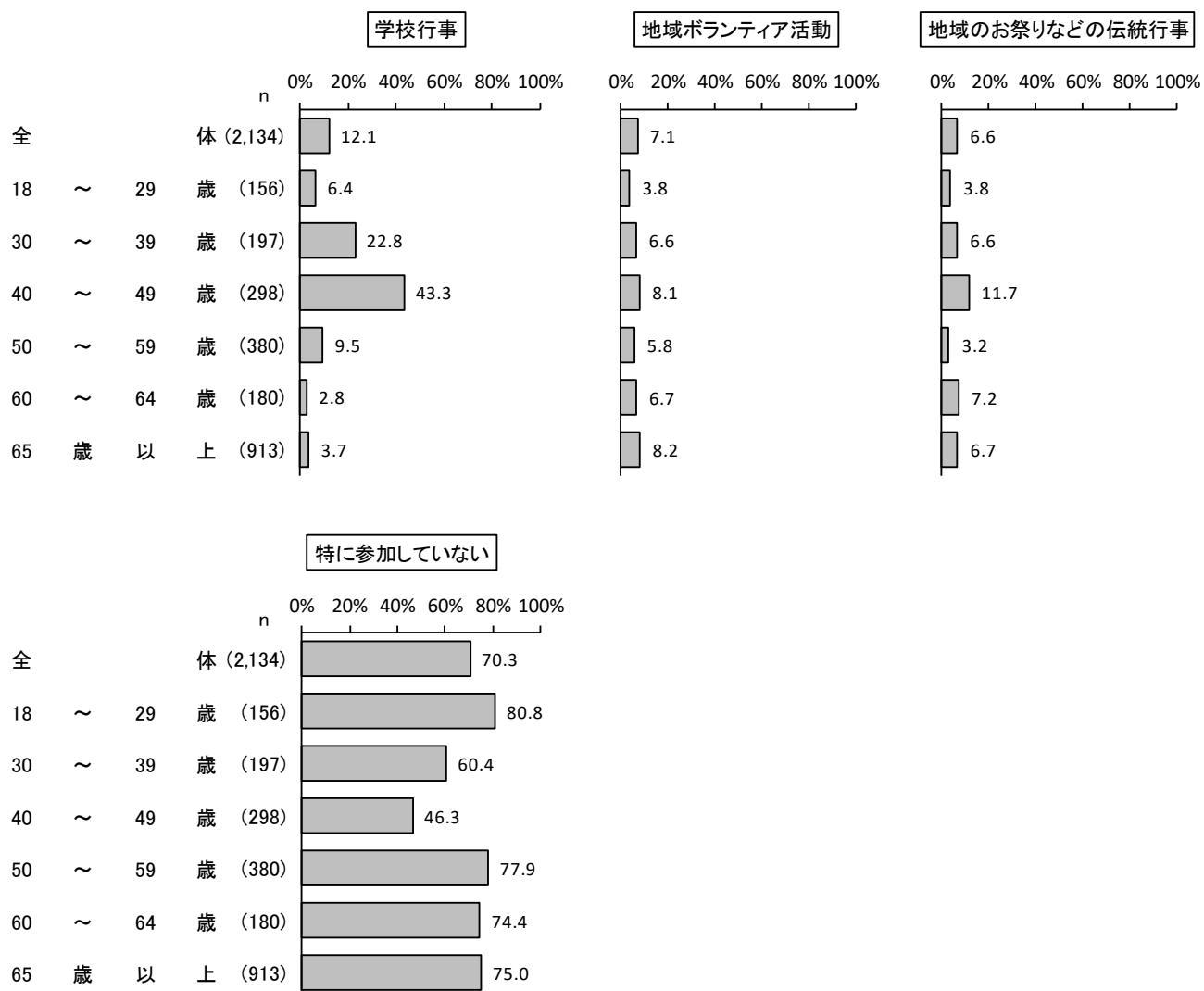
図7-1 子どもや保護者とともに行う活動への参加状況 — 全体、性別



子どもやその保護者とともに行う活動への参加について聞いたところ、「特に参加していない」(70.3%)が約7割と最も高くなっている。行事への参加については、「学校行事」(12.1%)、「地域ボランティア活動」(7.1%)、「地域のお祭りなどの伝統行事」(6.6%)の順となっている。

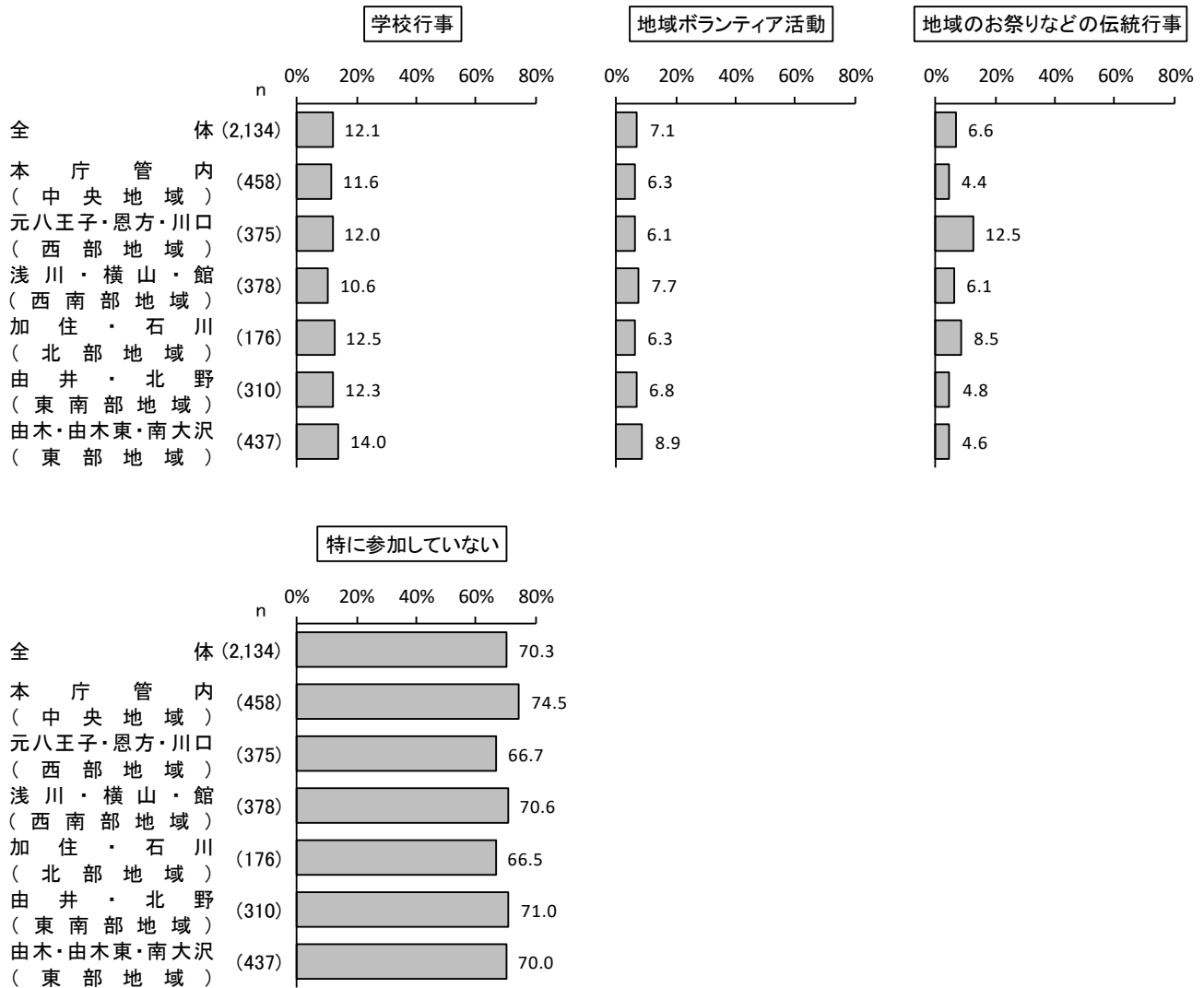
性別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図7-1)

図7-2 子どもや保護者とともに行う活動への参加状況 — 年齢別



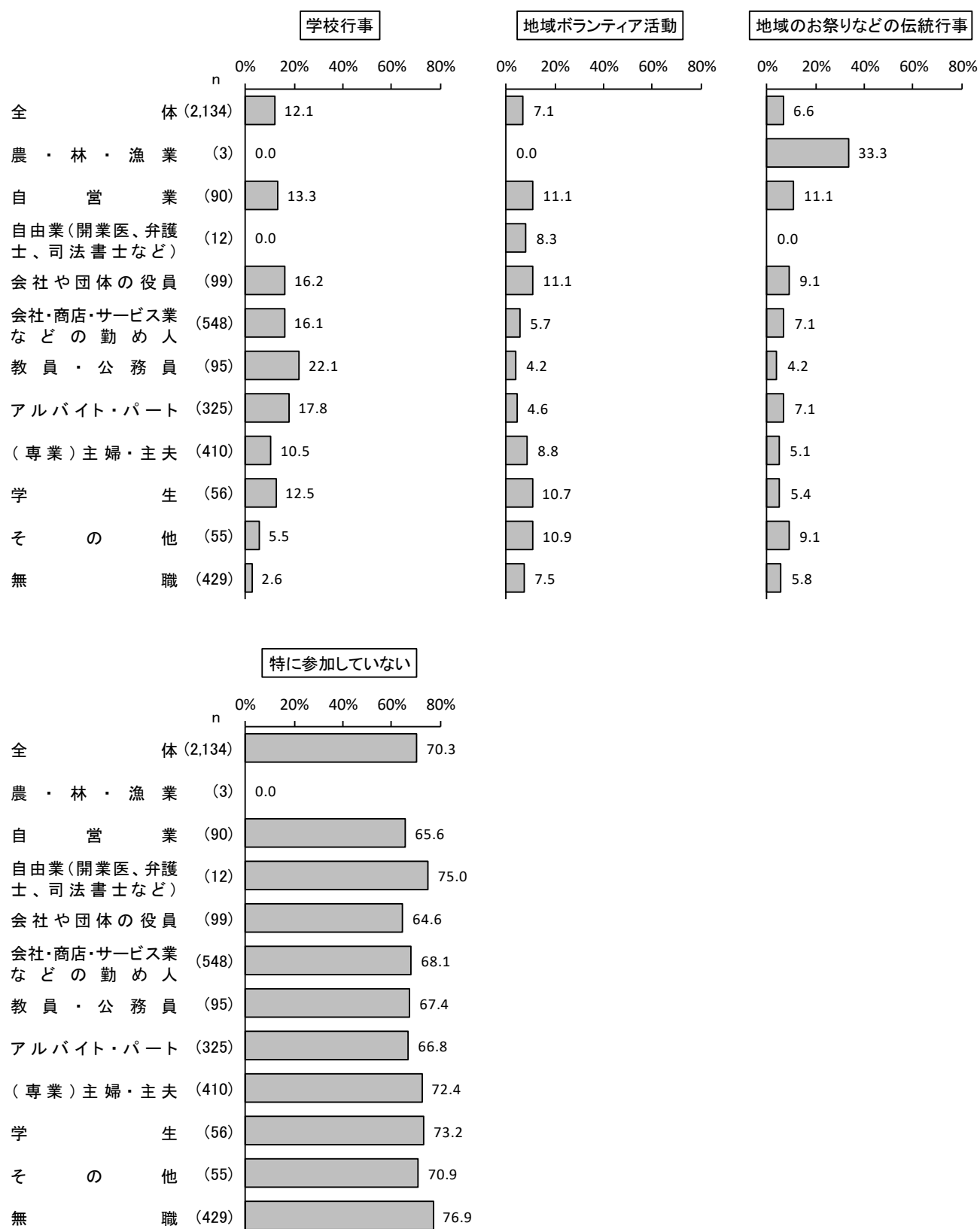
年齢別にみると、「学校行事」は、40～49歳（43.3%）が4割強、30～39歳（22.8%）が2割強と高くなっている。「地域のお祭りなどの伝統行事」は、40～49歳（11.7%）が1割強と高くなっている。「特に参加していない」は、18～29歳（80.8%）が約8割、50～59歳（77.9%）が8割近くと高くなっている。（図7-2）

図7-3 子どもや保護者とともに行う活動への参加状況 — 居住地域別



居住地域別にみると、「地域のお祭りなどの伝統行事」は、元八王子・恩方・川口（西部地域）（12.5%）が1割強と高くなっている。（図7-3）

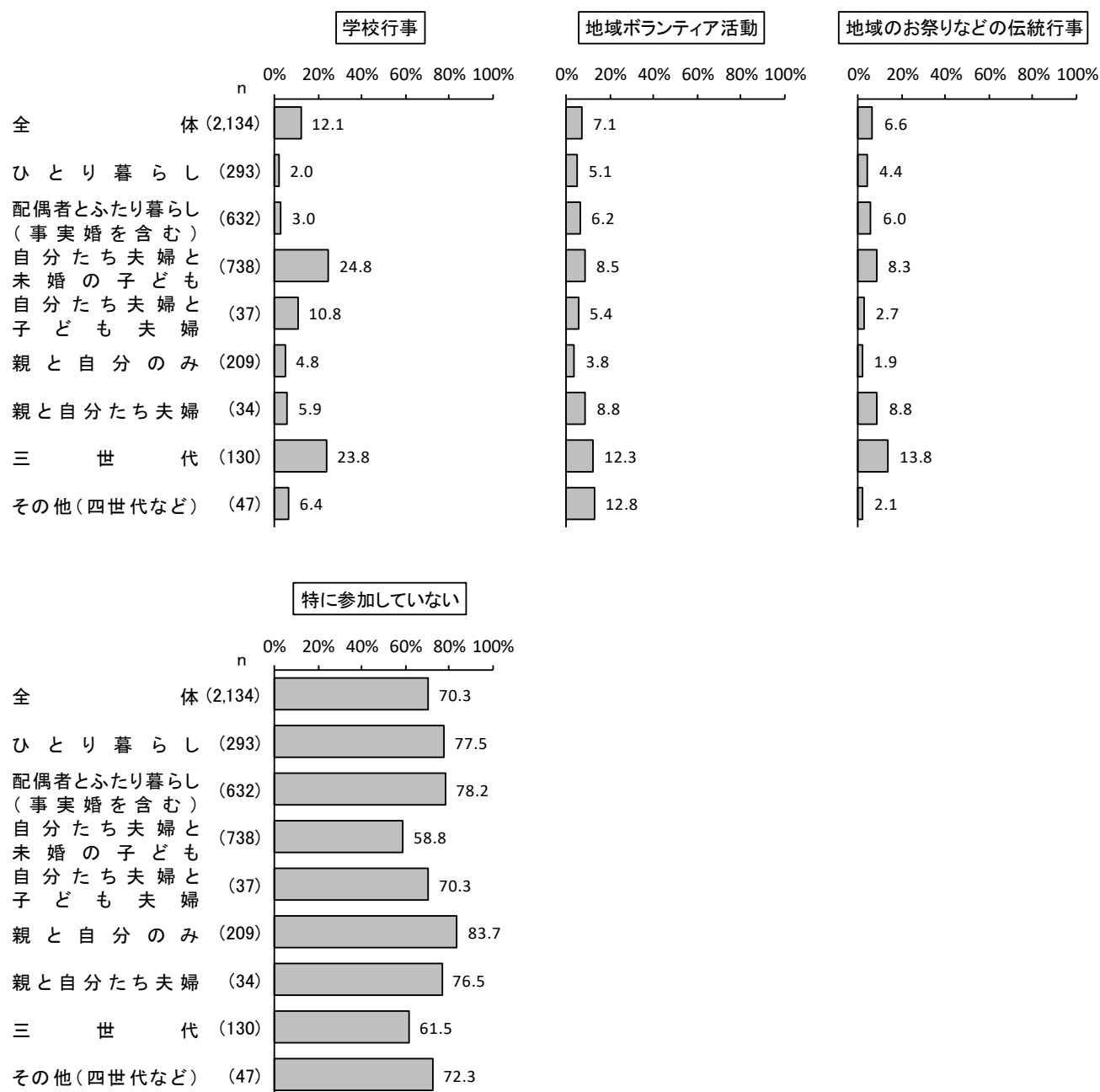
図7-4 子どもや保護者とともに行う活動への参加状況 — 職業別



職業別にみると、「学校行事」は、教員・公務員（22.1%）が2割強、アルバイト・パート（17.8%）が2割近くと高くなっている。「特に参加していない」は、無職（76.9%）が8割近くと高くなっている。

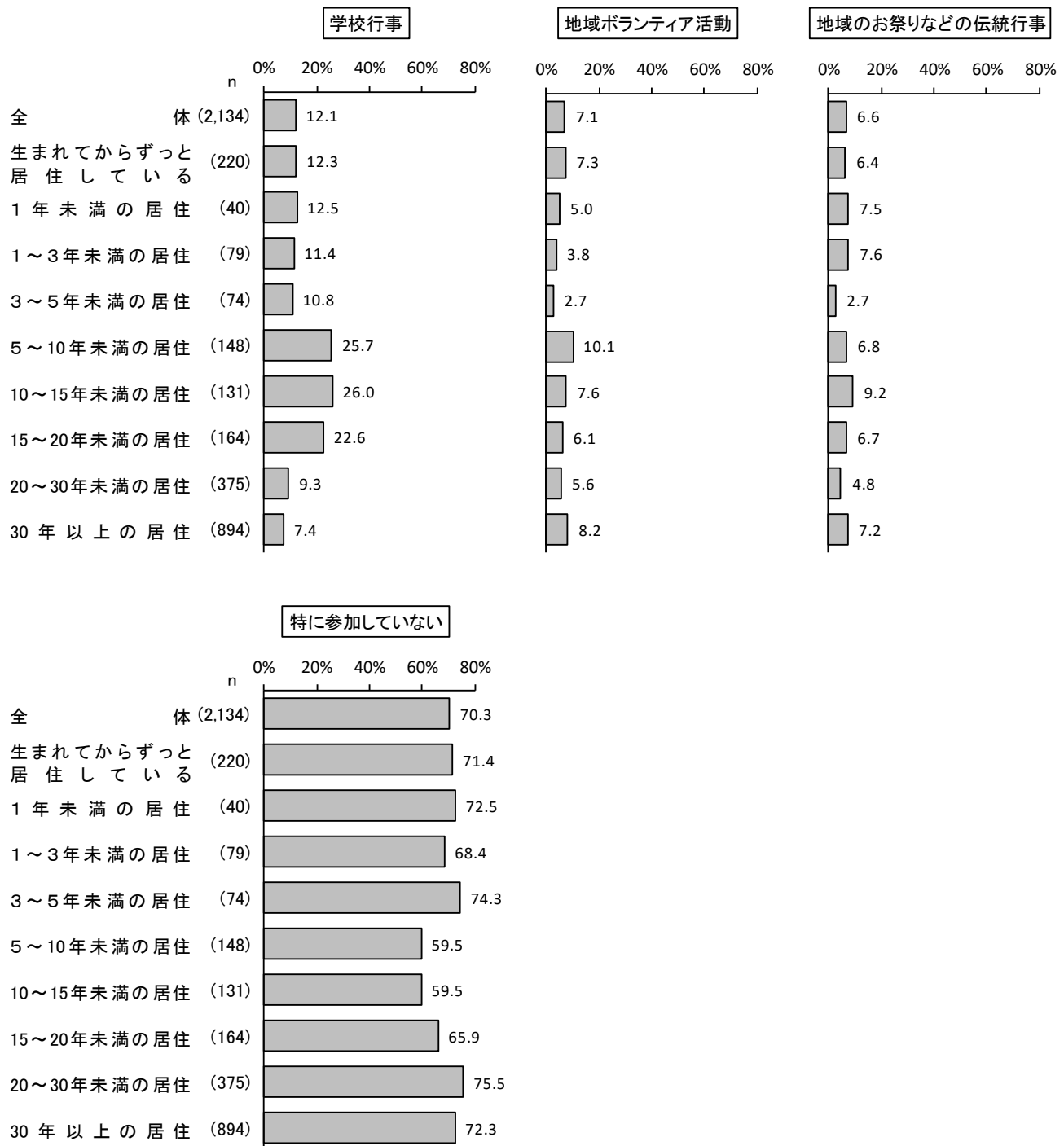
(図7-4)

図7-5 子どもや保護者とともに行動への参加状況 — 世帯構成別



世帯構成別にみると、「学校行事」は、自分たち夫婦と未婚の子ども(24.8%)が2割台半ば、三世代(23.8%)が2割強と高くなっている。「地域ボランティア活動」は、その他(四世代など)(12.8%)、三世代(12.3%)がそれぞれ1割強と高くなっている。「地域のお祭りなどの伝統行事」は、三世代(13.8%)が1割強と高くなっている。「特に参加していない」は、親と自分のみ(83.7%)が8割強、配偶者とふたり暮らし(事実婚を含む)(78.2%)、ひとり暮らし(77.5%)、親と自分たち夫婦(76.5%)がそれぞれ8割近くと高くなっている。(図7-5)

図7-6 子どもや保護者とともに行う活動への参加状況 — 居住年数別

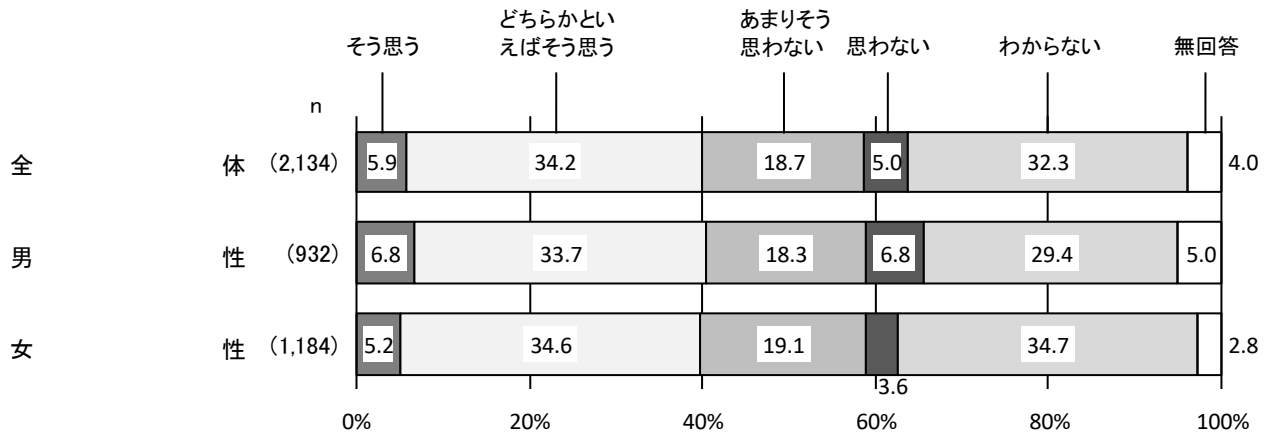


居住年数別にみると、「学校行事」は、10～15年未満の居住(26.0%)が3割近く、5～10年未満の居住(25.7%)が2割台半ば、15～20年未満の居住(22.6%)が2割強と高くなっている。「特に参加していない」は、20～30年未満の居住(75.5%)が7割台半ばと高くなっている。(図7-6)

(8) 生涯学習環境が整っていると思うか

問8 あなたは、八王子市が「誰もが学び、学んだことを活かせる環境が整っているまち」になっていると思いますか。(〇は1つだけ)

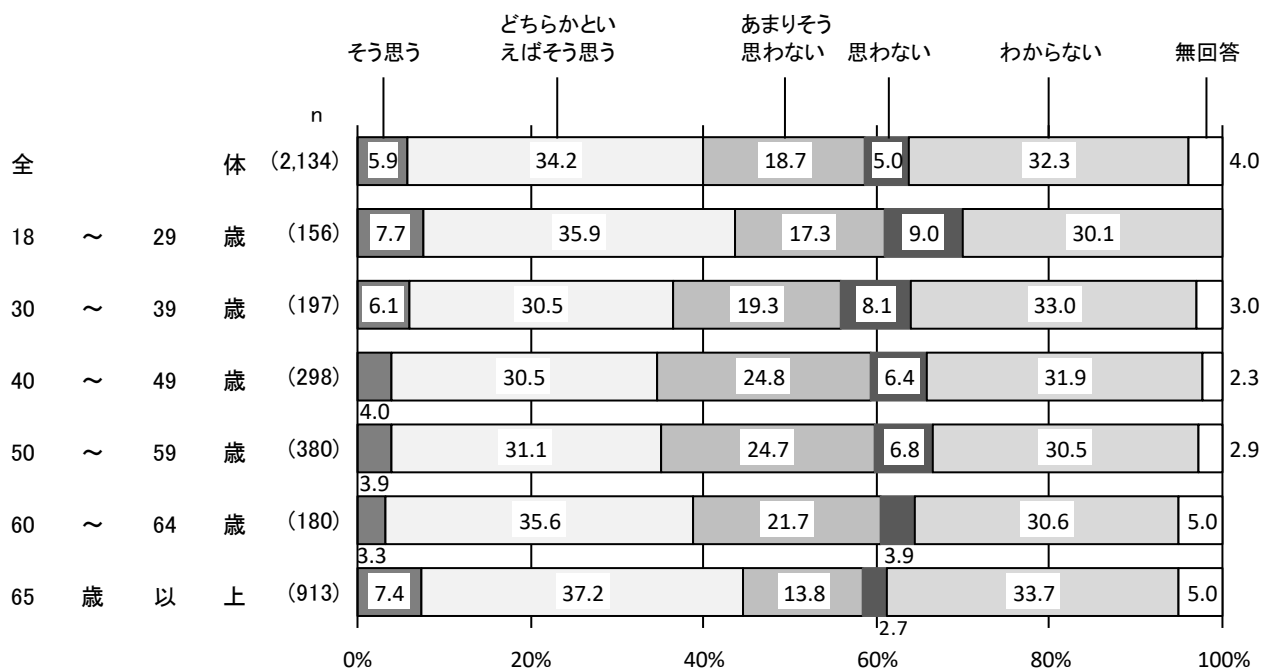
図8-1 生涯学習環境が整っていると思うか - 全体、性別



「誰もが学び、学んだことを活かせる環境が整っているまち」になっていると思うかを聞いたところ、「そう思う」(5.9%)と「どちらかといえばそう思う」(34.2%)を合わせた《思う》(40.1%)は、約4割となっている。一方、「あまりそう思わない」(18.7%)と「思わない」(5.0%)を合わせた《思わない》(23.7%)は、2割強となっている。

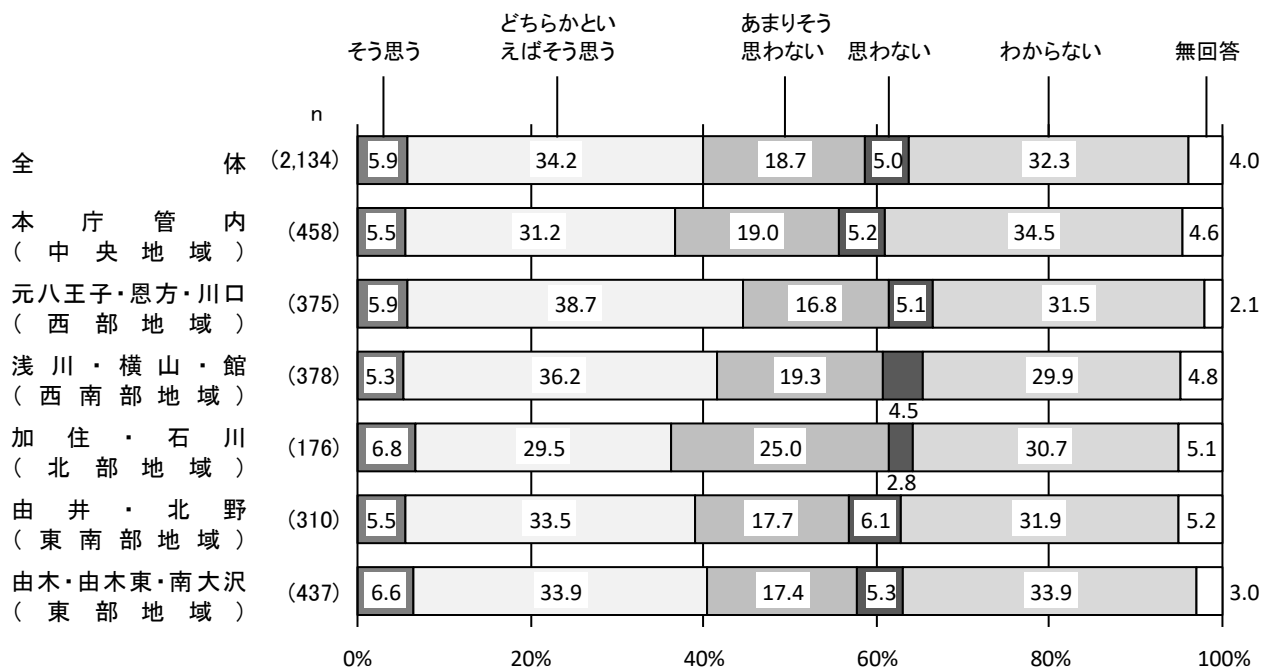
性別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図8-1)

図8-2 生涯学習環境が整っていると思うか - 年齢別



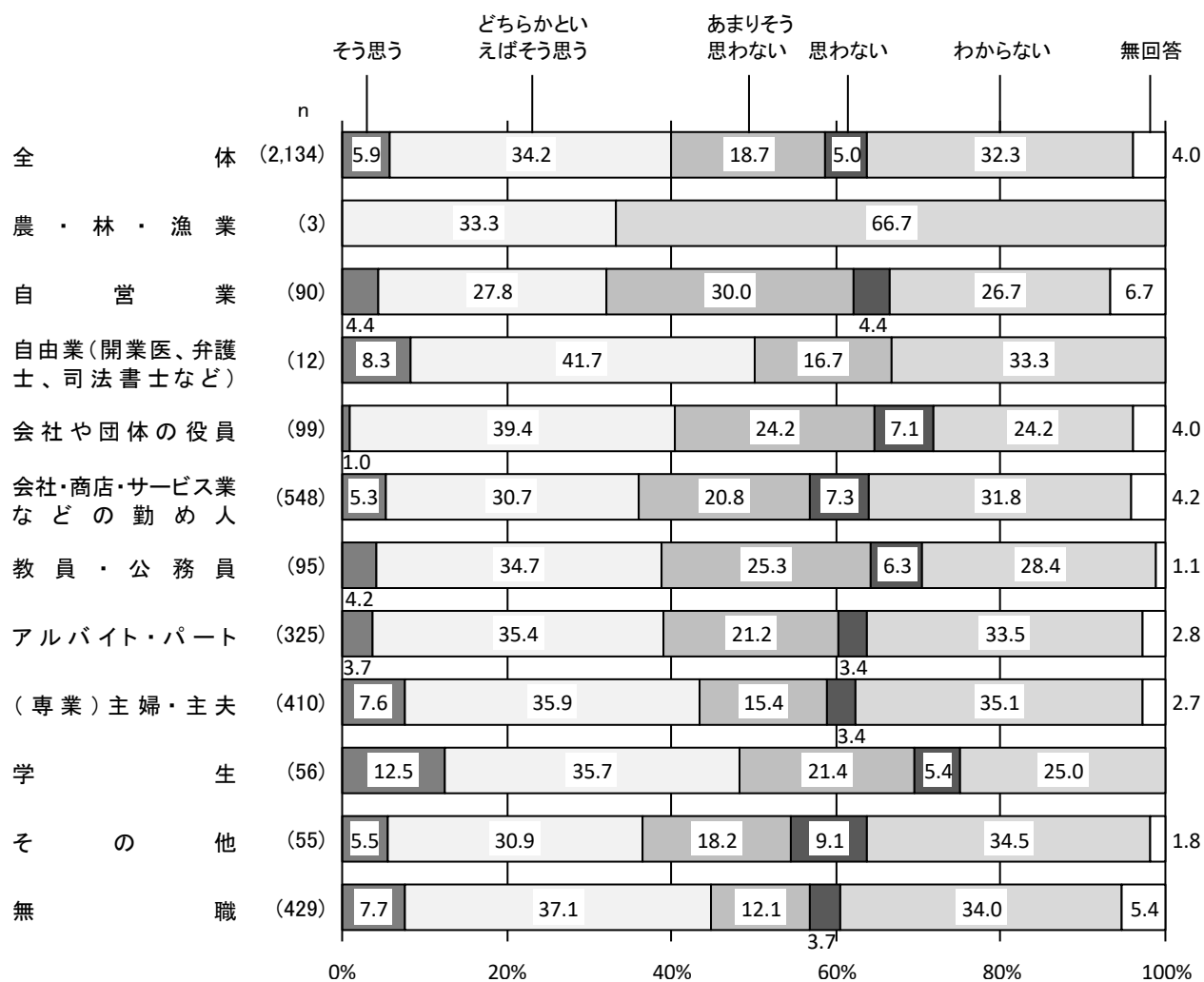
年齢別にみると、「思わない」は、50～59歳（31.5%）、40～49歳（31.2%）がそれぞれ3割強と高くなっている。（図8-2）

図8-3 生涯学習環境が整っていると思うか - 居住地域別



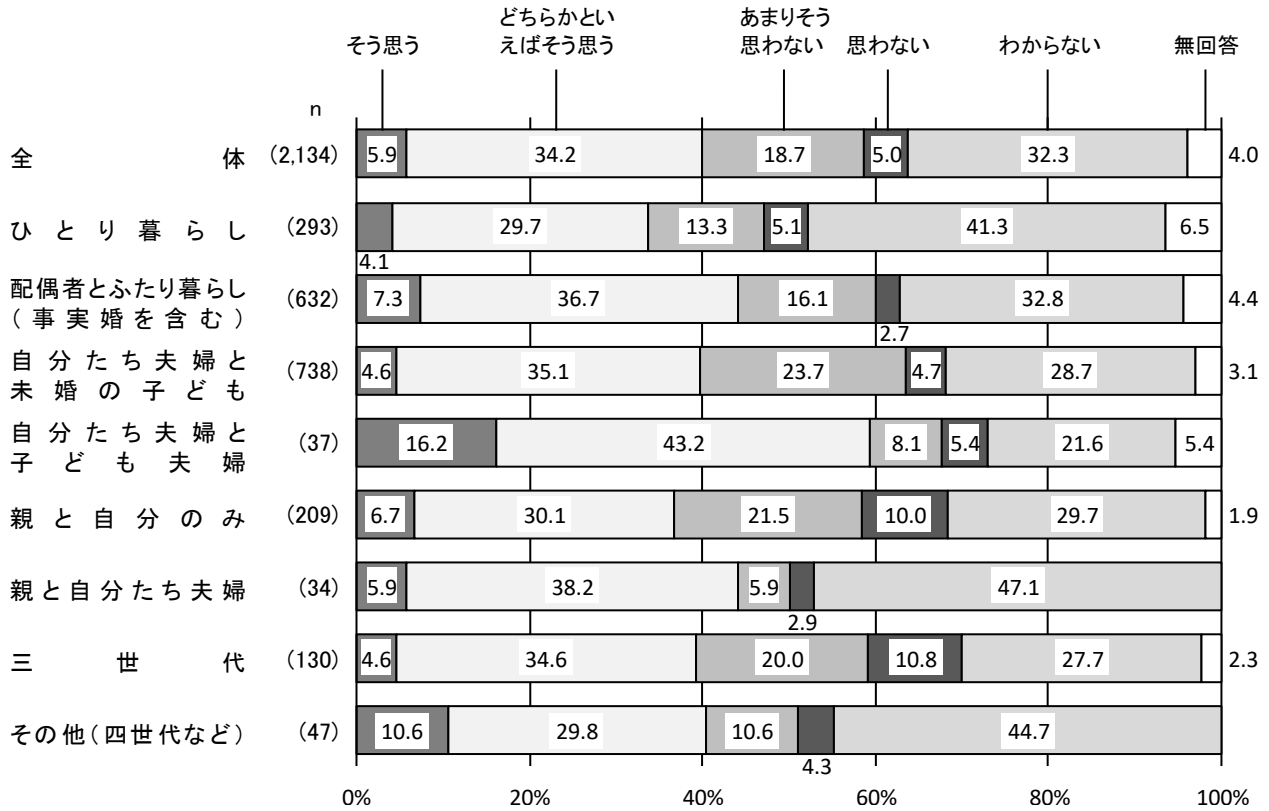
居住地域別にみると、「思う」と「思わない」では大きな傾向の違いは見られない。「あまりそう思わない」は、加住・石川（北部地域）（25.0%）が2割台半ばと高くなっている。（図8-3）

図8-4 生涯学習環境が整っていると思うか - 職業別



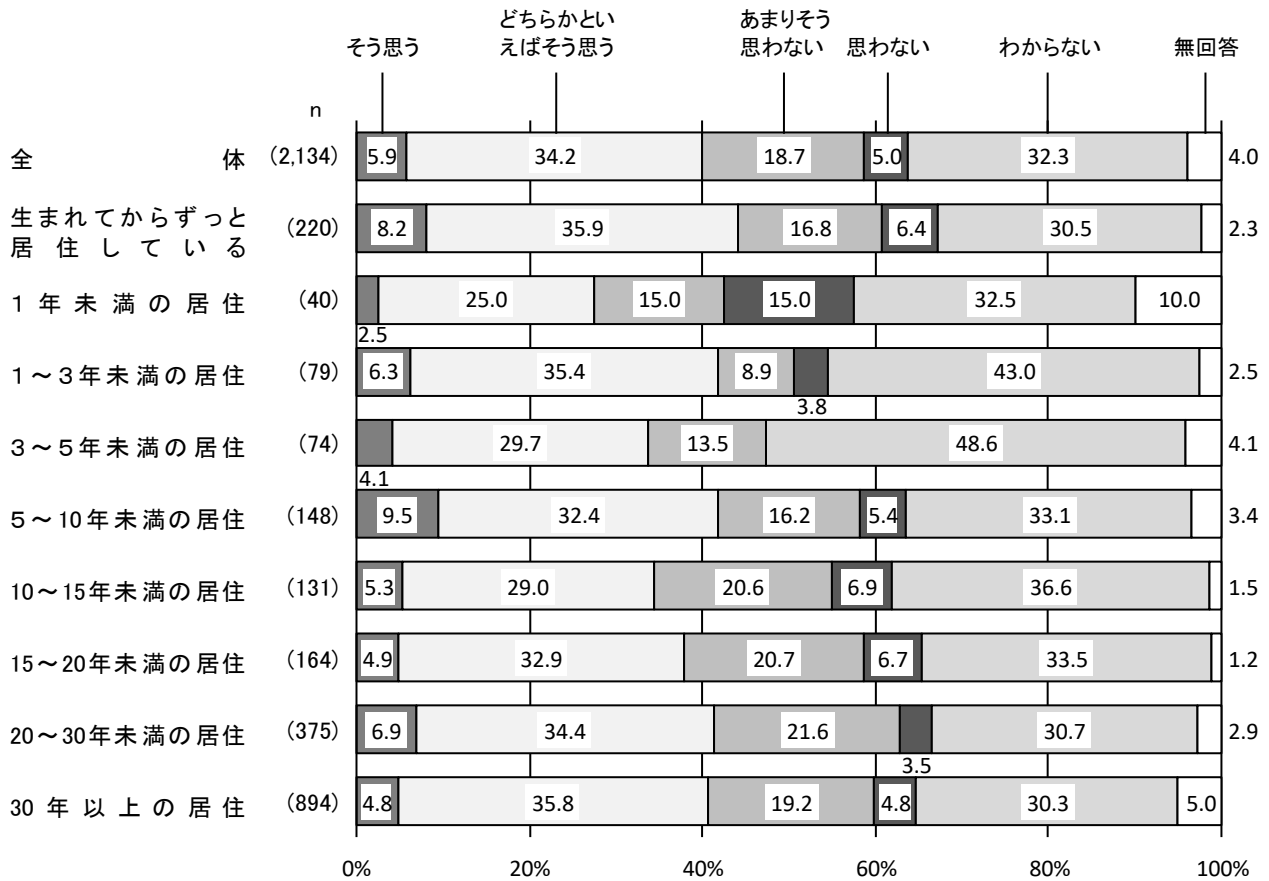
職業別にみると、「思う」は、学生(48.2%)が5割近くと高くなっている。「思わない」は、自営業(34.4%)が3割台半ば、教員・公務員(31.6%)、会社や団体の役員(31.3%)がそれぞれ3割強と高くなっている。
(図8-4)

図8-5 生涯学習環境が整っていると思うか - 世帯構成別



世帯構成別にみると、「思う」は、自分たち夫婦と子ども夫婦（59.4%）が6割弱と高くなっている。「思わない」は、親と自分のみ（31.5%）が3割強、三世代（30.8%）が約3割と高くなっている。（図8-5）

図8-6 生涯学習環境が整っていると思うか - 居住年数別



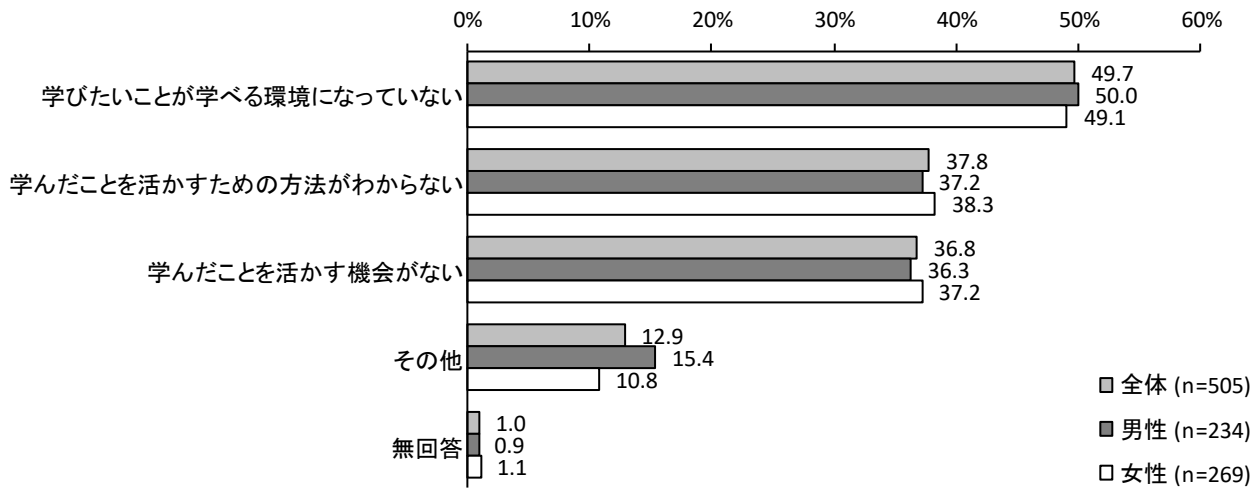
居住年数別にみると、「思わない」は、1年未満の居住（30.0%）が3割と高くなっている。（図8-6）

(9) 生涯学習環境が整っていないと思う理由

(問8で、「3 あまりそう思わない」または「4 思わない」とお答えの方へ)

問8-1 その理由を以下から選択してください。(〇はいくつでも)

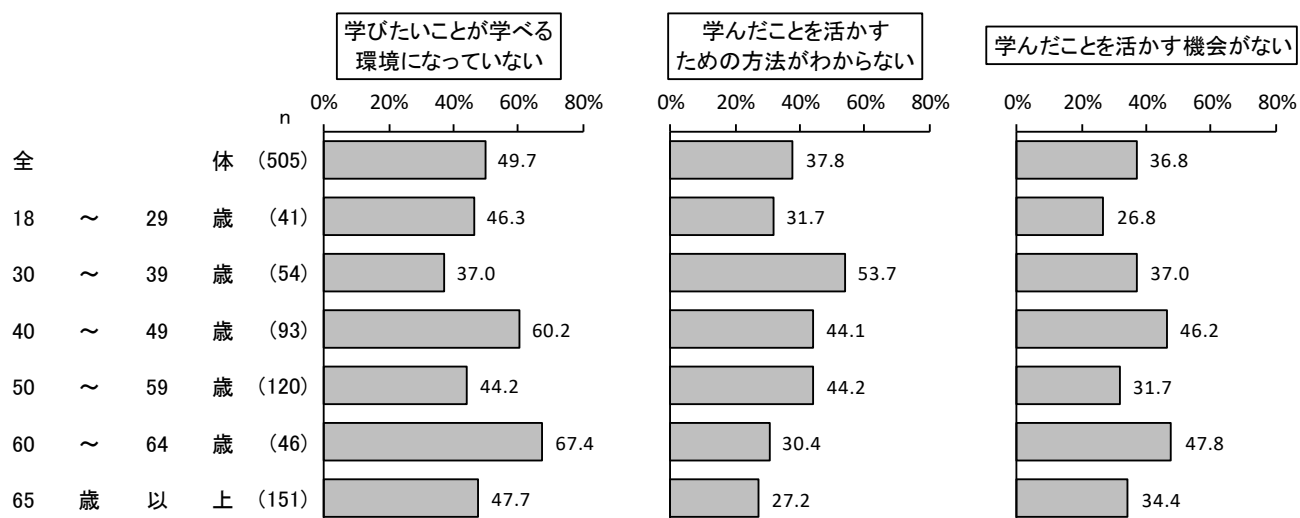
図9-1 生涯学習環境が整っていないと思う理由 - 全体、性別



「誰もが学び、学んだことを活かせる環境が整っているまち」になっていると思わない理由について聞いたところ、「学びたいことが学べる環境になっていない」(49.7%)が5割弱と最も高くなっている。次いで、「学んだことを活かすための方法がわからない」(37.8%)、「学んだことを活かす機会がない」(36.8%)の順となっている。

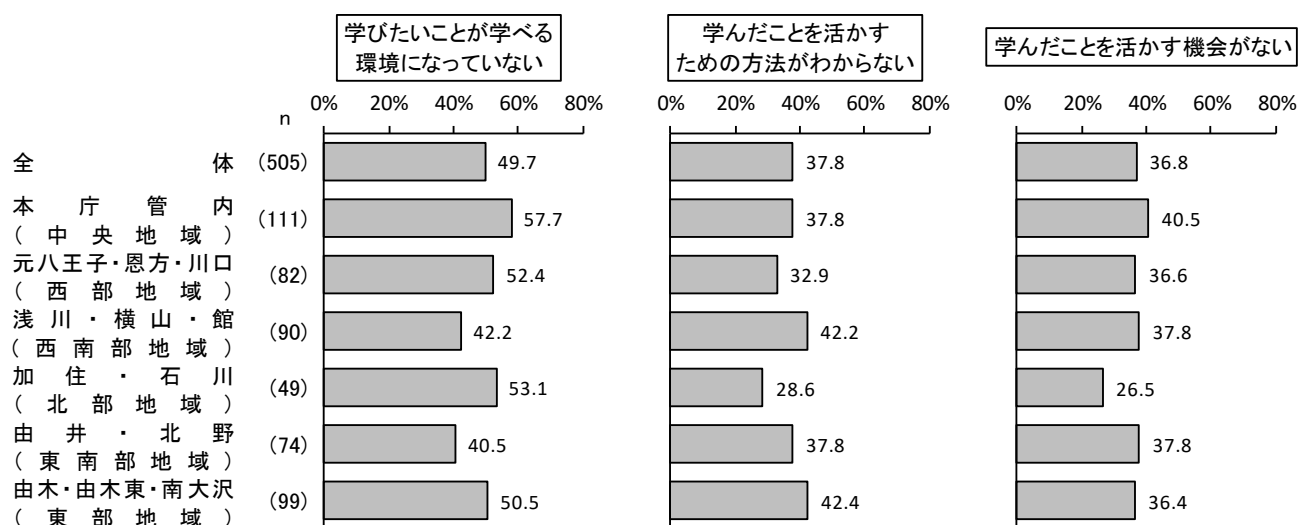
性別にみると、傾向に大きな違いは見られない。(図9-1)

図9-2 生涯学習環境が整っていないと思う理由 - 年齢別



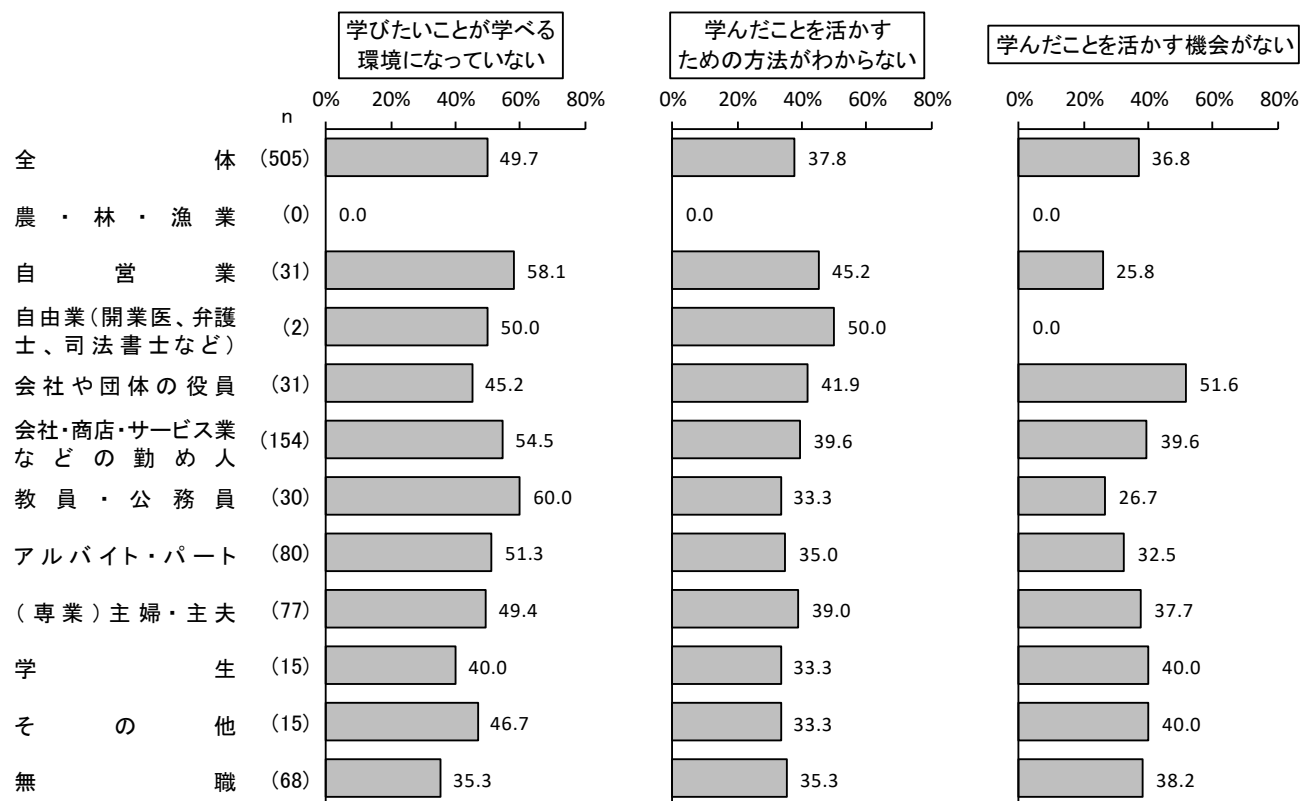
年齢別にみると、「学びたいことが学べる環境になっていない」は、60～64歳（67.4%）が7割近く、40～49歳（60.2%）が約6割と高くなっている。「学んだことを活かすための方法がわからない」は、30～39歳（53.7%）が5割強、50～59歳（44.2%）、40～49歳（44.1%）がそれぞれ4割台半ばと高くなっている。「学んだことを活かす機会がない」は、60～64歳（47.8%）、40～49歳（46.2%）がそれぞれ5割近くと高くなっている。（図9-2）

図9-3 生涯学習環境が整っていないと思う理由 - 居住地域別



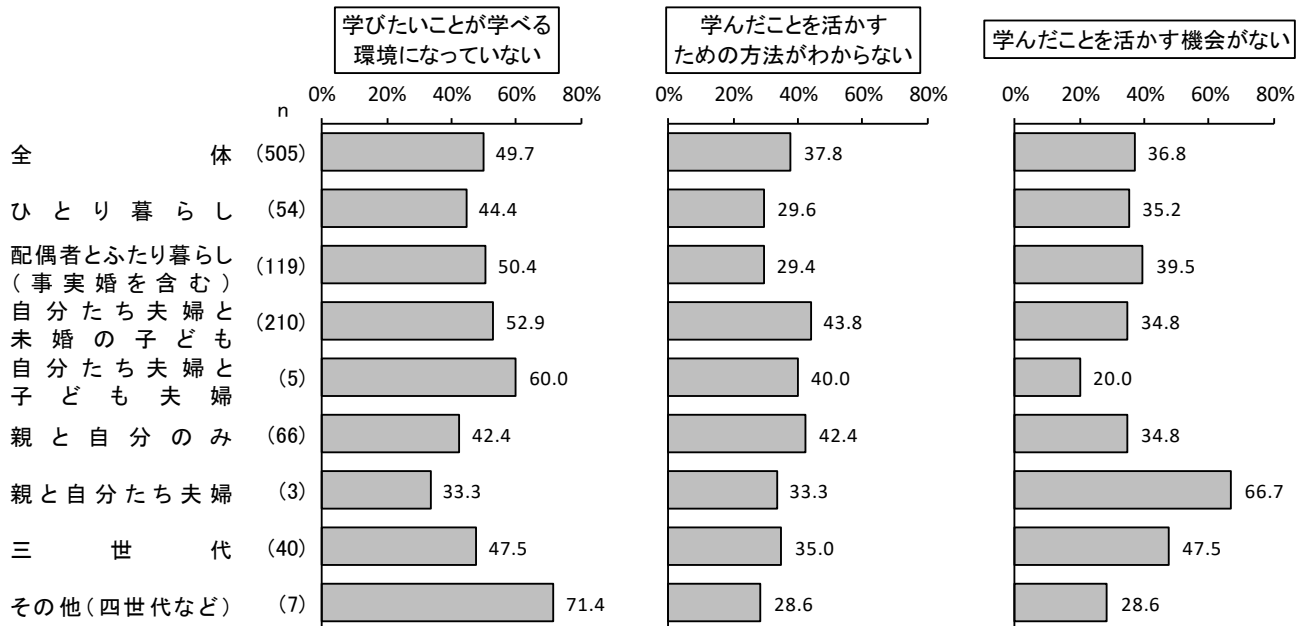
居住地域別にみると、「学びたいことが学べる環境になっていない」は、本庁管内（中央地域）（57.7%）が6割近くと高くなっている。「学んだことを活かすための方法がわからない」は、加住・石川（北部地域）（28.6%）が3割近くと低くなっている。「学んだことを活かす機会がない」は、加住・石川（北部地域）（26.5%）が3割近くと低くなっている。（図9-3）

図9-4 生涯学習環境が整っていないと思う理由 - 職業別



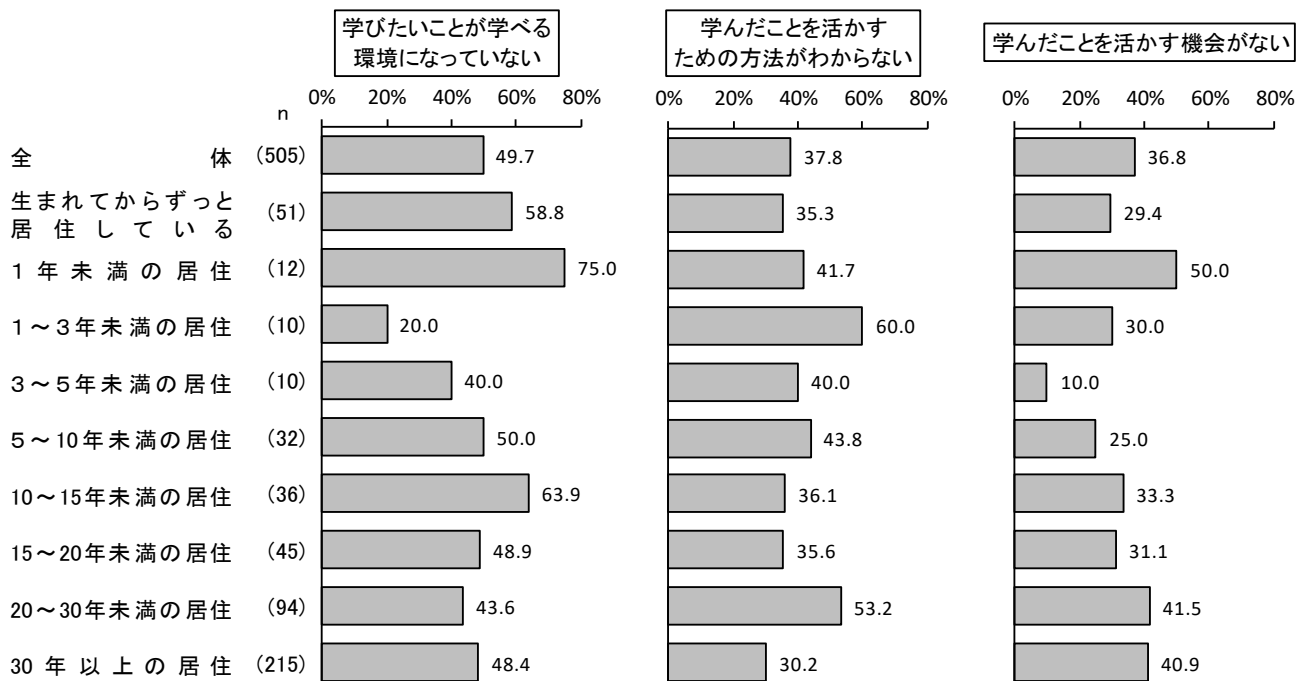
職業別にみると、「学びたいことが学べる環境になっていない」は、教員・公務員(60.0%)が6割、自営業(58.1%)が6割近くと高くなっている。「学んだことを活かすための方法がわからない」は、自営業(45.2%)が4割台半ばと高くなっている。「学んだことを活かす機会がない」は、会社や団体の役員(51.6%)が5割強と高くなっている。(図9-4)

図9-5 生涯学習環境が整っていないと思う理由 - 世帯構成別



世帯構成別にみると、「学びたいことが学べる環境になっていない」は、親と自分のみ（42.4%）が4割強と低くなっている。「学んだことを活かすための方法がわからない」は、自分たち夫婦と未婚の子ども（43.8%）が4割強と高くなっている。「学んだことを活かす機会がない」は、三世代（47.5%）が5割近くと高くなっている。（図9-5）

図9-6 生涯学習環境が整っていないと思う理由 - 居住年数別

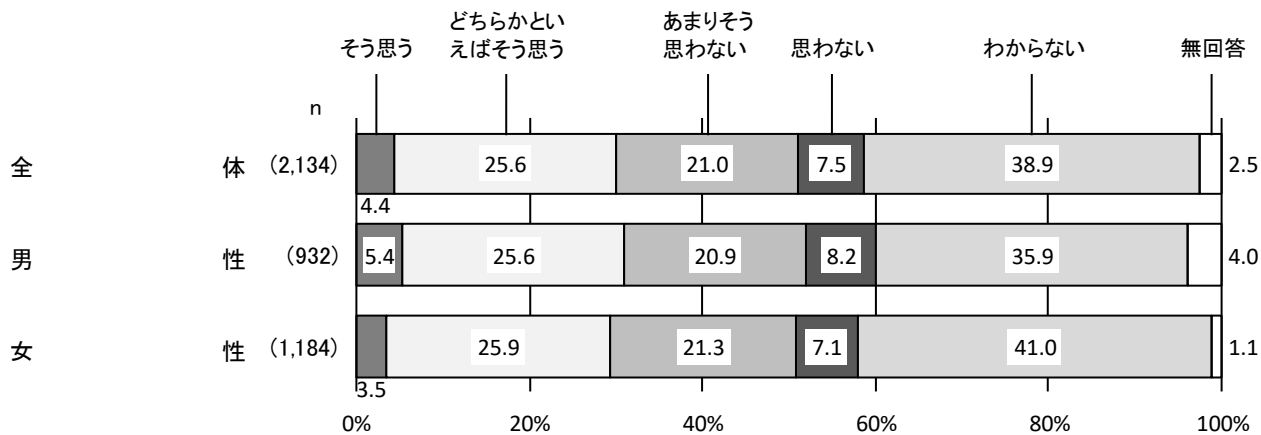


居住年数別にみると、「学びたいことが学べる環境になっていない」は、10～15年未満の居住（63.9%）が6割強、生まれてからずっと居住している（58.8%）が6割近くと高くなっている。「学んだことを活かすための方法がわからない」は、20～30年未満の居住（53.2%）が5割強、5～10年未満の居住（43.8%）が4割強と高くなっている。（図9-6）

(10) 誰もが活躍できる環境が整っていると思うか

問9 あなたは、八王子市が、「年齢、性別、国籍、障害の有無などにかかわらず誰もが活躍できる環境が整っているまち」になっていると思いますか。(〇は1つだけ)

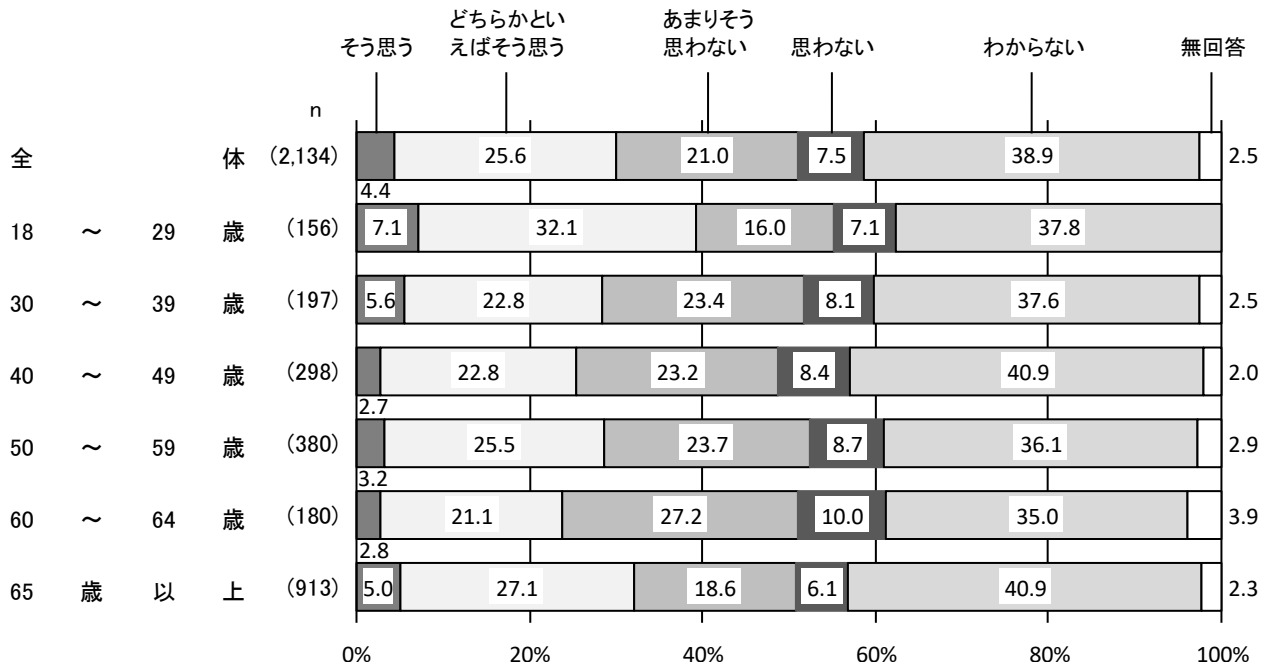
図10-1 誰もが活躍できる環境が整っていると思うか - 全体、性別



「年齢、性別、国籍、障害の有無などにかかわらず誰もが活躍できる環境が整っているまち」になっていると思うかを聞いたところ、「そう思う」(4.4%)と「どちらかといえばそう思う」(25.6%)を合わせた《思う》(30.0%)は、3割となっている。一方、「あまりそう思わない」(21.0%)と「思わない」(7.5%)を合わせた《思わない》(28.5%)は、3割近くとなっている。

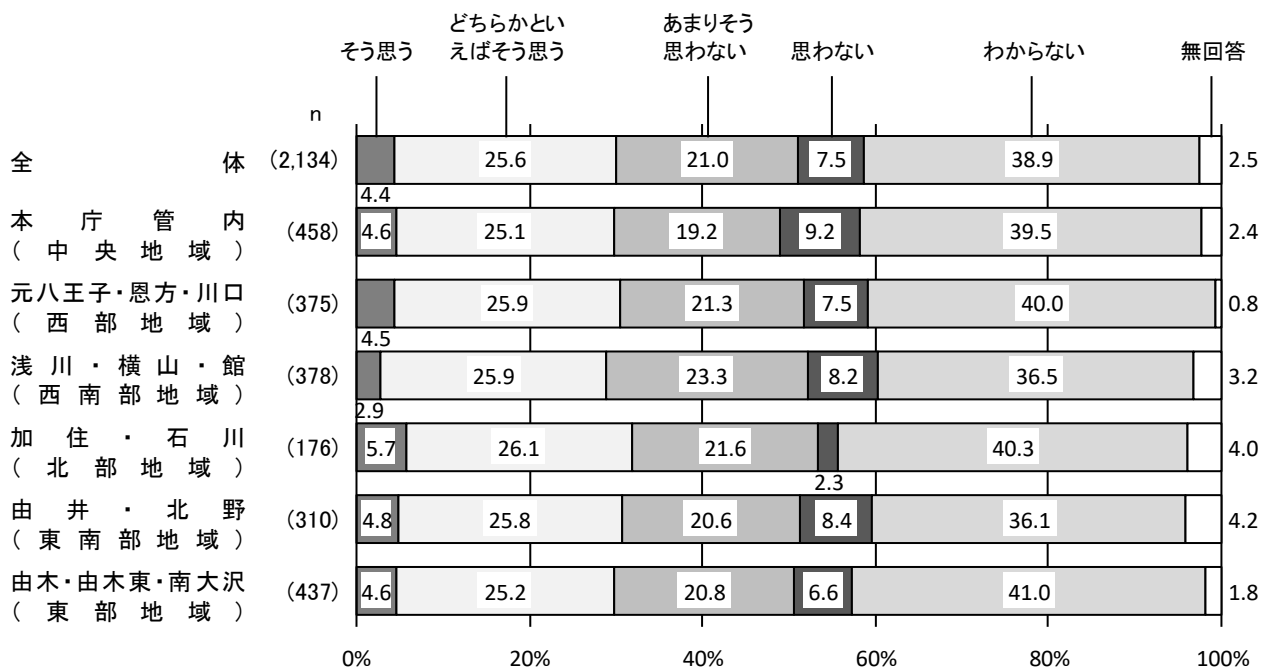
性別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図10-1)

図 10-2 誰もが活躍できる環境が整っていると思うか - 年齢別



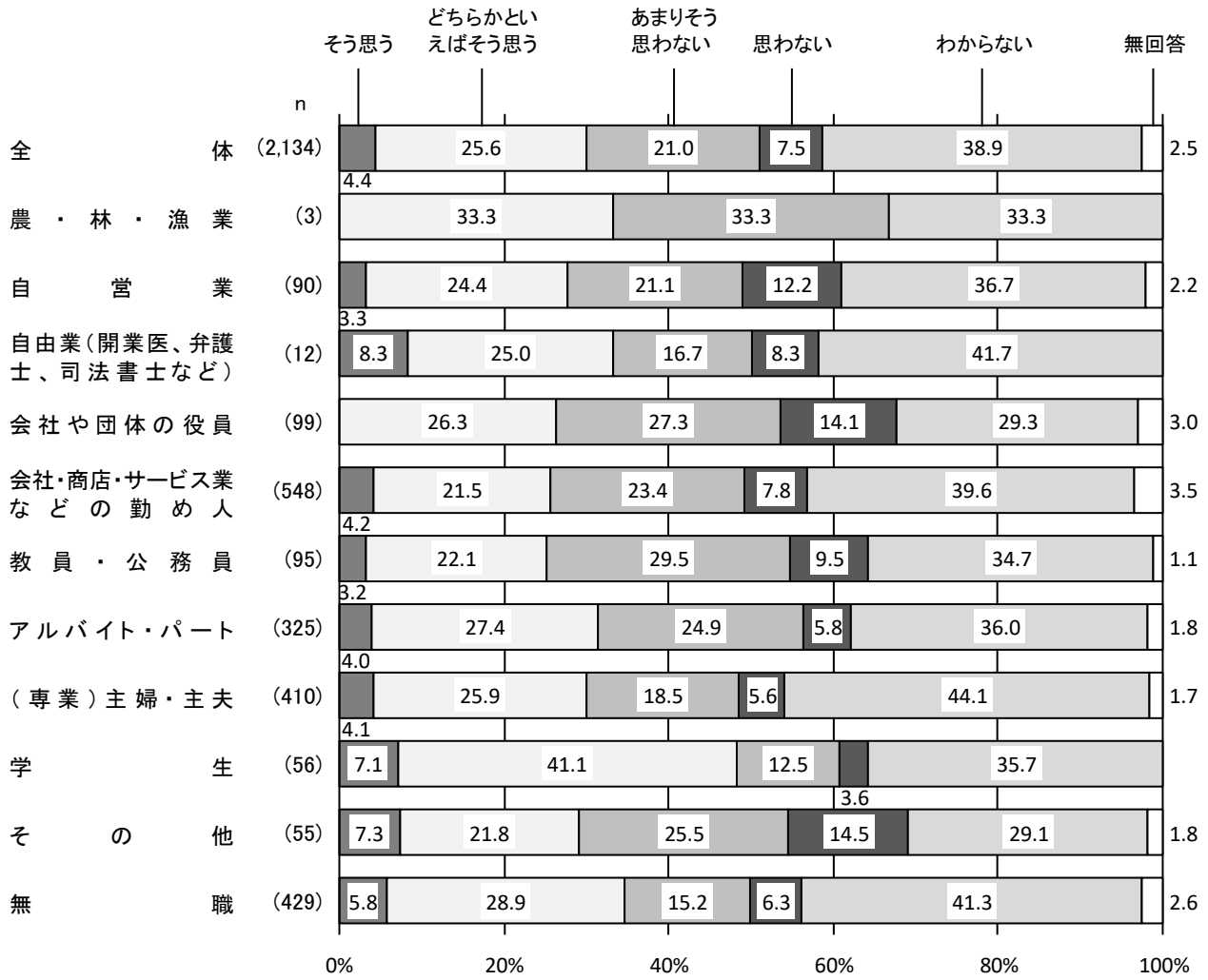
年齢別にみると、《思う》は、18～29 歳（39.2%）が4割弱と高くなっている。《思わない》は、60～64 歳（37.2%）が4割近くと高くなっている。（図 10-2）

図 10-3 誰もが活躍できる環境が整っていると思うか - 居住地域別



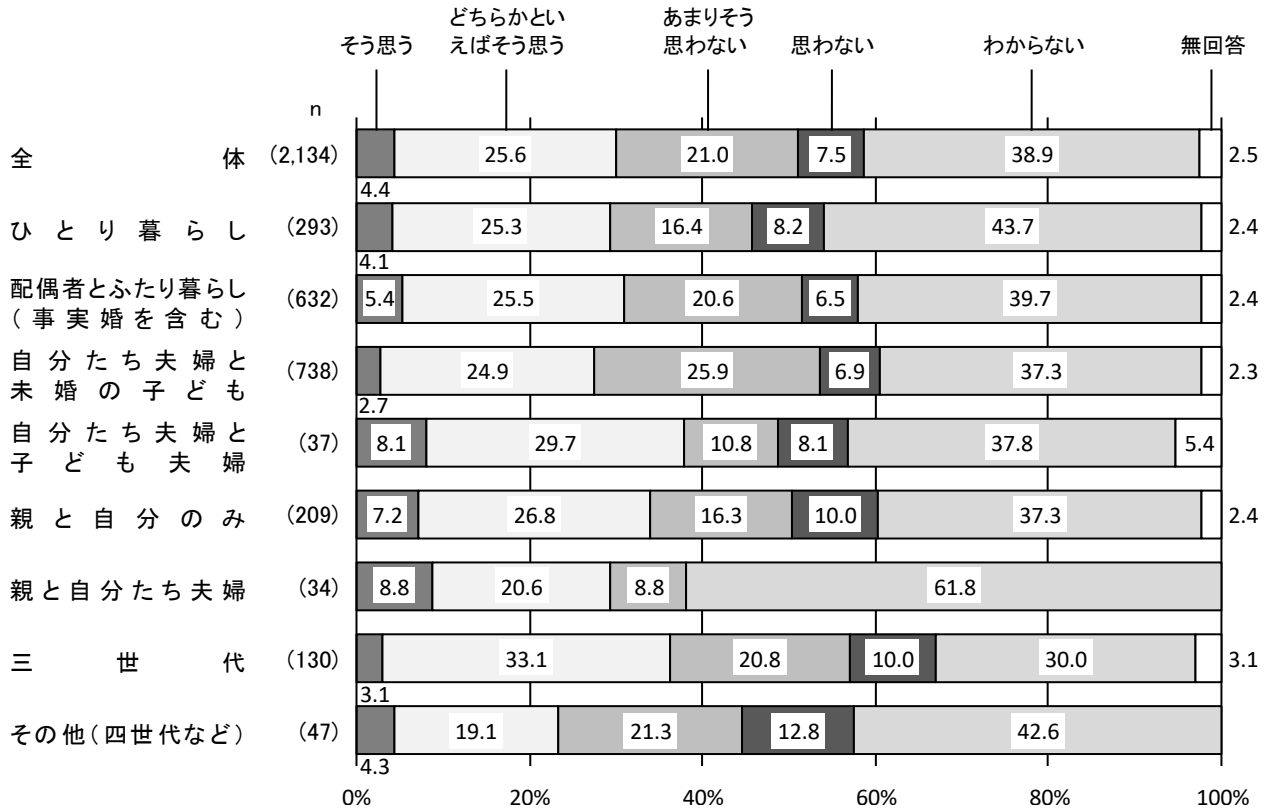
居住地域別にみると、傾向に大きな違いはみられない。（図 10-3）

図10-4 誰もが活躍できる環境が整っていると思うか - 職業別



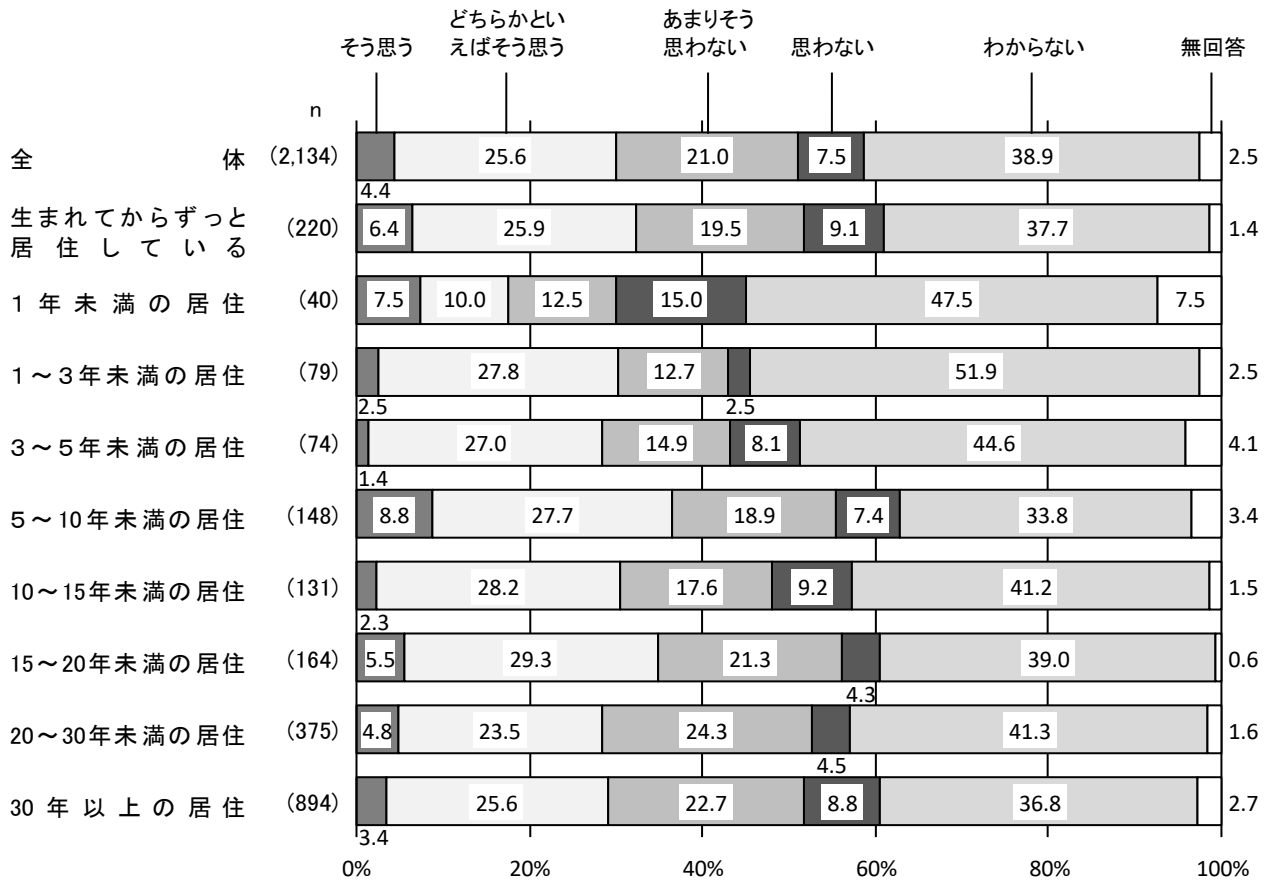
職業別にみると、「思う」は、学生 (48.2%) が5割近くと高くなっている。「思わない」は、会社や団体の役員 (41.4%) が4割強、その他 (40.0%) が4割、教員・公務員 (39.0%) が4割弱と高くなっている。(図10-4)

図 10-5 誰もが活躍できる環境が整っていると思うか - 世帯構成別



世帯構成別にみると、「思う」は、自分たち夫婦と子ども夫婦（37.8%）、三世代（36.2%）がそれぞれ4割近くと高くなっている。「思わない」は、その他（四世代など）（34.1%）が3割台半ばと高くなっている。（図10-5）

図 10-6 誰もが活躍できる環境が整っていると思うか - 居住年数別

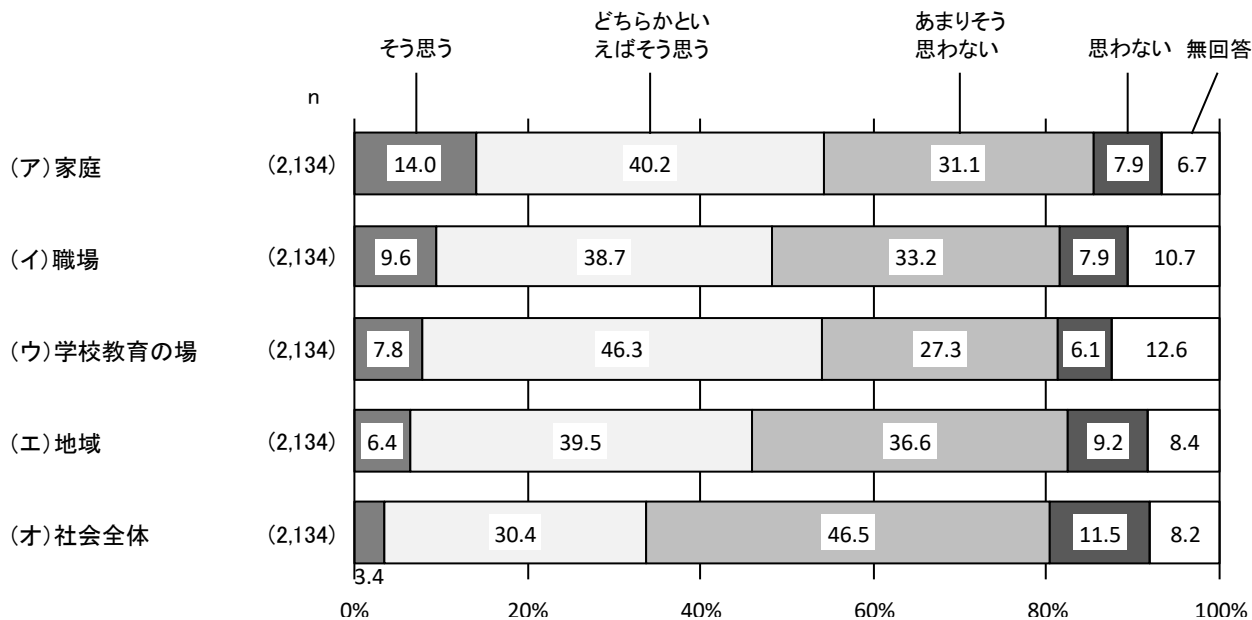


居住年数別にみると、「思う」は、5～10年未満の居住（36.5%）が4割近くと高くなっている。「思わない」は、1～3年未満の居住（15.2%）が1割台半ばと低くなっている。（図 10-6）

(11) 男女共同参画が実現していると思うか

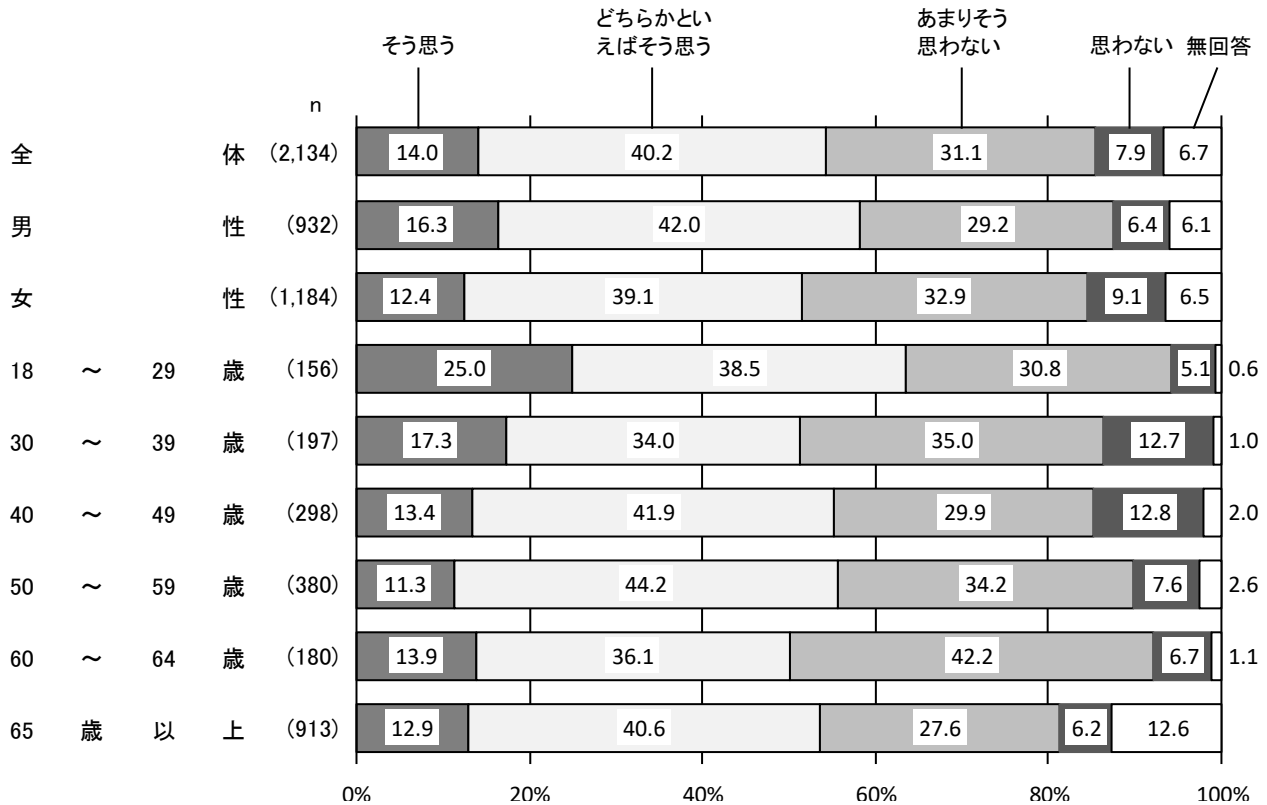
問 10 あなたは、次の（ア）～（オ）の分野で男女共同参画が実現していると思いますか。（ア）～（オ）の各項目それぞれについて、あなたの感じ方に近いものを選んでください。（〇はそれぞれ1つずつ）

図 11-1 男女共同参画が実現していると思うか - 全体



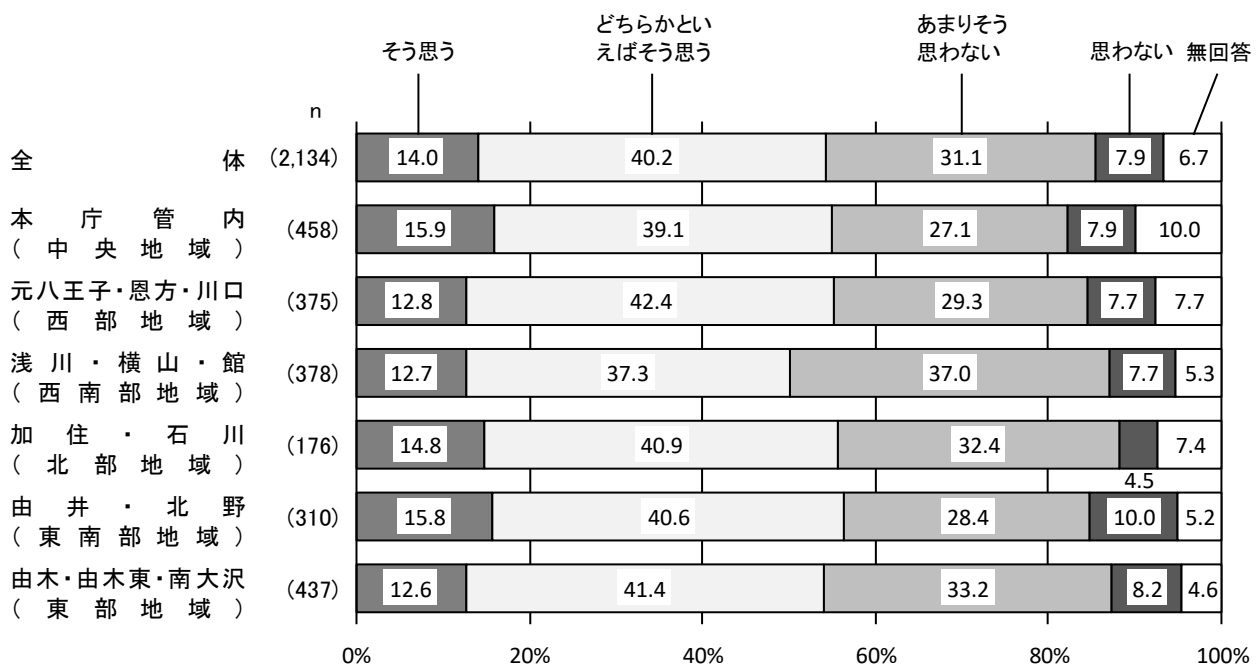
男女共同参画が実現していると思うかを聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた《思う》は、「家庭」(54.2%)が5割台半ばと最も高くなっている。次いで、「学校教育の場」(54.1%)となっている。一方、「あまりそう思わない」と「思わない」を合わせた《思わない》は、「社会全体」(58.0%)が6割近くと高くなっている。(図 11-1)

図 11-2 男女共同参画が実現していると思うか（ア）家庭 - 性別、年齢別



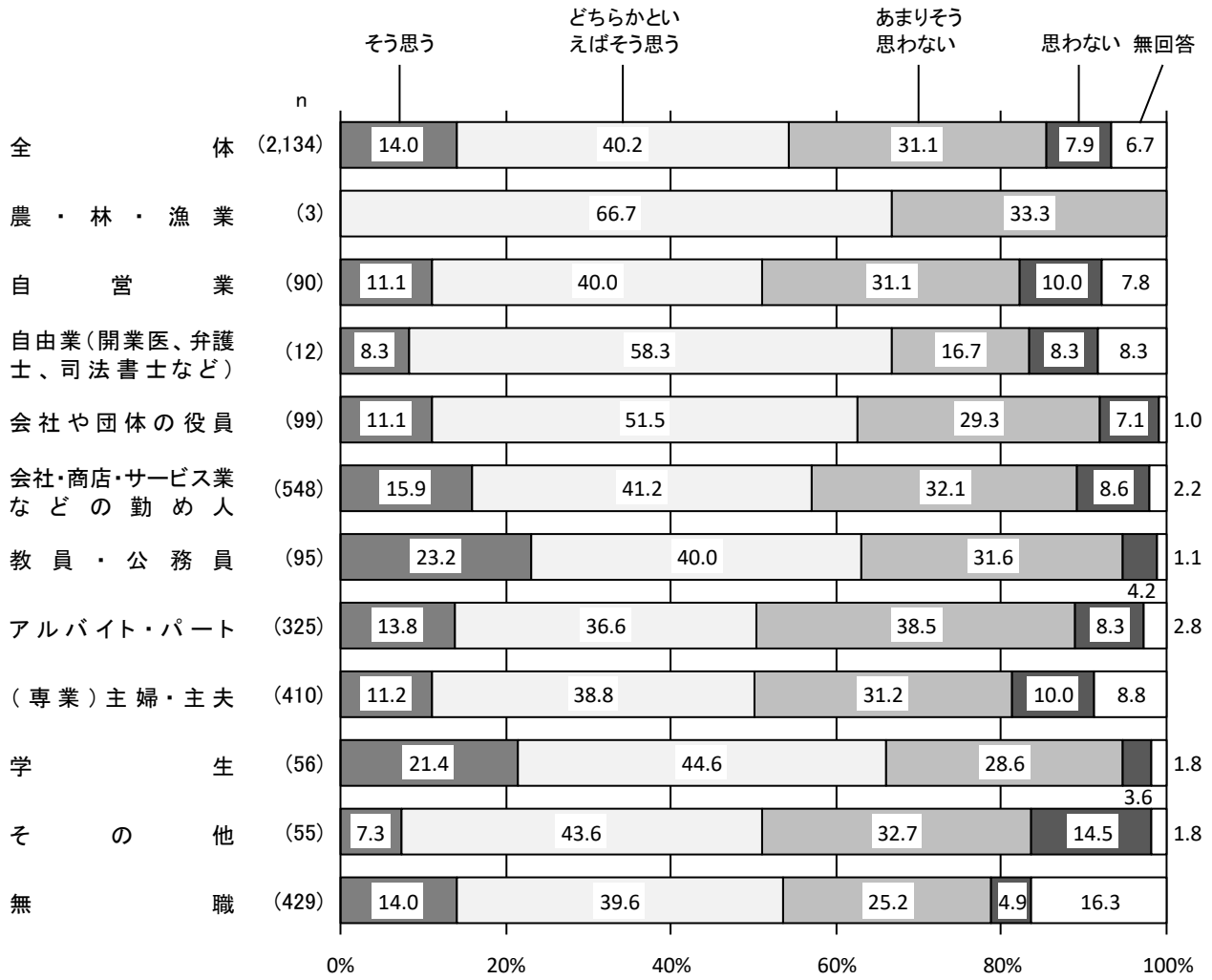
性別にみると、《思う》は、男性（58.3%）が女性（51.5%）より6.8ポイント高くなっている。
 年齢別にみると、《思う》は、18～29歳（63.5%）が6割強と高くなっている。《思わない》は、60～64歳（48.9%）、30～39歳（47.7%）がそれぞれ5割近くと高くなっている。（図 11-2）

図 11-3 男女共同参画が実現していると思うか（ア）家庭 - 居住地域別



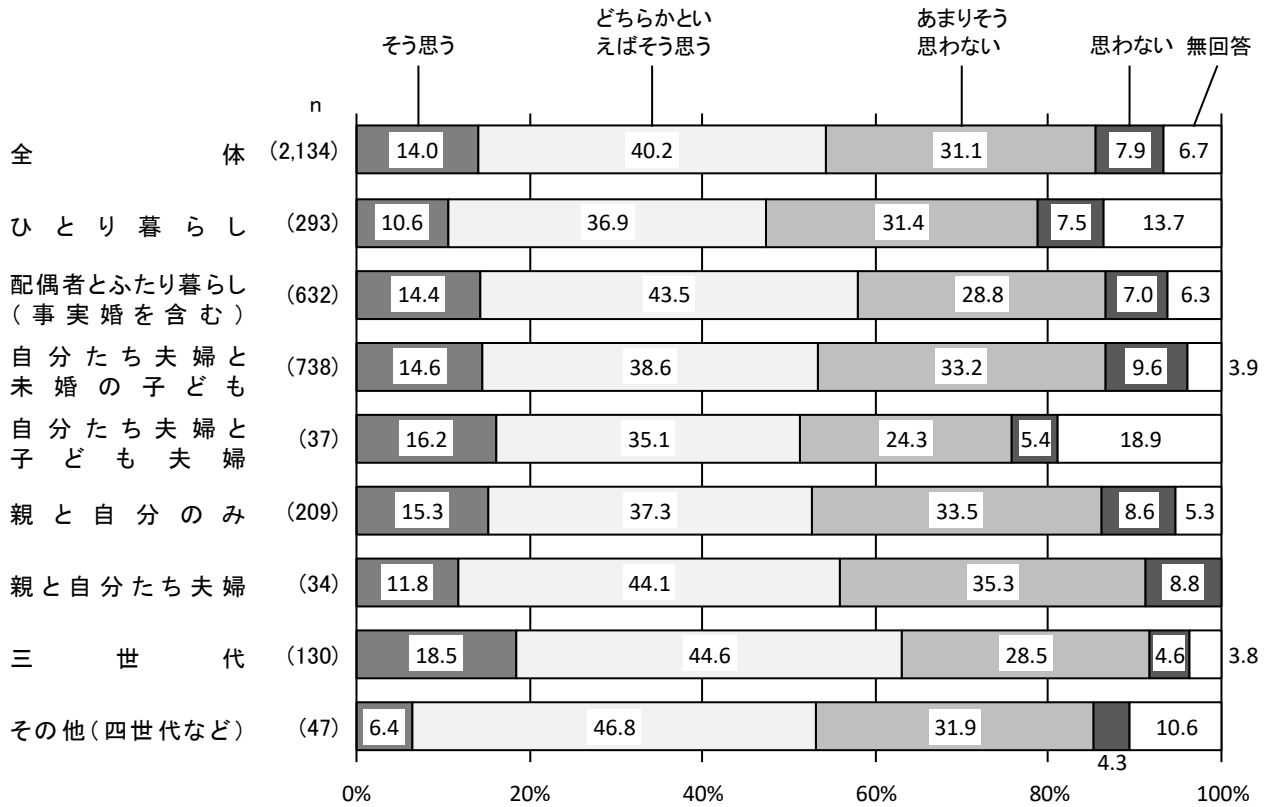
居住地域別にみると、《思わない》は、浅川・横山・館（西南部地域）（44.7%）が4割台半ばと高くなっている。（図 11-3）

図 11-4 男女共同参画が実現していると思うか（ア）家庭 - 職業別



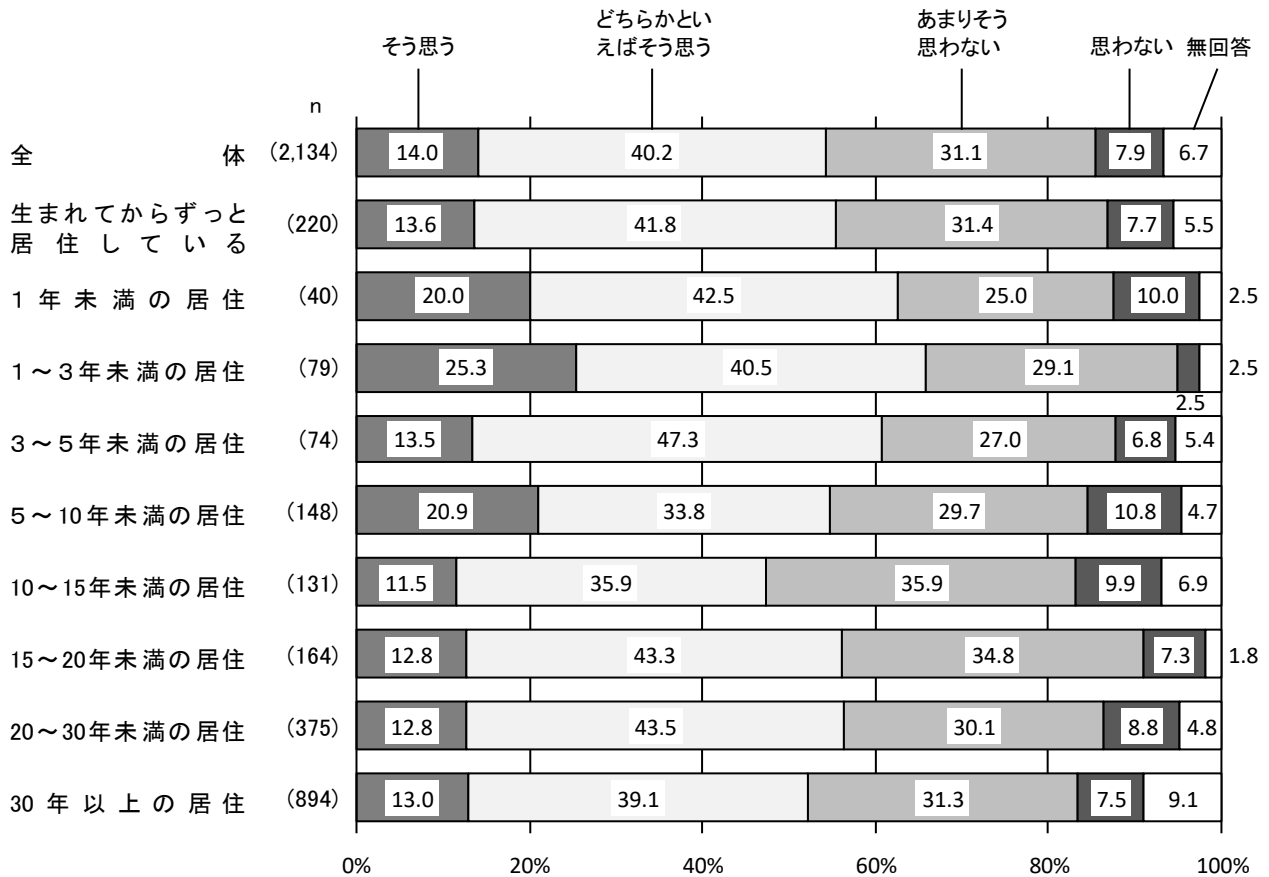
職業別にみると、《思う》は、学生(66.0%)が7割近く、教員・公務員(63.2%)、会社や団体の役員(62.6%)がそれぞれ6割強と高くなっている。《思わない》は、その他(47.2%)、アルバイト・パート(46.8%)がそれぞれ5割近くと高くなっている。(図11-4)

図 11-5 男女共同参画が実現していると思うか (ア) 家庭 - 世帯構成別



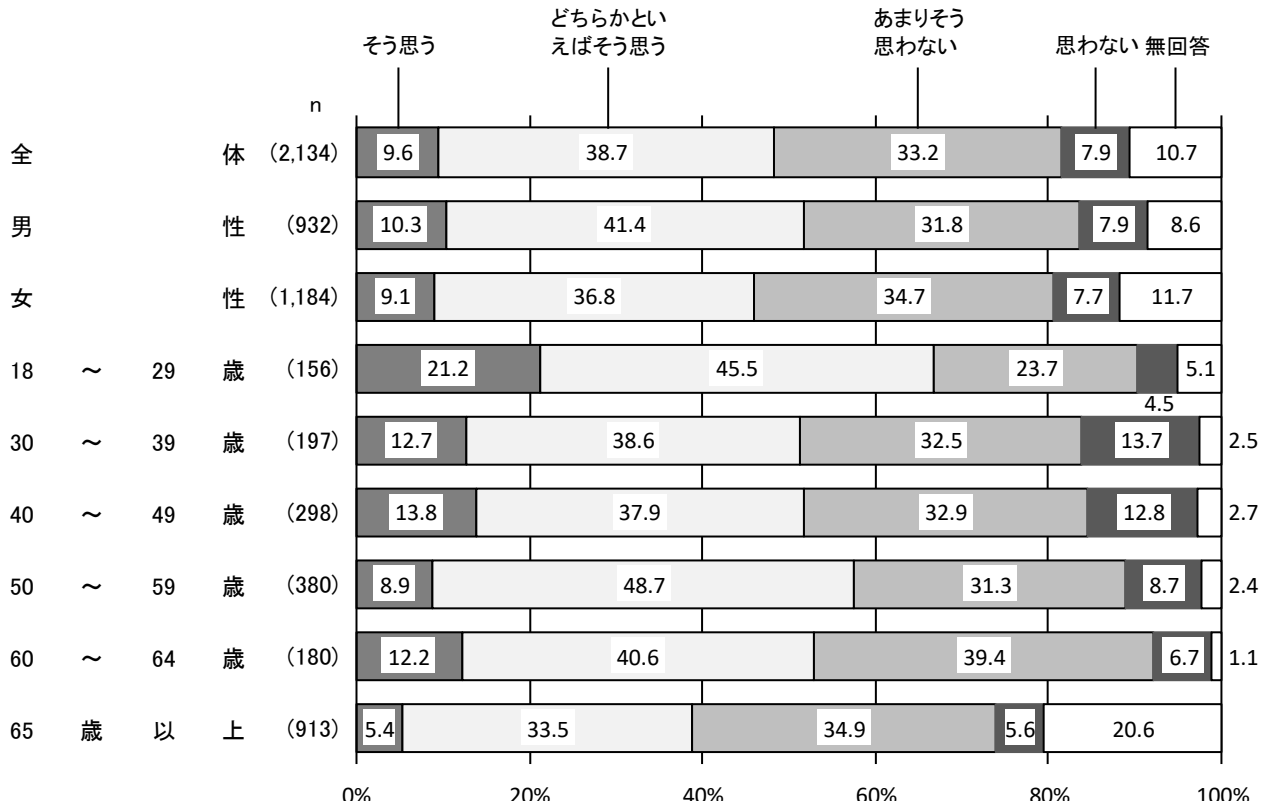
世帯構成別にみると、「思う」は、三世代 (63.1%) が6割強と高くなっている。「思わない」は、親と自分たち夫婦 (44.1%) が4割台半ばと高くなっている。(図 11-5)

図 11-6 男女共同参画が実現していると思うか (ア) 家庭 - 居住年数別



居住年数別にみると、「思う」は、1～3年未満の居住 (65.8%) が6割台半ば、1年未満の居住 (62.5%) が6割強、3～5年未満の居住 (60.8%) が約6割と高くなっている。「思わない」は、10～15年未満の居住 (45.8%) が4割台半ばと高くなっている。(図 11-6)

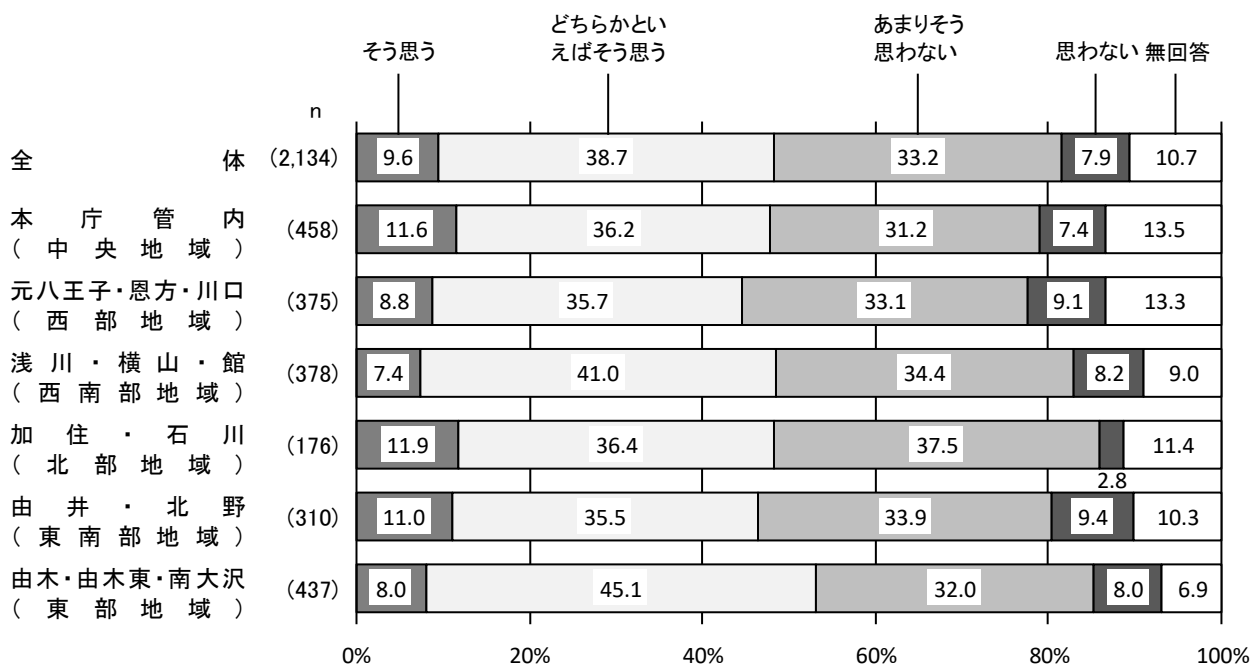
図 11-7 男女共同参画が実現していると思うか (イ) 職場 - 性別、年齢別



性別にみると、「思う」は、男性 (51.7%) が女性 (45.9%) より 5.8 ポイント高くなっている。

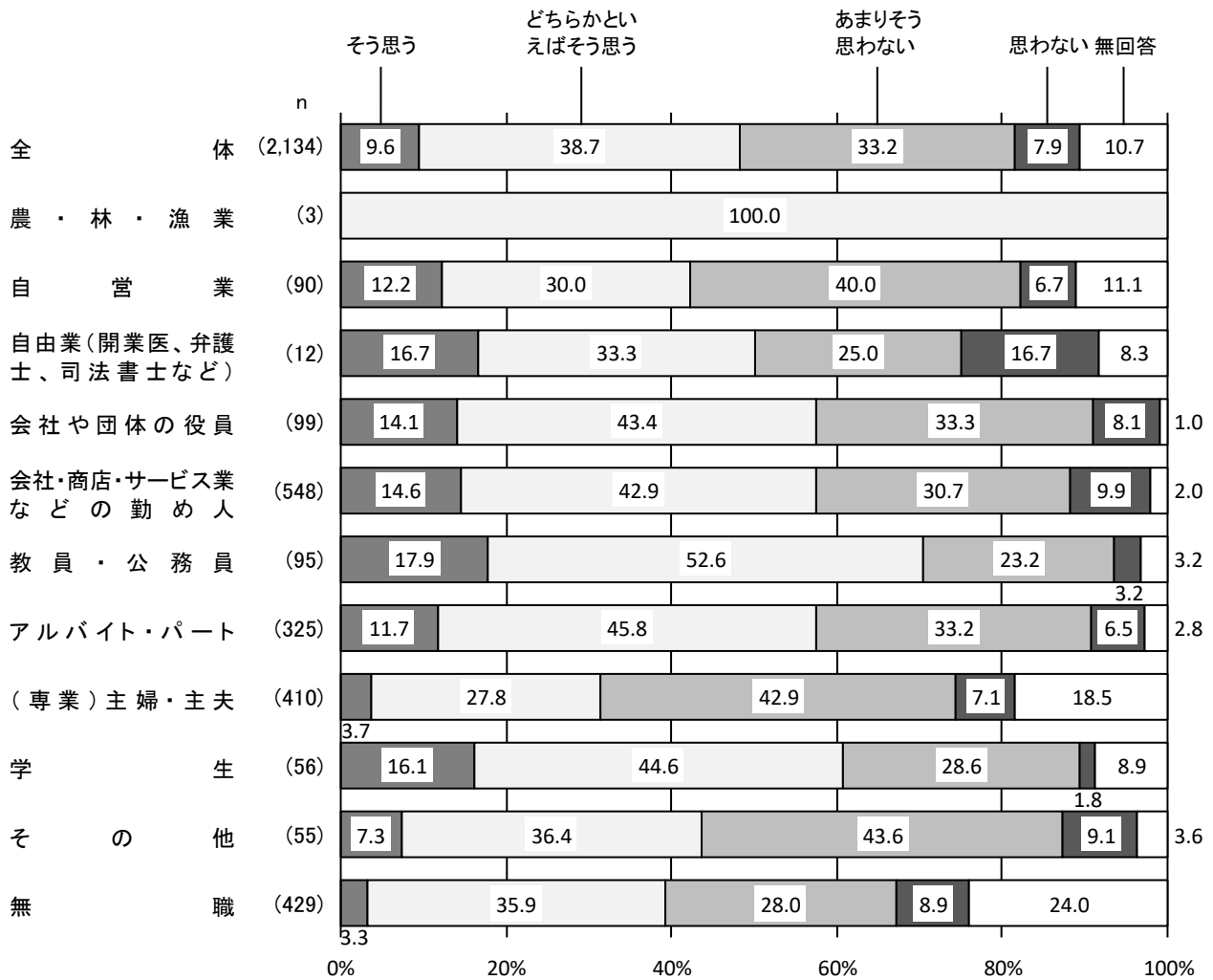
年齢別にみると、「思う」は、18~29 歳 (66.7%) が 7 割近く、50~59 歳 (57.6%) が 6 割近くと高くなっている。「思わない」は、30~39 歳 (46.2%) が 5 割近くと高くなっている。(図 11-7)

図 11-8 男女共同参画が実現していると思うか (イ) 職場 - 居住地域別



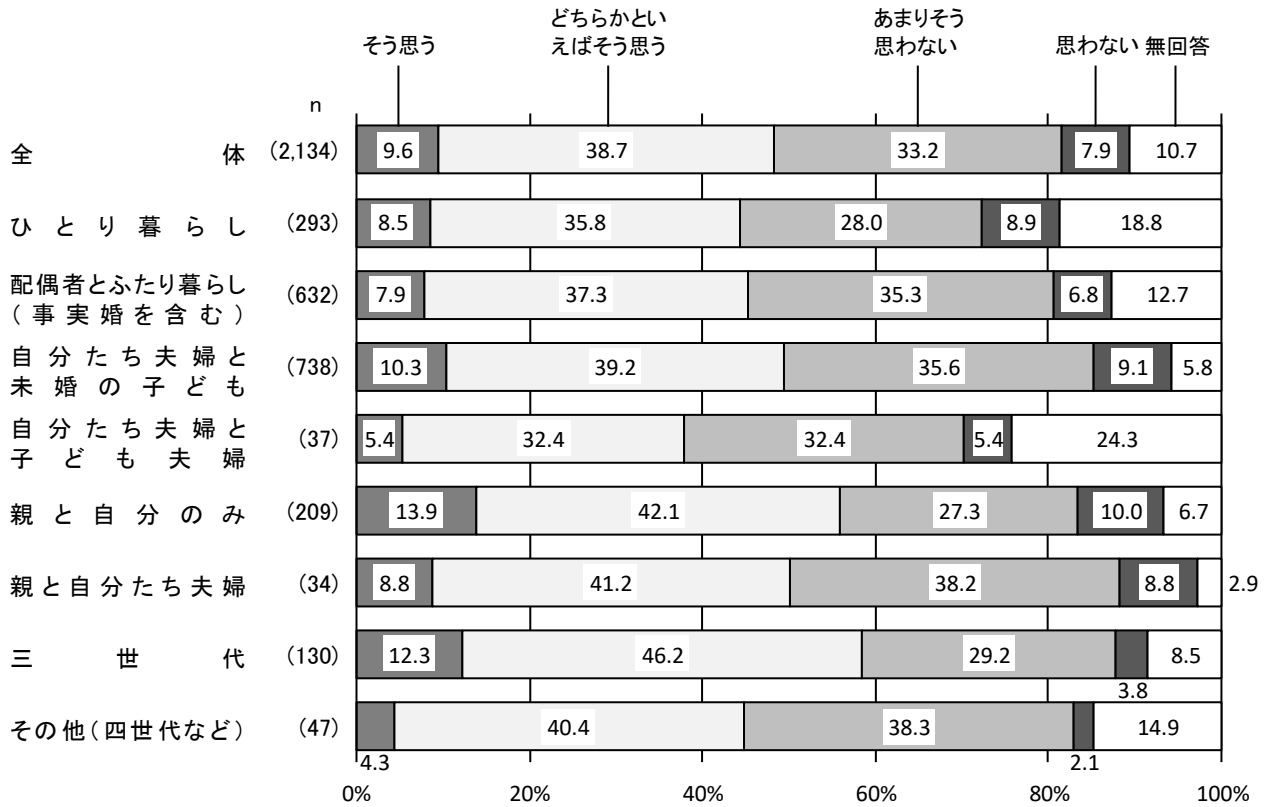
居住地域別にみると、「思う」は、傾向に大きな違いはみられないが、「どちらかといえばそう思う」は、由木・由木東・南大沢 (東部地域) (45.1%) が 4 割台半ばと高くなっている。(図 11-8)

図 11-9 男女共同参画が実現していると思うか (イ) 職場 - 職業別



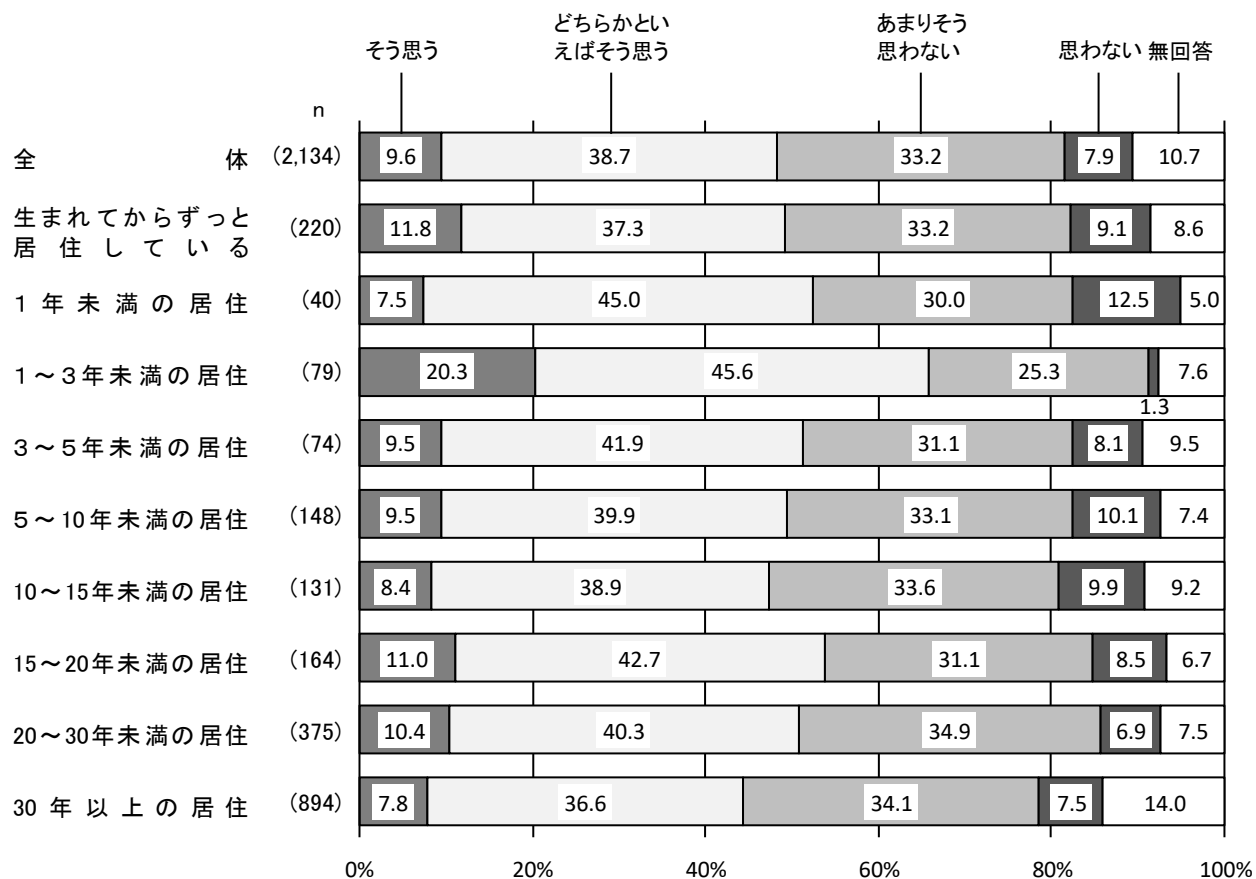
職業別にみると、《思う》は、教員・公務員 (70.5%) が約7割、学生 (60.7%) が約6割、会社・商店・サービス業などの勤め人 (57.5%)、アルバイト・パート (57.5%)、会社や団体の役員 (57.5%) がそれぞれ6割近くと高くなっている。《思わない》は、その他 (52.7%) が5割強、(専業)主婦・主夫 (50.0%) が5割、自営業 (46.7%) が5割近くと高くなっている。(図 11-9)

図 11-10 男女共同参画が実現していると思うか (イ) 職場 - 世帯構成別



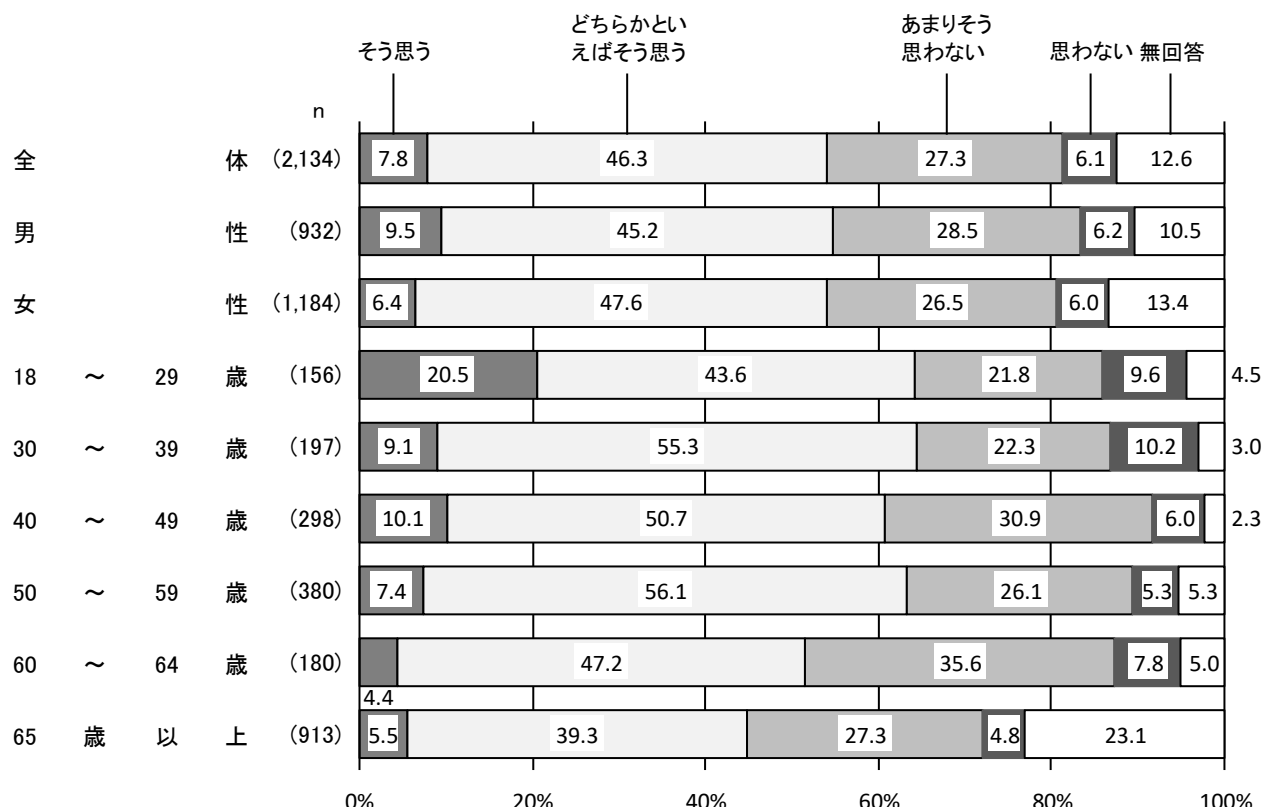
世帯構成別にみると、「思う」は、三世代 (58.5%)、親と自分のみ (56.0%) がそれぞれ6割近くと高くなっている。「思わない」は、親と自分たち夫婦 (47.0%) が5割近くと高くなっている。(図 11-10)

図 11-11 男女共同参画が実現していると思うか (イ) 職場 - 居住年数別



居住年数別にみると、「思う」は、1～3年未満の居住(65.9%)が6割台半ば、15～20年未満の居住(53.7%)が5割強と高くなっている。(図 11-11)

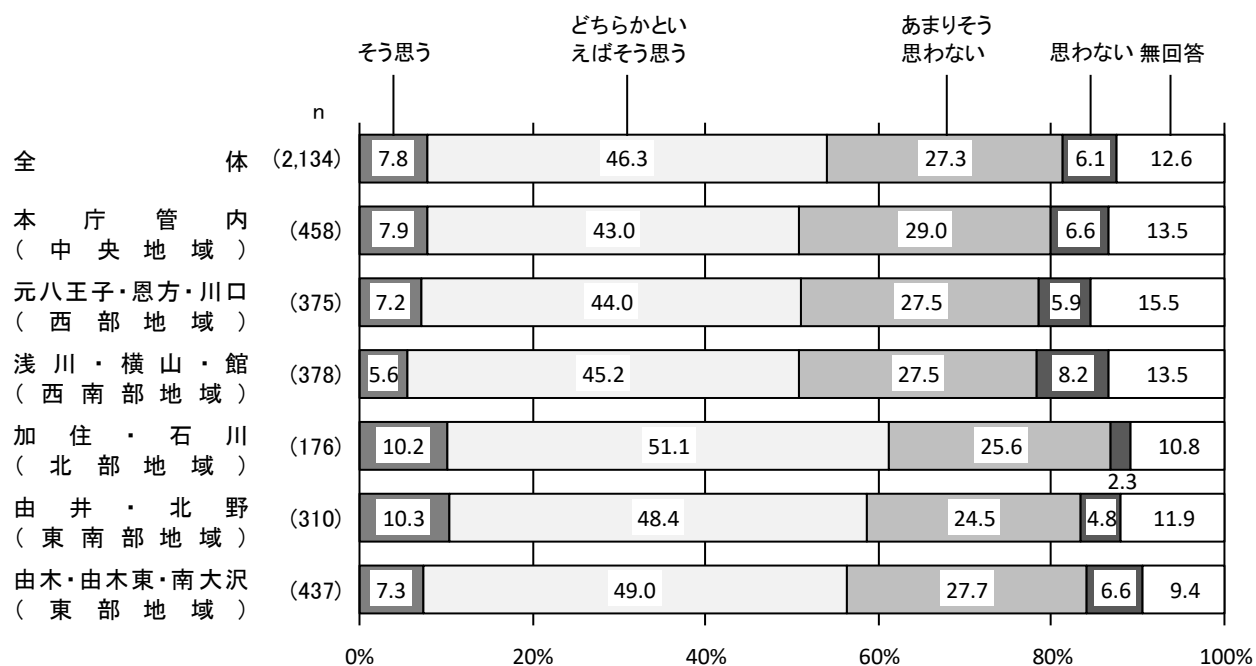
図 11-12 男女共同参画が実現していると思うか（ウ）学校教育の場 — 性別、年齢別



性別にみると、傾向に大きな違いはみられない。

年齢別にみると、「思う」は、30～39歳（64.4%）、18～29歳（64.1%）がそれぞれ6割台半ば、50～59歳（63.5%）が6割強、40～49歳（60.8%）が約6割と高くなっている。「思わない」は、60～64歳（43.4%）が4割強と高くなっている。（図 11-12）

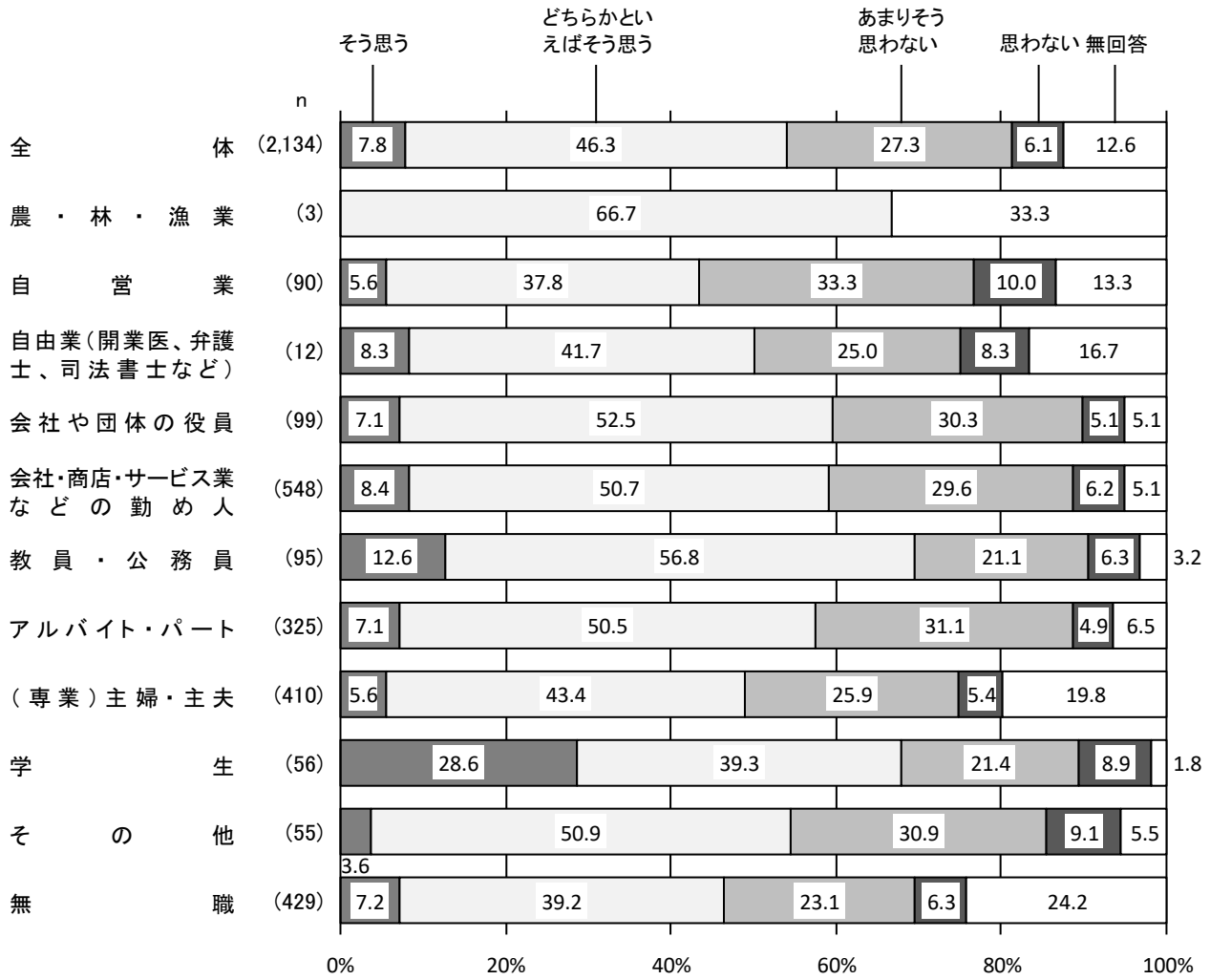
図 11-13 男女共同参画が実現していると思うか（ウ）学校教育の場 — 居住地域別



居住地域別にみると、「思う」は、加住・石川（北部地域）（61.3%）が6割強と高くなっている。

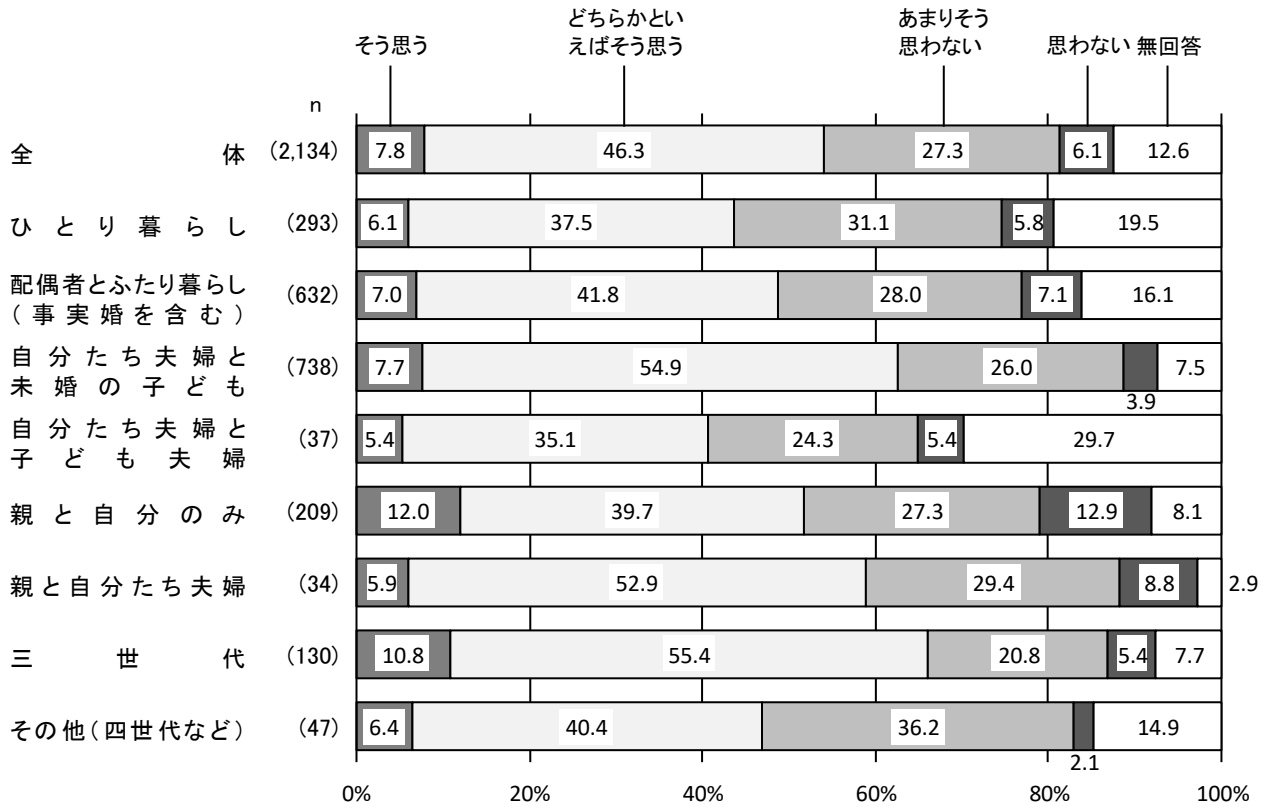
（図 11-13）

図 11-14 男女共同参画が実現していると思うか（ウ）学校教育の場 — 職業別



職業別にみると、《思う》は、教員・公務員（69.4%）が7割弱、学生（67.9%）が7割近く、会社や団体の役員（59.6%）が6割弱と高くなっている。《思わない》は、自営業（43.3%）が4割強、その他（40.0%）が4割と高くなっている。（図 11-14）

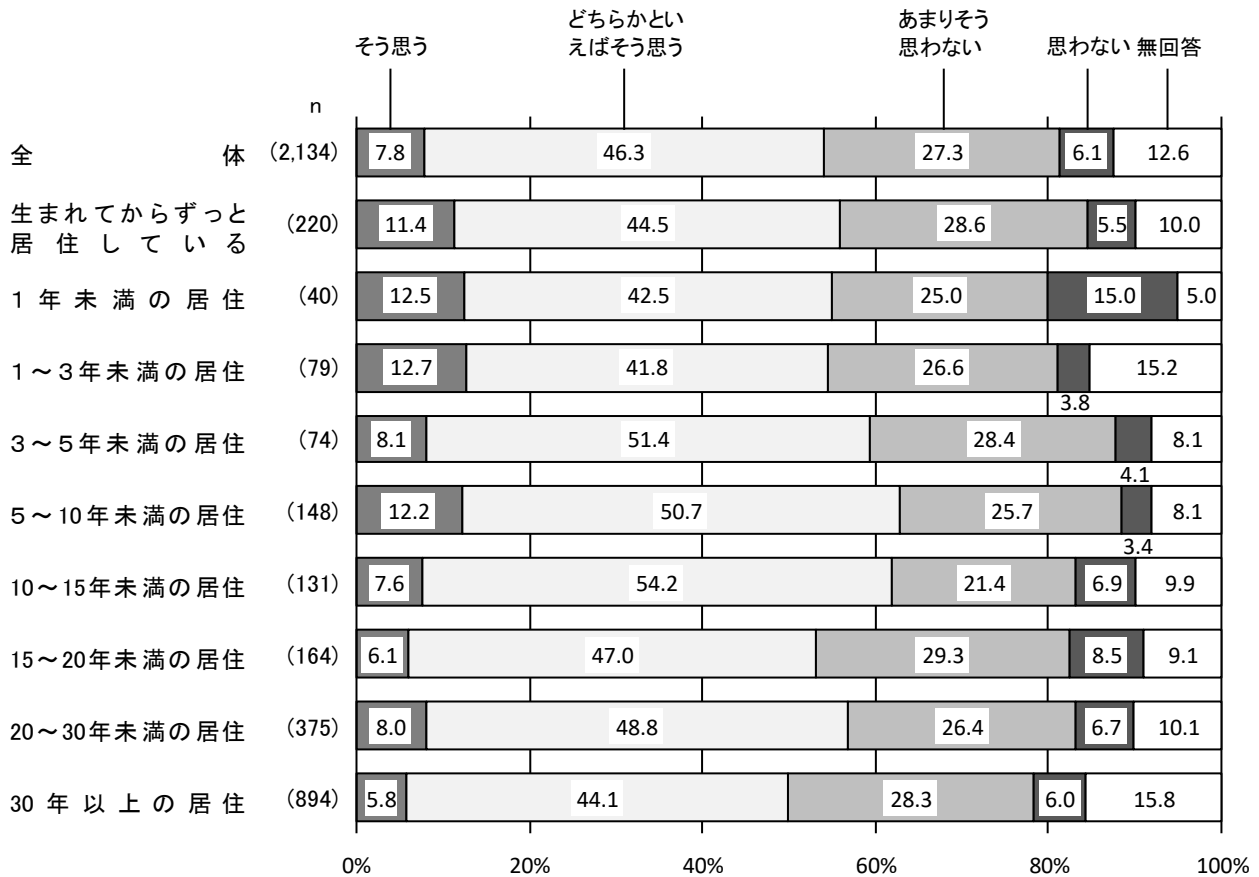
図 11-15 男女共同参画が実現していると思うか（ウ）学校教育の場 — 世帯構成別



世帯構成別にみると、「思う」は、三世代（66.2%）が7割近く、自分たち夫婦と未婚の子ども（62.6%）が6割強と高くなっている。「思わない」は、親と自分のみ（40.2%）が約4割と高くなっている。

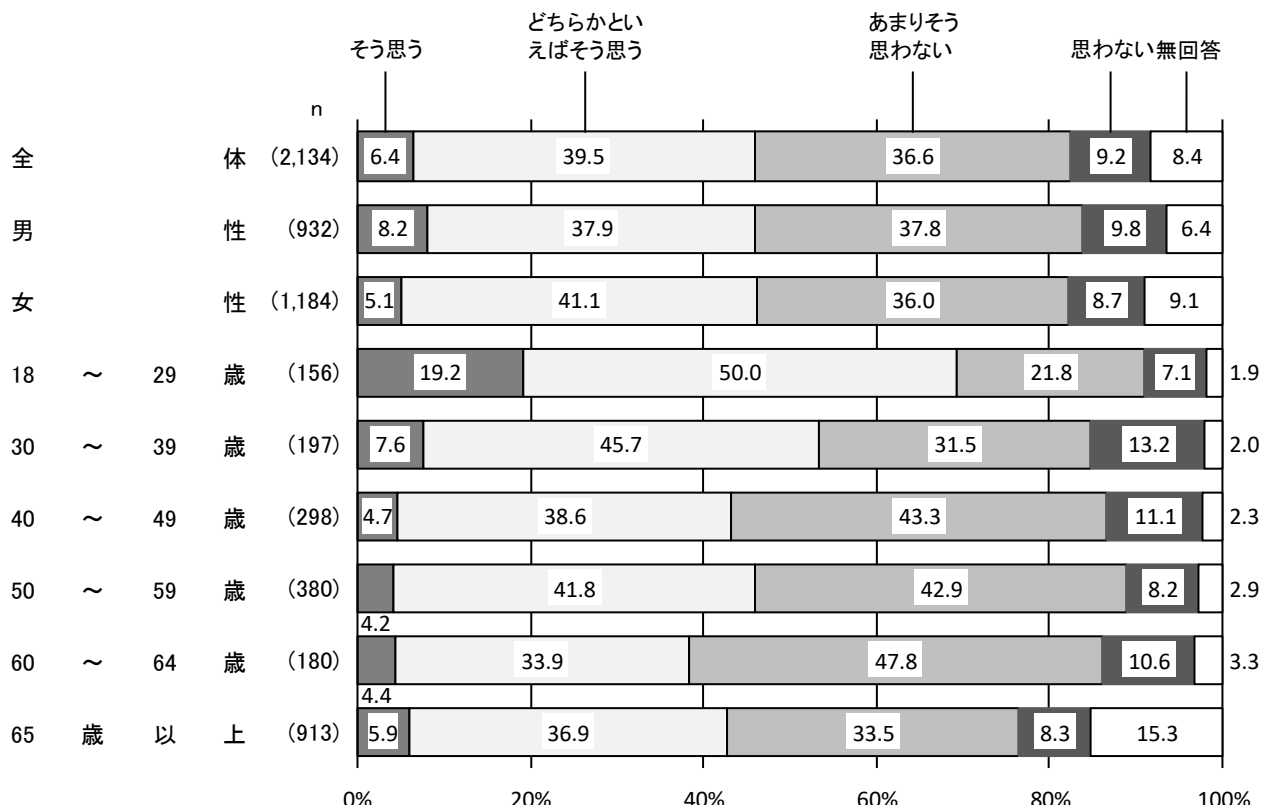
(図 11-15)

図 11-16 男女共同参画が実現していると思うか（ウ）学校教育の場 — 居住年数別



居住年数別にみると、「思う」は、5～10年未満の居住（62.9%）、10～15年未満の居住（61.8%）がそれぞれ6割強、3～5年未満の居住（59.5%）が6割弱と高くなっている。「思わない」は、1年未満の居住（40.0%）が4割と高くなっている。（図 11-16）

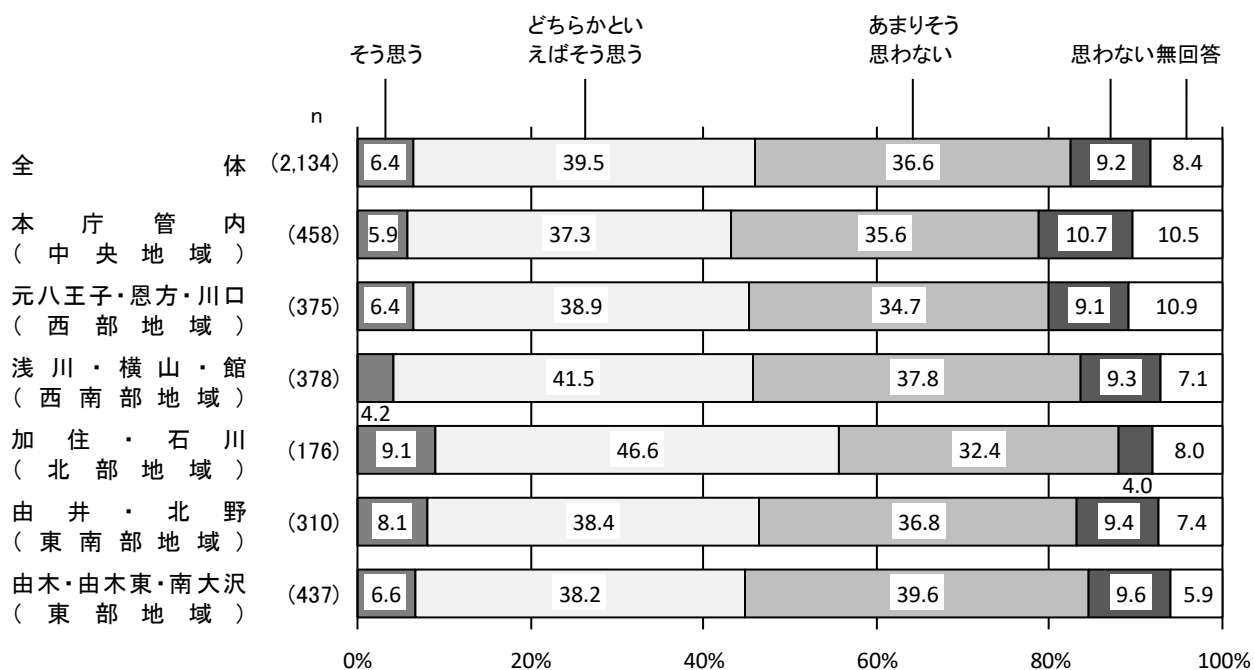
図 11-17 男女共同参画が実現していると思うか（エ）地域 - 性別、年齢別



性別にみると、傾向に大きな違いはみられない。

年齢別にみると、「思う」は、18～29歳（69.2%）が7割弱、30～39歳（53.3%）が5割強と高くなっている。「思わない」は、60～64歳（58.4%）が6割近く、40～49歳（54.4%）が5割台半ば、50～59歳（51.1%）が5割強と高くなっている。（図 11-17）

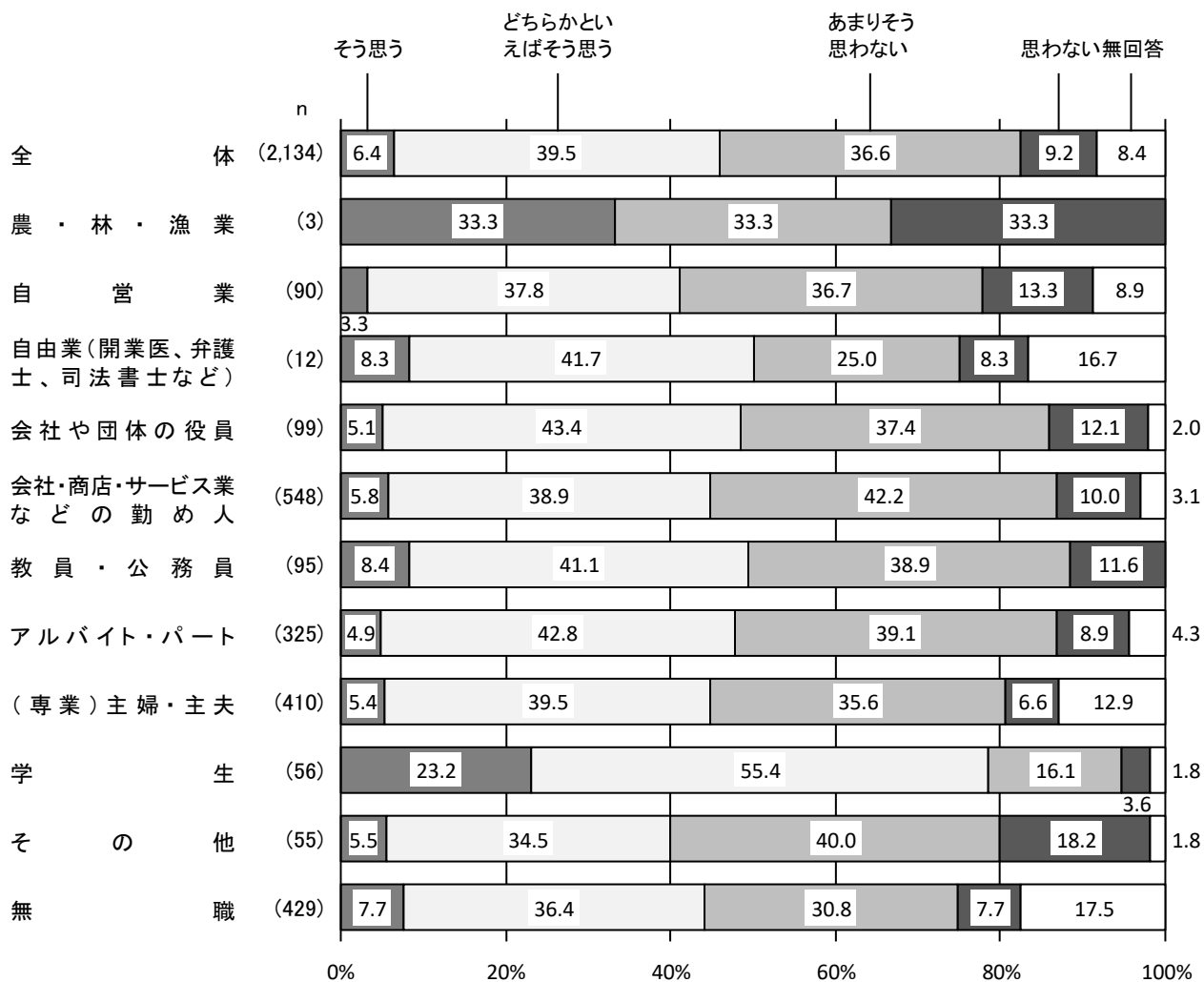
図 11-18 男女共同参画が実現していると思うか（エ）地域 - 居住地域別



居住地域別にみると、「思う」は、加住・石川（北部地域）（55.7%）が5割台半ばと高くなっている。

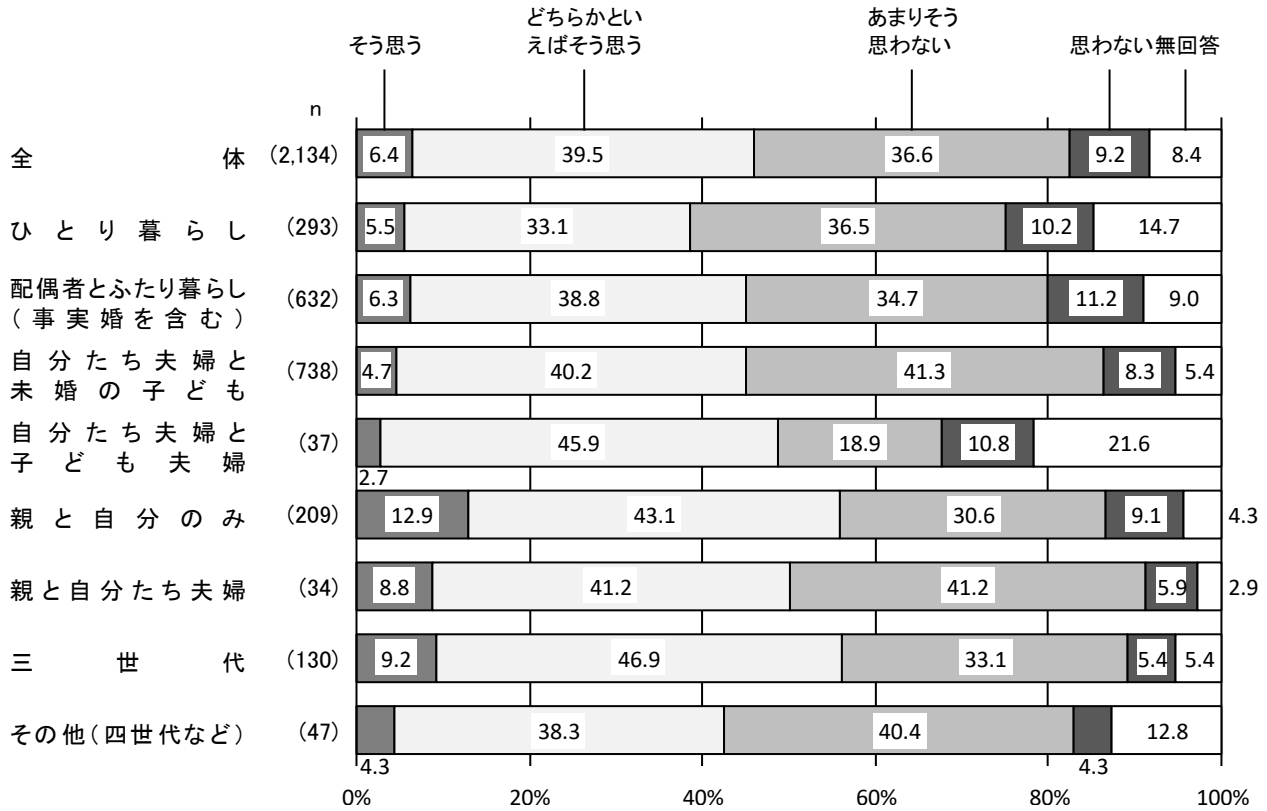
（図 11-18）

図 11-19 男女共同参画が実現していると思うか (エ) 地域 - 職業別



職業別にみると、《思う》は、学生(78.6%)が8割近くと高くなっている。《思わない》は、その他(58.2%)が6割近く、会社・商店・サービス業などの勤め人(52.2%)が5割強と高くなっている。(図 11-19)

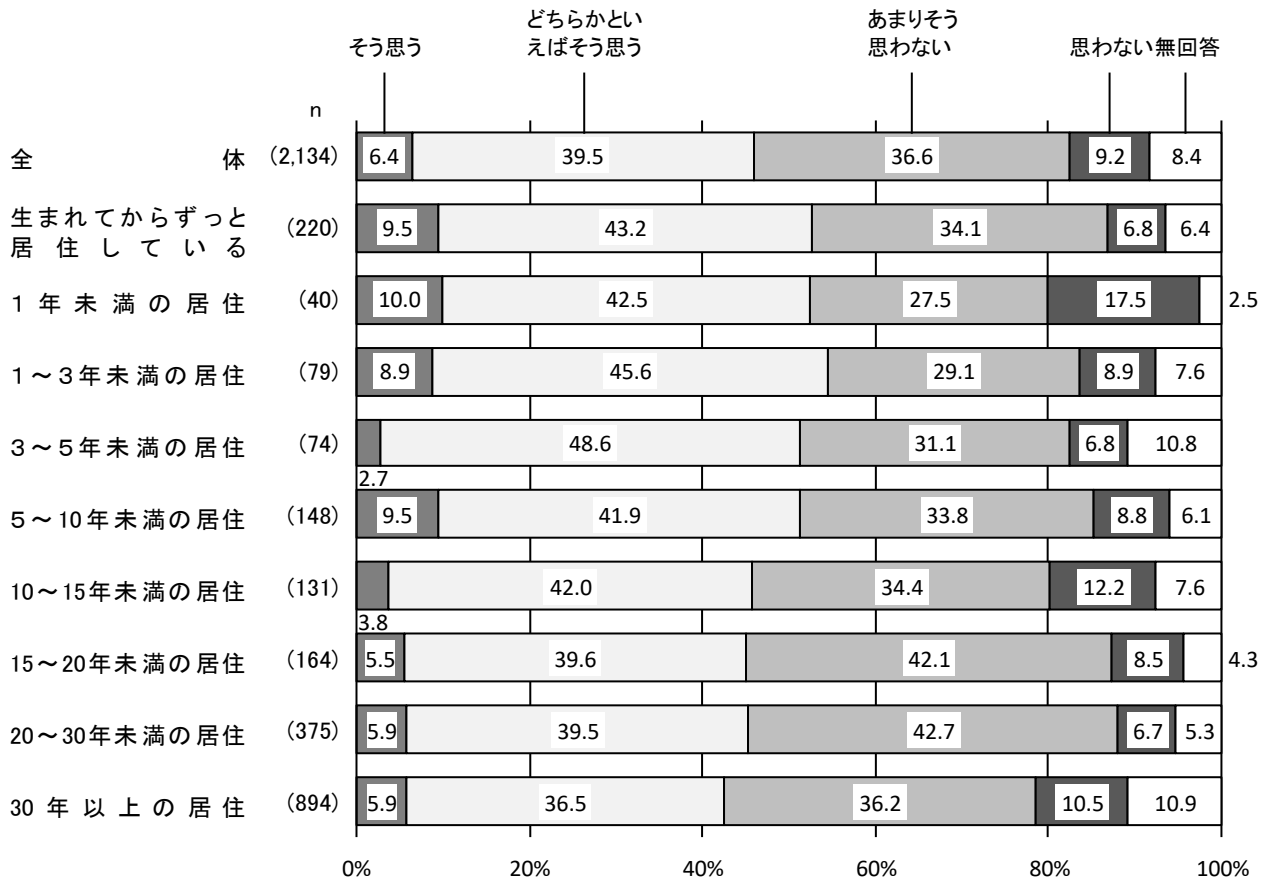
図 11-20 男女共同参画が実現していると思うか (エ) 地域 - 世帯構成別



世帯構成別にみると、「思う」は、三世代 (56.1%)、親と自分のみ (56.0%) がそれぞれ6割近くと高くなっている。「思わない」は、自分たち夫婦と子ども夫婦 (29.7%) が3割弱と低くなっている。

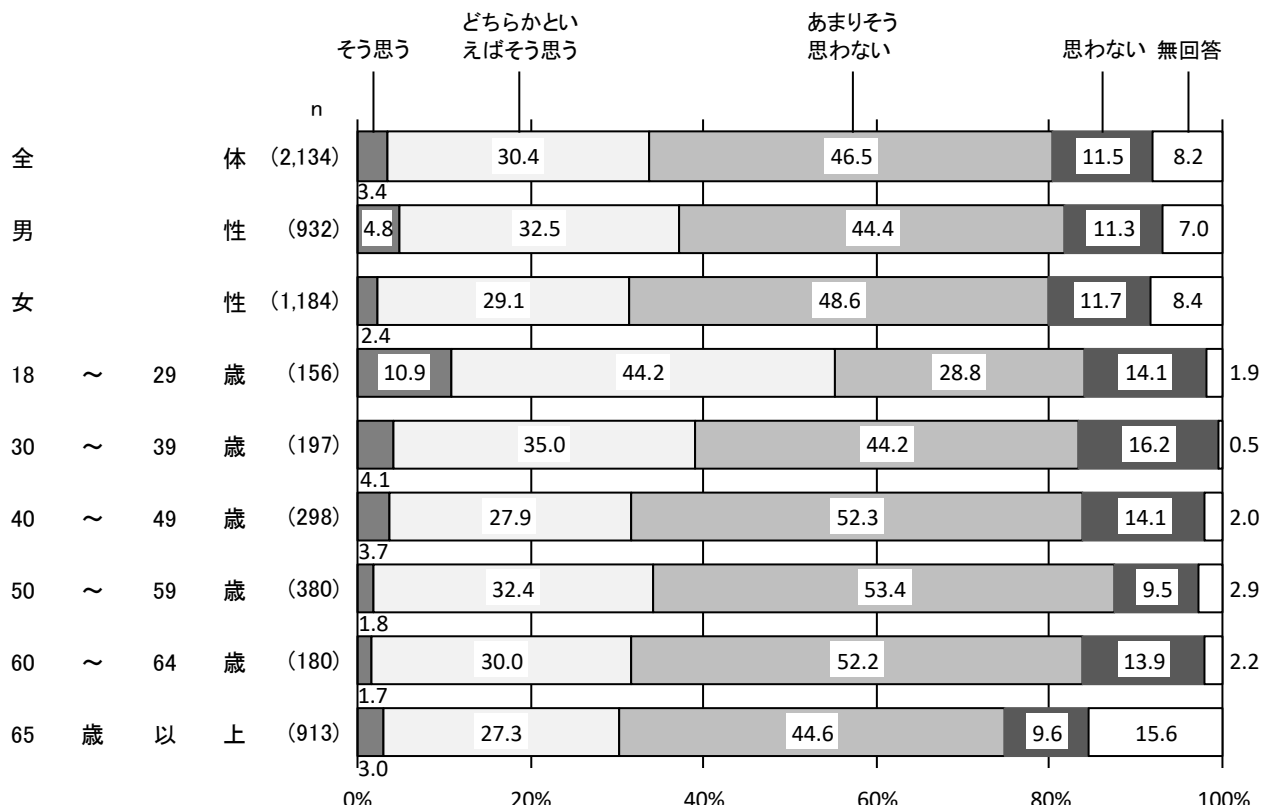
(図 11-20)

図 11-21 男女共同参画が実現していると思うか（エ）地域 - 居住年数別



居住年数別にみると、「思う」は、1～3年未満の居住（54.5%）が5割台半ば、生まれてからずっと居住している（52.7%）、1年未満の居住（52.5%）、5～10年未満の居住（51.4%）、3～5年未満の居住（51.3%）がそれぞれ5割強と高くなっている。（図 11-21）

図 11-22 男女共同参画が実現していると思うか (オ) 社会全体 - 性別、年齢別

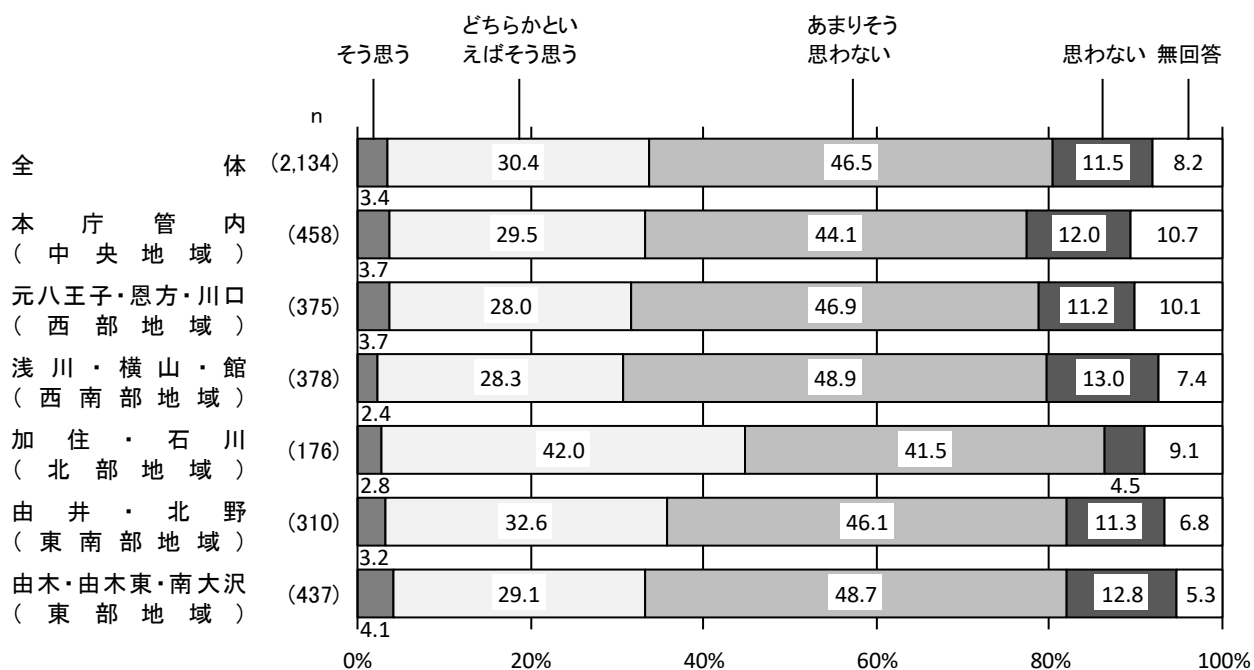


性別にみると、《思う》は、男性 (37.3%) が女性 (31.5%) より 5.8 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《思う》は、18~29 歳 (55.1%) が 5 割台半ば、30~39 歳 (39.1%) が 4 割弱と高くなっている。《思わない》は、40~49 歳 (66.4%)、60~64 歳 (66.1%) がそれぞれ 7 割近くと高くなっている。

(図 11-22)

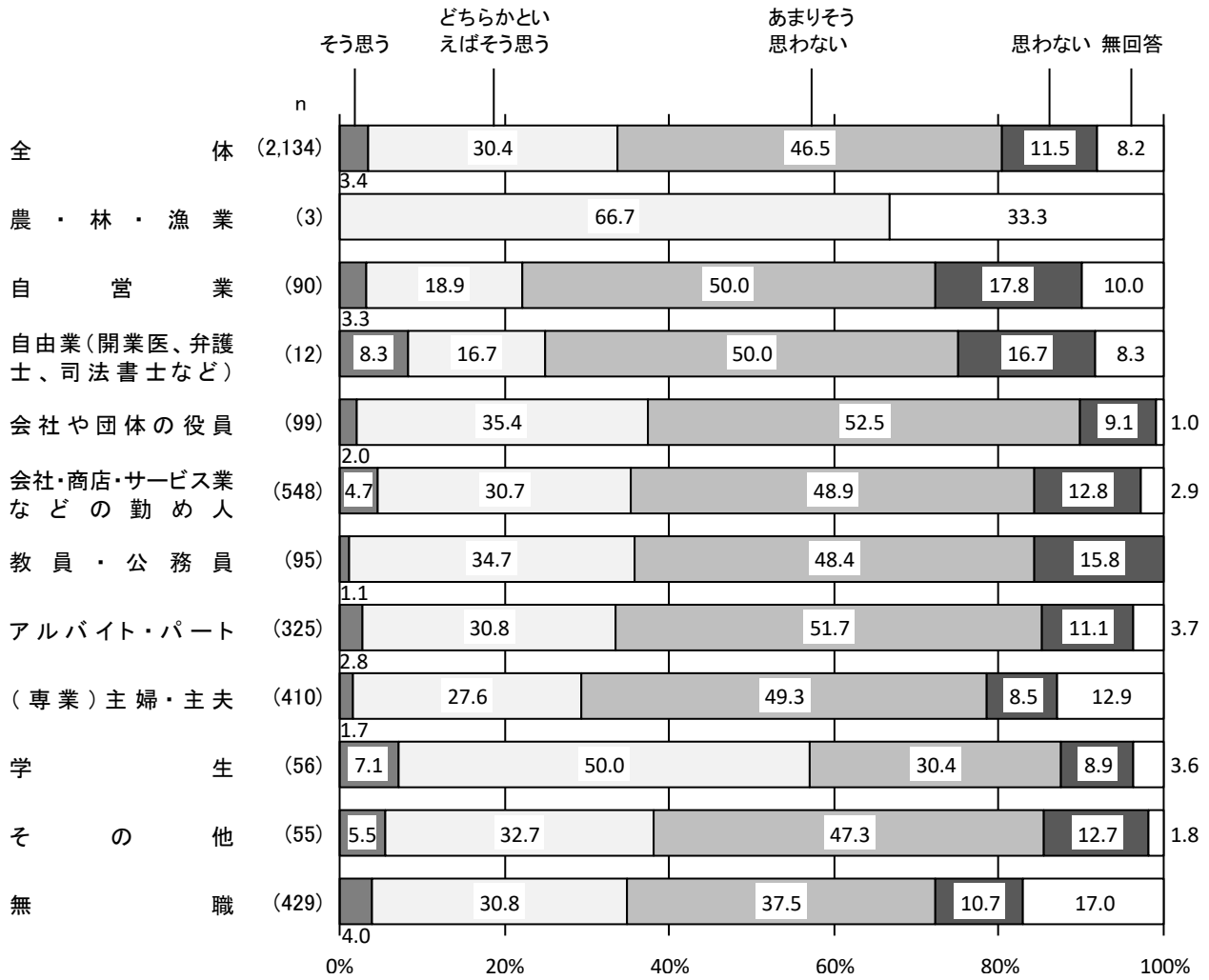
図 11-23 男女共同参画が実現していると思うか (オ) 社会全体 - 居住地域別



居住地域別にみると、《思う》は、加住・石川 (北部地域) (44.8%) が 4 割台半ばと高くなっている。

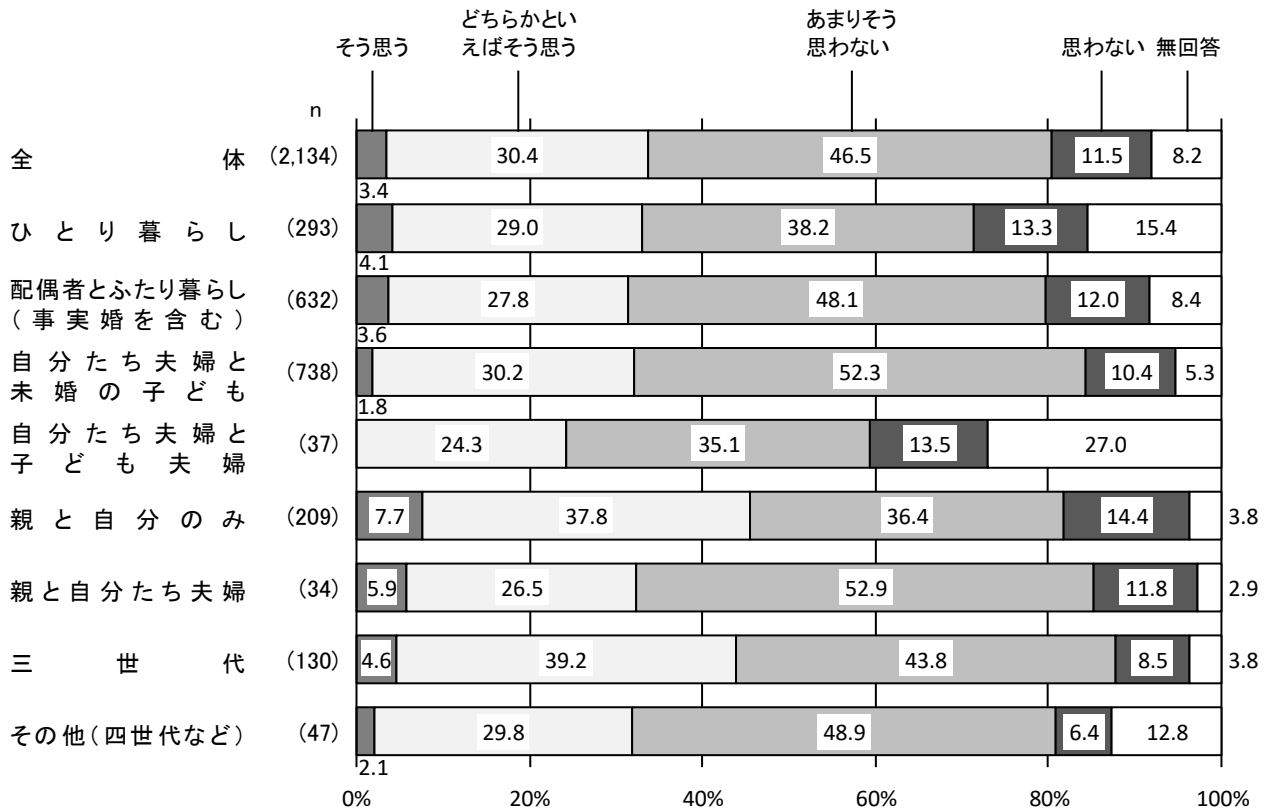
(図 11-23)

図 11-24 男女共同参画が実現していると思うか (オ) 社会全体 - 職業別



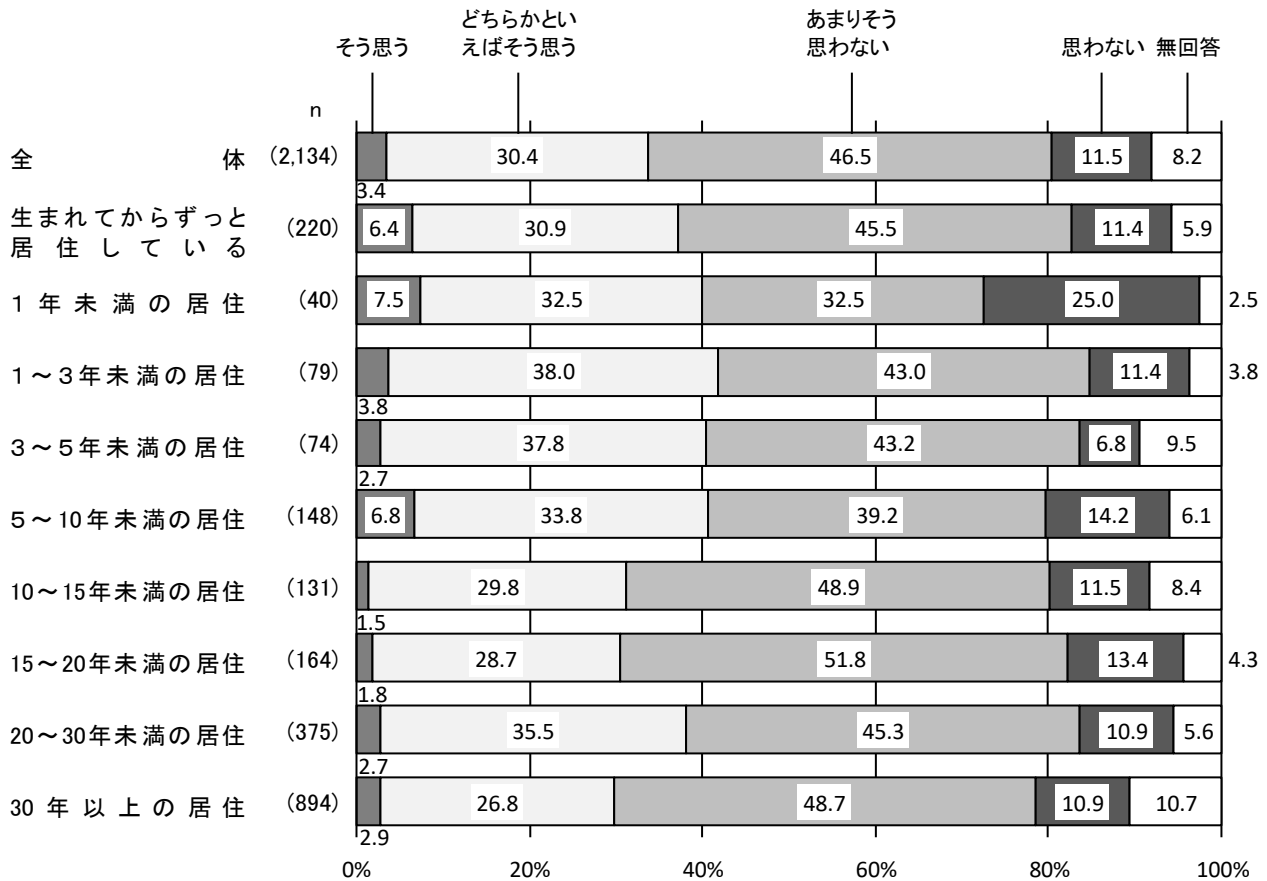
職業別にみると、「思う」は、学生(57.1%)が6割近くと高くなっている。「思わない」は、自営業(67.8%)が7割近く、教員・公務員(64.2%)が6割台半ばと高くなっている。(図 11-24)

図 11-25 男女共同参画が実現していると思うか（オ）社会全体 - 世帯構成別



世帯構成別にみると、「思う」は、親と自分のみ（45.5%）が4割台半ば、三世代（43.8%）が4割強と高くなっている。「思わない」は、親と自分たち夫婦（64.7%）が6割台半ばと高くなっている。（図 11-25）

図 11-26 男女共同参画が実現していると思うか（オ）社会全体 - 居住年数別

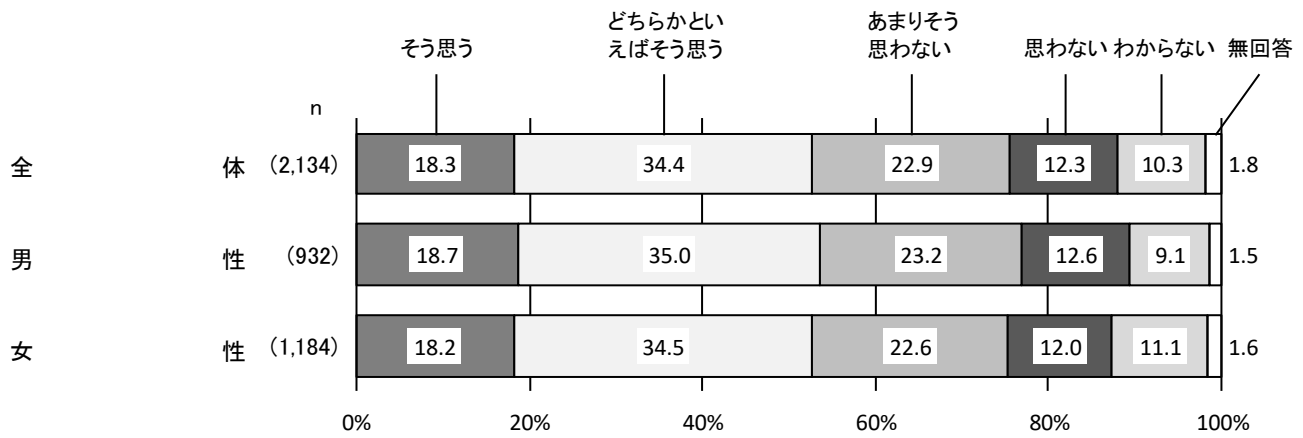


居住年数別にみると、「思う」は、1～3年未満の居住（41.8%）が4割強、5～10年未満の居住（40.6%）、3～5年未満の居住（40.5%）がそれぞれ約4割、1年未満の居住（40.0%）が4割と高くなっている。「思わない」は、15～20年未満の居住（65.2%）が6割台半ばと高くなっている。（図 11-26）

(12) 外国人と交流したいと思うか

問11 あなたは、外国人と交流したいと思いますか。(○は1つだけ)

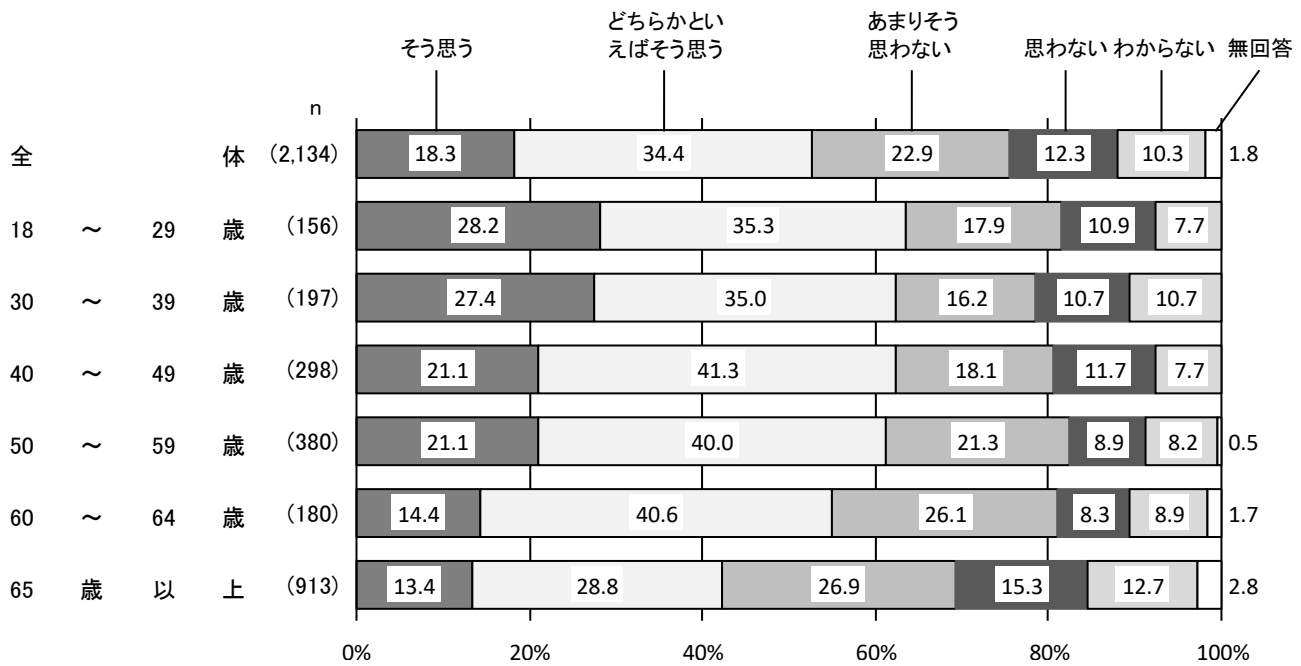
図12-1 外国人と交流したいと思うか — 全体、性別



外国人と交流したいと思うかを聞いたところ、「そう思う」(18.3%)と「どちらかといえばそう思う」(34.4%)を合わせた《思う》(52.7%)は、5割強となっている。一方、「あまりそう思わない」(22.9%)と「思わない」(12.3%)を合わせた《思わない》(35.2%)は、3割台半ばとなっている。

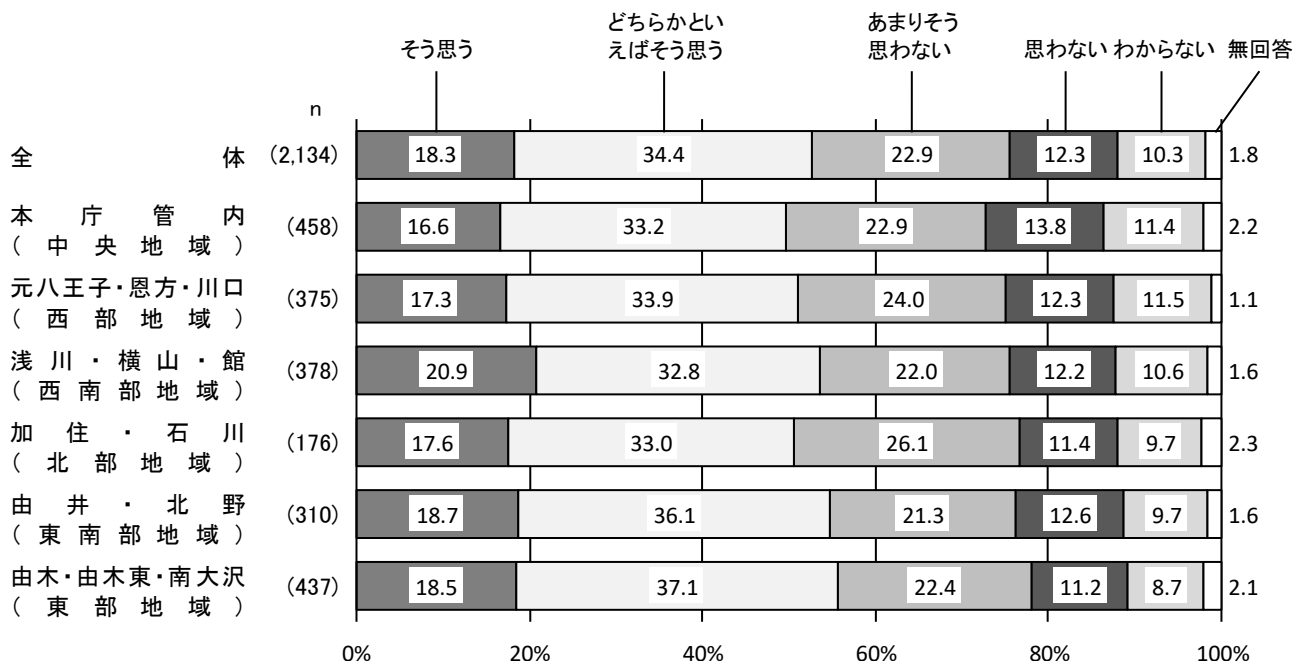
性別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図12-1)

図 12-2 外国人と交流したいと思うか - 年齢別



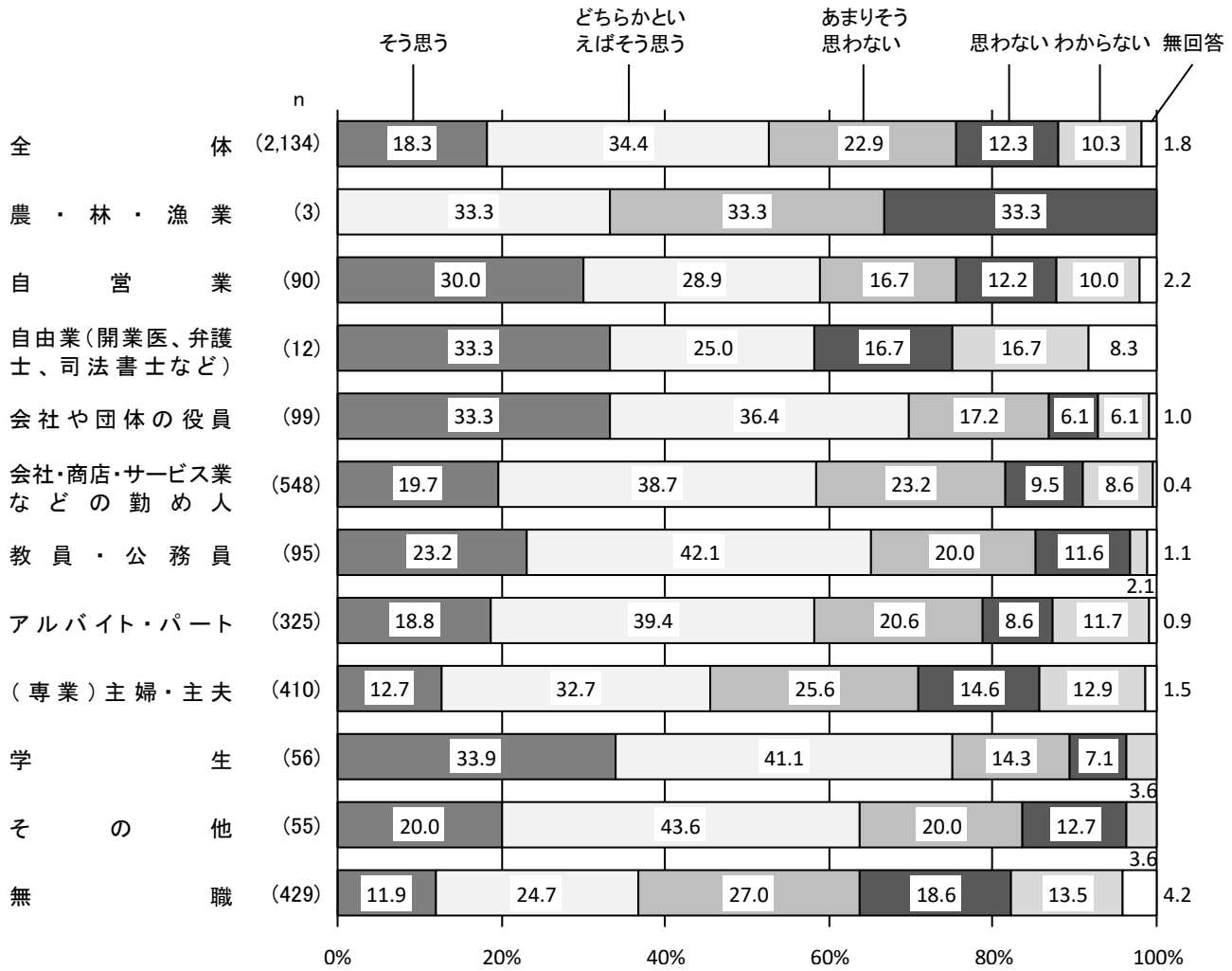
年齢別にみると、《思う》は、18～29歳（63.5%）が6割強、40～49歳（62.4%）、30～39歳（62.4%）、50～59歳（61.1%）がそれぞれ6割強と高くなっている。《思わない》は、65歳以上（42.2%）が4割強と高くなっている。（図 12-2）

図 12-3 外国人と交流したいと思うか - 居住地域別



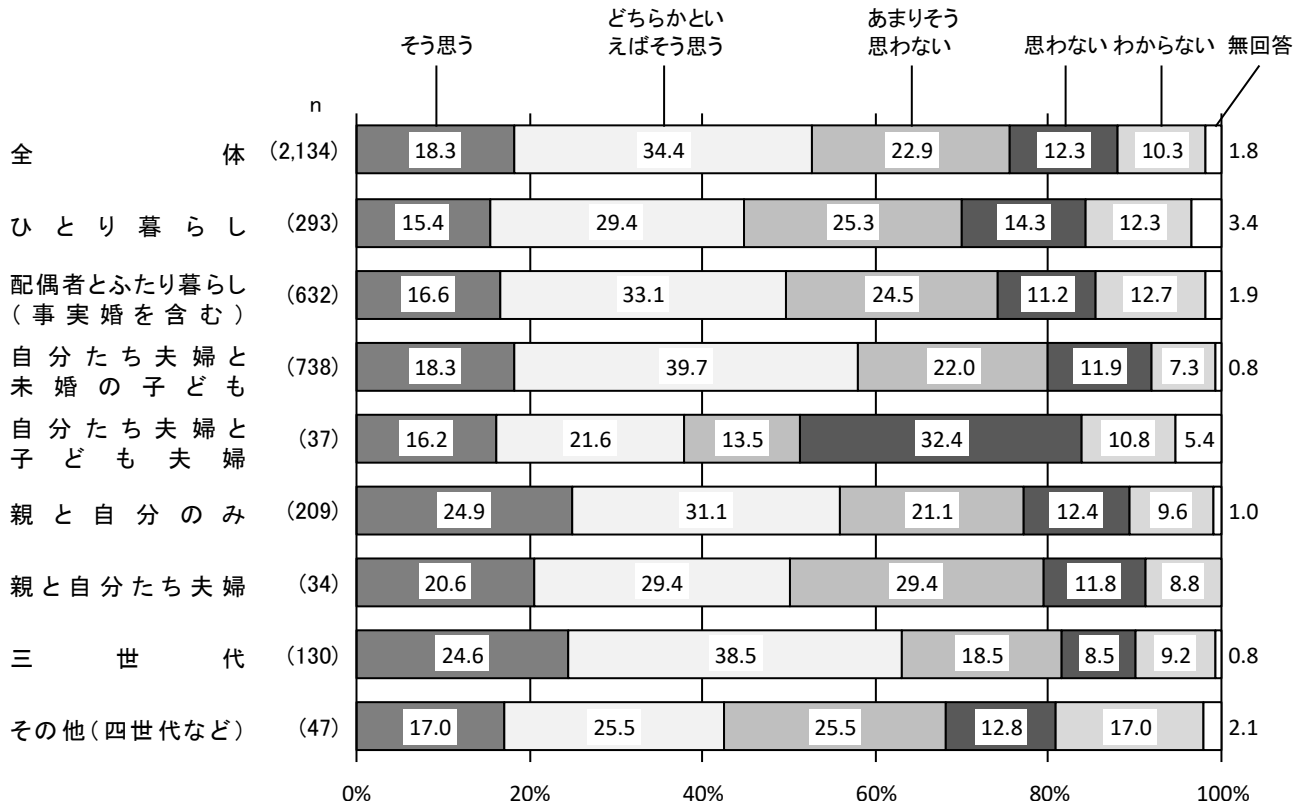
居住地域別にみると、傾向に大きな違いはみられない。（図 12-3）

図 12-4 外国人と交流したいと思うか - 職業別



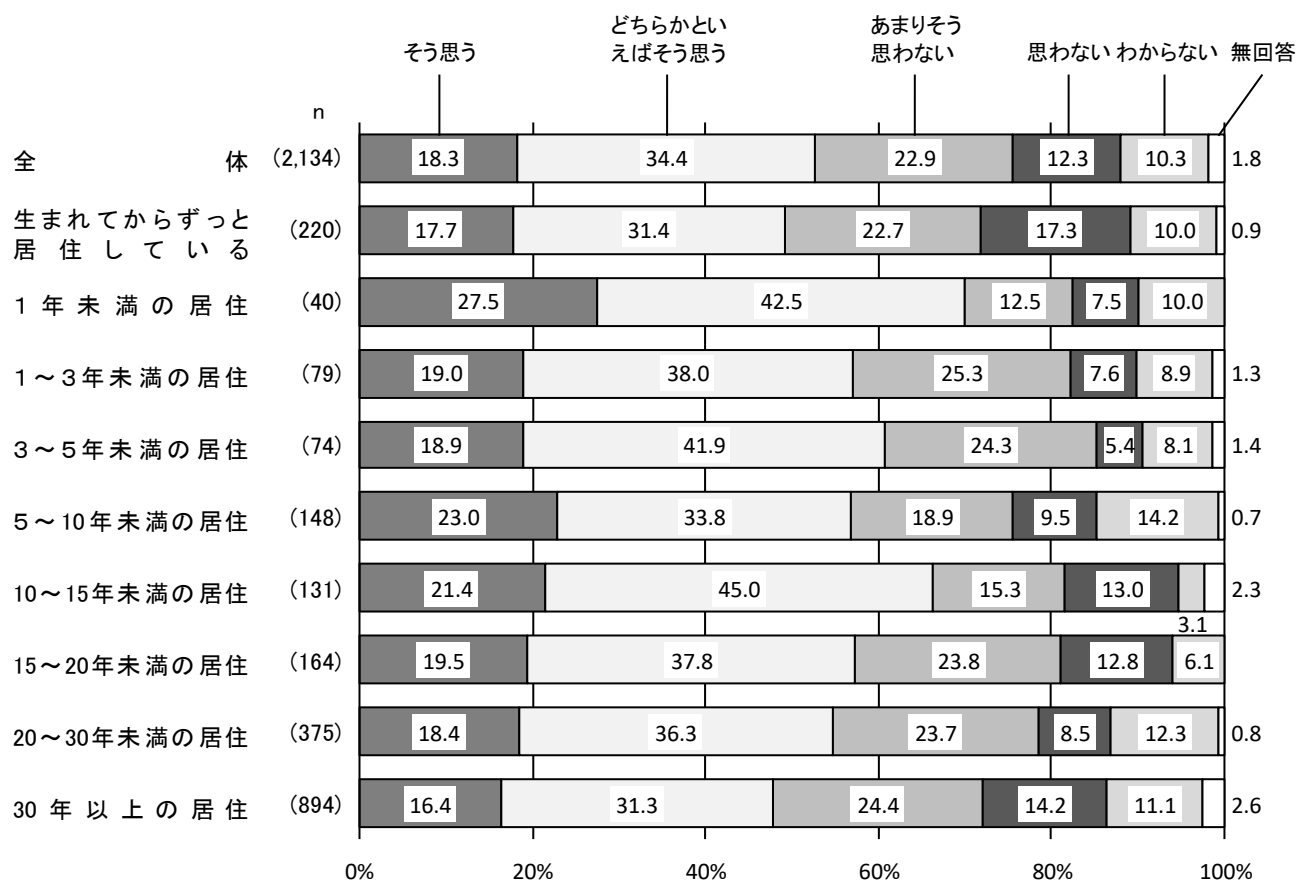
職業別にみると、「思う」は、学生 (75.0%) が7割台半ば、会社や団体の役員 (69.7%) が7割弱、教員・公務員 (65.3%) が6割台半ば、その他 (63.6%) が6割強、自営業 (58.9%)、会社・商店・サービス業などの勤め人 (58.4%)、アルバイト・パート (58.2%) がそれぞれ6割近くと高くなっている。「思わない」は、無職 (45.6%) が4割台半ばと高くなっている。(図 12-4)

図 12-5 外国人と交流したいと思うか - 世帯構成別



世帯構成別にみると、「思う」は、三世代（63.1%）が6割強、自分たち夫婦と未婚の子ども（58.0%）が6割近くと高くなっている。「思わない」は、自分たち夫婦と子ども夫婦（45.9%）が4割台半ば、親と自分たち夫婦（41.2%）が4割強と高くなっている。（図 12-5）

図 12-6 外国人と交流したいと思うか - 居住年数別

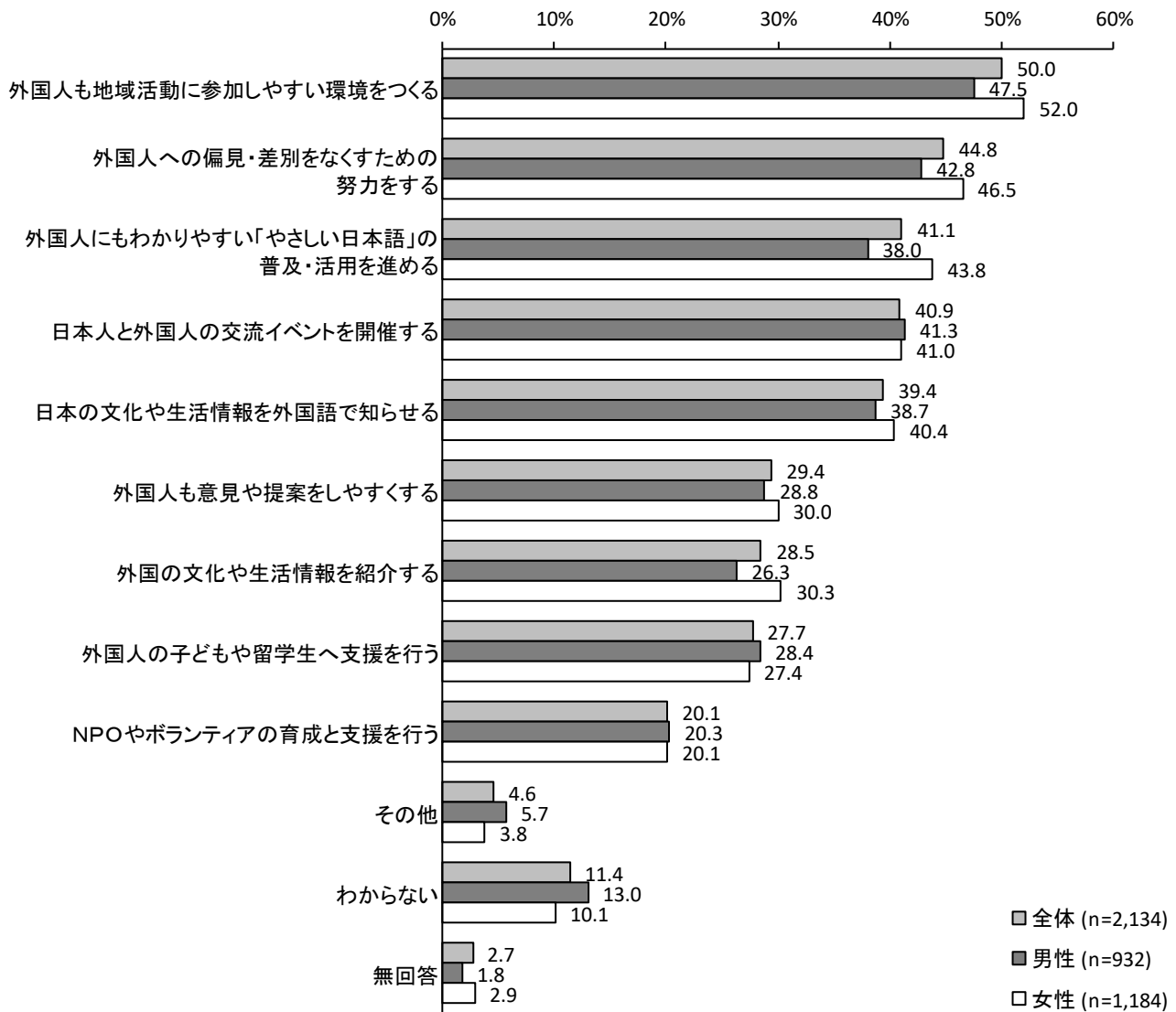


居住年数別にみると、「思う」は、1年未満の居住（70.0%）が7割、10～15年未満の居住（66.4%）が7割近く、3～5年未満の居住（60.8%）が約6割と高くなっている。（図12-6）

(13) 「多文化共生のまちづくり」を進めるために必要な取組

問12 「多文化共生のまちづくり」を進めるために、より対応が必要だと考える取組を以下から選択してください。
(〇はいくつでも)

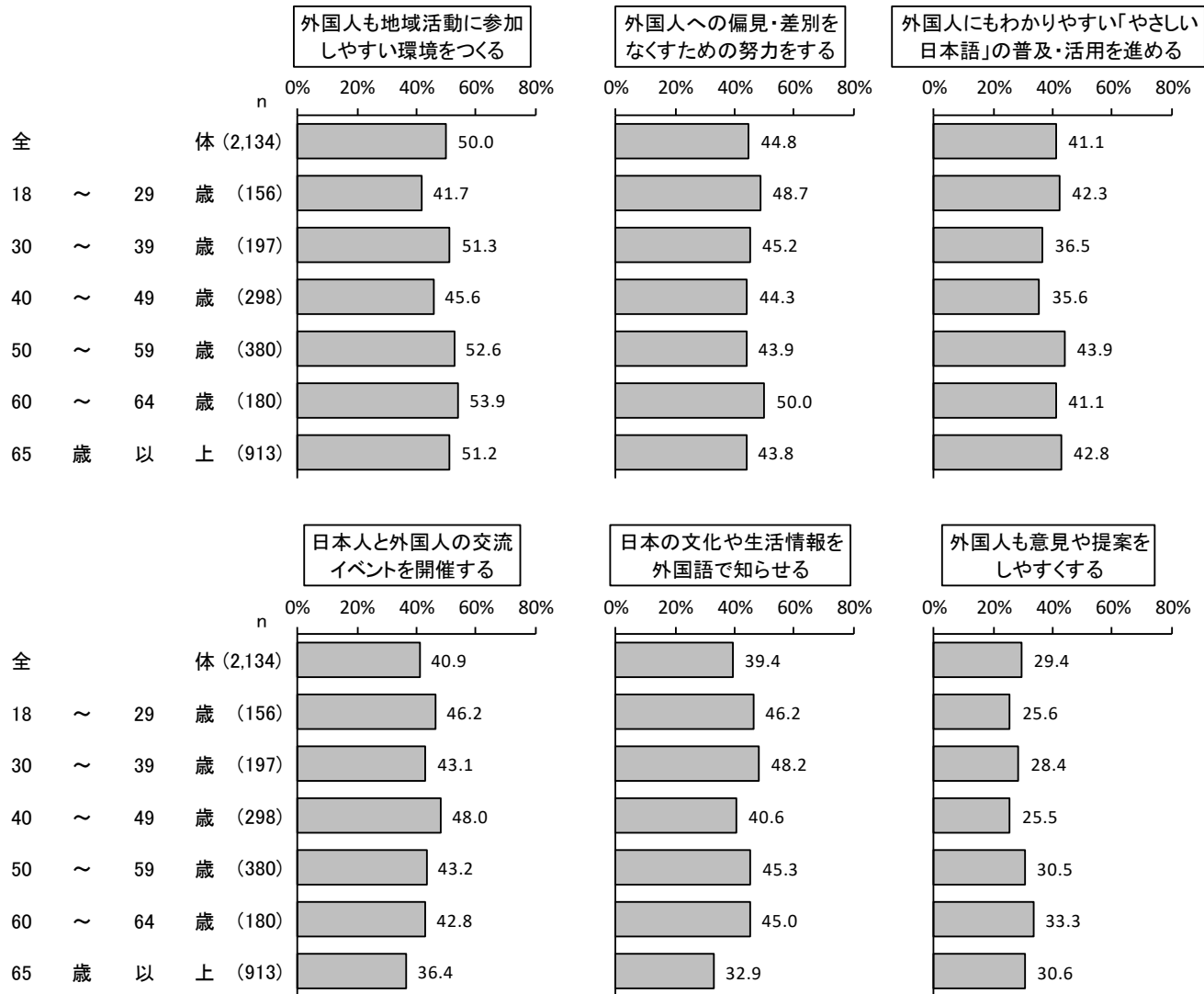
図13-1 「多文化共生のまちづくり」を進めるために必要な取組 — 全体、性別



「多文化共生のまちづくり」を進めるために対応が必要だと考える取組について聞いたところ、「外国人も地域活動に参加しやすい環境をつくる」(50.0%)が5割と最も高くなっている。次いで、「外国人への偏見・差別をなくすための努力をする」(44.8%)、「外国人にもわかりやすい『やさしい日本語』の普及・活用を進める」(41.1%)、「日本人と外国人の交流イベントを開催する」(40.9%)などの順となっている。

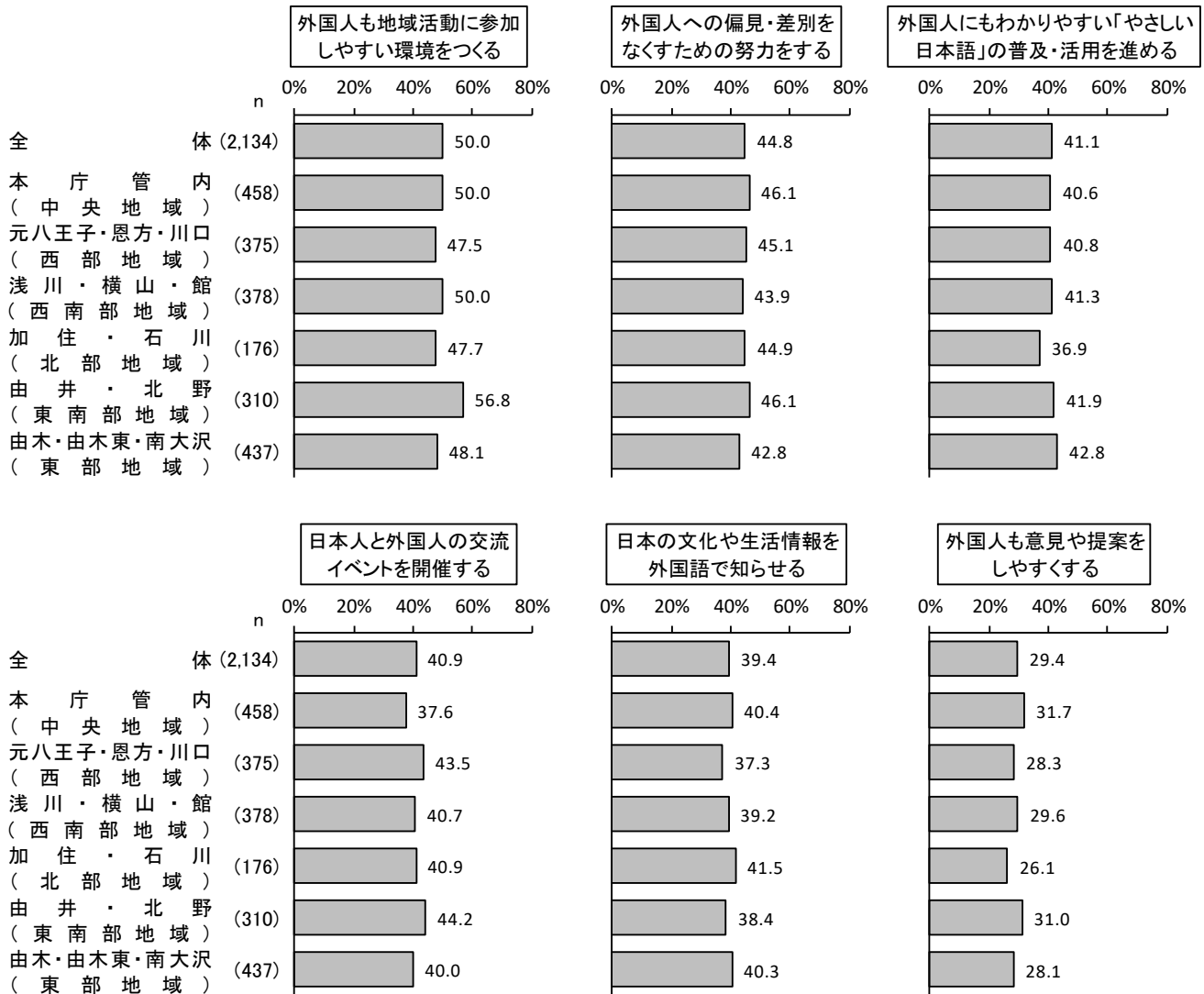
性別にみると、「外国人にもわかりやすい『やさしい日本語』の普及・活用を進める」は女性(43.8%)が男性(38.0%)より5.8ポイント高くなっている。(図13-1)

図 13-2 「多文化共生のまちづくり」を進めるために必要な取組 — 年齢別（上位6位）



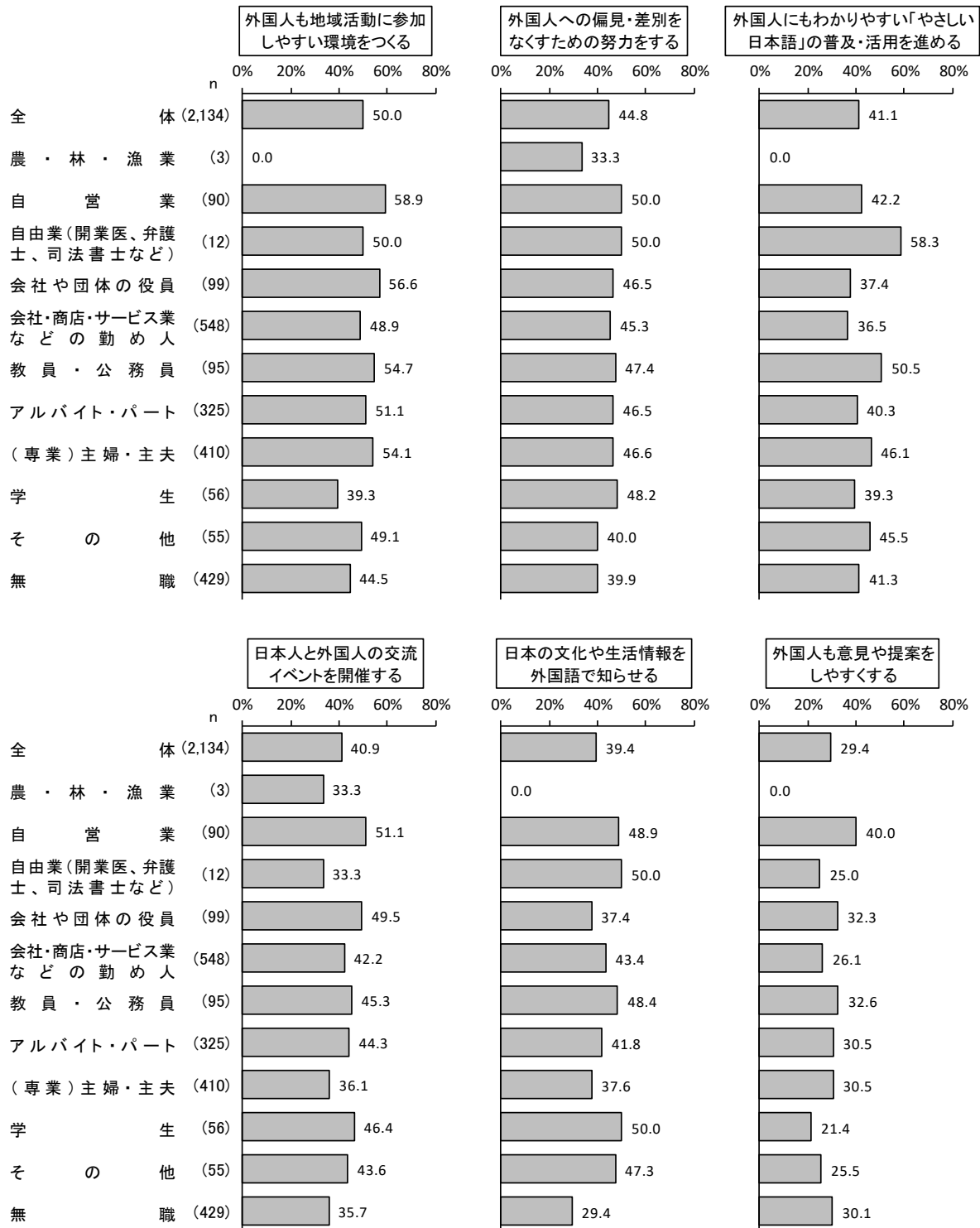
年齢別にみると、「外国人も地域活動に参加しやすい環境をつくる」は、18～29歳（41.7%）が4割強と低くなっている。「外国人への偏見・差別をなくすための努力をする」は、60～64歳（50.0%）が5割と高くなっている。「外国人にもわかりやすい『やさしい日本語』の普及・活用を進める」は、40～49歳（35.6%）が3割台半ばと低くなっている。「日本人と外国人の交流イベントを開催する」は、40～49歳（48.0%）、18～29歳（46.2%）がそれぞれ5割近くと高くなっている。「日本の文化や生活情報を外国語で知らせる」は、30～39歳（48.2%）、18～29歳（46.2%）がそれぞれ5割近く、50～59歳（45.3%）、60～64歳（45.0%）がそれぞれ4割台半ばと高くなっている。（図 13-2）

図 13-3 「多文化共生のまちづくり」を進めるために必要な取組 — 居住地域別（上位6位）



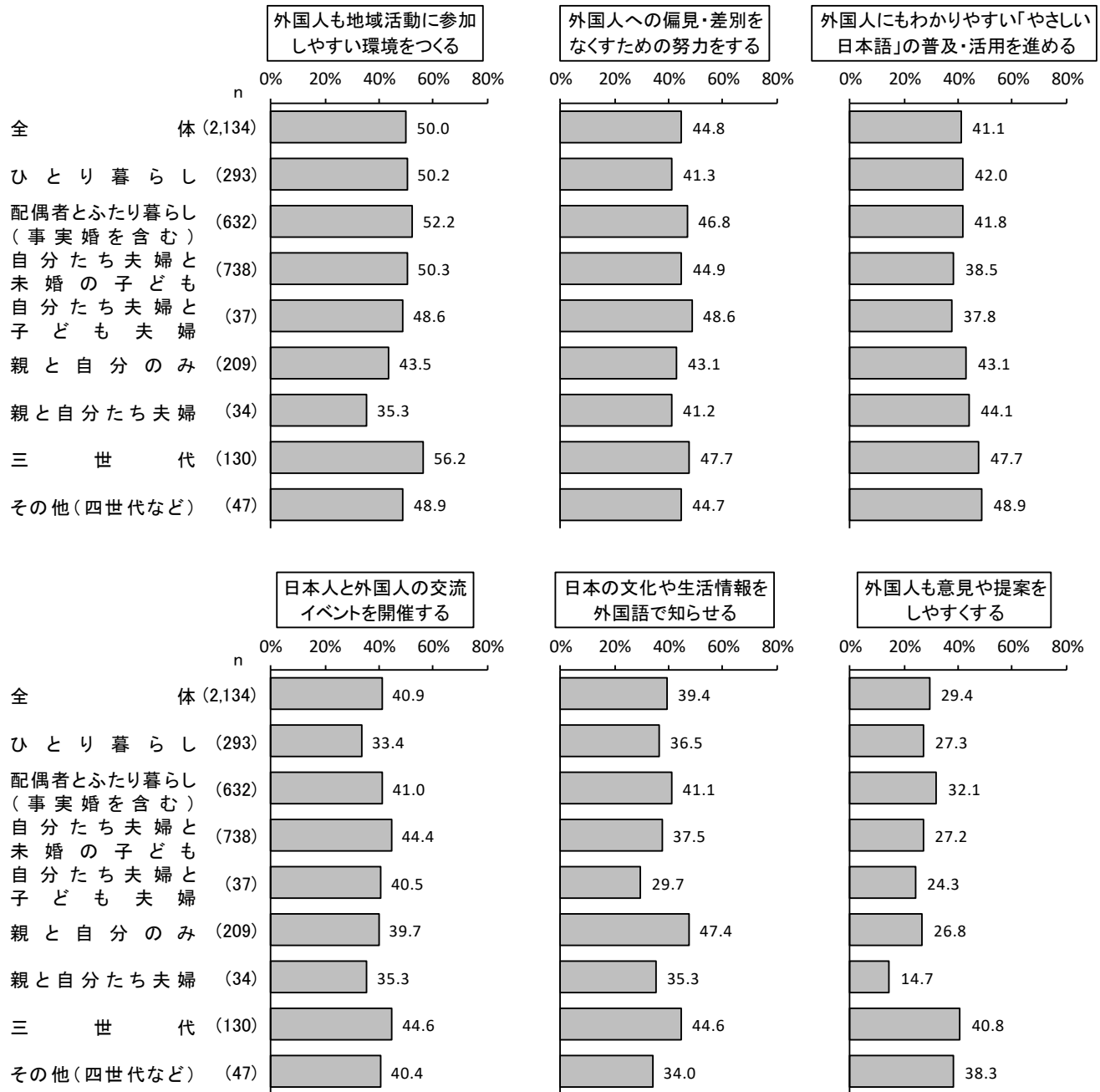
居住地域別にみると、「外国人も地域活動に参加しやすい環境をつくる」は、由井・北野(東南部地域) (56.8%) が6割近くと高くなっている。(図 13-3)

図13-4 「多文化共生のまちづくり」を進めるために必要な取組－職業別（上位6位）



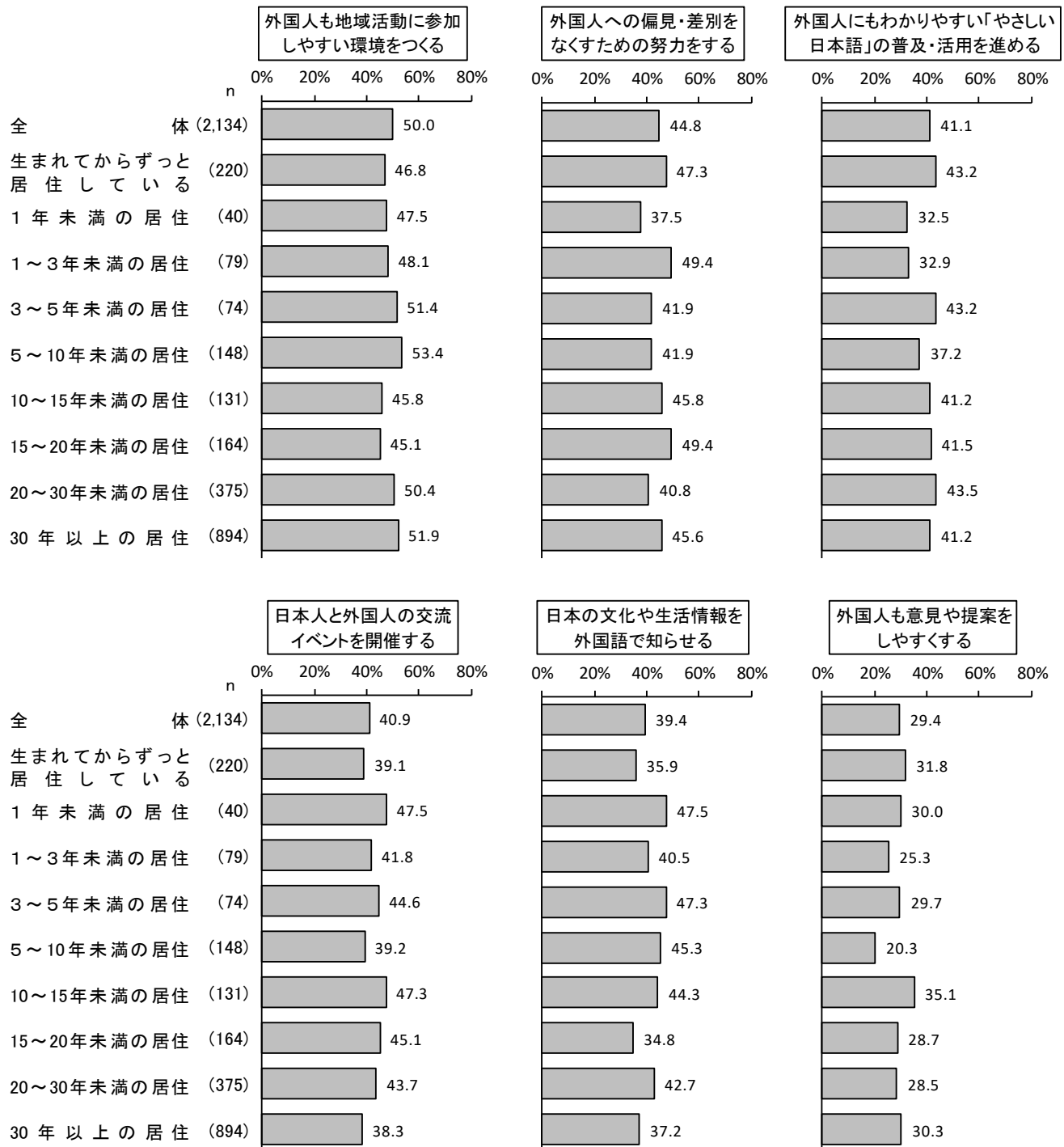
職業別にみると、「外国人も地域活動に参加しやすい環境をつくる」は、自営業(58.9%)、会社や団体の役員(56.6%)がそれぞれ6割近くと高くなっている。「外国人への偏見・差別をなくすための努力をする」は、自営業(50.0%)が5割と高くなっている。「外国人にもわかりやすい『やさしい日本語』の普及・活用を進める」は、教員・公務員(50.5%)が約5割と高くなっている。「日本人と外国人の交流イベントを開催する」は、自営業(51.1%)が5割強、会社や団体の役員(49.5%)が5割弱、学生(46.4%)が5割近くと高くなっている。「日本の文化や生活情報を外国語で知らせる」は、学生(50.0%)が5割、自営業(48.9%)、教員・公務員(48.4%)、その他(47.3%)がそれぞれ5割近くと高くなっている。「外国人も意見や提案をしやすくする」は、自営業(40.0%)が4割と高くなっている。(図13-4)

図 13-5 「多文化共生のまちづくり」を進めるために必要な取組 — 世帯構成別（上位 6 位）



世帯構成別にみると、「外国人も地域活動に参加しやすい環境をつくる」は、三世代（56.2%）が6割近くと高くなっている。「外国人にもわかりやすい『やさしい日本語』の普及・活用を進める」は、その他（四世代など）（48.9%）、三世代（47.7%）がそれぞれ5割近くと高くなっている。「日本人と外国人の交流イベントを開催する」は、ひとり暮らし（33.4%）が3割強と低くなっている。「日本の文化や生活情報を外国語で知らせる」は、親と自分のみ（47.4%）が5割近く、三世代（44.6%）が4割台半ばと高くなっている。「外国人も意見や提案をしやすくする」は、三世代（40.8%）が約4割、その他（四世代など）（38.3%）が4割近くと高くなっている。（図 13-5）

図 13-6 「多文化共生のまちづくり」を進めるために必要な取組 — 居住年数別（上位6位）

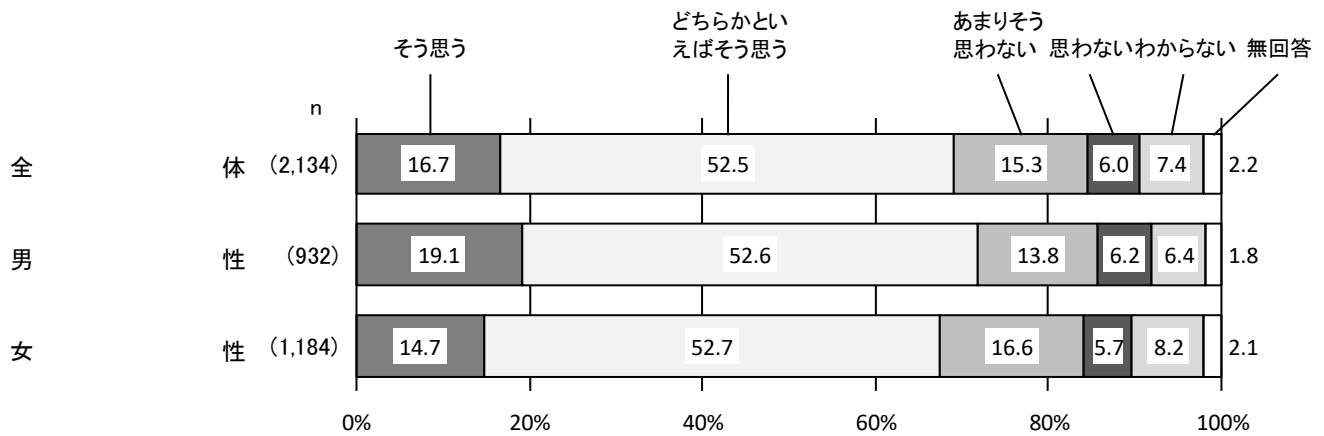


居住年数別にみると、「外国人への偏見・差別をなくすための努力をする」は、1年未満の居住（37.5%）が4割近くと低くなっている。「外国人にもわかりやすい『やさしい日本語』の普及・活用を進める」は、1年未満の居住（32.5%）が3割強と低くなっている。「日本人と外国人の交流イベントを開催する」は、1年未満の居住（47.5%）、10～15年未満の居住（47.3%）がそれぞれ5割近くと高くなっている。「日本の文化や生活情報を外国語で知らせる」は、1年未満の居住（47.5%）、3～5年未満の居住（47.3%）がそれぞれ5割近く、5～10年未満の居住（45.3%）が4割台半ばと高くなっている。「外国人も意見や提案をしやすいとする」は、10～15年未満の居住（35.1%）が3割台半ばと高くなっている。（図 13-6）

(14) 「安心して医療を受けられるまち」になっていると思うか

問13 あなたは、八王子市が「安心して医療を受けられるまち」になっていると思いますか。(○は1つだけ)

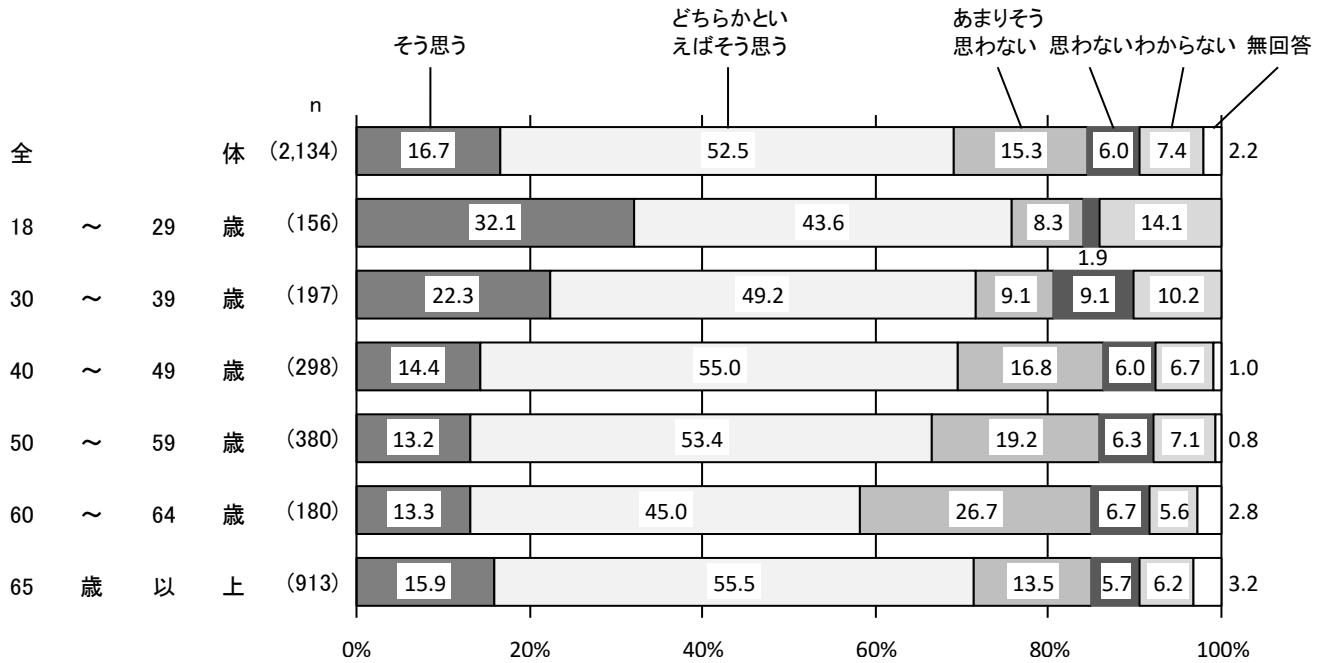
図14-1 「安心して医療を受けられるまち」になっていると思うか - 全体、性別



「安心して医療を受けられるまち」になっていると思うかを聞いたところ、「そう思う」(16.7%)と「どちらかといえばそう思う」(52.5%)を合わせた《思う》(69.2%)は、7割弱となっている。一方、「あまりそう思わない」(15.3%)と「思わない」(6.0%)を合わせた《思わない》(21.3%)は、2割強となっている。

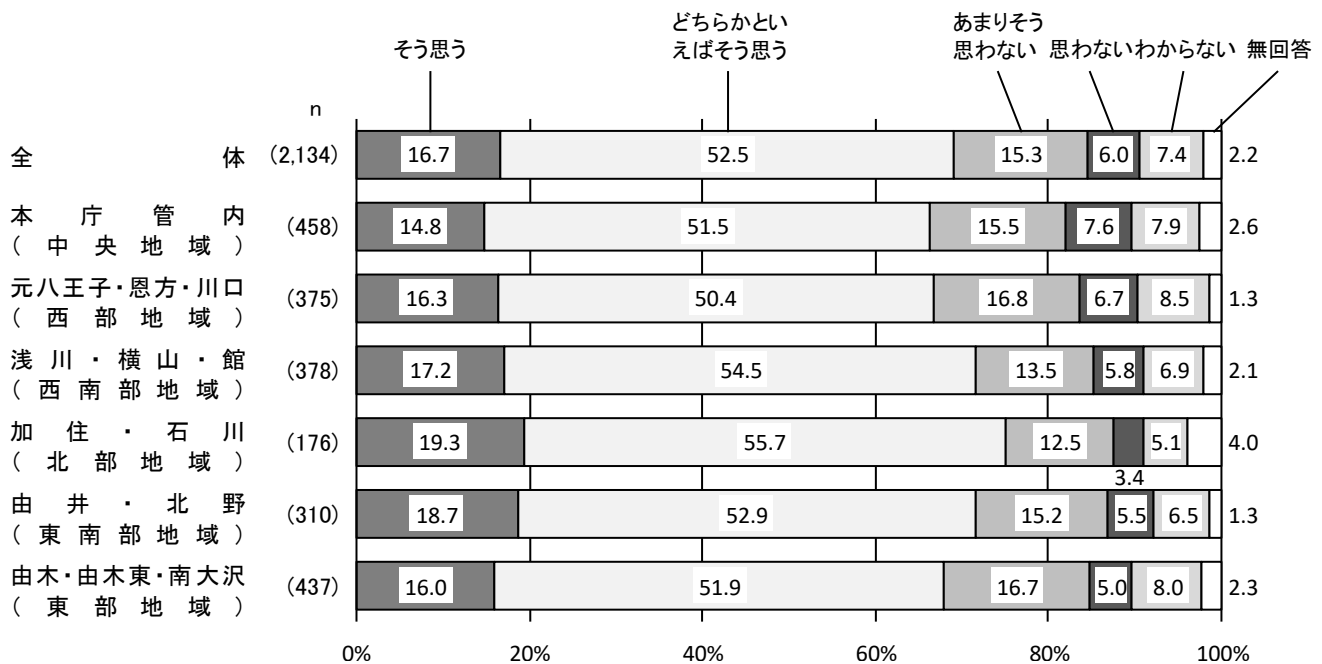
性別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図14-1)

図 14-2 「安心して医療を受けられるまち」になっていると思うか - 年齢別



年齢別にみると、《思う》は、18～29 歳（75.7%）が7割台半ばと高くなっている。《思わない》は、60～64 歳（33.4%）が3割強と高くなっている。（図 14-2）

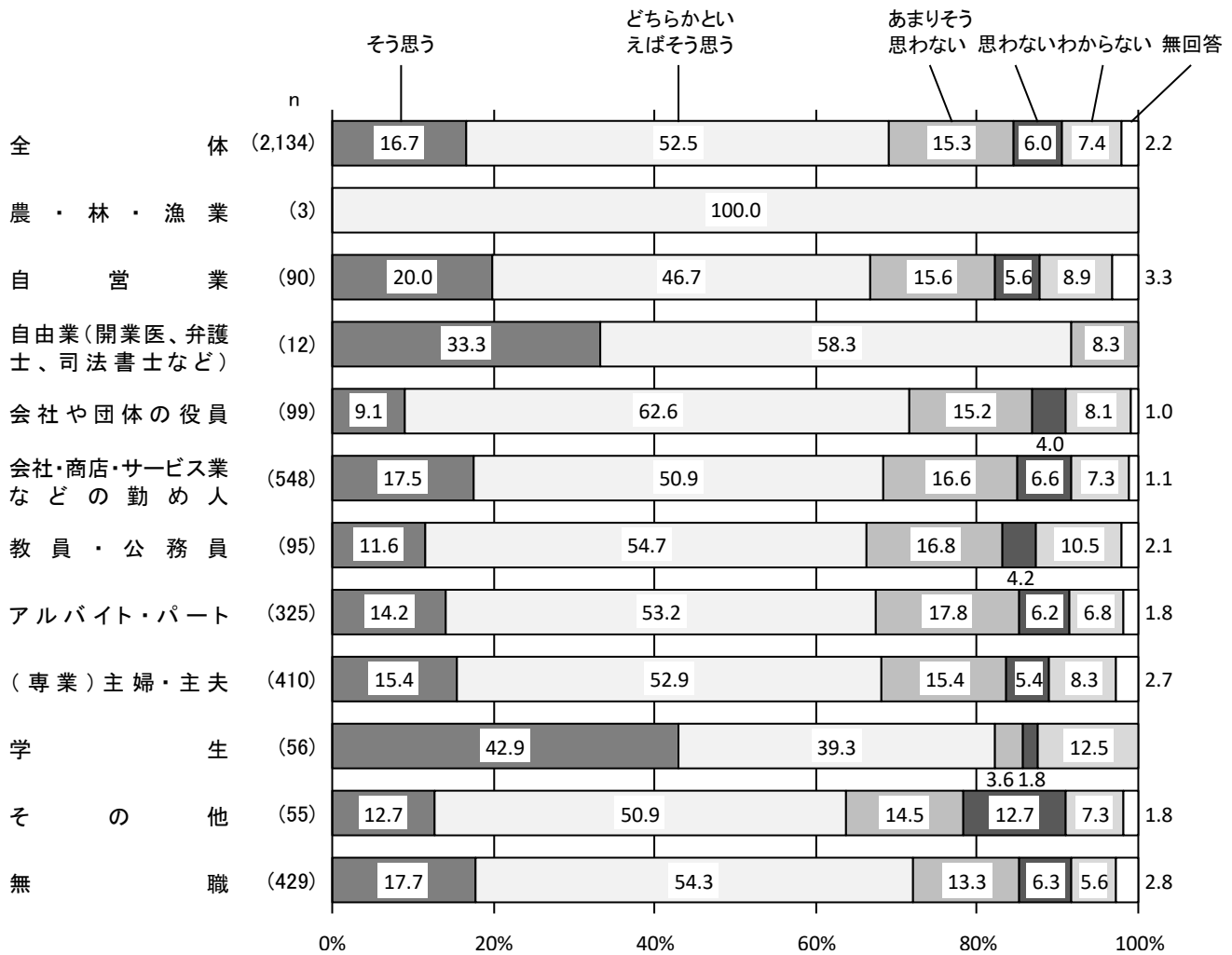
図 14-3 「安心して医療を受けられるまち」になっていると思うか - 居住地域別



居住地域別にみると、《思う》は、加住・石川（北部地域）（75.0%）が7割台半ばと高くなっている。

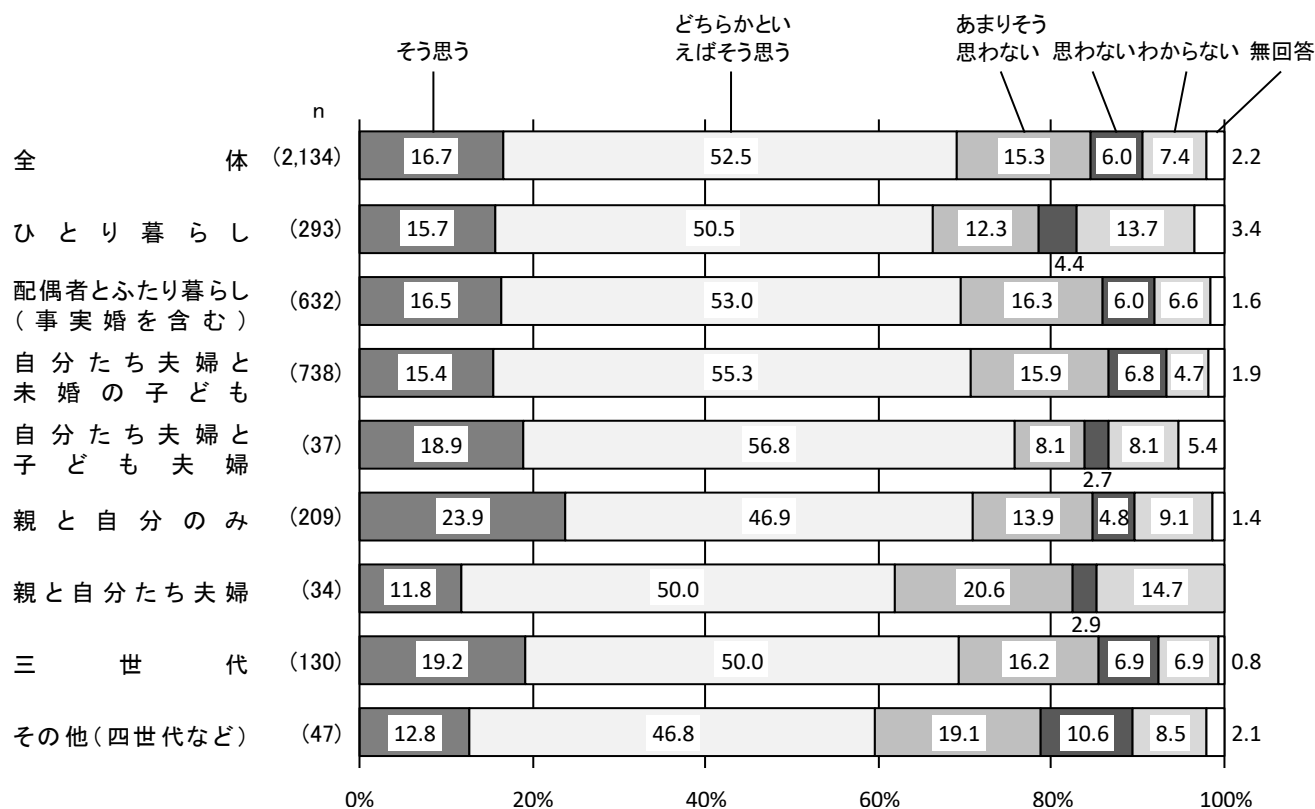
（図 14-3）

図 14-4 「安心して医療を受けられるまち」になっていると思うか - 職業別



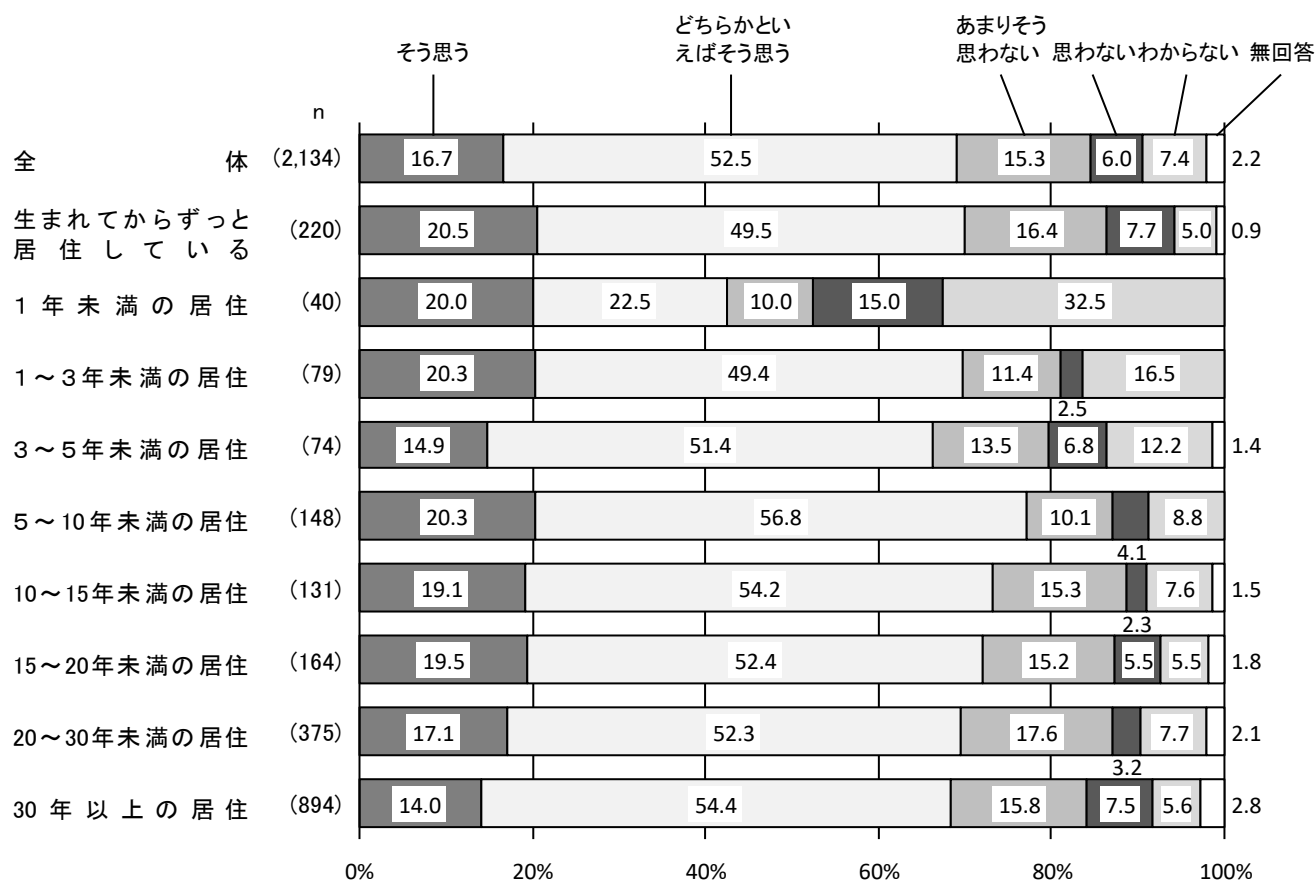
職業別にみると、《思う》は、学生(82.2%)が8割強と高くなっている。《思わない》は、その他(27.2%)が3割近くと高くなっている。(図 14-4)

図 14-5 「安心して医療を受けられるまち」になっていると思うか - 世帯構成別



世帯構成別にみると、「思う」は、自分たち夫婦と子ども夫婦（75.7%）が7割台半ばと高くなっている。「思わない」は、その他（四世代など）（29.7%）が3割弱と高くなっている。（図 14-5）

図 14-6 「安心して医療を受けられるまち」になっていると思うか - 居住年数別

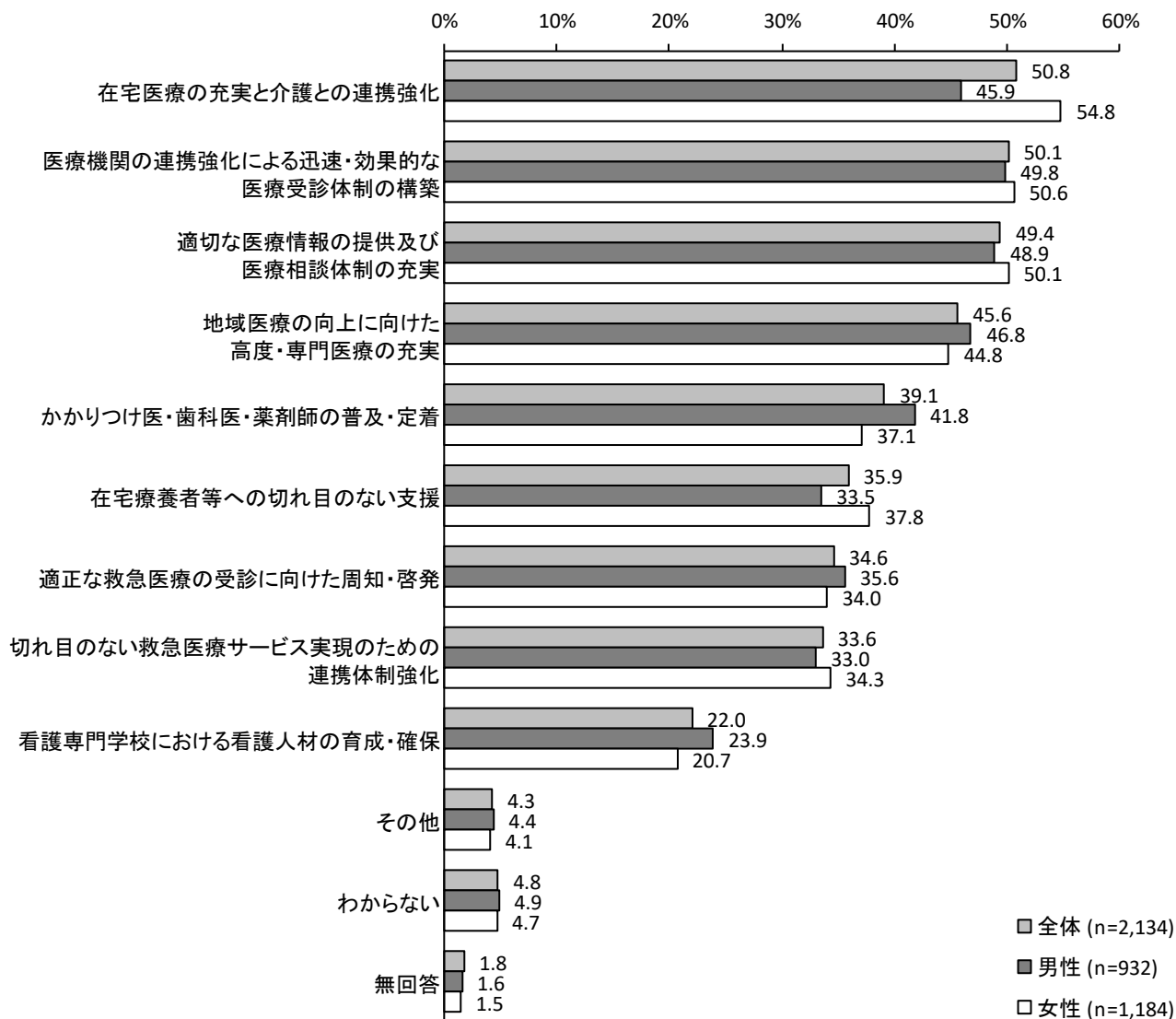


居住年数別にみると、「思う」は、5～10年未満の居住（77.1%）が8割近くと高くなっている。「思わない」は、1～3年未満の居住（13.9%）が1割強と低くなっている。（図 14-6）

(15) 医療分野において力を入れた方がよいと考える取組

問 14 今後、医療分野において、力を入れた方がよいと考える取組を以下から選択してください。
(〇はいくつでも)

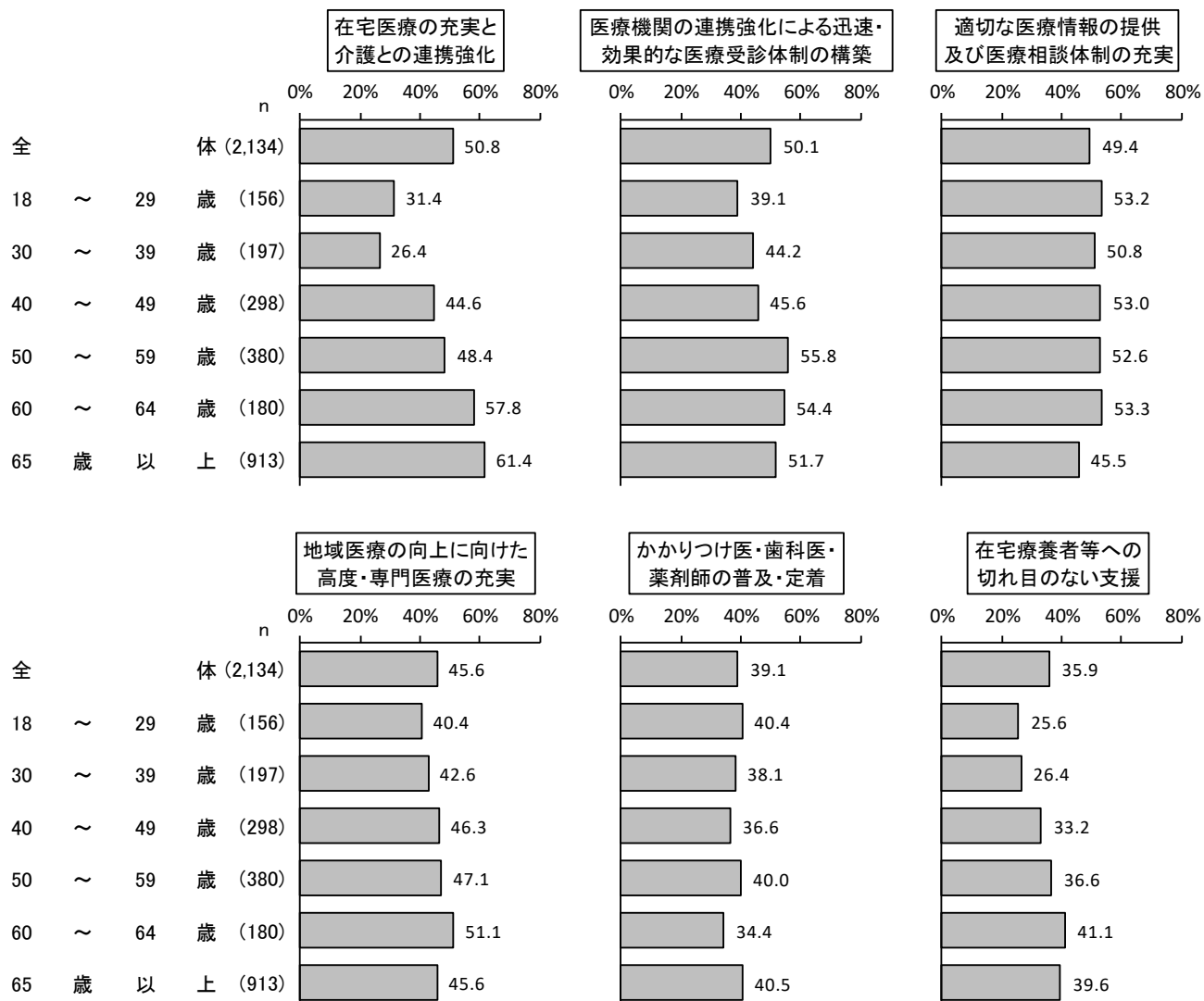
図 15-1 医療分野において力を入れた方がよいと考える取組 — 全体、性別



医療分野において力を入れた方がよいと考える取組について聞いたところ、「在宅医療の充実と介護との連携強化」(50.8%)が約5割と最も高くなっている。次いで、「医療機関の連携強化による迅速・効果的な医療受診体制の構築」(50.1%)、「適切な医療情報の提供及び医療相談体制の充実」(49.4%)、「地域医療の向上に向けた高度・専門医療の充実」(45.6%)などの順となっている。

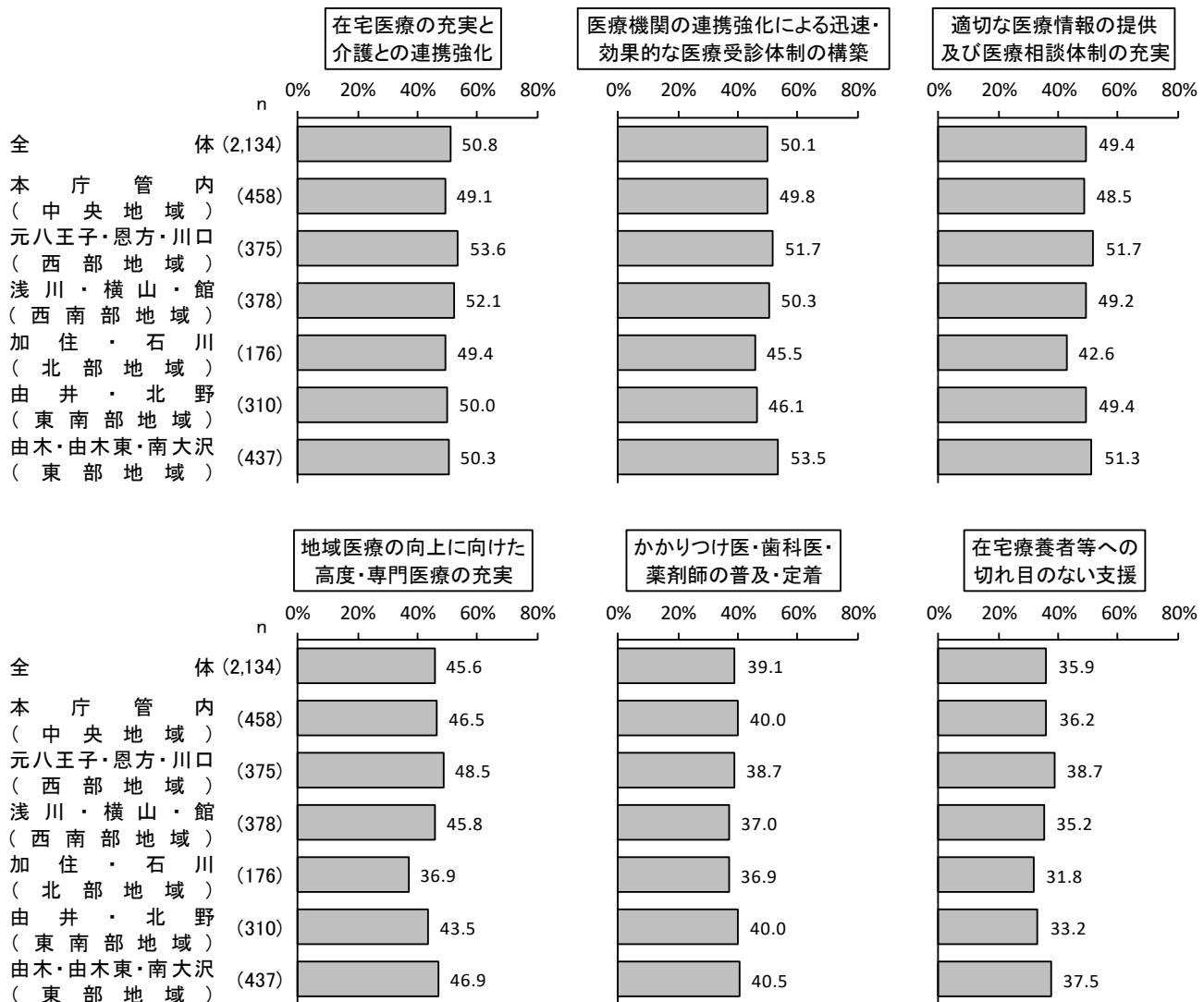
性別にみると、「在宅医療の充実と介護との連携強化」は、女性(54.8%)が男性(45.9%)より8.9ポイント高くなっている。(図 15-1)

図 15-2 医療分野において力を入れた方がよいと考える取組 — 年齢別（上位6位）



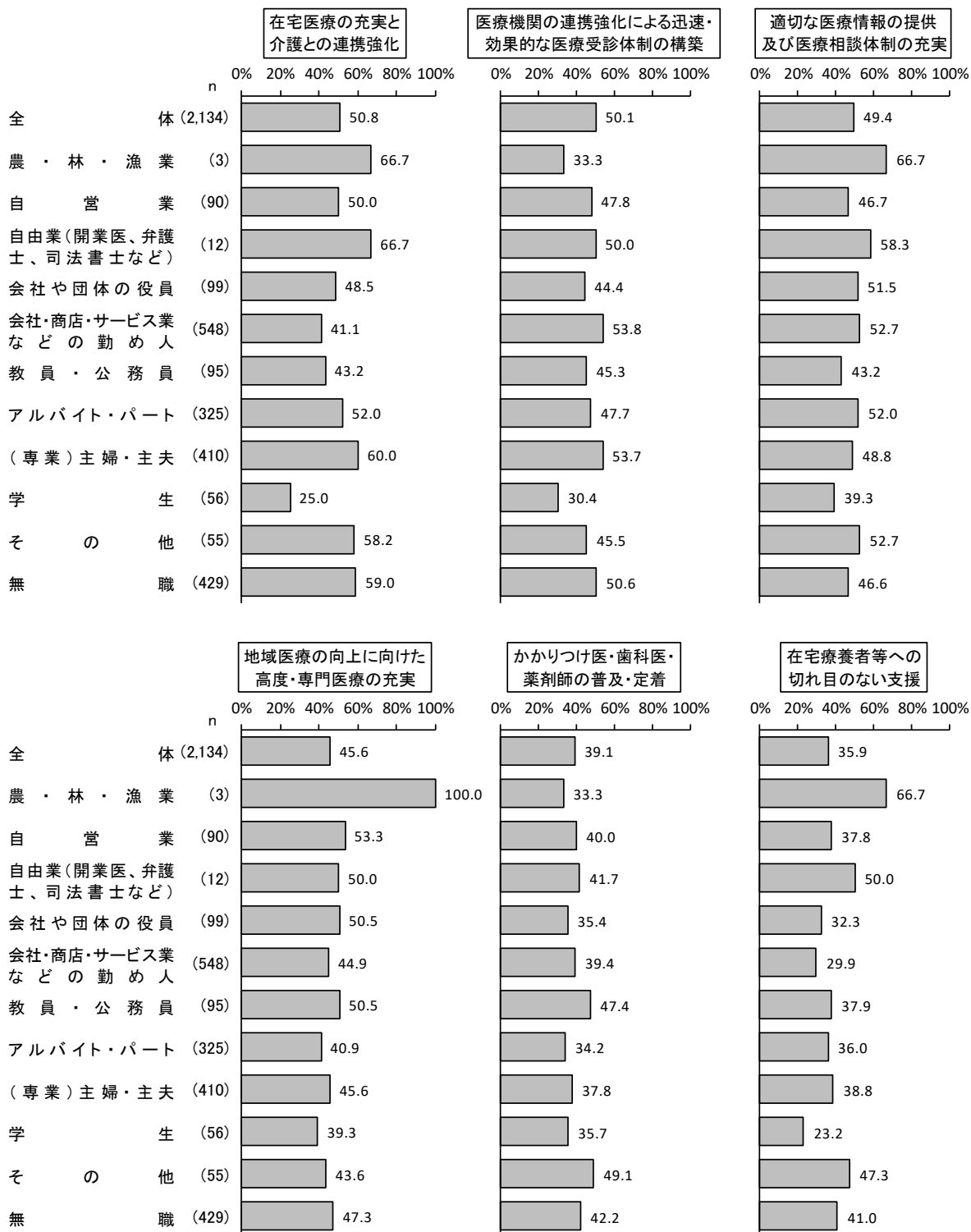
年齢別にみると、「在宅医療の充実と介護との連携強化」は、65歳以上(61.4%)が6割強、60～64歳(57.8%)が6割近くと高くなっている。「医療機関の連携強化による迅速・効果的な医療受診体制の構築」は、50～59歳(55.8%)が5割台半ばと高くなっている。「地域医療の向上に向けた高度・専門医療の充実」は、60～64歳(51.1%)が5割強と高くなっている。「在宅療養者等への切れ目のない支援」は、60～64歳(41.1%)が4割強と高くなっている。(図 15-2)

図 15-3 医療分野において力を入れた方がよいと考える取組 - 居住地域別（上位6位）



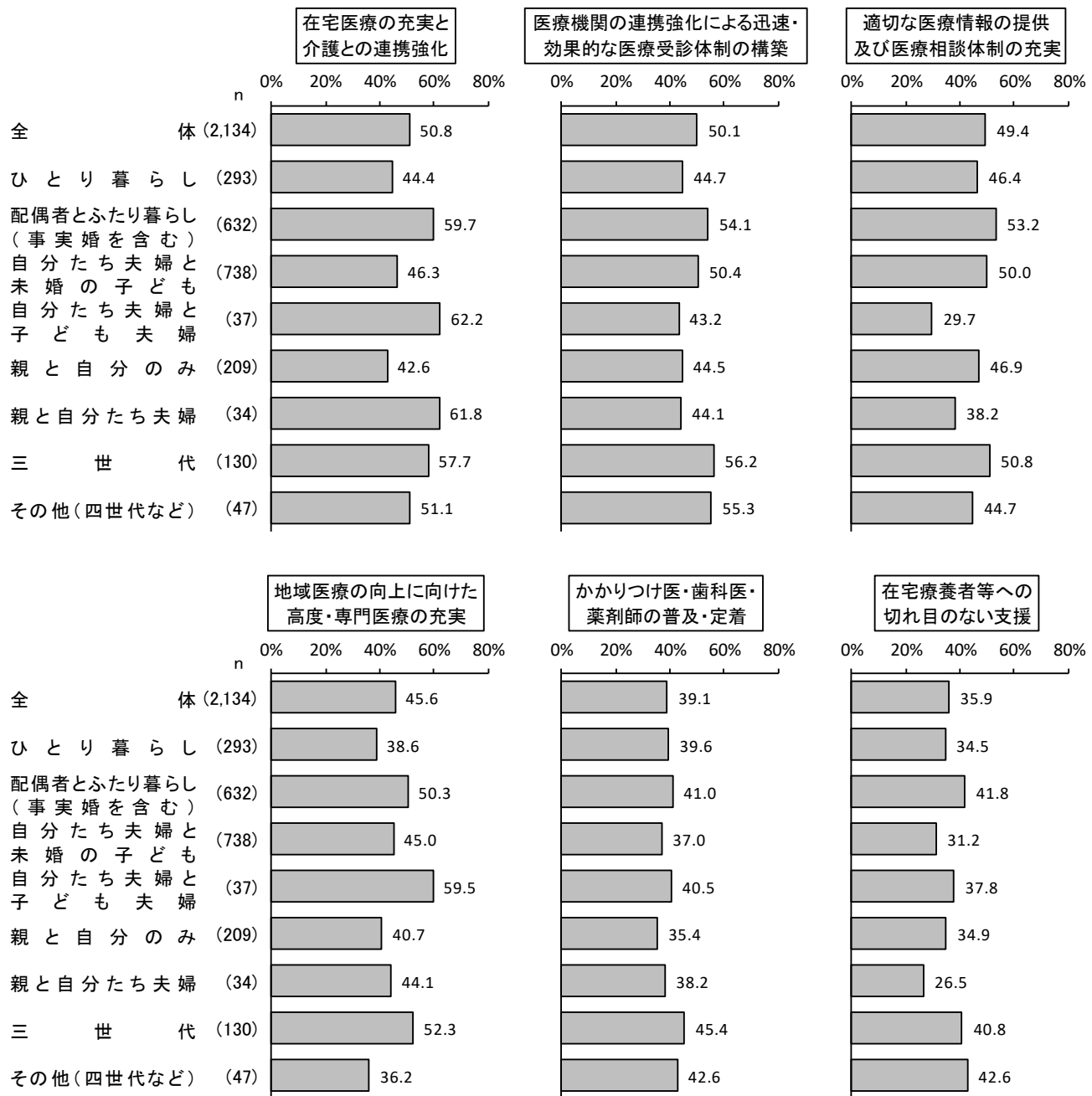
居住地域別にみると、「適切な医療情報の提供及び医療相談体制の充実」は、加住・石川（北部地域）（42.6%）が4割強と低くなっている。「地域医療の向上に向けた高度・専門医療の充実」は、加住・石川（北部地域）（36.9%）が4割近くと低くなっている。（図 15-3）

図 15-4 医療分野において力を入れた方がよいと考える取組 — 職業別（上位6位）



職業別にみると、「在宅医療の充実と介護との連携強化」は、(専業)主婦・主夫(60.0%)が6割、無職(59.0%)が6割弱、その他(58.2%)が6割近くと高くなっている。「医療機関の連携強化による迅速・効果的な医療受診体制の構築」は、学生(30.4%)が約3割と低くなっている。「適切な医療情報の提供及び医療相談体制の充実」は、学生(39.3%)が4割弱と低くなっている。「地域医療の向上に向けた高度・専門医療の充実」は、自営業(53.3%)が5割強と高くなっている。「かかりつけ医・歯科医・薬剤師の普及・定着」は、その他(49.1%)が5割弱、教員・公務員(47.4%)が5割近くと高くなっている。「在宅療養者等への切れ目のない支援」は、その他(47.3%)が5割近く、無職(41.0%)が4割強と高くなっている。(図15-4)

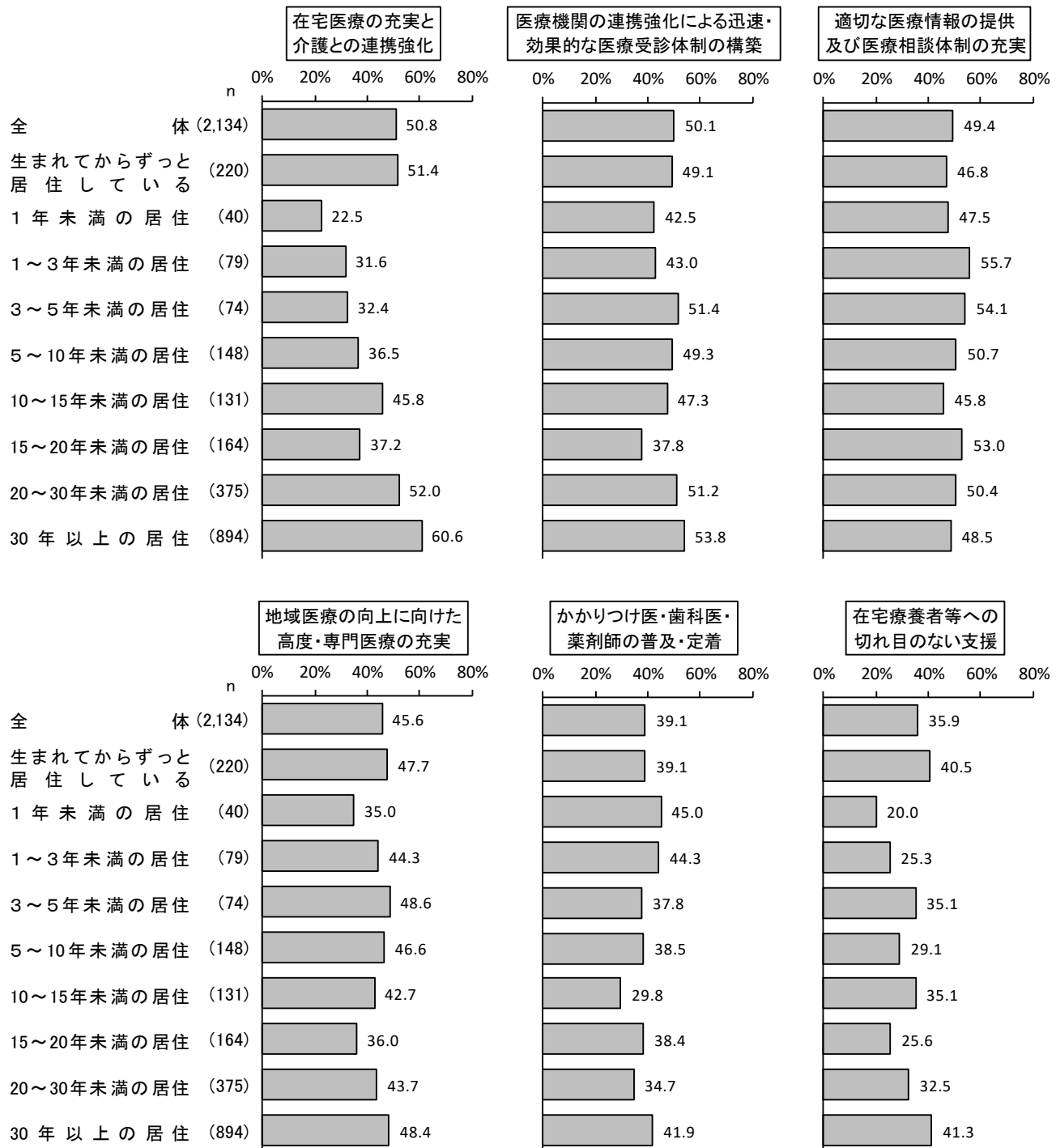
図 15-5 医療分野において力を入れた方がよいと考える取組 - 世帯構成別 (上位6位)



世帯構成別にみると、「在宅医療の充実と介護との連携強化」は、自分たち夫婦と子ども夫婦 (62.2%)、親と自分たち夫婦 (61.8%) がそれぞれ6割強、配偶者とふたり暮らし (事実婚を含む) (59.7%) が6割弱、三世帯 (57.7%) が6割近くと高くなっている。「医療機関の連携強化による迅速・効果的な医療受診体制の構築」は、三世帯 (56.2%) が6割近く、その他 (四世代など) (55.3%) が5割台半ばと高くなっている。「適切な医療情報の提供及び医療相談体制の充実」は、自分たち夫婦と子ども夫婦 (29.7%) が3割弱と低くなっている。「地域医療の向上に向けた高度・専門医療の充実」は、自分たち夫婦と子ども夫婦 (59.5%) が6割弱、三世帯 (52.3%) が5割強と高くなっている。「かかりつけ医・歯科医・薬剤師の普及・定着」は、三世帯 (45.4%) が4割台半ばと高くなっている。「在宅療養者等への切れ目のない支援」は、その他 (四世代など) (42.6%)、配偶者とふたり暮らし (事実婚を含む) (41.8%) がそれぞれ4割強と高くなっている。

(図 15-5)

図 15-6 医療分野において力を入れた方がよいと考える取組 - 居住年数別（上位6位）

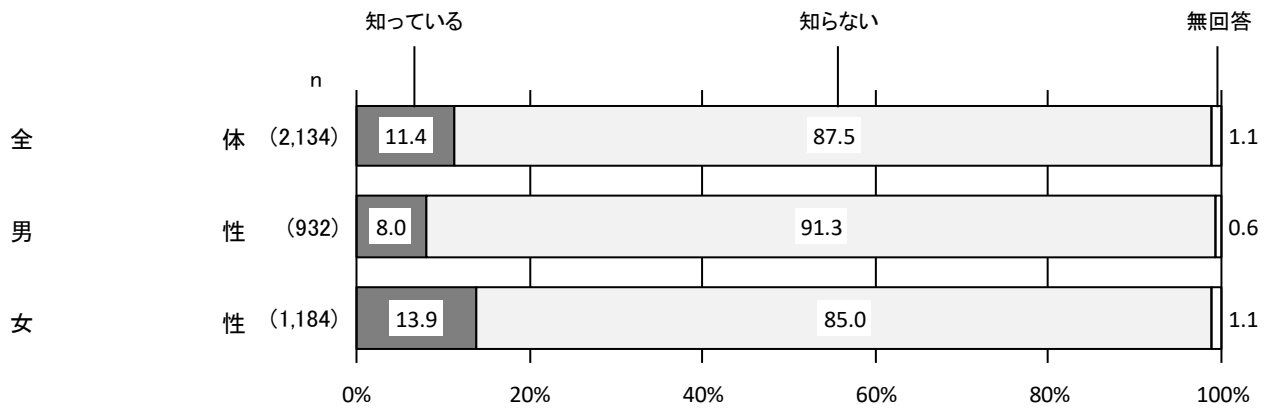


居住年数別にみると、「在宅医療の充実と介護との連携強化」は、30年以上の居住（60.6%）が約6割と高くなっている。「医療機関の連携強化による迅速・効果的な医療受診体制の構築」は、15～20年未満の居住（37.8%）が4割近くと低くなっている。「適切な医療情報の提供及び医療相談体制の充実」は、1～3年未満の居住（55.7%）が5割台半ばと高くなっている。「地域医療の向上に向けた高度・専門医療の充実」は、1年未満の居住（35.0%）が3割台半ばと低くなっている。「かかりつけ医・歯科医・薬剤師の普及・定着」は、1年未満の居住（45.0%）、1～3年未満の居住（44.3%）がそれぞれ4割台半ばと高くなっている。「在宅療養者等への切れ目のない支援」は、30年以上の居住（41.3%）が4割強と高くなっている。（図 15-6）

(16) 「はちまるサポート」の認知の有無

問15 あなたは、「はちまるサポート」を知っていますか。(○は1つだけ)

図16-1 「はちまるサポート」の認知の有無 - 全体、性別

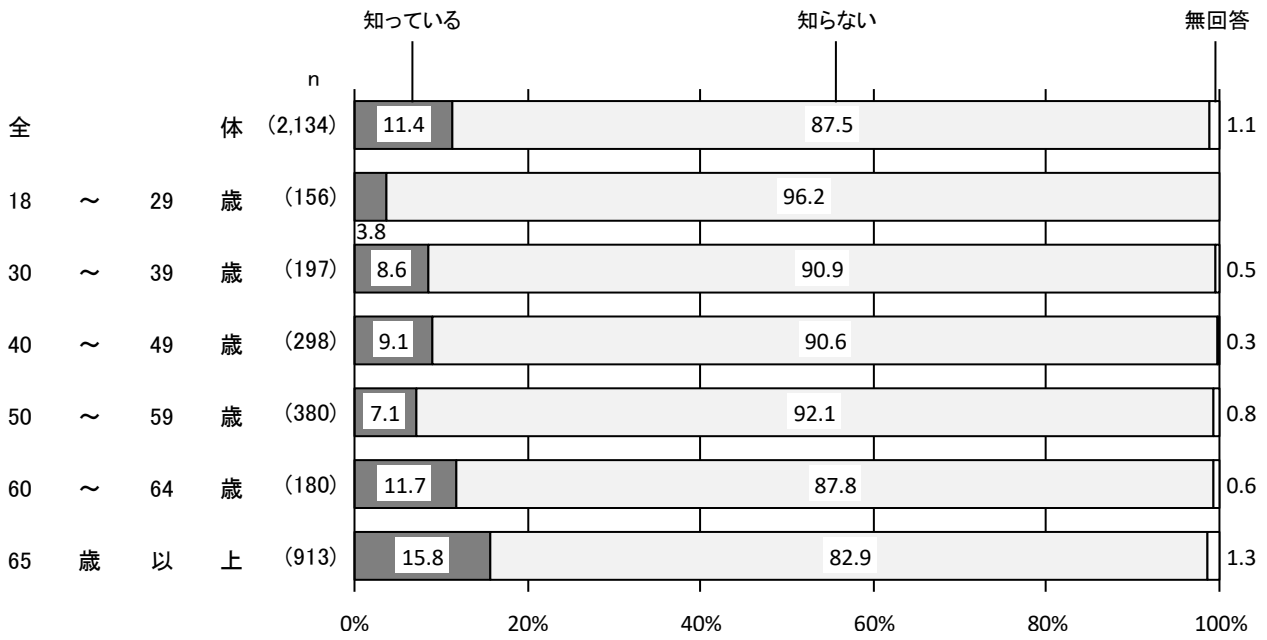


「はちまるサポート」を知っているかを聞いたところ、「知らない」(87.5%)は、9割近くとなっている。一方、「知っている」(11.4%)は、1割強となっている。

性別にみると、「知らない」は、男性(91.3%)が女性(85.0%)より6.3ポイント高くなっている。

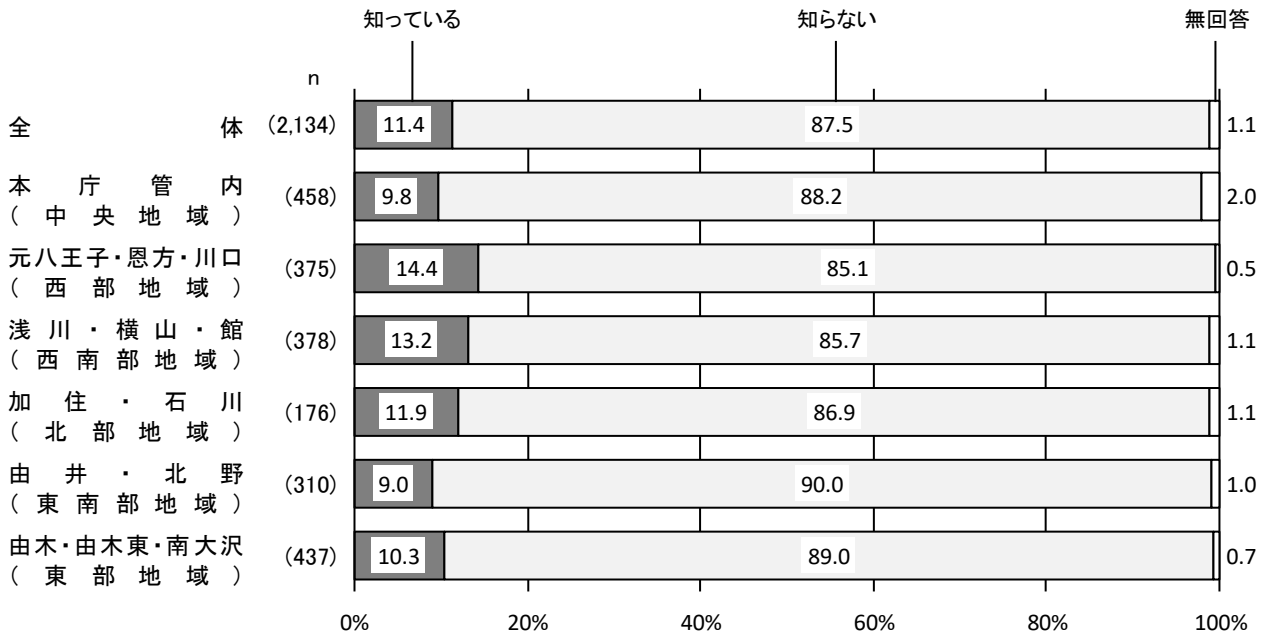
(図16-1)

図 16-2 「はちまるサポート」の認知の有無 - 年齢別



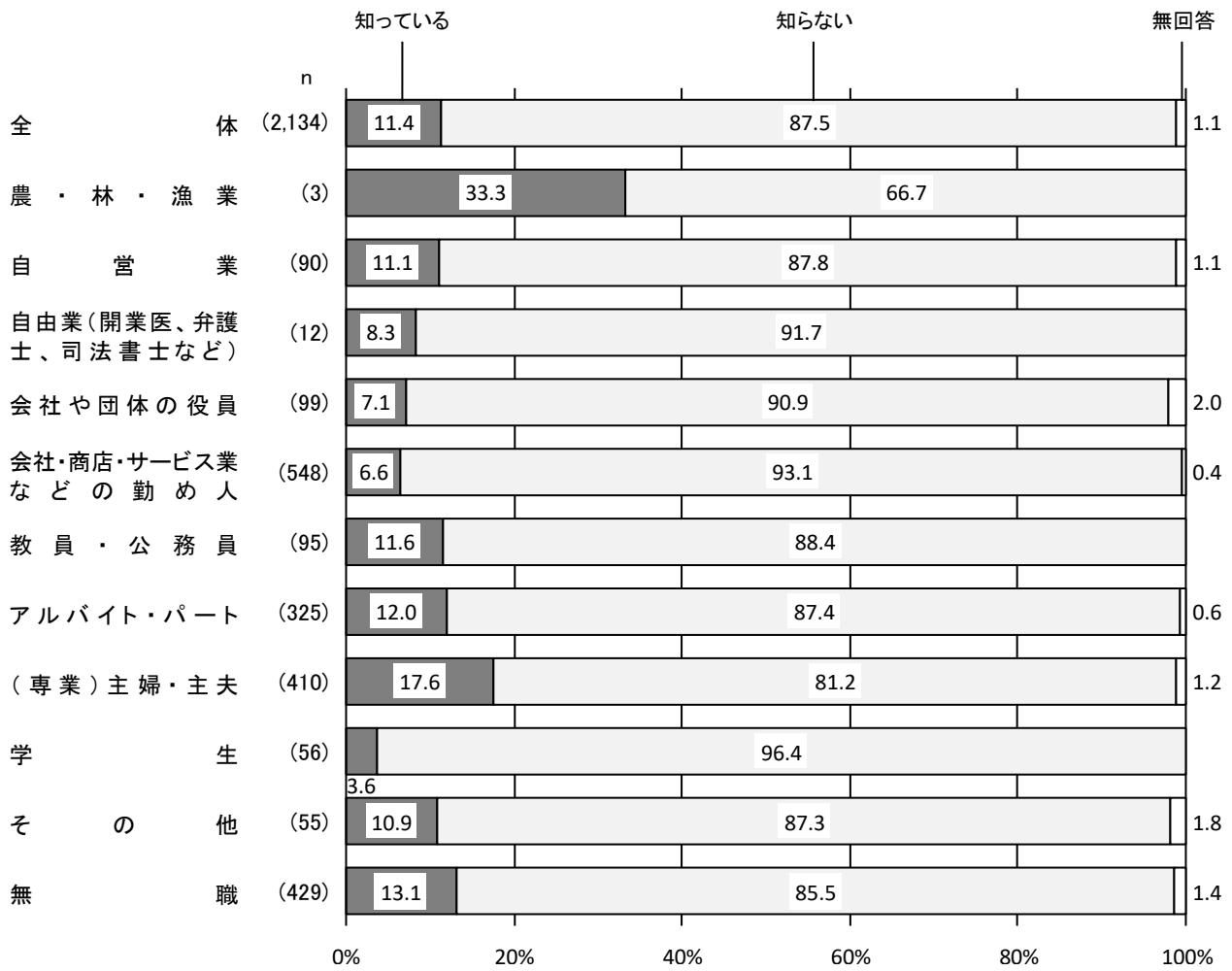
年齢別にみると、「知らない」は、18~29歳（96.2%）が10割近くと高くなっている。（図 16-2）

図 16-3 「はちまるサポート」の認知の有無 - 居住地域別



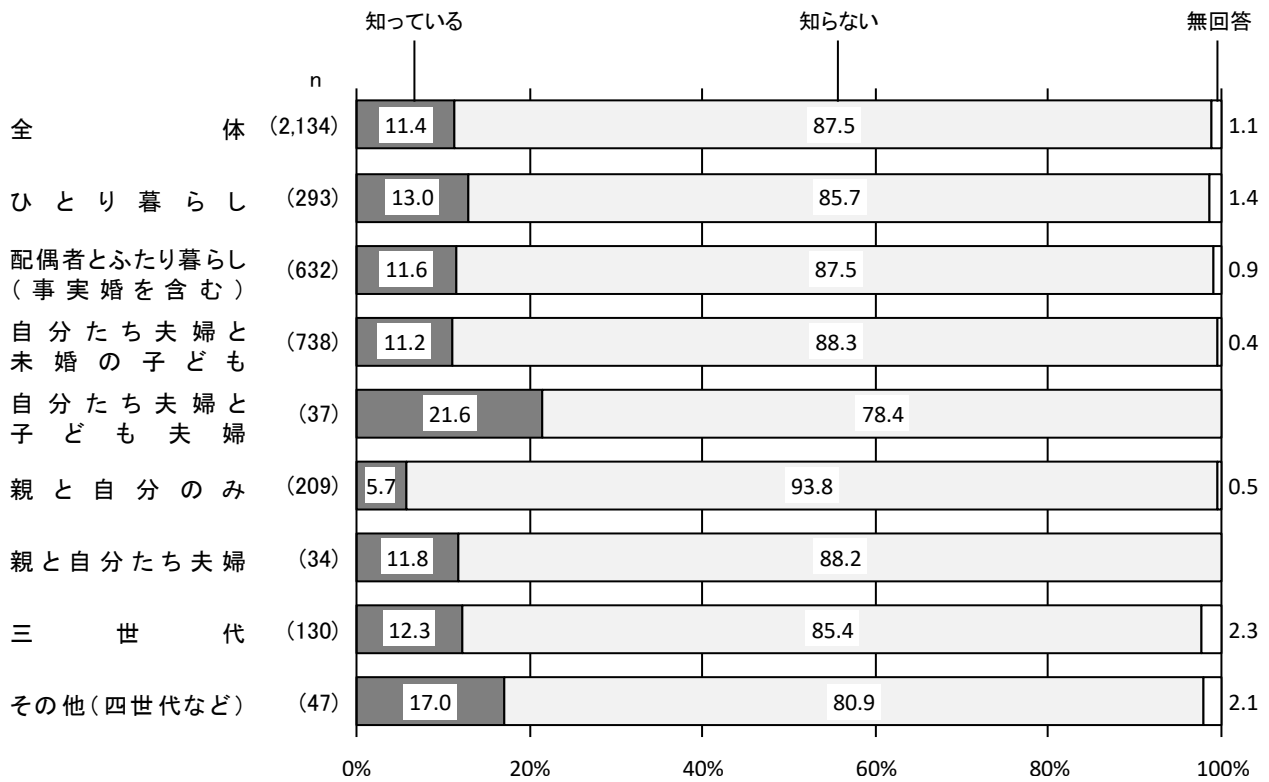
居住地域別にみると、大きな傾向の違いは見られない。（図 16-3）

図 16-4 「はちまるサポート」の認知の有無 - 職業別



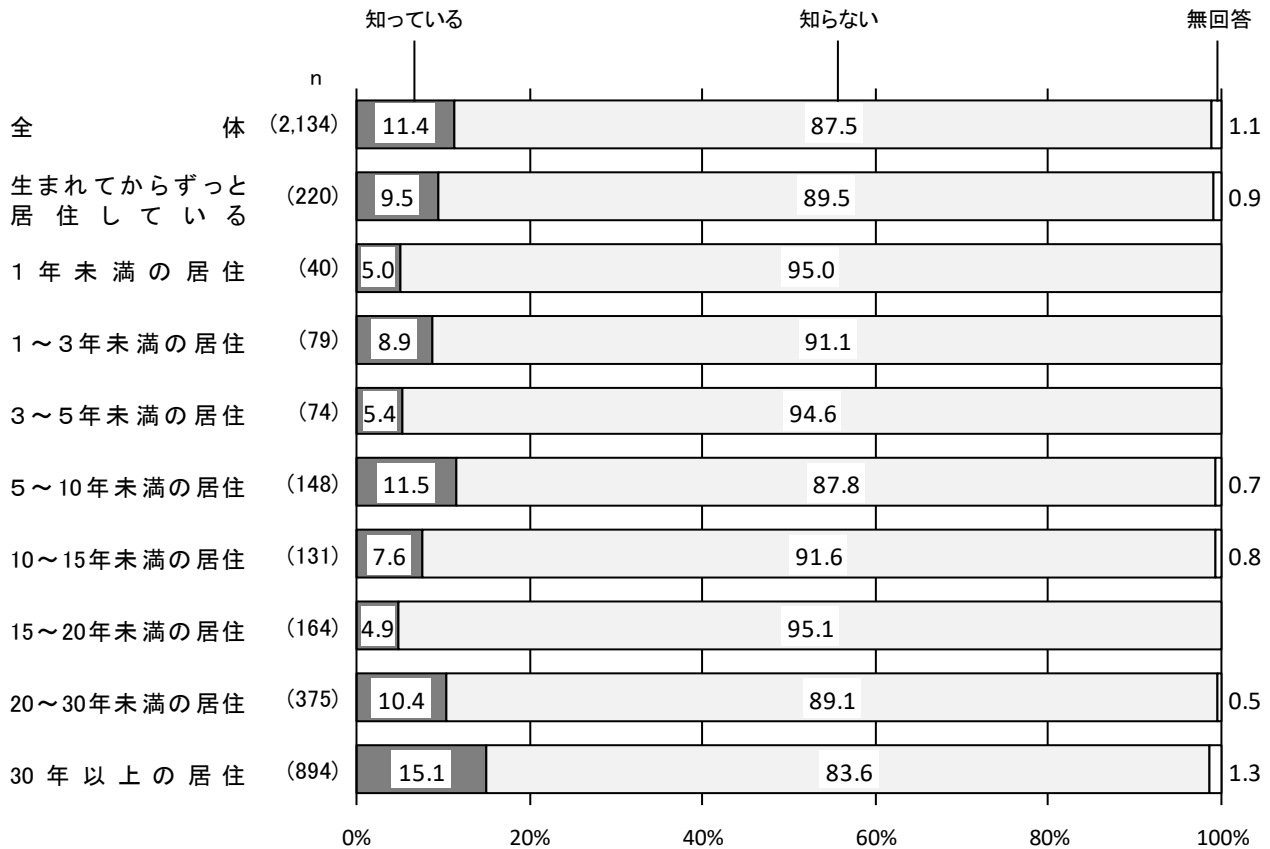
職業別にみると、「知っている」は、(専業)主婦・主夫(17.6%)が2割近くと高くなっている。「知らない」は、学生(96.4%)が10割近く、会社・商店・サービス業などの勤め人(93.1%)が9割強と高くなっている。(図16-4)

図16-5 「はちまるサポート」の認知の有無 - 世帯構成別



世帯構成別にみると、「知っている」は、自分たち夫婦と子ども夫婦（21.6%）が2割強、その他（四世代など）（17.0%）が2割近くと高くなっている。「知らない」は、親と自分のみ（93.8%）が9割強と高くなっている。（図16-5）

図 16-6 「はちまるサポート」の認知の有無 - 居住年数別

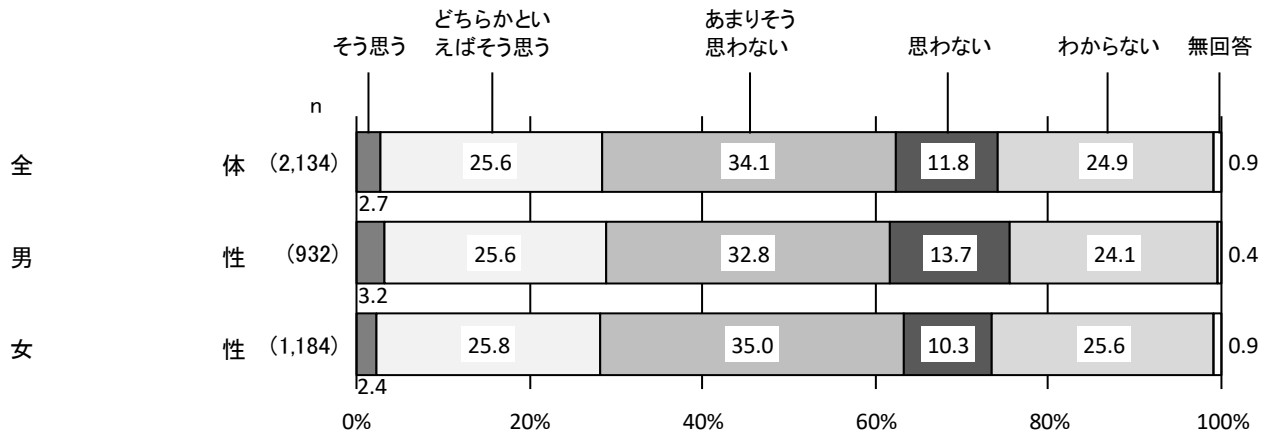


居住年数別にみると、「知らない」は、15～20年未満の居住（95.1%）、1年未満の居住（95.0%）、3～5年未満の居住（94.6%）がそれぞれ9割台半ばと高くなっている。（図 16-6）

(17) 「人とひととのつながりがあるまち」になっていると思うか

問 16 あなたは、八王子市が地域で助け合いや交流があるなど、「人とひととのつながりがあるまち」になっていると思いますか。(〇は1つだけ)

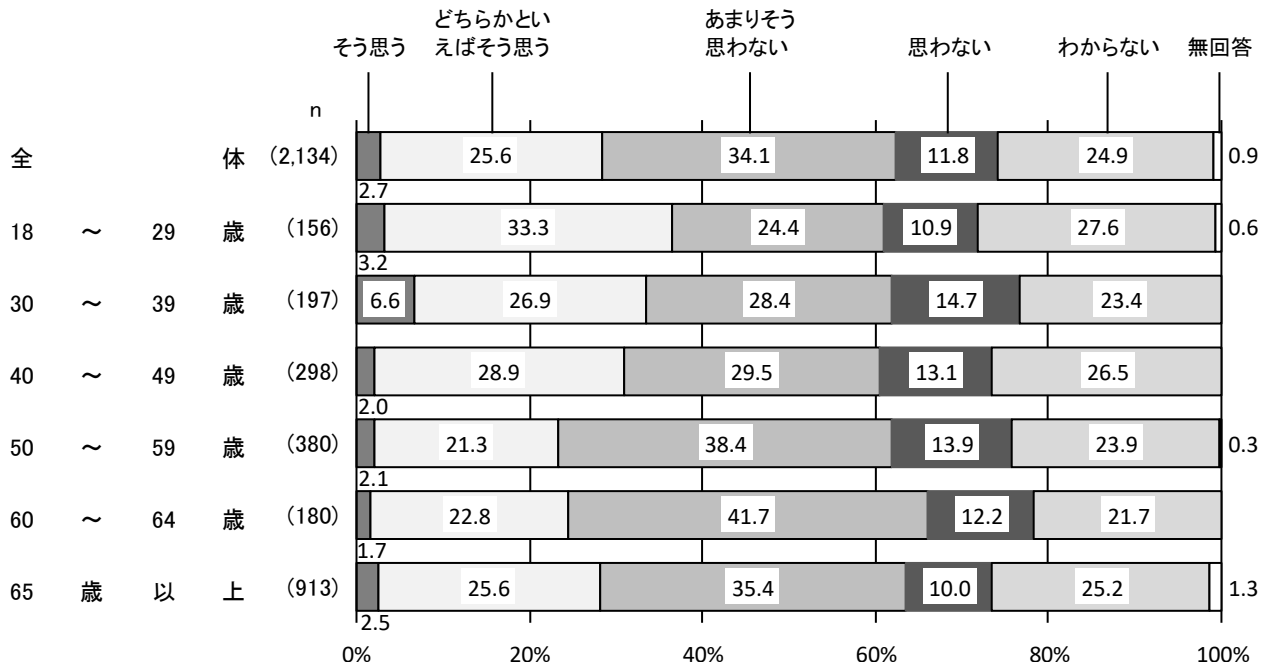
図 17-1 「人とひととのつながりがあるまち」になっていると思うか - 全体、性別



「人とひととのつながりがあるまち」になっていると思うかを聞いたところ、「そう思う」(2.7%)と「どちらかといえばそう思う」(25.6%)を合わせた《思う》(28.3%)は、3割近くとなっている。一方、「あまりそう思わない」(34.1%)と「思わない」(11.8%)を合わせた《思わない》(45.9%)は、4割台半ばとなっている。

性別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図 17-1)

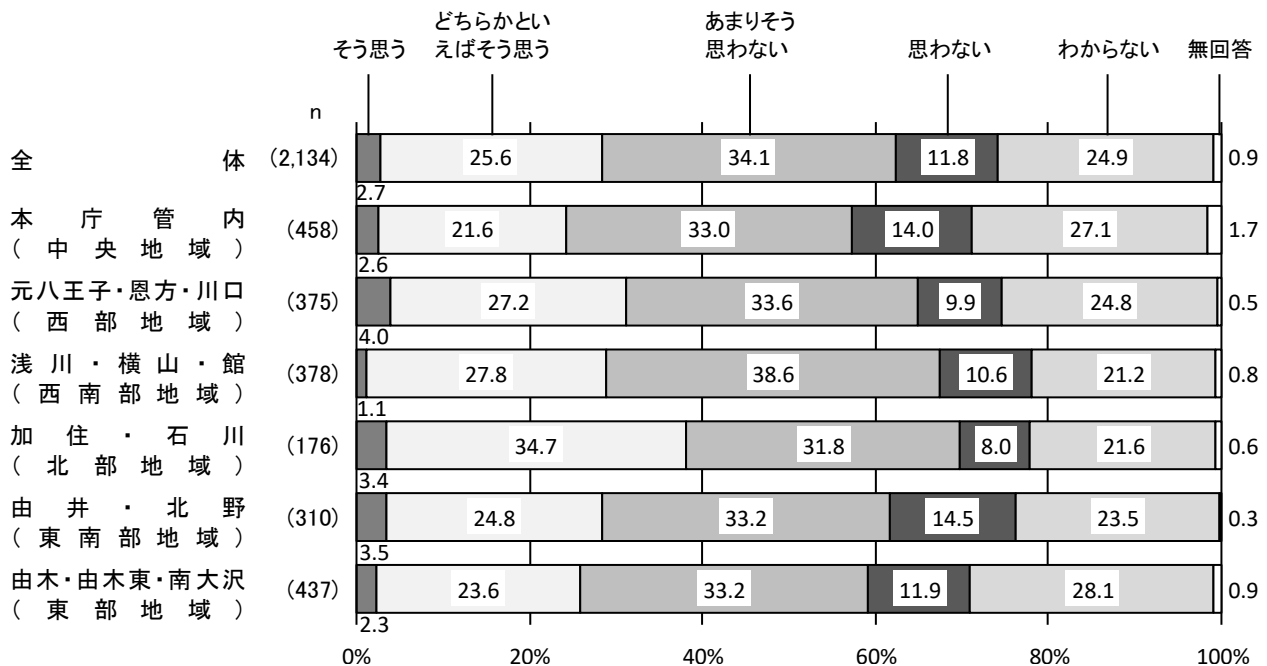
図 17-2 「人とひととのつながりがあるまち」になっていると思うか - 年齢別



年齢別にみると、《思う》は、18～29歳（36.5%）が4割近く、30～39歳（33.5%）が3割強と高くなっている。《思わない》は、60～64歳（53.9%）が5割強、50～59歳（52.3%）が5割強と高くなっている。

(図 17-2)

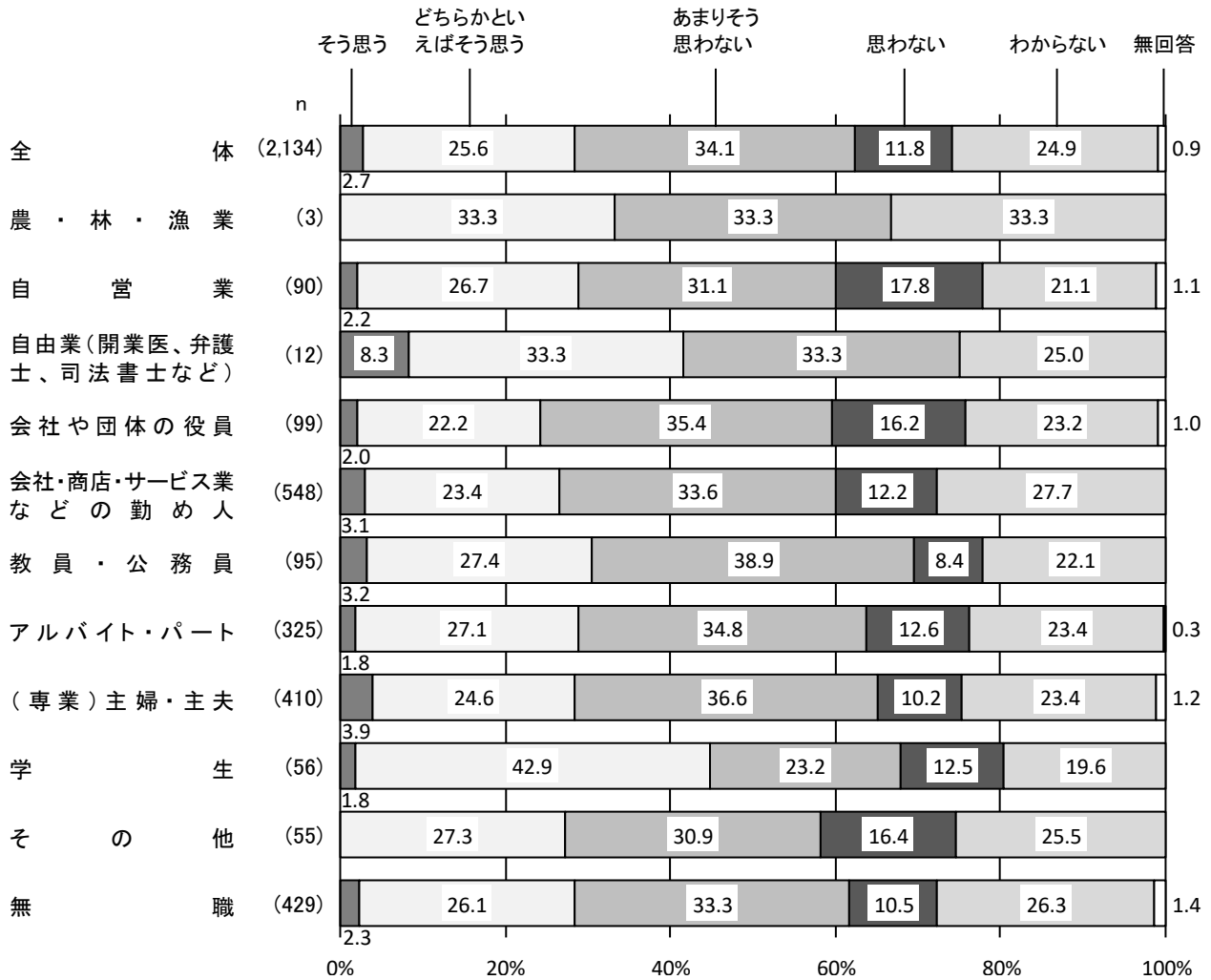
図 17-3 「人とひととのつながりがあるまち」になっていると思うか - 居住地域別



居住地域別にみると、《思う》は、加住・石川（北部地域）（38.1%）が4割近くと高くなっている。

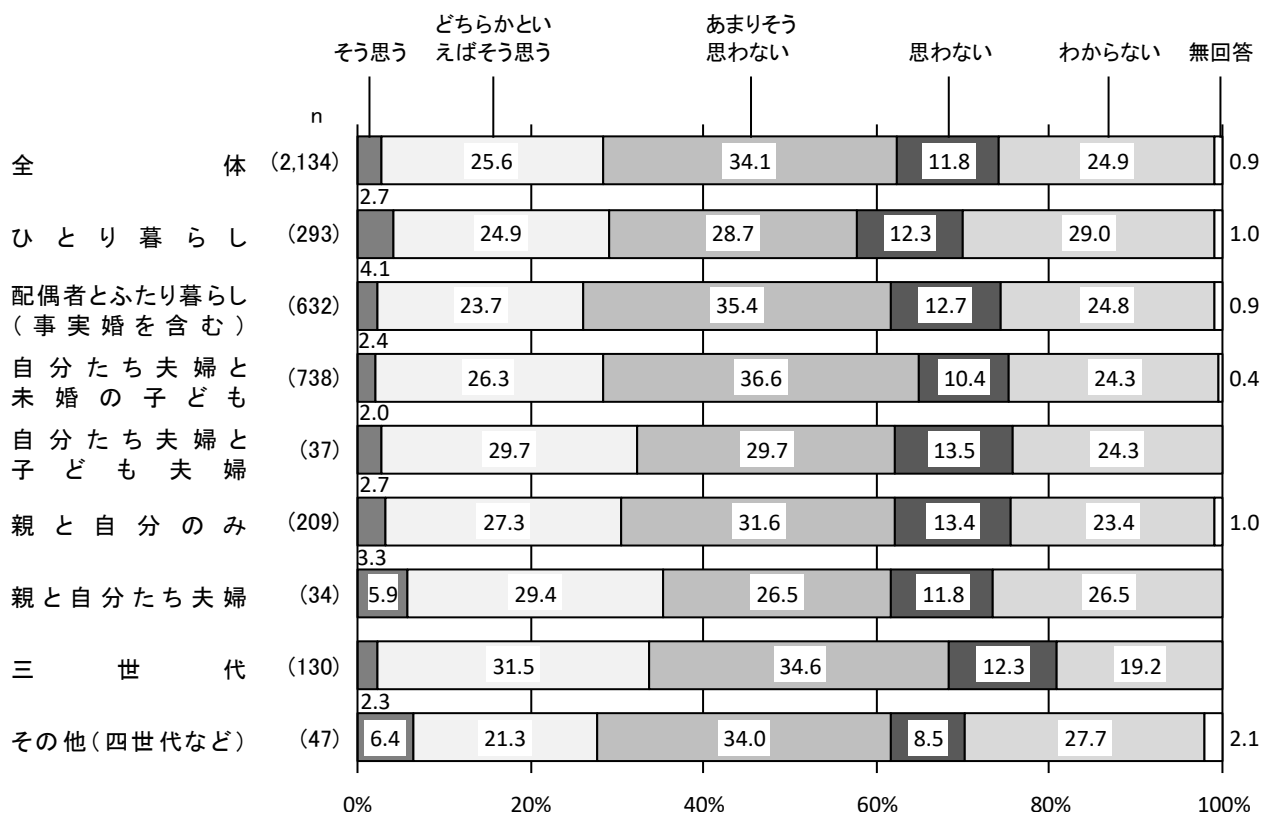
(図 17-3)

図 17-4 「人とひととのつながりがあるまち」になっていると思うか - 職業別



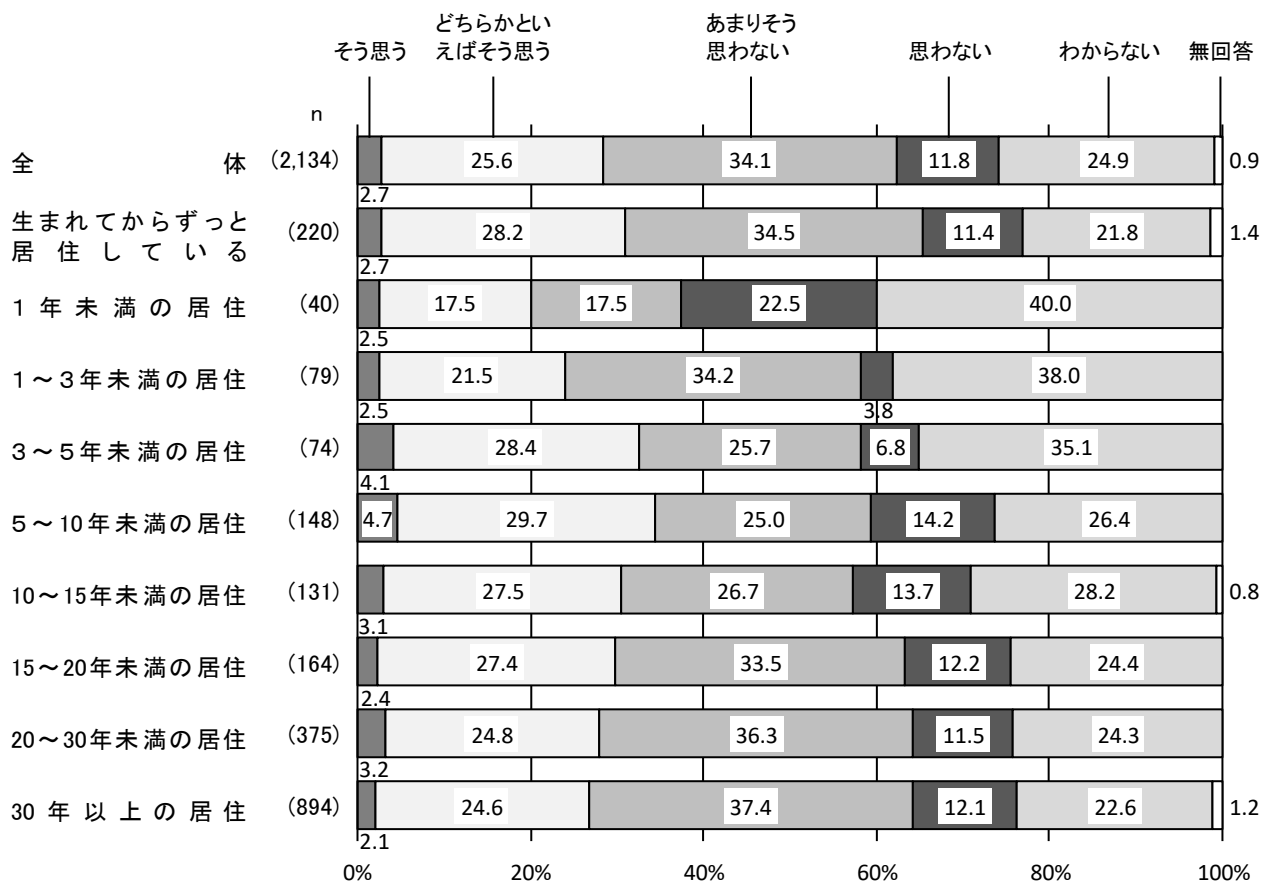
職業別にみると、「思う」は、学生 (44.7%) が4割台半ばと高くなっている。「思わない」は、会社や団体の役員 (51.6%) が5割強と高くなっている。(図 17-4)

図 17-5 「人とひととのつながりがあるまち」になっていると思うか - 世帯構成別



世帯構成別にみると、「思う」は、親と自分たち夫婦 (35.3%) が3割台半ば、三世代 (33.8%) が3割強と高くなっている。(図 17-5)

図 17-6 「人とひととのつながりがあるまち」になっていると思うか - 居住年数別

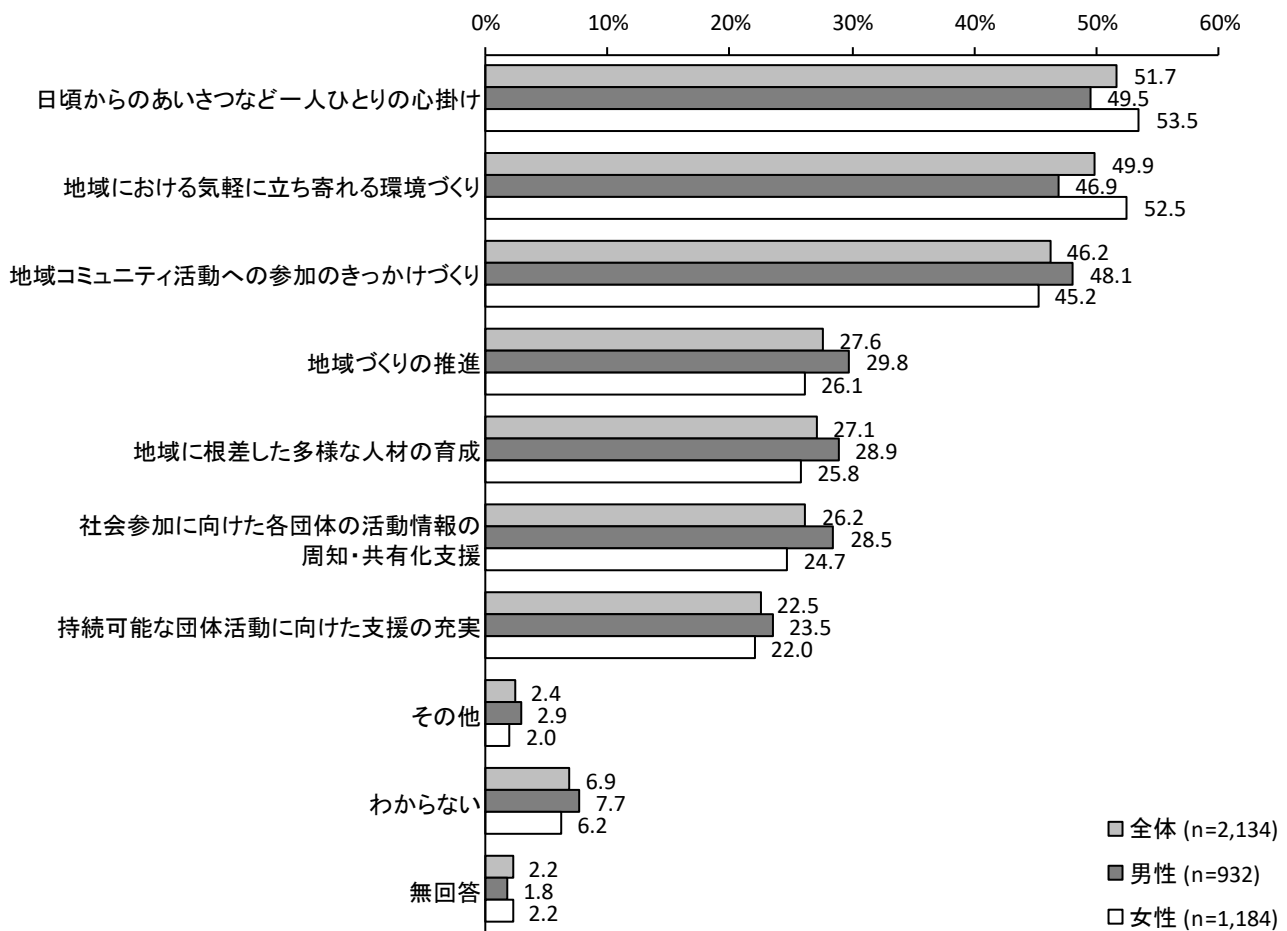


居住年数別にみると、「思う」は、5～10年未満の居住（34.4%）が3割台半ばと高くなっている。「思わない」は、3～5年未満の居住（32.5%）が3割強と低くなっている。（図 17-6）

(18) つながりを育むために必要な取組

問17 つながりを育むために必要と考える取組を以下から選択してください。(〇はいくつでも)

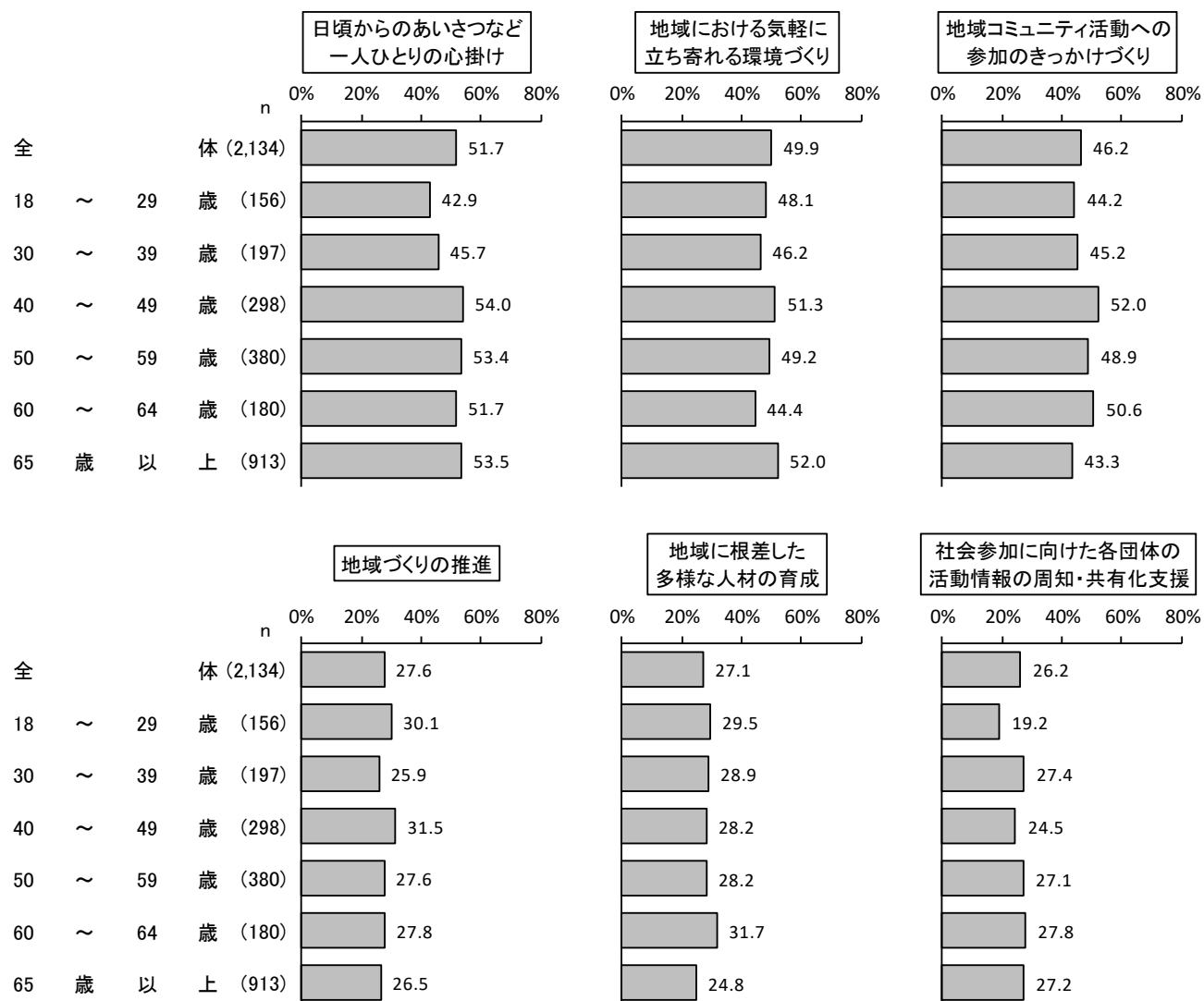
図18-1 つながりを育むために必要な取組 — 全体、性別



つながりを育むために必要と考える取組について聞いたところ、「日頃からのあいさつなど一人ひとりの心掛け」(51.7%)が5割強と最も高くなっている。次いで、「地域における気軽に立ち寄れる環境づくり」(49.9%)、「地域コミュニティ活動への参加のきっかけづくり」(46.2%)などの順となっている。

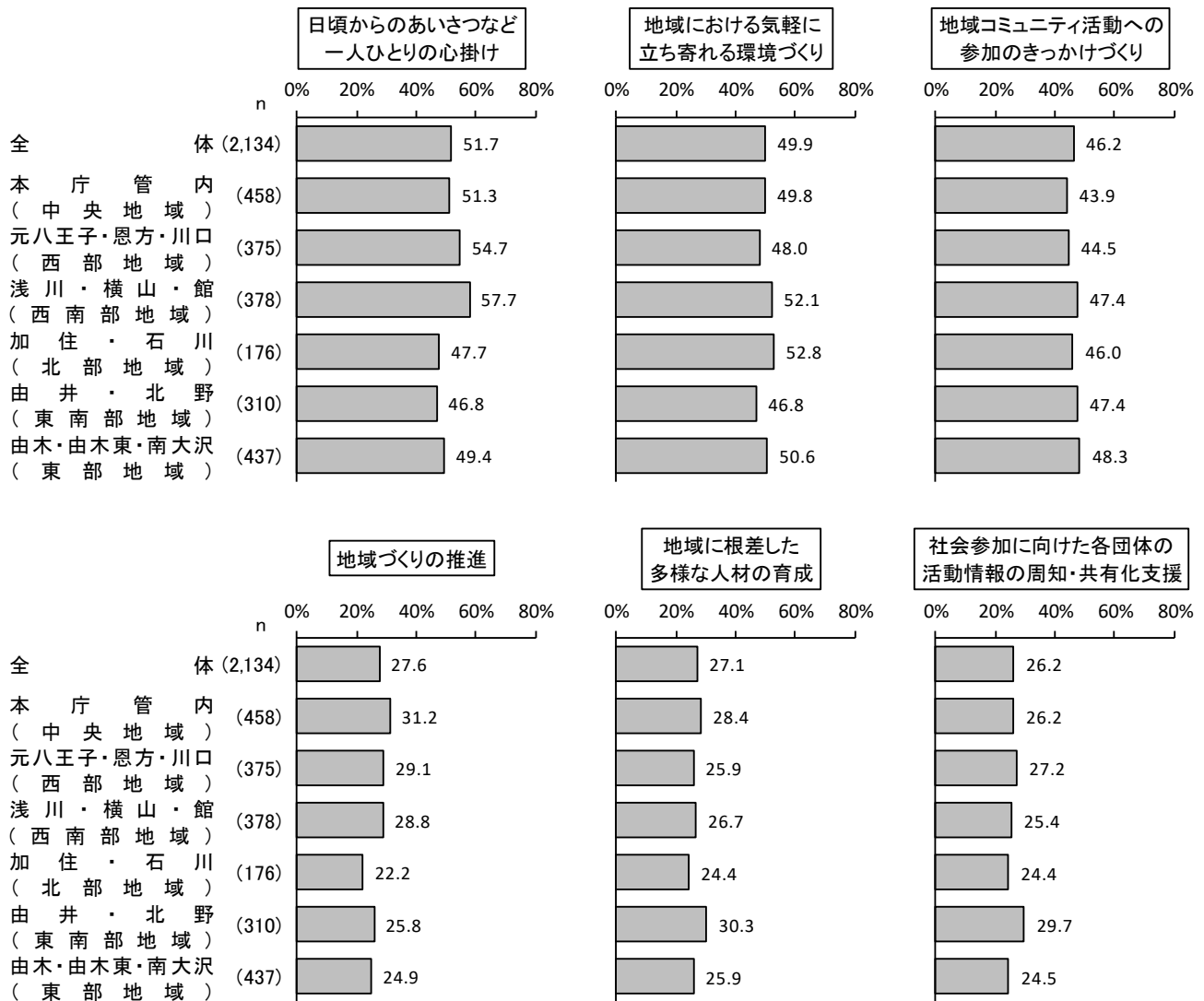
性別にみると、「地域における気軽に立ち寄れる環境づくり」は、女性(52.5%)が男性(46.9%)より5.6ポイント高くなっている。(図18-1)

図 18-2 つながりを育むために必要な取組 — 年齢別（上位6位）



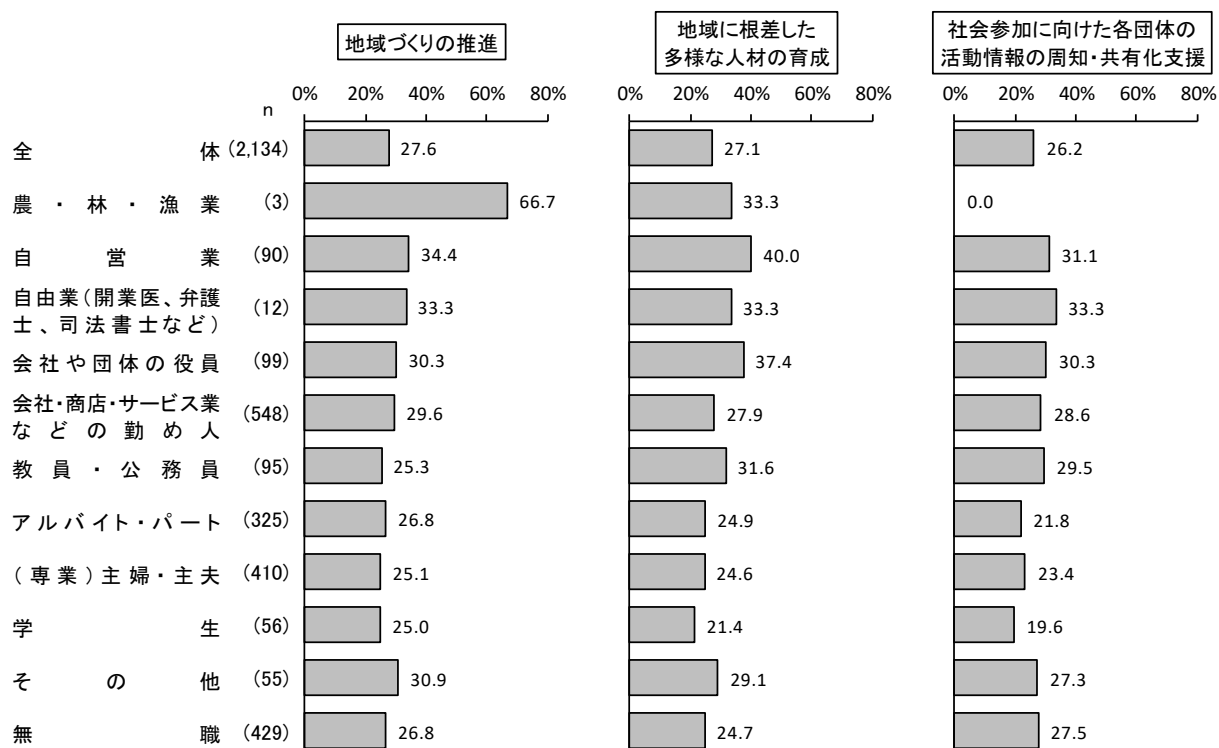
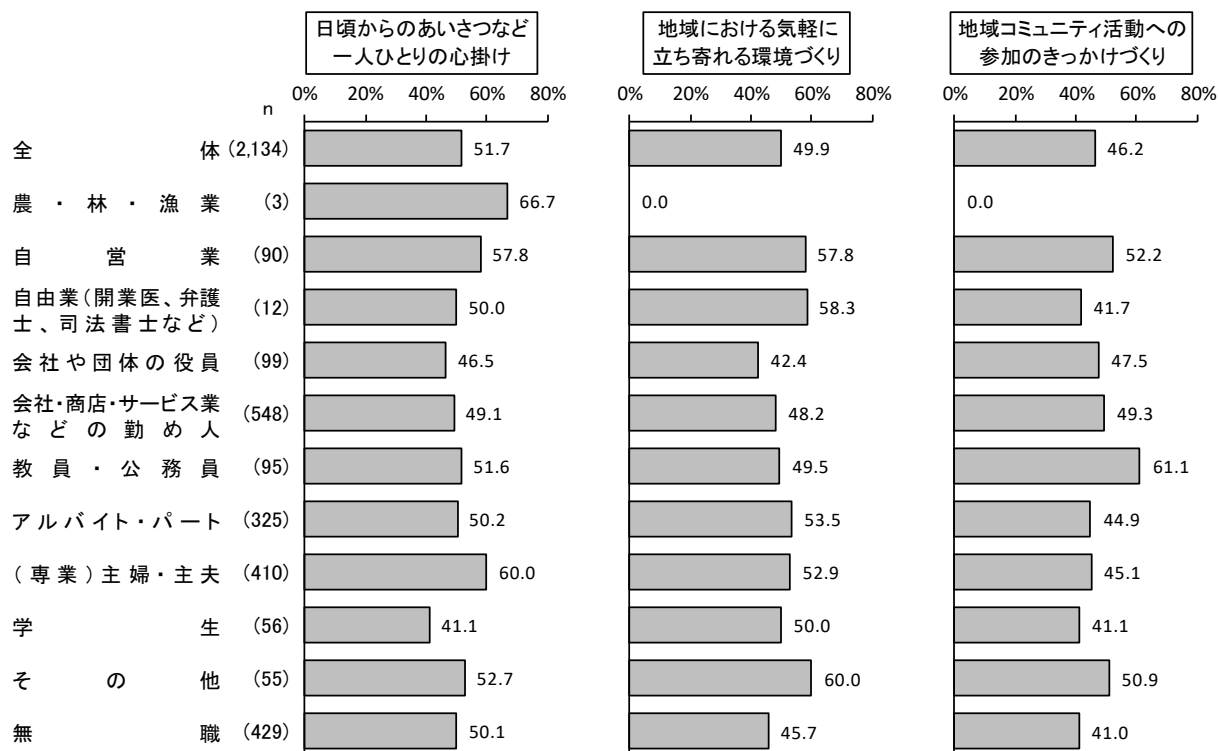
年齢別にみると、「日頃からのあいさつなど一人ひとりの心掛け」は、18～29歳（42.9%）が4割強と低くなっている。「地域における気軽に立ち寄れる環境づくり」は、60～64歳（44.4%）が4割台半ばと低くなっている。「地域コミュニティ活動への参加のきっかけづくり」は、40～49歳（52.0%）が5割強と高くなっている。「社会参加に向けた各団体の活動情報の周知・共有化支援」は、18～29歳（19.2%）が2割弱と低くなっている。（図 18-2）

図 18-3 つながりを育むために必要な取組 — 居住地域別（上位6位）



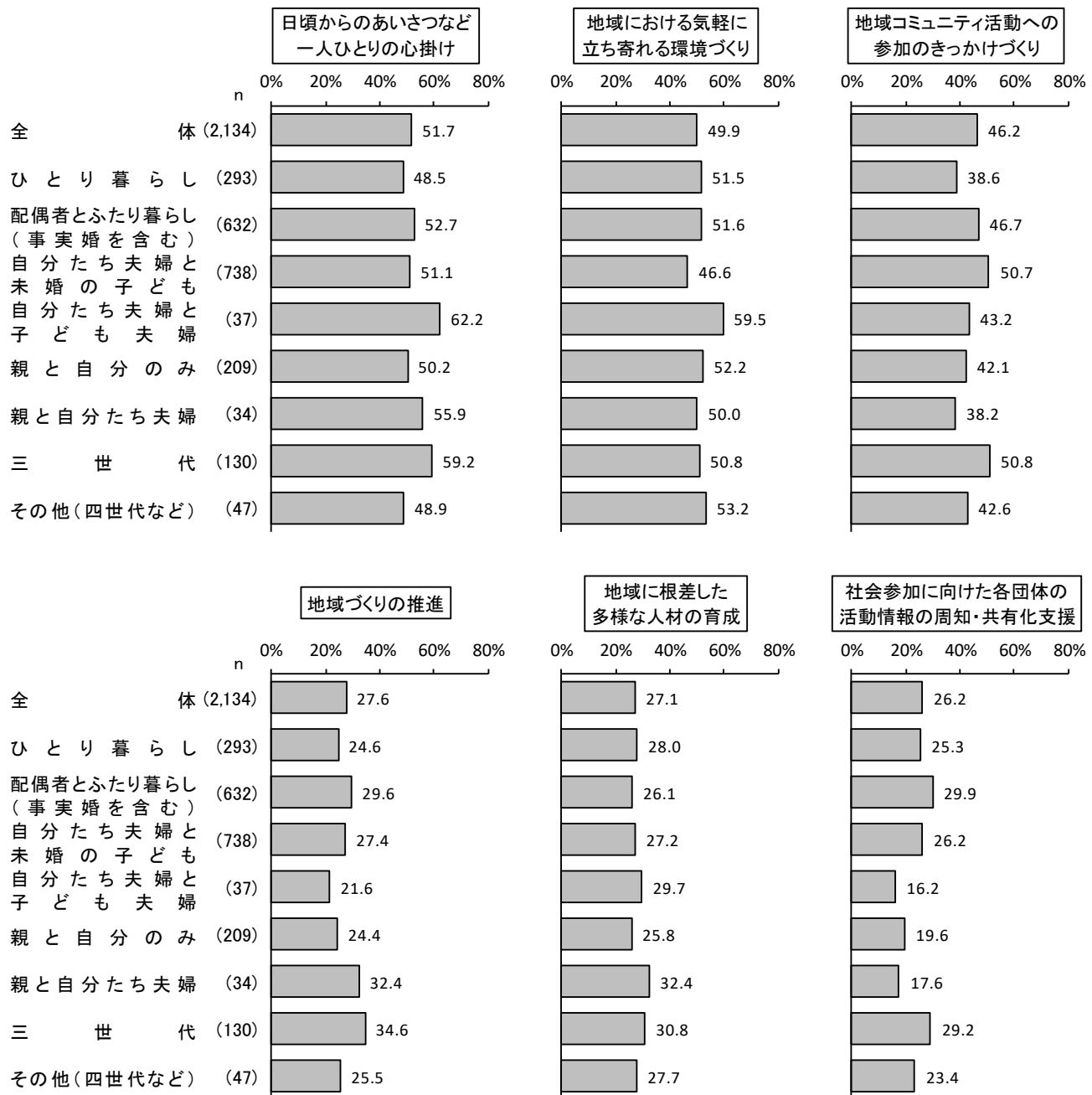
居住地域別にみると、「日頃からのあいさつなど一人ひとりの心掛け」は、浅川・横山・館（西南部地域）（57.7%）が6割近くと高くなっている。「地域づくりの推進」は、加住・石川（北部地域）（22.2%）が2割強と低くなっている。（図 18-3）

図 18-4 つながりを育むために必要な取組 — 職業別（上位6位）



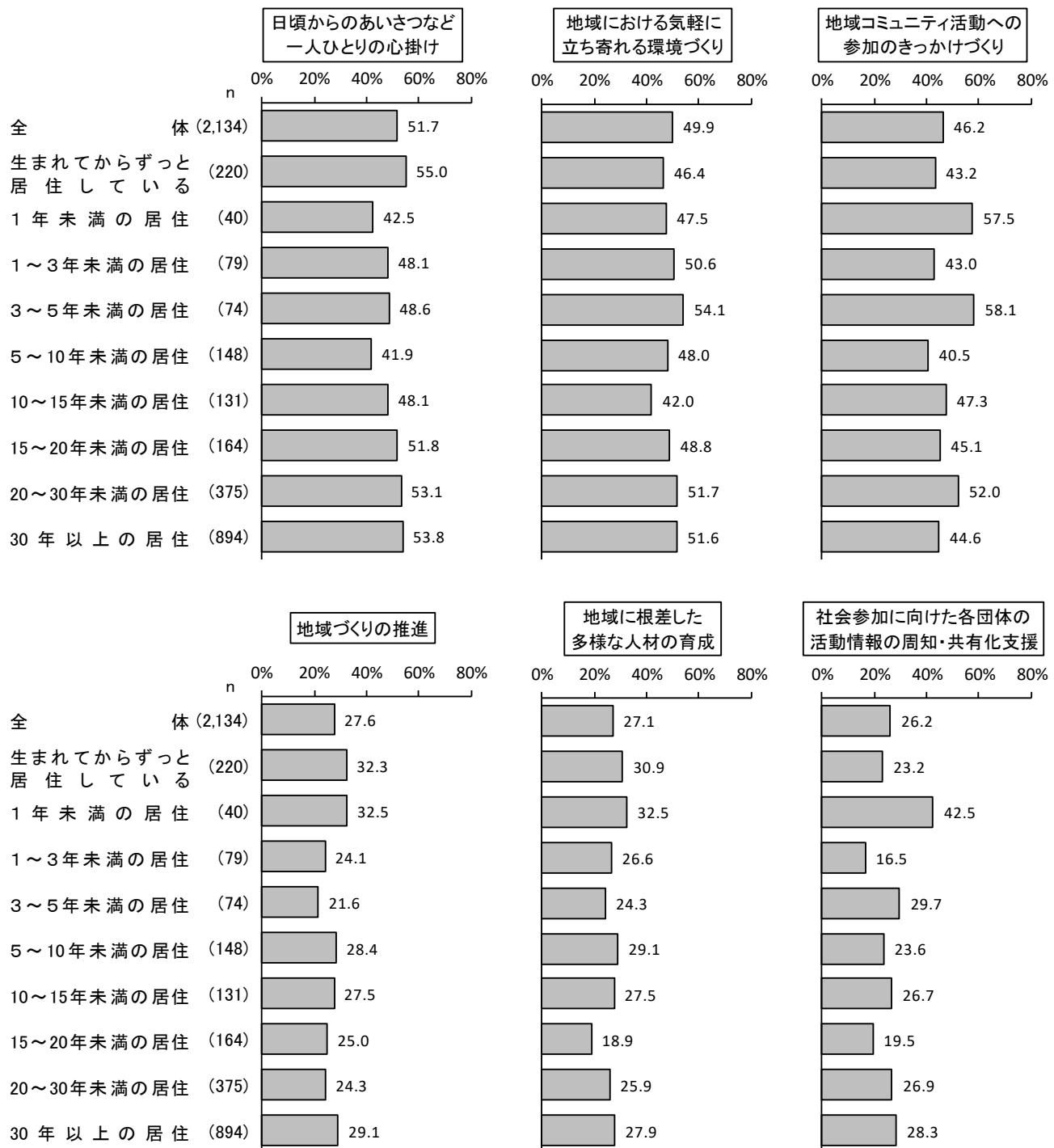
職業別にみると、「日頃からのあいさつなど一人ひとりの心掛け」は、(専業)主婦・主夫(60.0%)が6割、自営業(57.8%)が6割近くと高くなっている。「地域における気軽に立ち寄れる環境づくり」は、その他(60.0%)が6割、自営業(57.8%)が6割近くと高くなっている。「地域コミュニティ活動への参加のきっかけづくり」は、教員・公務員(61.1%)が6割強、自営業(52.2%)が5割強と高くなっている。「地域づくりの推進」は、自営業(34.4%)が3割台半ばと高くなっている。「地域に根差した多様な人材の育成」は、自営業(40.0%)が4割、会社や団体の役員(37.4%)が4割近くと高くなっている。「社会参加に向けた各団体の活動情報の周知・共有化支援」は、学生(19.6%)が2割弱と低くなっている。(図 18-4)

図 18-5 つながりを育むために必要な取組 — 世帯構成別（上位6位）



世帯構成別にみると、「日頃からのあいさつなど一人ひとりの心掛け」は、自分たち夫婦と子ども夫婦(62.2%)が6割強、三世代(59.2%)が6割弱と高くなっている。「地域における気軽に立ち寄れる環境づくり」は、自分たち夫婦と子ども夫婦(59.5%)が6割弱と高くなっている。「地域コミュニティ活動への参加のきっかけづくり」は、親と自分たち夫婦(38.2%)が4割近くと低くなっている。「地域づくりの推進」は、三世代(34.6%)が3割台半ばと高くなっている。「地域に根差した多様な人材の育成」は、親と自分たち夫婦(32.4%)が3割強と高くなっている。「社会参加に向けた各団体の活動情報の周知・共有化支援」は、自分たち夫婦と子ども夫婦(16.2%)が2割近くと低くなっている。(図18-5)

図 18-6 つながりを育むために必要な取組 — 居住年数別（上位 6 位）

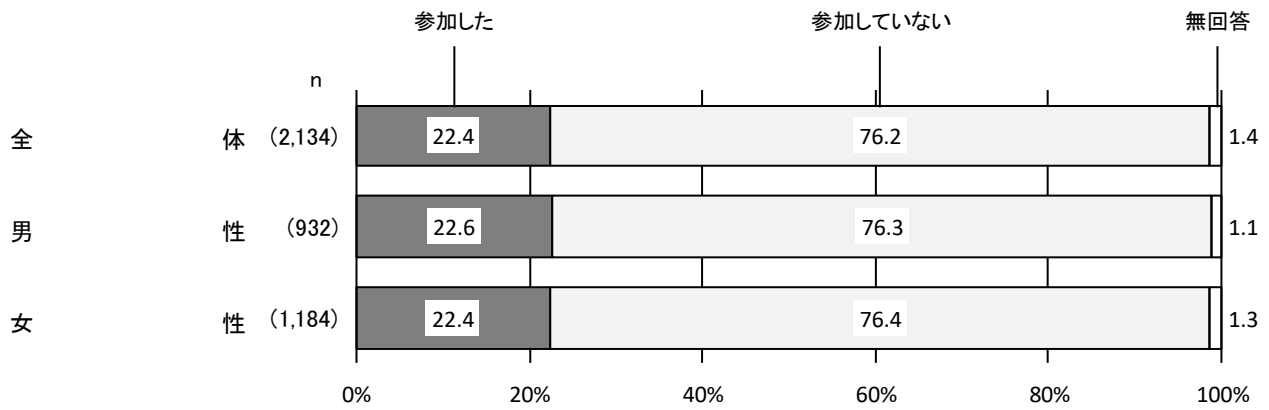


居住年数別にみると、「日頃からのあいさつなど一人ひとりの心掛け」は、5～10年未満の居住（41.9%）が4割強と低くなっている。「地域における気軽に立ち寄れる環境づくり」は、10～15年未満の居住（42.0%）が4割強と低くなっている。「地域コミュニティ活動への参加のきっかけづくり」は、3～5年未満の居住（58.1%）、1年未満の居住（57.5%）がそれぞれ6割近く、20～30年未満の居住（52.0%）が5割強と高くなっている。「地域づくりの推進」は、3～5年未満の居住（21.6%）が2割強と低くなっている。「地域に根差した多様な人材の育成」は、1年未満の居住（32.5%）が3割強と高くなっている。「社会参加に向けた各団体の活動情報の周知・共有化支援」は、1年未満の居住（42.5%）が4割強と高くなっている。（図 18-6）

(19) 地域コミュニティ活動への参加の有無

問 18 あなたは、この1年間に、地域コミュニティの活動に参加しましたか。(○は1つだけ)

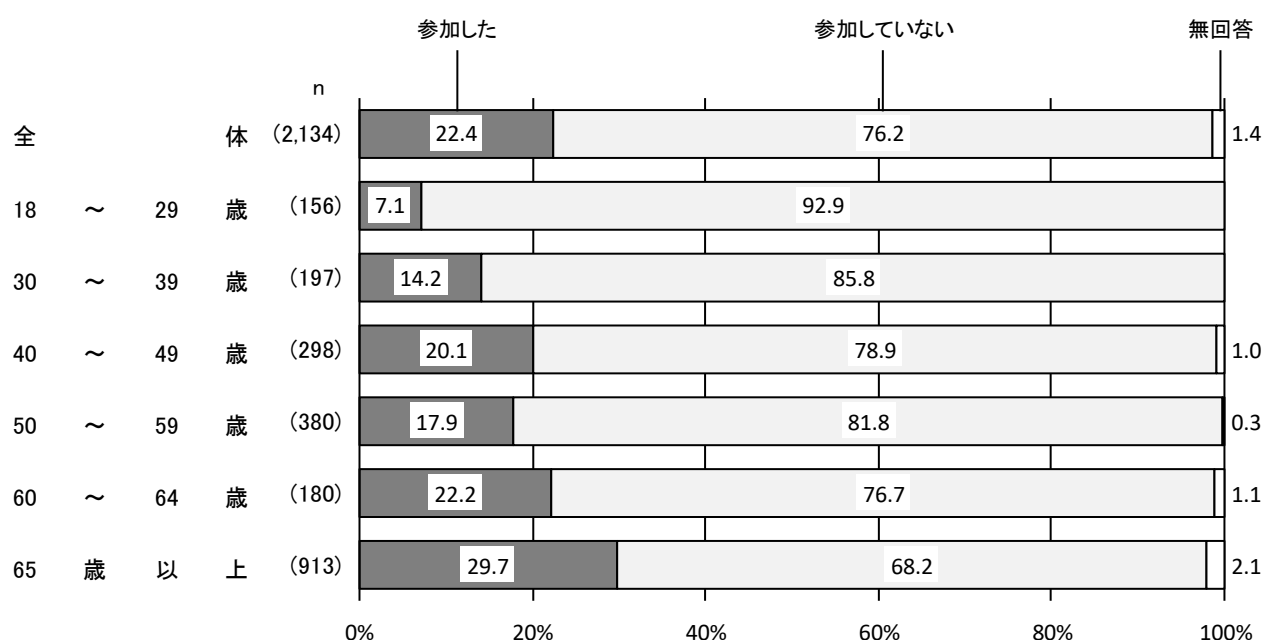
図 19-1 地域コミュニティ活動への参加の有無 - 全体、性別



地域コミュニティの活動に参加したかを聞いたところ、「参加していない」(76.2%)は、8割近くとなっている。一方、「参加した」(22.4%)は、2割強となっている。

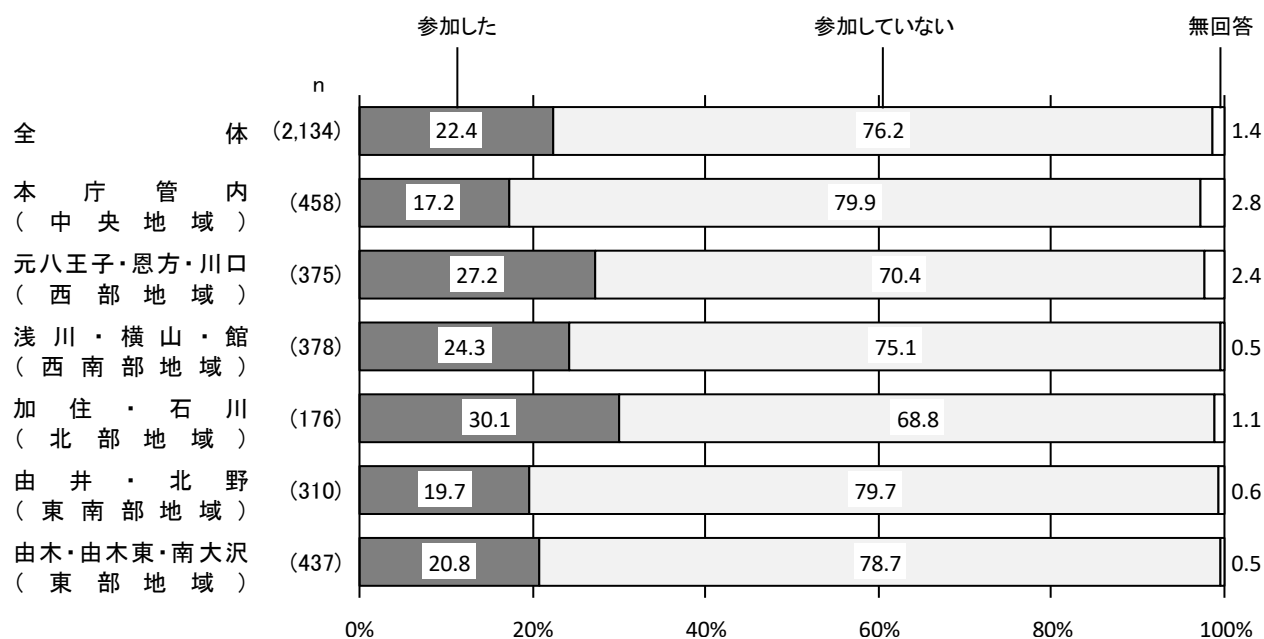
性別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図 19-1)

図 19-2 地域コミュニティ活動への参加の有無 - 年齢別



年齢別にみると、「参加した」は、65歳以上（29.7%）が3割弱と高くなっている。「参加していない」は、18～29歳（92.9%）が9割強、30～39歳（85.8%）が8割台半ば、50～59歳（81.8%）が8割強と高くなっている。（図 19-2）

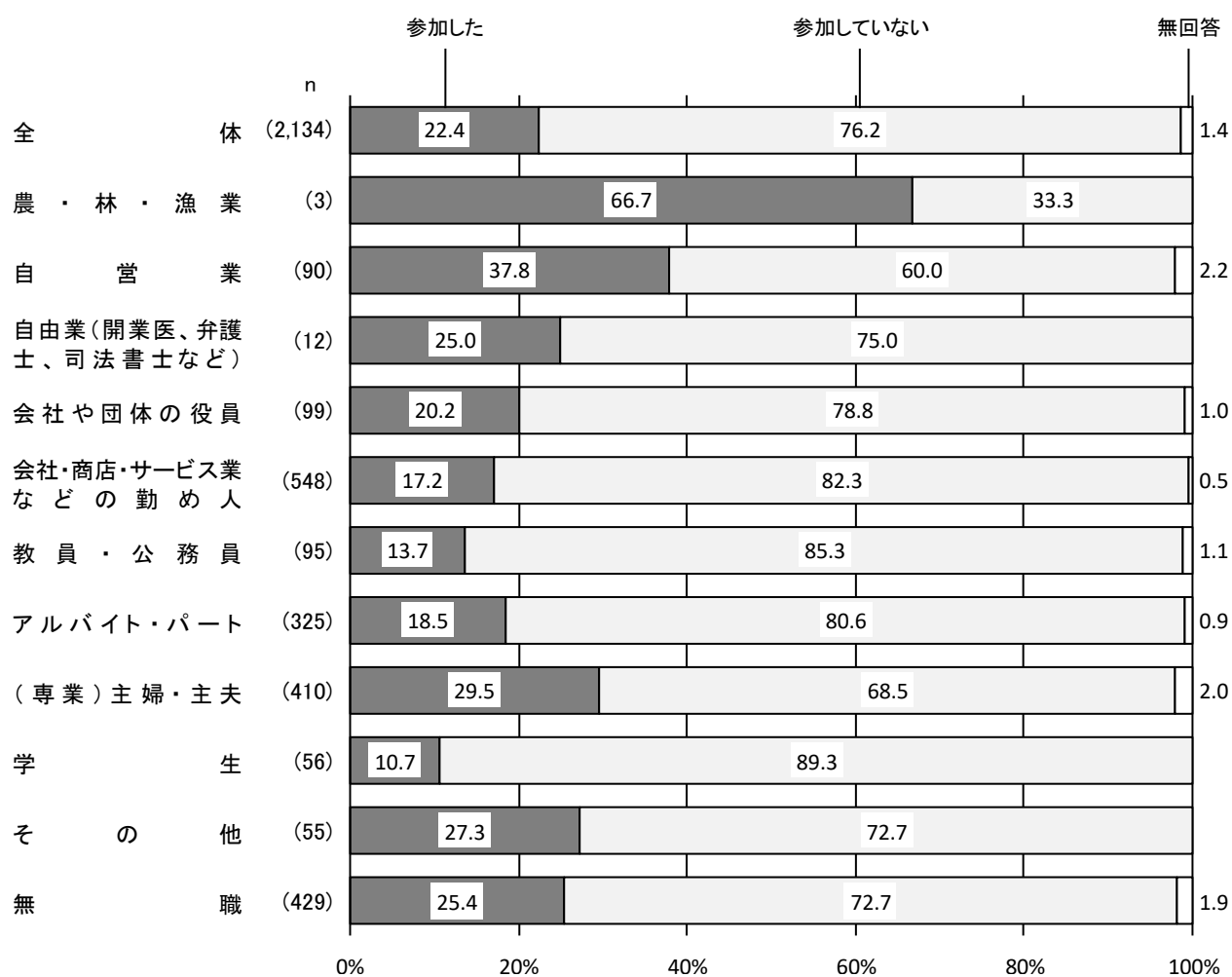
図 19-3 地域コミュニティ活動への参加の有無 - 居住地域別



居住地域別にみると、「参加した」は、加住・石川（北部地域）（30.1%）が約3割と高くなっている。

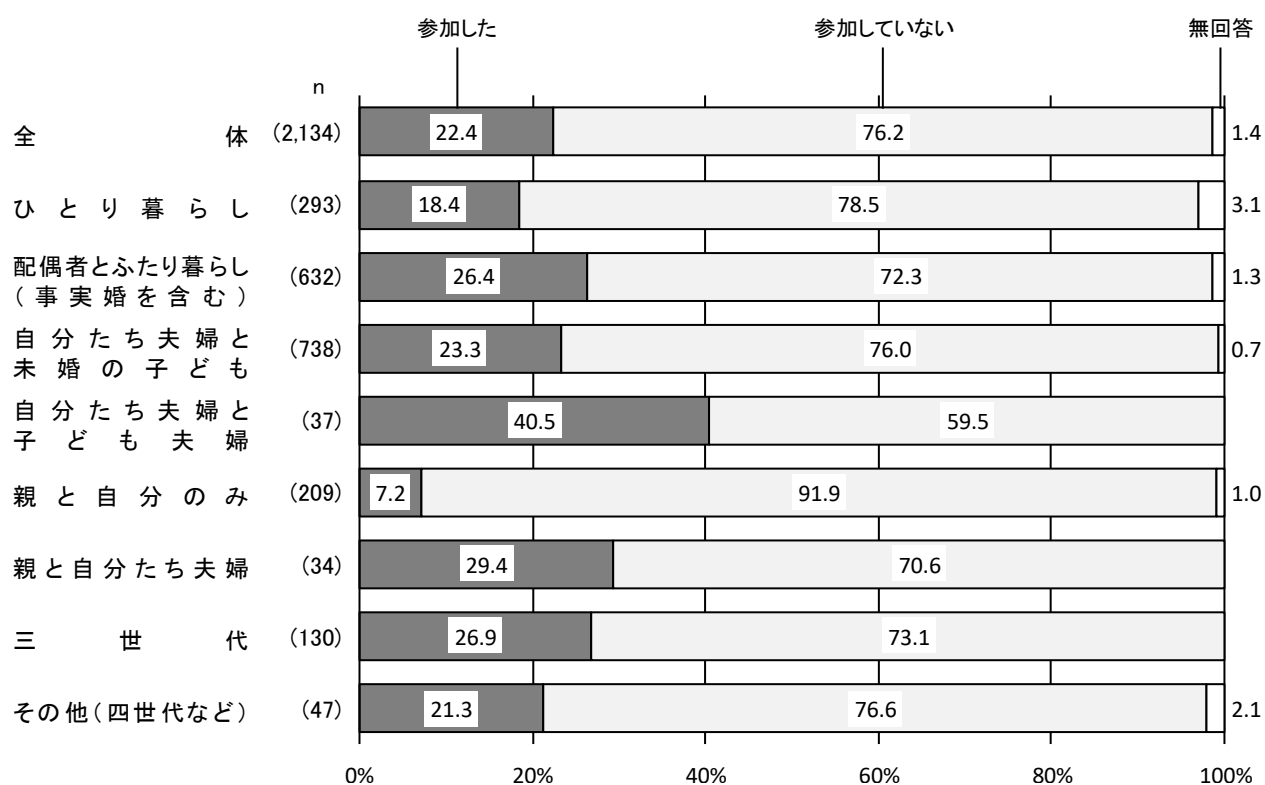
（図 19-3）

図 19-4 地域コミュニティ活動への参加の有無 - 職業別



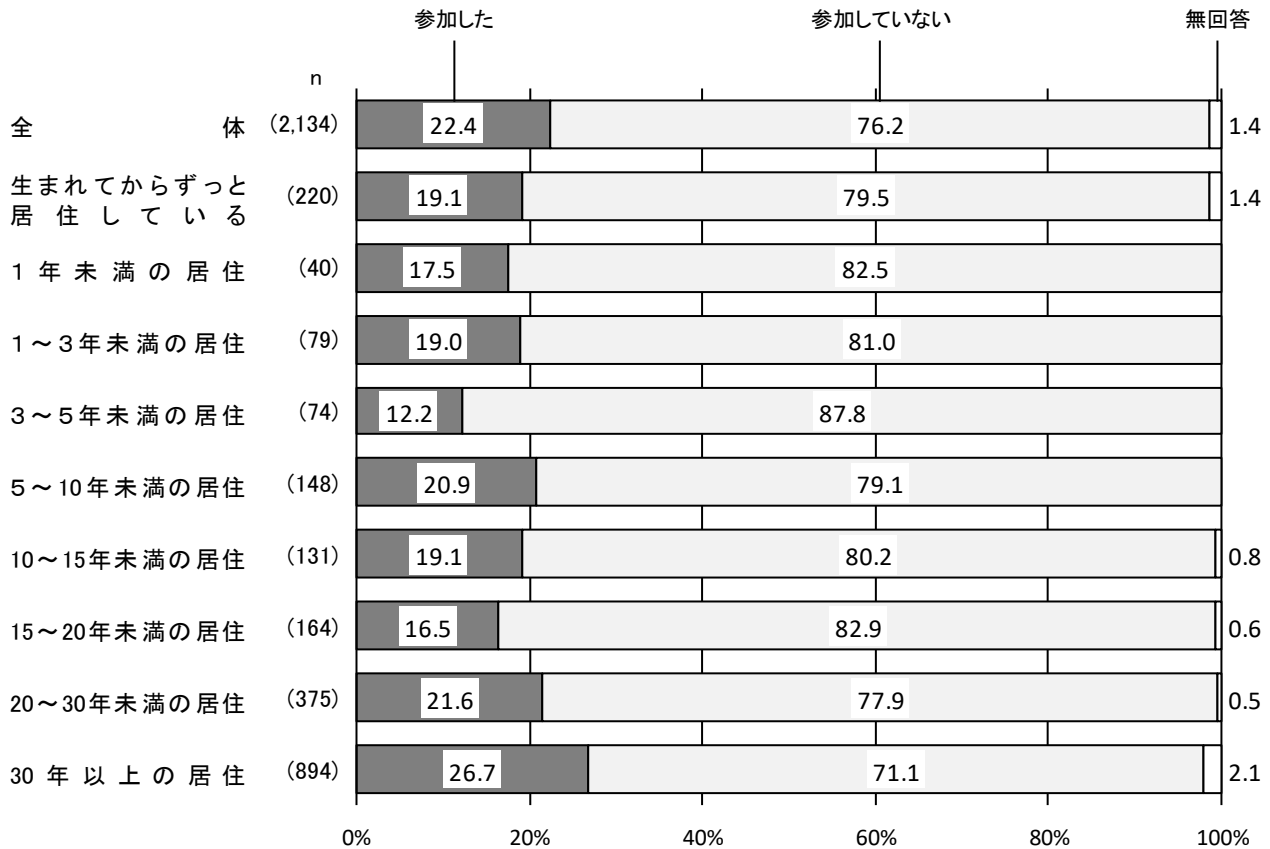
職業別にみると、「参加した」は、自営業 (37.8%) が4割近く、(専業)主婦・主夫 (29.5%) が3割弱と高くなっている。「参加していない」は、学生 (89.3%) が9割弱、教員・公務員 (85.3%) が8割台半ば、会社・商店・サービス業などの勤め人 (82.3%) が8割強と高くなっている。(図 19-4)

図 19-5 地域コミュニティ活動への参加の有無 - 世帯構成別



世帯構成別にみると、「参加した」は、自分たち夫婦と子ども夫婦（40.5%）が約4割、親と自分たち夫婦（29.4%）が3割弱と高くなっている。「参加していない」は、親と自分のみ（91.9%）が9割強と高くなっている。（図 19-5）

図 19-6 地域コミュニティ活動への参加の有無 - 居住年数別



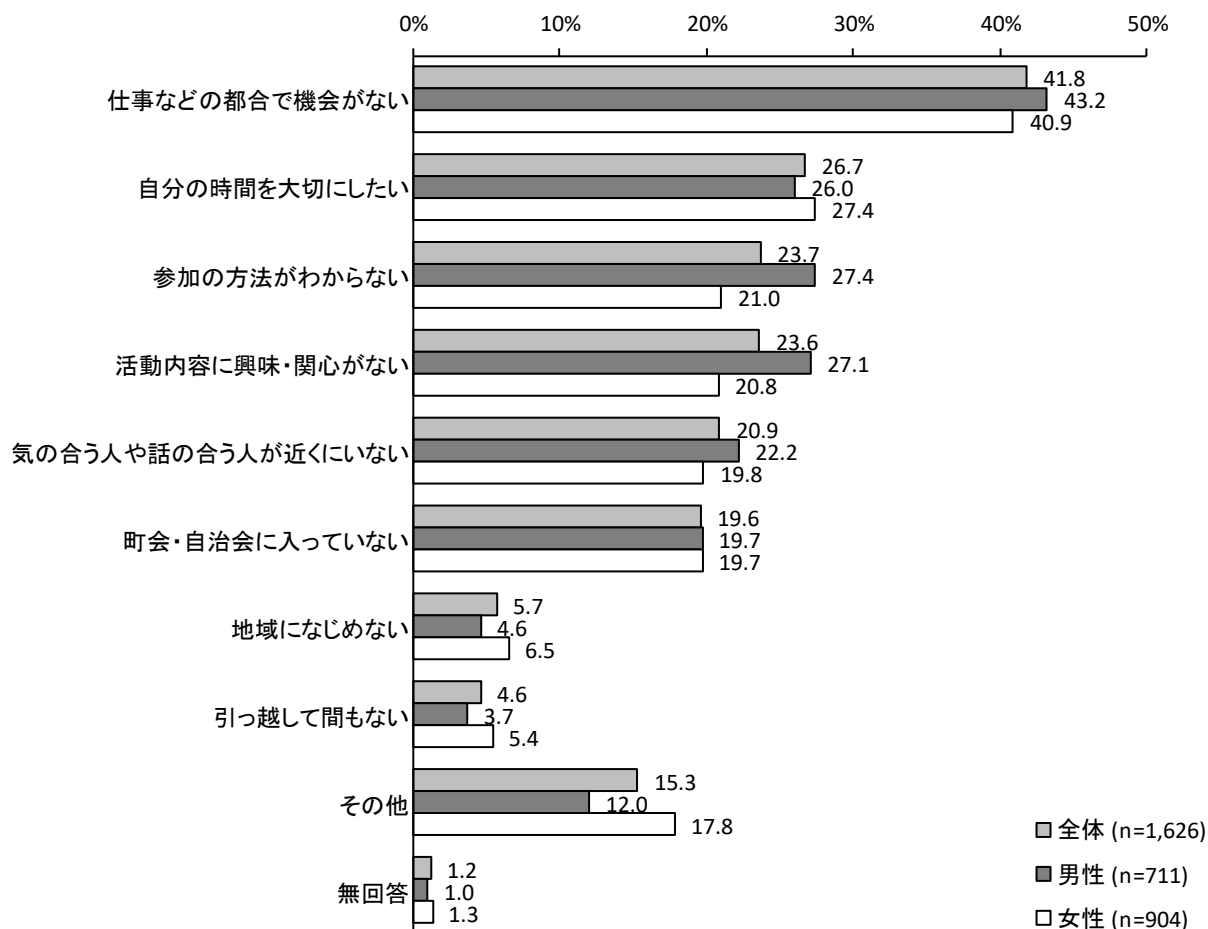
居住年数別にみると、「参加していない」は、3～5年未満の居住（87.8%）が9割近く、15～20年未満の居住（82.9%）、1年未満の居住（82.5%）がそれぞれ8割強と高くなっている。（図 19-6）

(20) 地域コミュニティ活動に参加しない理由

(問 18 で、「2 参加していない」とお答えの方へ)

問 18-1 その理由を以下から選択してください。(〇はいくつでも)

図 20-1 地域コミュニティ活動に参加しない理由 — 全体、性別

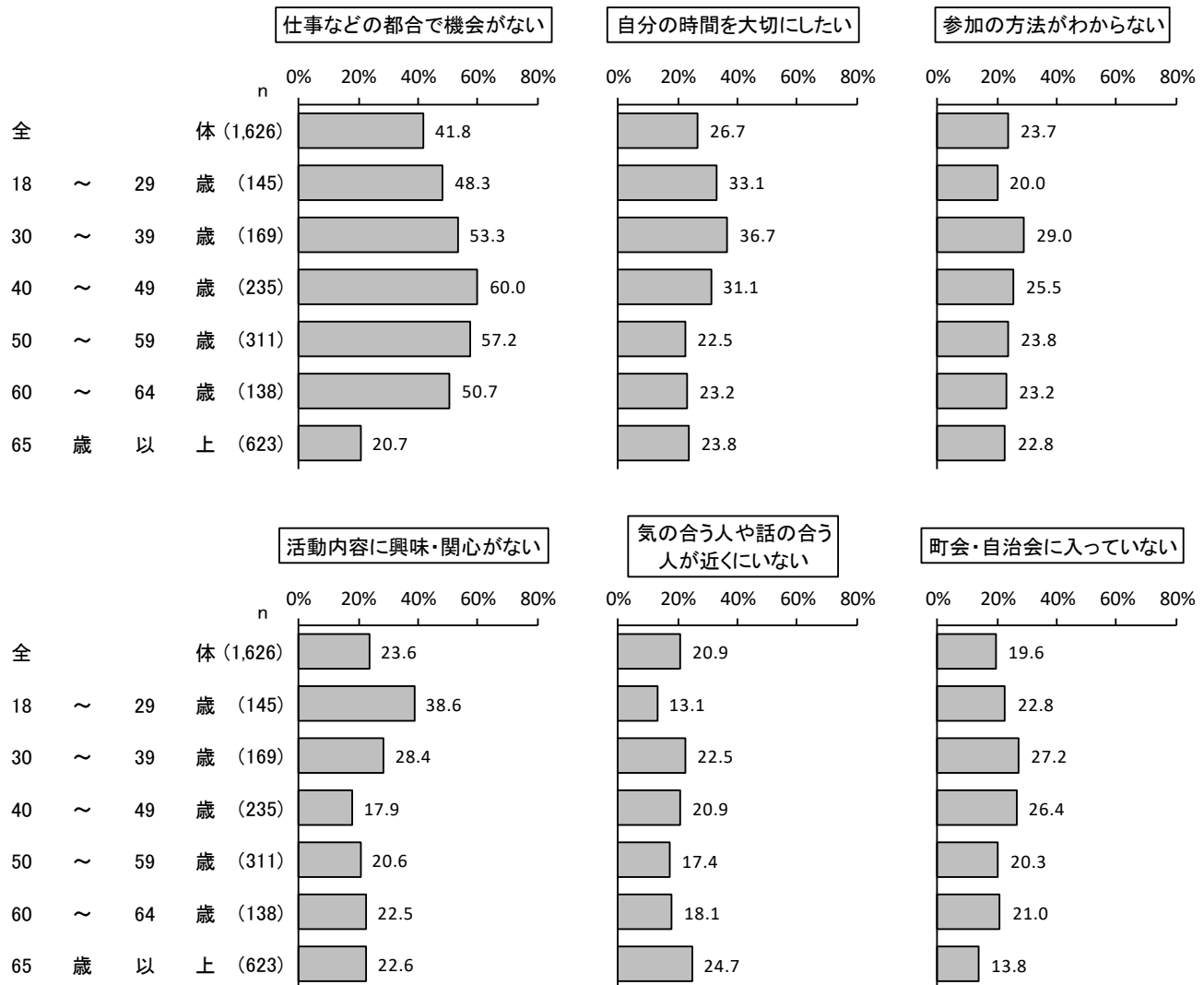


地域コミュニティ活動に参加しない理由について聞いたところ、「仕事などの都合で機会がない」(41.8%)が4割強と最も高くなっている。次いで、「自分の時間を大切にしたい」(26.7%)、「参加の方法がわからない」(23.7%)、「活動内容に興味・関心がない」(23.6%)などの順となっている。

性別にみると、「参加の方法がわからない」は、男性(27.4%)が女性(21.0%)より6.4ポイント、「活動内容に興味・関心がない」は、男性(27.1%)が女性(20.8%)より6.3ポイントそれぞれ高くなっている。

(図 20-1)

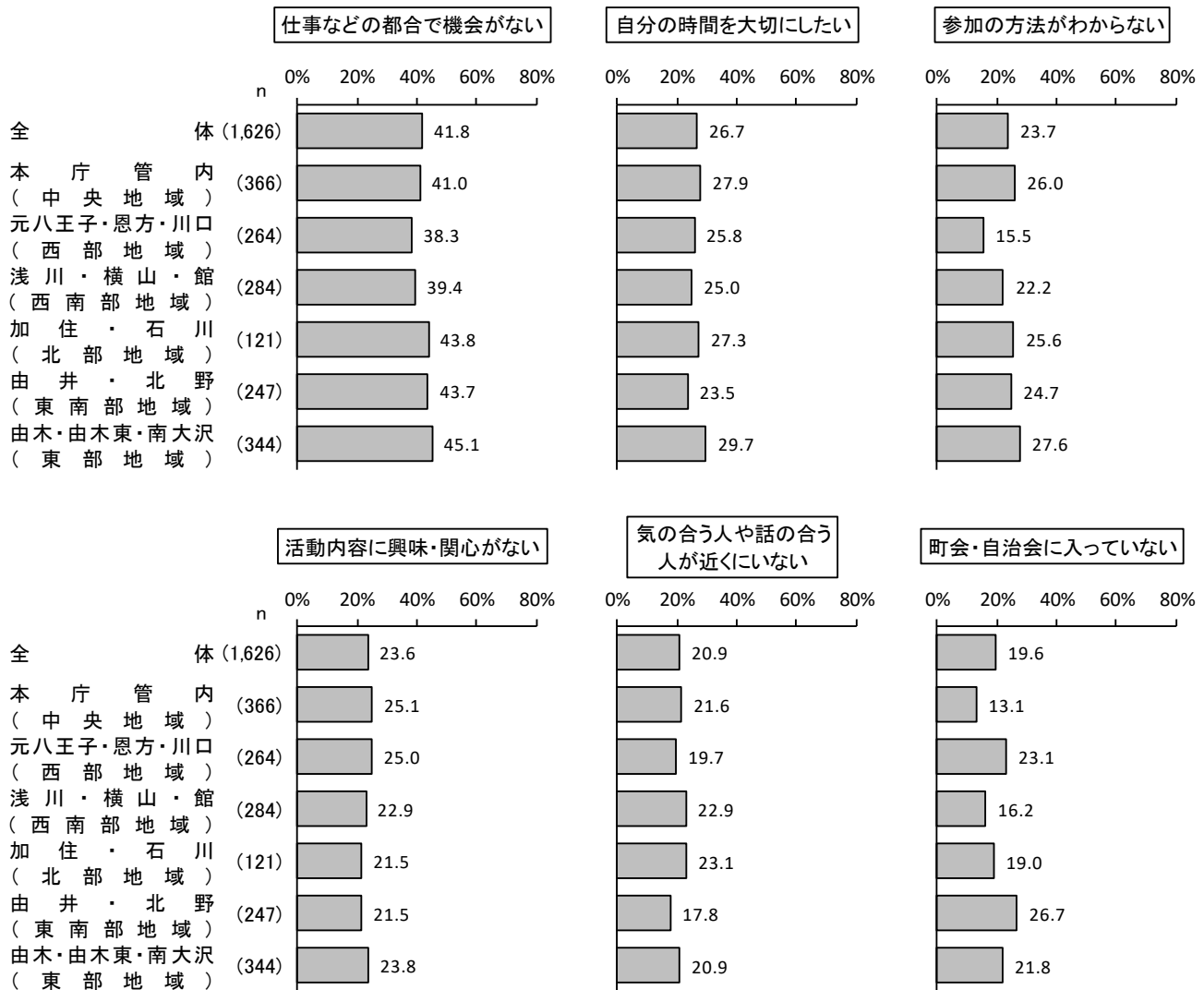
図 20-2 地域コミュニティ活動に参加しない理由 - 年齢別 (上位 6 位)



年齢別にみると、「仕事などの都合で機会がない」は、40～49 歳 (60.0%) が 6 割、50～59 歳 (57.2%) が 6 割近く、30～39 歳 (53.3%) が 5 割強、60～64 歳 (50.7%) が約 5 割、18～29 歳 (48.3%) が 5 割近くと高くなっている。「自分の時間を大切にしたい」は、30～39 歳 (36.7%) が 4 割近く、18～29 歳 (33.1%) が 3 割強と高くなっている。「参加の方法がわからない」は、30～39 歳 (29.0%) が 3 割弱と高くなっている。「活動内容に興味・関心がない」は、18～29 歳 (38.6%) が 4 割近くと高くなっている。「気の合う人や話の合う人が近くにいない」は、18～29 歳 (13.1%) が 1 割強と低くなっている。「町会・自治会に入っていない」は、30～39 歳 (27.2%)、40～49 歳 (26.4%) がそれぞれ 3 割近くと高くなっている。

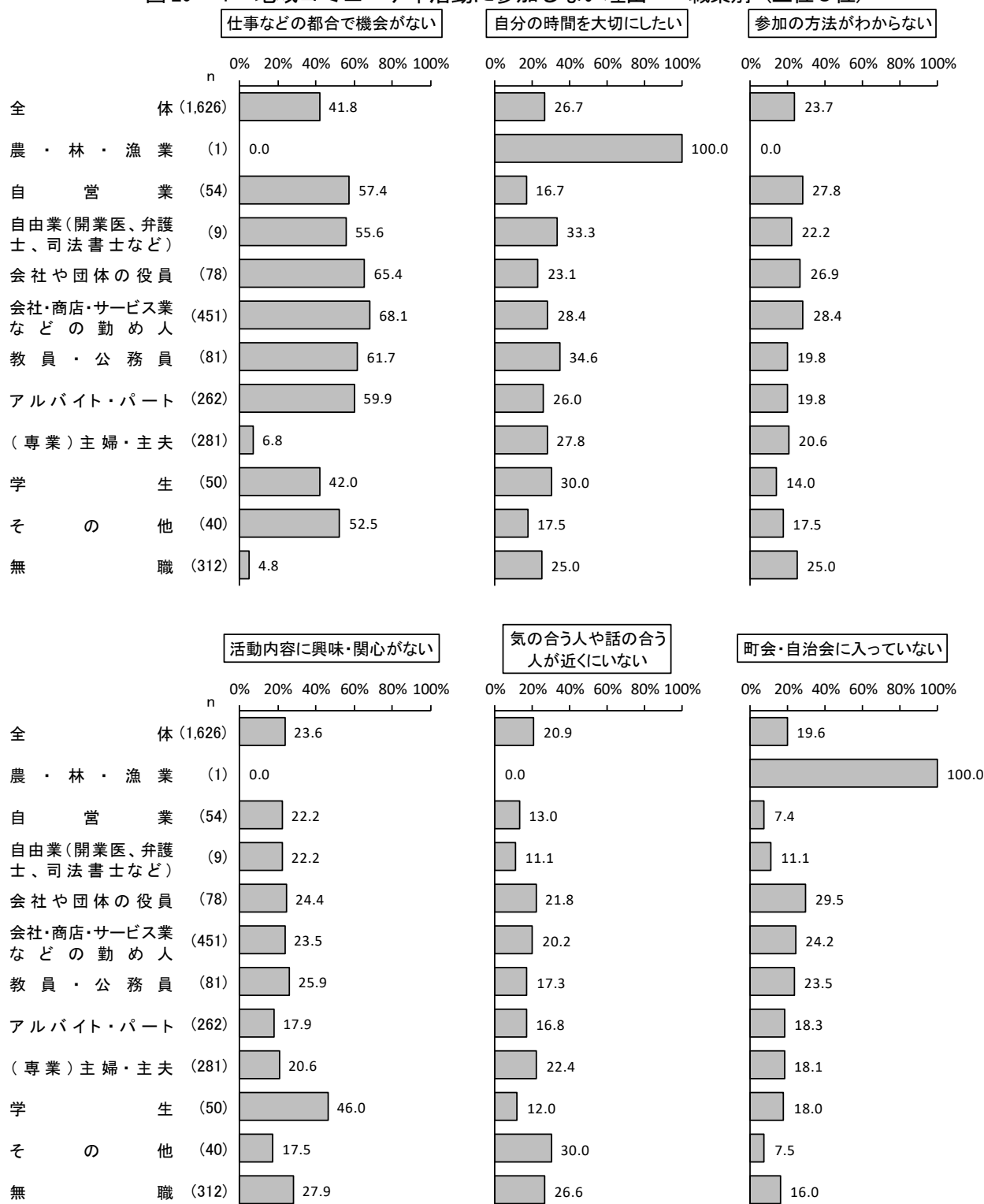
(図 20-2)

図 20-3 地域コミュニティ活動に参加しない理由 - 居住地域別 (上位 6 位)



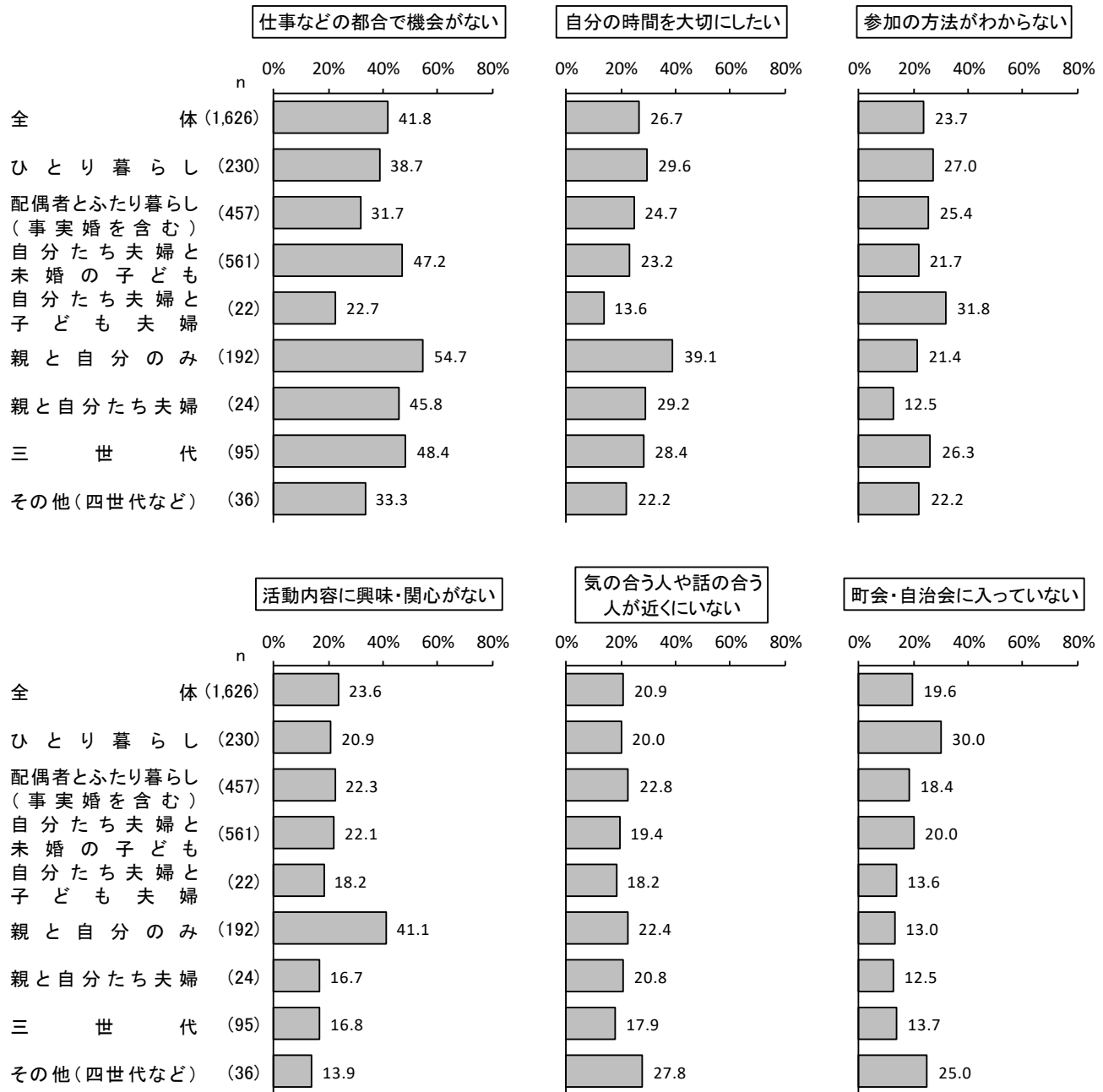
居住地域別にみると、「参加の方法がわからない」は、元八王子・恩方・川口（西部地域）（15.5%）が1割台半ばと低くなっている。「町会・自治会に入っていない」は、由井・北野（東南部地域）（26.7%）が3割近くと高くなっている。（図 20-3）

図 20-4 地域コミュニティ活動に参加しない理由 - 職業別 (上位 6 位)



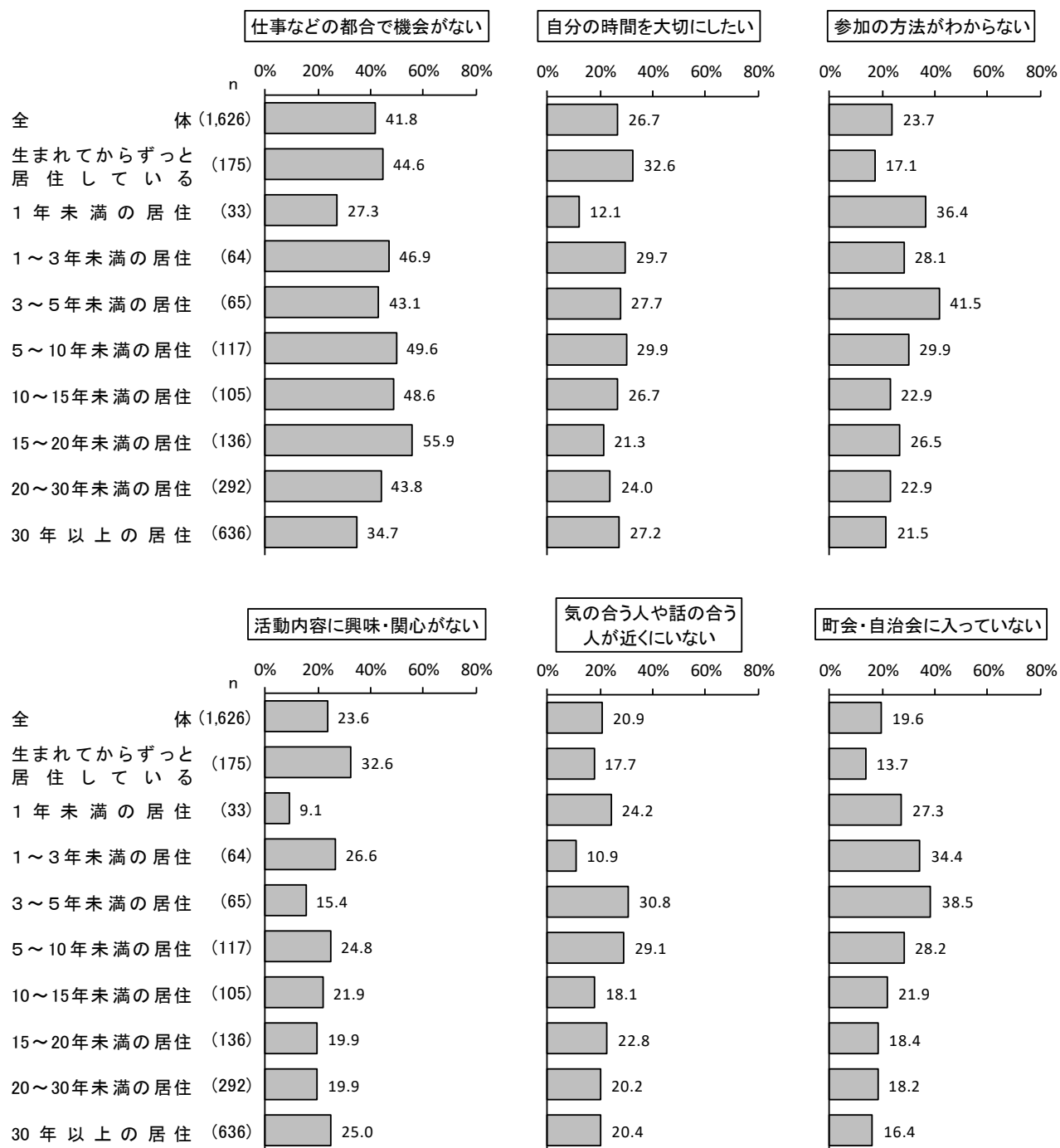
職業別にみると、「仕事などの都合で機会がない」は、会社・商店・サービス業などの勤め人 (68.1%) が 7 割近く、会社や団体の役員 (65.4%) が 6 割台半ば、教員・公務員 (61.7%) が 6 割強、アルバイト・パート (59.9%) が 6 割弱、自営業 (57.4%) が 6 割近く、その他 (52.5%) が 5 割強と高くなっている。「自分の時間を大切にしたい」は、教員・公務員 (34.6%) が 3 割台半ばと高くなっている。「参加の方法がわからない」は、学生 (14.0%) が 1 割強と低くなっている。「活動内容に興味・関心がない」は、学生 (46.0%) が 5 割近くと高くなっている。「気の合う人や話の合う人が近くにいない」は、その他 (30.0%) が 3 割、無職 (26.6%) が 3 割近くと高くなっている。「町会・自治会に入っていない」は、会社や団体の役員 (29.5%) が 3 割弱と高くなっている。(図 20-4)

図 20-5 地域コミュニティ活動に参加しない理由 - 世帯構成別 (上位 6 位)



世帯構成別にみると、「仕事などの都合で機会がない」は、親と自分のみ (54.7%) が5割台半ば、三世代 (48.4%)、自分たち夫婦と未婚の子ども (47.2%) がそれぞれ5割近くと高くなっている。「自分の時間を大切にしたい」は、親と自分のみ (39.1%) が4割弱と高くなっている。「活動内容に興味・関心がない」は、親と自分のみ (41.1%) が4割強と高くなっている。「気の合う人や話の合う人が近くにいない」は、その他 (四世代など) (27.8%) が3割近くと高くなっている。「町会・自治会に入っていない」は、ひとり暮らし (30.0%) が3割、その他 (四世代など) (25.0%) が2割台半ばと高くなっている。(図 20-5)

図 20-6 地域コミュニティ活動に参加しない理由 - 居住年数別 (上位 6 位)

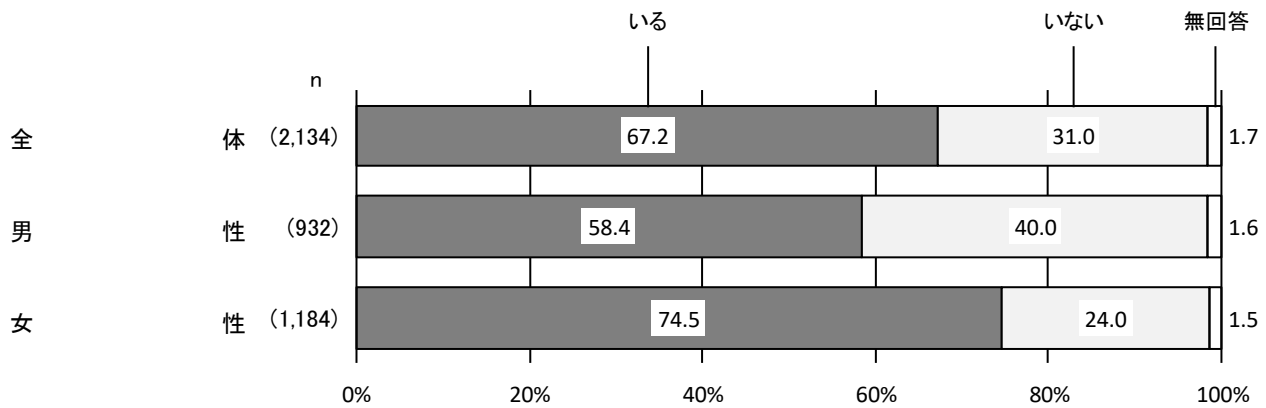


居住年数別にみると、「仕事などの都合で機会がない」は、15～20年未満の居住（55.9%）が5割台半ば、5～10年未満の居住（49.6%）が5割弱、10～15年未満の居住（48.6%）、1～3年未満の居住（46.9%）がそれぞれ5割近くと高くなっている。「自分の時間を大切にしたい」は、生まれてからずっと居住している（32.6%）が3割強と高くなっている。「参加の方法がわからない」は、3～5年未満の居住（41.5%）が4割強、1年未満の居住（36.4%）が4割近く、5～10年未満の居住（29.9%）が3割弱と高くなっている。「活動内容に興味・関心がない」は、生まれてからずっと居住している（32.6%）が3割強と高くなっている。「気の合う人や話の合う人が近くにいない」は、3～5年未満の居住（30.8%）が約3割、5～10年未満の居住（29.1%）が3割弱と高くなっている。「町会・自治会に入っていない」は、3～5年未満の居住（38.5%）が4割近く、1～3年未満の居住（34.4%）が3割台半ば、5～10年未満の居住（28.2%）、1年未満の居住（27.3%）がそれぞれ3割近くと高くなっている。（図 20-6）

(21) 身近な場所に相談や助け合いのできる人の有無

問 19 あなたは、身近な場所に困りごとを相談したり、助け合ったりできる人がいますか。(○は1つだけ)

図 21-1 身近な場所に相談や助け合いのできる人の有無 - 全体、性別

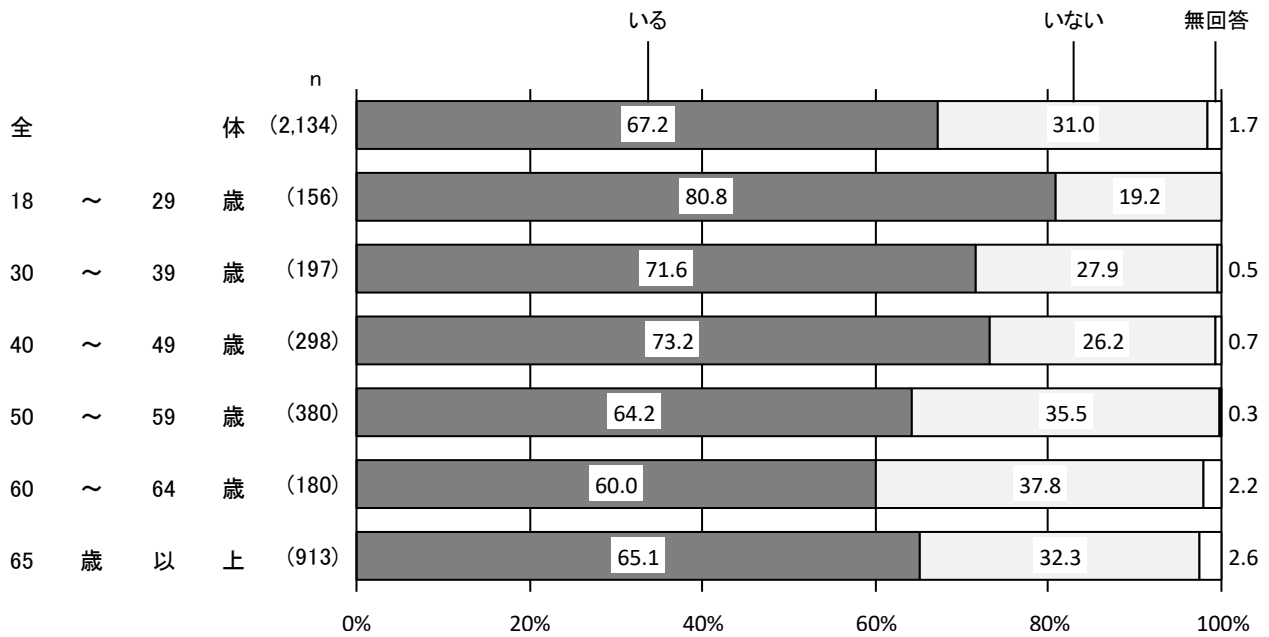


身近な場所に困りごとを相談したり、助け合ったりできる人がいるかを聞いたところ、「いる」(67.2%)は、7割近くとなっている。一方、「いない」(31.0%)は、3割強となっている。

性別にみると、「いる」は、女性(74.5%)が男性(58.4%)より16.1ポイント高くなっている。

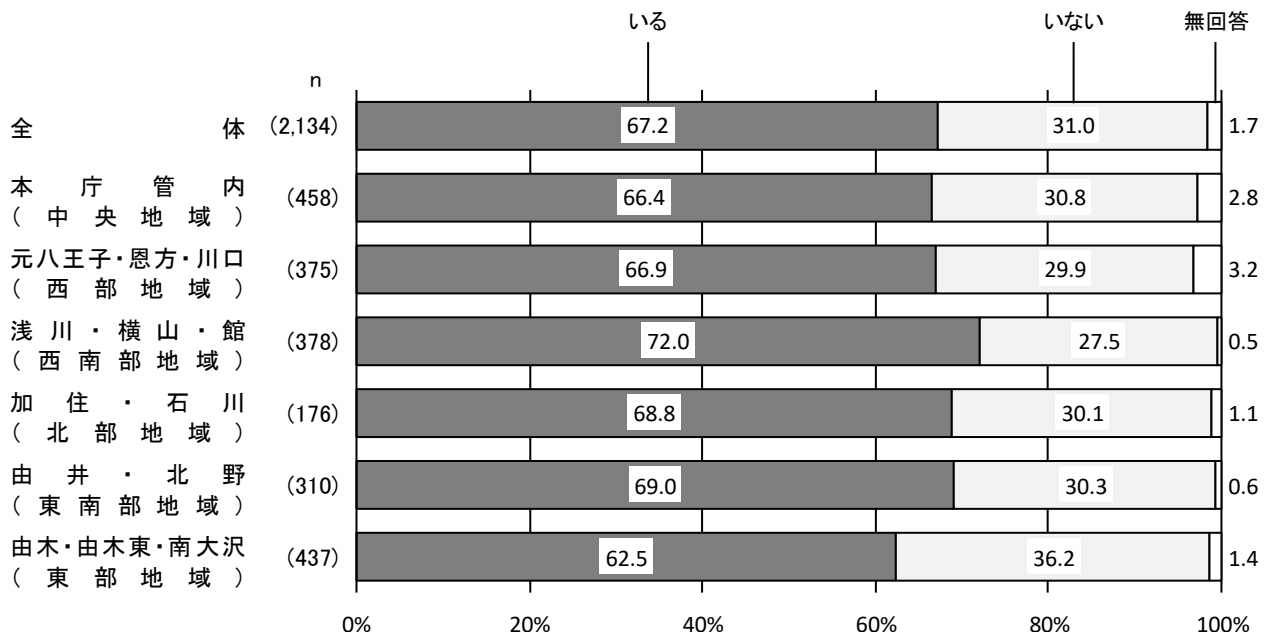
(図 21-1)

図 21-2 身近な場所に相談や助け合いのできる人の有無 - 年齢別



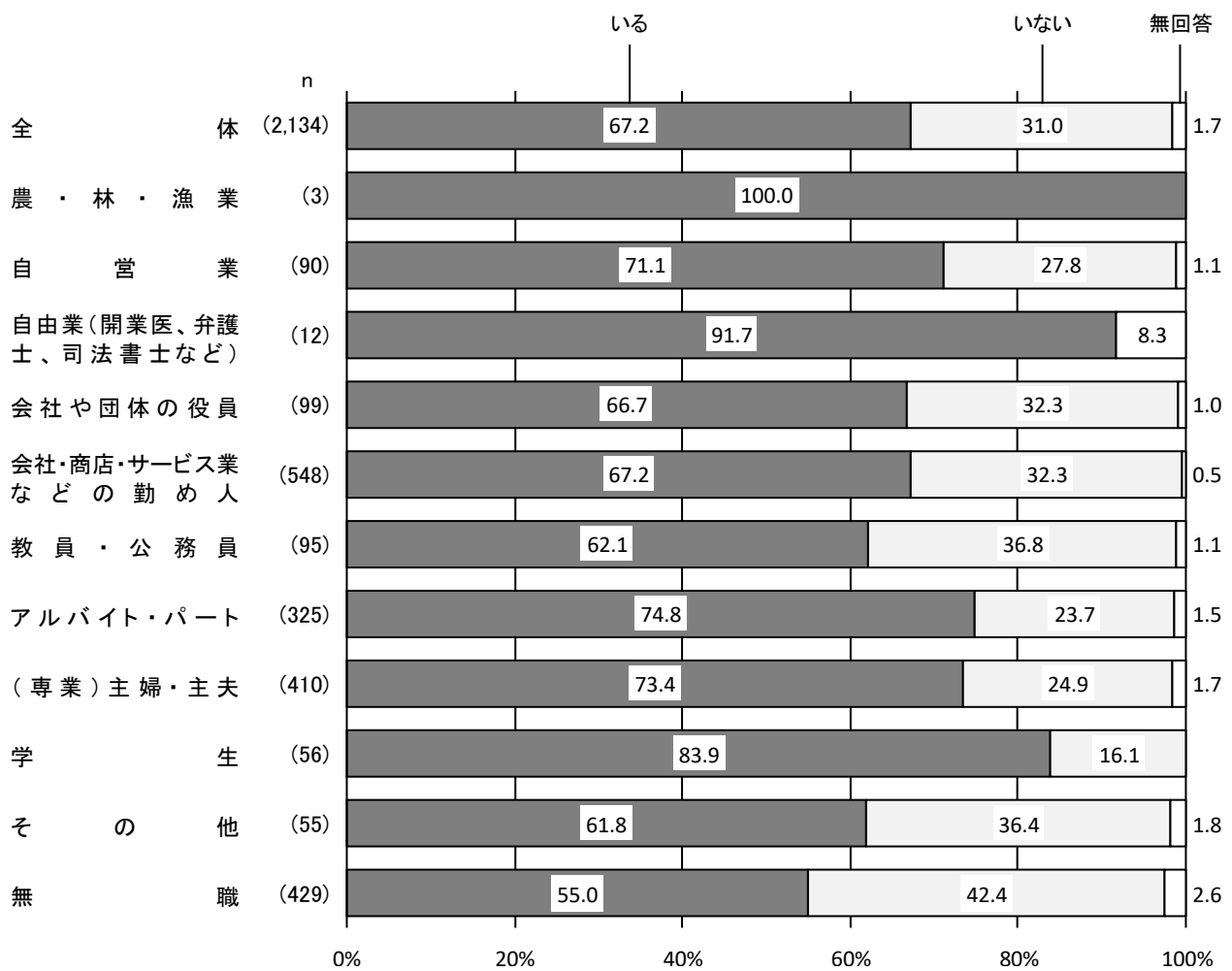
年齢別にみると、「いる」は、18～29歳（80.8%）が約8割、40～49歳（73.2%）が7割強と高くなっている。「いない」は、60～64歳（37.8%）が4割近くと高くなっている。（図 21-2）

図 21-3 身近な場所に相談や助け合いのできる人の有無 - 居住地域別



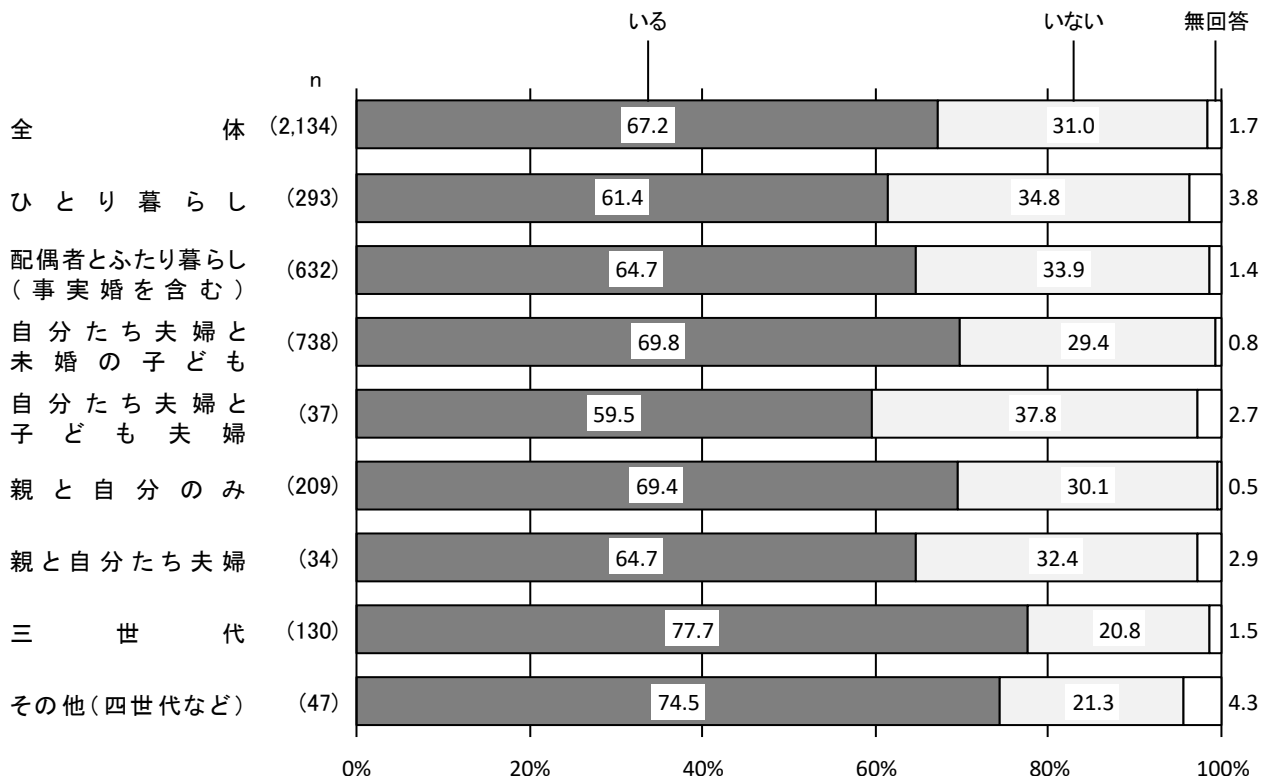
居住地域別にみると、「いない」は、由木・由木東・南大沢（東部地域）（36.2%）が4割近くと高くなっている。（図 21-3）

図 21-4 身近な場所に相談や助け合いのできる人の有無 - 職業別



職業別にみると、「いる」は、学生 (83.9%) が8割強、アルバイト・パート (74.8%) が7割台半ば、(専業)主婦・主夫 (73.4%) が7割強と高くなっている。「いない」は、無職 (42.4%) が4割強、教員・公務員 (36.8%)、その他 (36.4%) がそれぞれ4割近くと高くなっている。(図 21-4)

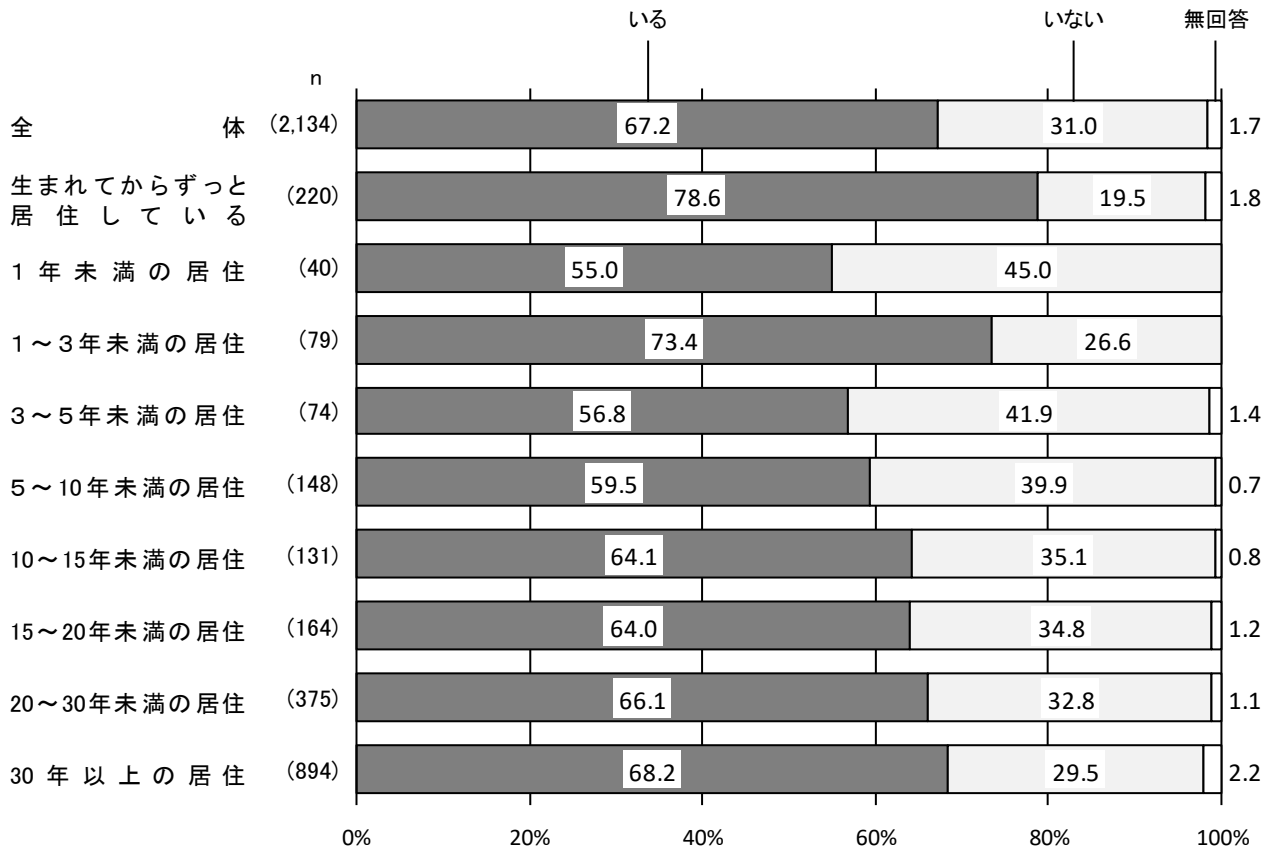
図 21-5 身近な場所に相談や助け合いのできる人の有無 - 世帯構成別



世帯構成別にみると、「いる」は、三世代 (77.7%) が 8 割近く、その他 (四世代など) (74.5%) が 7 割台半ばと高くなっている。「いない」は、自分たち夫婦と子ども夫婦 (37.8%) が 4 割近くと高くなっている。

(図 21-5)

図 21-6 身近な場所に相談や助け合いのできる人の有無 - 居住年数別

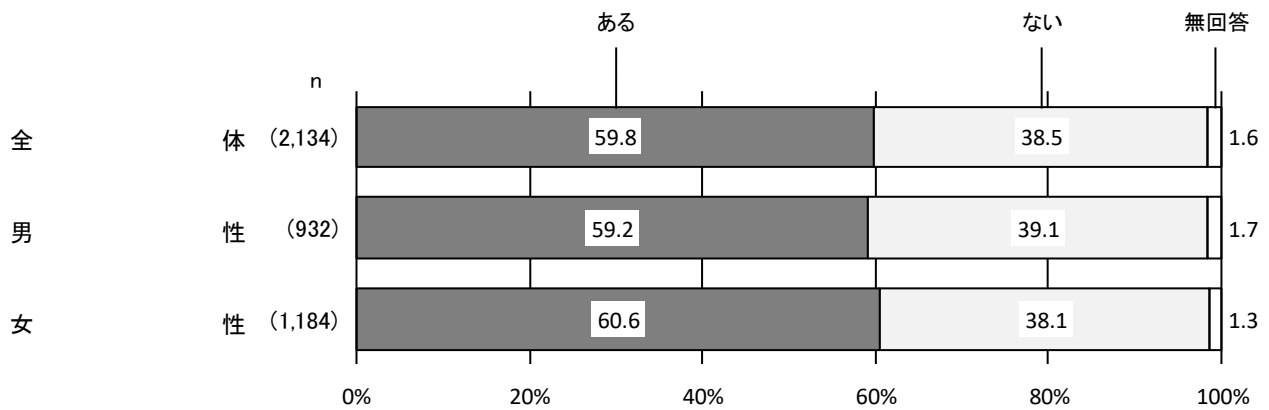


居住年数別にみると、「いる」は、生まれてからずっと居住している（78.6%）が8割近く、1～3年未満の居住（73.4%）が7割強と高くなっている。「いない」は、1年未満の居住（45.0%）が4割台半ば、3～5年未満の居住（41.9%）が4割強、5～10年未満の居住（39.9%）が4割弱と高くなっている。（図 21-6）

(22) 身近な地域に気軽に立ち寄れる場所の有無

問 20 あなたにとって、身近な地域に気軽に立ち寄れる場所（公共施設（集会所や図書館など）、飲食店やカフェなどの民間施設、公園、サロンなど）はありますか。（○は1つだけ）

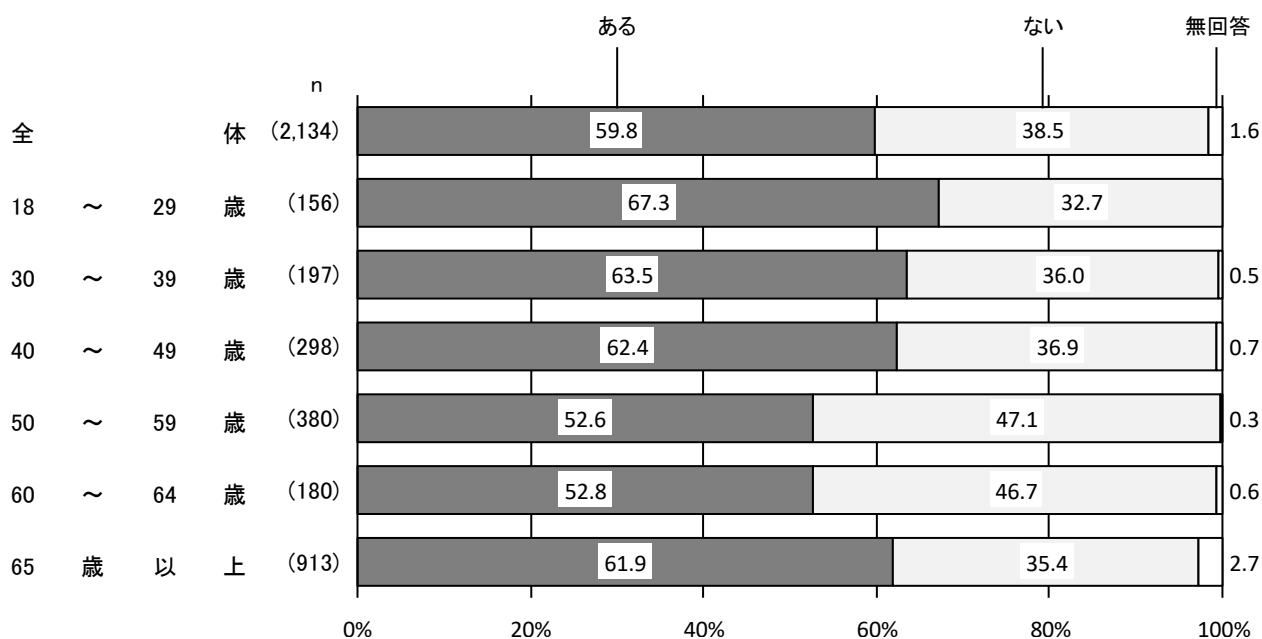
図 22-1 身近な地域に気軽に立ち寄れる場所の有無 — 全体、性別



身近な地域に気軽に立ち寄れる場所などがあるかを聞いたところ、「ある」(59.8%)は、6割弱となっている。一方、「ない」(38.5%)は、4割近くとなっている。

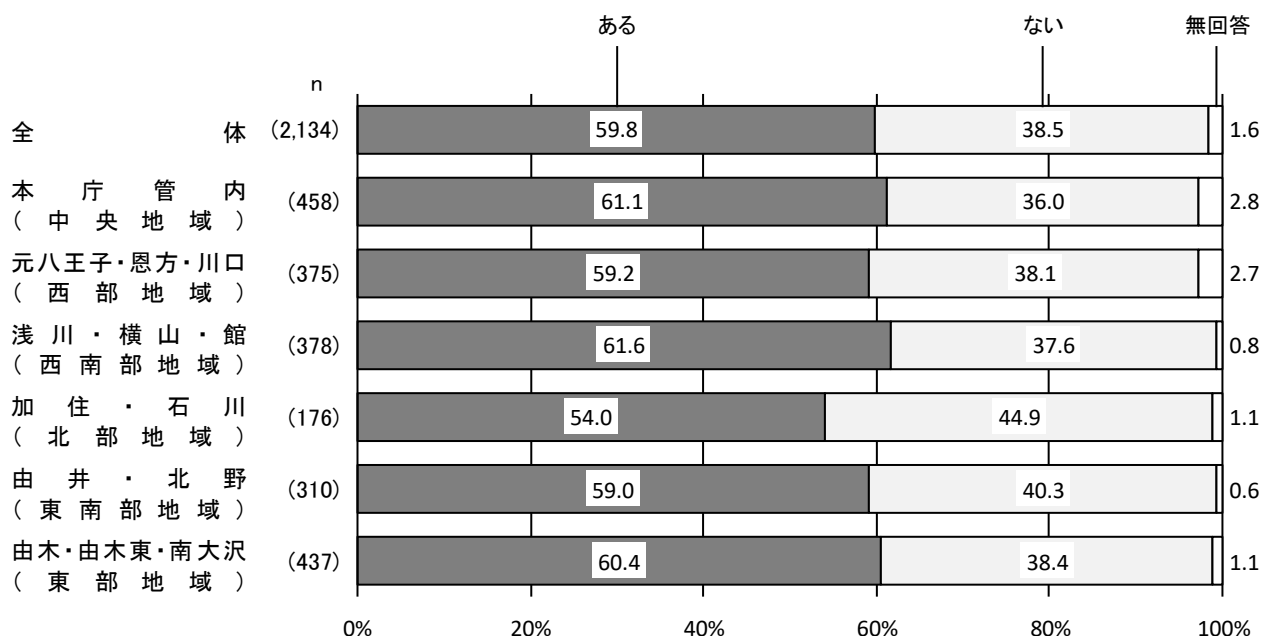
性別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図 22-1)

図 22-2 身近な地域に気軽に立ち寄れる場所の有無 — 年齢別



年齢別にみると、「ある」は、18~29歳(67.3%)が7割近くと高くなっている。「ない」は、50~59歳(47.1%)、60~64歳(46.7%)がそれぞれ5割近くと高くなっている。(図 22-2)

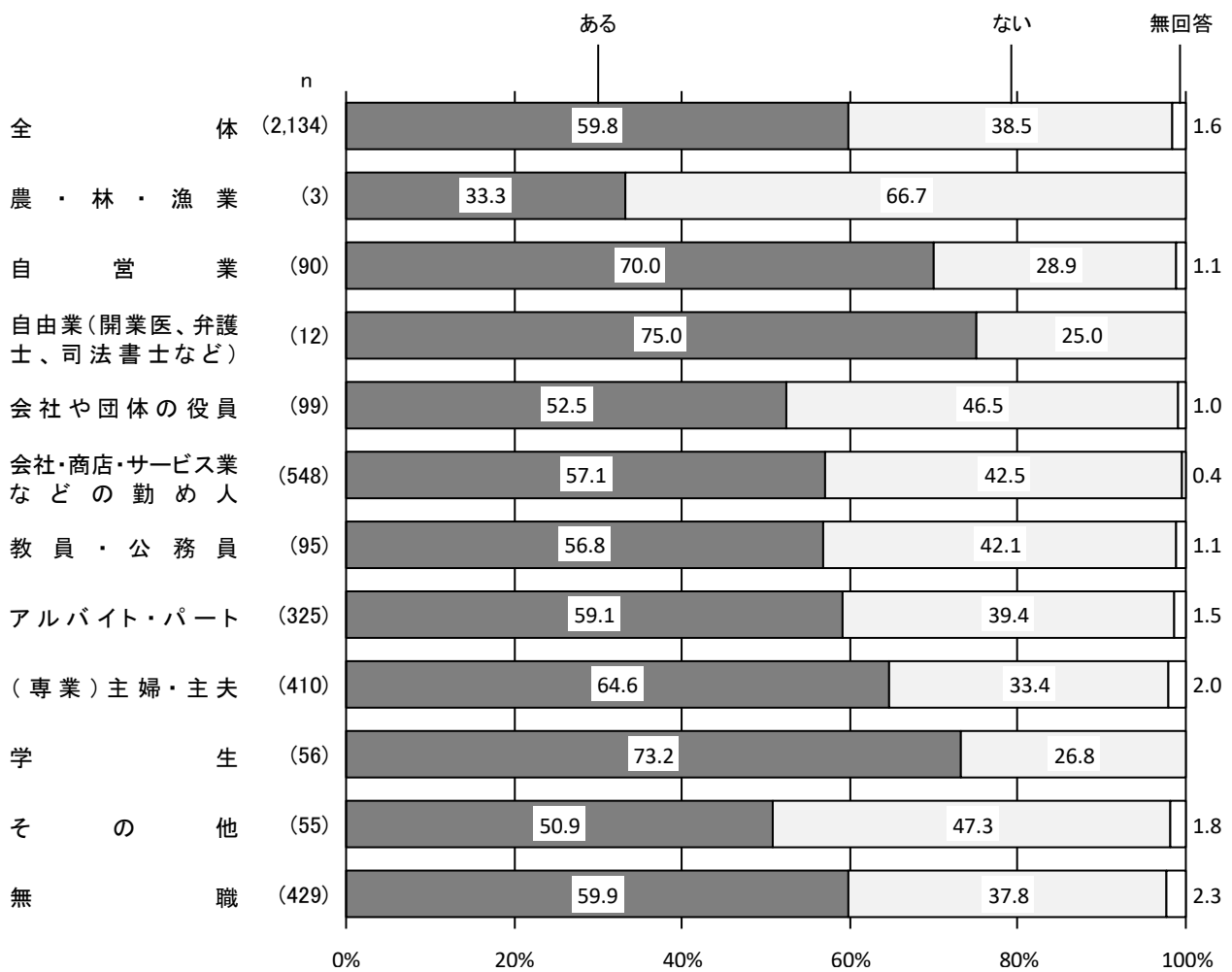
図 22-3 身近な地域に気軽に立ち寄れる場所の有無 — 居住地域別



居住地域別にみると、「ない」は、加住・石川(北部地域)(44.9%)が4割台半ばと高くなっている。

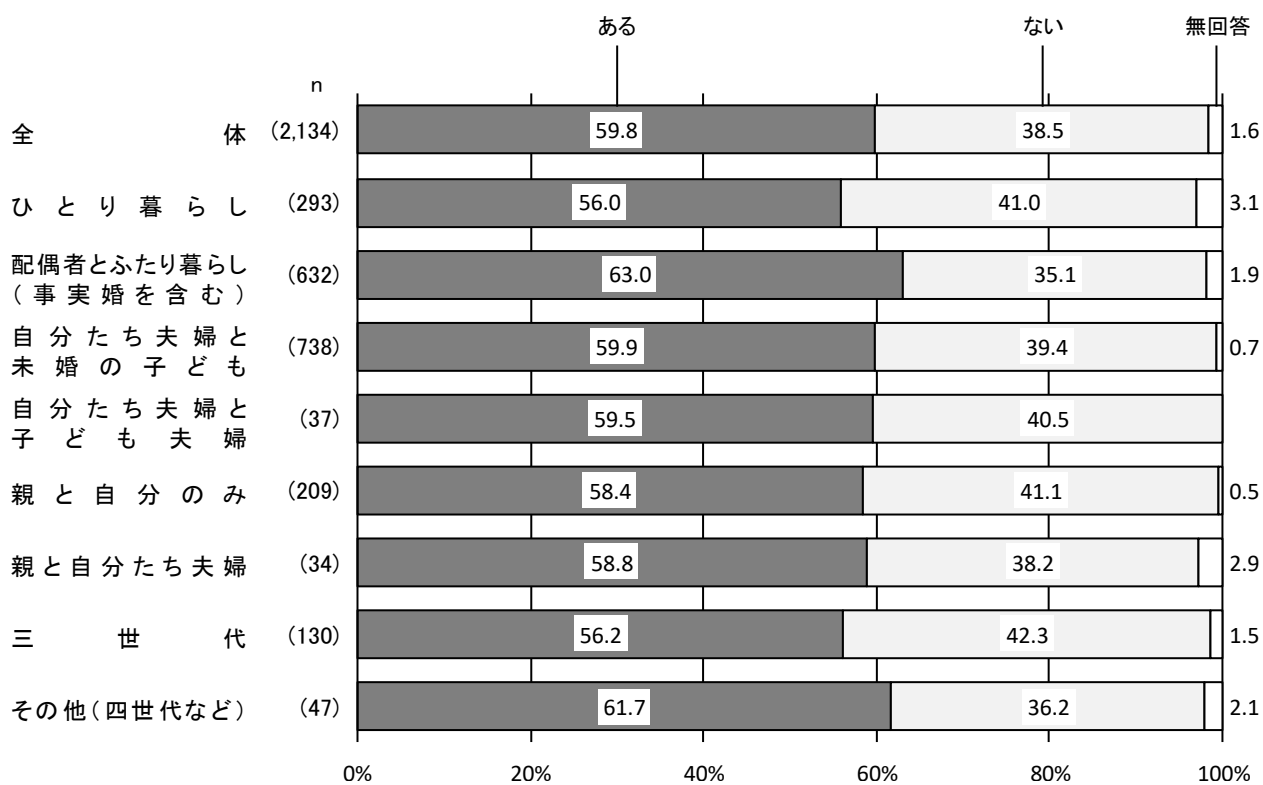
(図 22-3)

図 22-4 身近な地域に気軽に立ち寄れる場所の有無 - 職業別



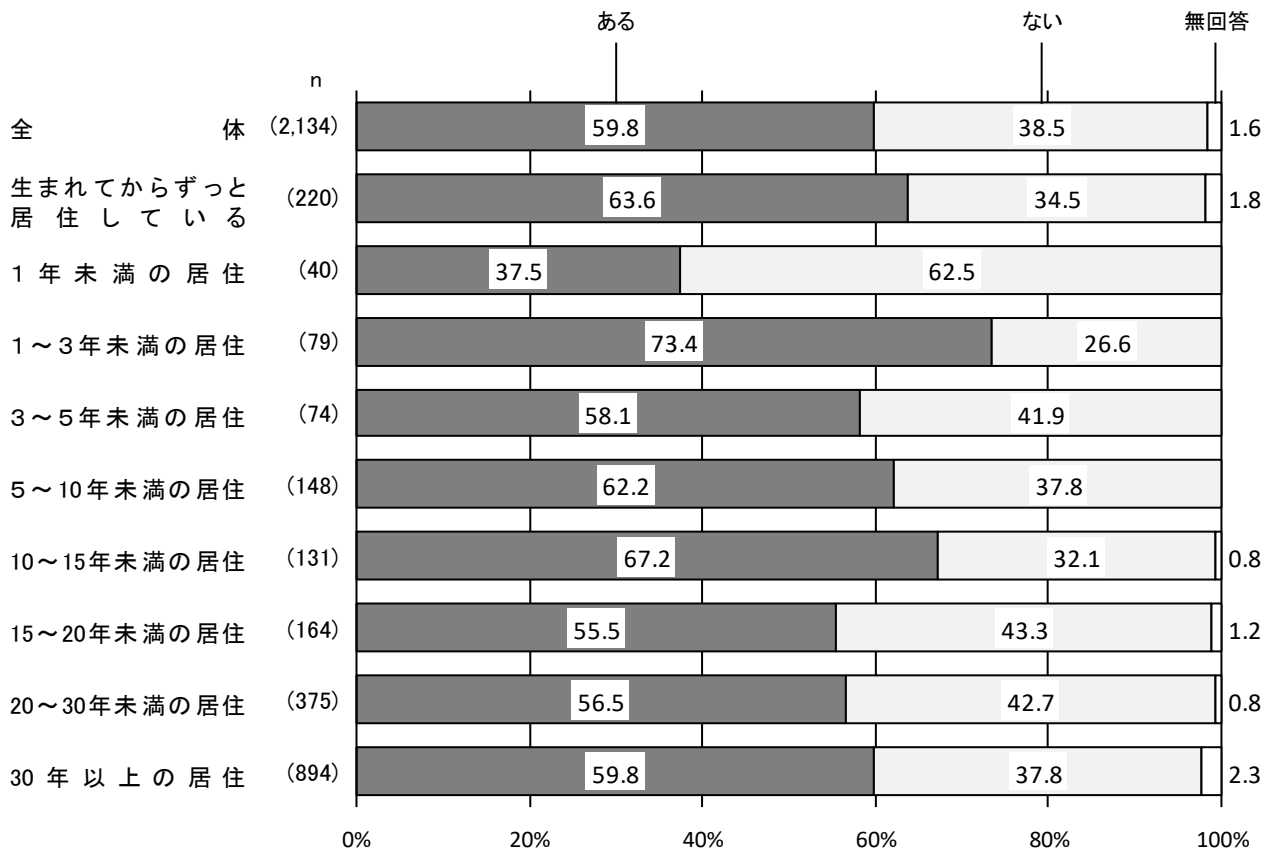
職業別にみると、「ある」は、学生 (73.2%) が7割強、自営業 (70.0%) が7割と高くなっている。「ない」は、その他 (47.3%)、会社や団体の役員 (46.5%) がそれぞれ5割近くと高くなっている。(図 22-4)

図 22-5 身近な地域に気軽に立ち寄れる場所の有無 — 世帯構成別



世帯構成別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図 22-5)

図 22-6 身近な地域に気軽に立ち寄れる場所の有無 - 居住年数別



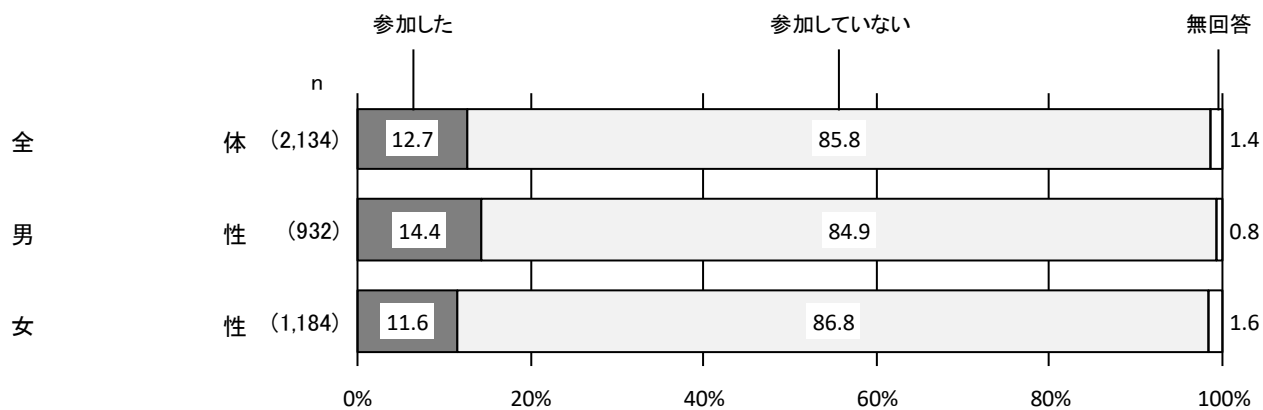
居住年数別にみると、「ある」は、1～3年未満の居住（73.4%）が7割強、10～15年未満の居住（67.2%）が7割近くと高くなっている。「ない」は、1年未満の居住（62.5%）が6割強と高くなっている。

(図 22-6)

(23) 日本遺産や歴史文化などにふれる地域の行事・活動への参加の有無

問 21 あなたは、この1年間に、日本遺産や歴史文化などにふれる地域の行事・活動に参加しましたか。
 (〇は1つだけ)

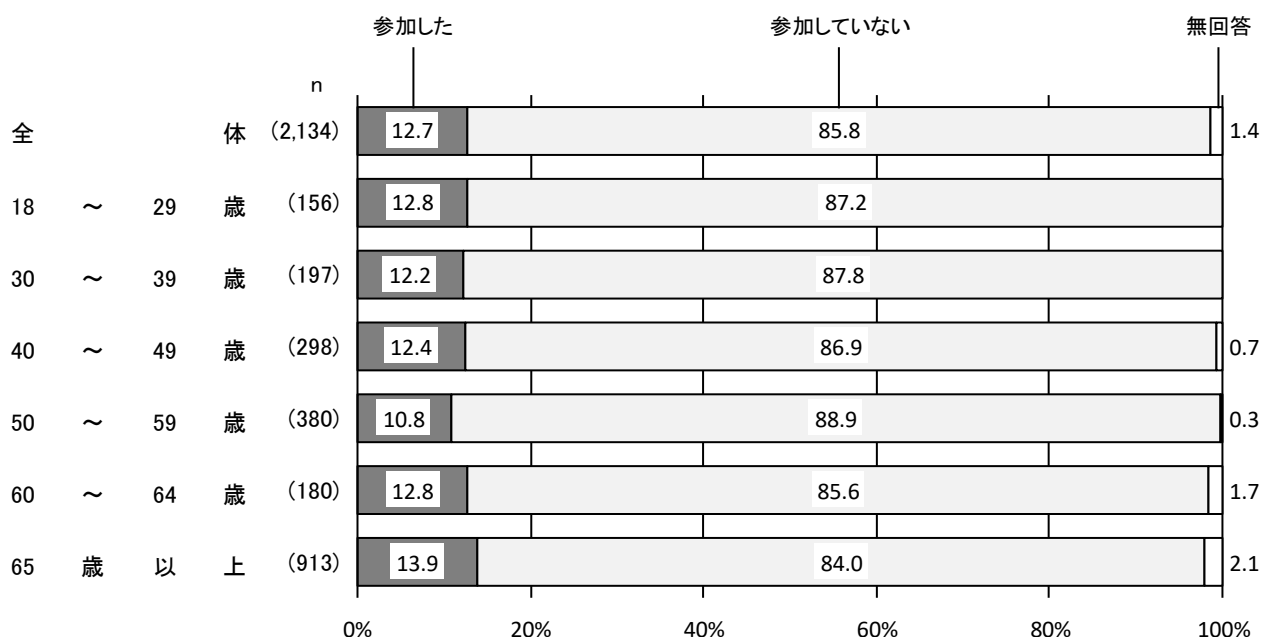
図 23-1 日本遺産や歴史文化などにふれる地域の行事・活動への参加の有無 — 全体、性別



日本遺産や歴史文化などにふれる地域の行事・活動に参加したかを聞いたところ、「参加した」(12.7%)は、1割強となっている。一方、「参加していない」(85.8%)は、8割台半ばとなっている。

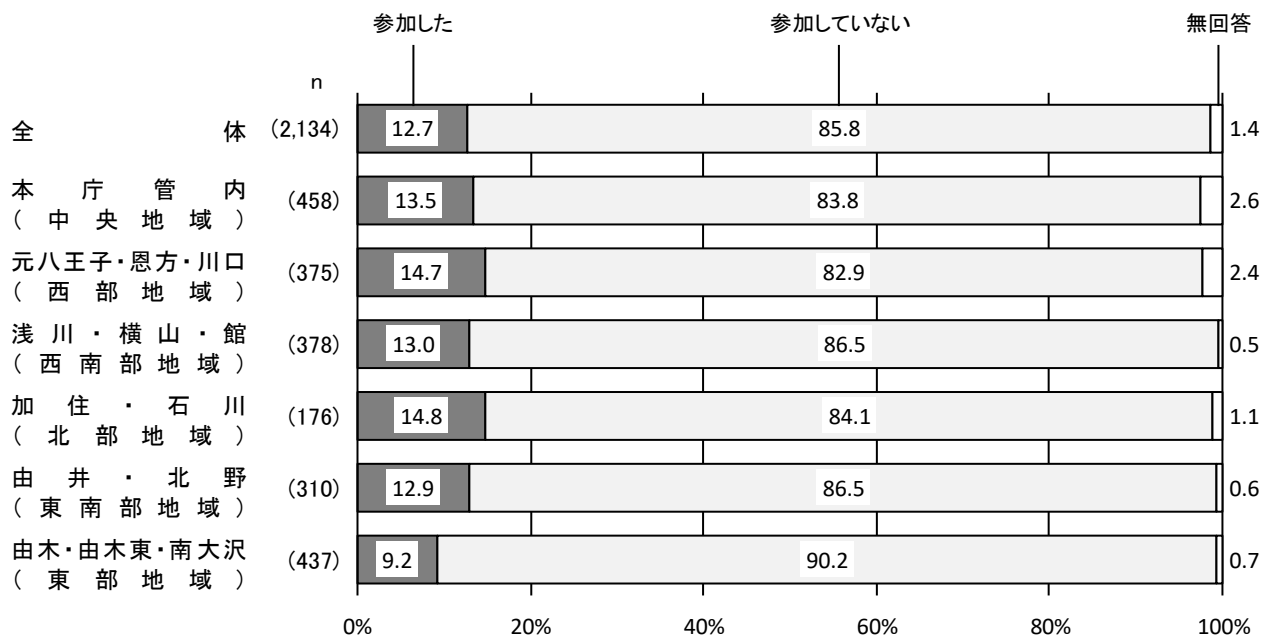
性別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図 23-1)

図 23-2 日本遺産や歴史文化などにふれる地域の行事・活動への参加の有無 — 年齢別



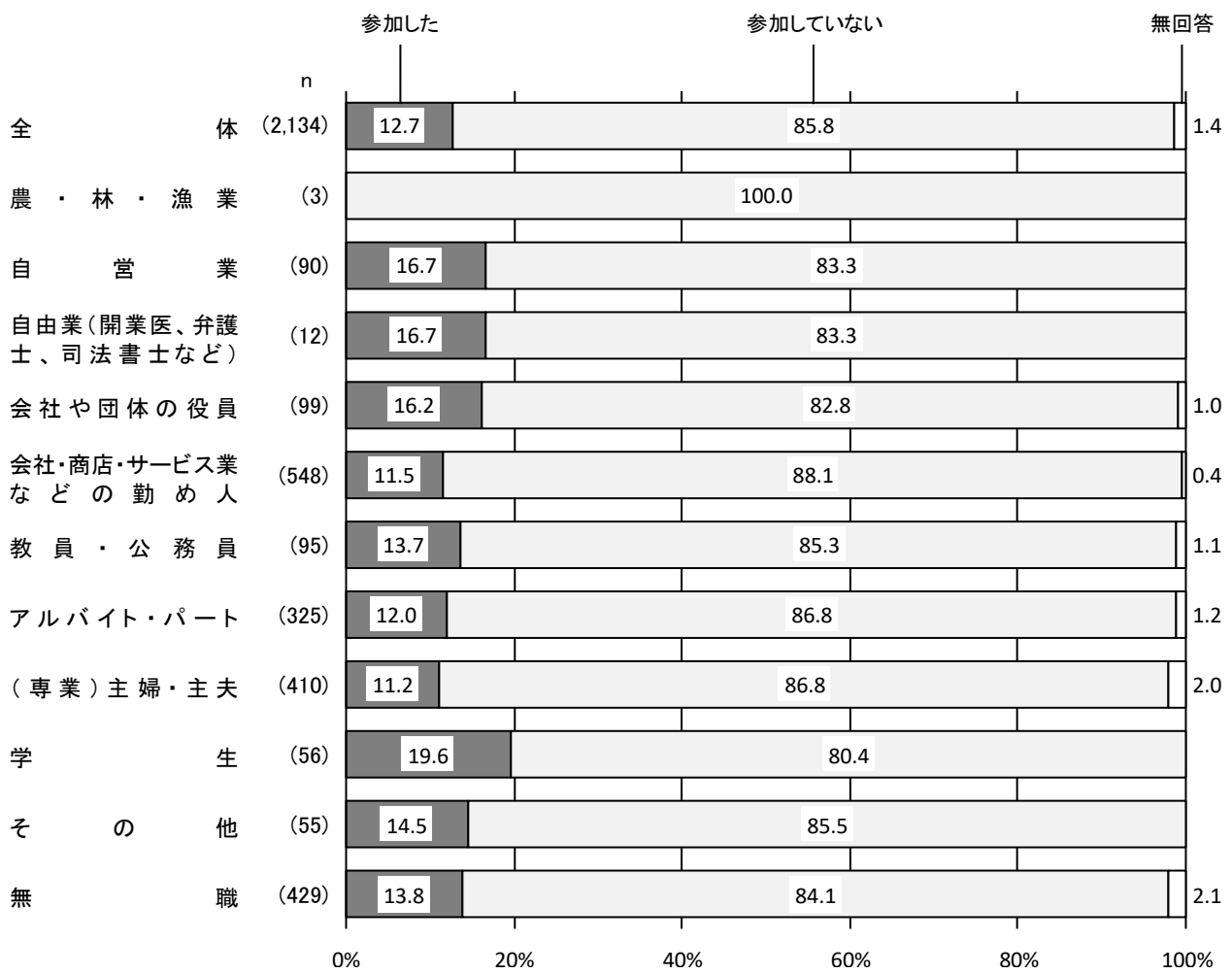
年齢別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図 23-2)

図 23-3 日本遺産や歴史文化などにふれる地域の行事・活動への参加の有無 — 居住地域別



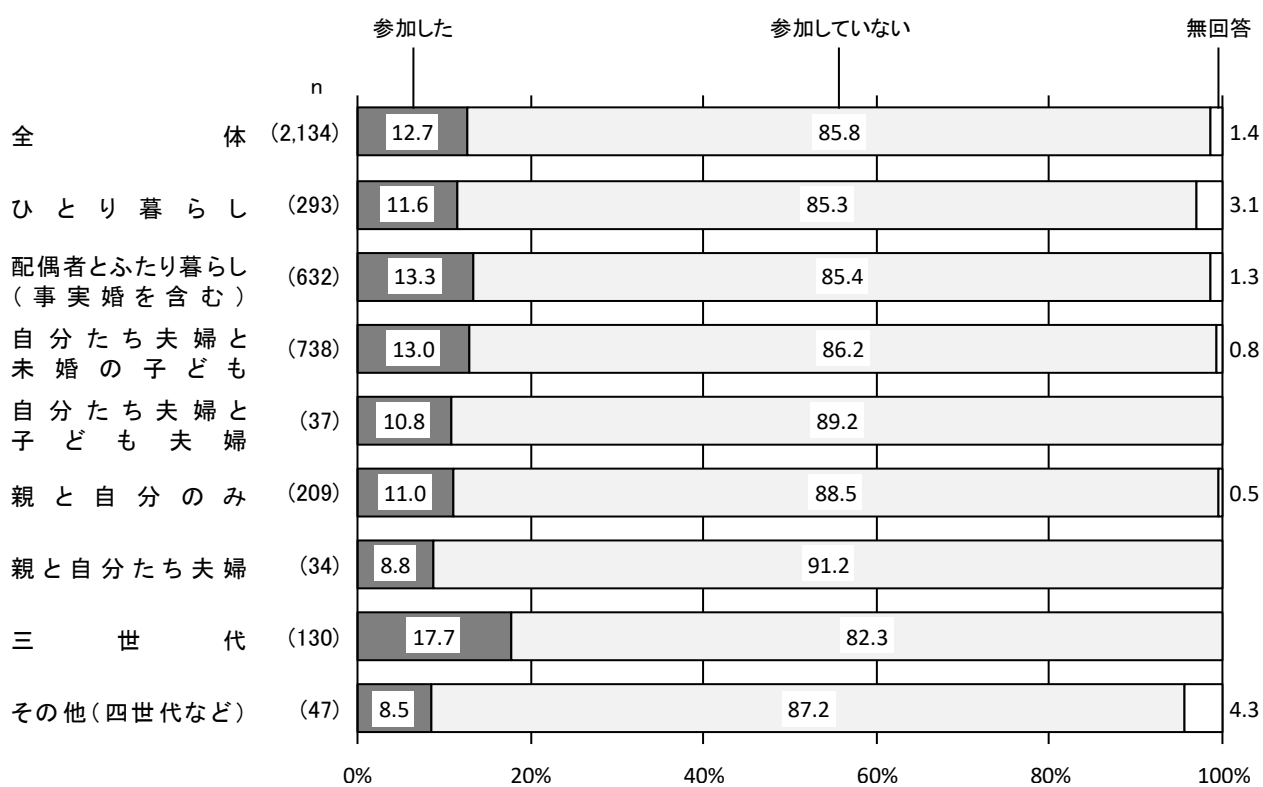
居住地域別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図 23-3)

図 23-4 日本遺産や歴史文化などにふれる地域の行事・活動への参加の有無 - 職業別



職業別にみると、「参加した」は、学生 (19.6%) が2割弱と高くなっている。(図 23-4)

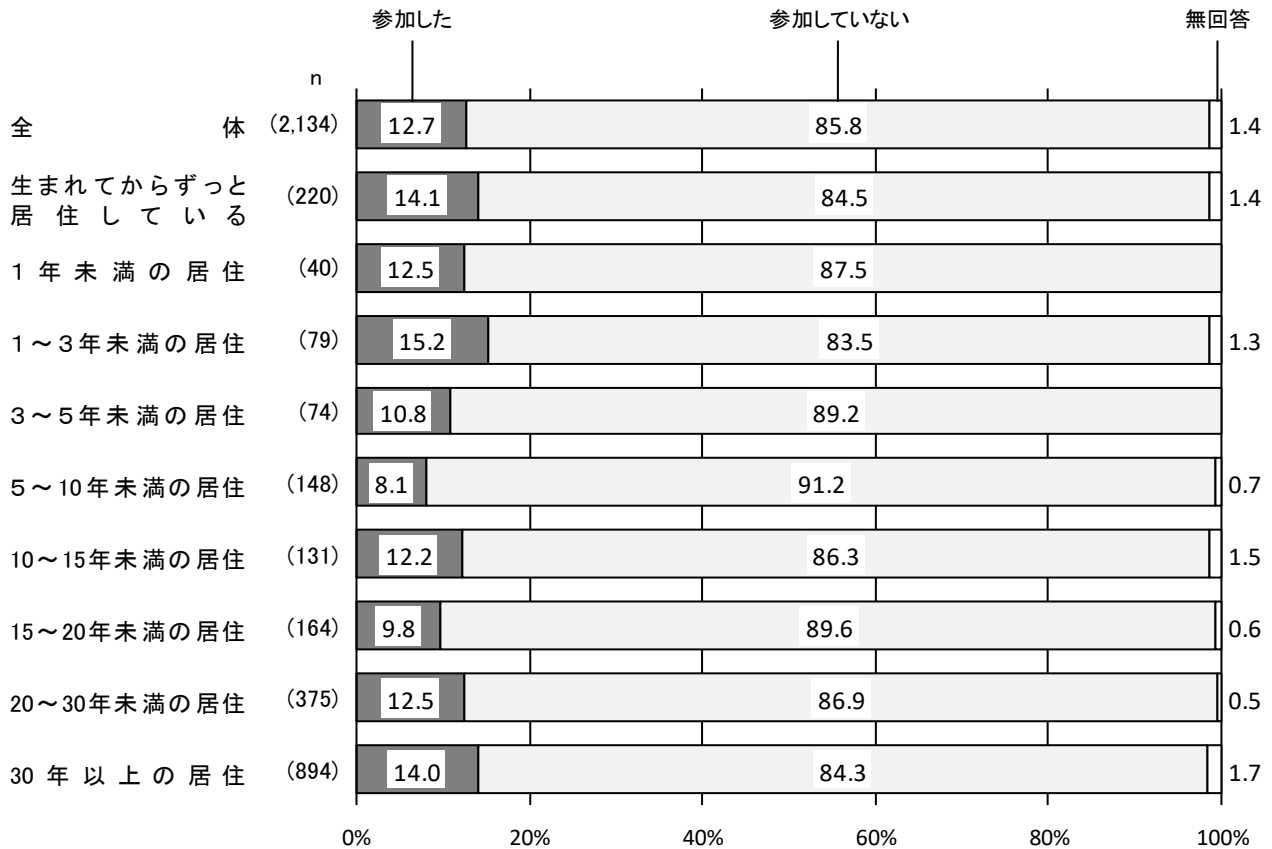
図 23-5 日本遺産や歴史文化などにふれる地域の行事・活動への参加の有無 — 世帯構成別



世帯構成別にみると、「参加していない」は、親と自分たち夫婦（91.2%）が9割強と高くなっている。

(図 23-5)

図 23-6 日本遺産や歴史文化などにふれる地域の行事・活動への参加の有無 - 居住年数別



居住年数別にみると、「参加していない」は、5～10年未満の居住（91.2%）が9割強と高くなっている。

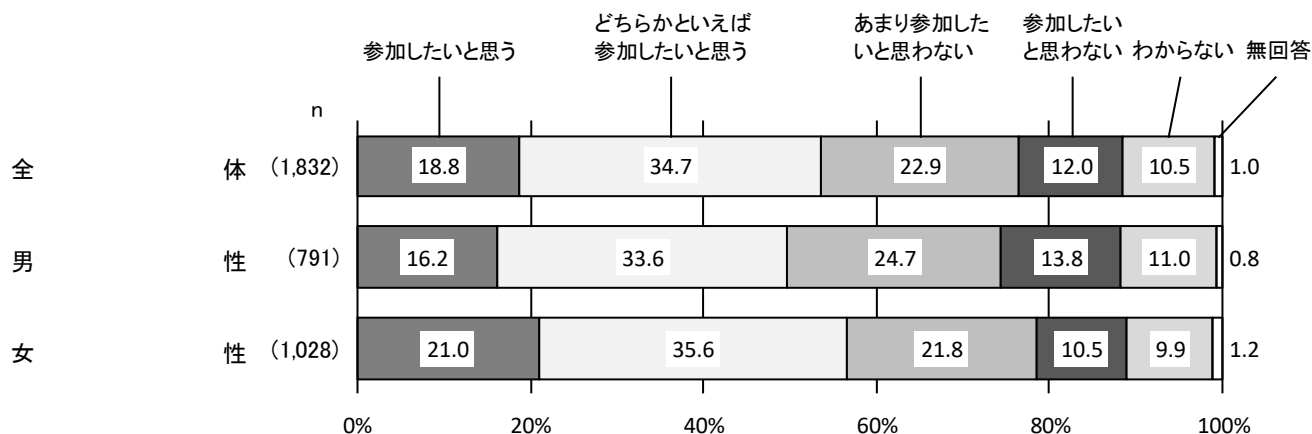
(図 23-6)

(24) 感染拡大の影響がなく開催された場合に参加したいと思うか（地域の行事・活動）

（問 21 で、「2 参加していない」とお答えの方へ）

問 21-1 新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により各種行事が中止となっている状況です。影響がなく開催された場合に参加したいと思いますか。（○は1つだけ）

図 24-1 感染拡大の影響がなく開催された場合に参加したいと思うか
（地域の行事・活動）－全体、性別

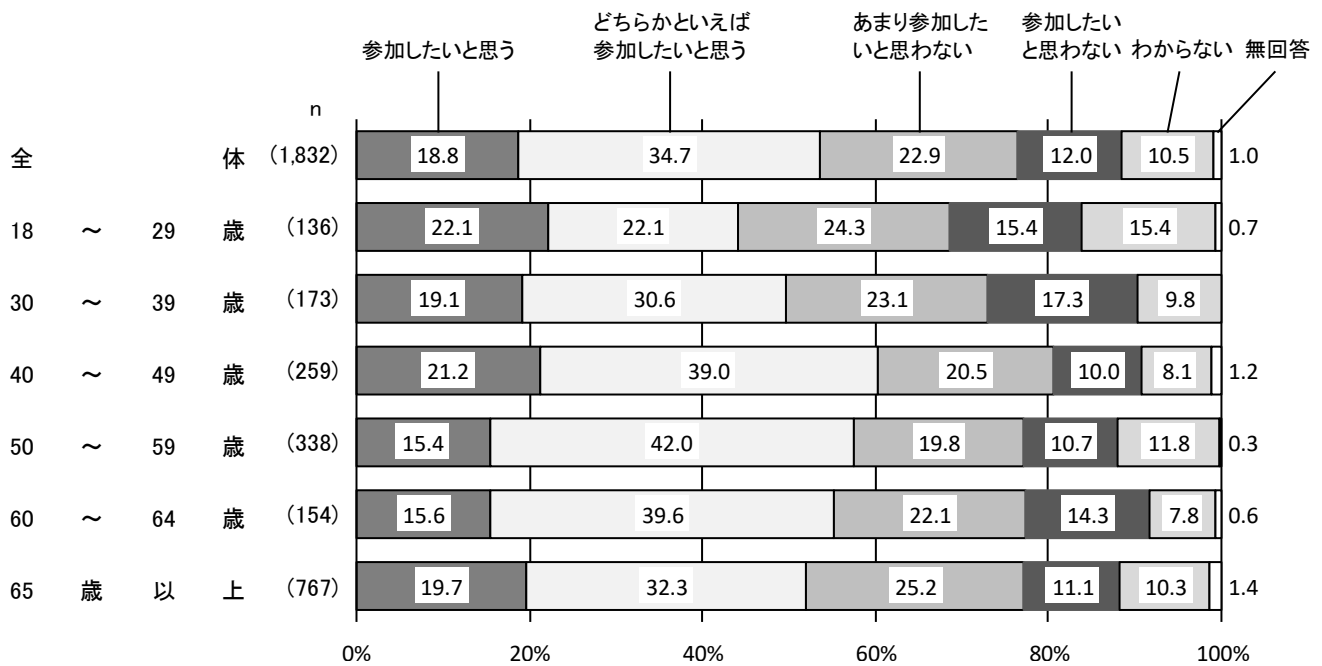


地域の行事・活動が、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響がなく開催された場合に参加したいと思うかを聞いたところ、「参加したいと思う」(18.8%)と「どちらかといえば参加したいと思う」(34.7%)を合わせた《参加したい》(53.5%)は、5割強となっている。一方、「あまり参加したいと思わない」(22.9%)と「参加したいと思わない」(12.0%)を合わせた《参加したくない》(34.9%)は、3割台半ばとなっている。

性別にみると、《参加したい》は、女性(56.6%)が男性(49.8%)より6.8ポイント高くなっている。

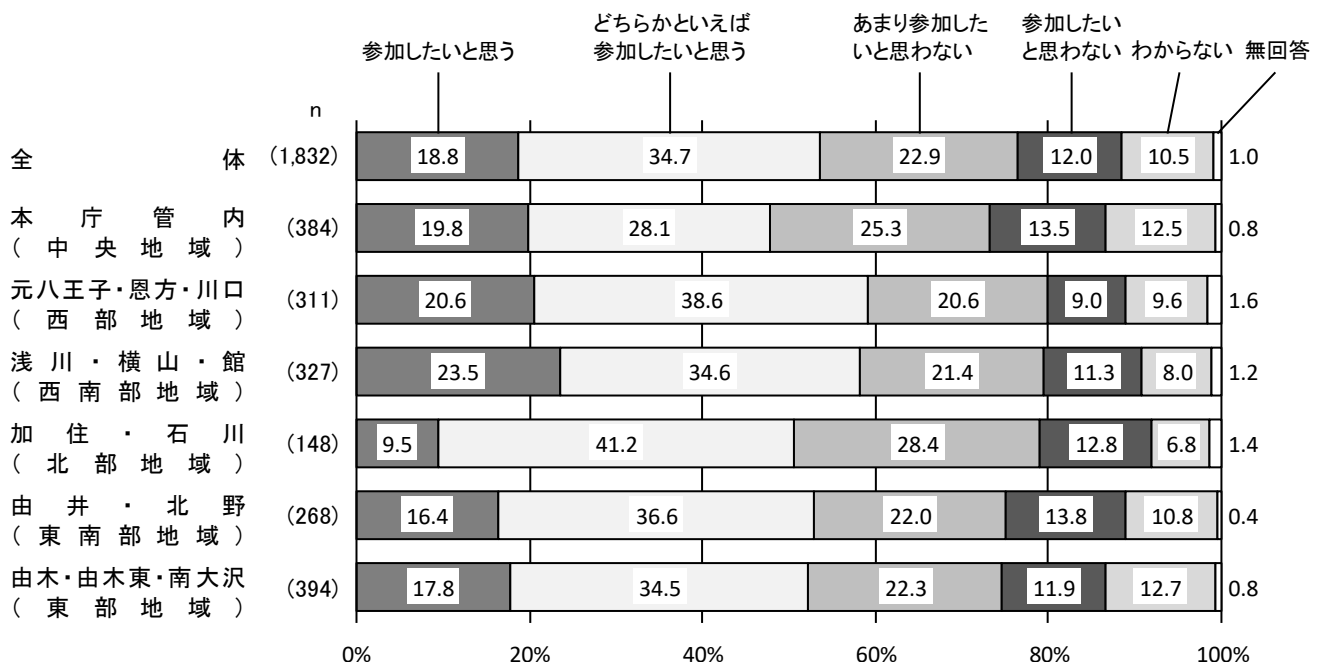
(図 24-1)

図 24-2 感染拡大の影響がなく開催された場合に参加したいと思うか
(地域の行事・活動) - 年齢別



年齢別にみると、「参加したい」は、40~49 歳 (60.2%) が約 6 割と高くなっている。「参加したくない」は、30~39 歳 (40.4%) が約 4 割と高くなっている。(図 24-2)

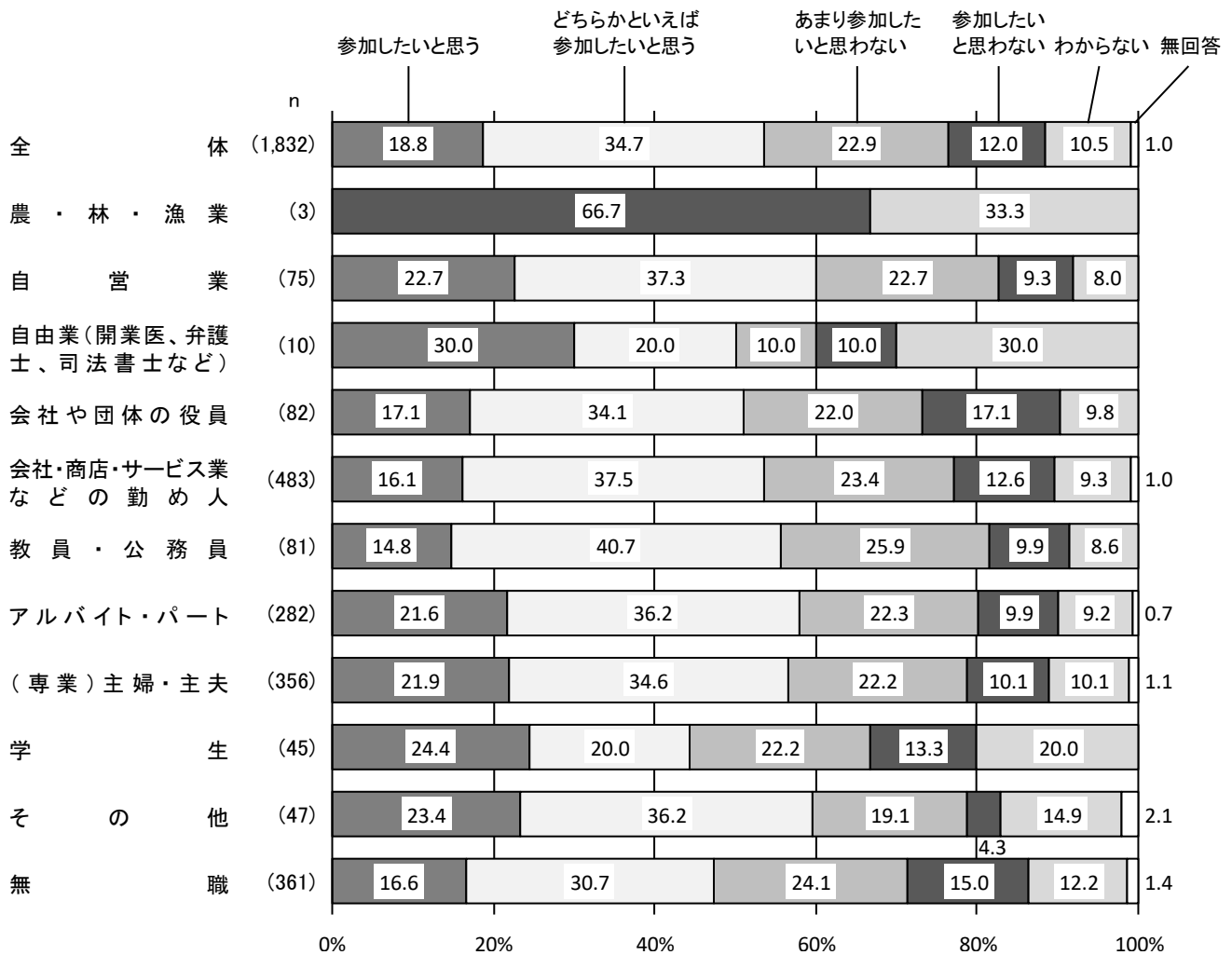
図 24-3 感染拡大の影響がなく開催された場合に参加したいと思うか
(地域の行事・活動) - 居住地域別



居住地域別にみると、「参加したい」は、元八王子・恩方・川口 (西部地域) (59.2%) が 6 割弱と高くなっている。「参加したくない」は、加住・石川 (北部地域) (41.2%) が 4 割強と高くなっている。

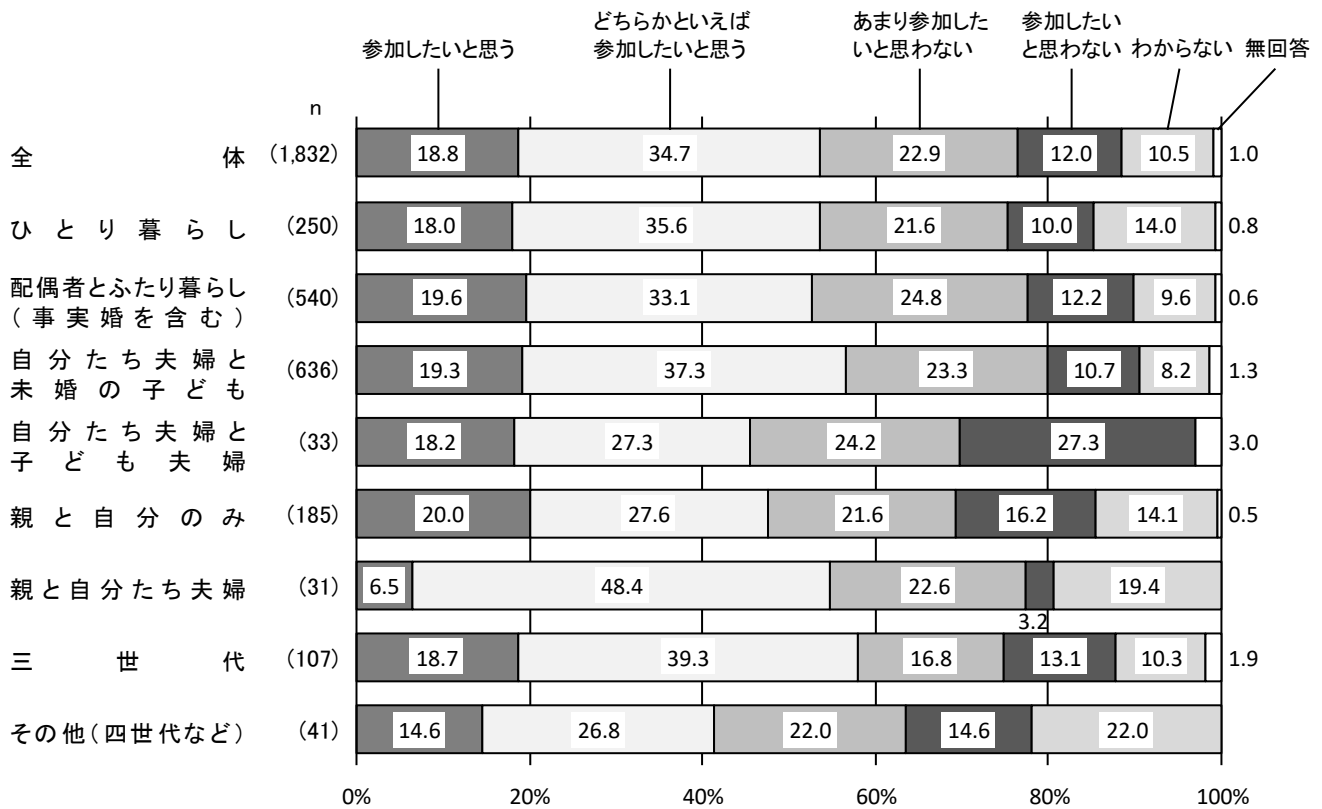
(図 24-3)

図 24-4 感染拡大の影響がなく開催された場合に参加したいと思うか
(地域の行事・活動) — 職業別



職業別にみると、《参加したい》は、自営業 (60.0%) が6割、その他 (59.6%) が6割弱と高くなっている。《参加したくない》は、傾向に大きな違いはみられないが、「参加したいと思わない」は、会社や団体の役員 (17.1%) が2割近くと高くなっている。(図 24-4)

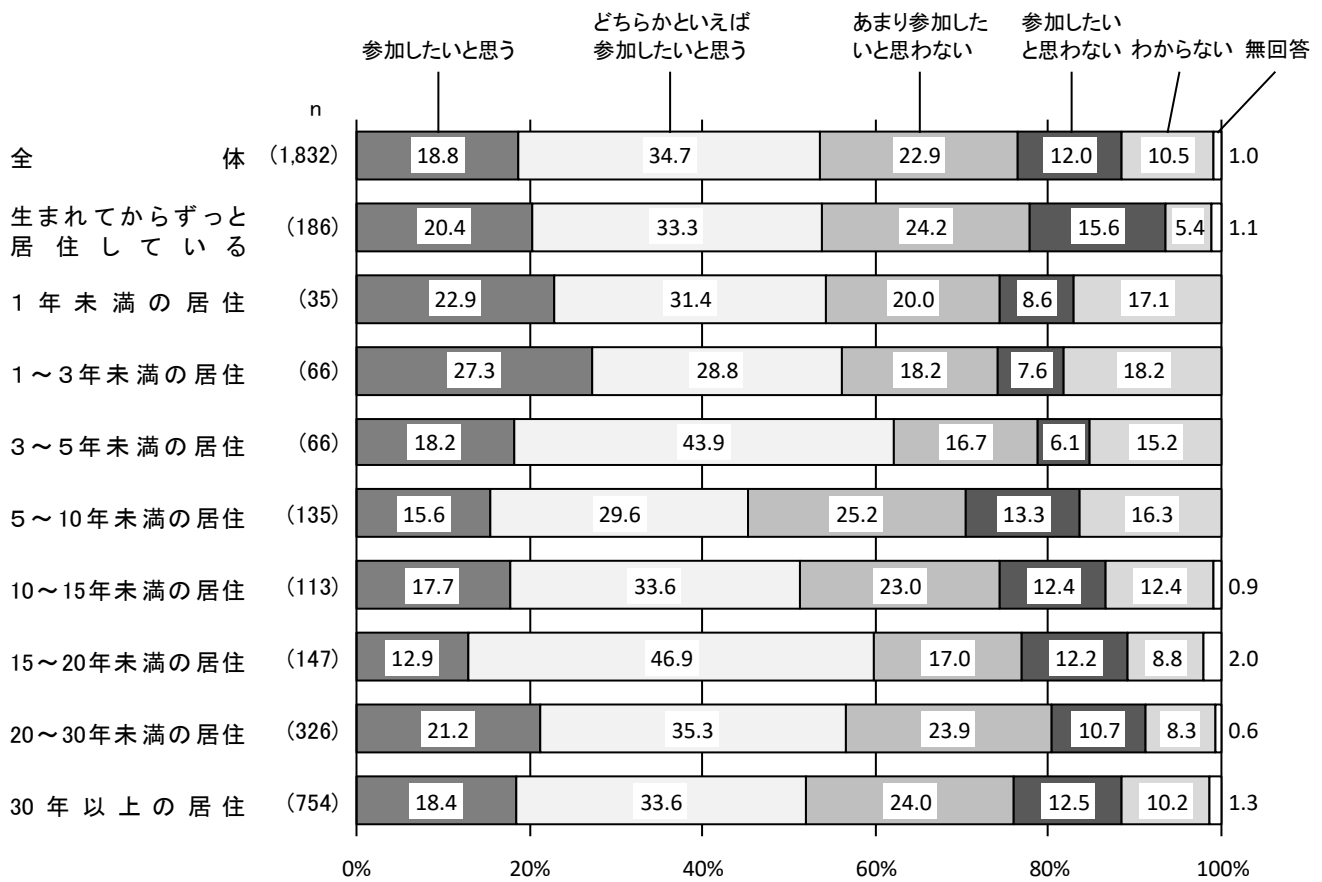
図 24-5 感染拡大の影響がなく開催された場合に参加したいと思うか
(地域の行事・活動) — 世帯構成別



世帯構成別にみると、「参加したい」は、傾向に大きな違いはみられないが、「どちらかといえば参加したいと思う」は、親と自分たち夫婦 (48.4%) が5割近くと高くなっている。「参加したくない」は、自分たち夫婦と子ども夫婦 (51.5%) が5割強と高くなっている。

(図 24-5)

図 24-6 感染拡大の影響がなく開催された場合に参加したいと思うか
(地域の行事・活動) - 居住年数別

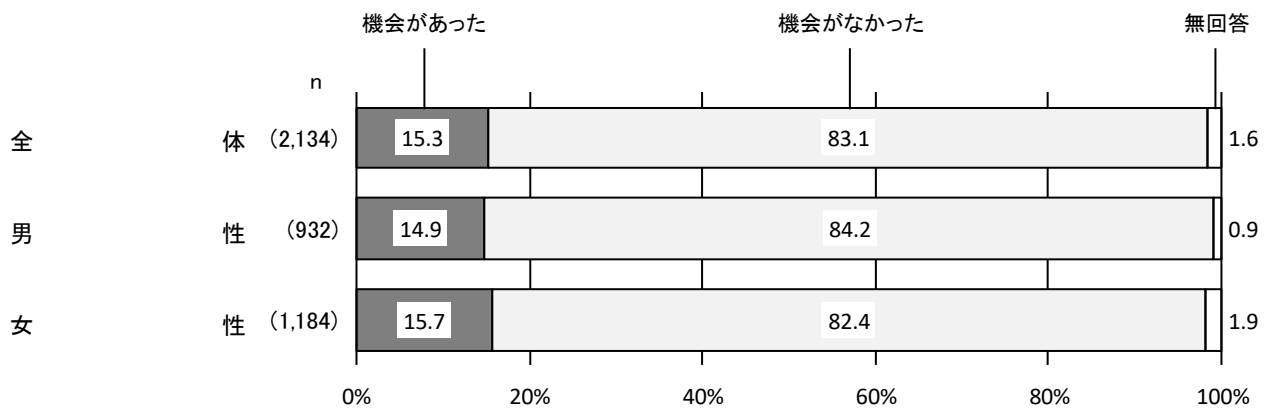


居住年数別にみると、「参加したい」は、3～5年未満の居住（62.1%）が6割強、15～20年未満の居住（59.8%）が6割弱と高くなっている。（図 24-6）

(25) 八王子に関連する文化芸術に触れる機会の有無

問 22 あなたは、この1年間に、八王子に関連する文化芸術に触れる機会がありましたか。(○は1つだけ)

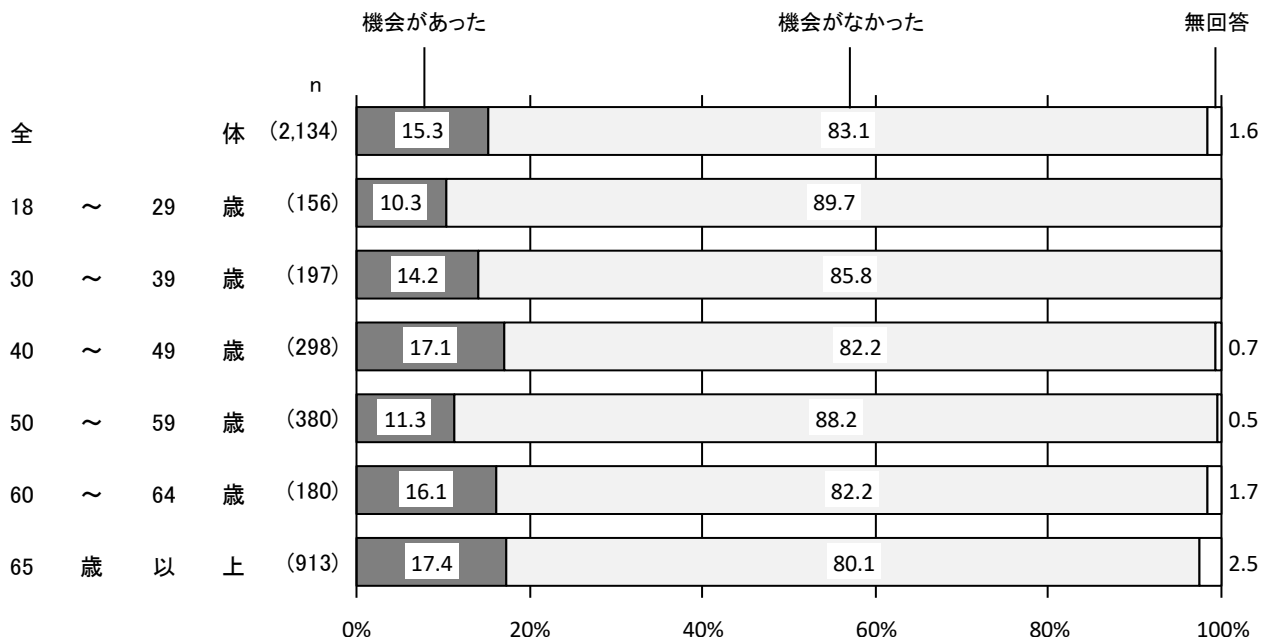
図 25-1 八王子に関連する文化芸術に触れる機会の有無 - 全体、性別



八王子に関連する文化芸術に触れる機会があるかを聞いたところ、「機会があった」(15.3%)は、1割台半ばとなっている。一方、「機会がなかった」(83.1%)は、8割強となっている。

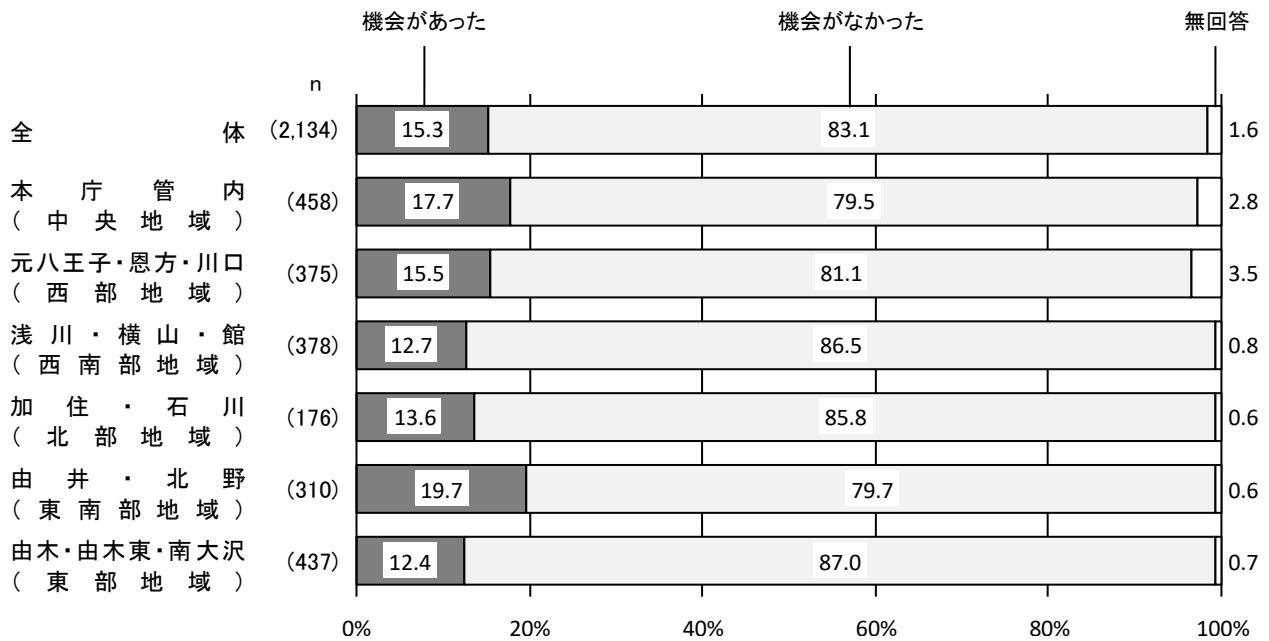
性別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図 25-1)

図 25-2 八王子に関連する文化芸術に触れる機会の有無 - 年齢別



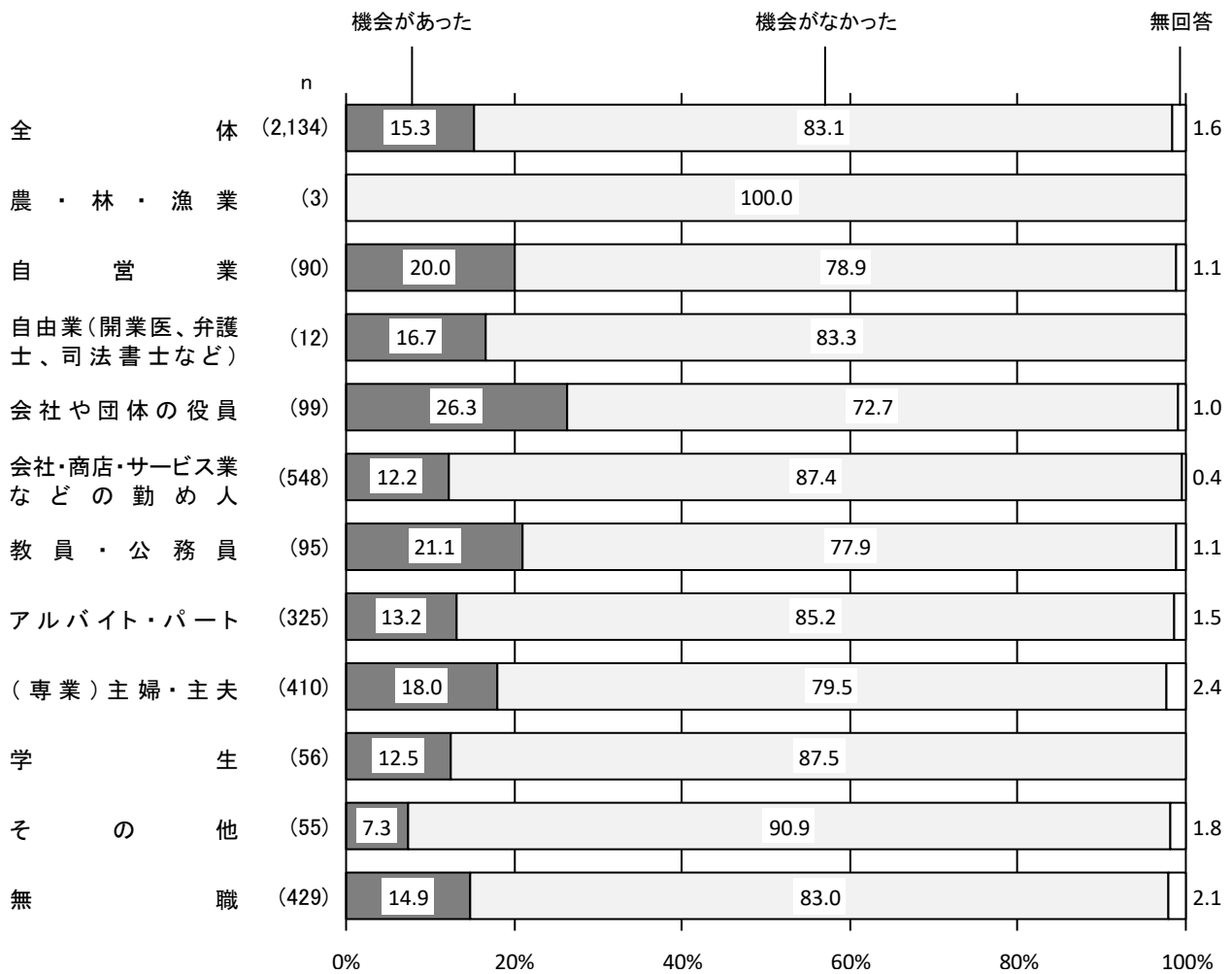
年齢別にみると、「機会がなかった」は、18~29歳（89.7%）が9割弱、50~59歳（88.2%）が9割近くと高くなっている。（図 25-2）

図 25-3 八王子に関連する文化芸術に触れる機会の有無 - 居住地域別



居住地域別にみると、傾向に大きな違いはみられない。（図 25-3）

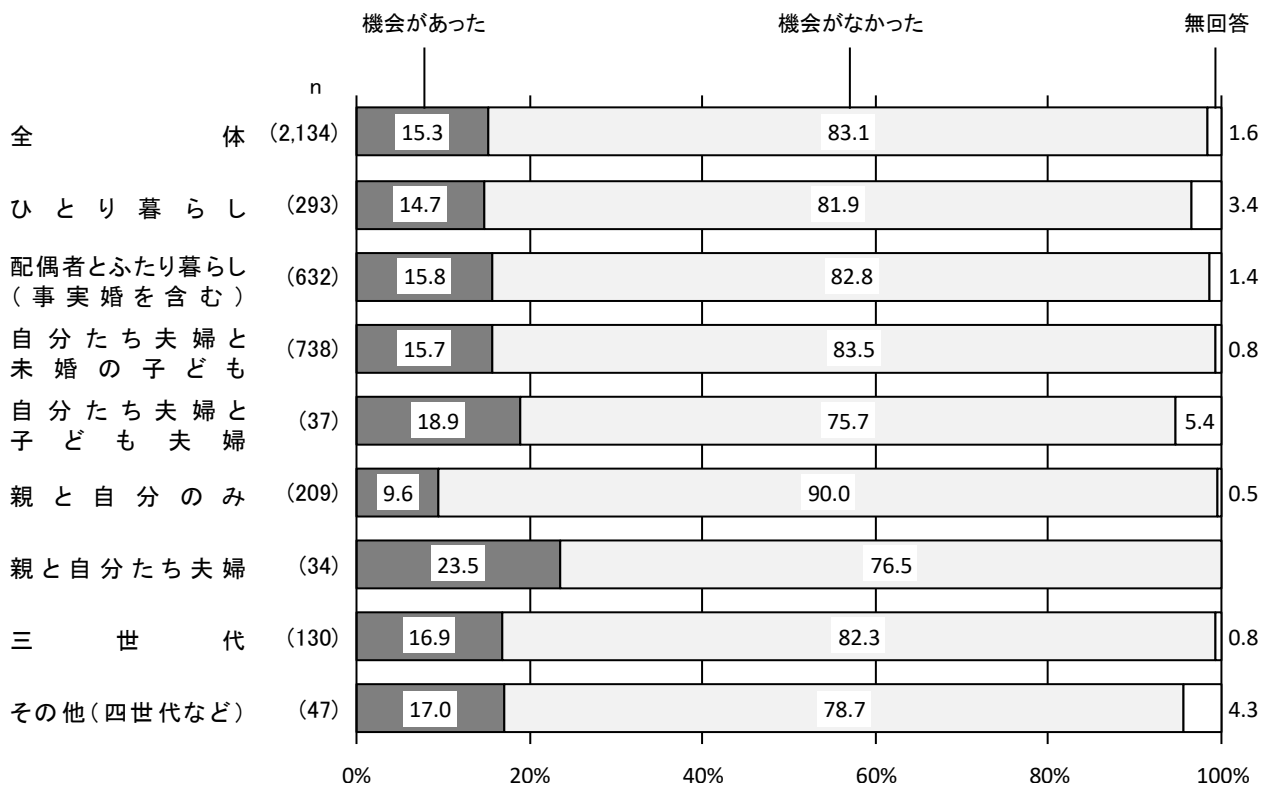
図 25-4 八王子に関連する文化芸術に触れる機会の有無 - 職業別



職業別にみると、「機会があった」は、会社や団体の役員 (26.3%) が3割近く、教員・公務員 (21.1%) が2割強と高くなっている。「機会がなかった」は、その他 (90.9%) が約9割と高くなっている。

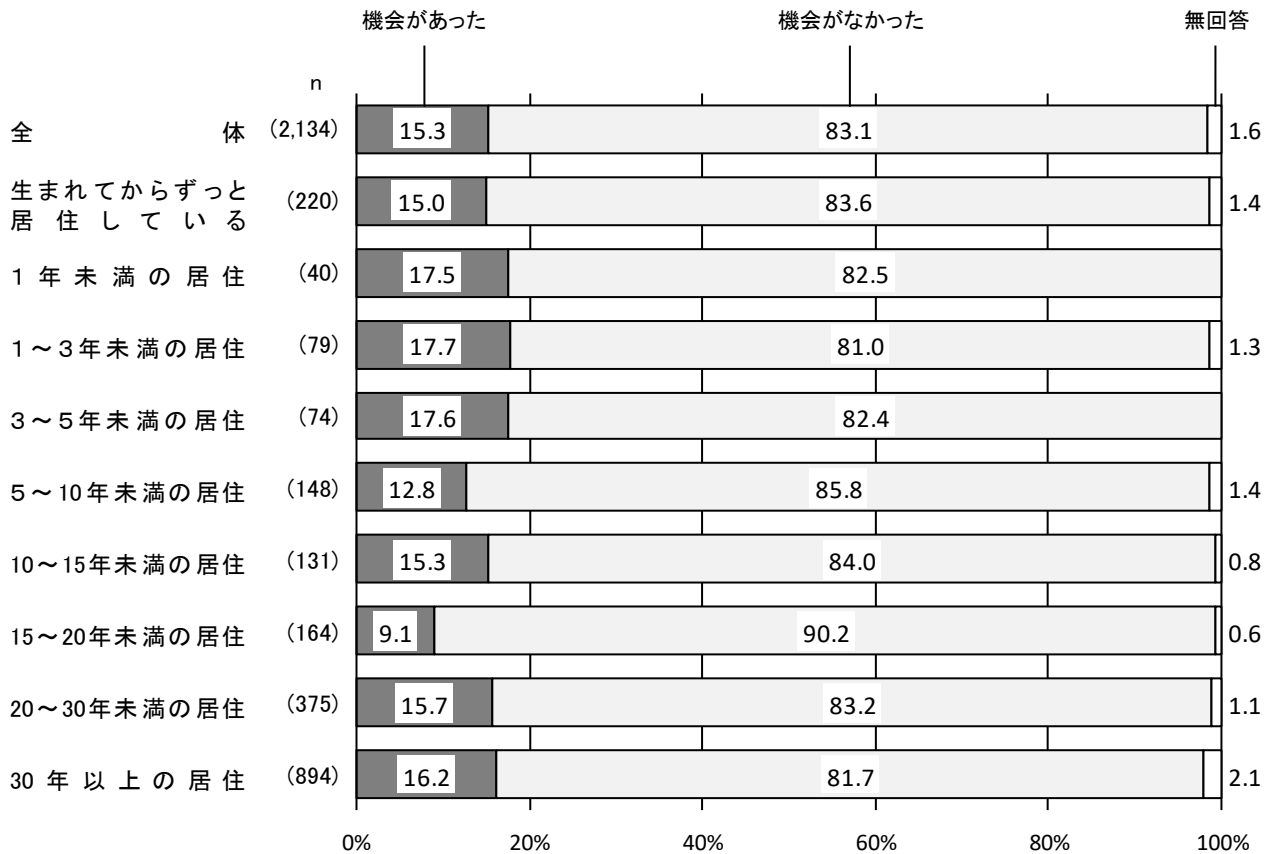
(図 25-4)

図 25-5 八王子に関連する文化芸術に触れる機会の有無 - 世帯構成別



世帯構成別にみると、「機会があった」は、親と自分たち夫婦（23.5%）が2割強と高くなっている。「機会がなかった」は、親と自分のみ（90.0%）が9割と高くなっている。（図 25-5）

図 25-6 八王子に関連する文化芸術に触れる機会の有無 - 居住年数別



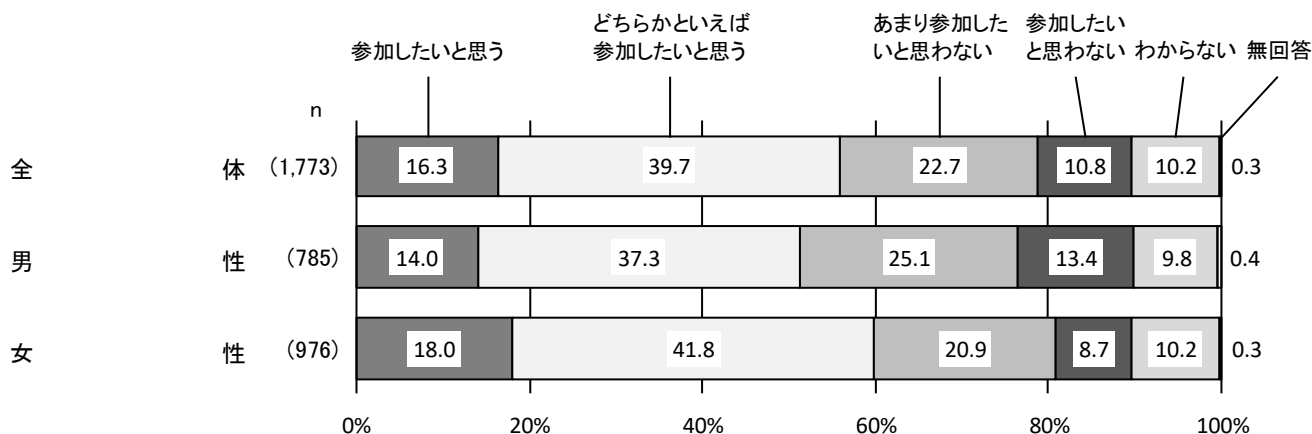
居住年数別にみると、「機会がなかった」は、15～20年未満の居住（90.2%）が約9割と高くなっている。
 (図 25-6)

(26) 感染拡大の影響がなく開催された場合に参加したいと思うか（文化芸術に触れる機会）

（問 22 で、「2 機会がなかった」とお答えの方へ）

問 22-1 新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により各種イベントが中止となっている状況です。影響がなく開催された場合に参加したいと思いますか。（○は1つだけ）

図 26-1 感染拡大の影響がなく開催された場合に参加したいと思うか
（文化芸術に触れる機会）－全体、性別

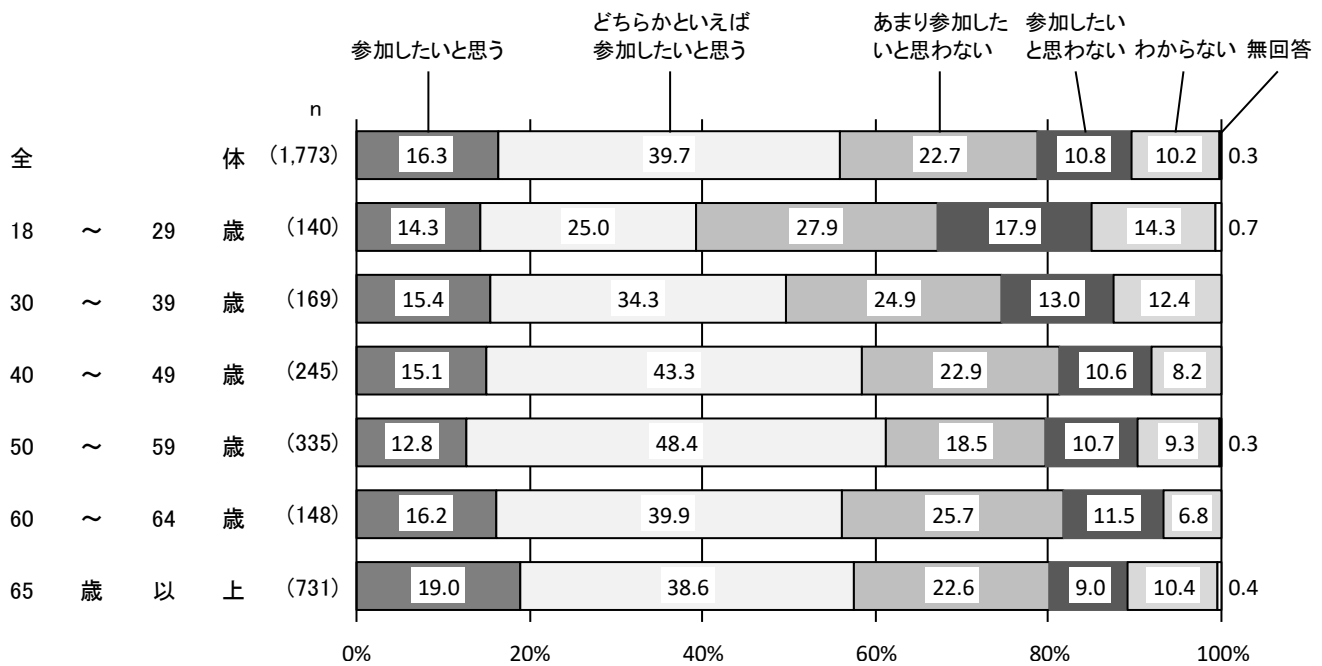


文化芸術に触れる機会が、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響がなく開催された場合に参加したいと思うかを聞いたところ、「参加したいと思う」（16.3%）と「どちらかといえば参加したいと思う」（39.7%）を合わせた《参加したい》（56.0%）は、6割近くとなっている。一方、「あまり参加したいと思わない」（22.7%）と「参加したいと思わない」（10.8%）を合わせた《参加したくない》（33.5%）は、3割強となっている。

性別にみると、《参加したくない》は、男性（38.5%）が女性（29.6%）より8.9ポイント高くなっている。

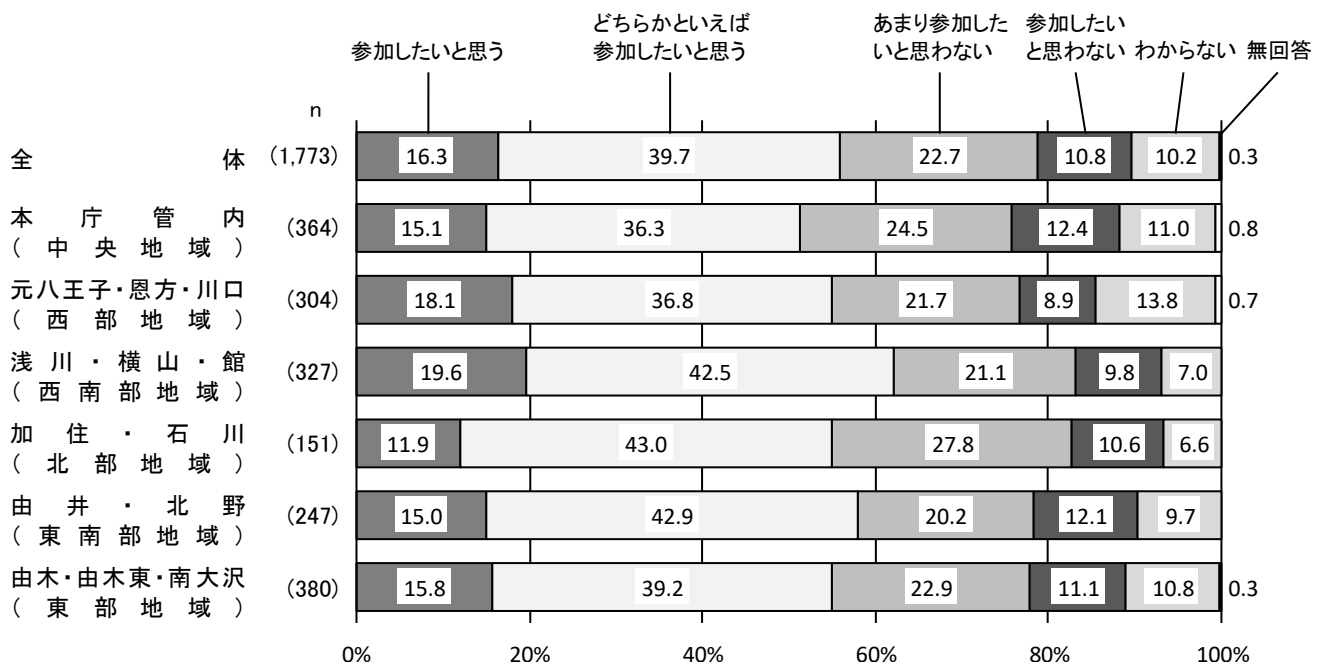
（図 26-1）

図 26-2 感染拡大の影響がなく開催された場合に参加したいと思うか
(文化芸術に触れる機会) - 年齢別



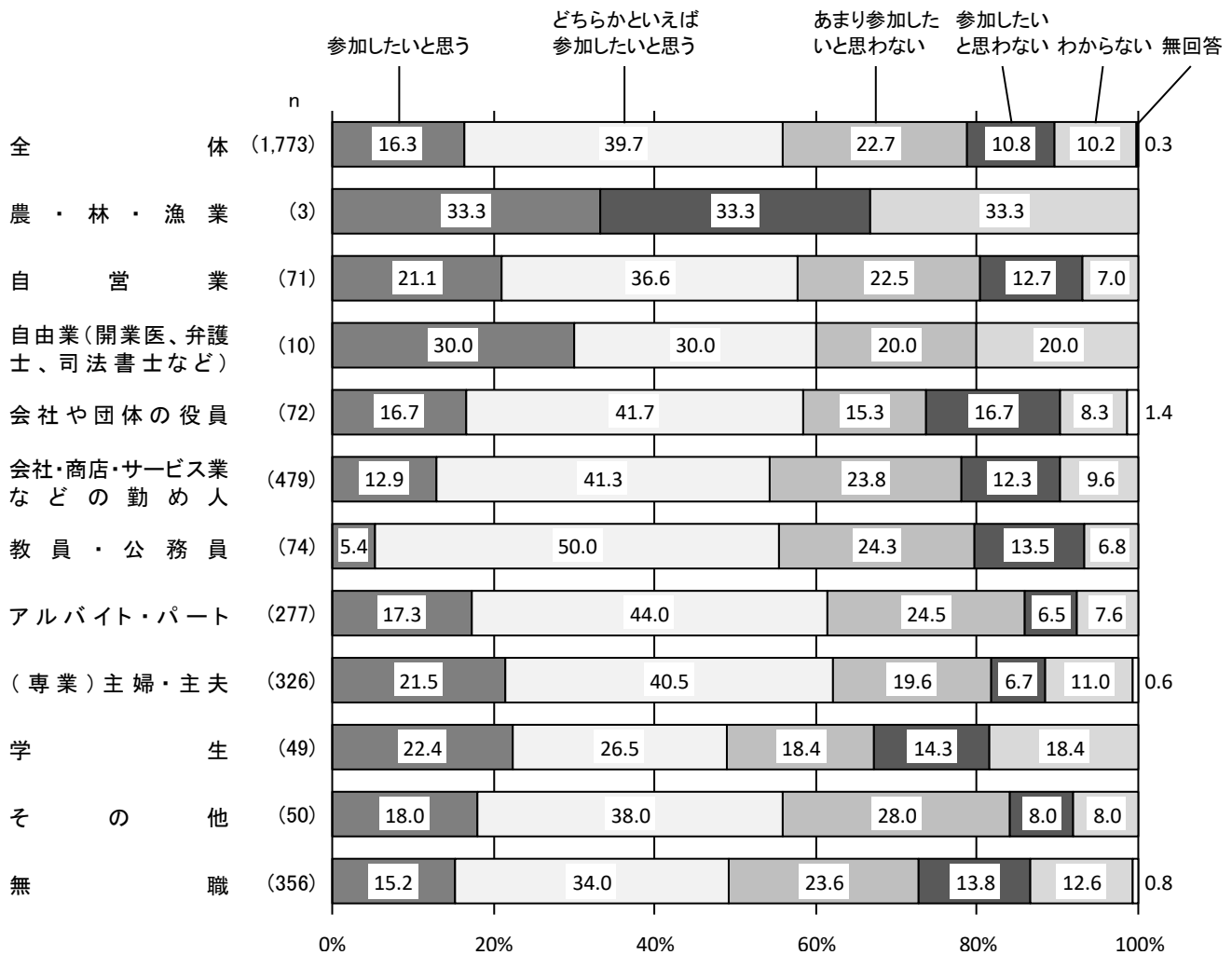
年齢別にみると、「参加したい」は、50~59 歳 (61.2%) が 6 割強と高くなっている。「参加したくない」は、18~29 歳 (45.8%) が 4 割台半ばと高くなっている。(図 26-2)

図 26-3 感染拡大の影響がなく開催された場合に参加したいと思うか
(文化芸術に触れる機会) - 居住地域別



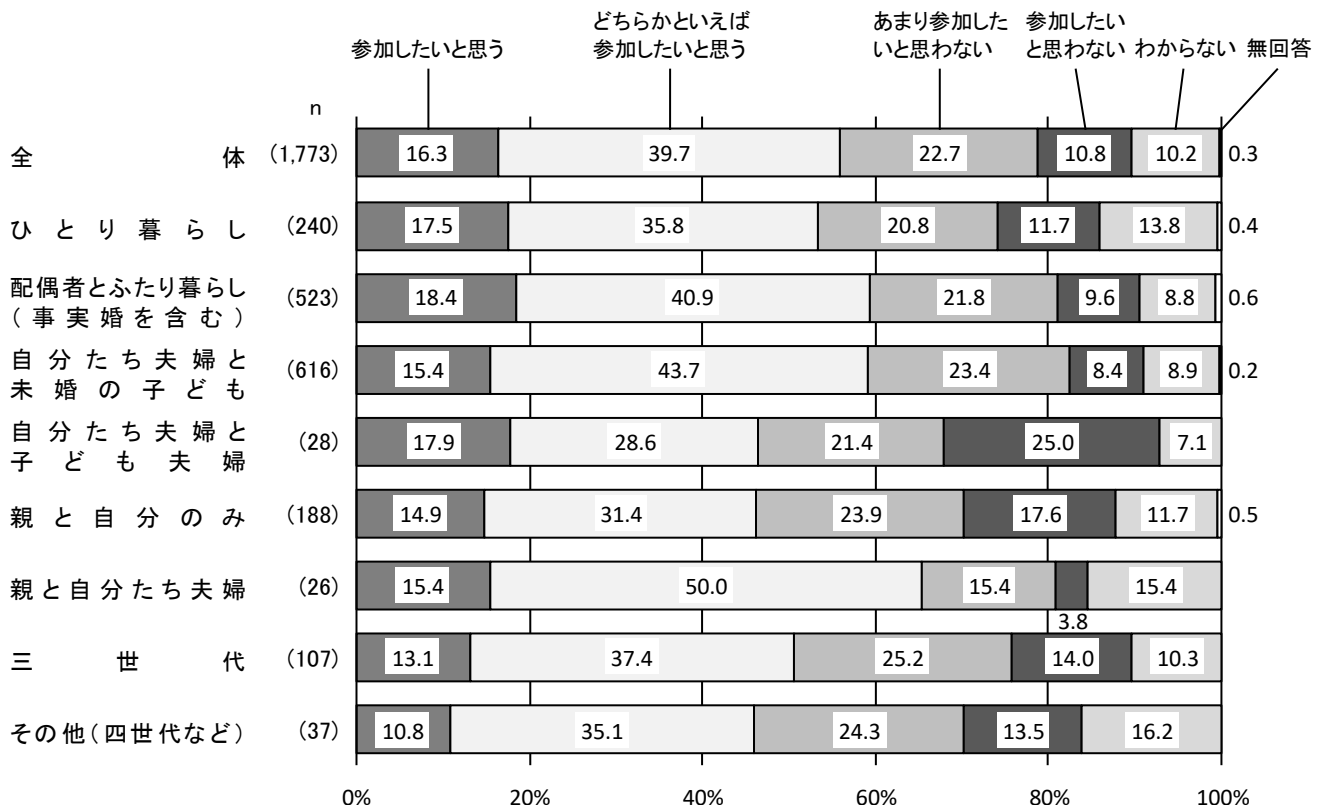
居住地域別にみると、「参加したい」は、浅川・横山・館 (西南部地域) (62.1%) が 6 割強と高くなっている。「参加したくない」は、傾向に大きな違いはみられないが、「あまり参加したいと思わない」は、加住・石川 (北部地域) (27.8%) が 3 割近くと高くなっている。(図 26-3)

図 26-4 感染拡大の影響がなく開催された場合に参加したいと思うか
 (文化芸術に触れる機会) - 職業別



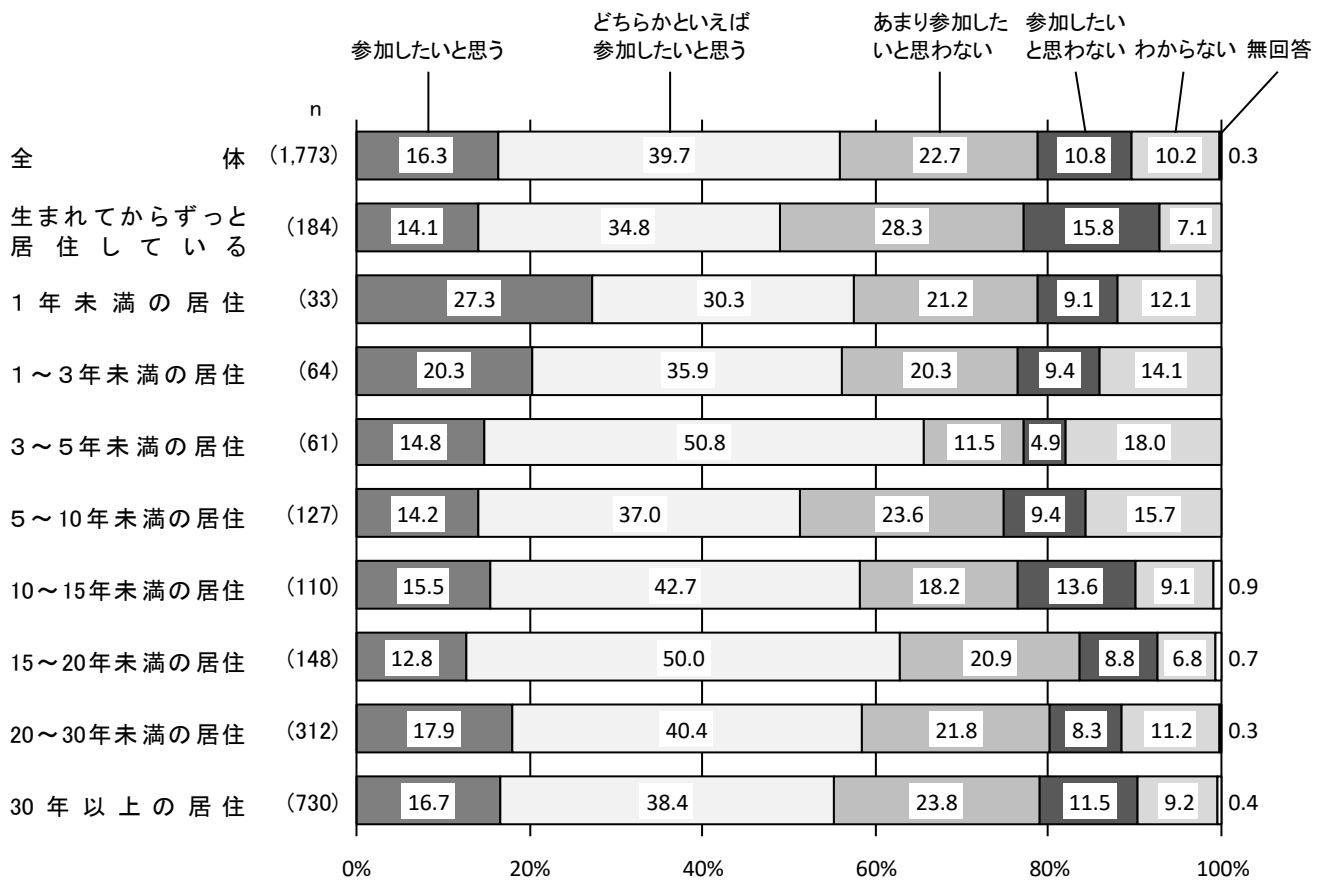
職業別にみると、「参加したい」は、(専業)主婦・主夫(62.0%)、アルバイト・パート(61.3%)がそれぞれ6割強と高くなっている。「参加したくない」は、傾向に大きな違いはみられないが、「参加したいと思わない」は、会社や団体の役員(16.7%)が2割近くと高くなっている。(図 26-4)

図 26-5 感染拡大の影響がなく開催された場合に参加したいと思うか
 (文化芸術に触れる機会) - 世帯構成別



世帯構成別にみると、「参加したくない」は、親と自分のみ (41.5%) が4割強、三世代 (39.2%) が4割弱と高くなっている。(図 26-5)

図 26-6 感染拡大の影響がなく開催された場合に参加したいと思うか
(文化芸術に触れる機会) - 居住年数別

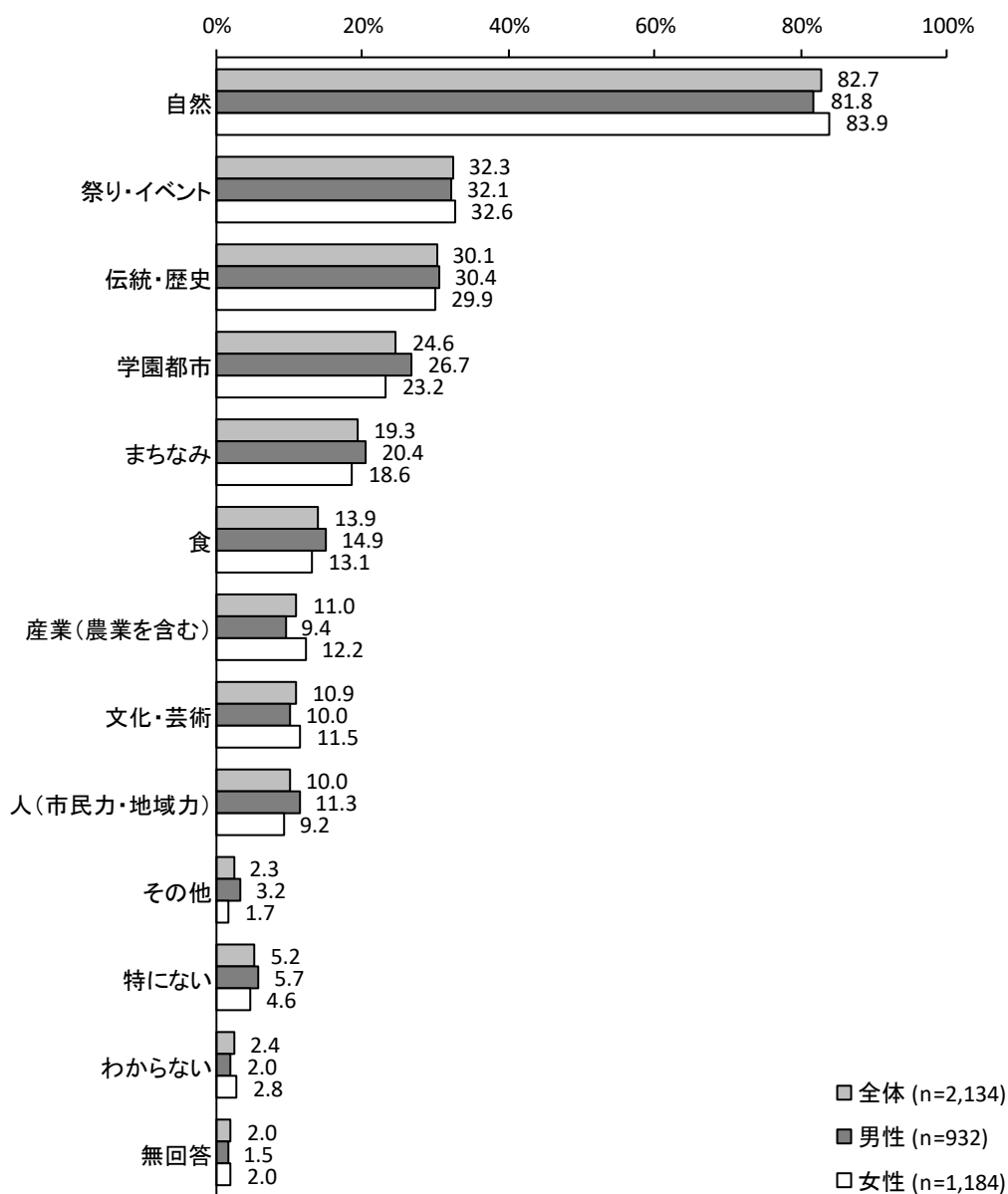


居住年数別にみると、「参加したい」は、3～5年未満の居住（65.6%）が6割台半ば、15～20年未満の居住（62.8%）が6割強と高くなっている。「参加したくない」は、生まれてからずっと居住している（44.1%）が4割台半ばと高くなっている。（図 26-6）

(27) 八王子の魅力

問 23 あなたが思う、八王子の魅力を以下から選択してください。(〇はいくつでも)

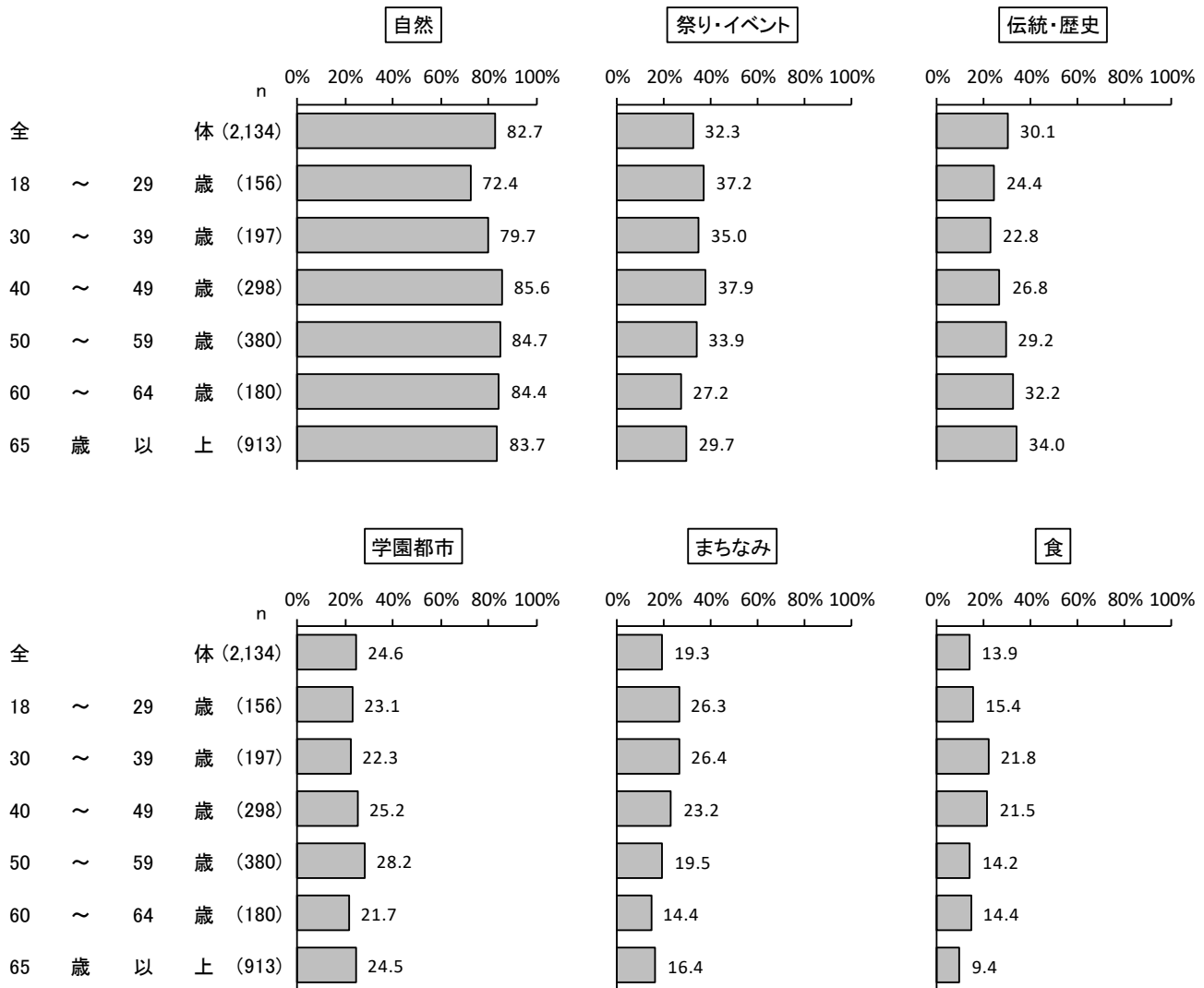
図 27-1 八王子の魅力 — 全体、性別



八王子の魅力について聞いたところ、「自然」(82.7%)が8割強と最も高くなっている。次いで、「祭り・イベント」(32.3%)、「伝統・歴史」(30.1%)、「学園都市」(24.6%)などの順となっている。

性別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図 27-1)

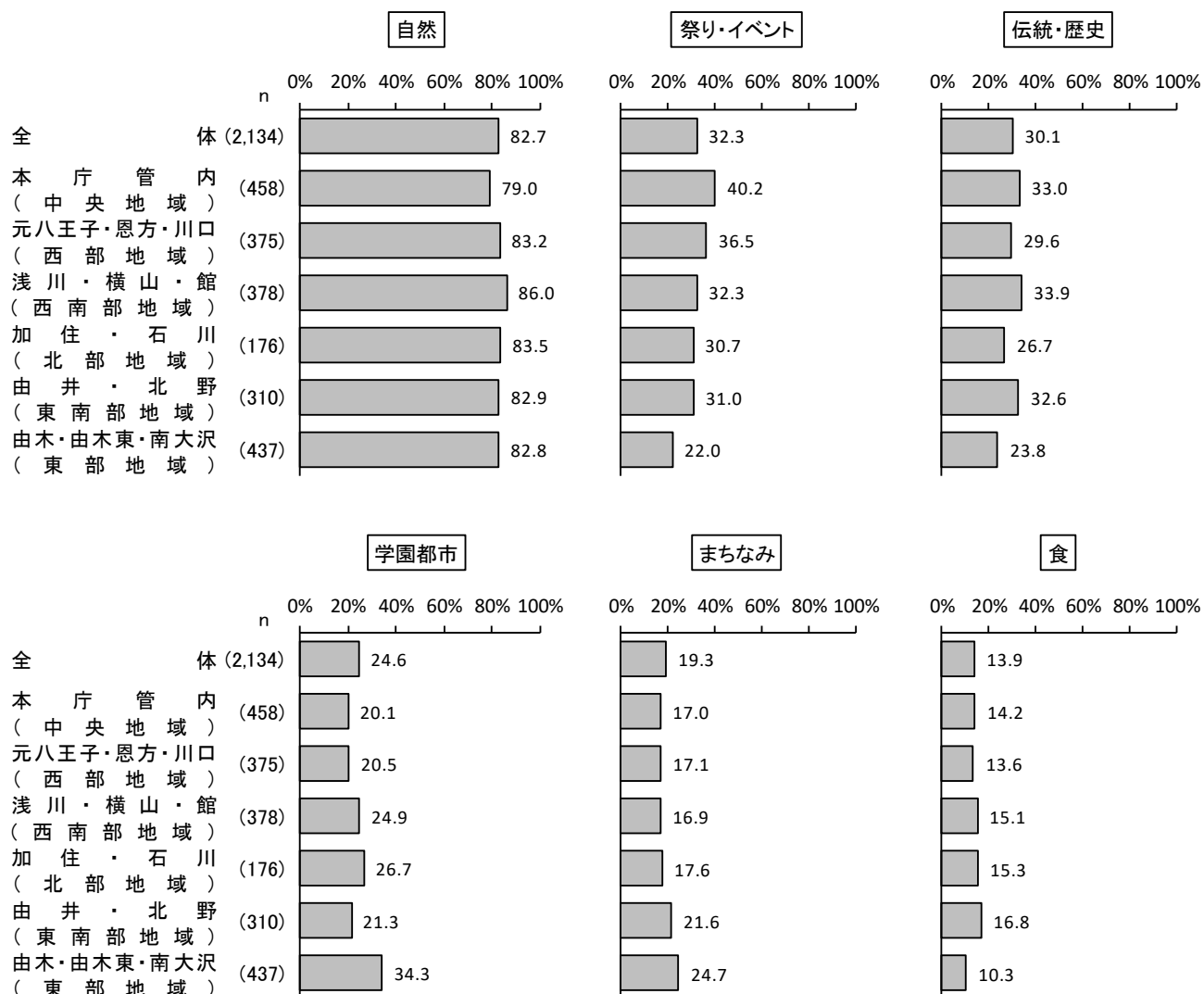
図 27-2 八王子の魅力 - 年齢別 (上位 6 位)



年齢別にみると、「自然」は、18~29 歳 (72.4%) が 7 割強と低くなっている。「祭り・イベント」は、40~49 歳 (37.9%) が 4 割近くと高くなっている。「伝統・歴史」は、30~39 歳 (22.8%) が 2 割強と低くなっている。「まちなみ」は、30~39 歳 (26.4%)、18~29 歳 (26.3%) がそれぞれ 3 割近くと高くなっている。「食」は、30~39 歳 (21.8%)、40~49 歳 (21.5%) がそれぞれ 2 割強と高くなっている。

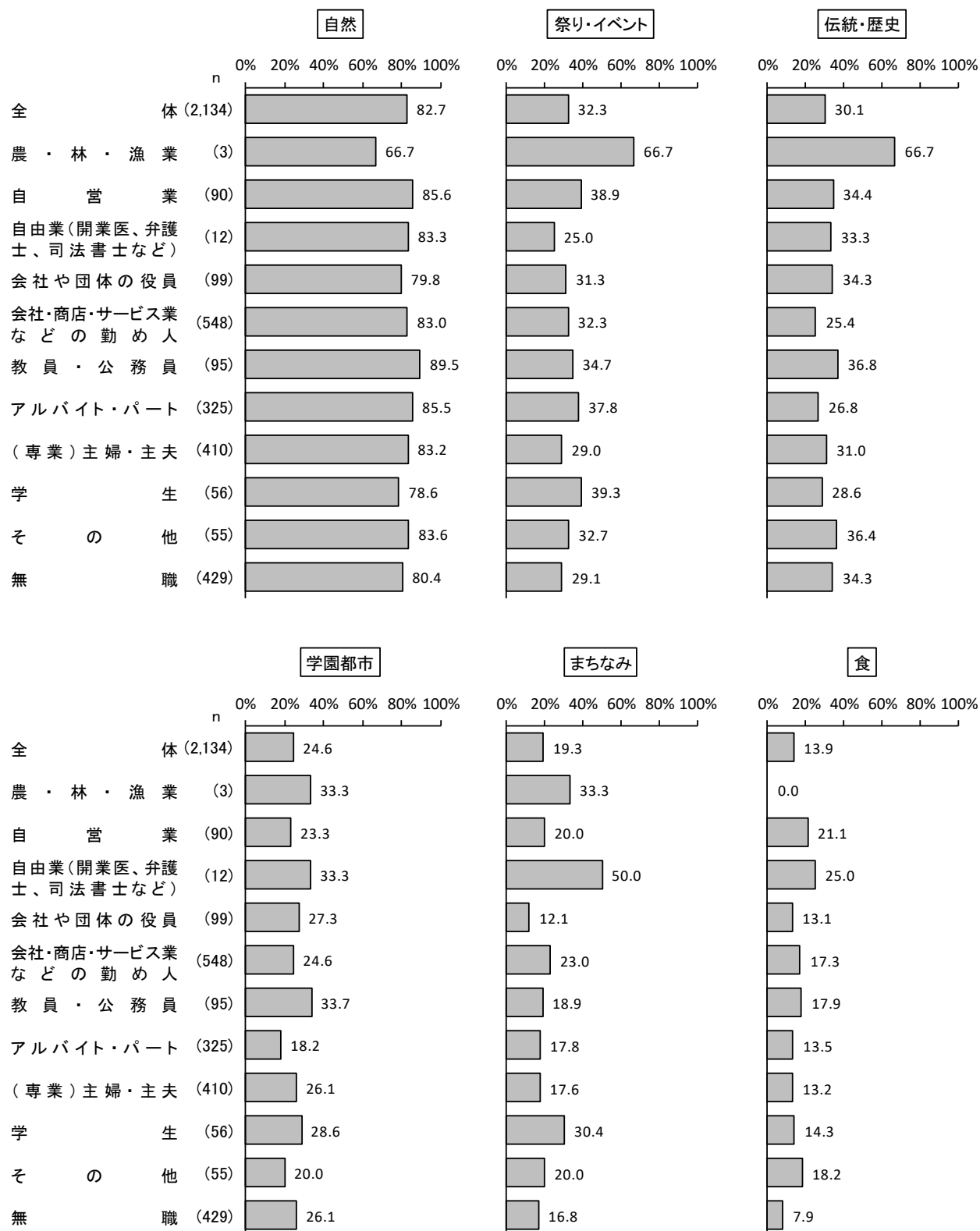
(図 27-2)

図 27-3 八王子の魅力 - 居住地域別 (上位6位)



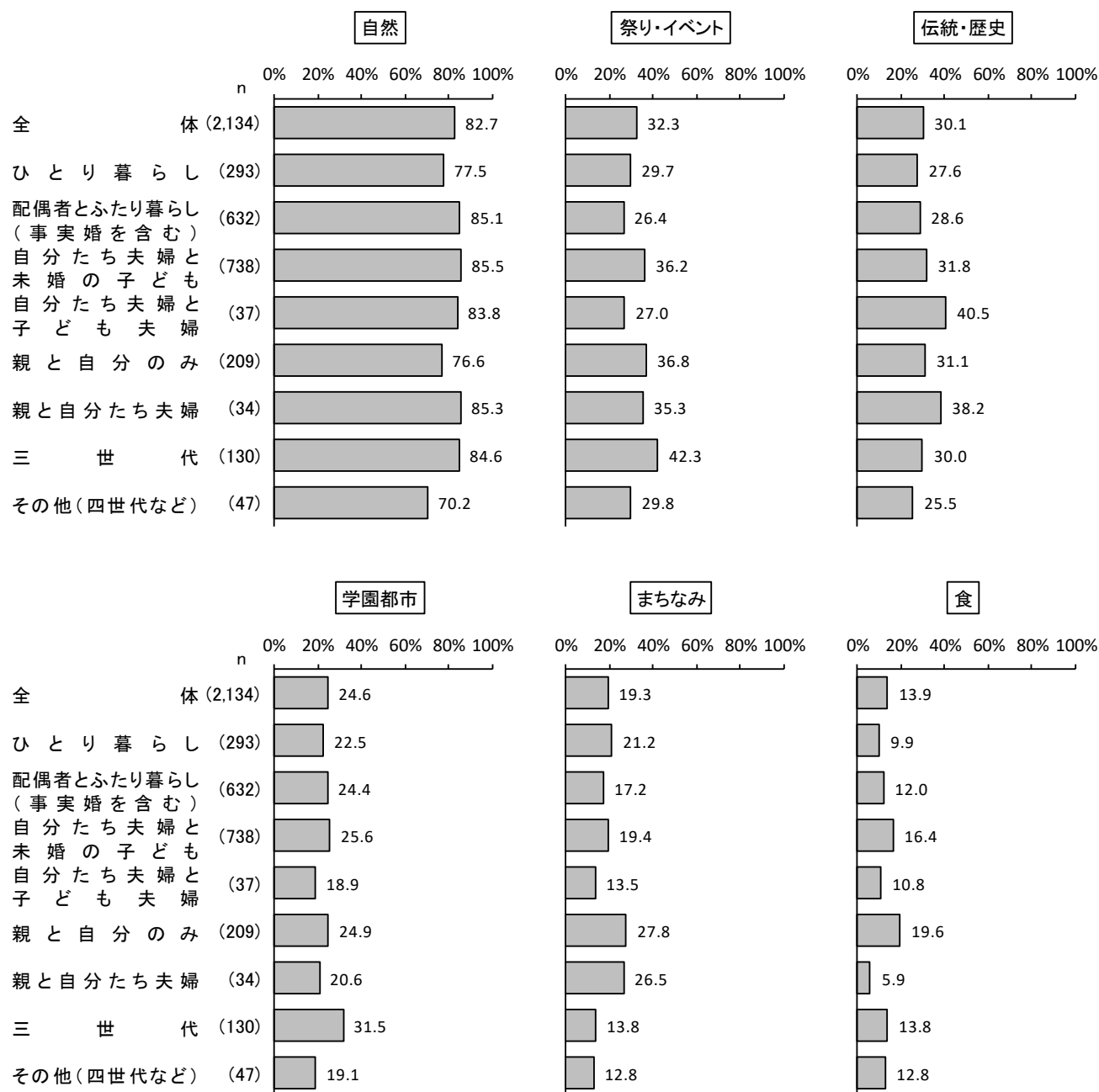
居住地域別にみると、「祭り・イベント」は、本庁管内 (中央地域) (40.2%) が約4割と高くなっている。「伝統・歴史」は、由木・由木東・南大沢 (東部地域) (23.8%) が2割強と低くなっている。「学園都市」は、由木・由木東・南大沢 (東部地域) (34.3%) が3割台半ばと高くなっている。「まちなみ」は、由木・由木東・南大沢 (東部地域) (24.7%) が2割台半ばと高くなっている。(図 27-3)

図 27-4 八王子の魅力 - 職業別 (上位 6 位)



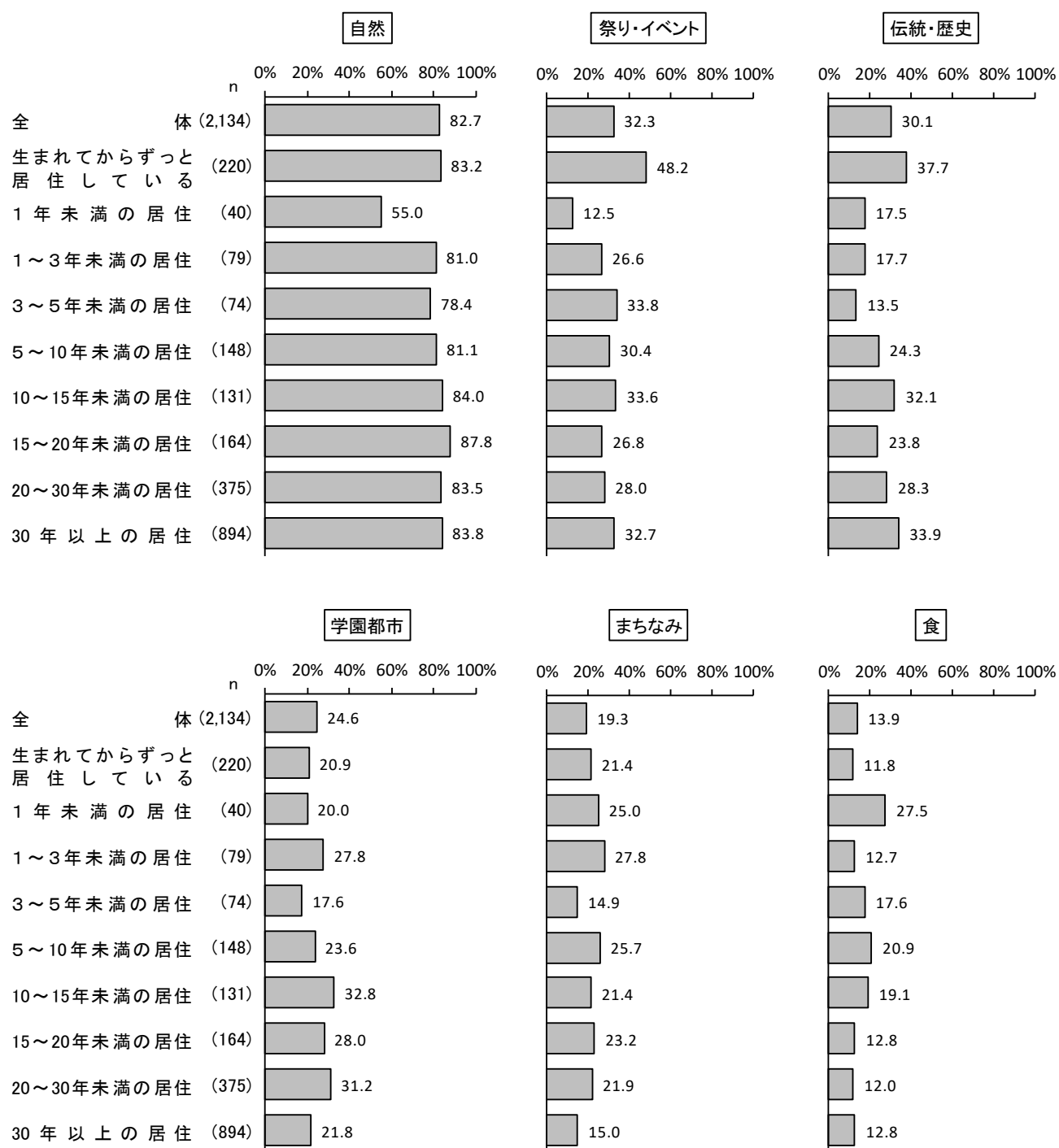
職業別にみると、「自然」は、教員・公務員 (89.5%) が9割弱と高くなっている。「祭り・イベント」は、学生 (39.3%) が4割弱、自営業 (38.9%)、アルバイト・パート (37.8%) がそれぞれ4割近くと高くなっている。「伝統・歴史」は、教員・公務員 (36.8%)、その他 (36.4%) がそれぞれ4割近くと高くなっている。「学園都市」は、教員・公務員 (33.7%) が3割強と高くなっている。「まちなみ」は、学生 (30.4%) が約3割と高くなっている。「食」は、自営業 (21.1%) が2割強と高くなっている。(図 27-4)

図 27-5 八王子の魅力 - 世帯構成別 (上位6位)



世帯構成別にみると、「自然」は、その他（四世代など）（70.2%）が約7割と低くなっている。「祭り・イベント」は、三世代（42.3%）が4割強と高くなっている。「伝統・歴史」は、自分たち夫婦と子ども夫婦（40.5%）が約4割、親と自分たち夫婦（38.2%）が4割近くと高くなっている。「学園都市」は、三世代（31.5%）が3割強と高くなっている。「まちなみ」は、親と自分のみ（27.8%）、親と自分たち夫婦（26.5%）がそれぞれ3割近くと高くなっている。「食」は、親と自分のみ（19.6%）が2割弱と高くなっている。（図 27-5）

図 27-6 八王子の魅力 - 居住年数別 (上位 6 位)

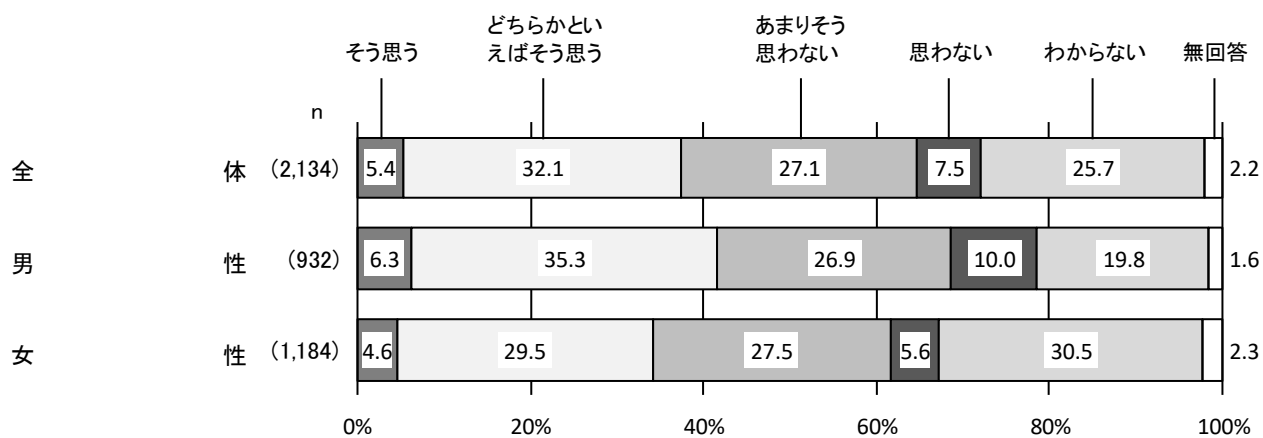


居住年数別にみると、「自然」は、15～20年未満の居住（87.8%）が9割近くと高くなっている。「祭り・イベント」は、生まれてからずっと居住している（48.2%）が5割近くと高くなっている。「伝統・歴史」は、生まれてからずっと居住している（37.7%）が4割近くと高くなっている。「学園都市」は、10～15年未満の居住（32.8%）、20～30年未満の居住（31.2%）がそれぞれ3割強と高くなっている。「まちなみ」は、1～3年未満の居住（27.8%）が3割近く、5～10年未満の居住（25.7%）、1年未満の居住（25.0%）がそれぞれ2割台半ばと高くなっている。「食」は、1年未満の居住（27.5%）が3割近く、5～10年未満の居住（20.9%）が約2割、10～15年未満の居住（19.1%）が2割弱と高くなっている。（図 27-6）

(28) 「災害に強いまち」になっていると思うか

問 24 あなたは、八王子市が「災害に強いまち」になっていると思いますか。(○は1つだけ)

図 28-1 「災害に強いまち」になっていると思うか - 全体、性別

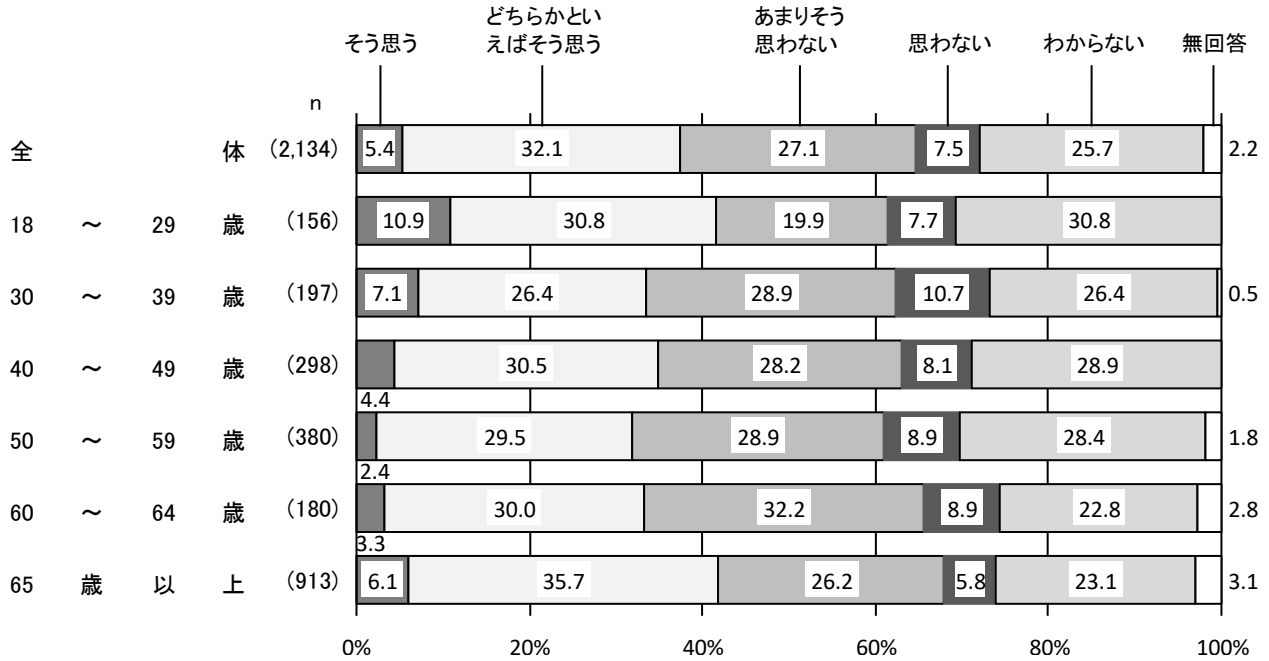


「災害に強いまち」になっていると思うかを聞いたところ、「そう思う」(5.4%)と「どちらかといえばそう思う」(32.1%)を合わせた《思う》(37.5%)は、4割近くとなっている。一方、「あまりそう思わない」(27.1%)と「思わない」(7.5%)を合わせた《思わない》(34.6%)は、3割台半ばとなっている。

性別にみると、《思う》は、男性(41.6%)が女性(34.1%)より7.5ポイント高くなっている。

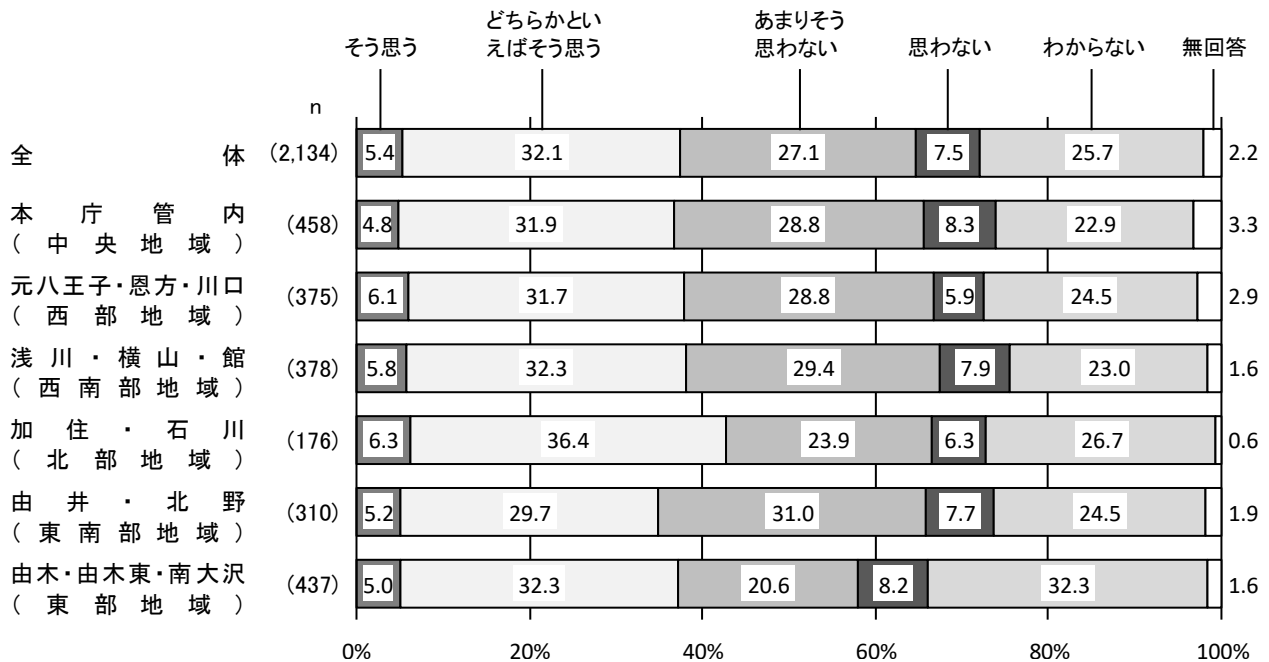
(図 28-1)

図 28-2 「災害に強いまち」になっていると思うか - 年齢別



年齢別にみると、《思う》は、50～59 歳 (31.9%) が 3 割強と低くなっている。《思わない》は、60～64 歳 (41.1%) が 4 割強と高くなっている。(図 28-2)

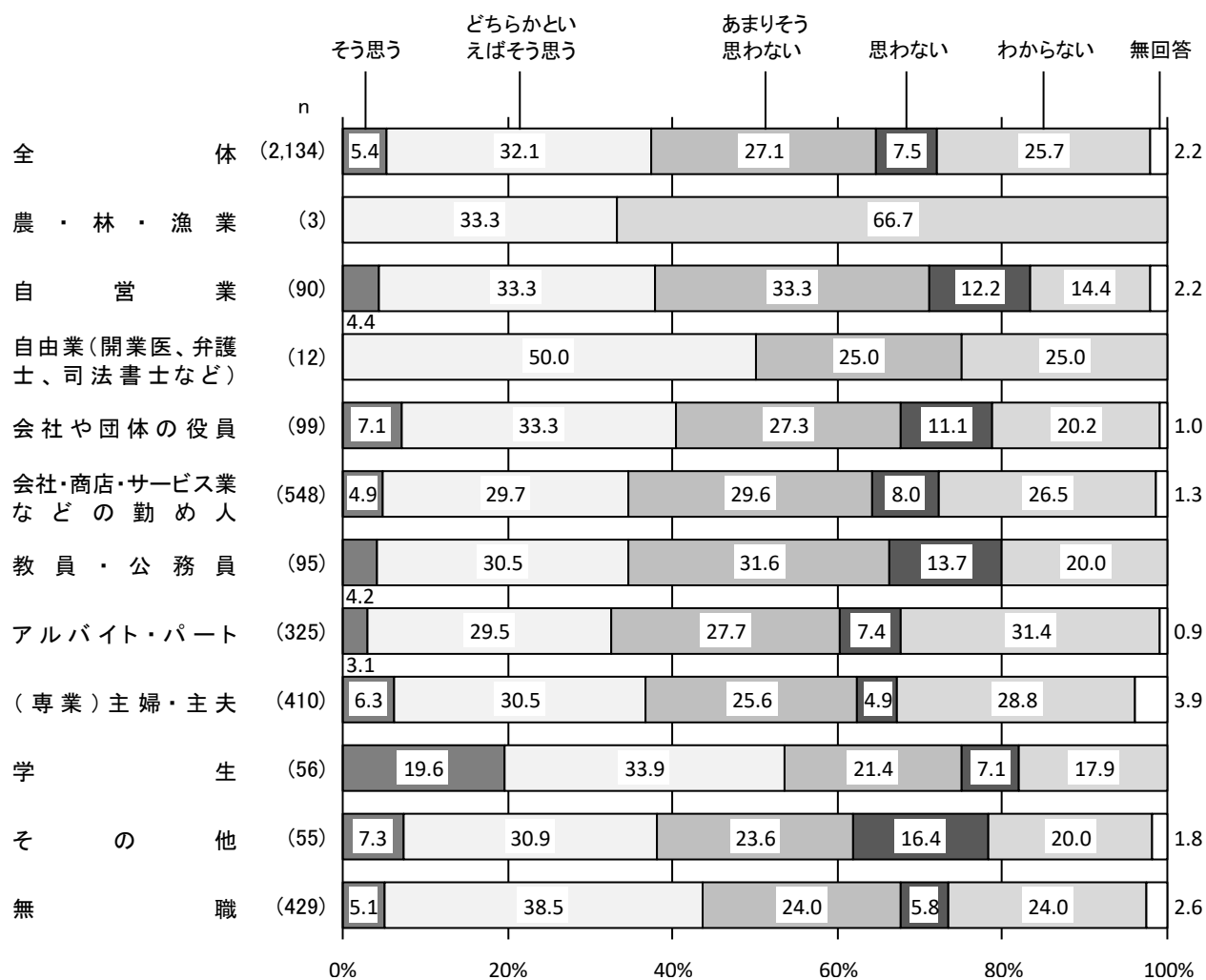
図 28-3 「災害に強いまち」になっていると思うか - 居住地域別



居住地域別にみると、《思う》は、加住・石川 (北部地域) (42.7%) が 4 割強と高くなっている。

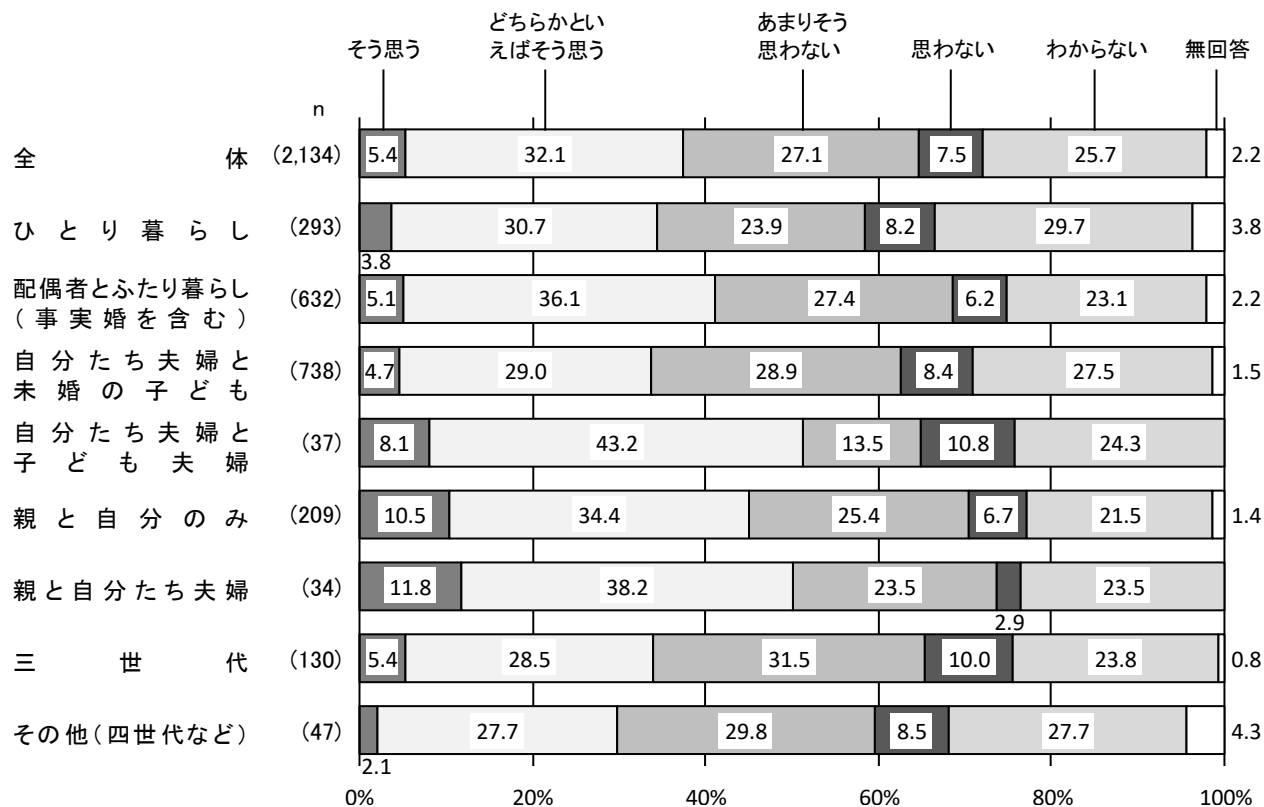
(図 28-3)

図 28-4 「災害に強いまち」になっていると思うか - 職業別



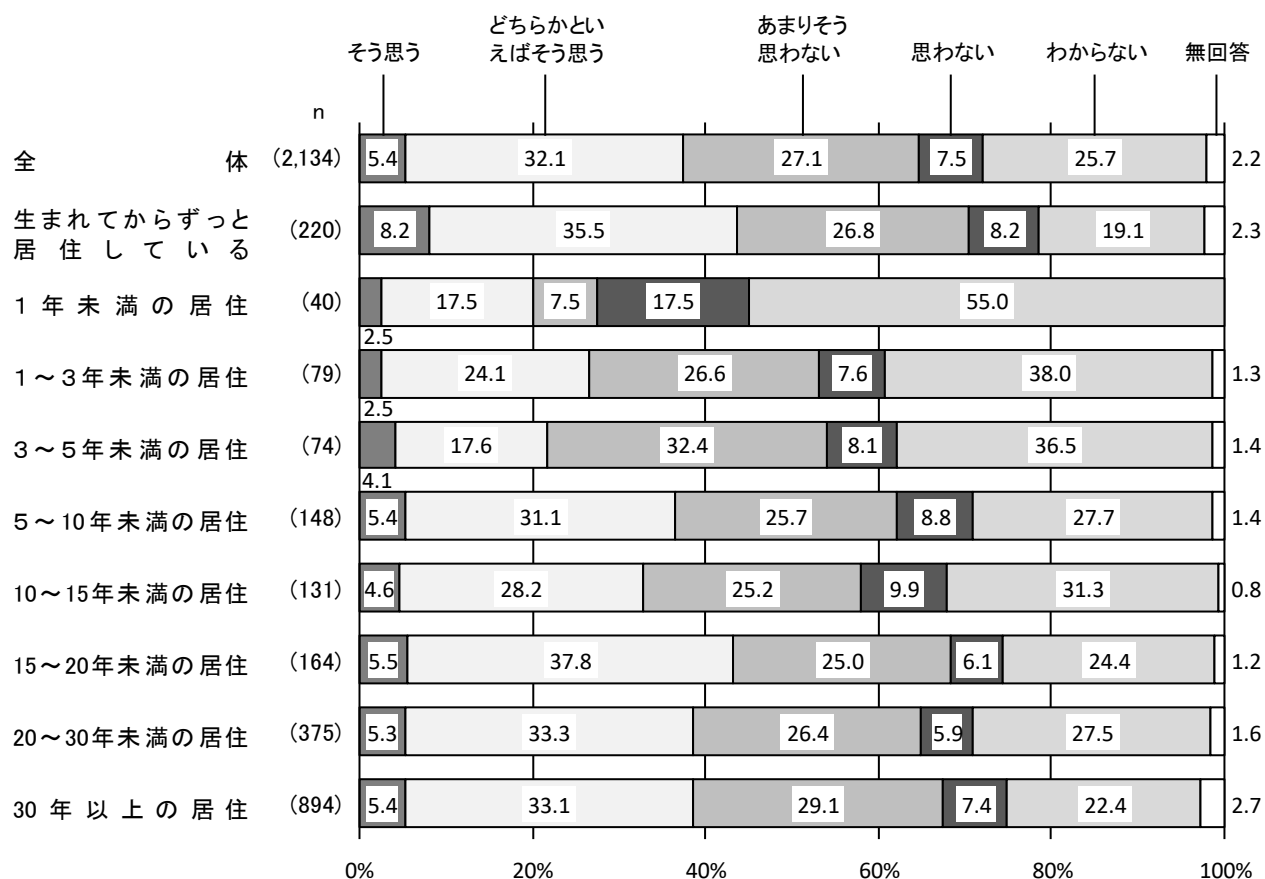
職業別にみると、《思う》は、学生 (53.5%) が5割強、無職 (43.6%) が4割強と高くなっている。《思わない》は、自営業 (45.5%)、教員・公務員 (45.3%) がそれぞれ4割台半ば、その他 (40.0%) が4割と高くなっている。(図 28-4)

図 28-5 「災害に強いまち」になっていると思うか - 世帯構成別



世帯構成別にみると、「思う」は、自分たち夫婦と子ども夫婦(51.3%)が5割強、親と自分たち夫婦(50.0%)が5割、親と自分のみ(44.9%)が4割台半ばと高くなっている。「思わない」は、三世代(41.5%)が4割強と高くなっている。(図 28-5)

図 28-6 「災害に強いまち」になっていると思うか - 居住年数別



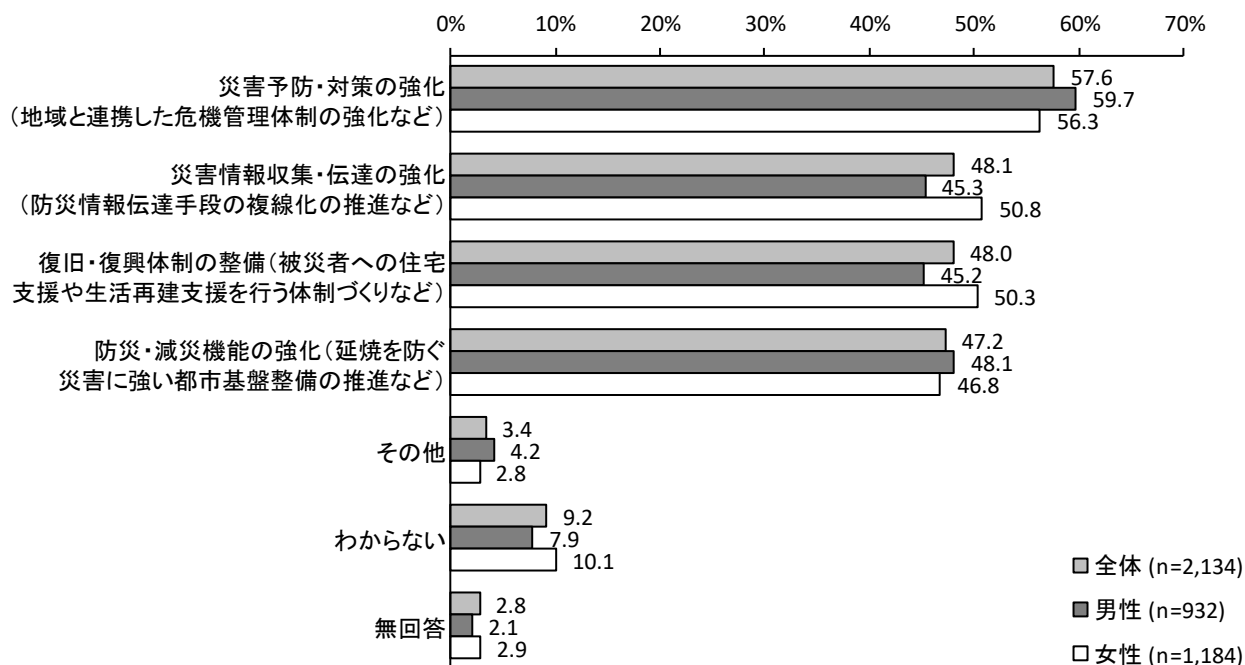
居住年数別にみると、「思う」は、生まれてからずっと居住している (43.7%)、15～20年未満の居住 (43.3%) がそれぞれ4割強と高くなっている。「思わない」は、3～5年未満の居住 (40.5%) が約4割と高くなっている。(図 28-6)

(29) 防災・減災分野において力を入れた方がよいと考える取組

問 25 今後、防災・減災分野において、力を入れた方がよいと考える取組を以下から選択してください。

(〇はいくつでも)

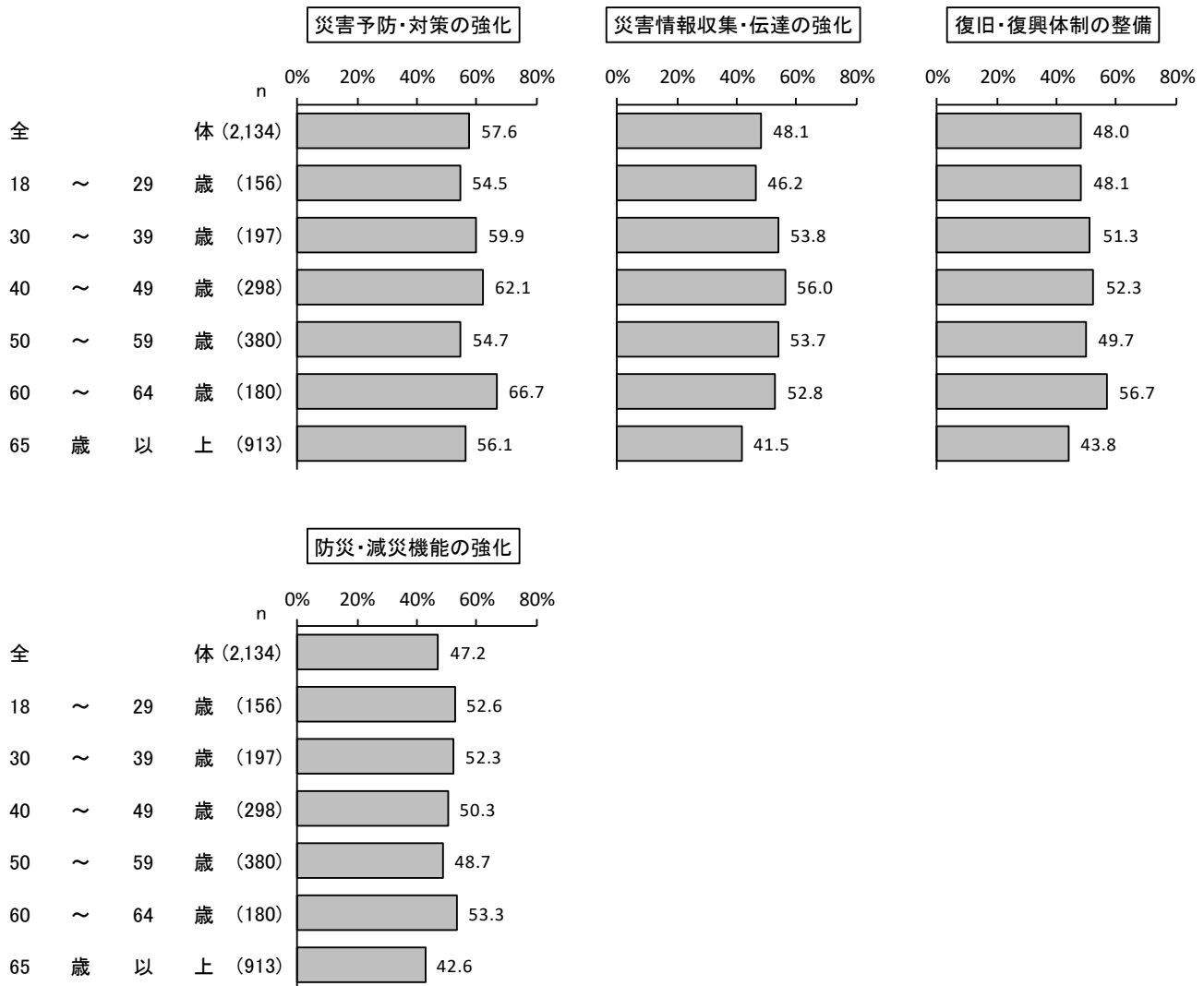
図 29-1 防災・減災分野において力を入れた方がよいと考える取組 — 全体、性別



防災・減災分野において力を入れた方がよいと考える取組について聞いたところ、「災害予防・対策の強化」(57.6%)が6割近くと最も高くなっている。次いで、「災害情報収集・伝達の強化」(48.1%)、「復旧・復興体制の整備」(48.0%)、「防災・減災機能の強化」(47.2%)の順となっている。

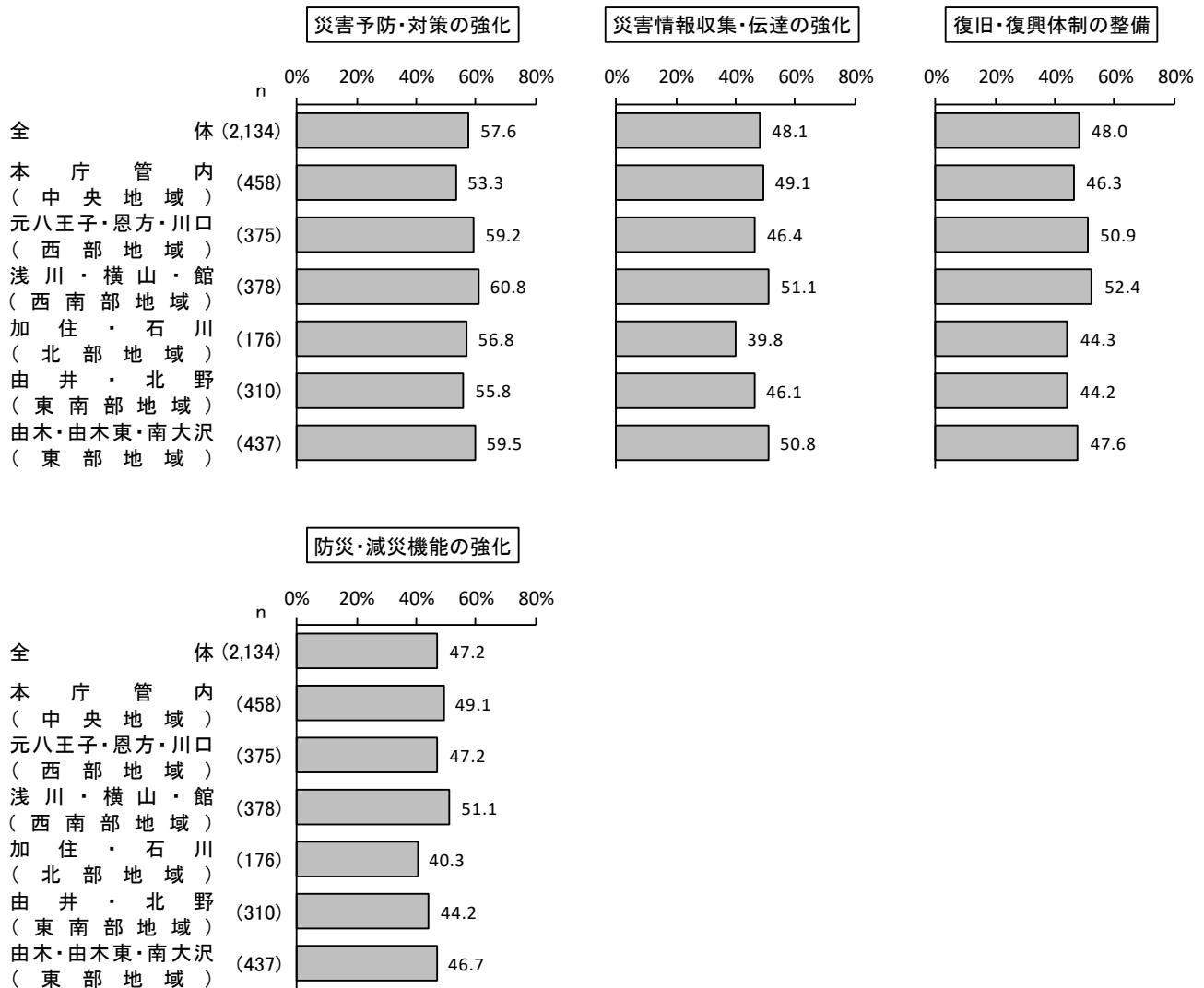
性別にみると、「災害情報収集・伝達の強化」は、女性(50.8%)が男性(45.3%)より5.5ポイント高くなっている。(図 29-1)

図 29-2 防災・減災分野において力を入れた方がよいと考える取組 — 年齢別



年齢別にみると、「災害予防・対策の強化」は、60～64歳（66.7%）が7割近くと高くなっている。「災害情報収集・伝達の強化」は、40～49歳（56.0%）が6割近く、30～39歳（53.8%）、50～59歳（53.7%）がそれぞれ5割強と高くなっている。「復旧・復興体制の整備」は、60～64歳（56.7%）が6割近くと高くなっている。「防災・減災機能の強化」は、60～64歳（53.3%）、18～29歳（52.6%）、30～39歳（52.3%）がそれぞれ5割強と高くなっている。（図 29-2）

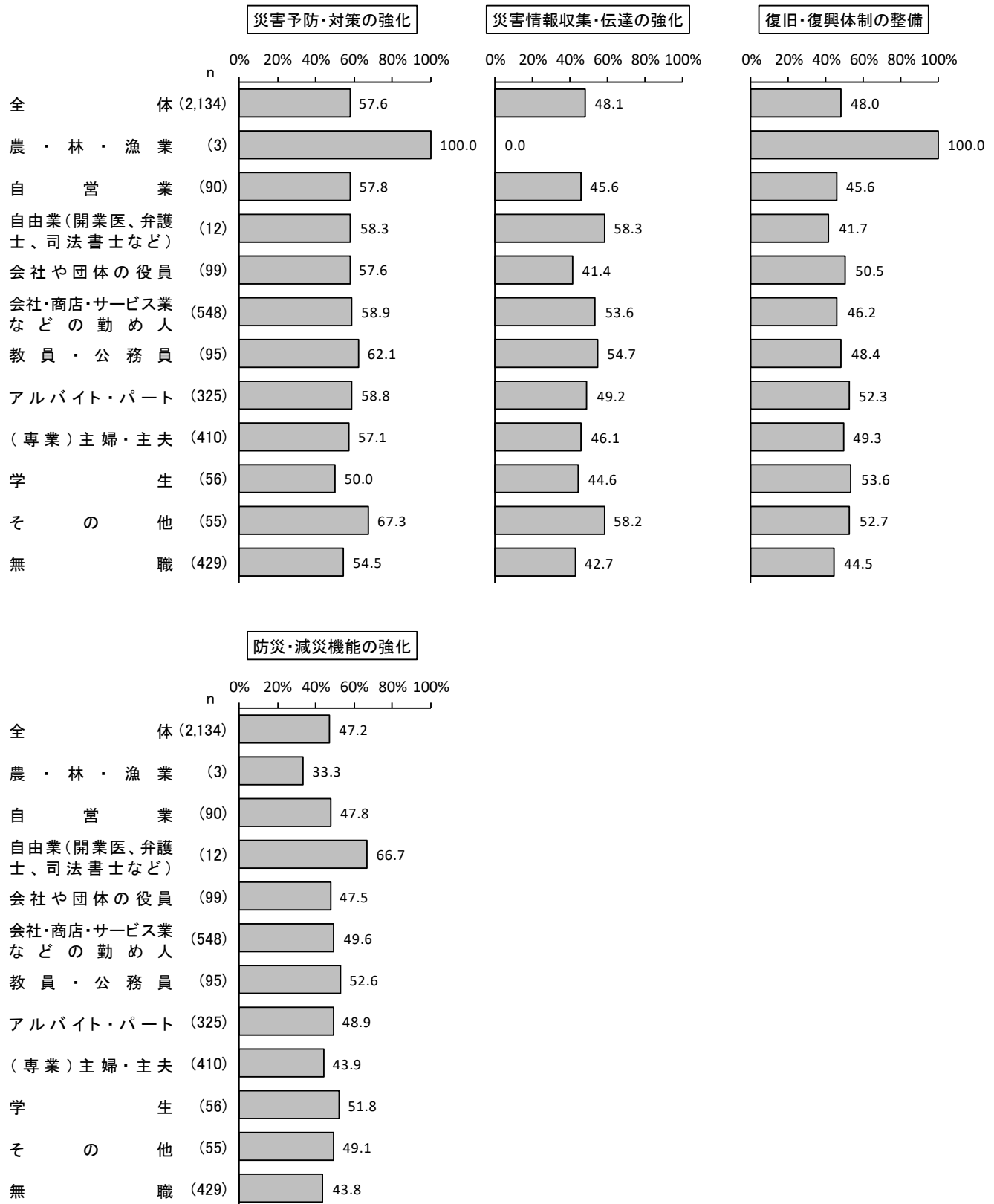
図 29-3 防災・減災分野において力を入れた方がよいと考える取組 — 居住地域別



居住地域別にみると、「災害情報収集・伝達の強化」は、加住・石川（北部地域）（39.8%）が4割弱と低くなっている。「防災・減災機能の強化」は、加住・石川（北部地域）（40.3%）が約4割と低くなっている。

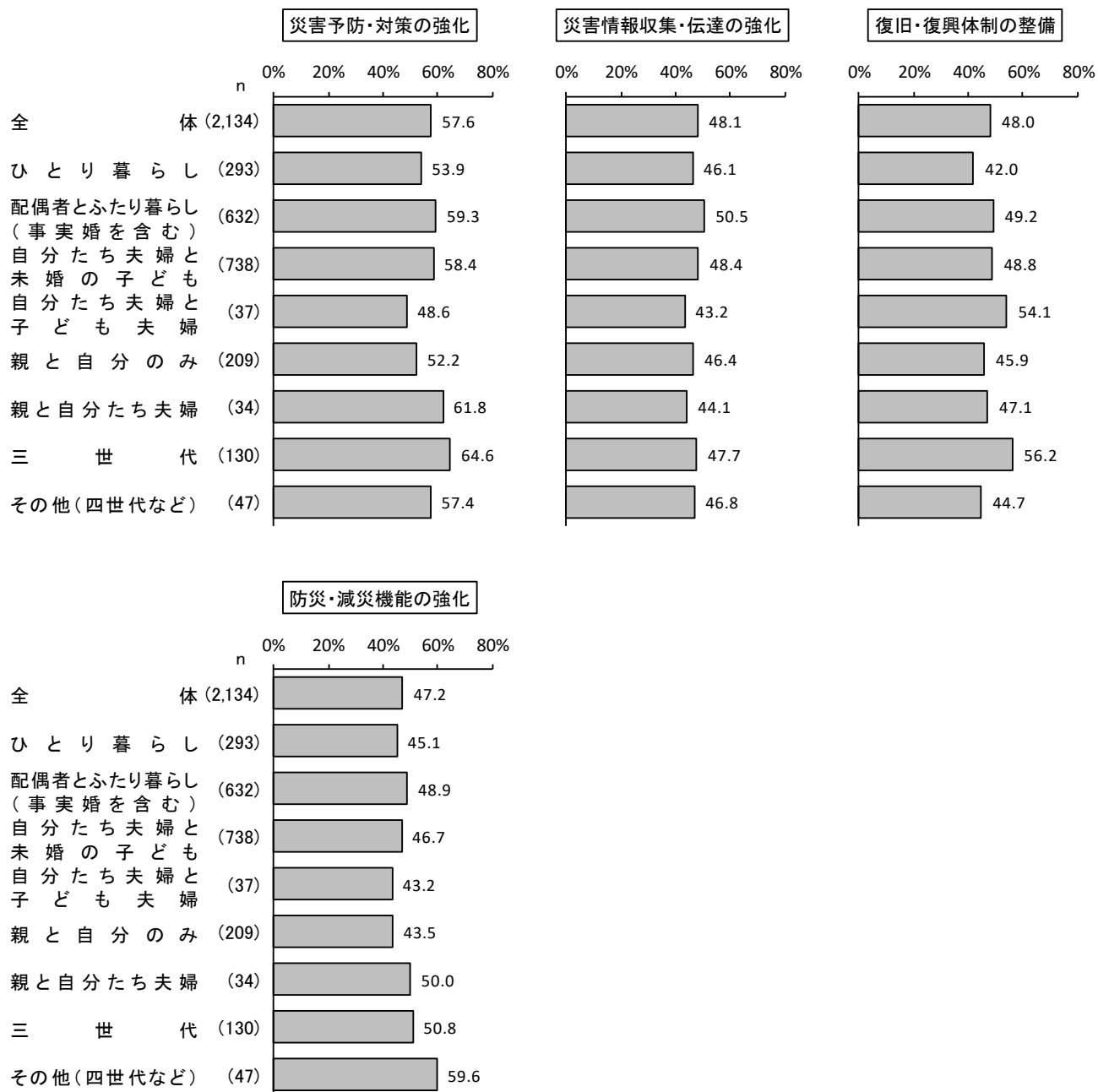
（図 29-3）

図 29-4 防災・減災分野において力を入れた方がよいと考える取組 - 職業別



職業別にみると、「災害予防・対策の強化」は、その他(67.3%)が7割近くと高くなっている。「災害情報収集・伝達の強化」は、その他(58.2%)が6割近く、教員・公務員(54.7%)が5割台半ば、会社・商店・サービス業などの勤め人(53.6%)が5割強と高くなっている。「復旧・復興体制の整備」は、学生(53.6%)が5割強と高くなっている。「防災・減災機能の強化」は、教員・公務員(52.6%)が5割強と高くなっている。(図 29-4)

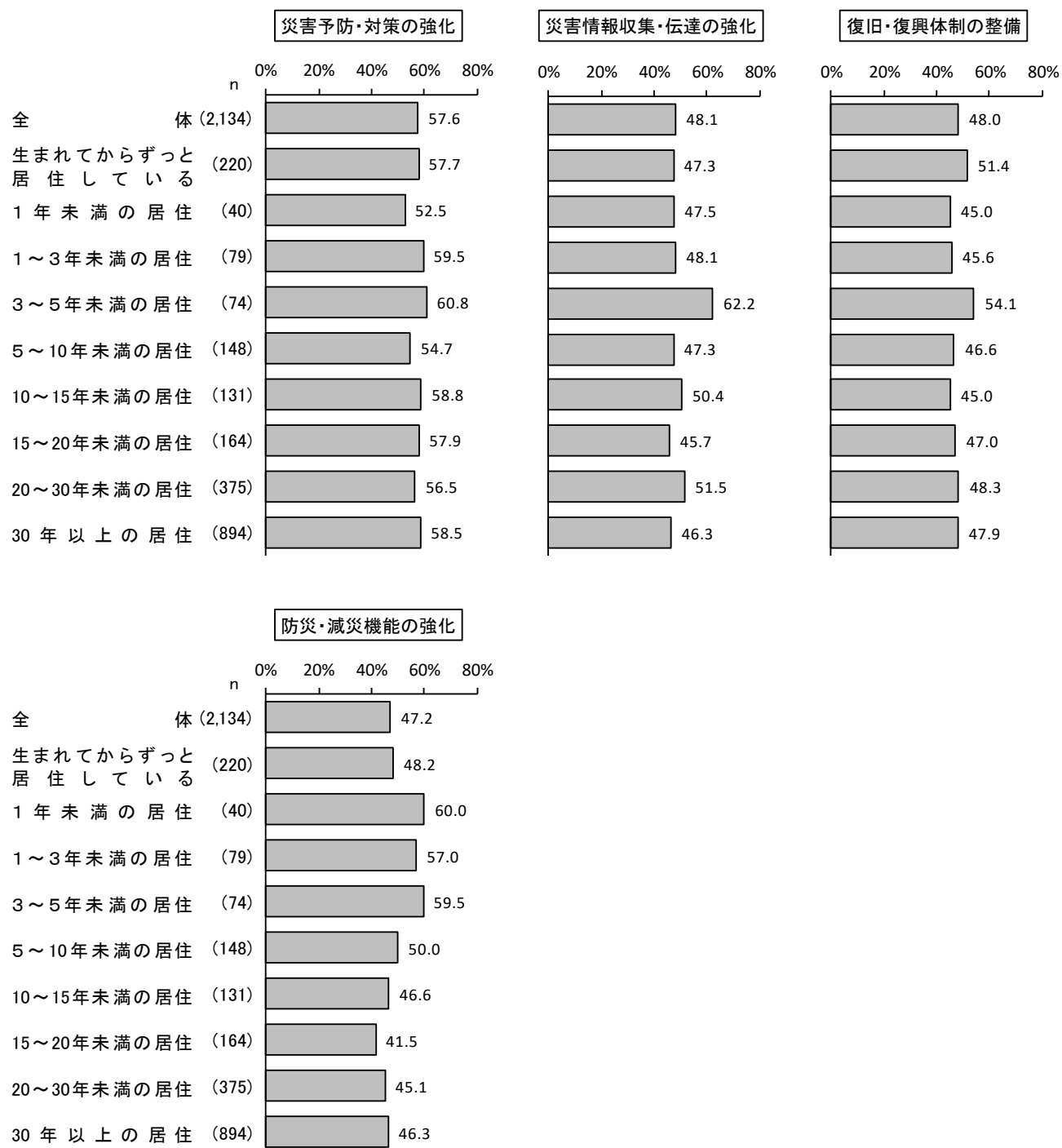
図 29-5 防災・減災分野において力を入れた方がよいと考える取組 — 世帯構成別



世帯構成別にみると、「災害予防・対策の強化」は、三世帯 (64.6%) が6割台半ばと高くなっている。「復旧・復興体制の整備」は、三世帯 (56.2%) が6割近く、自分たち夫婦と子ども夫婦 (54.1%) が5割台半ばと高くなっている。「防災・減災機能の強化」は、その他 (四世代など) (59.6%) が6割弱と高くなっている。

(図 29-5)

図 29-6 防災・減災分野において力を入れた方がよいと考える取組 — 居住年数別

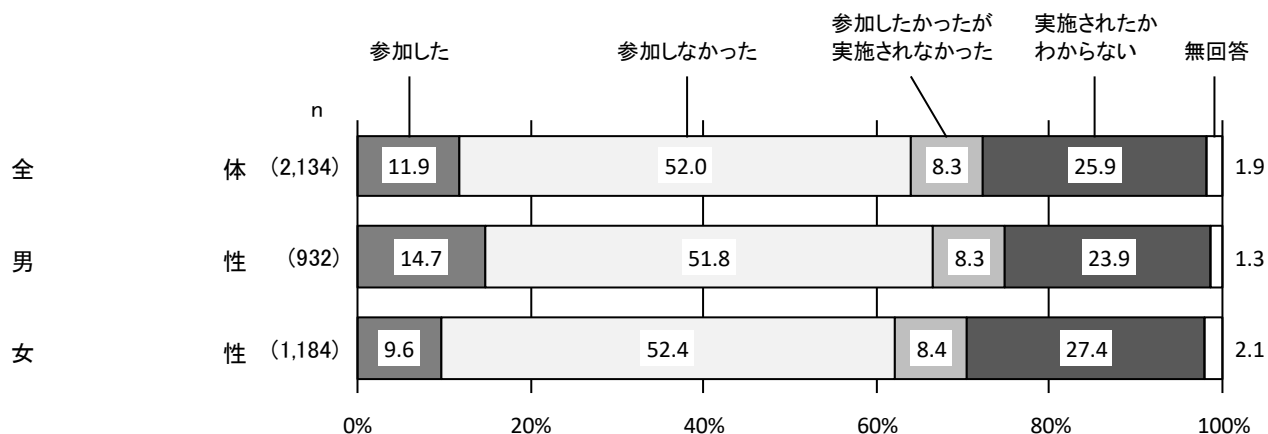


居住年数別にみると、「災害予防・対策の強化」は、1年未満の居住（52.5%）が5割強と低くなっている。「災害情報収集・伝達の強化」は、3～5年未満の居住（62.2%）が6割強と高くなっている。「復旧・復興体制の整備」は、3～5年未満の居住（54.1%）が5割台半ばと高くなっている。「防災・減災機能の強化」は、1年未満の居住（60.0%）が6割、3～5年未満の居住（59.5%）が6割弱、1～3年未満の居住（57.0%）が6割近くと高くなっている。（図 29-6）

(30) 地域の防災訓練への参加の有無

問 26 あなたは、この1年間に、市や町会・自治会、マンション管理組合などが主催する地域の防災訓練に参加しましたか。(〇は1つだけ)

図 30-1 地域の防災訓練への参加の有無 - 全体、性別

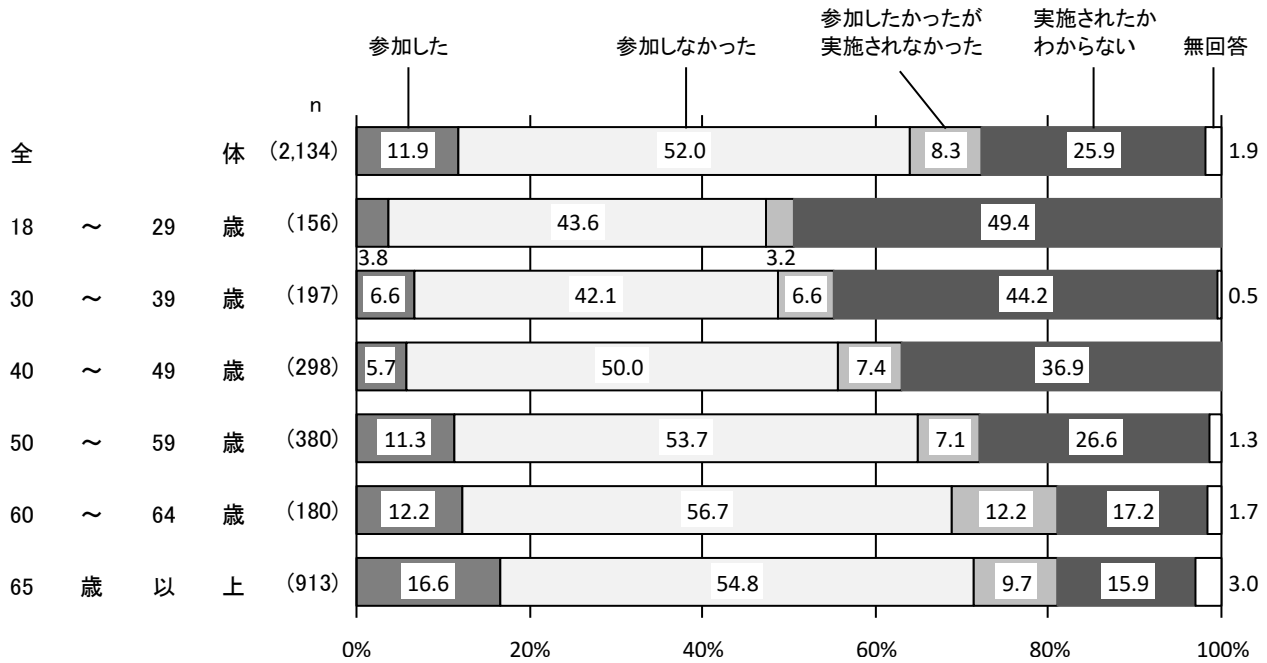


市や町会・自治会、マンション管理組合などが主催する地域の防災訓練に参加したかを聞いたところ、「参加した」(11.9%)は、1割強となっている。一方、「参加しなかった」(52.0%)は5割強、「参加したかったが実施されなかった」(8.3%)は1割未満、「実施されたかわからない」(25.9%)は、2割台半ばとなっている。

性別にみると、「参加した」は、男性(14.7%)が女性(9.6%)より5.1ポイント高くなっている。

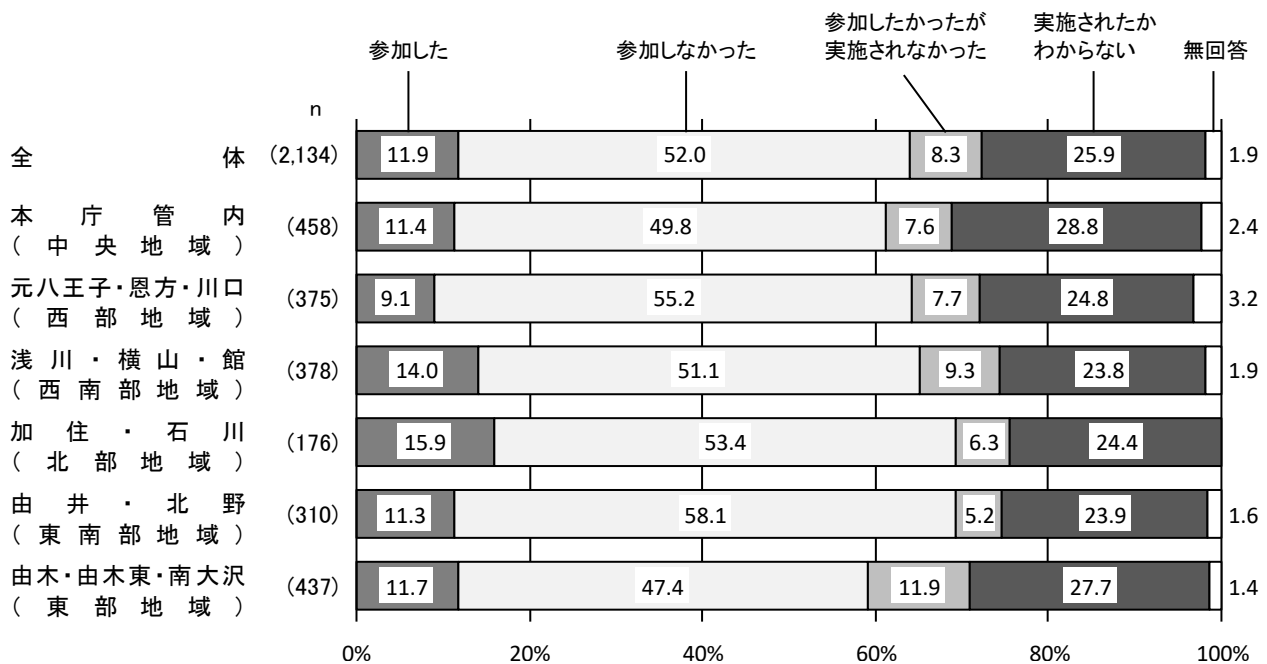
(図 30-1)

図 30-2 地域の防災訓練への参加の有無 - 年齢別



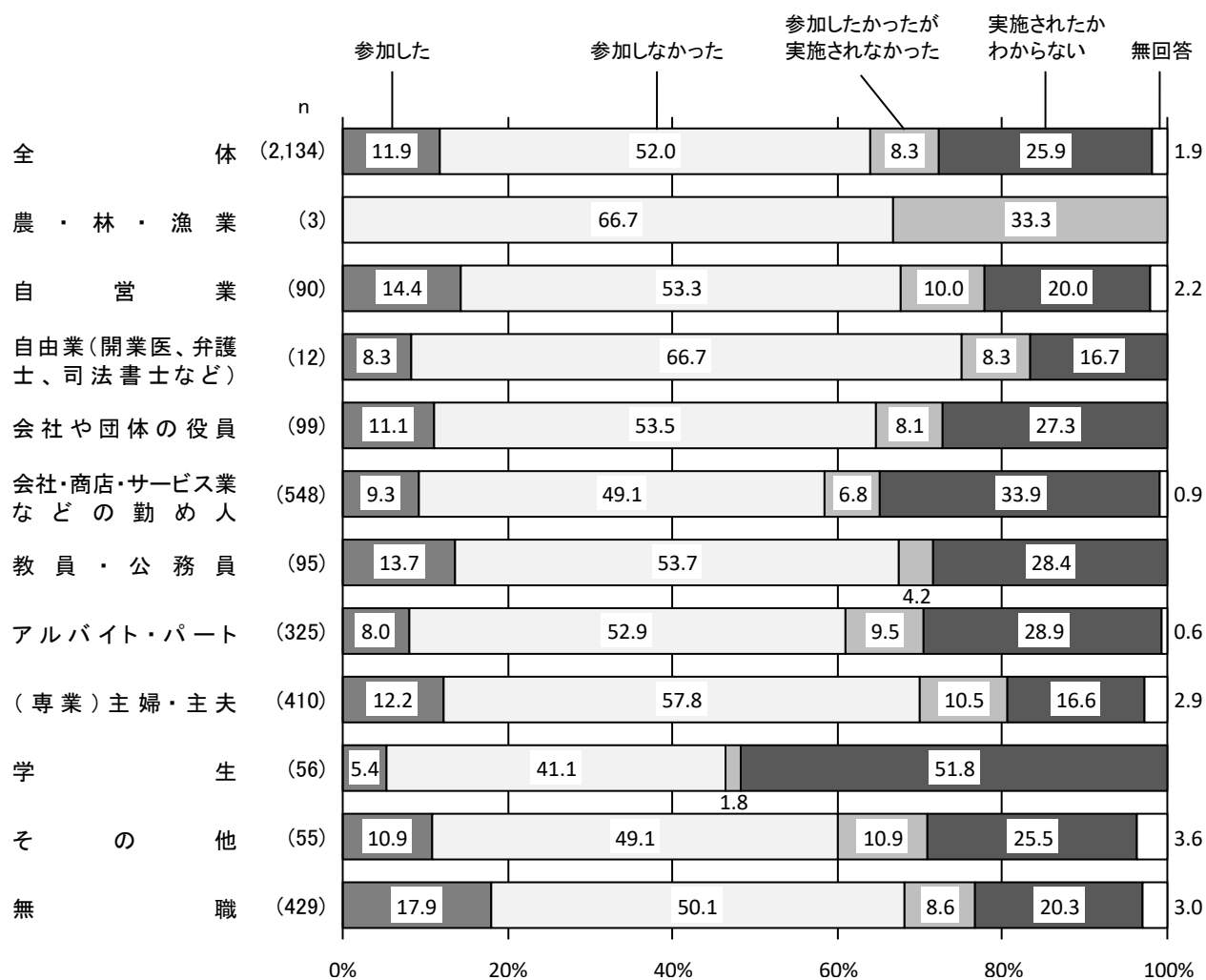
年齢別にみると、「実施されたかわからない」は、18~29歳（49.4%）が5割弱、30~39歳（44.2%）が4割台半ば、40~49歳（36.9%）が4割近くと高くなっている。（図 30-2）

図 30-3 地域の防災訓練への参加の有無 - 居住地域別



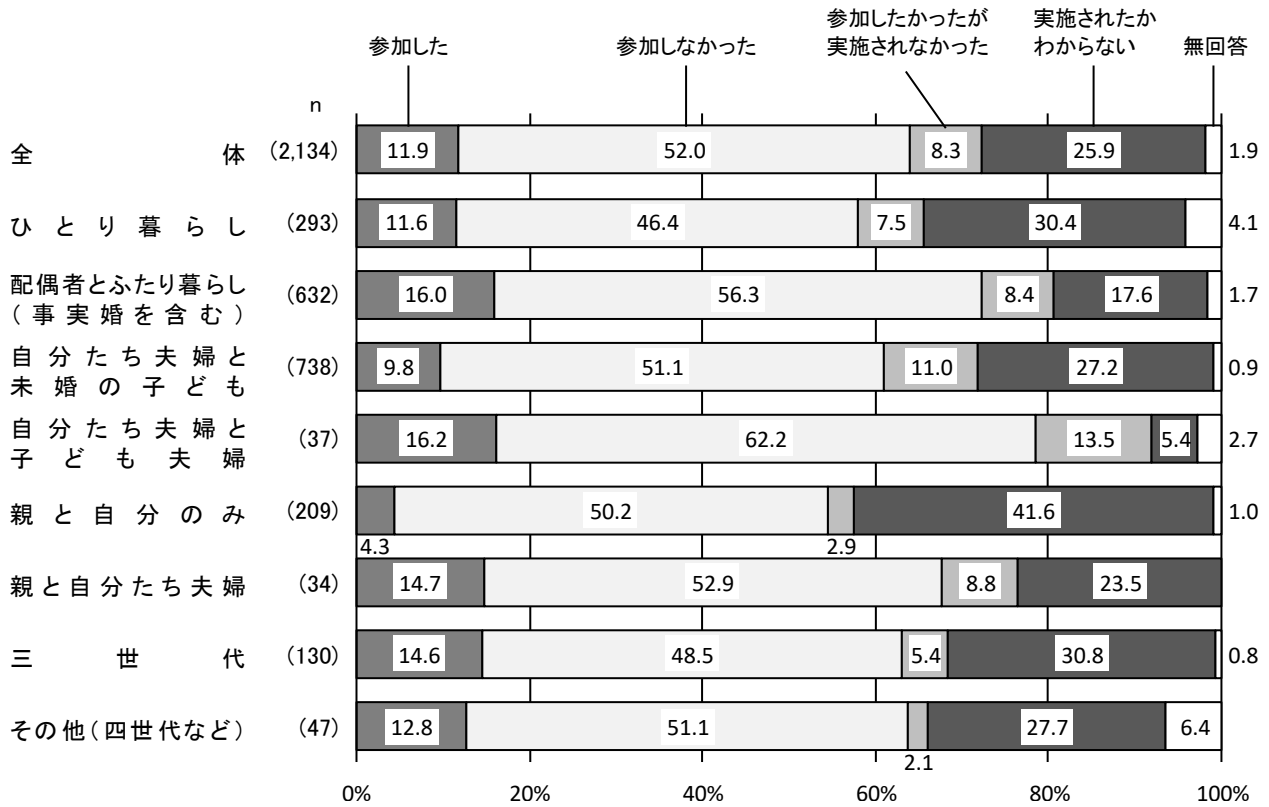
居住地域別にみると、「参加しなかった」は、由井・北野（東南部地域）（58.1%）が6割近くと高くなっている。（図 30-3）

図 30-4 地域の防災訓練への参加の有無 - 職業別



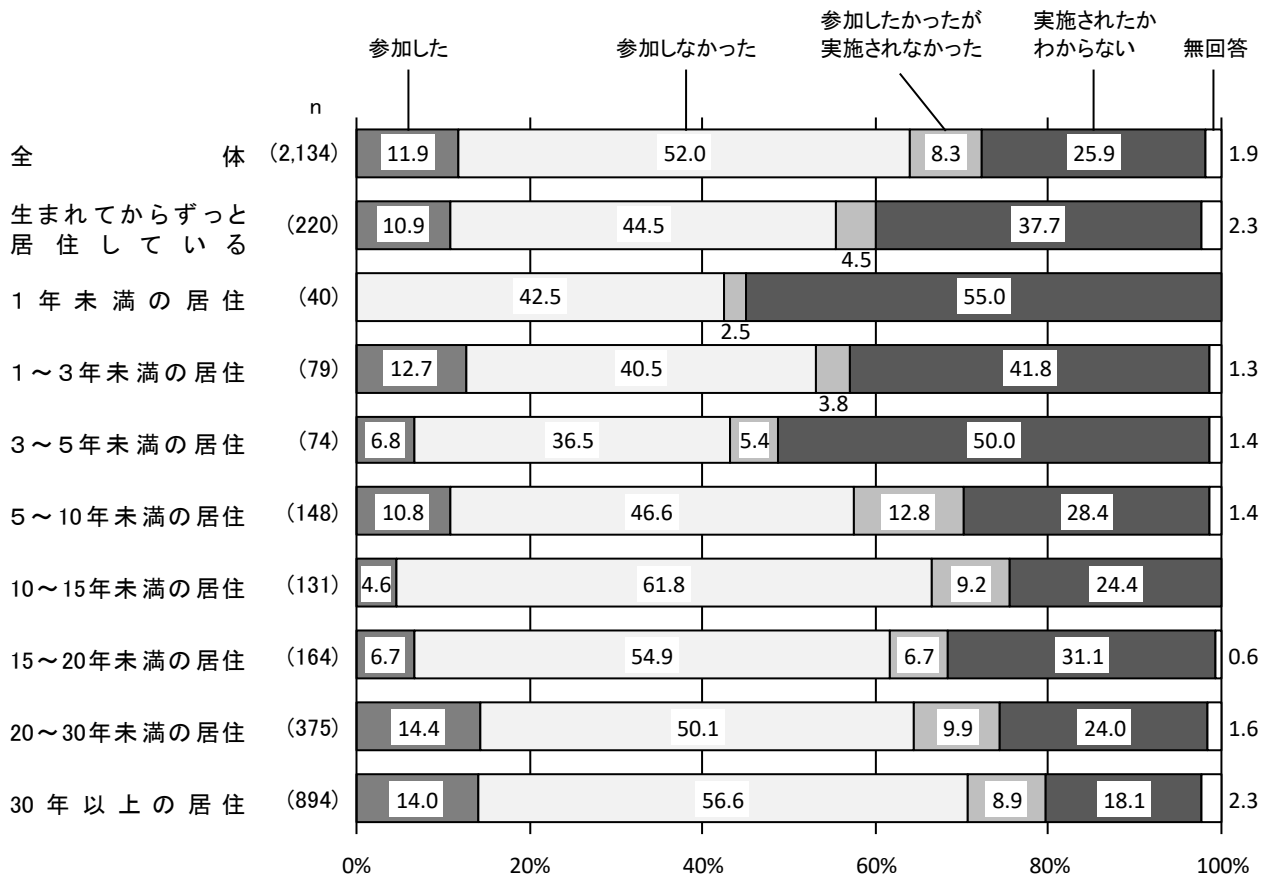
職業別にみると、「参加した」は、無職 (17.9%) が2割近くと高くなっている。「参加しなかった」は、(専業)主婦・主夫 (57.8%) が6割近くと高くなっている。「実施されたかわからない」は、学生 (51.8%) が5割強、会社・商店・サービス業などの勤め人 (33.9%) が3割強と高くなっている。(図 30-4)

図 30-5 地域の防災訓練への参加の有無 - 世帯構成別



世帯構成別にみると、「参加しなかった」は、自分たち夫婦と子ども夫婦（62.2%）が6割強と高くなっている。「参加したかったが実施されなかった」は、自分たち夫婦と子ども夫婦（13.5%）が1割強と高くなっている。「実施されたかわからない」は、親と自分のみ（41.6%）が4割強と高くなっている。（図 30-5）

図 30-6 地域の防災訓練への参加の有無 - 居住年数別



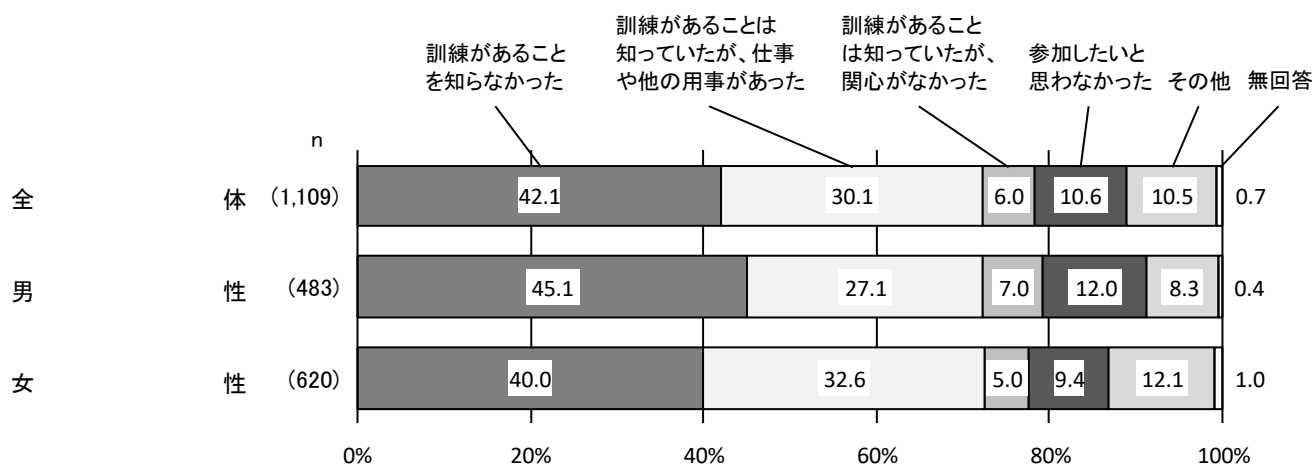
居住年数別にみると、「参加しなかった」は、10～15年未満の居住（61.8%）が6割強と高くなっている。「実施されたかわからない」は、1年未満の居住（55.0%）が5割台半ば、3～5年未満の居住（50.0%）が5割、1～3年未満の居住（41.8%）が4割強、生まれてからずっと居住している（37.7%）が4割近くと高くなっている。（図 30-6）

(31) 地域の防災訓練へ参加しなかった理由

(問 26 で、「2 参加しなかった」とお答えの方へ)

問 26-1 その理由を以下から選択してください。(○は1つだけ)

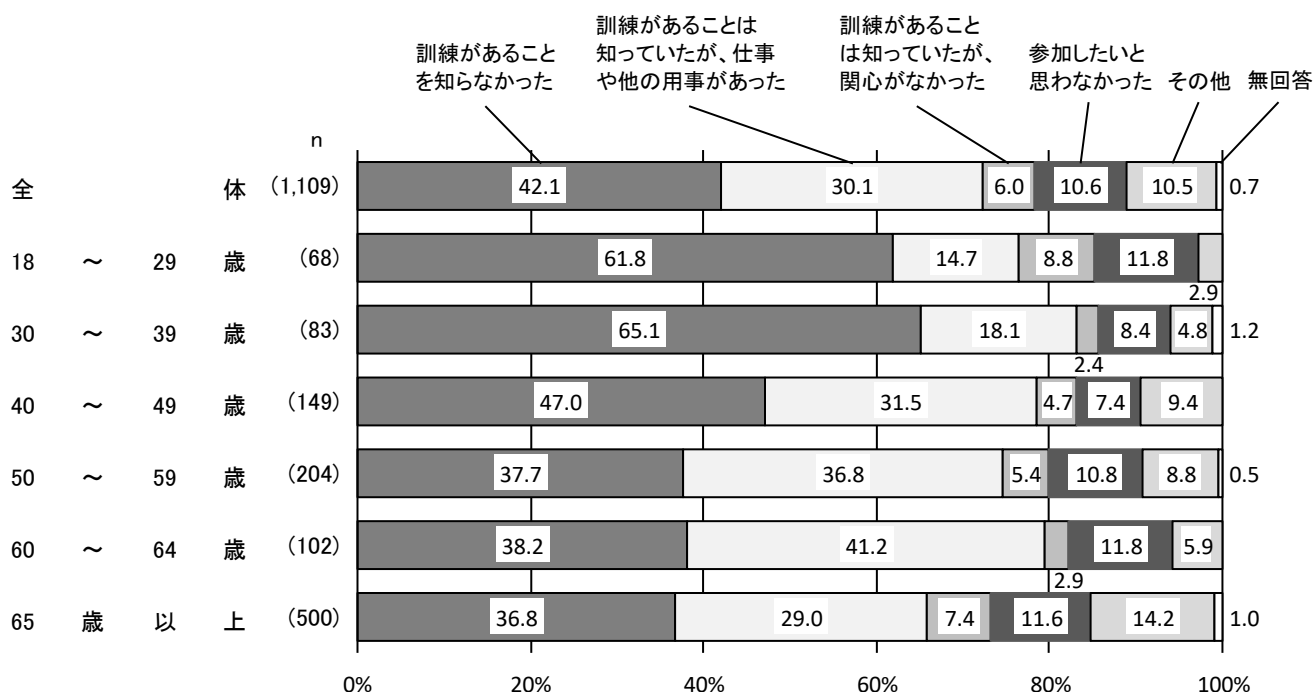
図 31-1 地域の防災訓練へ参加しなかった理由 - 全体、性別



地域の防災訓練へ参加しなかった理由を聞いたところ、「訓練があることを知らなかった」(42.1%)は4割強、「訓練があることは知っていたが、仕事や他の用事があった」(30.1%)は約3割、「訓練があることは知っていたが、関心がなかった」(6.0%)は1割未満、「参加したいと思わなかった」(10.6%)は約1割となっている。

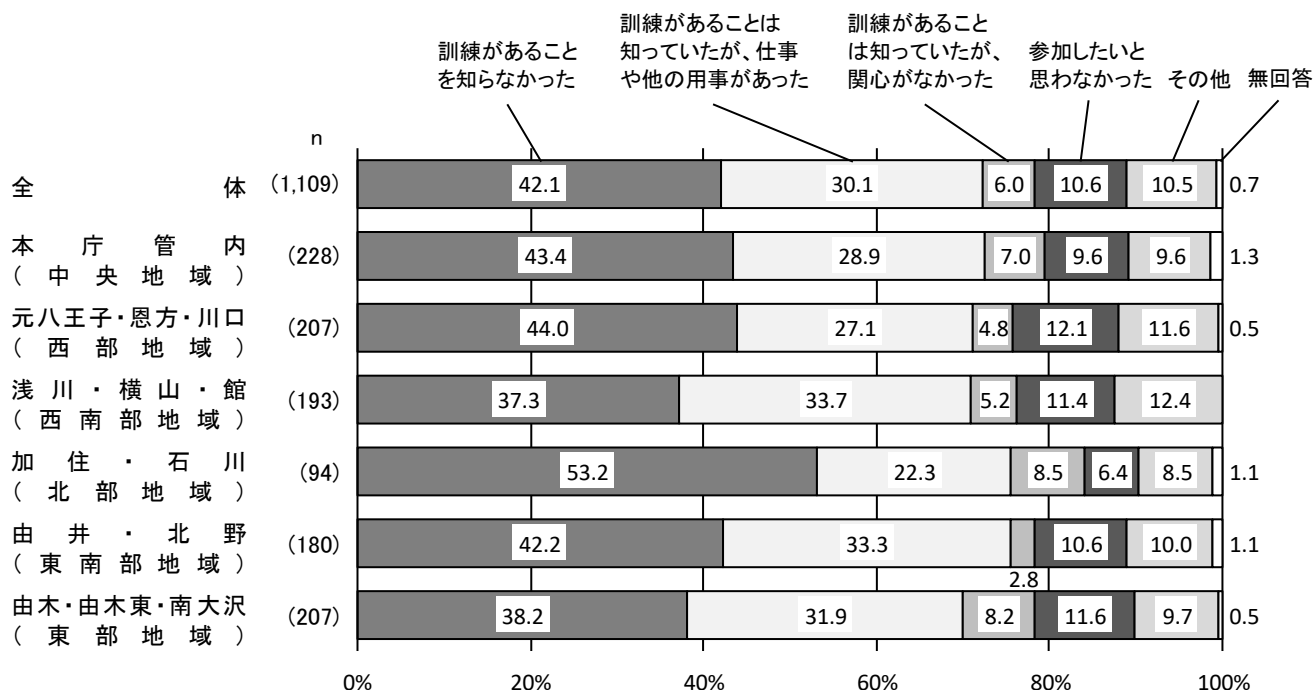
性別にみると、「訓練があることは知っていたが、仕事や他の用事があった」は、女性(32.6%)が男性(27.1%)より5.5ポイント高くなっている。(図 31-1)

図 31-2 地域の防災訓練へ参加しなかった理由 - 年齢別



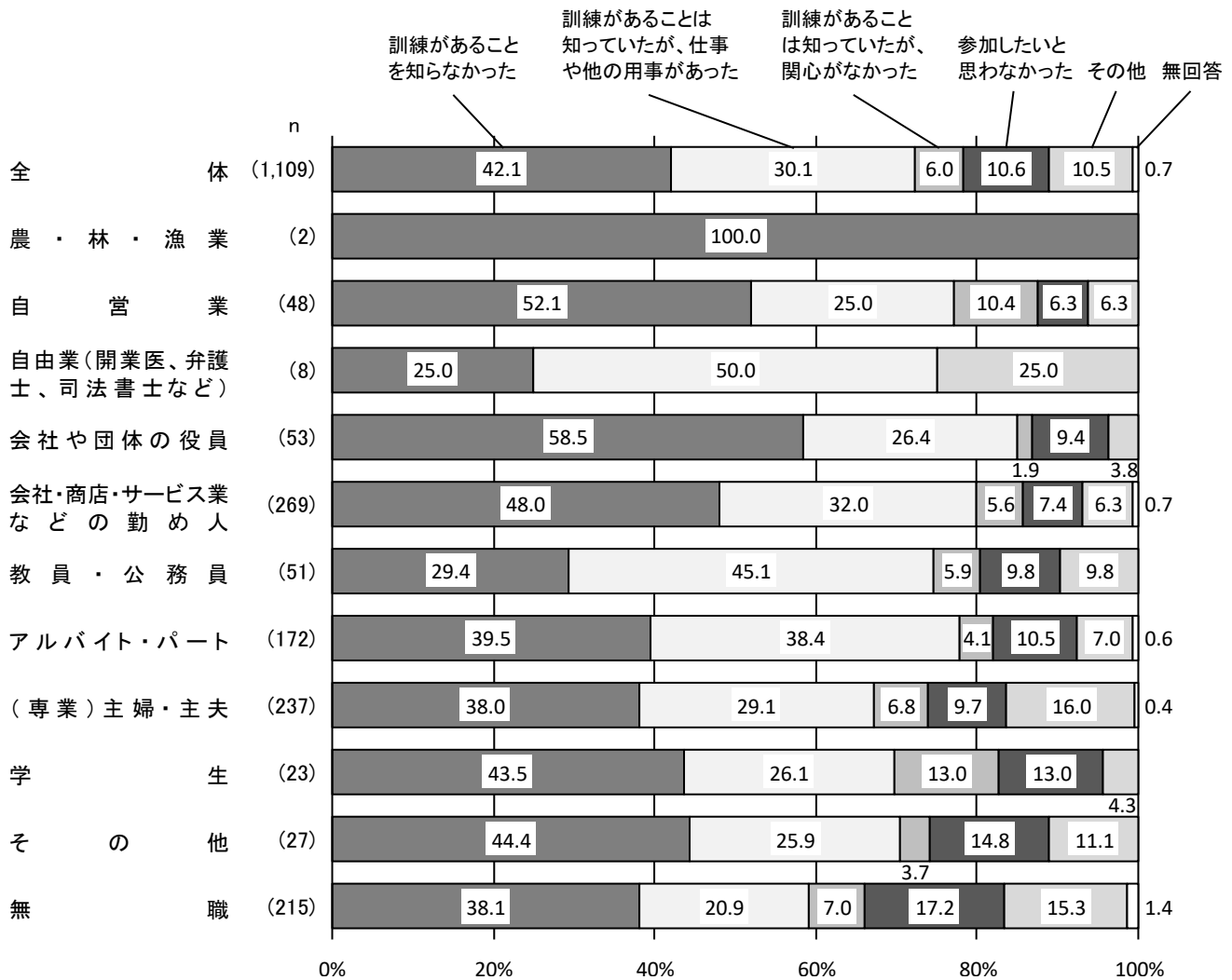
年齢別にみると、「訓練があることを知らなかった」は、30～39歳(65.1%)が6割台半ば、18～29歳(61.8%)が6割強と高くなっている。「訓練があることは知っていたが、仕事や他の用事があった」は、60～64歳(41.2%)が4割強、50～59歳(36.8%)が4割近くと高くなっている。(図 31-2)

図 31-3 地域の防災訓練へ参加しなかった理由 - 居住地域別



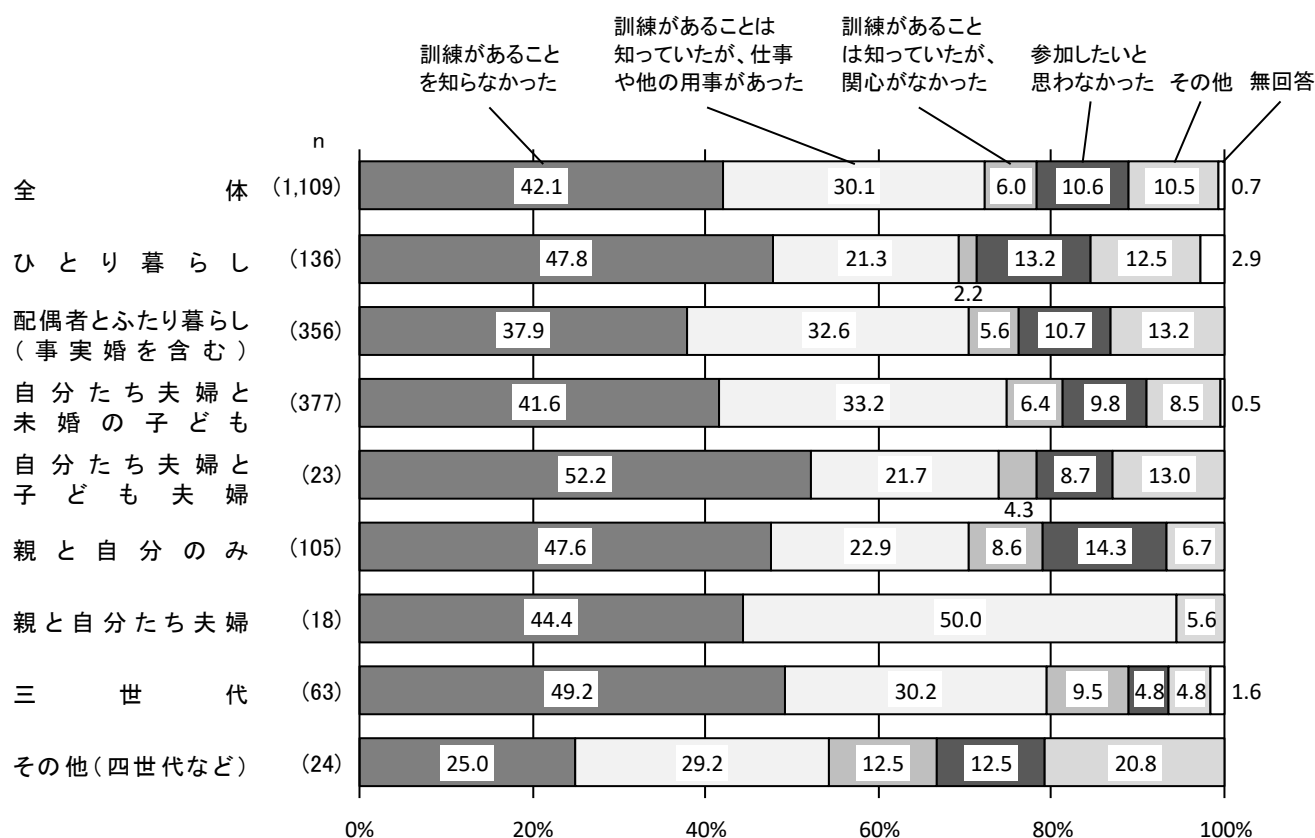
居住地域別にみると、「訓練があることを知らなかった」は、加住・石川(北部地域)(53.2%)が5割強と高くなっている。(図 31-3)

図 31-4 地域の防災訓練へ参加しなかった理由 - 職業別



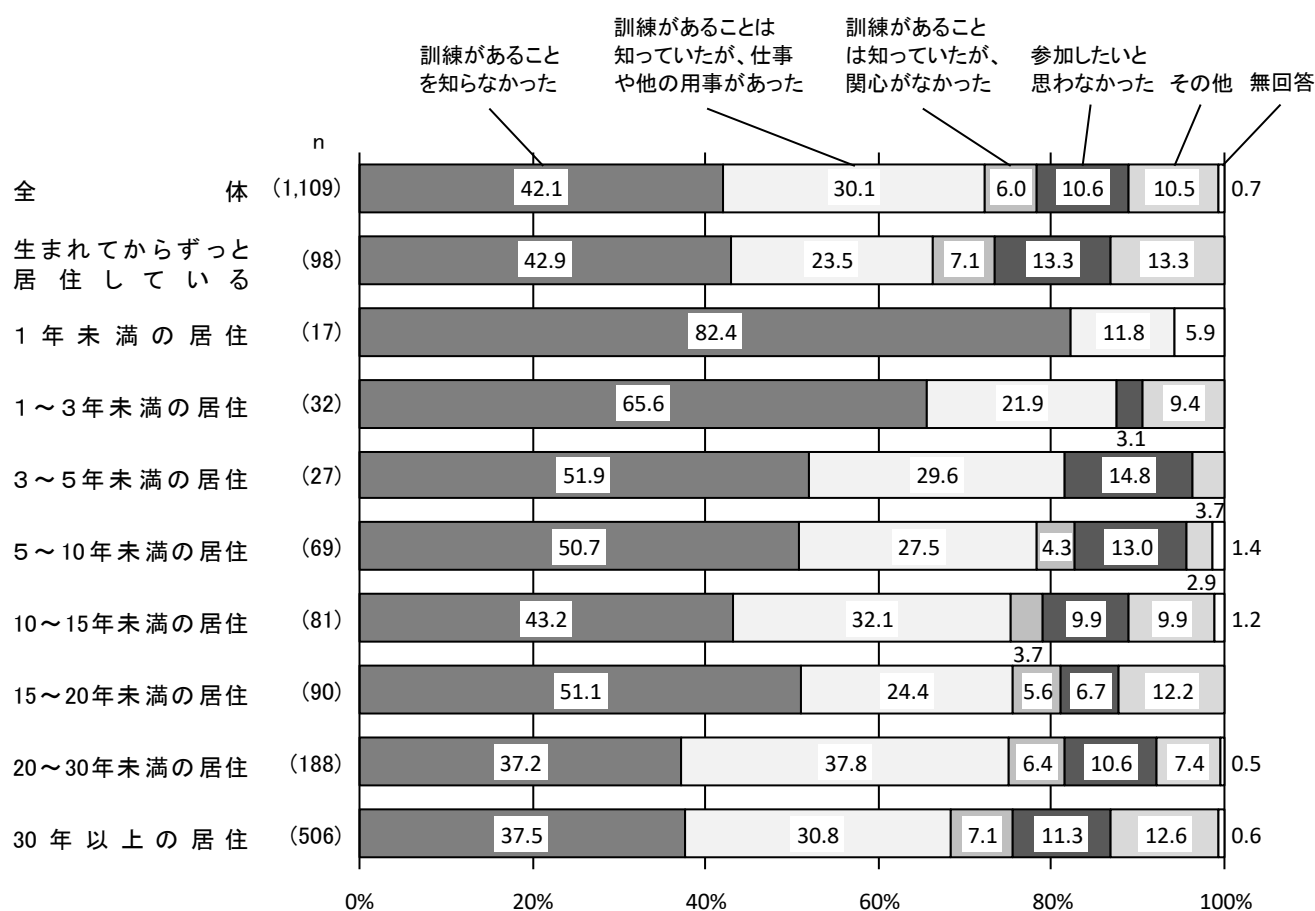
職業別にみると、「訓練があることを知らなかった」は、会社や団体の役員（58.5%）が6割近く、自営業（52.1%）が5割強、会社・商店・サービス業などの勤め人（48.0%）が5割近くと高くなっている。「訓練があることは知っていたが、仕事や他の用事があった」は、教員・公務員（45.1%）が4割台半ば、アルバイト・パート（38.4%）が4割近くと高くなっている。「参加したいと思わなかった」は、無職（17.2%）が2割近くと高くなっている。（図 31-4）

図 31-5 地域の防災訓練へ参加しなかった理由 - 世帯構成別



世帯構成別にみると、「訓練があることを知らなかった」は、三世代(49.2%)が5割弱、ひとり暮らし(47.8%)、親と自分のみ(47.6%)がそれぞれ5割近くと高くなっている。(図 31-5)

図 31-6 地域の防災訓練へ参加しなかった理由 - 居住年数別

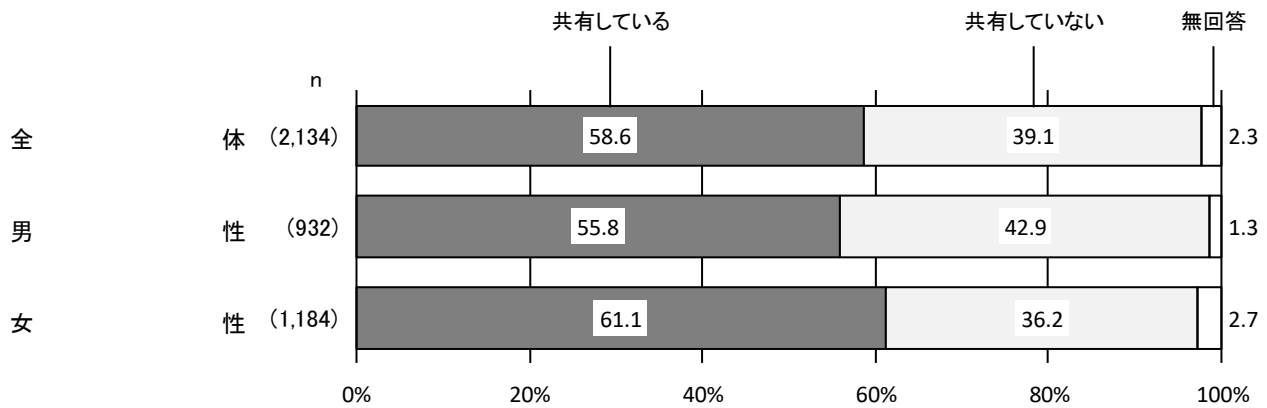


居住年数別にみると、「訓練があることを知らなかった」は、1～3年未満の居住（65.6%）が6割台半ば、15～20年未満の居住（51.1%）が5割強、5～10年未満の居住（50.7%）が約5割と高くなっている。「訓練があることは知っていたが、仕事や他の用事があった」は、20～30年未満の居住（37.8%）が4割近くと高くなっている。（図 31-6）

(32) “災害時の避難場所”を共有しているか

問 27 あなたは、“災害時の避難場所”を家族や友人などと共有していますか。(○は1つだけ)

図 32-1 “災害時の避難場所”を共有しているか — 全体、性別

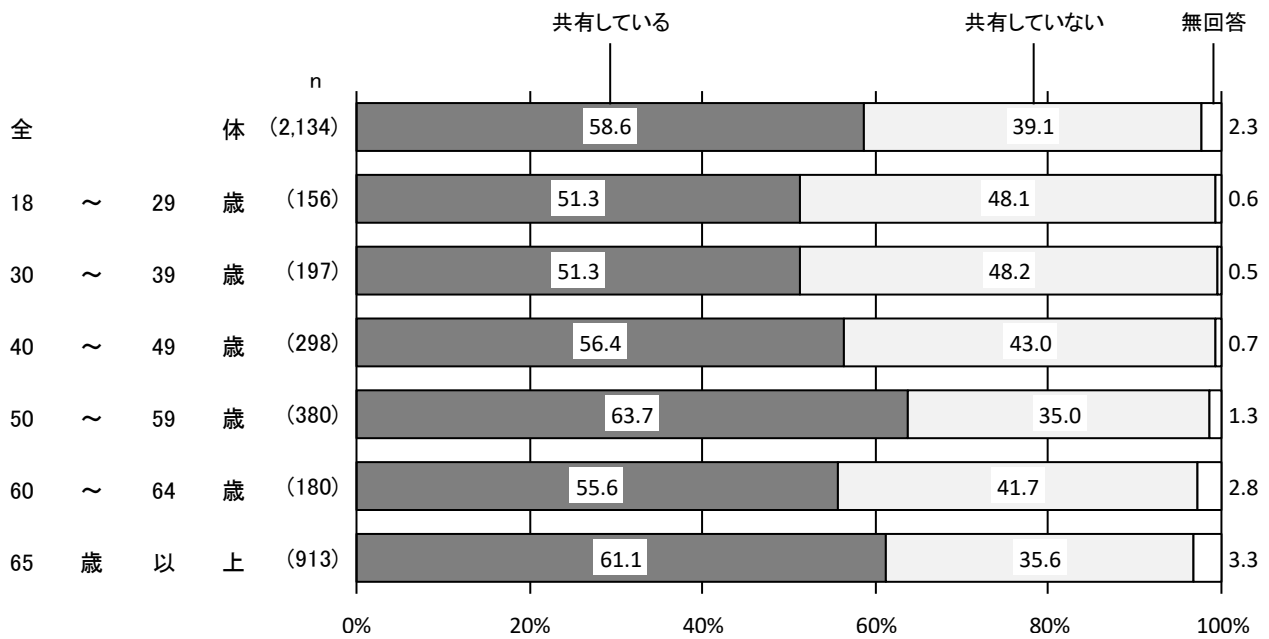


“災害時の避難場所”を家族や友人などと共有しているかを聞いたところ、「共有している」(58.6%)は、6割近くとなっている。一方、「共有していない」(39.1%)は、4割弱となっている。

性別にみると、「共有していない」は、男性(42.9%)が女性(36.2%)より6.7ポイント高くなっている。

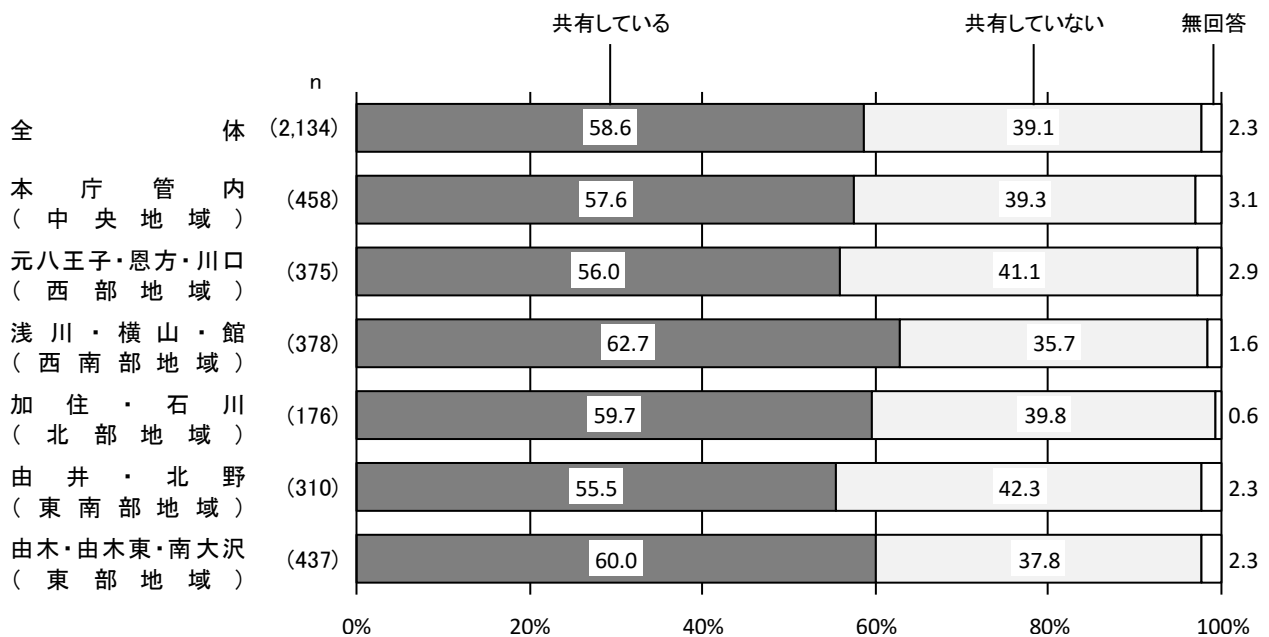
(図 32-1)

図 32-2 “災害時の避難場所”を共有しているか - 年齢別



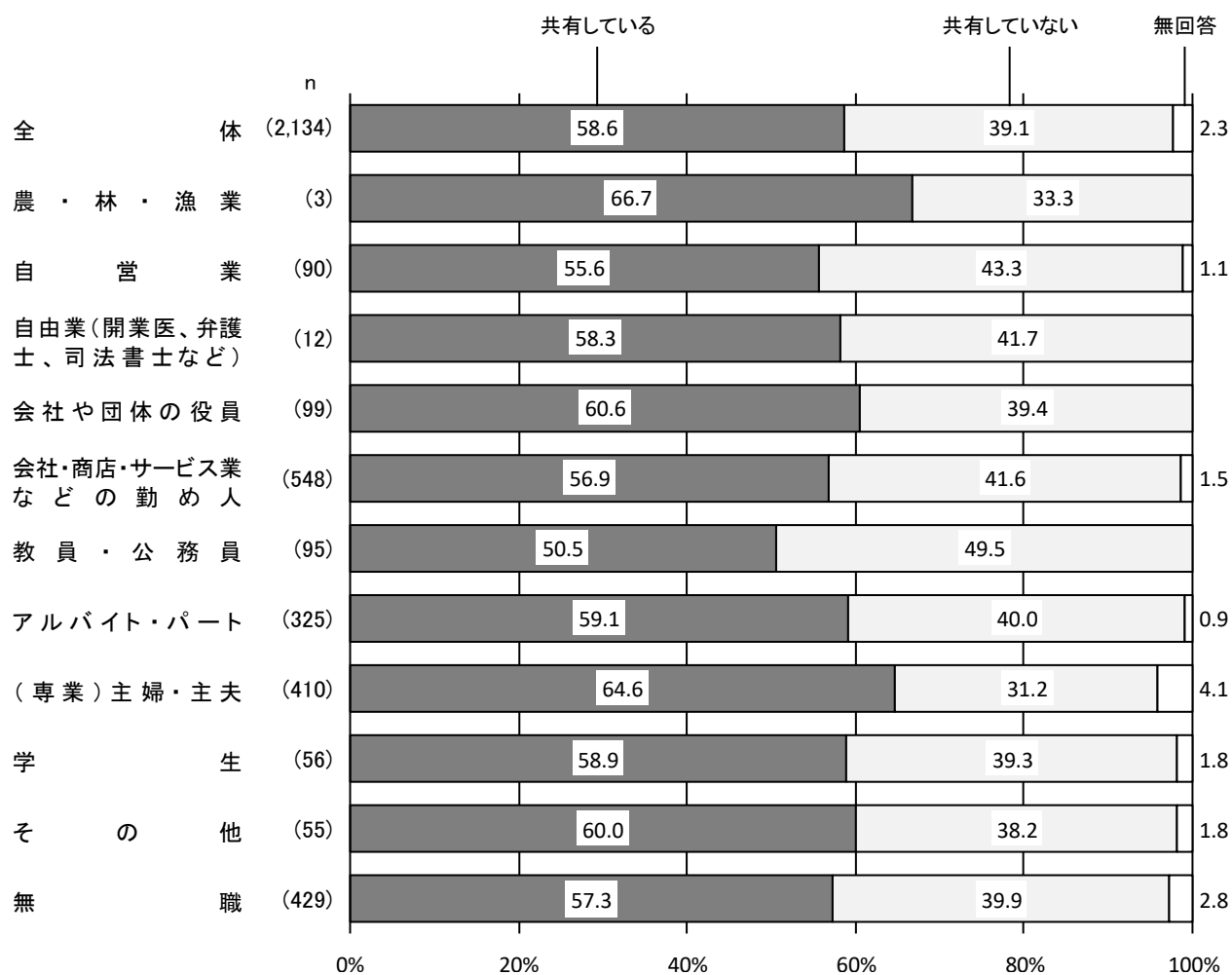
年齢別にみると、「共有している」は、50～59歳（63.7%）が6割強と高くなっている。「共有していない」は、30～39歳（48.2%）、18～29歳（48.1%）がそれぞれ5割近くと高くなっている。（図 32-2）

図 32-3 “災害時の避難場所”を共有しているか - 居住地域別



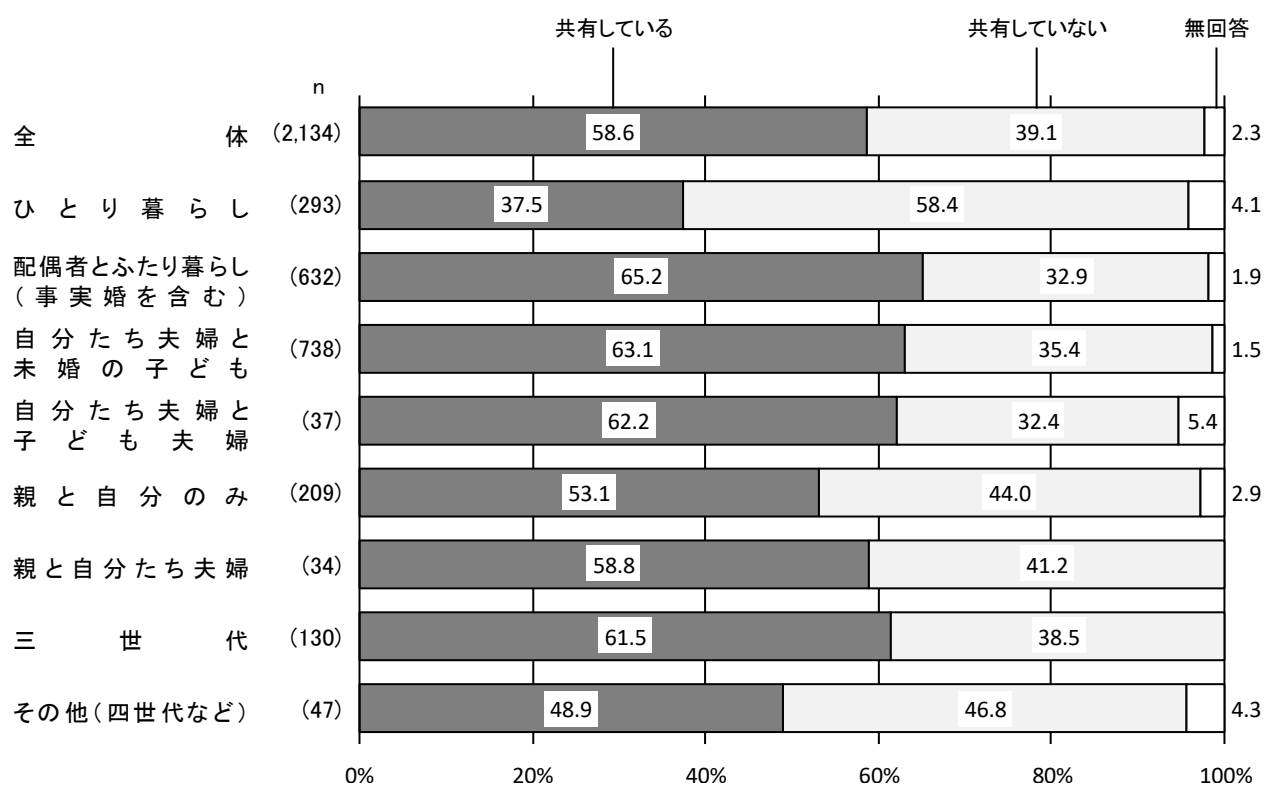
居住地域別にみると、傾向に大きな違いはみられない。（図 32-3）

図 32-4 “災害時の避難場所”を共有しているか - 職業別



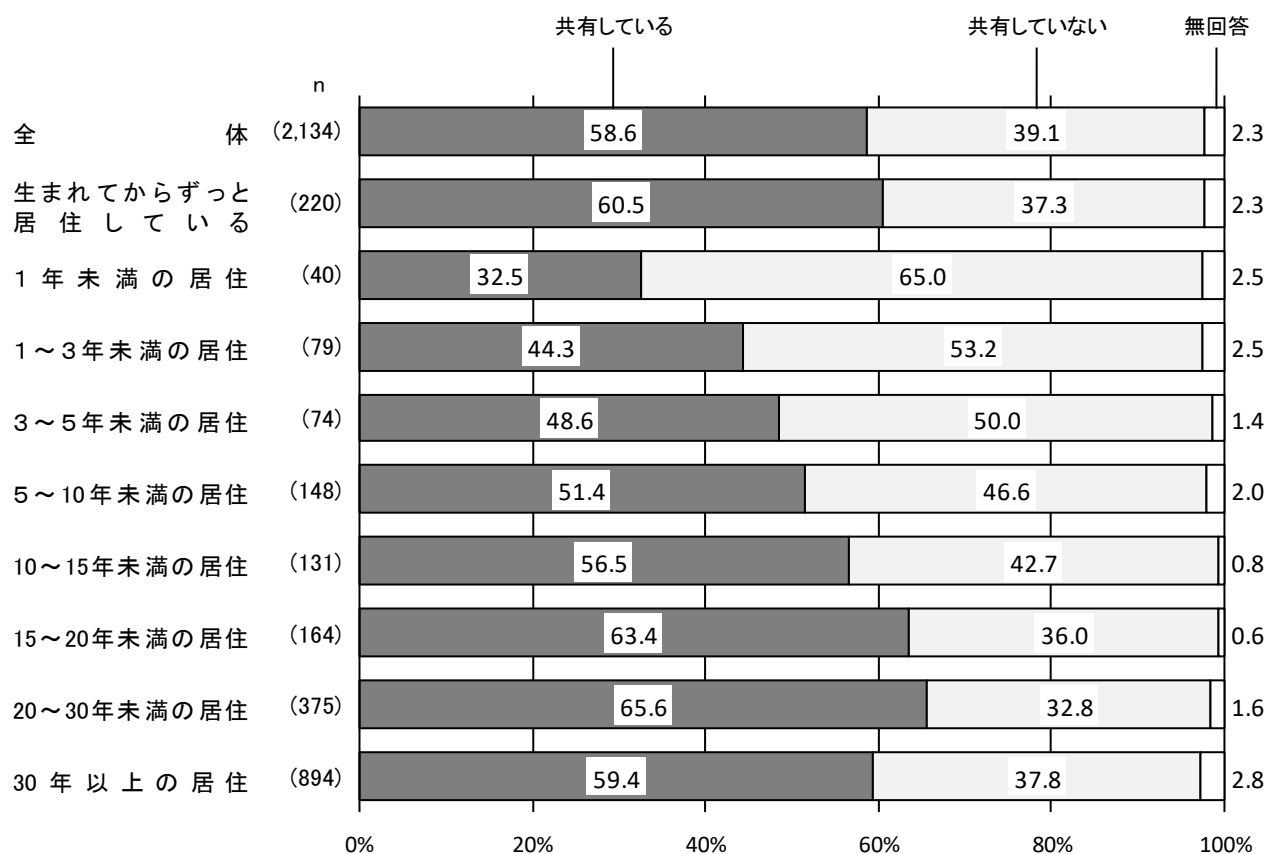
職業別にみると、「共有している」は、(専業)主婦・主夫(64.6%)が6割台半ばと高くなっている。「共有していない」は、教員・公務員(49.5%)が5割弱と高くなっている。(図 32-4)

図 32-5 “災害時の避難場所”を共有しているか - 世帯構成別



世帯構成別にみると、「共有している」は、配偶者とふたり暮らし（事実婚を含む）（65.2%）が6割台半ばと高くなっている。「共有していない」は、ひとり暮らし（58.4%）が6割近く、その他（四世代など）（46.8%）が5割近くと高くなっている。（図 32-5）

図 32-6 “災害時の避難場所”を共有しているか - 居住年数別



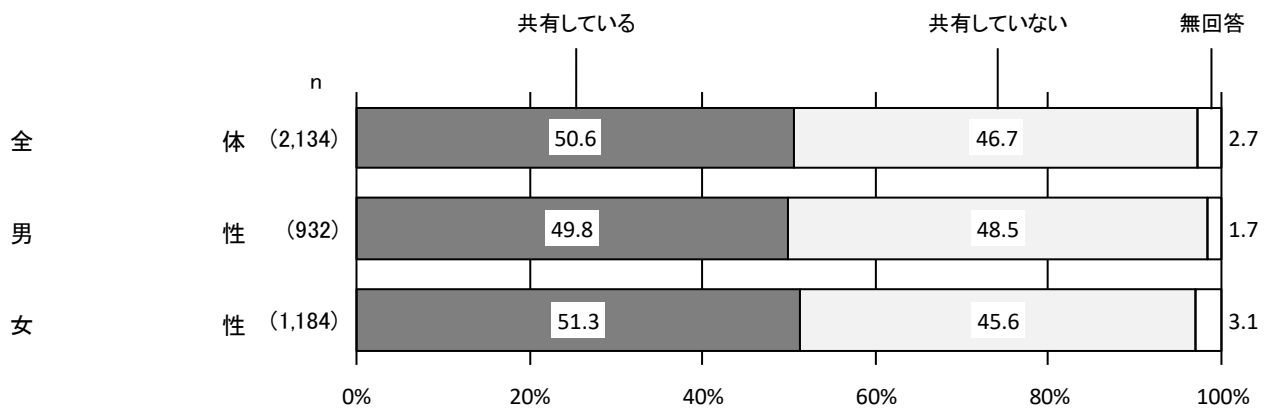
居住年数別にみると、「共有している」は、20～30年未満の居住（65.6%）が6割台半ばと高くなっている。「共有していない」は、1年未満の居住（65.0%）が6割台半ば、1～3年未満の居住（53.2%）が5割強、3～5年未満の居住（50.0%）が5割、5～10年未満の居住（46.6%）が5割近くと高くなっている。

(図 32-6)

(33) “災害時の安否確認の方法”を共有しているか

問 28 あなたは、“災害時の安否確認の方法”を家族や友人などと共有していますか。(○は1つだけ)

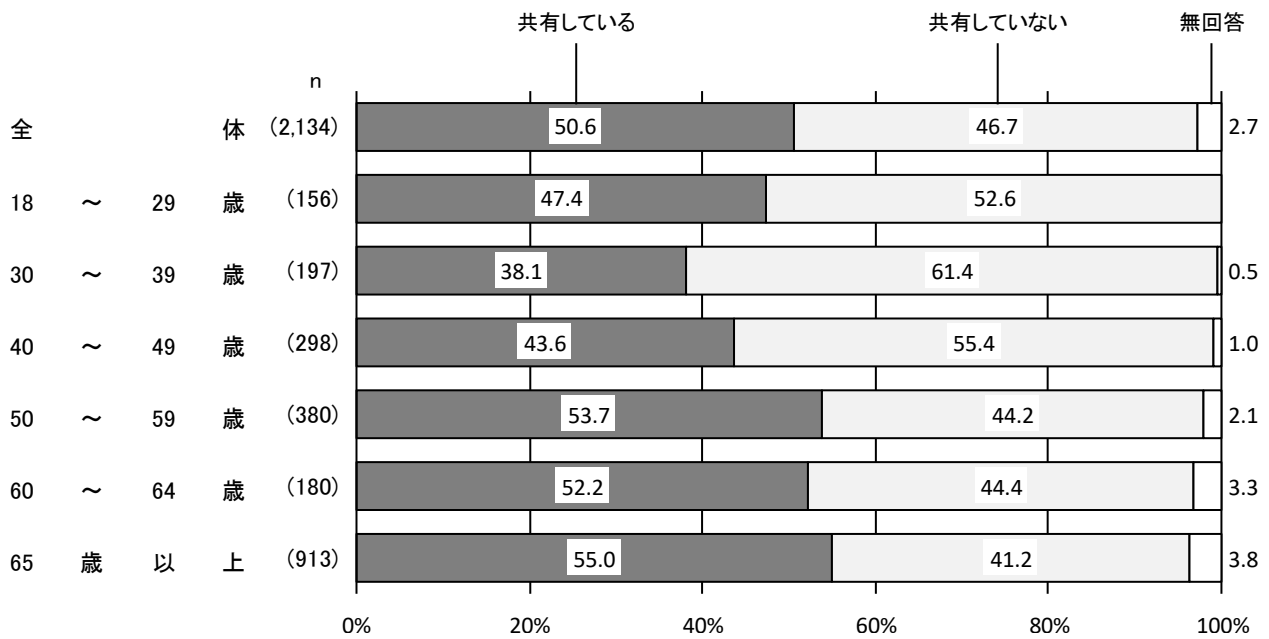
図 33-1 “災害時の安否確認の方法”を共有しているか - 全体、性別



“災害時の安否確認の方法”を家族や友人などと共有しているかを聞いたところ、「共有している」(50.6%)は、約5割となっている。一方、「共有していない」(46.7%)は、5割近くとなっている。

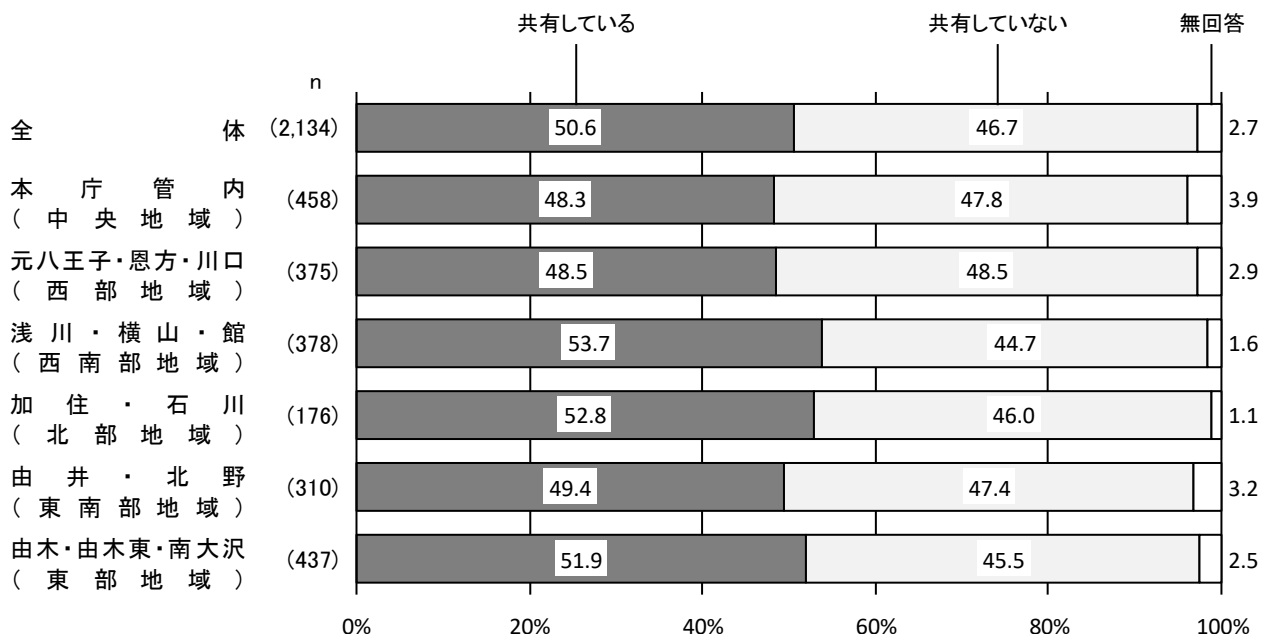
性別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図 33-1)

図 33-2 “災害時の安否確認の方法”を共有しているか - 年齢別



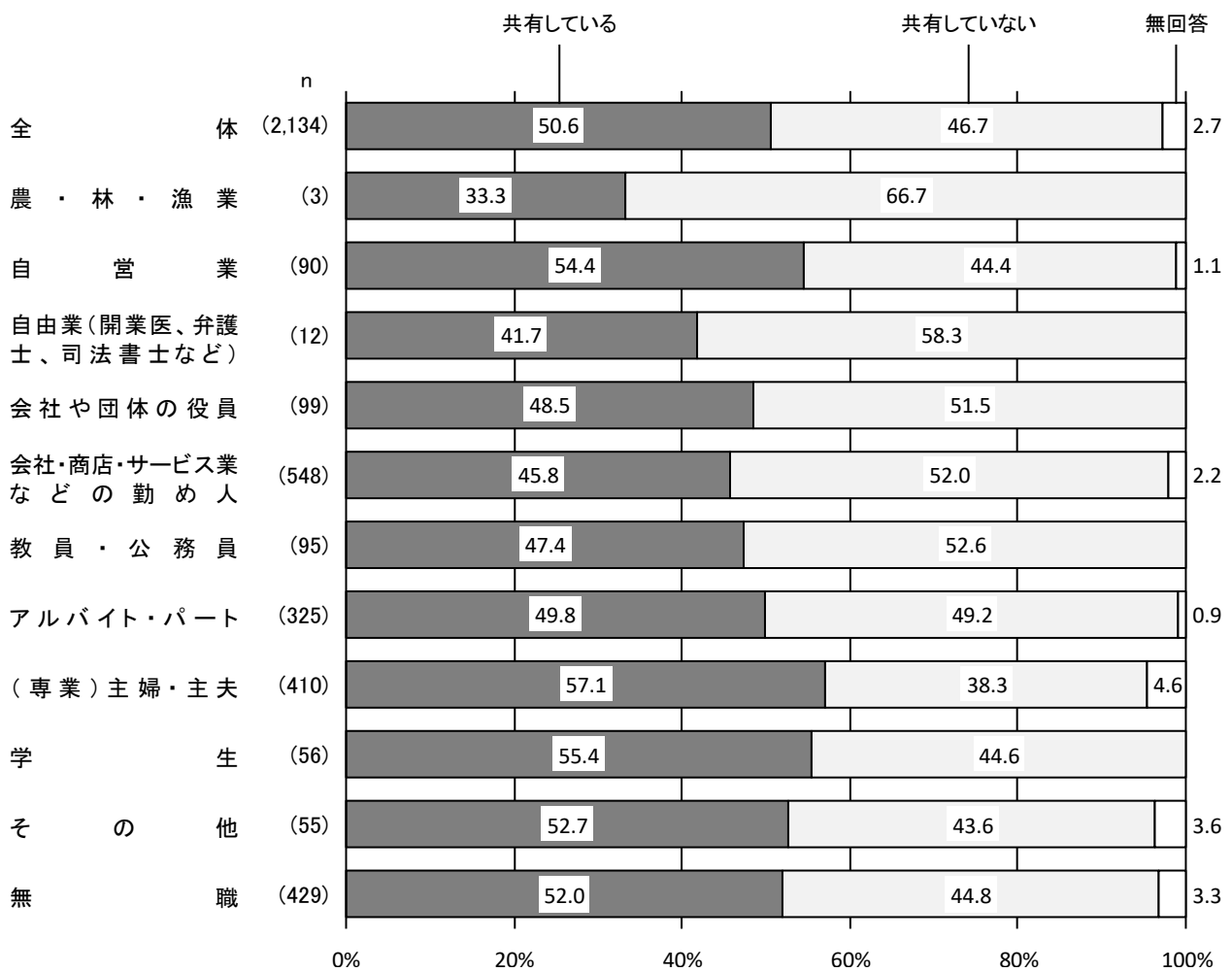
年齢別にみると、「共有していない」は、30~39歳(61.4%)が6割強、40~49歳(55.4%)が5割台半ば、18~29歳(52.6%)が5割強と高くなっている。(図 33-2)

図 33-3 “災害時の安否確認の方法”を共有しているか - 居住地域別



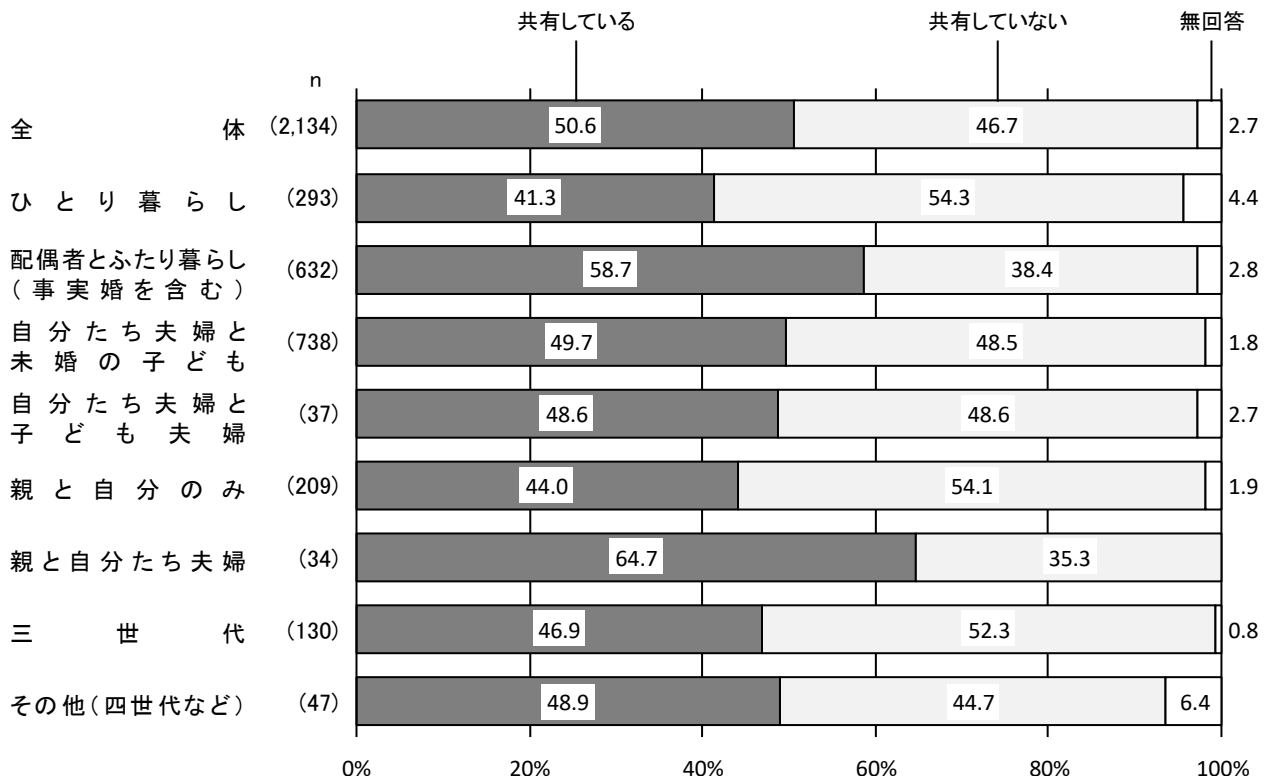
居住地域別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図 33-3)

図 33-4 “災害時の安否確認の方法”を共有しているか - 職業別



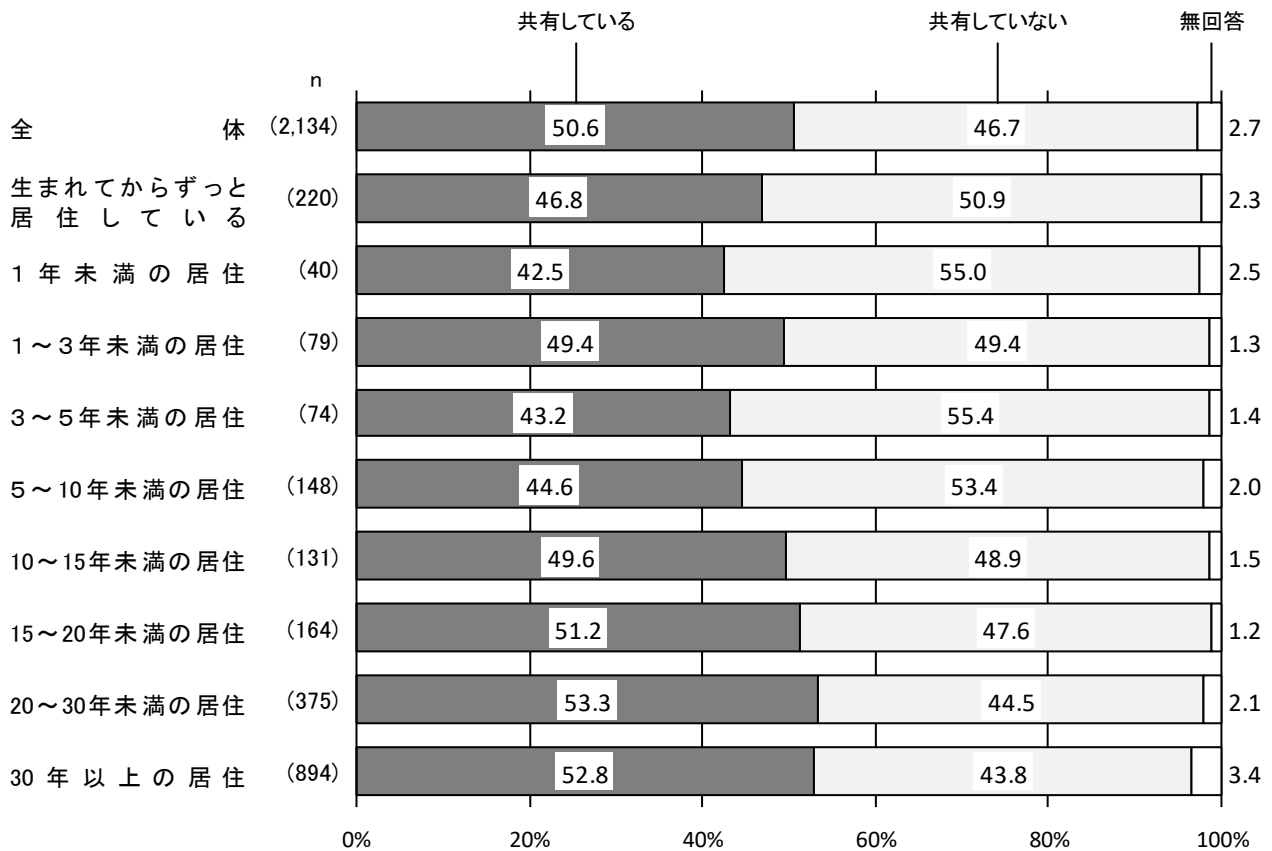
職業別にみると、「共有している」は、(専業)主婦・主夫(57.1%)が6割近くと高くなっている。「共有していない」は、教員・公務員(52.6%)、会社・商店・サービス業などの勤め人(52.0%)がそれぞれ5割強と高くなっている。(図 33-4)

図 33-5 “災害時の安否確認の方法”を共有しているか - 世帯構成別



世帯構成別にみると、「共有している」は、親と自分たち夫婦（64.7%）が6割台半ば、配偶者とふたり暮らし（事実婚を含む）（58.7%）が6割近くと高くなっている。「共有していない」は、ひとり暮らし（54.3%）、親と自分のみ（54.1%）がそれぞれ5割台半ば、三世代（52.3%）が5割強と高くなっている。（図 33-5）

図 33-6 “災害時の安否確認の方法”を共有しているか - 居住年数別

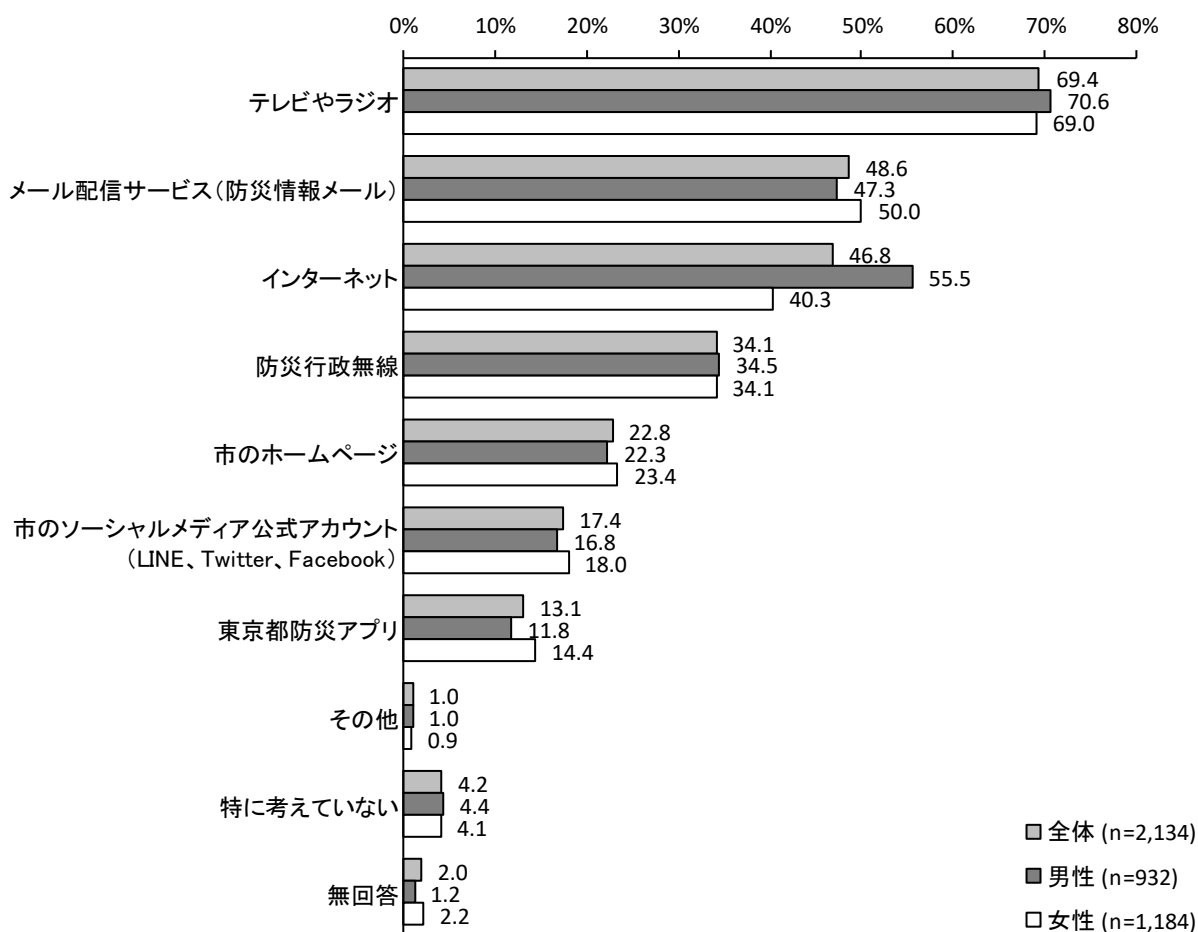


居住年数別にみると、「共有していない」は、3～5年未満の居住（55.4%）、1年未満の居住（55.0%）がそれぞれ5割台半ば、5～10年未満の居住（53.4%）が5割強と高くなっている。（図 33-6）

(34) 災害時の災害情報入手方法

問 29 あなたの家庭では、災害時にどのような方法で災害情報を入手する考えですか。(〇はいくつでも)

図 34-1 災害時の災害情報入手方法 — 全体、性別

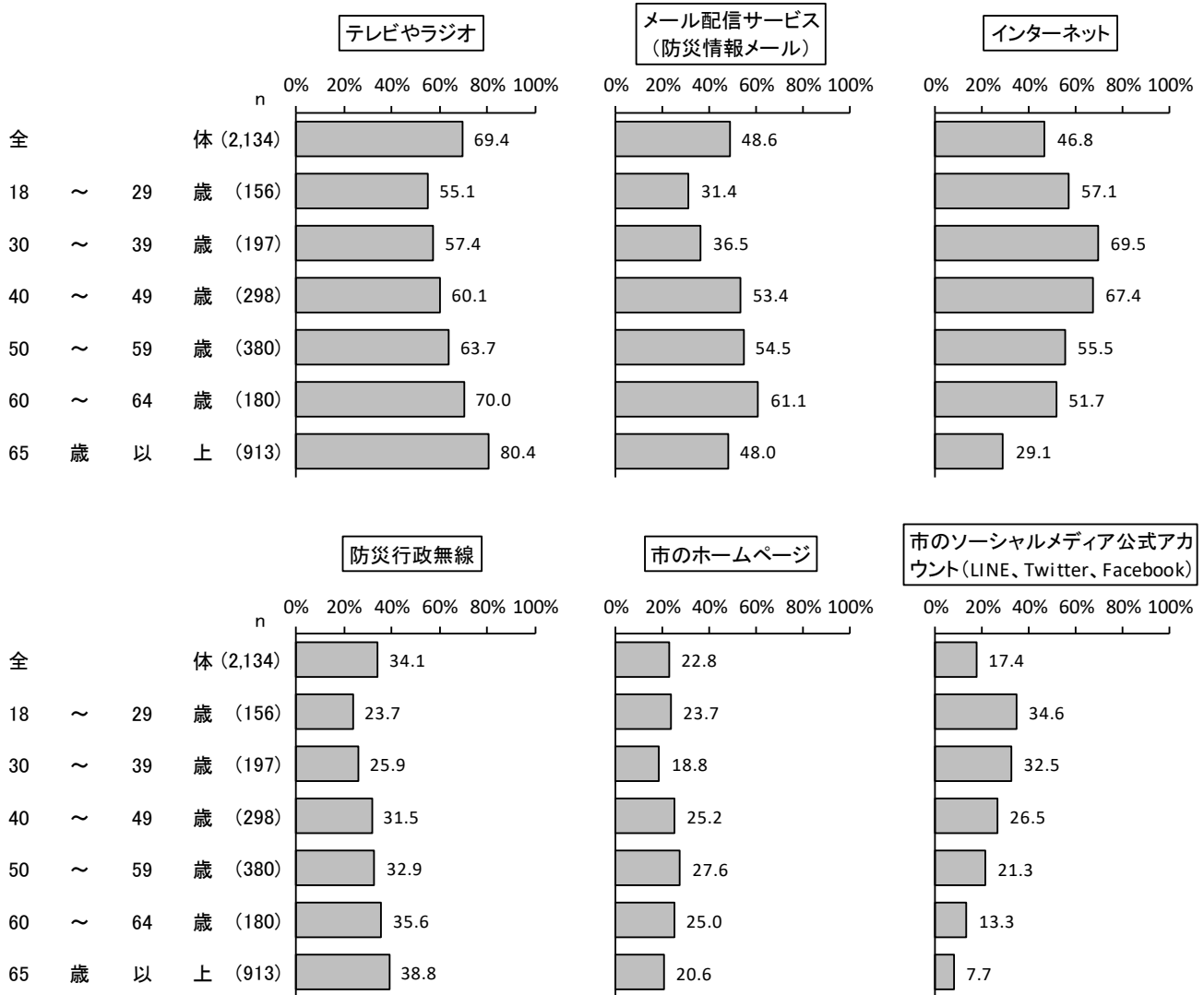


災害時にどのような方法で災害情報を入手するかについて聞いたところ、「テレビやラジオ」(69.4%)が7割弱と最も高くなっている。次いで、「メール配信サービス(防災情報メール)」(48.6%)、「インターネット」(46.8%)、「防災行政無線」(34.1%)などの順となっている。

性別にみると、「インターネット」は、男性(55.5%)が女性(40.3%)より15.2ポイント高くなっている。

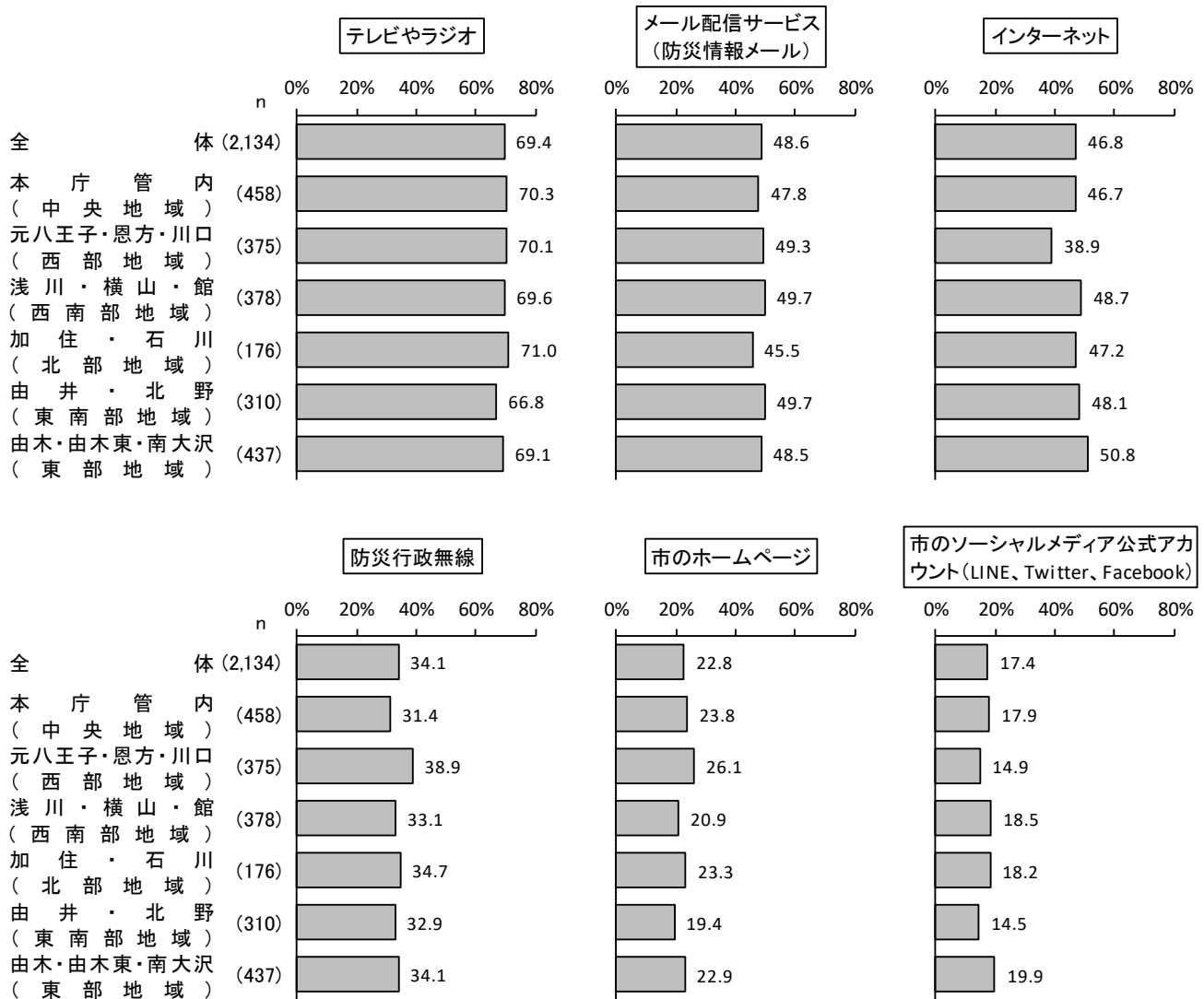
(図 34-1)

図 34-2 災害時の災害情報入手方法 - 年齢別（上位6位）



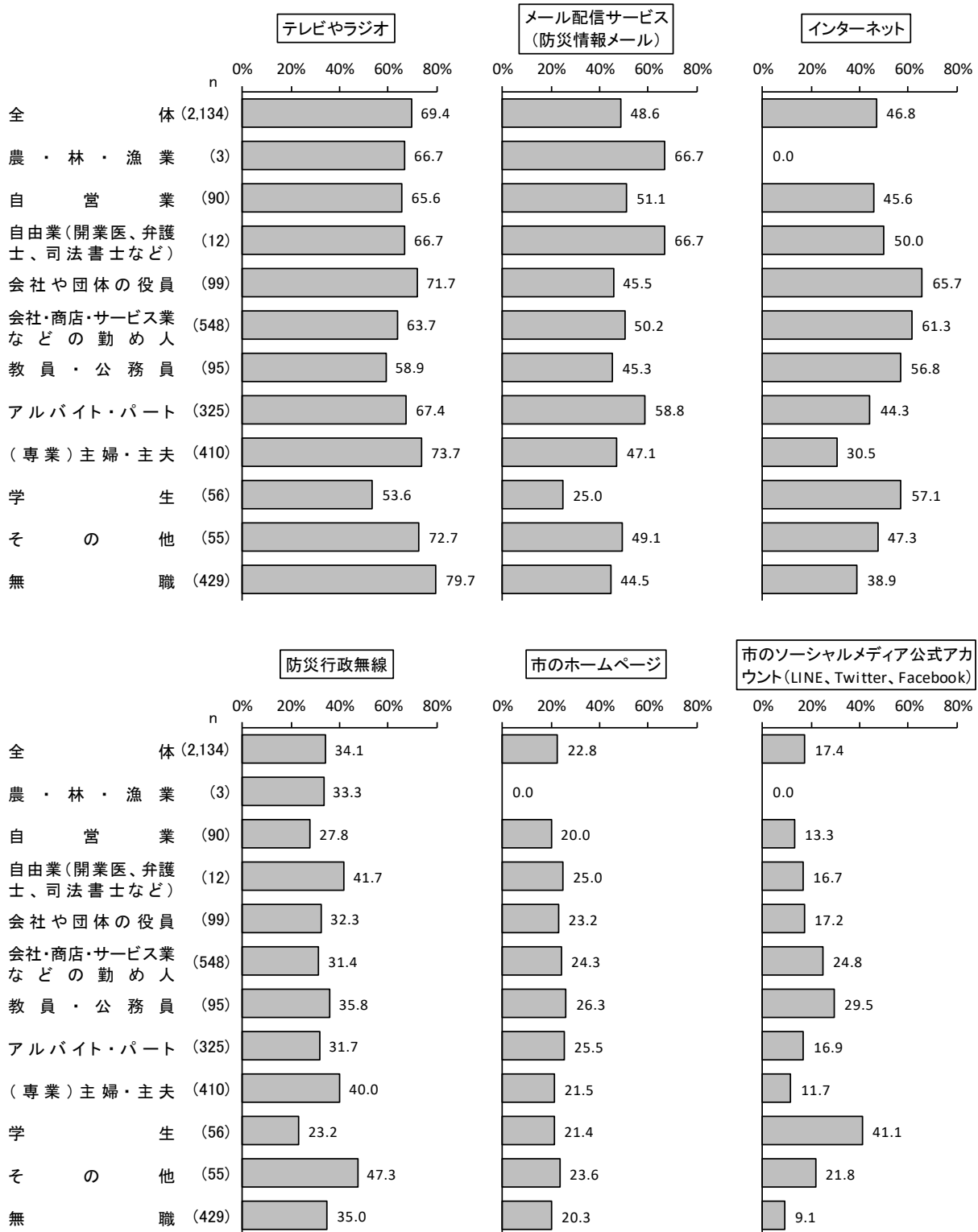
年齢別にみると、「テレビやラジオ」は、65歳以上（80.4%）が約8割と高くなっている。「メール配信サービス」は、60～64歳（61.1%）が6割強、50～59歳（54.5%）が5割台半ばと高くなっている。「インターネット」は、30～39歳（69.5%）が7割弱、40～49歳（67.4%）が7割近く、18～29歳（57.1%）が6割近く、50～59歳（55.5%）が5割台半ばと高くなっている。「防災行政無線」は、18～29歳（23.7%）が3割弱と低くなっている。「市のソーシャルメディア公式アカウント」は、18～29歳（34.6%）が3割台半ば、30～39歳（32.5%）が3割強、40～49歳（26.5%）が3割近くと高くなっている。（図 34-2）

図 34-3 災害時の災害情報入手方法 - 居住地域別 (上位6位)



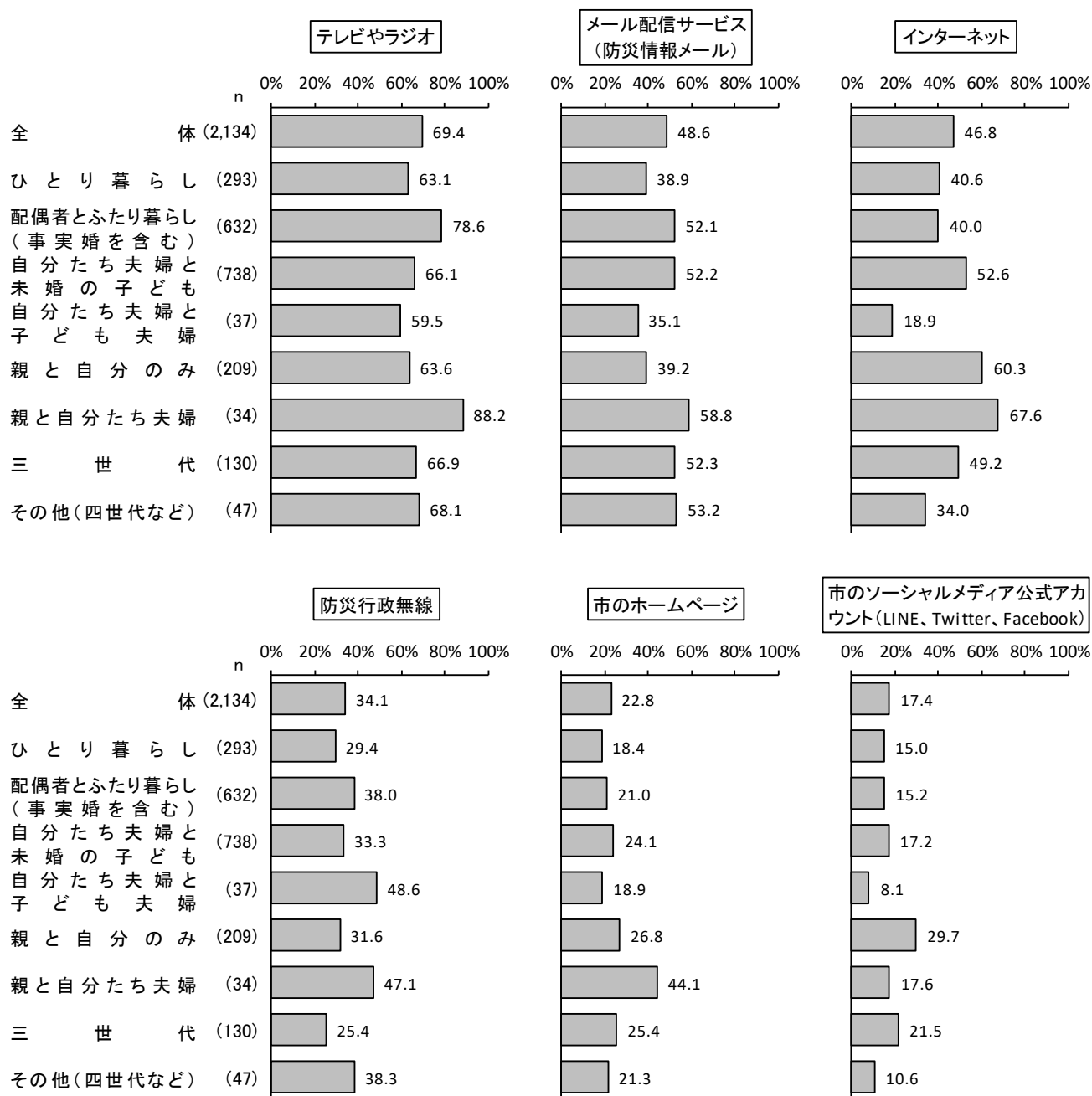
居住地域別にみると、「インターネット」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（38.9%）が4割近くと低くなっている。（図 34-3）

図 34-4 災害時の災害情報入手方法 - 職業別（上位6位）



職業別にみると、「テレビやラジオ」は、無職 (79.7%) が8割弱と高くなっている。「メール配信サービス」は、アルバイト・パート (58.8%) が6割近くと高くなっている。「インターネット」は、会社や団体の役員 (65.7%) が6割台半ば、会社・商店・サービス業などの勤め人 (61.3%) が6割強、学生 (57.1%)、教員・公務員 (56.8%) がそれぞれ6割近くと高くなっている。「防災行政無線」は、その他 (47.3%) が5割近く、(専業)主婦・主夫 (40.0%) が4割と高くなっている。「市のソーシャルメディア公式アカウント」は、学生 (41.1%) が4割強、教員・公務員 (29.5%) が3割弱、会社・商店・サービス業などの勤め人 (24.8%) が2割台半ばと高くなっている。(図 34-4)

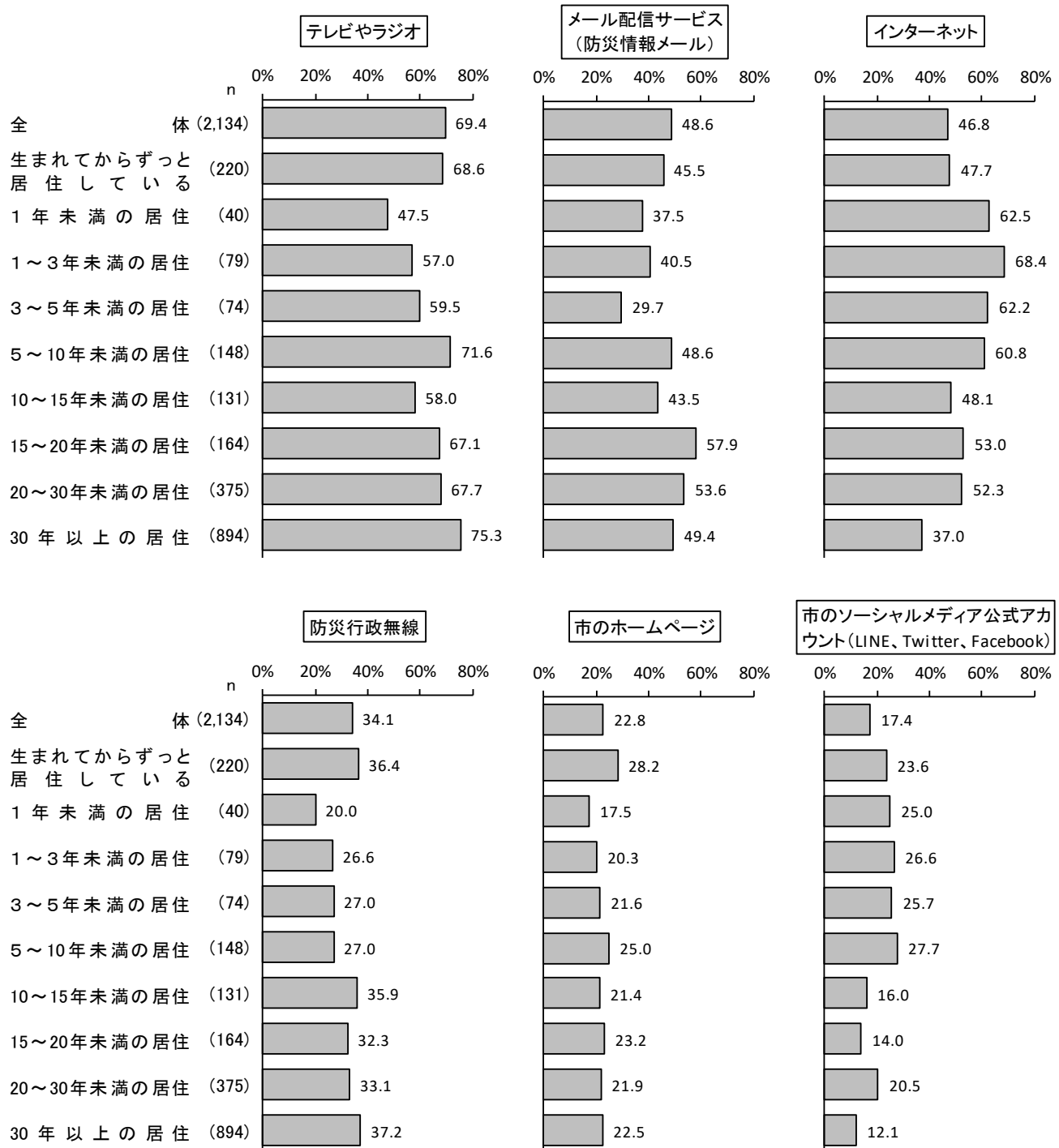
図 34-5 災害時の災害情報入手方法 - 世帯構成別 (上位6位)



世帯構成別にみると、「テレビやラジオ」は、親と自分たち夫婦 (88.2%) が9割近く、配偶者とふたり暮らし (事実婚を含む) (78.6%) が8割近くと高くなっている。「メール配信サービス」は、親と自分たち夫婦 (58.8%) が6割近くと高くなっている。「インターネット」は、親と自分たち夫婦 (67.6%) が7割近く、親と自分のみ (60.3%) が約6割、自分たち夫婦と未婚の子ども (52.6%) が5割強と高くなっている。「防災行政無線」は、自分たち夫婦と子ども夫婦 (48.6%)、親と自分たち夫婦 (47.1%) がそれぞれ5割近くと高くなっている。「市のホームページ」は、親と自分たち夫婦 (44.1%) が4割台半ばと高くなっている。「市のソーシャルメディア公式アカウント」は、親と自分のみ (29.7%) が3割弱と高くなっている。

(図 34-5)

図 34-6 災害時の災害情報入手方法 - 居住年数別 (上位 6 位)

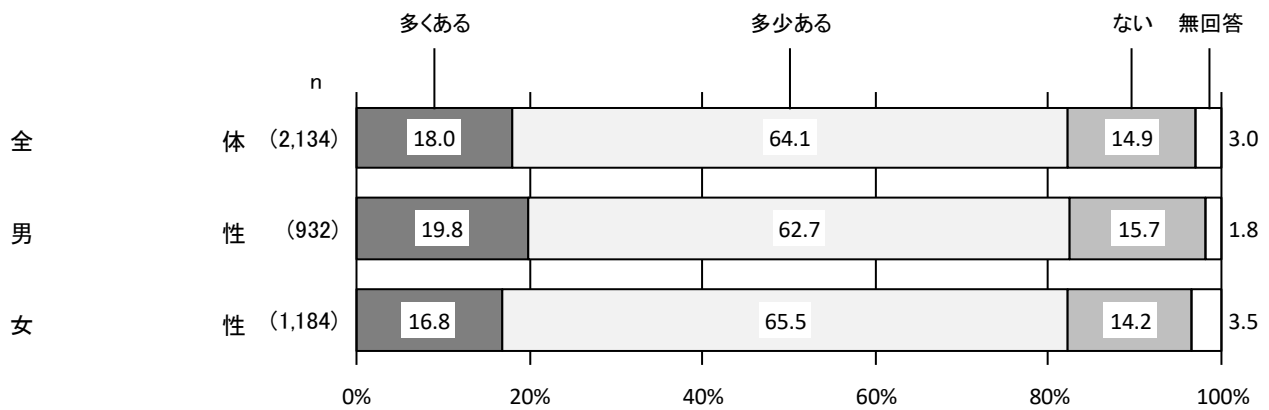


居住年数別にみると、「テレビやラジオ」は、30年以上の居住（75.3%）が7割台半ばと高くなっている。「メール配信サービス」は、15~20年未満の居住（57.9%）が6割近くと高くなっている。「インターネット」は、1~3年未満の居住（68.4%）が7割近く、1年未満の居住（62.5%）、3~5年未満の居住（62.2%）がそれぞれ6割強、5~10年未満の居住（60.8%）が約6割と高くなっている。「防災行政無線」は、1年未満の居住（20.0%）が2割と低くなっている。「市のホームページ」は、生まれてからずっと居住している（28.2%）が3割近くと高くなっている。「市のソーシャルメディア公式アカウント」は、5~10年未満の居住（27.7%）、1~3年未満の居住（26.6%）がそれぞれ3割近く、3~5年未満の居住（25.7%）、1年未満の居住（25.0%）がそれぞれ2割台半ば、生まれてからずっと居住している（23.6%）が2割強と高くなっている。（図 34-6）

(35) 「居心地が良い場所」「訪れて楽しい場所」の有無

問 30 あなたは、八王子市に「居心地が良い場所」や「訪れて楽しい場所」がありますか。(○は1つだけ)

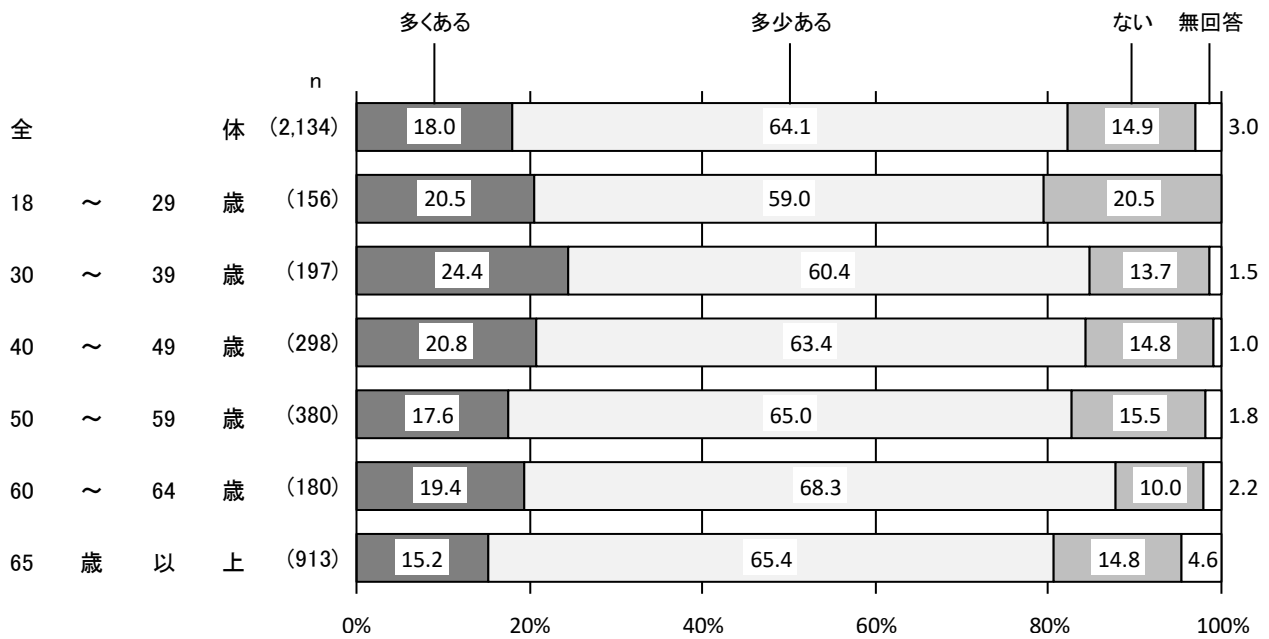
図 35-1 「居心地が良い場所」「訪れて楽しい場所」の有無 - 全体、性別



八王子市に「居心地が良い場所」や「訪れて楽しい場所」があるかを聞いたところ、「多くある」(18.0%)は、2割近くとなっている。一方、「多少ある」(64.1%)は6割台半ば、「ない」(14.9%)は、1割台半ばとなっている。

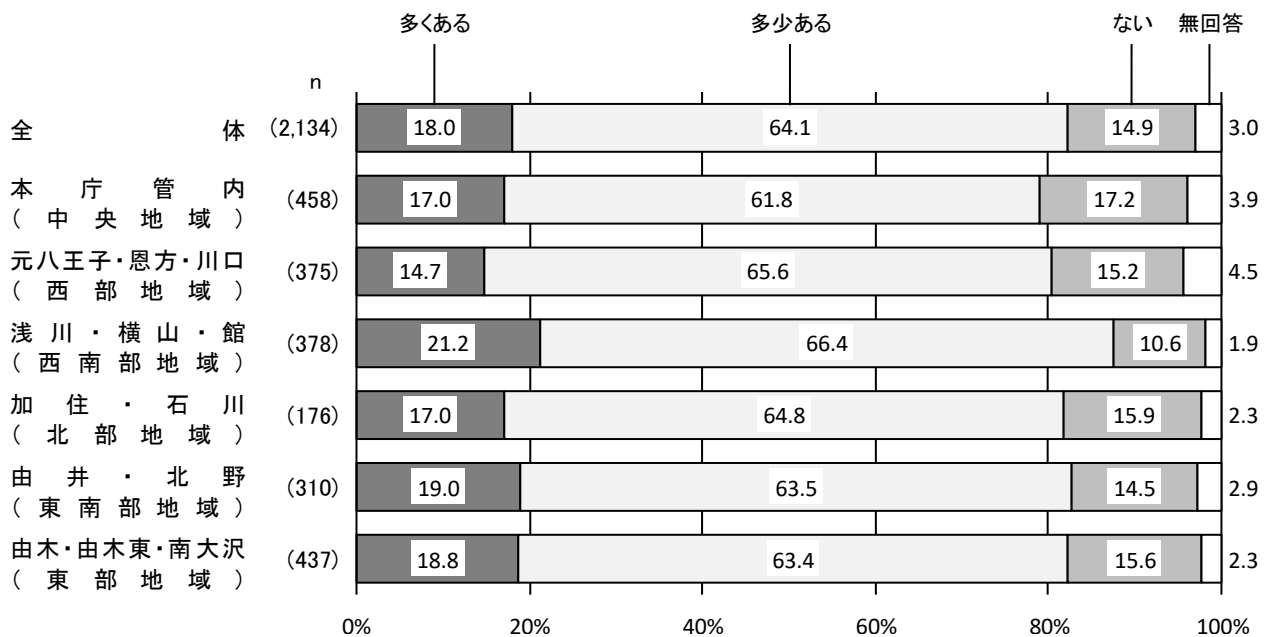
性別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図 35-1)

図 35-2 「居心地が良い場所」「訪れて楽しい場所」の有無 - 年齢別



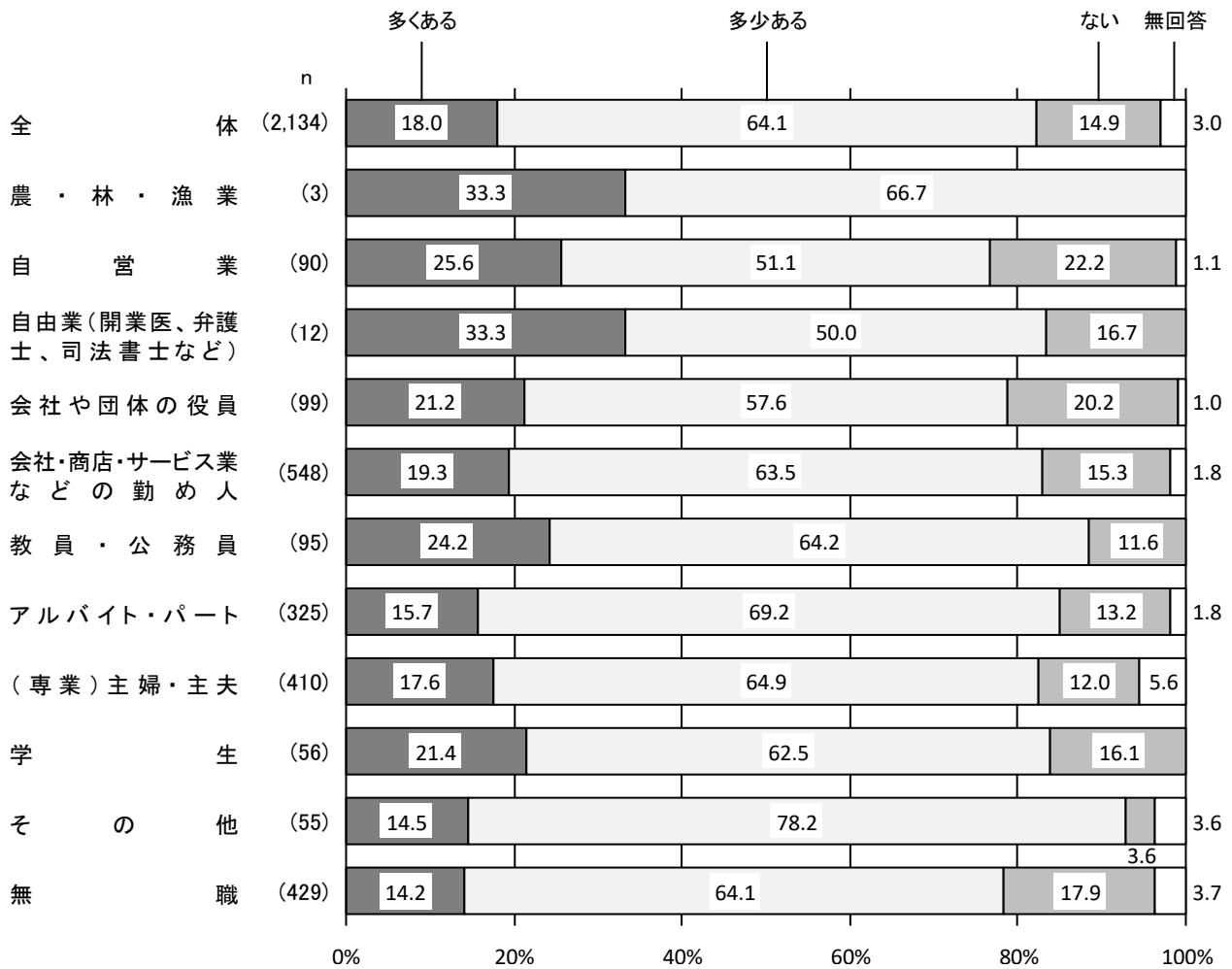
年齢別にみると、「多くある」は、30~39 歳 (24.4%) が 2 割台半ばと高くなっている。「ない」は、18~29 歳 (20.5%) が約 2 割と高くなっている。(図 35-2)

図 35-3 「居心地が良い場所」「訪れて楽しい場所」の有無 - 居住地域別



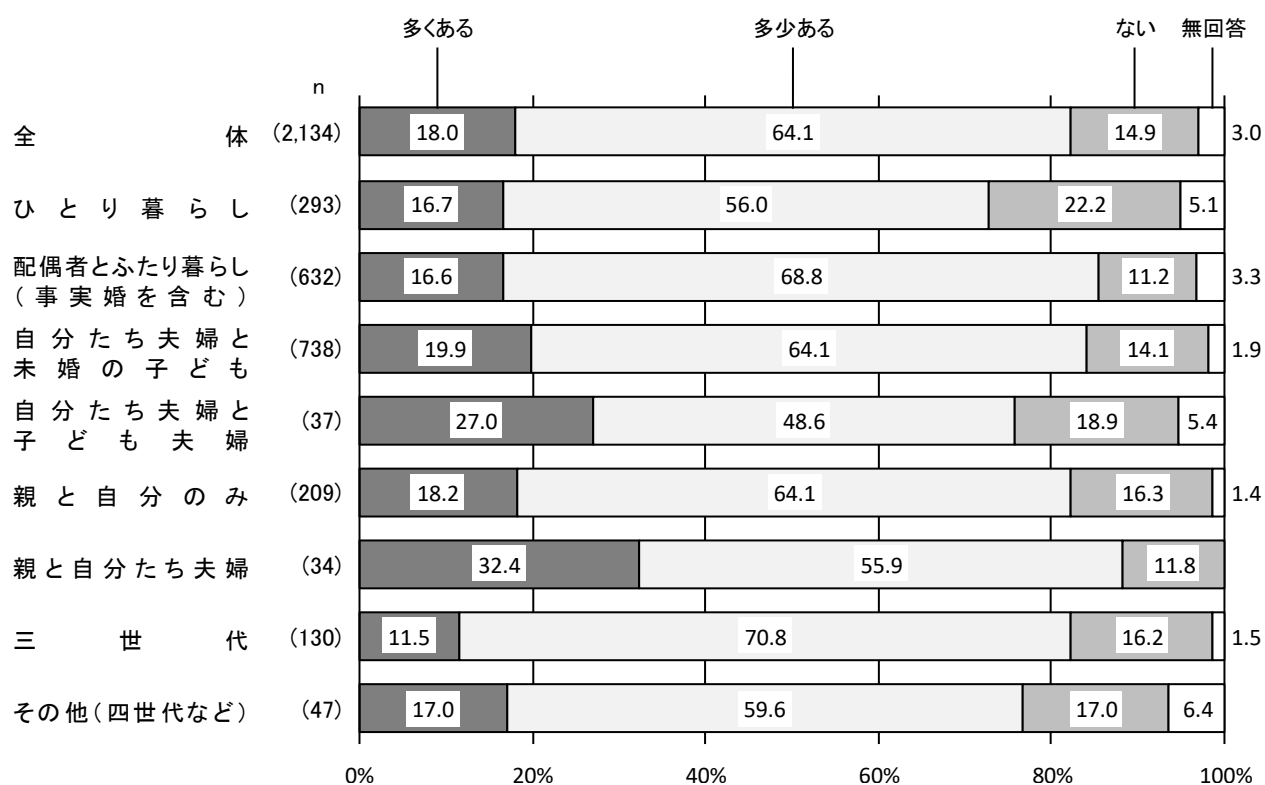
居住地域別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図 35-3)

図 35-4 「居心地が良い場所」「訪れて楽しい場所」の有無 - 職業別



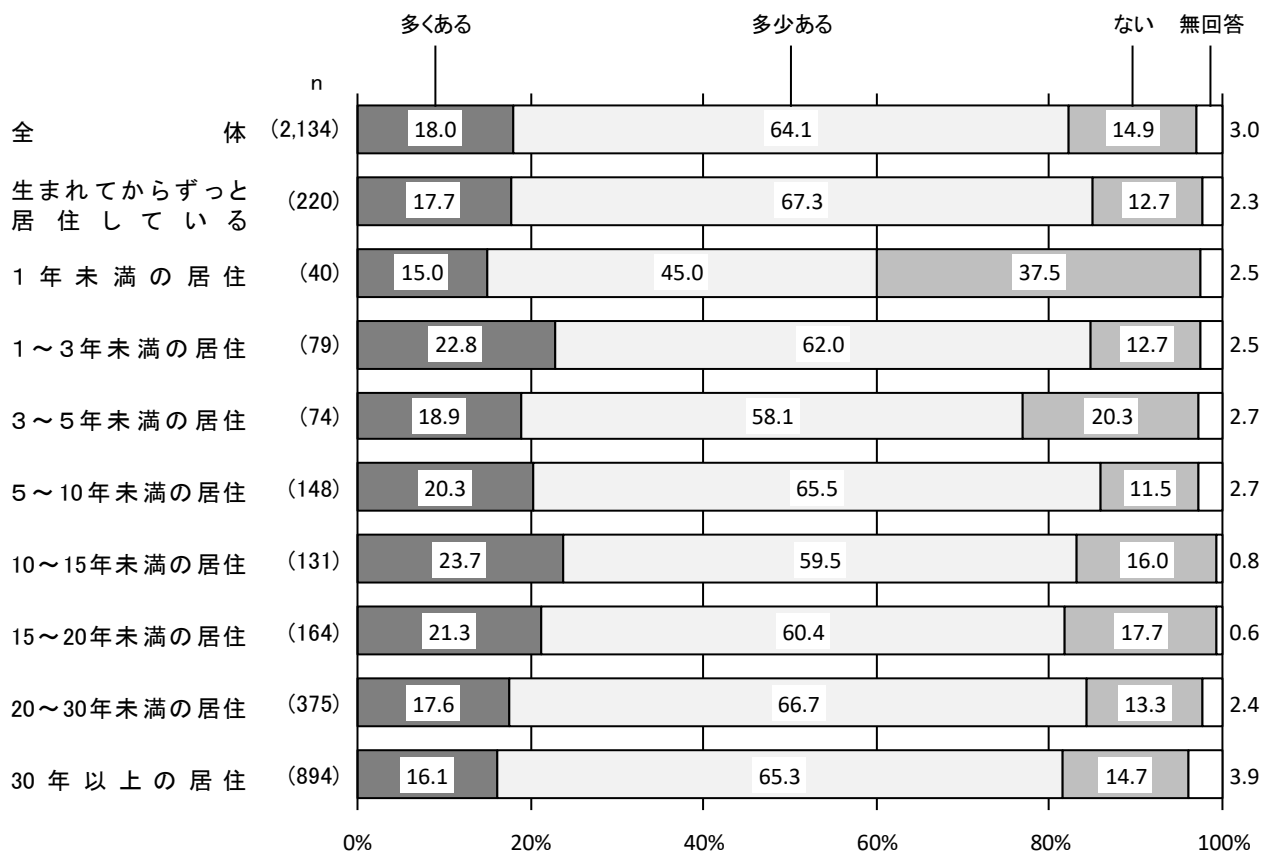
職業別にみると、「多くある」は、自営業 (25.6%)、教員・公務員 (24.2%) がそれぞれ2割台半ばと高くなっている。「多少ある」は、その他 (78.2%) が8割近く、アルバイト・パート (69.2%) が7割弱と高くなっている。「ない」は、自営業 (22.2%) が2割強、会社や団体の役員 (20.2%) が約2割と高くなっている。(図 35-4)

図 35-5 「居心地が良い場所」「訪れて楽しい場所」の有無 - 世帯構成別



世帯構成別にみると、「多くある」は、親と自分たち夫婦 (32.4%) が3割強、自分たち夫婦と子ども夫婦 (27.0%) が3割近くと高くなっている。「多少ある」は、三世代 (70.8%) が約7割と高くなっている。「ない」は、ひとり暮らし (22.2%) が2割強と高くなっている。(図 35-5)

図 35-6 「居心地が良い場所」「訪れて楽しい場所」の有無 - 居住年数別



居住年数別にみると、「多くある」は、10～15年未満の居住（23.7%）が2割強と高くなっている。「ない」は、1年未満の居住（37.5%）が4割近く、3～5年未満の居住（20.3%）が約2割と高くなっている。

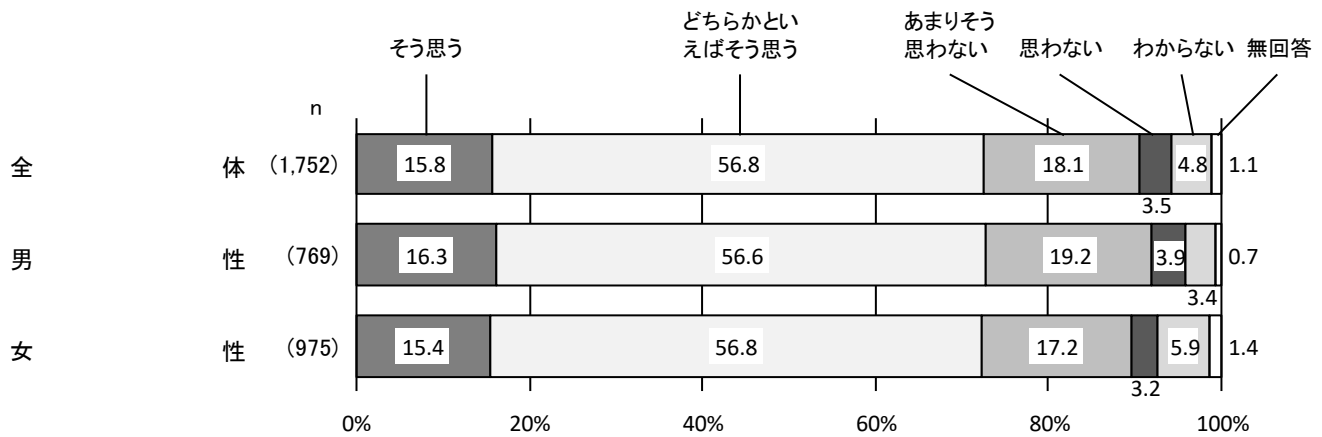
(図 35-6)

(36) 「歩きたくなるまち」になっていると思うか

(問 30 で、「1 多くある」または「2 多少ある」とお答えの方へ)

問 30-1 あなたは、八王子市が「歩きたくなるまち」になっていると思いますか。(○は1つだけ)

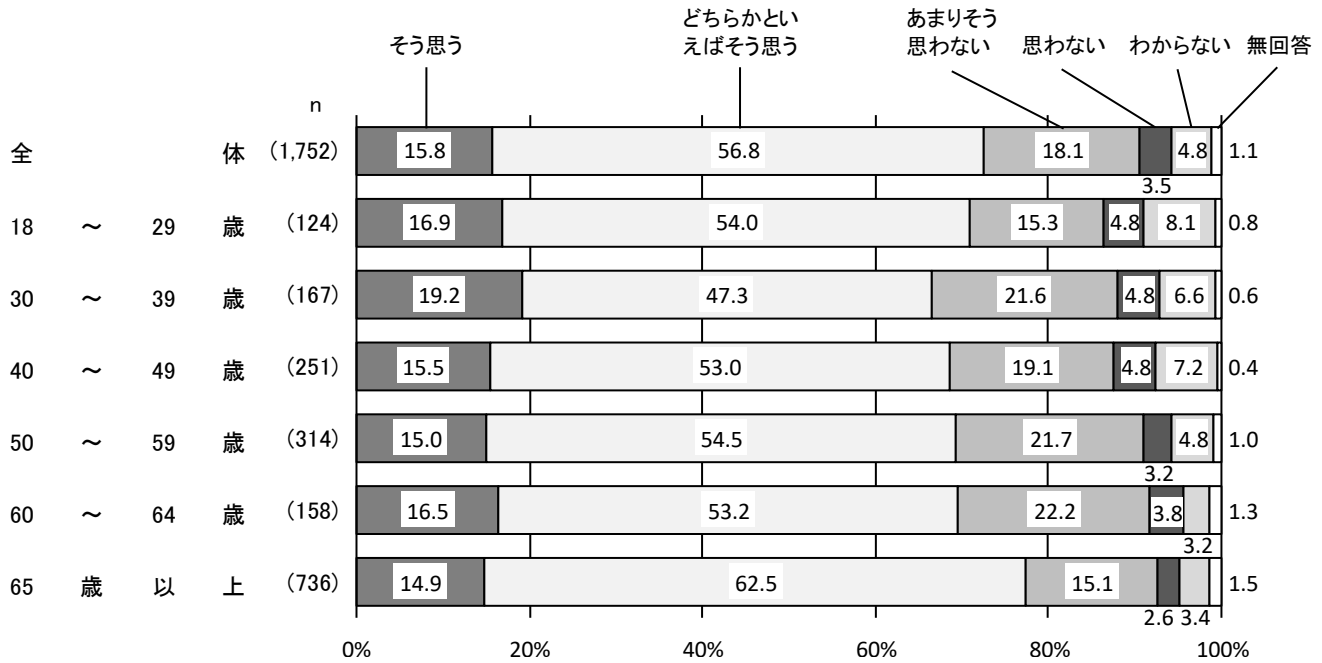
図 36-1 「歩きたくなるまち」になっていると思うか - 全体、性別



「歩きたくなるまち」になっていると思うかを聞いたところ、「そう思う」(15.8%)と「どちらかといえばそう思う」(56.8%)を合わせた《思う》(72.6%)は、7割強となっている。一方、「あまりそう思わない」(18.1%)と「思わない」(3.5%)を合わせた《思わない》(21.6%)は、2割強となっている。

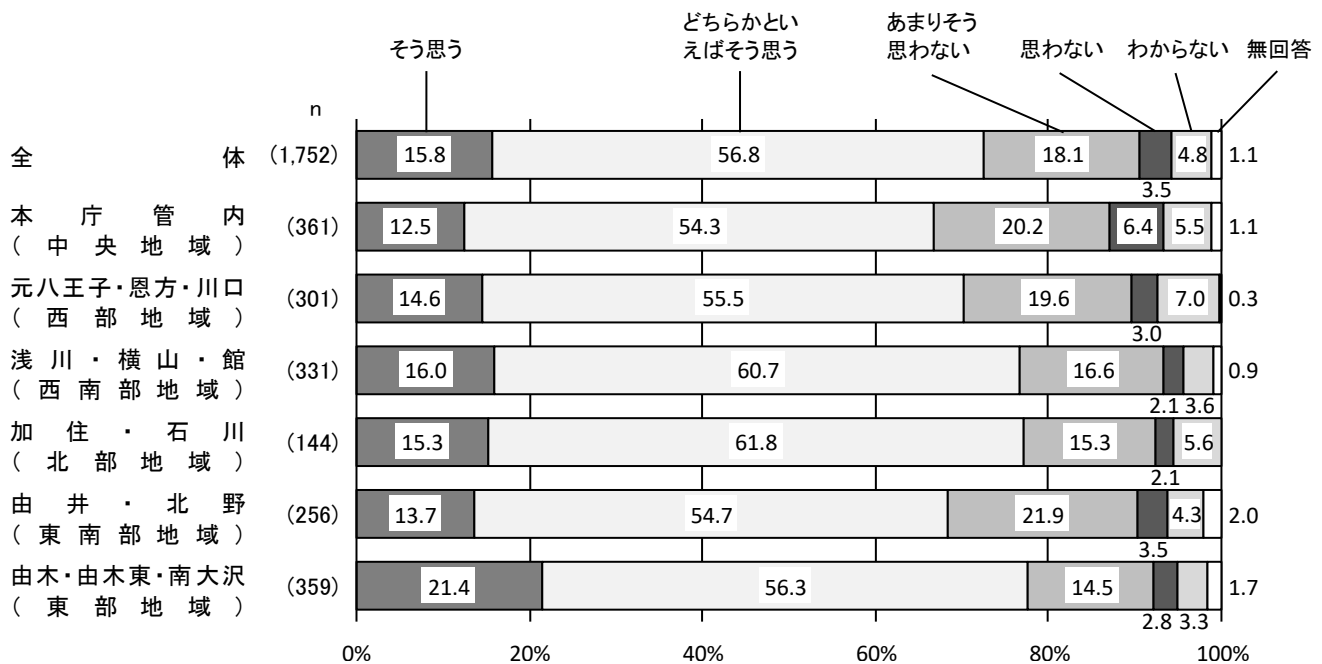
性別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図 36-1)

図 36-2 「歩きたくなるまち」になっていると思うか - 年齢別



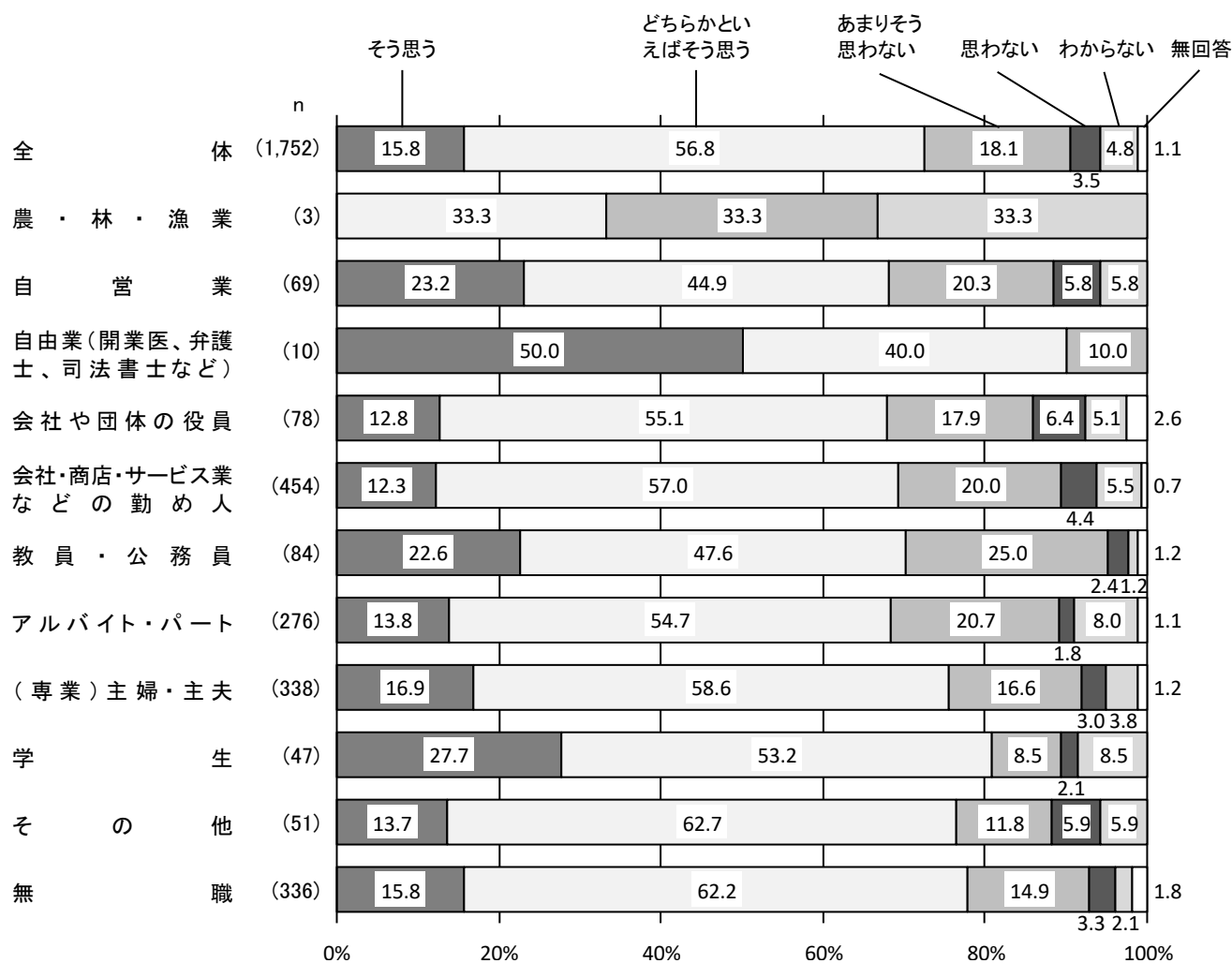
年齢別にみると、《思う》は、65 歳以上 (77.4%) が 8 割近くと高くなっている。《思わない》は、30～39 歳 (26.4%) が 3 割近くと高くなっている。(図 36-2)

図 36-3 「歩きたくなるまち」になっていると思うか - 居住地域別



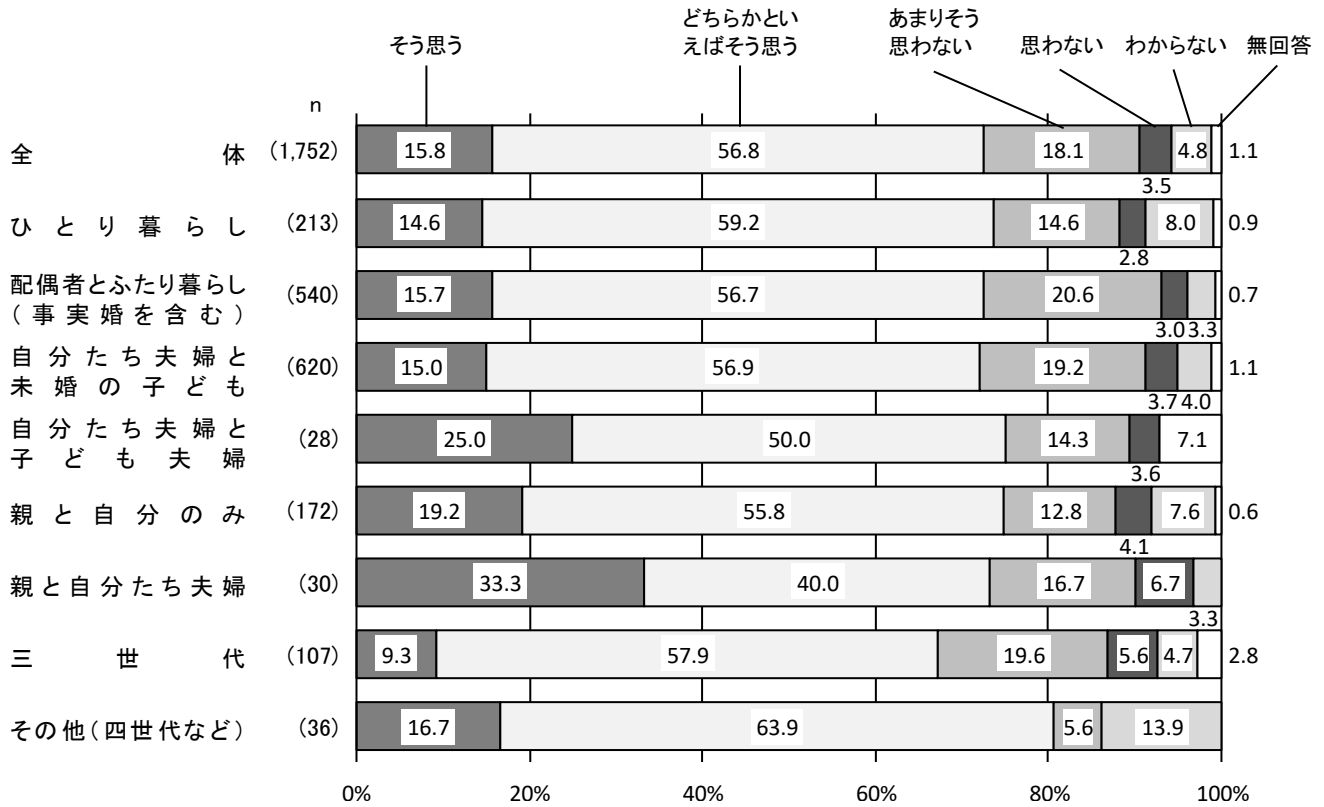
居住地域別にみると、《思う》は、由木・由木東・南大沢 (東部地域) (77.7%) が 8 割近くと高くなっている。(図 36-3)

図 36-4 「歩きたくなるまち」になっていると思うか - 職業別



職業別にみると、「思う」は、学生 (80.9%) が約 8 割、無職 (78.0%) が 8 割近くと高くなっている。「思わない」は、教員・公務員 (27.4%) が 3 割近くと高くなっている。(図 36-4)

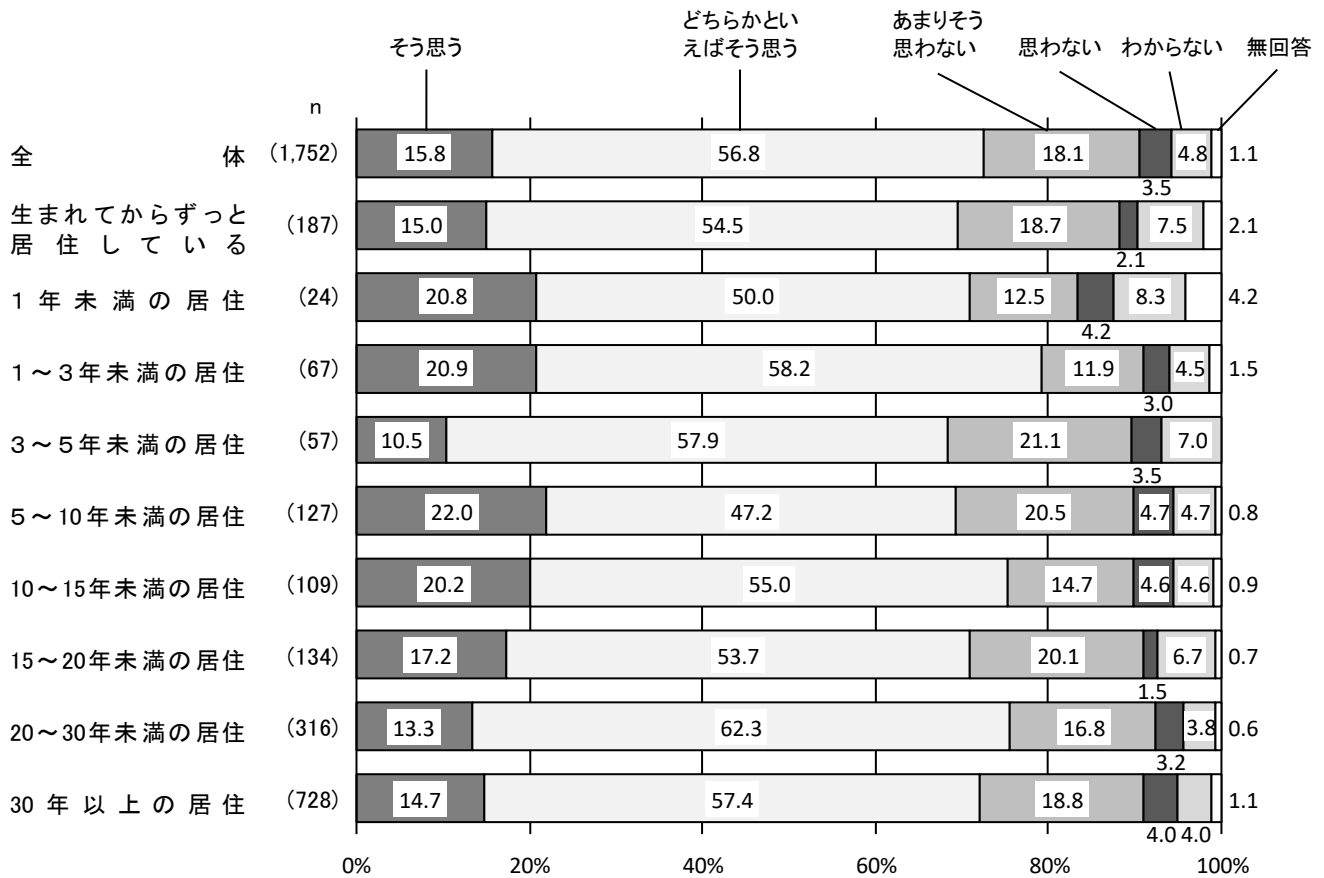
図 36-5 「歩きたくなるまち」になっていると思うか - 世帯構成別



世帯構成別にみると、「思う」は、その他（四世代など）（80.6%）が約8割と高くなっている。

(図 36-5)

図 36-6 「歩きたくなるまち」になっていると思うか - 居住年数別

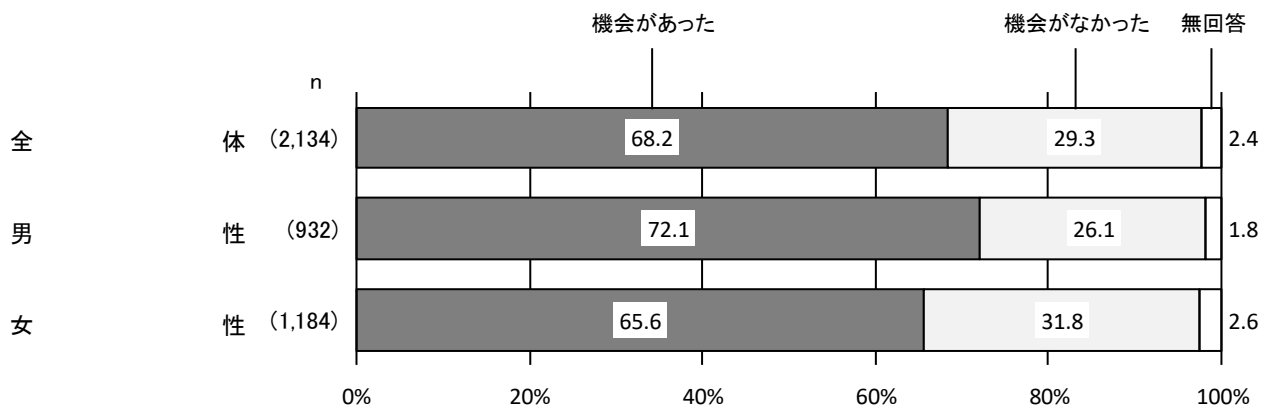


居住年数別にみると、「思う」は、1～3年未満の居住 (79.1%) が8割弱と高くなっている。(図 36-6)

(37) 自然と触れ合う機会の有無

問31 あなたは、この1年間に、自然と触れ合う機会がありましたか。(〇は1つだけ)

図37-1 自然と触れ合う機会の有無 - 全体、性別

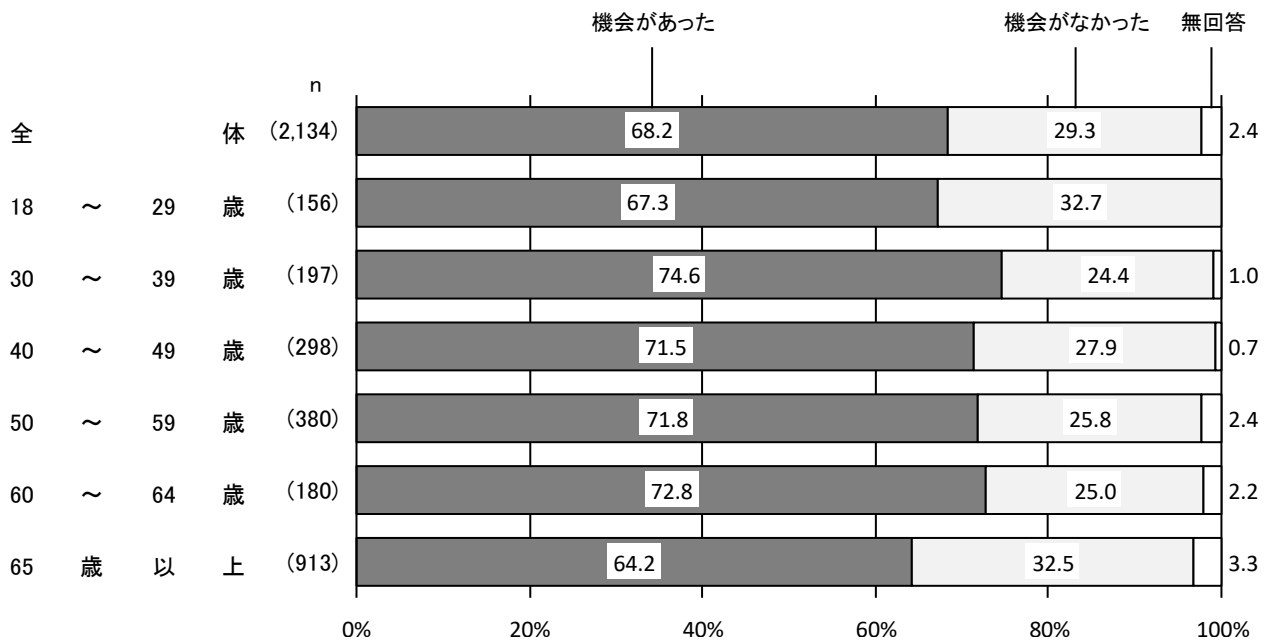


自然と触れ合う機会があるかを聞いたところ、「機会があった」(68.2%)は、7割近くとなっている。一方、「機会がなかった」(29.3%)は、3割弱となっている。

性別にみると、「機会があった」は、男性(72.1%)が女性(65.6%)より6.5ポイント高くなっている。

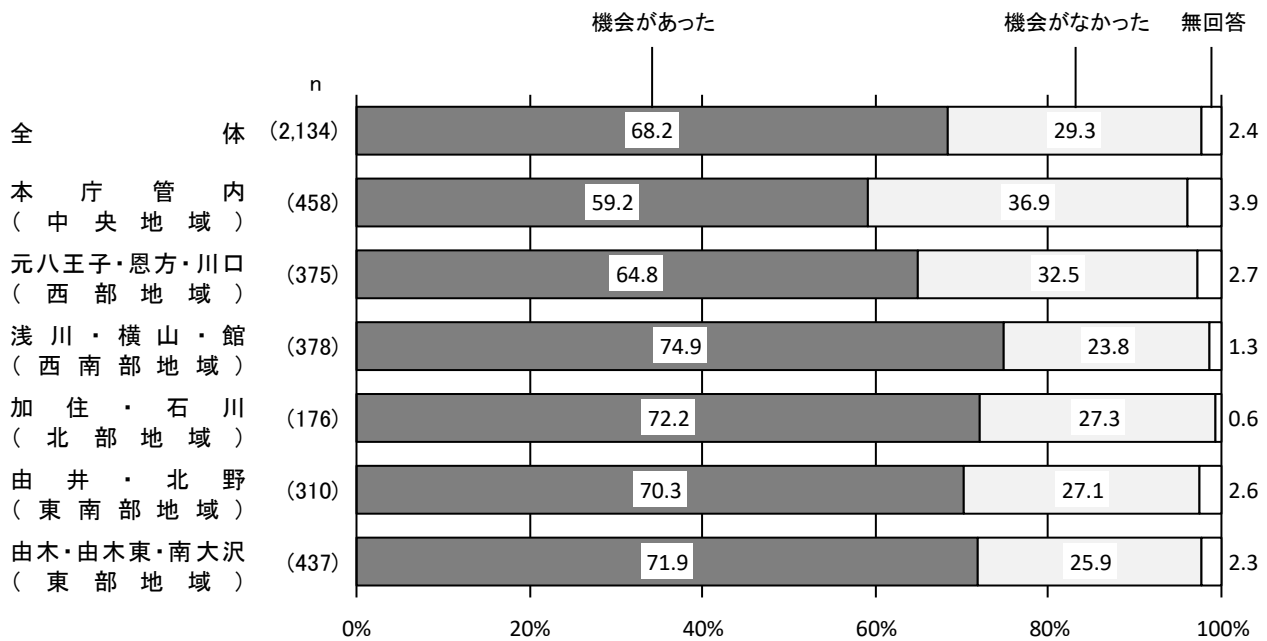
(図37-1)

図 37-2 自然と触れ合う機会の有無 - 年齢別



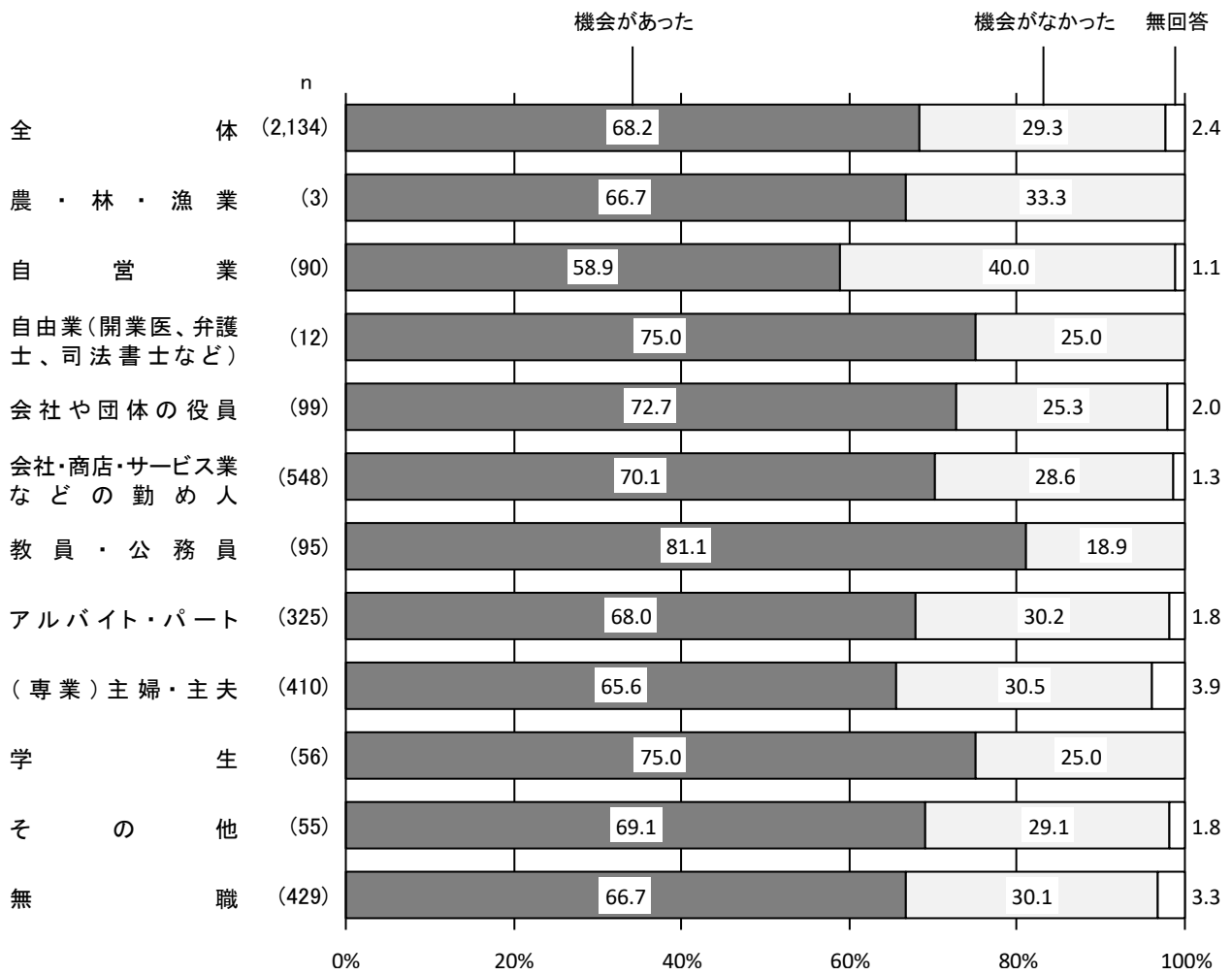
年齢別にみると、「機会があった」は、30～39歳（74.6%）が7割台半ばと高くなっている。（図 37-2）

図 37-3 自然と触れ合う機会の有無 - 居住地域別



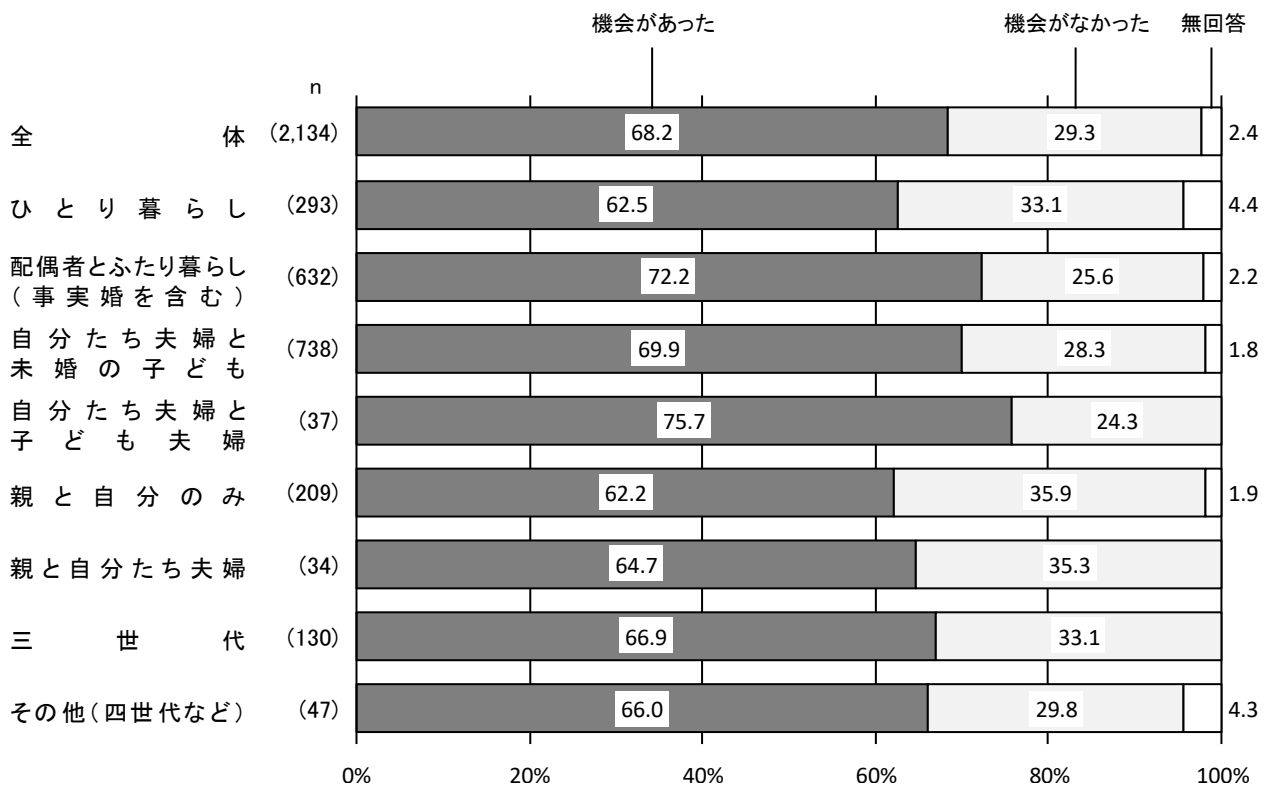
居住地域別にみると、「機会があった」は、浅川・横山・館（西南部地域）（74.9%）が7割台半ばと高くなっている。「機会がなかった」は、本庁管内（中央地域）（36.9%）が4割近くと高くなっている。（図 37-3）

図 37-4 自然と触れ合う機会の有無 - 職業別



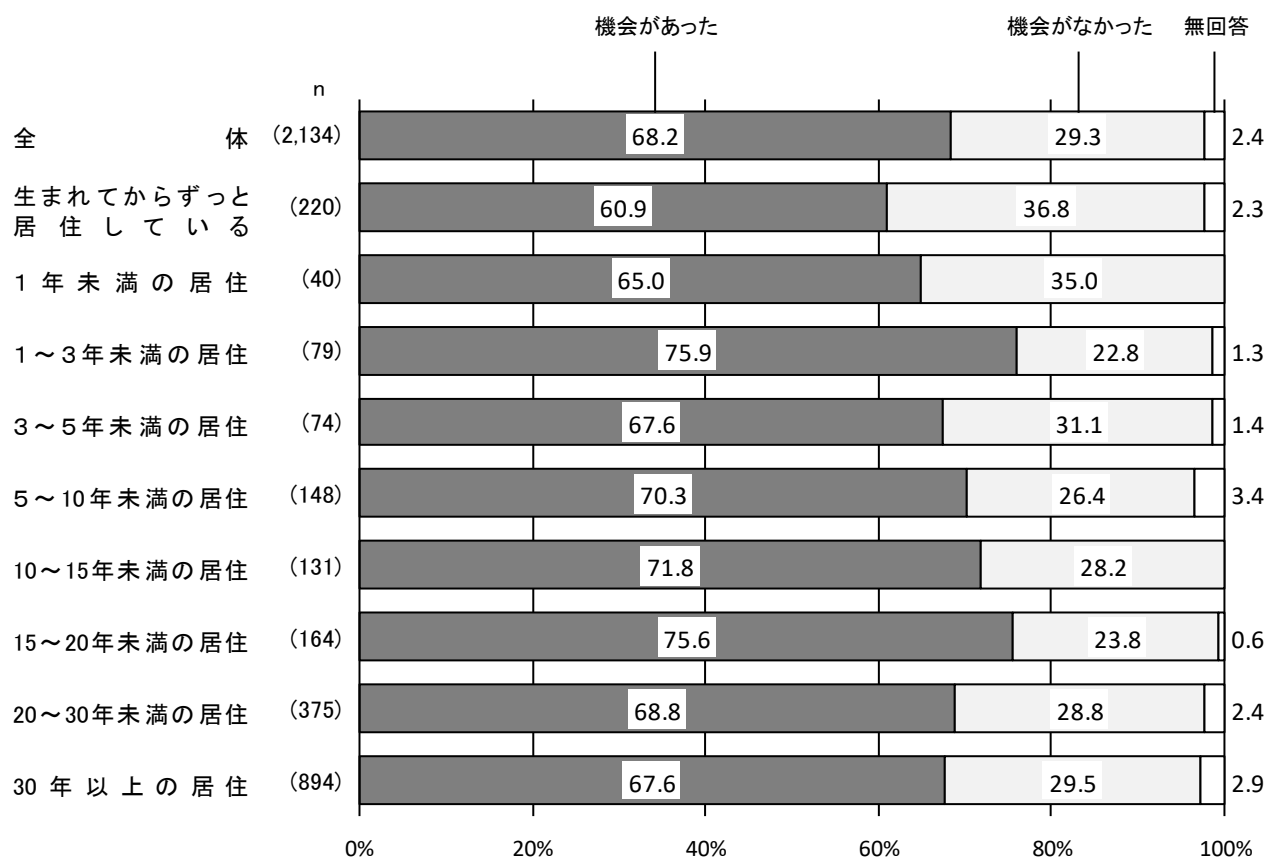
職業別にみると、「機会があった」は、教員・公務員 (81.1%) が8割強、学生 (75.0%) が7割台半ばと高くなっている。「機会がなかった」は、自営業 (40.0%) が4割と高くなっている。(図 37-4)

図 37-5 自然と触れ合う機会の有無 - 世帯構成別



世帯構成別にみると、「機会があった」は、自分たち夫婦と子ども夫婦（75.7%）が7割台半ばと高くなっている。「機会がなかった」は、親と自分のみ（35.9%）、親と自分たち夫婦（35.3%）がそれぞれ3割台半ばと高くなっている。（図 37-5）

図 37-6 自然と触れ合う機会の有無 - 居住年数別

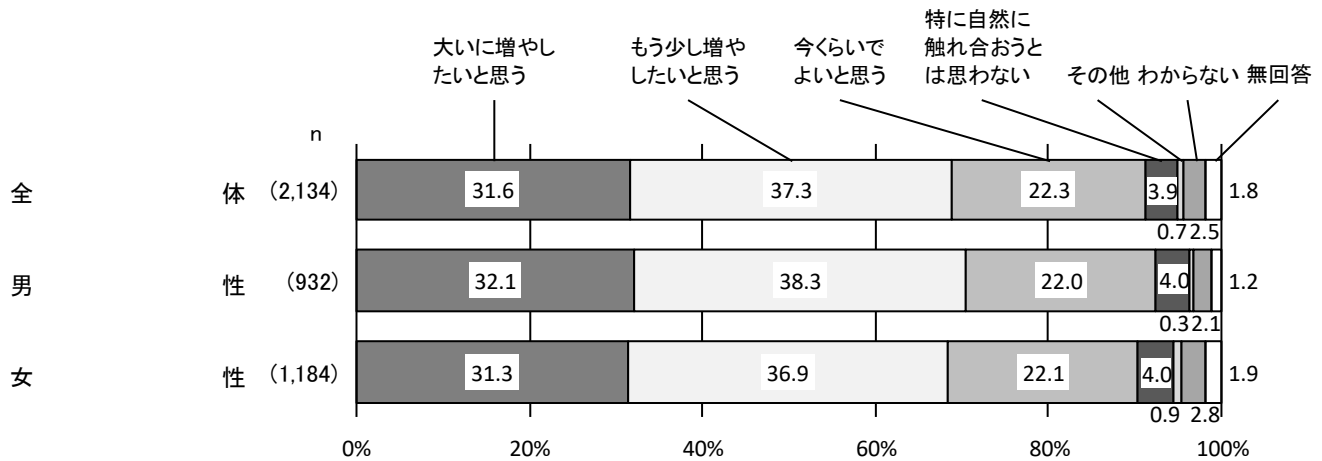


居住年数別にみると、「機会があった」は、1～3年未満の居住（75.9%）、15～20年未満の居住（75.6%）がそれぞれ7割台半ばと高くなっている。「機会がなかった」は、生まれてからずっと居住している（36.8%）が4割近く、1年未満の居住（35.0%）が3割台半ばと高くなっている。（図 37-6）

(38) 自然と触れ合う機会を増やしたいと思うか

問 32 あなたは、今よりももっと自然と触れ合う機会を増やしたいと思いますか。(○は1つだけ)

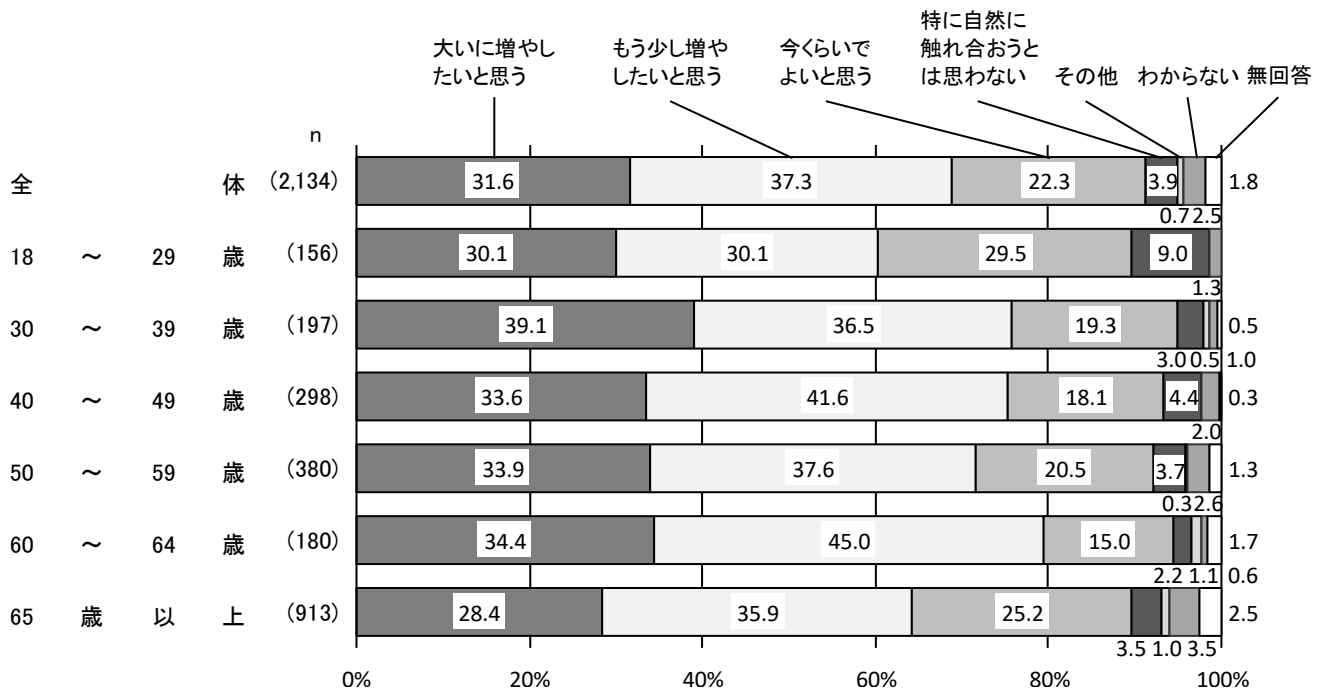
図 38-1 自然と触れ合う機会を増やしたいと思うか - 全体、性別



自然と触れ合う機会を増やしたいと思うかを聞いたところ、「大いに増やしたいと思う」(31.6%)は、3割強となっている。一方、「もう少し増やしたいと思う」(37.3%)は4割近く、「今くらいでよいと思う」(22.3%)は2割強、「特に自然に触れ合おうとは思わない」(3.9%)は1割未満となっている。

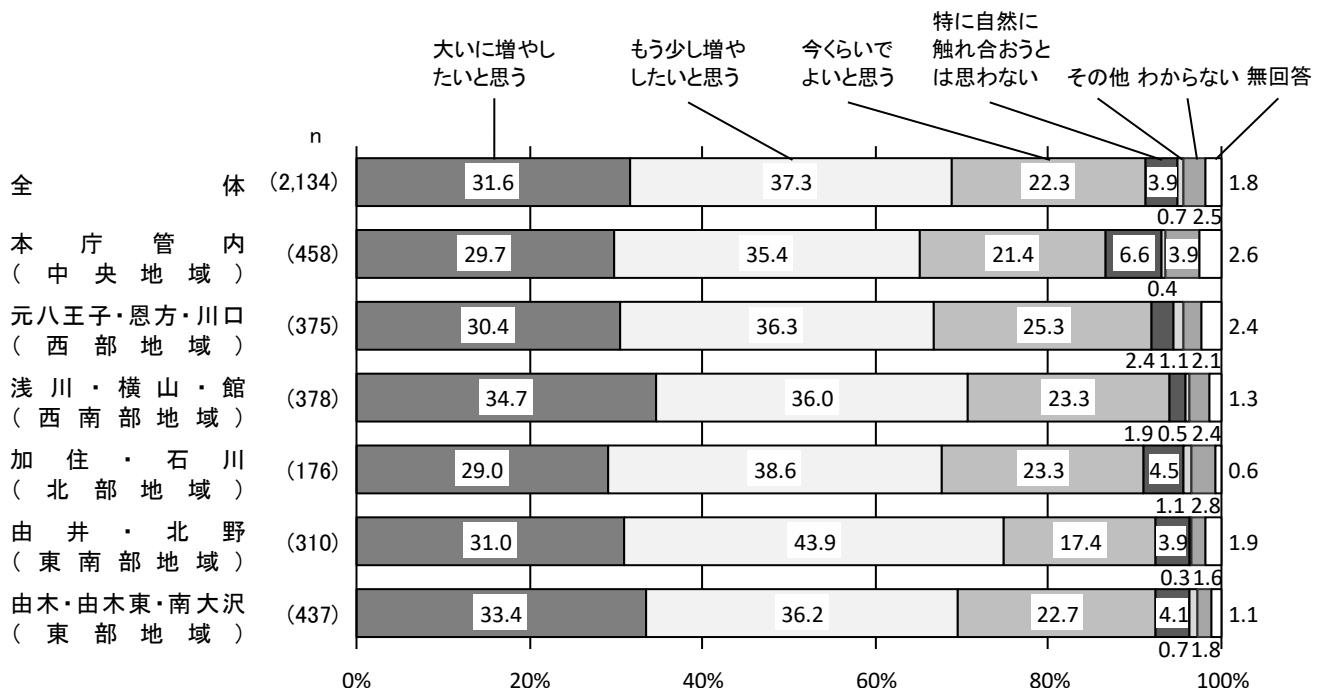
性別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図 38-1)

図 38-2 自然と触れ合う機会を増やしたいと思うか - 年齢別



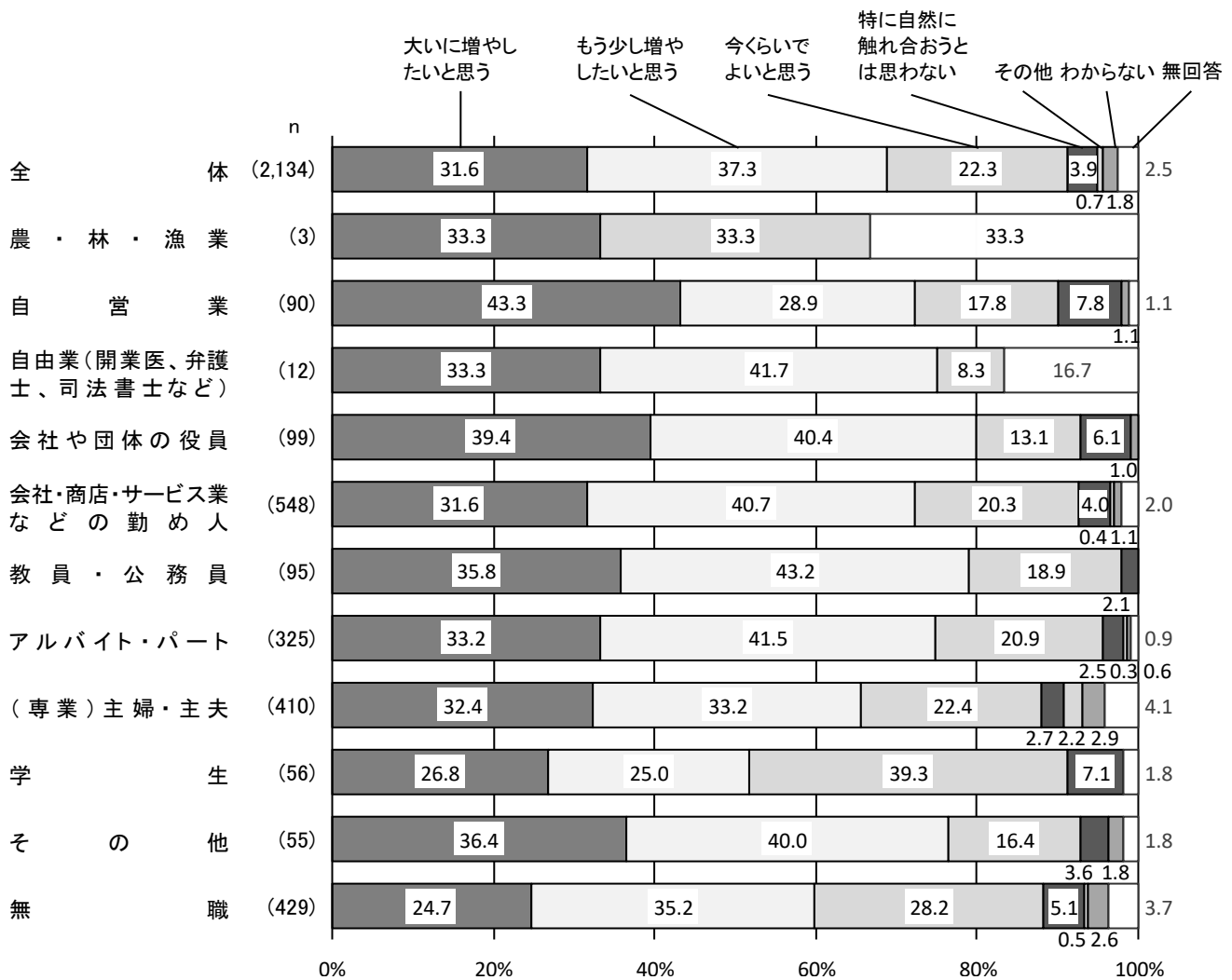
年齢別にみると、「大いに増やしたいと思う」は、30~39 歳 (39.1%) が 4 割弱と高くなっている。「もう少し増やしたいと思う」は、60~64 歳 (45.0%) が 4 割台半ばと高くなっている。「今くらいでよいと思う」は、18~29 歳 (29.5%) が 3 割弱と高くなっている。(図 38-2)

図 38-3 自然と触れ合う機会を増やしたいと思うか - 居住地域別



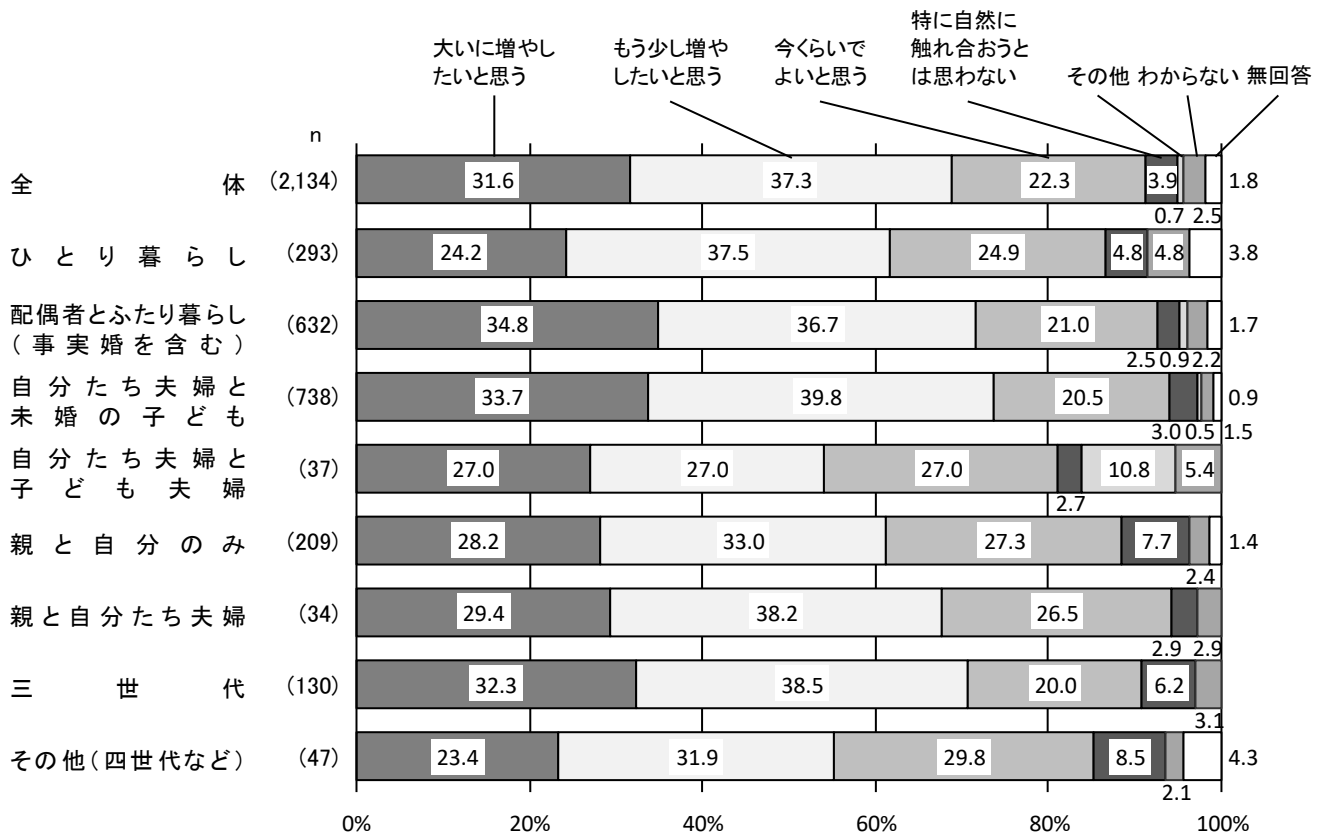
居住地域別にみると、「もう少し増やしたいと思う」は、由井・北野 (東南部地域) (43.9%) が 4 割強と高くなっている。(図 38-3)

図 38-4 自然と触れ合う機会を増やしたいと思うか - 職業別



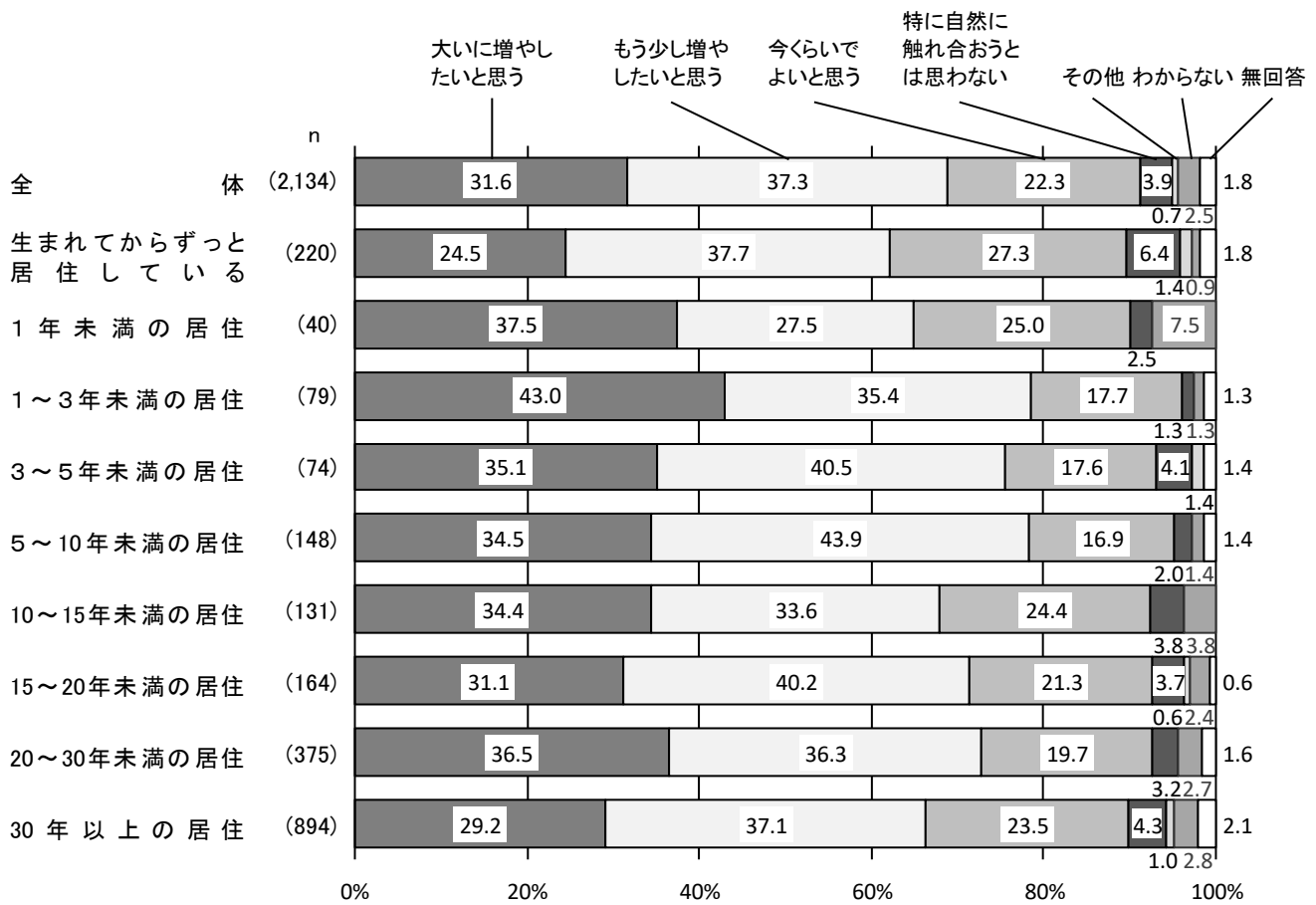
職業別にみると、「大いに増やしたいと思う」は、自営業 (43.3%) が4割強、会社や団体の役員 (39.4%) が4割弱と高くなっている。「もう少し増やしたいと思う」は、教員・公務員 (43.2%) が4割強と高くなっている。「今くらいでよいと思う」は、学生 (39.3%) が4割弱、無職 (28.2%) が3割近くと高くなっている。(図 38-4)

図 38-5 自然と触れ合う機会を増やしたいと思うか - 世帯構成別



世帯構成別にみると、「もう少し増やしたいと思う」は、自分たち夫婦と子ども夫婦（27.0%）が3割近くと低くなっている。「今くらいでよいと思う」は、その他（四世代など）（29.8%）が3割弱と高くなっている。（図 38-5）

図 38-6 自然と触れ合う機会を増やしたいと思うか - 居住年数別

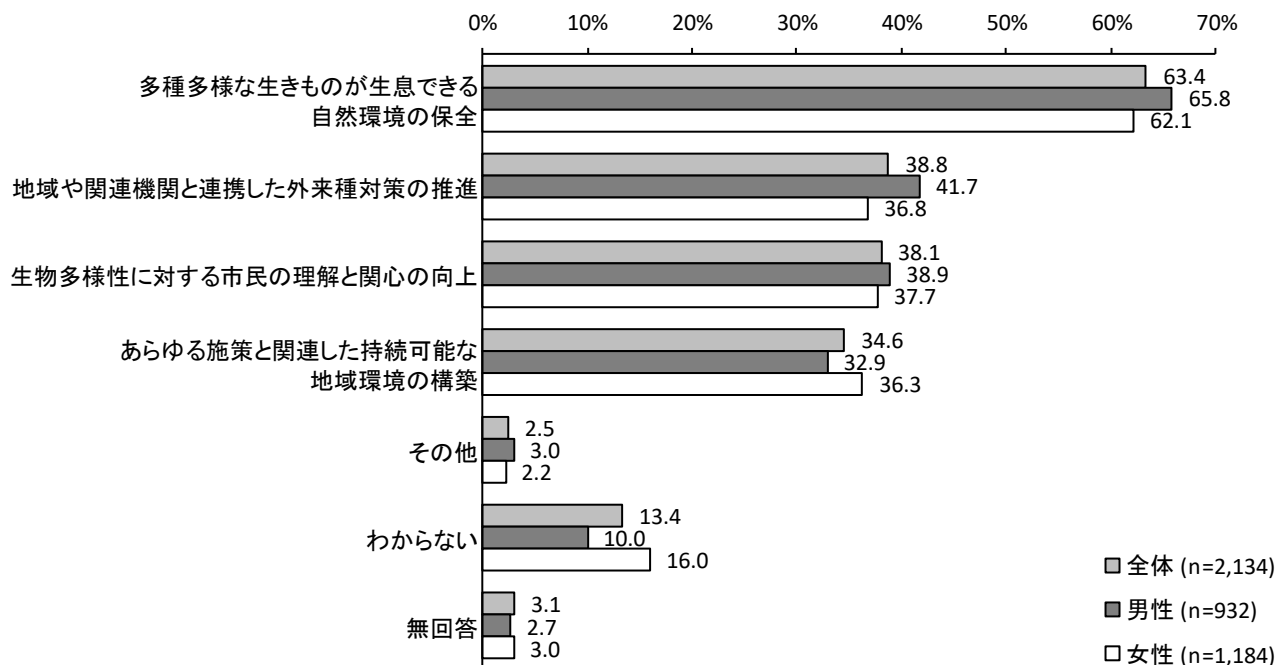


居住年数別にみると、「大いに増やしたいと思う」は、1～3年未満の居住（43.0%）が4割強、1年未満の居住（37.5%）が4割近くと高くなっている。「もう少し増やしたいと思う」は、5～10年未満の居住（43.9%）が4割強と高くなっている。（図 38-6）

(39) 生物多様性の保全に向けて力を入れた方がよいと考える取組

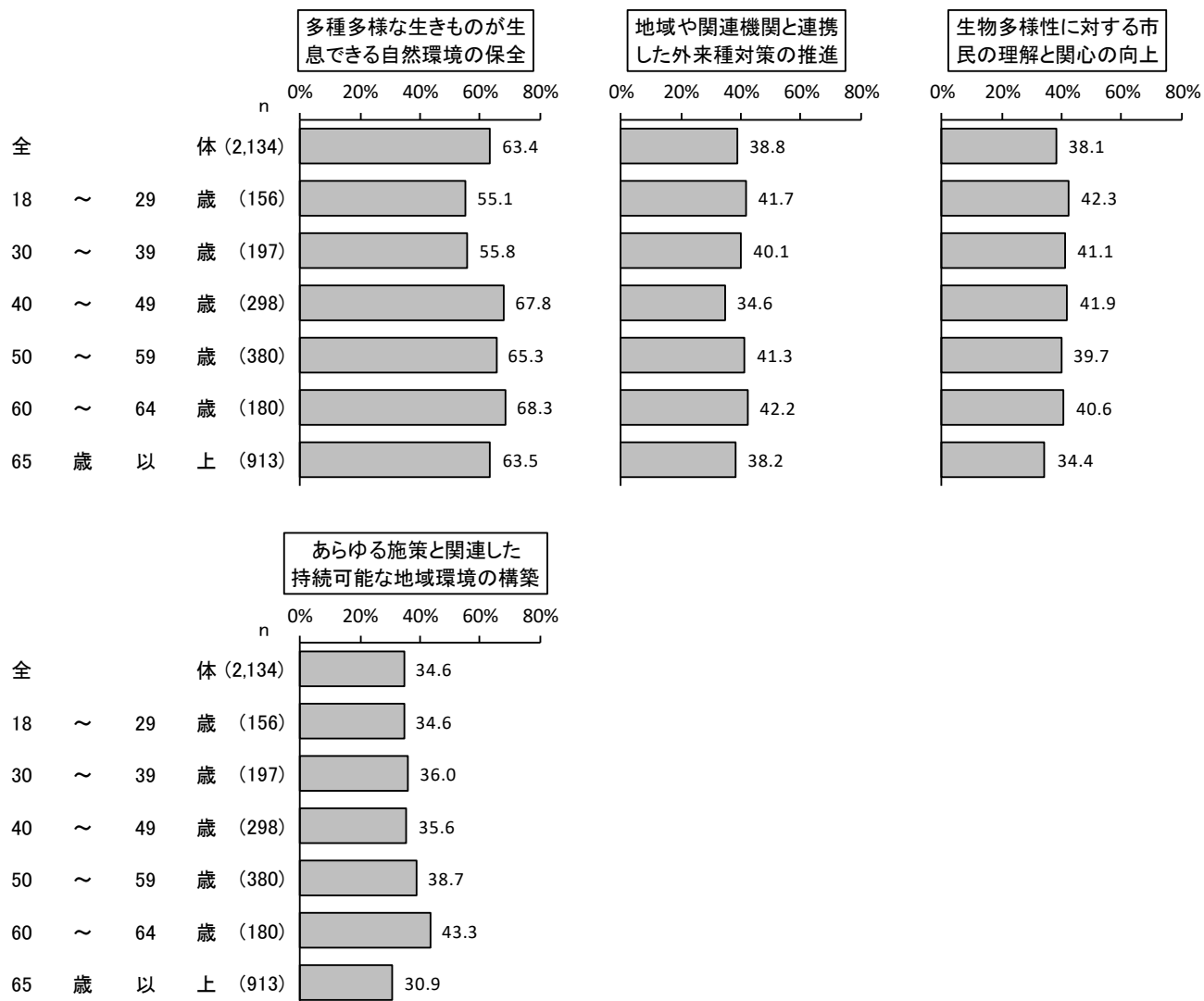
問 33 生物多様性の保全に向けて、今後、力を入れた方がよいと考える取組を以下から選択してください。
(〇はいくつでも)

図 39-1 生物多様性の保全に向けて力を入れた方がよいと考える取組 — 全体、性別



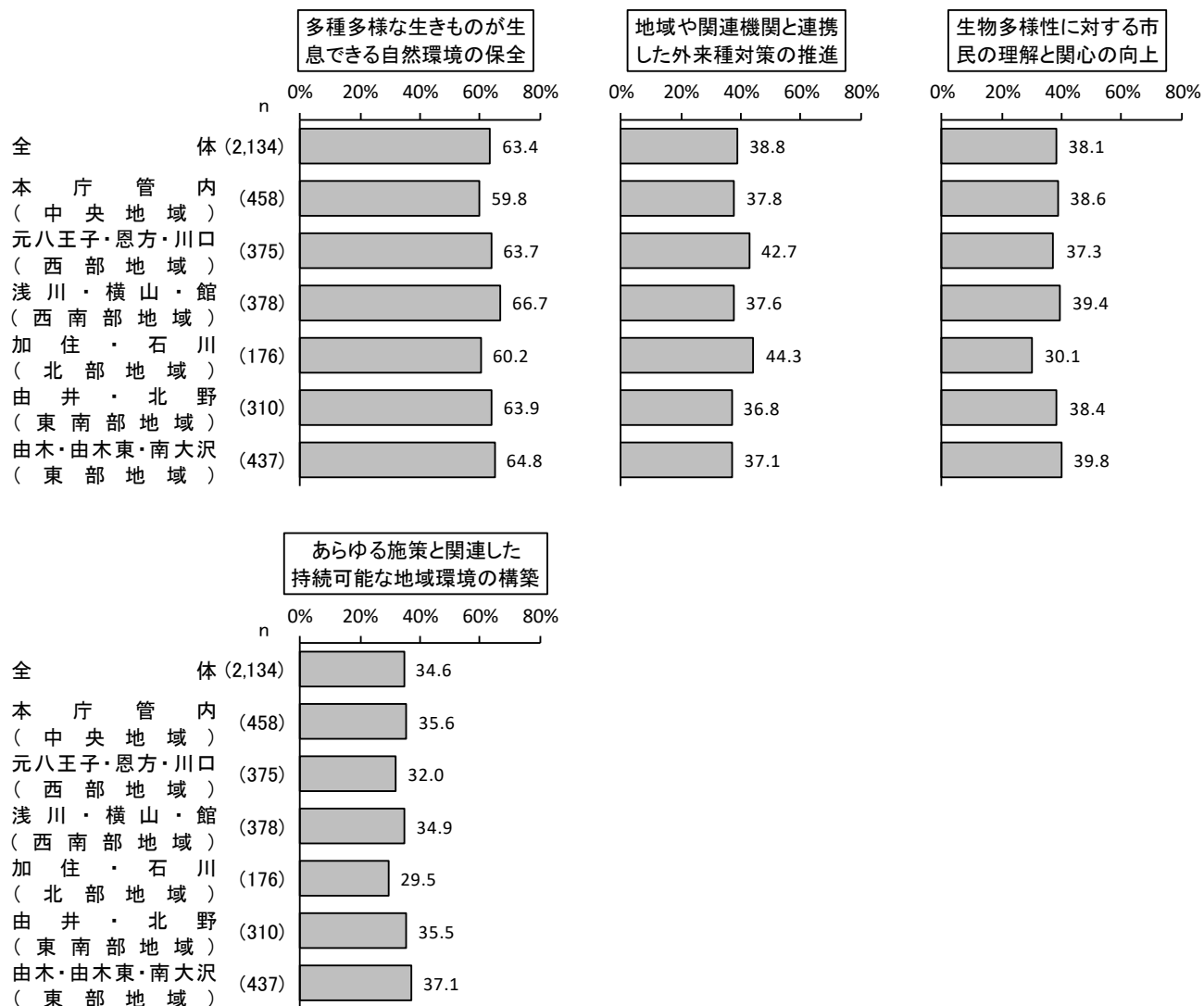
生物多様性の保全に向けて力を入れた方がよいと考える取組を聞いたところ、「多種多様な生きものが生息できる自然環境の保全」(63.4%)が6割強と最も高くなっている。次いで、「地域や関連機関と連携した外来種対策の推進」(38.8%)、「生物多様性に対する市民の理解と関心の向上」(38.1%)などの順となっている。性別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図 39-1)

図 39-2 生物多様性の保全に向けて力を入れた方がよいと考える取組 - 年齢別



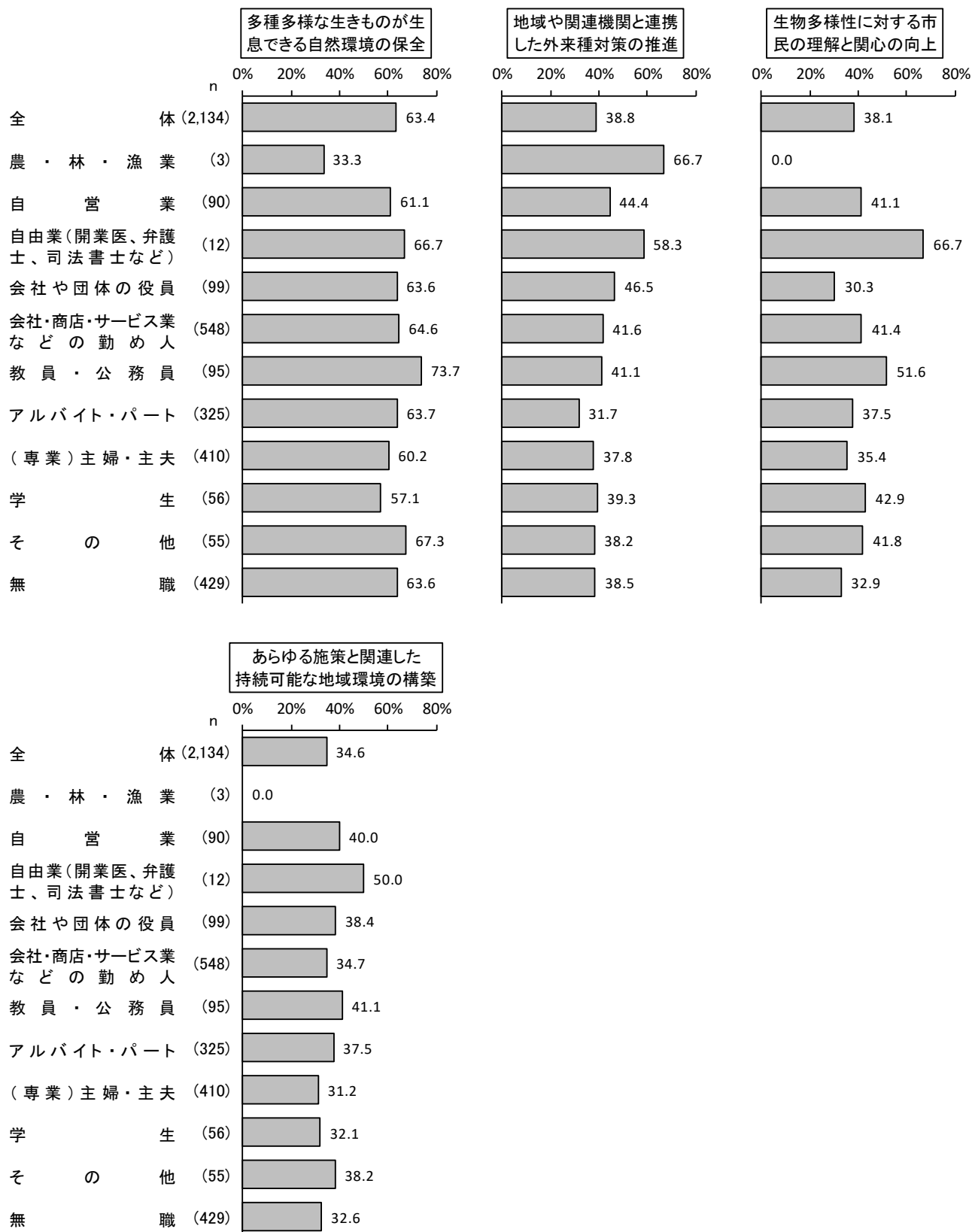
年齢別にみると、「多様な生きものが生息できる自然環境の保全」は、18~29歳（55.1%）が5割台半ばと低くなっている。「あらゆる施策と関連した持続可能な地域環境の構築」は、60~64歳（43.3%）が4割強と高くなっている。（図 39-2）

図 39-3 生物多様性の保全に向けて力を入れた方がよいと考える取組 - 居住地域別



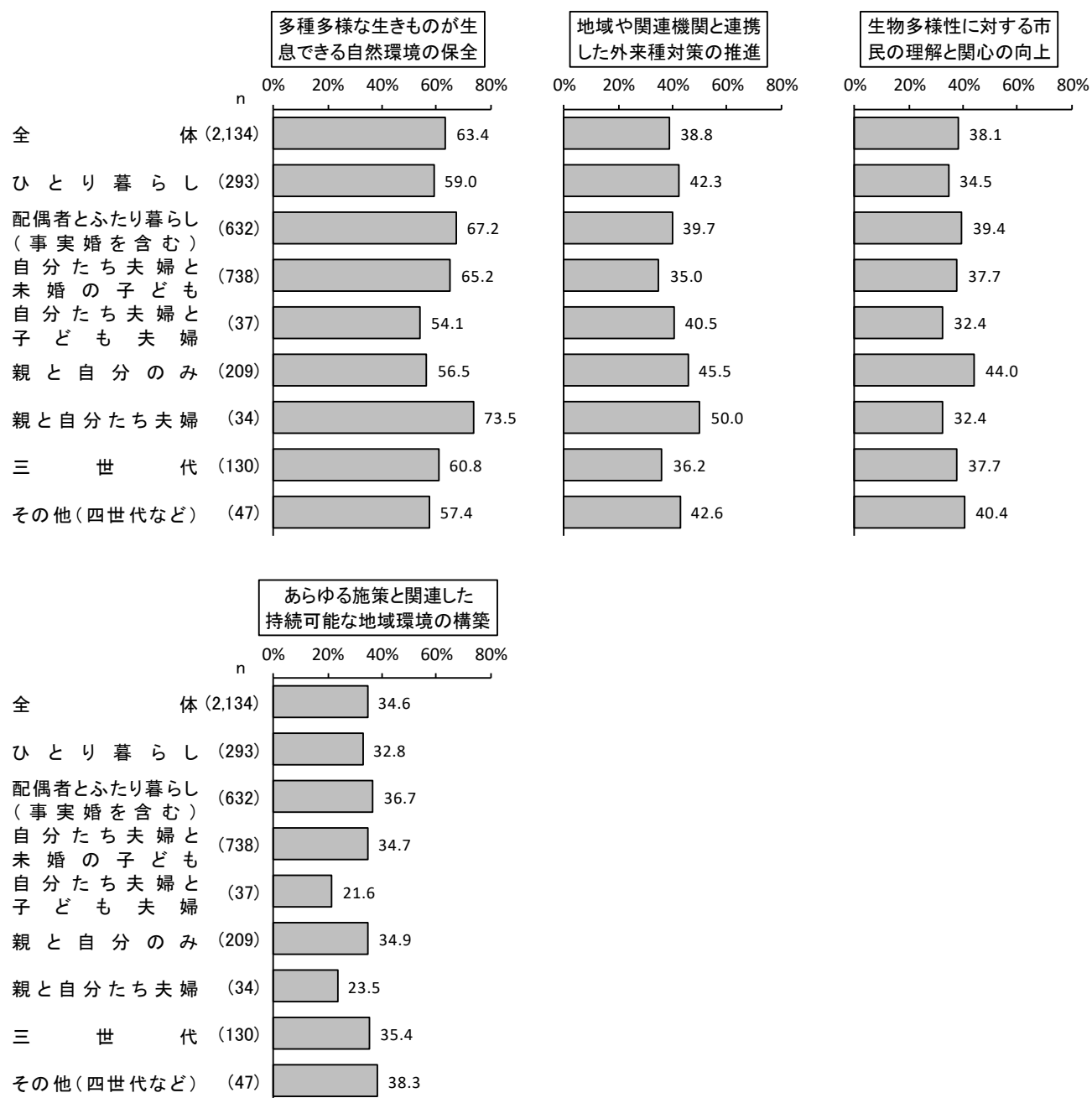
居住地域別にみると、「地域や関連機関と連携した外来種対策の推進」は、加住・石川（北部地域）（44.3%）が4割台半ばと高くなっている。「生物多様性に対する市民の理解と関心の向上」は、加住・石川（北部地域）（30.1%）が約3割と低くなっている。「あらゆる施策と関連した持続可能な地域環境の構築」は、加住・石川（北部地域）（29.5%）が3割弱と低くなっている。（図 39-3）

図 39-4 生物多様性の保全に向けて力を入れた方がよいと考える取組 - 職業別



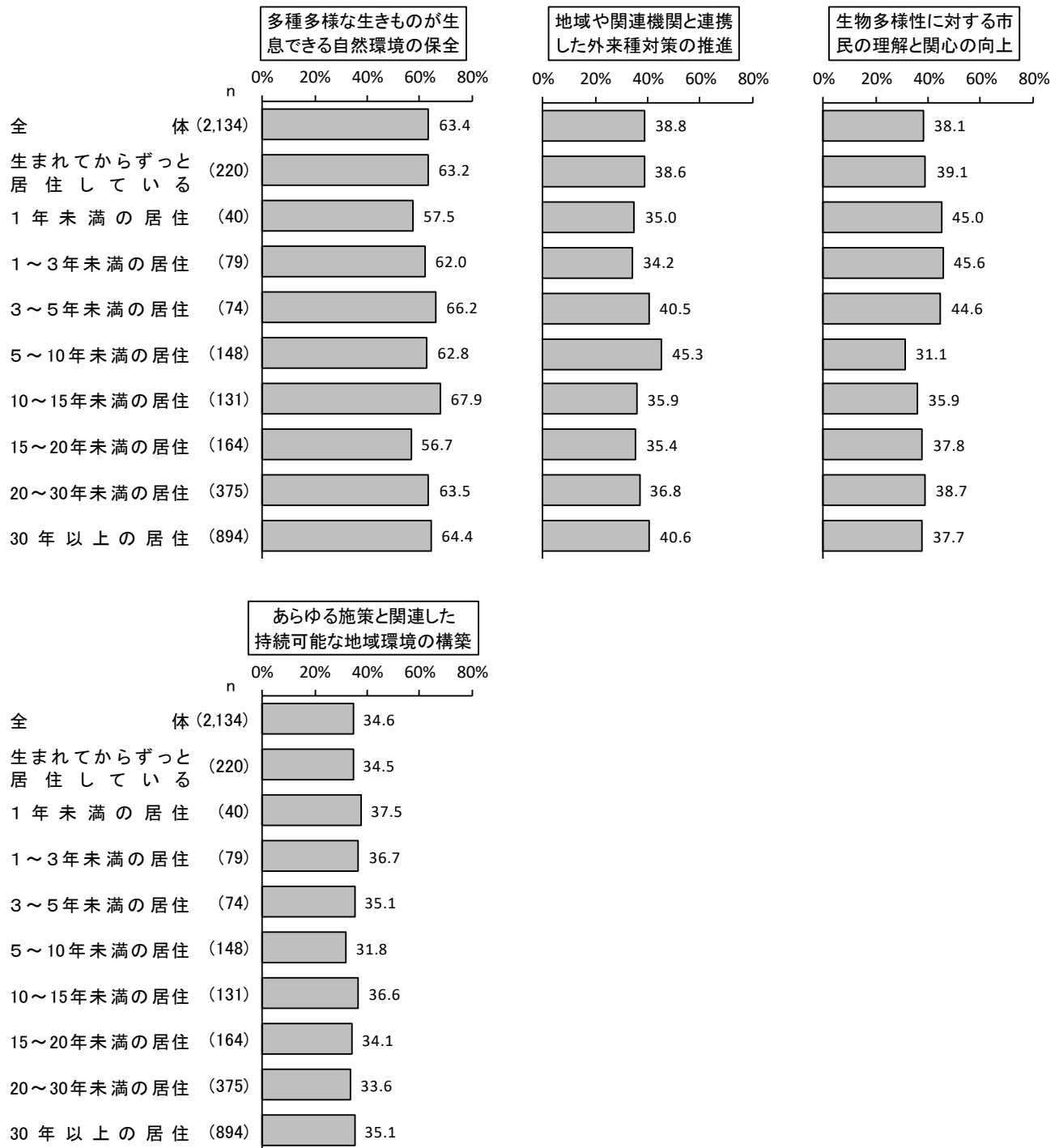
職業別にみると、「多種多様な生きものが生息できる自然環境の保全」は、教員・公務員（73.7%）が7割強と高くなっている。「地域や関連機関と連携した外来種対策の推進」は、会社や団体の役員（46.5%）が5割近く、自営業（44.4%）が4割台半ばと高くなっている。「生物多様性に対する市民の理解と関心の向上」は、教員・公務員（51.6%）が5割強と高くなっている。「あらゆる施策と関連した持続可能な地域環境の構築」は、教員・公務員（41.1%）が4割強、自営業（40.0%）が4割と高くなっている。（図 39-4）

図 39-5 生物多様性の保全に向けて力を入れた方がよいと考える取組 — 世帯構成別



世帯構成別にみると、「多種多様な生きものが生息できる自然環境の保全」は、親と自分たち夫婦 (73.5%) が7割強と高くなっている。「地域や関連機関と連携した外来種対策の推進」は、親と自分たち夫婦 (50.0%) が5割、親と自分のみ (45.5%) が4割台半ばと高くなっている。「生物多様性に対する市民の理解と関心の向上」は、親と自分のみ (44.0%) が4割台半ばと高くなっている。「あらゆる施策と関連した持続可能な地域環境の構築」は、自分たち夫婦と子ども夫婦 (21.6%) が2割強と低くなっている。(図 39-5)

図 39-6 生物多様性の保全に向けて力を入れた方がよいと考える取組 - 居住年数別

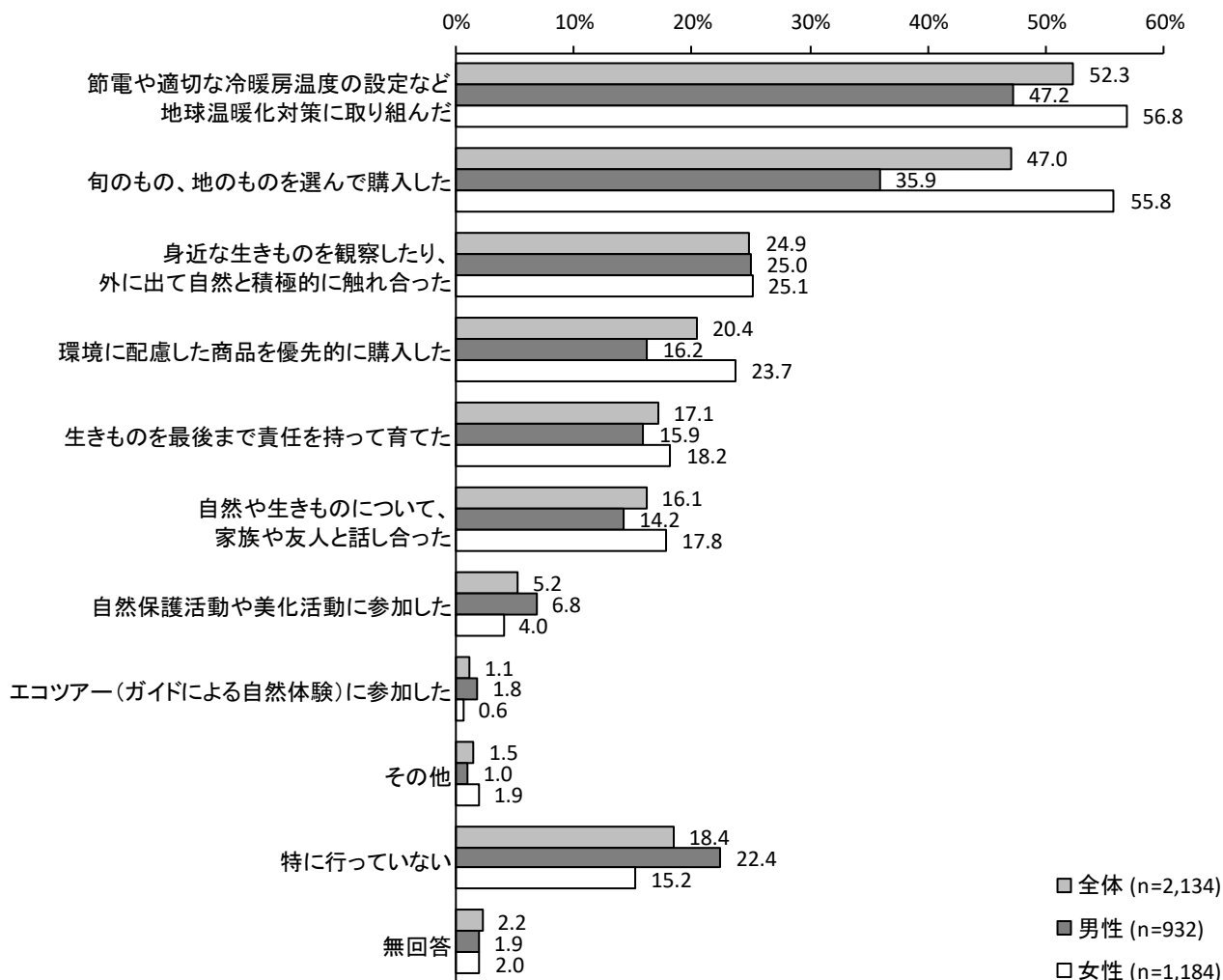


居住年数別にみると、「地域や関連機関と連携した外来種対策の推進」は、5～10年未満の居住（45.3%）が4割台半ばと高くなっている。「生物多様性に対する市民の理解と関心の向上」は、1～3年未満の居住（45.6%）、1年未満の居住（45.0%）、3～5年未満の居住（44.6%）がそれぞれ4割台半ばと高くなっている。（図 39-6）

(40) 生物多様性に配慮したライフスタイルとして行ったこと

問 34 あなたは、この1年間に、生物多様性に配慮したライフスタイルとして、どのようなことを行いましたか。
(〇はいくつでも)

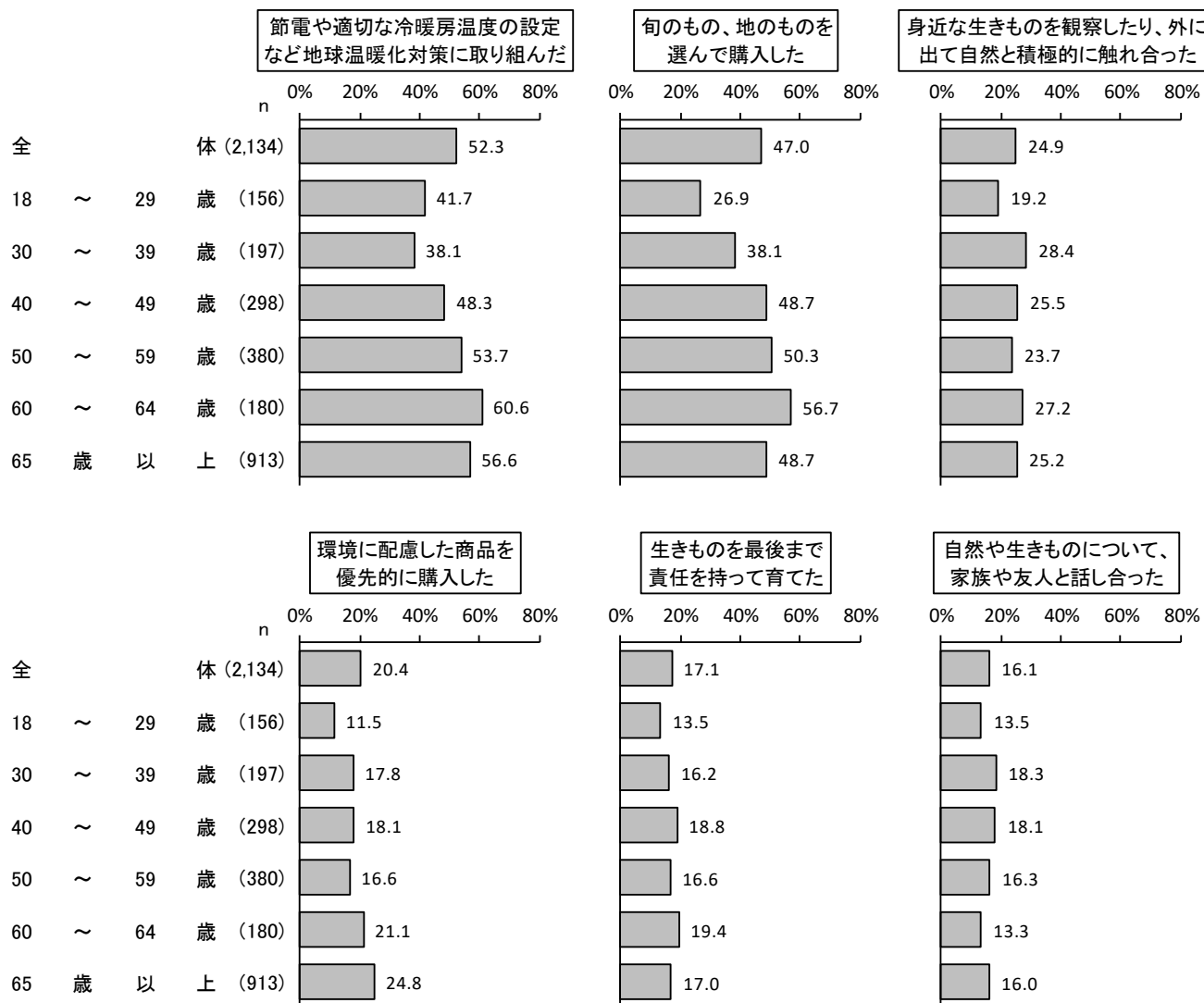
図 40-1 生物多様性に配慮したライフスタイルとして行ったこと - 全体、性別



生物多様性に配慮したライフスタイルとして行ったことを聞いたところ、「節電や適切な冷暖房温度の設定など地球温暖化対策に取り組んだ」(52.3%)が5割強と最も高くなっている。次いで、「旬のもの、地ものを選んで購入した」(47.0%)、「身近な生きものを観察したり、外に出て自然と積極的に触れ合った」(24.9%)、「環境に配慮した商品を優先的に購入した」(20.4%)などの順となっている。

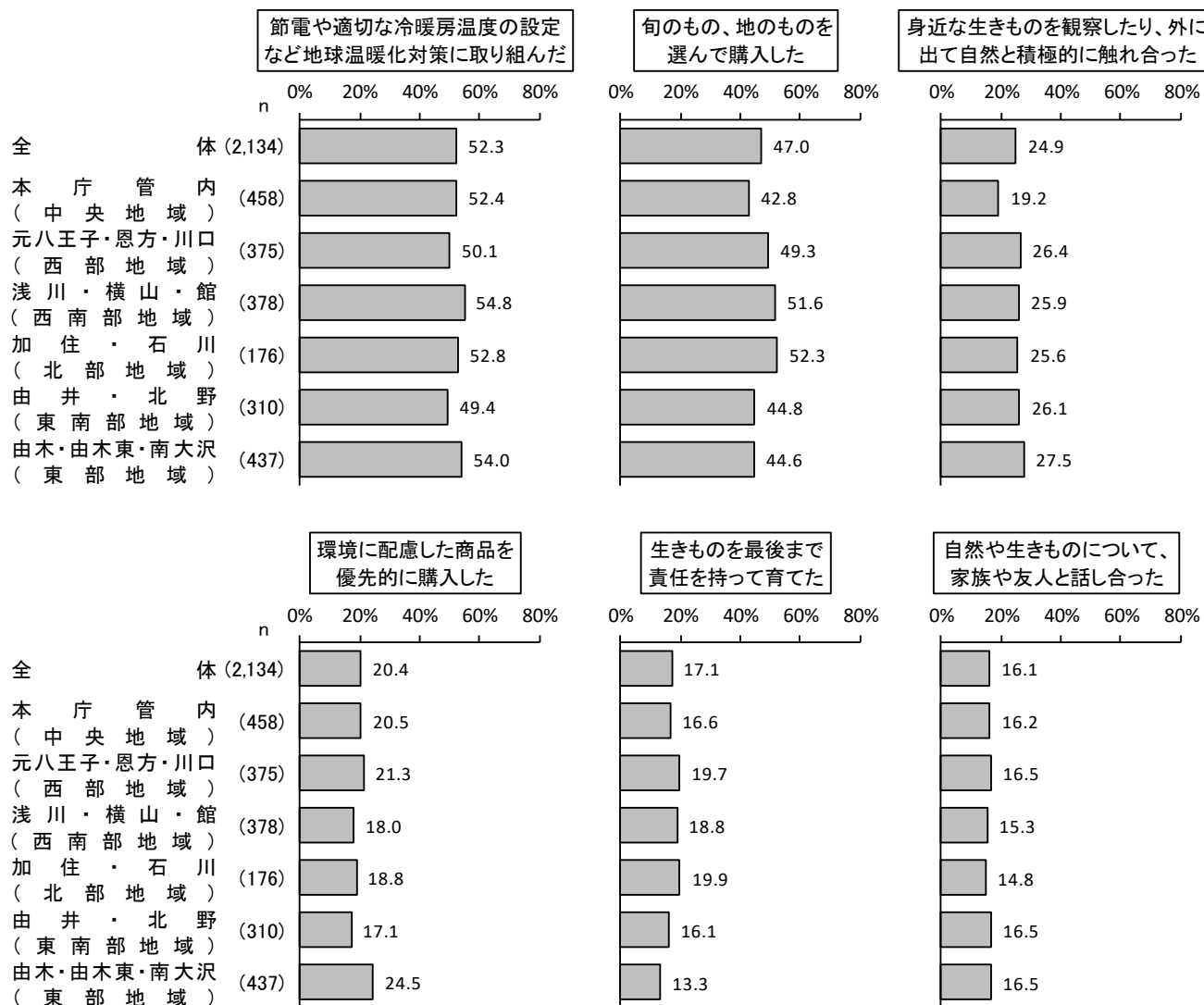
性別にみると、「旬のもの、地ものを選んで購入した」は、女性(55.8%)が男性(35.9%)より19.9ポイント高くなっている。「節電や適切な冷暖房温度の設定など地球温暖化対策に取り組んだ」は、女性(56.8%)が男性(47.2%)より9.6ポイント高くなっている。(図40-1)

図 40-2 生物多様性に配慮したライフスタイルとして行ったこと - 年齢別（上位6位）



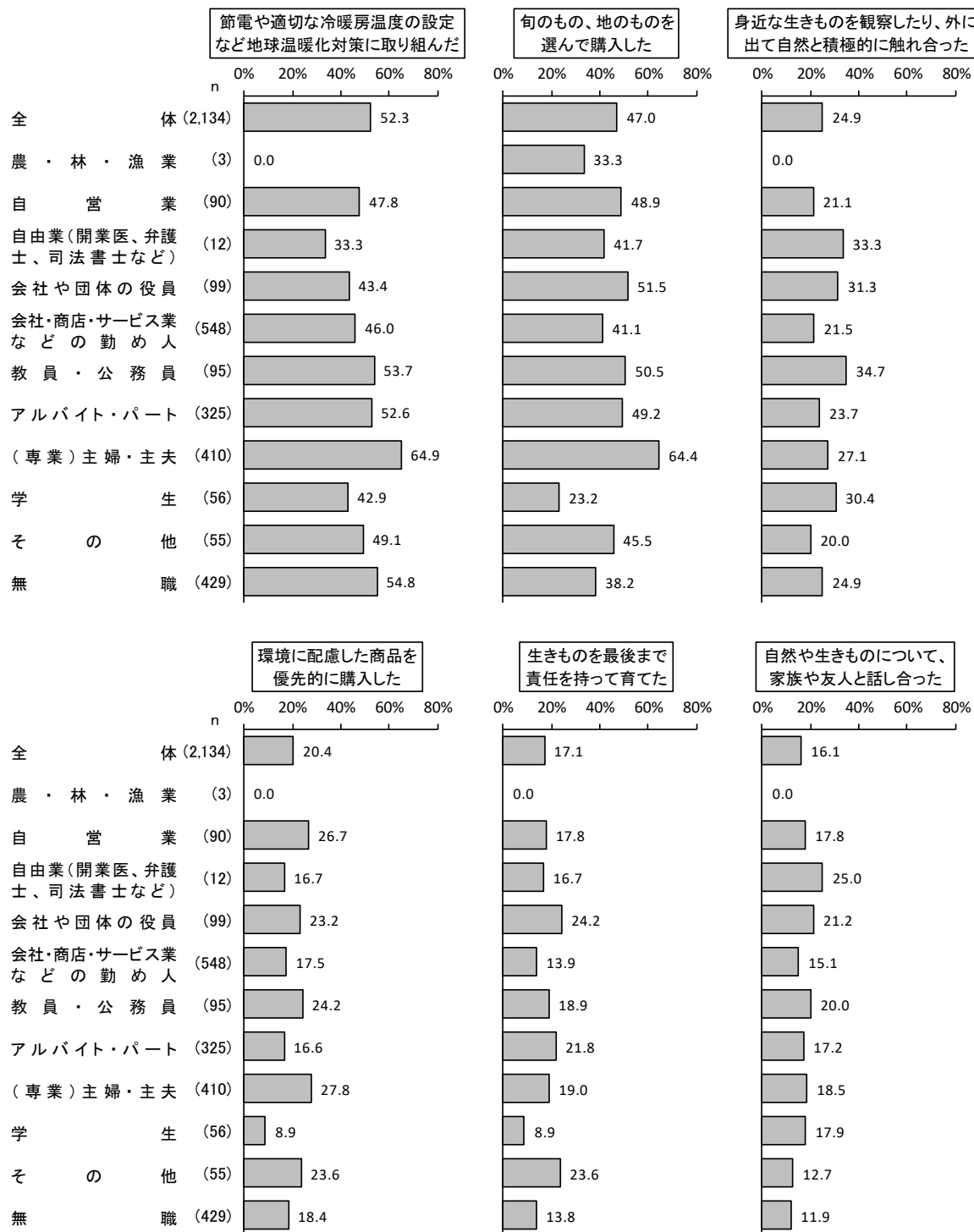
年齢別にみると、「節電や適切な冷暖房温度の設定など地球温暖化対策に取り組んだ」は、60～64歳（60.6%）が約6割と高くなっている。「旬のもの、地のものを選んで購入した」は、60～64歳（56.7%）が6割近くと高くなっている。「身近な生きものを観察したり、外に出て自然と積極的に触れ合った」は、18～29歳（19.2%）が2割弱と低くなっている。「環境に配慮した商品を優先的に購入した」は、18～29歳（11.5%）が1割強と低くなっている。（図40-2）

図 40-3 生物多様性に配慮したライフスタイルとして行ったこと - 居住地域別（上位 6 位）



居住地域別にみると、「旬のもの、地のものを選んで購入した」は、加住・石川（北部地域）（52.3%）が5割強と高くなっている。「身近な生きものを観察したり、外に出て自然と積極的に触れ合った」は、本庁管内（中央地域）（19.2%）が2割弱と低くなっている。（図 40-3）

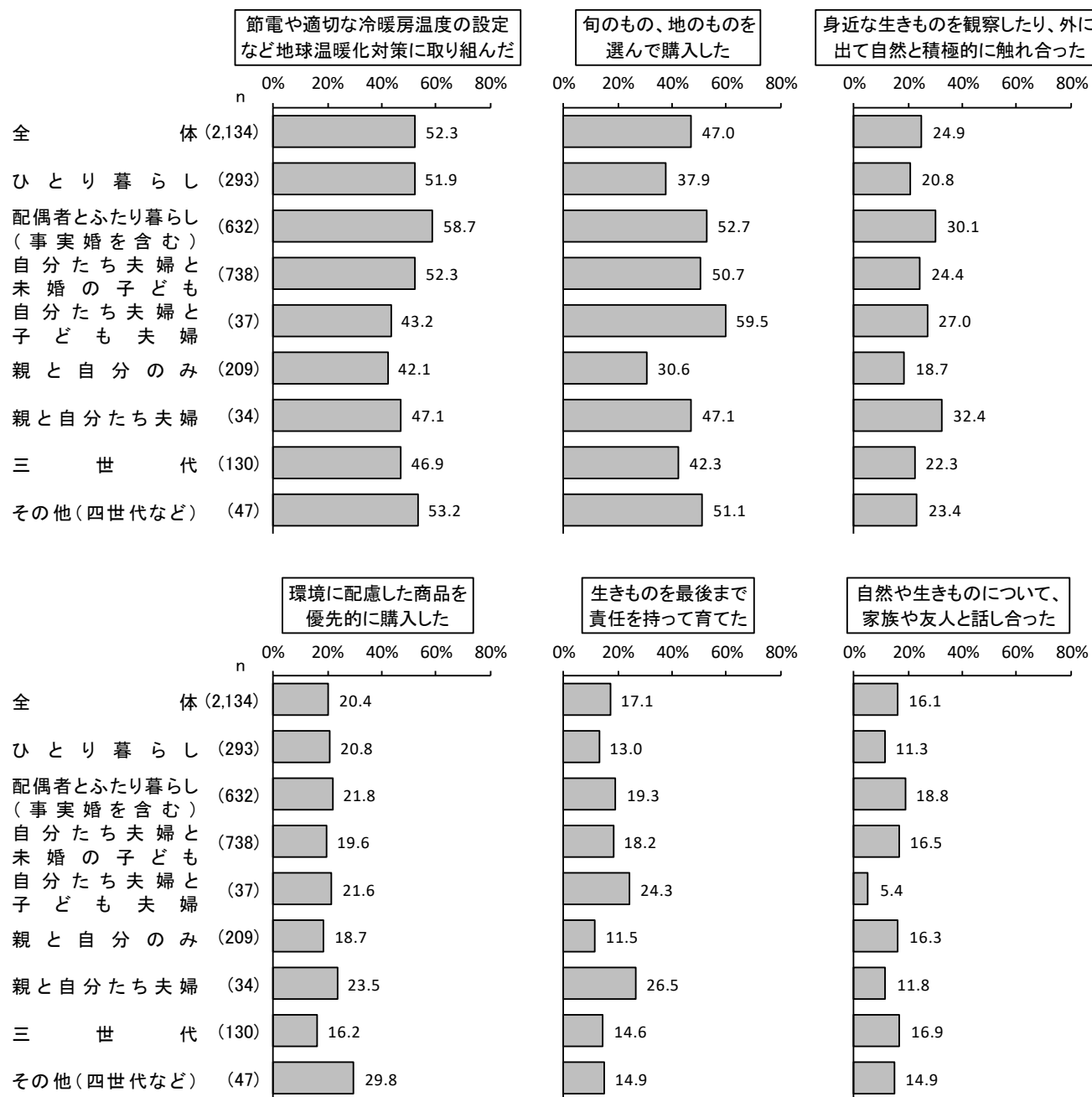
図 40-4 生物多様性に配慮したライフスタイルとして行ったこと - 職業別（上位6位）



職業別にみると、「節電や適切な冷暖房温度の設定など地球温暖化対策に取り組んだ」は、(専業)主婦・主夫(64.9%)が6割台半ばと高くなっている。「旬のもの、地のものを選んで購入した」は、(専業)主婦・主夫(64.4%)が6割台半ばと高くなっている。「身近な生きものを観察したり、外に出て自然と積極的に触れ合った」は、教員・公務員(34.7%)が3割台半ば、会社や団体の役員(31.3%)が3割強、学生(30.4%)が約3割と高くなっている。「環境に配慮した商品を優先的に購入した」は、(専業)主婦・主夫(27.8%)、自営業(26.7%)がそれぞれ3割近くと高くなっている。「生きものを最後まで責任を持って育てた」は、会社や団体の役員(24.2%)が2割台半ば、その他(23.6%)が2割強と高くなっている。「自然や生きものについて、家族や友人と話し合った」は、会社や団体の役員(21.2%)が2割強と高くなっている。

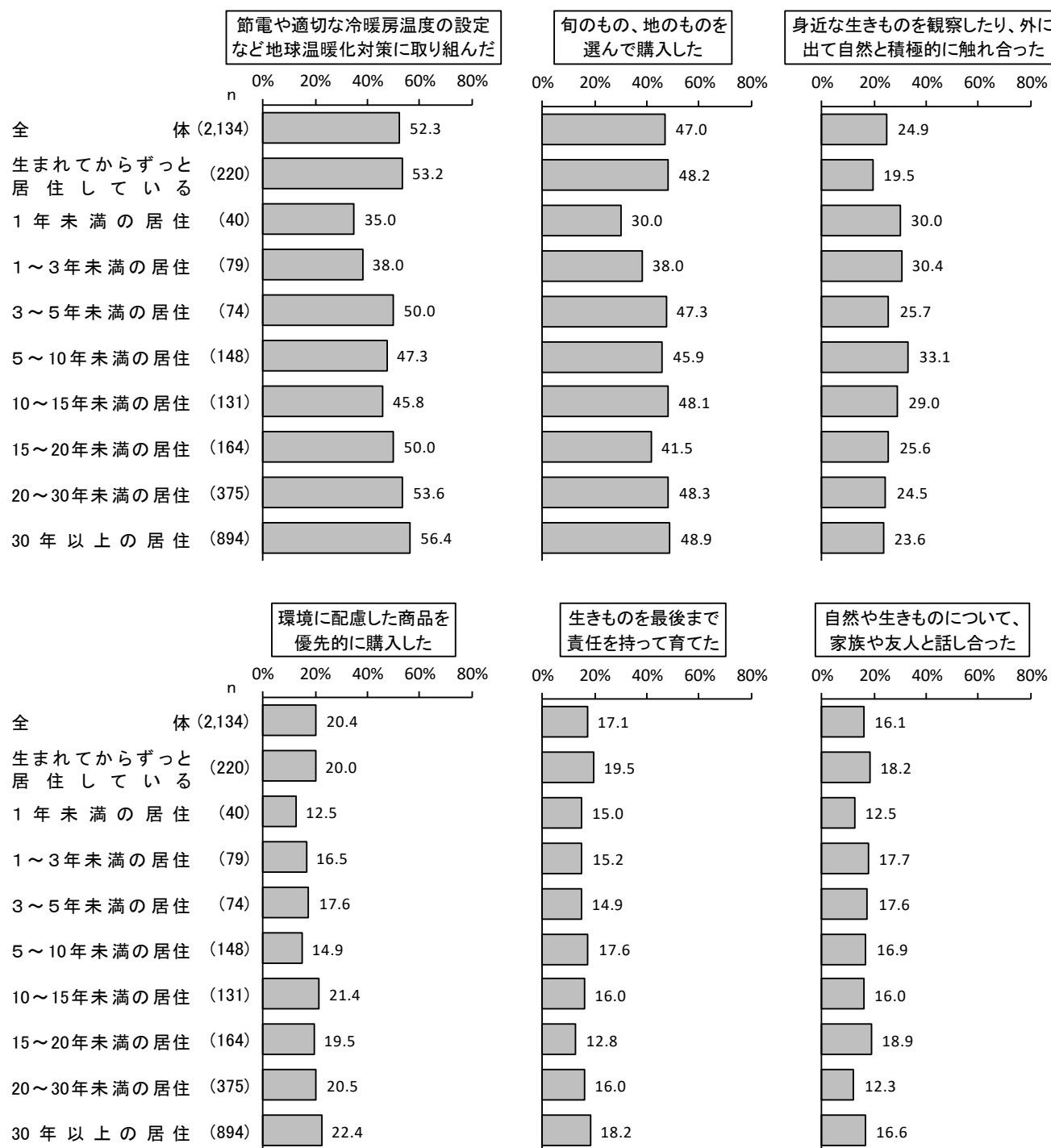
(図 40-4)

図 40-5 生物多様性に配慮したライフスタイルとして行ったこと - 世帯構成別（上位 6 位）



世帯構成別にみると、「節電や適切な冷暖房温度の設定など地球温暖化対策に取り組んだ」は、配偶者とふたり暮らし（事実婚を含む）（58.7%）が6割近くと高くなっている。「旬のもの、地のものを選んで購入した」は、自分たち夫婦と子ども夫婦（59.5%）が6割弱、配偶者とふたり暮らし（事実婚を含む）（52.7%）が5割強と高くなっている。「身近な生きものを観察したり、外に出て自然と積極的に触れ合った」は、親と自分たち夫婦（32.4%）が3割強、配偶者とふたり暮らし（事実婚を含む）（30.1%）が約3割と高くなっている。「環境に配慮した商品を優先的に購入した」は、その他（四世代など）（29.8%）が3割弱と高くなっている。「生きものを最後まで責任を持って育てた」は、親と自分たち夫婦（26.5%）が3割近く、自分たち夫婦と子ども夫婦（24.3%）が2割台半ばと高くなっている。（図 40-5）

図 40-6 生物多様性に配慮したライフスタイルとして行ったこと - 居住年数別（上位 6 位）



居住年数別にみると、「節電や適切な冷暖房温度の設定など地球温暖化対策に取り組んだ」は、1年未満の居住（35.0%）が3割台半ばと低くなっている。「旬のもの、地ものを選んで購入した」は、1年未満の居住（30.0%）が3割と低くなっている。「環境に配慮した商品を優先的に購入した」は、1年未満の居住が1割強と低くなっている。「身近な生きものを観察したり、外に出て自然と積極的に触れ合った」は、5～10年未満の居住（33.1%）が3割強、1～3年未満の居住（30.4%）が約3割、1年未満の居住（30.0%）が3割と高くなっている。（図 40-6）

IV 參考資料

地域No. _____

八王子未来デザイン 2040 の運用に関する市民アンケート調査

市民アンケート調査へのご協力をお願い

本市では、次期最上位計画として「八王子未来デザイン 2040」の策定を進めており、10月16日まで原案へのパブリックコメント（意見募集）を実施しています。

当計画では、2040年までの目標として「みんなで目指す 2040年の姿」を掲げ、その実現に向けて令和12年度（2030年度）までに重点的・分野横断的に取り組む内容として「重点テーマ・取組方針」を定めます。この「重点テーマ・取組方針」及びそれに関連付ける取組には数値目標を設定し、着実な進行管理を行っていきます。

今回の調査は、市民の皆さんの生活環境や市政への考えをお聞きすることで、当計画に掲げる目標に対する現状を把握するため実施するものです。

調査の対象者は、市内にお住まいの18歳以上の方々から無作為に5,000名を選ばせていただきました。また、調査は無記名で、調査結果は統計的な処理をしますので、個人にご迷惑をおかけすることはありません。

ご多忙のところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力を賜りますようお願いいたします。

令和4年（2022年）9月

八王子市長 石森 孝志

回答にあたってのお願い

- ◆ 必ずあて名のご本人がご回答ください。
- ◆ 回答は、《郵送》または《インターネット（電子申請）》で行うことができます。
どちらかの方法をお選びください。

郵送での回答方法

この調査票に直接ご記入いただき、同封の返信用封筒に入れて郵便ポストへ投函してください。切手を貼る必要はありません。

インターネットでの回答方法

インターネットに接続したパソコン、スマートフォン等から回答できます。詳しくは同封の別紙「インターネットを利用した回答方法」をお読みください。

- ◆ 回答は、**令和4年（2022年）10月10日（月）まで**に投函または送信してください。

◎このページの左上の「地域No.」は、市内を14の地域に分けて集計するための区別に用いるものです。また、右上の「申請者ID」「パスワード」はインターネット回答で使用するものです。これらによってお名前やご住所を特定することはありません。

◎本調査で、市の職員や調査員が訪問や電話をすることはありません。

《お問い合わせ》八王子市未来デザイン室（月曜日～金曜日 午前8時30分～午後5時）

電話：042-620-7307（直通） Fax：042-629-5939

【記入要領】

- ◆ あらかじめ設けてある選択肢の中から、あなたのお考えに最も近い番号を選んで○印をつけてください。
- ◆ 回答の○の数は(○は1つだけ)(○はいくつでも)のように指定していますので、それに合わせてください。
- ◆ ご自分の答えが選択肢の中に入らない場合などは、「その他」を選び、「()」の欄がある場合は、内容を具体的に記入してください。
- ◆ このページから順に最後までお答えください。設問の前に(子育て中の方へ)や(現在18歳から29歳の方へ)とある場合は、該当の方だけお答えください。なお、問○-1のように、一部の方だけにお答えいただく質問もあります。その場合は矢印や説明文に従ってお答えください。

あなたご自身について ～基本項目(フェイス・シート)～

最初にあなたご自身のことについておたずねします。

F 1 あなたの性別は、次のどれですか。(○は1つだけ) n=2,134

1	男性	43.7%	2	女性	55.5%	3	あてはまらない	0.0%	無回答	0.8%
---	----	-------	---	----	-------	---	---------	------	-----	------

F 2 あなたは現在何歳ですか。(○は1つだけ) n=2,134

1	18～19歳	1.1%	2	20～24歳	3.0%	3	25～29歳	3.2%	4	30～34歳	4.1%
5	35～39歳	5.1%	6	40～44歳	6.7%	7	45～49歳	7.3%	8	50～54歳	9.0%
9	55～59歳	8.8%	10	60～64歳	8.4%	11	65～69歳	9.7%	12	70～74歳	13.5%
13	75～79歳	10.3%	14	80歳以上	9.2%	無回答		0.5%			

F 3 現在、あなたに配偶者(夫または妻)はいらっしゃいますか(事実婚を含みます)。(○は1つだけ) n=2,134

1	いる	68.7%	2	いない(死別)	8.4%
3	いない(離別)	6.1%	4	結婚したことはない(未婚)	16.3%
	無回答	0.5%			

F 4 お子さんは何人いらっしゃいますか。同居・別居は問いません。(○は1つだけ) n=2,134

1	いない	25.2%							
2	1人	16.6%	3	2人	42.0%	4	3人	13.0%	
5	4人	1.6%	6	5人以上	0.2%	無回答			1.2%

(F 4で、「2 1人」から「6 5人以上」を選択した方にお聞きします。)

F 4-1 お子さんは次のどの段階にあてはまりますか。(○はいくつでも) n=1,570

1	0歳～小学校入学前	9.6%	2	小学生	11.5%
3	中学生	6.6%	4	高校生	7.5%
5	大学生(大学院・専門学校等を含む)	9.0%	6	学校教育終了(成人・社会人など)	60.1%
7	その他	7.4%	無回答		7.0%

F 5 現在、一緒に暮らしているご家族は、あなたを含めて何人ですか。(○は1つだけ) n=2,134

1	1人	15.8%	2	2人	33.2%	3	3人	25.2%	4	4人	16.3%
5	5人	5.7%	6	6人	1.9%	7	7人以上	0.9%	無回答		0.9%

F6 あなたの世帯は、次のように分類した場合、どれにあたりますか。(○は1つだけ) n=2,134

1	ひとり暮らし	13.7%
2	配偶者とふたり暮らし(事実婚を含む)	29.6%
3	自分たち夫婦と未婚の子ども(または、自分と未婚の子どもなど)	34.6%
4	自分たち夫婦と子ども夫婦(または、自分と子ども夫婦など)	1.7%
5	親と自分のみ(または、親と自分と兄弟・姉妹など)	9.8%
6	親と自分たち夫婦	1.6%
7	三世代(例えば、自分たち夫婦と子どもと孫、親と自分と子どもなど)	6.1%
8	その他(四世代など)	2.2%
無回答		0.7%

F7 あなたの八王子市での通算の居住状況を教えてください。(○は1つだけ) n=2,134

1	生まれてからずっと居住している(年数に関わらず該当者は選択してください。)	10.3%			
2	1年未満の居住	1.9%	3	1~3年未満の居住	3.7%
4	3~5年未満の居住	3.5%	5	5~10年未満の居住	6.9%
6	10~15年未満の居住	6.1%	7	15~20年未満の居住	7.7%
8	20~30年未満の居住	17.6%	9	30年以上の居住	41.9%
無回答		0.4%			

F 8 あなたのご職業は、次のどれにあたりますか。(○は1つだけ) n=2,134

1 農・林・漁業	0.1%
2 自営業	4.2%
3 自由業（開業医、弁護士、司法書士など）	0.6%
4 会社や団体の役員	4.6%
5 会社・商店・サービス業などの勤め人	25.7%
6 教員・公務員	4.5%
7 アルバイト・パート	15.2%
8 （専業）主婦・主夫	19.2%
9 学生	2.6%
10 その他	2.6%
11 無職	20.1%
無回答	0.6%

→ (F 8で、「1 農・林・漁業」から「7 アルバイト・パート」を選択した方にお聞きします。)

F 8-1 あなたの職場は、次のどちらにあたりますか。(○は1つだけ) n=1,172

1 八王子市内	45.5%	2 八王子市外	41.4%	無回答	13.1%
---------	-------	---------	-------	-----	-------

F 9 あなたのお住まいは、次のどれにあたりますか。(○は1つだけ) n=2,134

1 戸建て（持ち家）	58.9%
2 戸建て（借家）	1.5%
3 分譲マンション	19.7%
4 民間の賃貸アパート・マンション	10.4%
5 公営賃貸住宅（都営・市営）	3.3%
6 UR（旧公団）・公社の賃貸住宅または都民住宅	4.0%
7 社宅・官舎・寮	0.8%
8 その他（間借りなど）	0.6%
無回答	0.7%

八王子未来デザイン2040の運用に関する意識調査について

問1 あなたは、八王子市が「安心して子育てができるまち」になっていると思いますか。(〇は1つだけ)

n=2,134

1	そう思う	11.9%	2	どちらかといえばそう思う	44.0%
3	あまりそう思わない	13.6%	4	思わない	4.1%
5	わからない	25.4%		無回答	1.0%

(子育て中の方へ)

問2 あなたは、市などの様々な支援により、八王子市は子育てを支える環境が整っていると思いますか。

(〇は1つだけ) n=759

1	そう思う	8.4%	2	どちらかといえばそう思う	45.8%
3	あまりそう思わない	23.1%	4	思わない	5.0%
5	わからない	17.7%		無回答	0.0%

問3 今後、子育て分野において、力を入れた方がよいと考える取組を以下から選択してください。

(〇はいくつでも) n=742

1	子どもへの支援	50.1%
2	家庭への支援	45.0%
3	子ども・子育てを地域で支えるまちづくり	43.9%
4	配慮が必要な子どもと家庭への支援	39.8%
5	若者の社会的自立や社会参加に向けた支援	33.2%
6	その他	5.9%
7	わからない	5.7%
	無回答	0.0%

※若者とは・・・

本市民アンケート調査では高校生世代から29歳までの者としてします。

問4 あなたは、子育てに関して困ったときに、いつでも相談できる人がいますか(場がありますか)。

(〇は1つだけ) n=687

1	いる(ある)	78.7%	2	いない(ない)	21.3%	無回答	0.0%
---	--------	-------	---	---------	-------	-----	------

(現在18歳から29歳の方へ)

問5 次の(ア)～(カ)の場所は、今のあなたにとって居場所(ほっとできる場所、安心できる場所)になっていますか。

(ア)～(カ)の各項目それぞれについて、あなたの感じ方に近いものを選んでください。

(○はそれぞれ1つずつ) n=156

	1	2	3	4	
	そう思う	どちらかといえば そう思う	あまりそう思わない	思わない	無回答
(ア) 自分の部屋	84.6%	11.5%	1.3%	1.9%	0.6%
(イ) 家庭(親せきの家を含む)	60.9%	28.2%	6.4%	3.8%	0.6%
(ウ) 学校	15.4%	32.7%	17.3%	20.5%	14.1%
(エ) 職場	14.7%	30.1%	25.6%	19.2%	10.3%
(オ) 地域(図書館や公園など、現在住んでいる 周辺やそこにある建物など)	19.9%	44.9%	21.8%	11.5%	1.9%
(カ) インターネット空間(SNS、YouTubeや オンラインゲームなど)	38.5%	37.2%	16.7%	7.1%	0.6%

問6 あなたは、この1年間に、地域の子どもに触れ合う機会がありましたか。(○は1つだけ)

n=2,134

1 機会があった	29.3%	2 機会がなかった	65.8%	無回答	4.9%
----------	-------	-----------	-------	-----	------

問7 あなたは、この1年間に、子どもやその保護者とともに行う次のような活動に参加しましたか。

(○はいくつでも) n=2,134

1 地域のお祭りなどの伝統行事	6.6%
2 学校行事	12.1%
3 地域ボランティア活動	7.1%
4 その他	4.5%
5 特に参加していない	70.3%
無回答	5.2%

問8 あなたは、八王子市が「誰もが学び、学んだことを活かせる環境が整っているまち」になっていると思いますか。(○は1つだけ)

n=2,134

※学びとは・・・

学校教育、社会教育、家庭教育のほか、スポーツレクリエーション活動、文化芸術活動、ボランティア活動、職業上必要な技能の習得など

1 そう思う	5.9%	2 どちらかといえばそう思う	34.2%
3 あまりそう思わない	18.7%	4 思わない	5.0%
5 わからない	32.3%	無回答	4.0%

→ (問8で、「3 あまりそう思わない」または「4 思わない」とお答えの方へ)

問8-1 その理由を以下から選択してください。(○はいくつでも)

n=505

1 学びたいことが学べる環境になっていない	49.7%
2 学んだことを活かす機会がない	36.8%
3 学んだことを活かすための方法がわからない	37.8%
4 その他	12.9%
無回答	1.0%

問9 あなたは、八王子市が、「年齢、性別、国籍、障害の有無などにかかわらず誰もが活躍できる環境が整っているまち」になっていると思いますか。(○は1つだけ)

n=2,134

1 そう思う	4.4%	2 どちらかといえばそう思う	25.6%
3 あまりそう思わない	21.0%	4 思わない	7.5%
5 わからない	38.9%	無回答	2.5%

問10 あなたは、次の（ア）～（オ）の分野で男女共同参画が実現していると思いますか。

（ア）～（オ）の各項目それぞれについて、あなたの感じ方に近いものを選んでください。

（○はそれぞれ1つずつ） n=2,134

※男女共同参画社会とは・・・

性別にかかわらず、「社会の対等な構成員」として、自らの意思によって社会のあらゆる分野で活動ができ、それにもなって男女とも同じに利益を受け、責任を担う社会のこと。

※固定的な性別役割分担意識とは・・・

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」「男性は主要な業務、女性は補助的業務」など、性別によって役割を固定する考え方のこと。

	1	2	3	4	
	そう思う	そう思う どちらかといえば	あまりそう思わない	思わない	無回答
（ア） 家庭 固定的な性別役割分担意識にとらわれず、男女が相互に協力し、家事・育児・介護等に参加している。	14.0%	40.2%	31.1%	7.9%	6.7%
（イ） 職場 固定的な性別役割分担意識にとらわれず、男女がともに能力を発揮し、自分の望む働き方ができている。	9.6%	38.7%	33.2%	7.9%	10.7%
（ウ） 学校教育の場 男女のくくりではなく、子どもたちの個を尊重した男女共同参画の意識形成に向けた取組がなされている。	7.8%	46.3%	27.3%	6.1%	12.6%
（エ） 地域 固定的な役割分担に基づく社会慣行等がなく、男女ともに地域活動へ参加している。	6.4%	39.5%	36.6%	9.2%	8.4%
（オ） 社会全体 固定的な役割分担に基づく社会慣行等がなく、一人ひとりの個性や能力を発揮することができている。	3.4%	30.4%	46.5%	11.5%	8.2%

問11 あなたは、外国人と交流したいと思いますか。(○は1つだけ) n=2,134

1	そう思う	18.3%	2	どちらかといえばそう思う	34.4%
3	あまりそう思わない	22.9%	4	思わない	12.3%
5	わからない	10.3%	無回答		1.8%

問12 「多文化共生のまちづくり」を進めるために、より対応が必要だと考える取組を以下から選択してください。(○はいくつでも) n=2,134

※多文化共生とは・・・

「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」(総務省：多文化共生の推進に関する研究会報告書より)を言います。日本人も外国人も、地域の一員として共に認め合い、互いに力を合わせながら、社会を発展させていこうという考え方です。

1	日本の文化や生活情報を外国語で知らせる	39.4%
2	外国人への偏見・差別をなくすための努力をする	44.8%
3	日本人と外国人の交流イベントを開催する	40.9%
4	外国人の子どもや留学生へ支援を行う	27.7%
5	外国人も地域活動に参加しやすい環境をつくる	50.0%
6	外国人も意見や提案をしやすくする	29.4%
7	外国の文化や生活情報を紹介する	28.5%
8	NPOやボランティアの育成と支援を行う	20.1%
9	外国人にもわかりやすい「やさしい日本語」の普及・活用を進める	41.1%
10	その他	4.6%
11	わからない	11.4%
	無回答	2.7%

問13 あなたは、八王子市が「安心して医療を受けられるまち」になっていると思いますか。(○は1つだけ)

n=2,134

1	そう思う	16.7%	2	どちらかといえばそう思う	52.5%
3	あまりそう思わない	15.3%	4	思わない	6.0%
5	わからない	7.4%		無回答	2.2%

問14 今後、医療分野において、力を入れた方がよいと考える取組を以下から選択してください。

(○はいくつでも) n=2,134

1	適切な医療情報の提供及び医療相談体制の充実	49.4%
2	地域医療の向上に向けた高度・専門医療の充実	45.6%
3	医療機関の連携強化による迅速・効果的な医療受診体制の構築	50.1%
4	かかりつけ医・歯科医・薬剤師の普及・定着	39.1%
5	看護専門学校における看護人材の育成・確保	22.0%
6	適正な救急医療の受診に向けた周知・啓発	34.6%
7	切れ目のない救急医療サービス実現のための連携体制強化	33.6%
8	在宅療養者等への切れ目のない支援	35.9%
9	在宅医療の充実と介護との連携強化	50.8%
10	その他	4.3%
11	わからない	4.8%
	無回答	1.8%

問15 あなたは、「はちまるサポート」を知っていますか。(○は1つだけ)

n=2,134

※はちまるサポートとは・・・

八王子まるごとサポートセンター（愛称：はちまるサポート）では、社会福祉協議会の職員であるCSW(コミュニティーソーシャルワーカー)が常駐し、地域課題・生活課題を受け付けています。内容に応じて公的機関やサービスにつないだり、地域活動団体や資源とのコーディネートを行っています。(地域でサロンを立ち上げたい、地域で困っている人がいる、どこで相談したらいいかわからないなど高齢者や要援護者に限らず、すべての方を対象に相談を受け付けます。)

1	知っている	11.4%	2	知らない	87.5%	無回答	1.1%
---	-------	-------	---	------	-------	-----	------

問16 あなたは、八王子市が地域で助け合いや交流があるなど、「人とひととのつながりがあるまち」になっていると思いますか。(○は1つだけ)

n=2,134

1	そう思う	2.7%	2	どちらかといえばそう思う	25.6%
3	あまりそう思わない	34.1%	4	思わない	11.8%
5	わからない	24.9%		無回答	0.9%

問17 つながりを育むために必要と考える取組を以下から選択してください。(〇はいくつでも)

n=2,134

1 地域づくりの推進	27.6%
2 地域に根差した多様な人材の育成	27.1%
3 社会参加に向けた各団体の活動情報の周知・共有化支援	26.2%
4 持続可能な団体活動に向けた支援の充実	22.5%
5 地域コミュニティ活動への参加のきっかけづくり	46.2%
6 地域における気軽に立ち寄れる環境づくり	49.9%
7 日頃からのあいさつなど一人ひとりの心掛け	51.7%
8 その他	2.4%
9 わからない	6.9%
無回答	2.2%

※地域づくりとは・・・

地域と行政の役割と責任を踏まえながら、それらの変革を通じて、「多様なつながりをもとに安心して暮らせる地域社会」や「地域の自主性、主体性を発揮」、「将来にわたり暮らしを支える『新しい地域のつながり』」の実現を図る取組。現在、日常生活において顔の見える関係性をつくりやすい「中学校区」を基礎単位として地域づくり推進会議の設置を進めています。

問18 あなたは、この1年間に、地域コミュニティの活動に参加しましたか。(〇は1つだけ) n=2,134

1 参加した	22.4%	2 参加していない	76.2%	無回答	1.4%
--------	-------	-----------	-------	-----	------

(問18で、「2 参加していない」とお答えの方へ)

問18-1 その理由を以下から選択してください。(〇はいくつでも)

n=1,626

1 地域になじめない	5.7%
2 仕事などの都合で機会がない	41.8%
3 気の合う人や話の合う人が近くにいない	20.9%
4 自分の時間を大切にしたい	26.7%
5 活動内容に興味・関心がない	23.6%
6 参加の方法がわからない	23.7%
7 引っ越して間もない	4.6%
8 町会・自治会に入っていない	19.6%
9 その他	15.3%
無回答	1.2%

問19 あなたは、身近な場所に困りごとを相談したり、助け合ったりできる人がいますか。(〇は1つだけ)

n=2,134

1 いる	67.2%	2 いない	31.0%	無回答	1.7%
------	-------	-------	-------	-----	------

問 20 あなたにとって、身近な地域に気軽に立ち寄れる場所（公共施設（集会所や図書館など）、飲食店やカフェなどの民間施設、公園、サロンなど）はありますか。（○は1つだけ） n=2,134

1	ある	59.8%	2	ない	38.5%	無回答	1.6%
---	----	-------	---	----	-------	-----	------

問 21 あなたは、この1年間に、日本遺産や歴史文化などにふれる地域の行事・活動に参加しましたか。（○は1つだけ） n=2,134

※日本遺産とは・・・

ストーリーを語る上で欠かせない魅力溢れる有形・無形の様々な文化財を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的として、文化庁が認定しています。令和2年（2020年）6月に、桑都・八王子の歴史文化を高尾山との結びつきで物語るストーリー「『靈気満山 高尾山』～人々の祈りが紡ぐ桑都物語～」が、都内で唯一の「日本遺産」に認定されました。

<「日本遺産」の構成文化財（29件）>

- 1 八王子城跡 2 八王子城跡御主殿出土品 3 八王子神社 4 滝山城跡
- 5 北条氏照および家臣墓 6 小仏関跡 7 高尾山 8 高尾山薬王院文書（北条氏照発給文書）
- 9 高尾山薬王院の文化財 10 高尾山のスギ 11 御前立御本尊 飯縄大権現像
- 12 高尾山薬王院浄心門 13 養蚕守護札 14 杉苗奉納石碑 15 火渡り祭 16 水行道場
- 17 高尾山のムササビ 18 桑都日記稿本 19 多摩織 20 絹の道（浜街道）
- 21 八木下要右衛門屋敷跡（絹の道資料館） 22 小泉家屋敷 23 八王子の獅子舞 24 木遣
- 25 八王子車人形および説経浄瑠璃 26 上の祭り・下の祭り（八王子まつり）
- 27 上の祭り・下の祭りの神輿・山車 28 八王子芸妓 29 桑都の銘酒

1	参加した	12.7%	2	参加していない	85.8%	無回答	1.4%
---	------	-------	---	---------	-------	-----	------

（問21で、「2 参加していない」とお答えの方へ）

問 21-1 新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により各種行事が中止となっている状況です。影響がなく開催された場合に参加したいと思いますか。（○は1つだけ） n=1,832

1	参加したいと思います	18.8%	2	どちらかといえば参加したいと思います	34.7%
3	あまり参加したいと思わない	22.9%	4	参加したいと思わない	12.0%
5	わからない	10.5%	無回答		1.0%

問22 あなたは、この1年間に、八王子に関連する文化芸術に触れる機会がありましたか。(○は1つだけ) n=2,134

※文化芸術とは・・・

音楽、美術、メディア芸術、伝統芸能、歴史的な建物や遺跡、文学、生活文化、演劇、舞踊、芸能など
市民の暮らしの中にある文化芸術活動の全て。

1 機会があった	15.3%	2 機会がなかった	83.1%	無回答	1.6%
----------	-------	-----------	-------	-----	------

(問22で、「2 機会がなかった」とお答えの方へ)

問22-1 新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により各種イベントが中止となっている状況です。
影響がなく開催された場合に参加したいと思いますか。(○は1つだけ) n=1,773

1 参加したいと思います	16.3%	2 どちらかといえば参加したいと思います	39.7%
3 あまり参加したいと思わない	22.7%	4 参加したいと思わない	10.8%
5 わからない	10.2%	無回答	0.3%

問23 あなたが思う、八王子の魅力を以下から選択してください。(○はいくつでも)

n=2,134

1 自然	82.7%	2 まちなみ	19.3%
3 伝統・歴史	30.1%	4 祭り・イベント	32.3%
5 文化・芸術	10.9%	6 人(市民力・地域力)	10.0%
7 食	13.9%	8 学園都市	24.6%
9 産業(農業を含む)	11.0%	10 その他	2.3%
11 特にない	5.2%	12 わからない	2.4%
無回答	2.0%		

問24 あなたは、八王子市が「災害に強いまち」になっていると思いますか。(○は1つだけ) n=2,134

1 そう思う	5.4%	2 どちらかといえばそう思う	32.1%
3 あまりそう思わない	27.1%	4 思わない	7.5%
5 わからない	25.7%	無回答	2.2%

問 25 今後、防災・減災分野において、力を入れた方がよいと考える取組を以下から選択してください。

(○はいくつでも) n=2,134

1 防災・減災機能の強化（延焼を防ぐ災害に強い都市基盤整備の推進など）	47.2%
2 災害予防・対策の強化（地域と連携した危機管理体制の強化など）	57.6%
3 災害情報収集・伝達の強化（防災情報伝達手段の複線化の推進など）	48.1%
4 復旧・復興体制の整備（被災者への住宅支援や生活再建支援を行う体制づくりなど）	48.0%
5 その他	3.4%
6 わからない	9.2%
無回答	2.8%

問 26 あなたは、この1年間に、市や町会・自治会、マンション管理組合などが主催する地域の防災訓練に参加しましたか。(○は1つだけ) n=2,134

1 参加した	11.9%	2 参加しなかった	52.0%
3 参加したかったが実施されなかった	8.3%	4 実施されたかわからない	25.9%
無回答	1.9%		

(問 26 で、「2 参加しなかった」とお答えの方へ)

問 26-1 その理由を以下から選択してください。(○は1つだけ)

n=1,109

1 訓練があることを知らなかった	42.1%
2 訓練があることは知っていたが、仕事や他の用事があった	30.1%
3 訓練があることは知っていたが、関心がなかった	6.0%
4 参加したいと思わなかった	10.6%
5 その他	10.5%
無回答	0.7%

問 27 あなたは、“災害時の避難場所”を家族や友人などと共有していますか。(○は1つだけ)

n=2,134

1 共有している	58.6%	2 共有していない	39.1%	無回答	2.3%
----------	-------	-----------	-------	-----	------

問 28 あなたは、“災害時の安否確認の方法”を家族や友人などと共有していますか。(○は1つだけ)

n=2,134

1 共有している	50.6%	2 共有していない	46.7%	無回答	2.7%
----------	-------	-----------	-------	-----	------

問29 あなたの家庭では、災害時にどのような方法で災害情報を入手する考えですか。(○はいくつでも)

n=2,134

1 防災行政無線	34.1%
2 メール配信サービス (防災情報メール)	48.6%
3 市のソーシャルメディア公式アカウント (LINE、Twitter、Facebook)	17.4%
4 市のホームページ	22.8%
5 テレビやラジオ	69.4%
6 東京都防災アプリ	13.1%
7 インターネット	46.8%
8 その他	1.0%
9 特に考えていない	4.2%
無回答	2.0%

問30 あなたは、八王子市に「居心地が良い場所」や「訪れて楽しい場所」がありますか。

(○は1つだけ) n=2,134

1 多くある	18.0%	2 多少ある	64.1%	3 ない	14.9%	無回答	3.0%
--------	-------	--------	-------	------	-------	-----	------

(問30で、「1 多くある」または「2 多少ある」とお答えの方へ)

問30-1 あなたは、八王子市が「歩きたくなるまち」になっていると思いますか。(○は1つだけ)

n=1,752

1 そう思う	15.8%	2 どちらかといえばそう思う	56.8%
3 あまりそう思わない	18.1%	4 思わない	3.5%
5 わからない	4.8%	無回答	1.1%

問31 あなたは、この1年間に、自然と触れ合う機会がありましたか。(○は1つだけ)

n=2,134

1 機会があった	68.2%	2 機会がなかった	29.3%	無回答	2.4%
----------	-------	-----------	-------	-----	------

問32 あなたは、今よりもっと自然と触れ合う機会を増やしたいと思いますか。(○は1つだけ)

n=2,134

1 大いに増やしたいと思う	31.6%
2 もう少し増やしたいと思う	37.3%
3 今くらいでよいと思う	22.3%
4 特に自然に触れ合おうとは思わない	3.9%
5 その他	0.7%
6 わからない	2.5%
無回答	1.8%

問 33 生物多様性の保全に向けて、今後、力を入れた方がよいと考える取組を以下から選択してください。
(〇はいくつでも) n=2,134

※生物多様性とは・・・

動物や植物、昆虫などのいろいろな生きものがいて、それらがつながり合っていることをいいます。この生きものたちのつながりにより、地球では豊かな生態系が保たれています。生物多様性は、衣・食・住だけでなく、きれいな水や空気、薬の原料、文化の源泉など、様々な恵みをもたらしてくれます。

1	生物多様性に対する市民の理解と関心の向上	38.1%
2	多種多様な生きものが生息できる自然環境の保全	63.4%
3	あらゆる施策と関連した持続可能な地域環境の構築	34.6%
4	地域や関連機関と連携した外来種対策の推進	38.8%
5	その他	2.5%
6	わからない	13.4%
	無回答	3.1%

問 34 あなたは、この1年間に、生物多様性に配慮したライフスタイルとして、どのようなことを行いましたか。(〇はいくつでも) n=2,134

1	旬のもの、地のものを選んで購入した	47.0%
2	身近な生きものを観察したり、外に出て自然と積極的に触れ合った	24.9%
3	エコツアー（ガイドによる自然体験）に参加した	1.1%
4	自然保護活動や美化活動に参加した	5.2%
5	生きものを最後まで責任を持って育てた	17.1%
6	環境に配慮した商品を優先的に購入した	20.4%
7	自然や生きものについて、家族や友人と話し合った	16.1%
8	節電や適切な冷暖房温度の設定など地球温暖化対策に取り組んだ	52.3%
9	その他	1.5%
10	特に行っていない	18.4%
	無回答	2.2%

- 質問はこれで終わりです。ご協力いただきありがとうございました。
- ご記入済みの調査票は、同封の返信用封筒に入れて、10月10日（月）までに切手を貼らずに郵便ポストに投函してください。お名前を書く必要はありません。

インターネットを利用した回答方法

～パソコン、スマートフォン、タブレット端末で回答できます～

※ 郵送で回答される場合は、この用紙をお読みいただく必要はありません。

※ 携帯電話（フィーチャーフォン）及び一部のスマートフォン（Android4.4 以前または iOS4 以前）でのご利用はできませんので、郵送での回答をお願いします。

調査画面へのアクセス方法

1. パソコンの場合

- (1) 八王子市ホームページトップページの右下にある「オンラインサービス」から「電子申請・届出」を選択してください。
- (2) [次画面]「八王子未来デザイン2040の運営に関する市民アンケート調査の回答はこちら」を選択してください。
- (3) [次画面]「パソコンからのご回答（外部リンク）」を選択してください。
- (4) 調査票「八王子未来デザイン2040の運営に関する市民アンケート調査」の右上に記載してある申請者IDとパスワードを入力し、「ログイン」を選択してください。



2. スマートフォン・タブレット端末の場合


- (1) 右記の二次元コードを読み取ってください。
 - (2) 調査票「八王子未来デザイン2040の運営に関する市民アンケート調査」の右上に記載してある申請者IDとパスワードを入力し、「ログイン」を選択してください。
- ※ 二次元コードを読み取ることができない場合などは、お手数ですが各端末から上記の「1. パソコンの場合」の方法で八王子市ホームページにアクセスし、「スマートフォン・タブレット端末からのご回答（外部リンク）」を選択して下さい。



回答にあたっての注意事項

1. ブラウザ、スマートフォン等の「戻る」機能は使えません。
2. セキュリティー確保のため、調査票画面を開いてから**60分で接続が切れる仕組みになっておりますので、時間内に回答くださるようお願いいたします。**
 - ※ 60分を超える場合や入力を一時中断する場合は、以下の方法で入力内容の一時保存をしてください。
 - (1) 入力画面下部の「回答一時保存確認」ボタンを選択します。
 - (2) [次画面]「再開用パスワード」を入力後「回答一時保存」ボタンを選択します。
 - (3) [次画面]表示された「一時保存番号」と「再開用 URL」を控えておきます。
 - (4) **再開時**は、控えておいた「再開用 URL」のページで、「再開用パスワード」と「一時保存番号」を入力することで再開することができます。
3. すべての回答が終わりましたら「回答内容確認」ボタンを押し、確認後に「回答する」ボタンを選択してください。「回答完了」(到達番号・問合わせ番号が表示される)の画面が表示されましたら、回答は終了です。
4. インターネットで回答された場合は、調査票を郵送していただく必要はありません。
5. 通信サービスの接続料金は利用者様の負担となります。

あなたのみちを、
あるけるまち。

 八王子

八王子未来デザイン2040の運用に関する
市民アンケート調査報告書

令和5年（2023年）2月

発行 八王子市 未来デザイン室

〒192-8501 八王子市元本郷町三丁目24番1号

電話 042-626-3111（代表）

FAX 042-627-5939